Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

誰でもできる HAND SEWING LEATHER BAG

手縫い革カバンの作り方

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CONTENTS

目 次

4 必要な工具と材料
17 鞄作りに適した革
20 染料の使い方
22 革の基礎知識

24 基礎知識
鞄作りの基本 —トートバッグの製作—
24 1. 型紙を製作する
31 2. 皮革を購入する
32 3. 一枚革からパーツを取る
33 4. 各パーツを裁断する
37 5. 縫い線を引く
38 6. 菱目を打つ
41 7. 革を接着する
43 8. パーツを縫い合わせる
48 9. コバを磨く
49 10. トートバッグの完成まで
89 SPECIAL THANKS 『TURKEY'S HAND MADE LEATHER WORKS』

90 製作解説① 名刺入れ
91 型紙
93 各パーツの製作
96 全体の組み立て
104 オイルを塗る
105 SPECIAL THANKS 『革工房K』

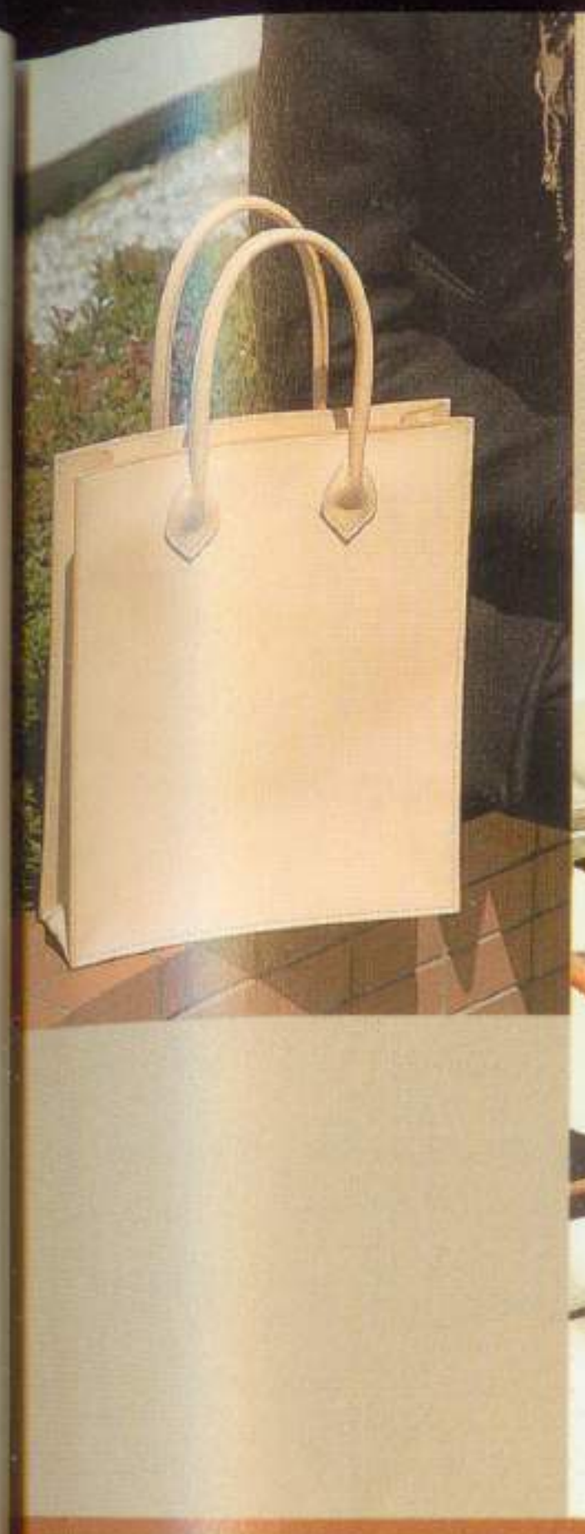
106 製作解説② ポシェット —ショルダーバッグ—
110 便利な型紙の製作
112 基本パーツの裁断
114 胴周りパーツの製作
119 胴周りパーツの仕上げ
121 マチの製作
131 胴とマチを縫う
135 仕上げ
137 SPECIAL THANKS 『革工房ピオじい』

138 製作解説③ ブリーフケース
139 型紙
142 玉縁用の型紙製作
144 基本パーツの裁断
151 持ち手の製作
158 芯材の貼り付け
168 マチの製作
182 鞄の組み立て
189 SPECIAL THANKS 『岡田手縫い鞄』

190 材料 & 工具ショップリスト

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

トートバック P24－P88





名刺入れ P90－P104



ポシェット P106－P136





ブリーフケース P138－P188

誰でもできる
手縫い革カバンの作り方

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

TOOL AND MATERIAL

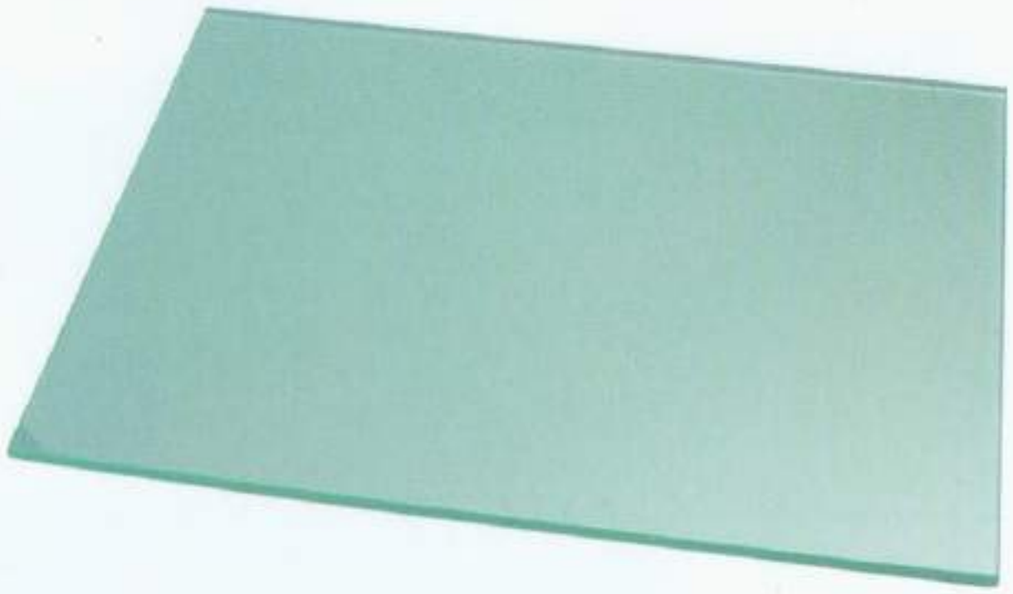
必要な工具と材料

ここでは鞄作りをする上で欠かせない工具と材料を紹介しています。全てのアイテムがP23で紹介している協進エルで取り扱っているので、詳細なサイズなどはそちらに問い合わせてください。

注 意：価格は2009年4月20現在のものです。諸事情により、価格変更や取り扱い中止になる場合もありますので予め御了承下さい。

裁 断

まずは革を切り分ける際に必要な工具を紹介します。革の種類や厚みなどによって工具を使い分けることで、作業効率が大きく変化することもあります。



ビニプライ
革を裁断する際に下敷きとして使用する。全部で4サイズがラインナップされているので、必要なサイズを一枚用意しておく ¥1,890〜



ラウンドナイフ
用途は下で紹介している革包丁と同じながら、独特のラウンド形状を採用することで、断裁と革スキの両方で使い勝手の良いナイフ ¥15,960



革包丁
革を裁断するための包丁。左から丸包丁、斜包丁、24mm幅、36mm幅となっており、刃先を研ぐことで長い期間使用することができる ¥1,837〜

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



オートロックカッター／別たち／セーフティーロータリーカッター
薄い革を裁断するのに便利なNTカッター。ロータリーカッターは柔らかい革を裁断するのに最適。別たちは革包丁のように使い、切れ味が悪くなったら刃先を交換して使用する ¥367／¥693／¥1,680



スーパーハサミ／ステンレスハサミ
どちらも革の裁断に使用。厚手の革を裁断するのではなく、柔らかい革を裁断する際に持っていると重宝するアイテム ¥945／¥1,659



スーパースキーバー／ペディー／豆カンナ
革すきに使用する工具。スーパースキーバーは替え刃があり、広い面積をすくのに便利。ペディーも切れ味が悪くなったら、刃先を交換する。豆カンナは研いで再使用し、刃の出し方ですき加減を調節可能
¥2,310／¥1,417／¥5,985



ルージュスティック台／青 棒
砥石で研いだ刃を整える道具。ルージュスティック台の床面に青棒をすり込んで使用する ¥420／¥367

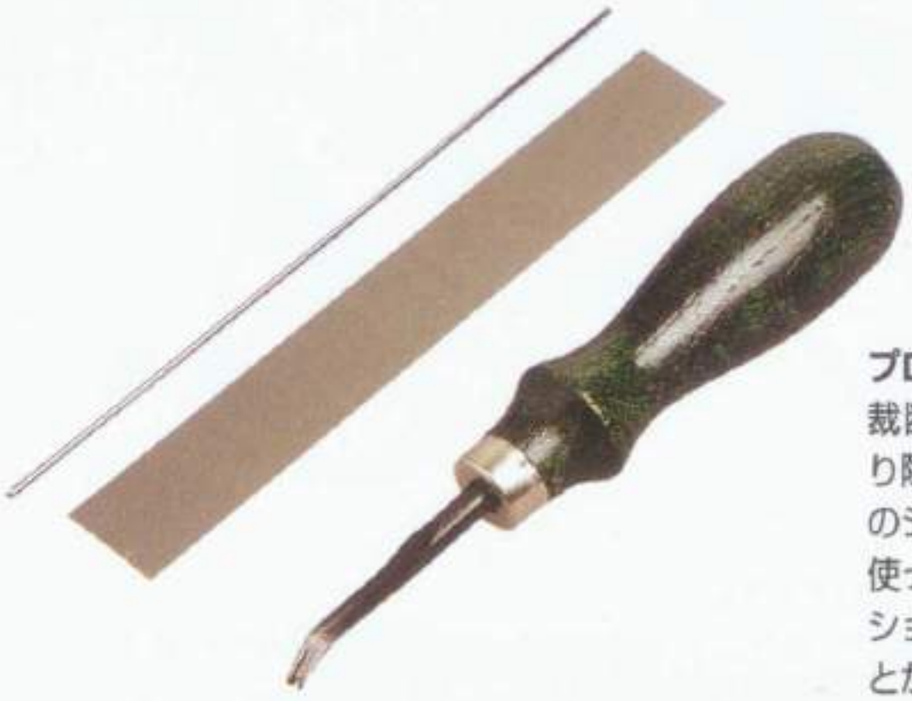


スナップノギス
革の厚みを測るための工具。コンパクトな手の平サイズで、金具の内径や外径、厚み、深さなども計測可能
¥7,245

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

コバと床面の処理

作品を美しく仕上げるための重要な工程にコバと床面の処理が挙げられます。きちんとした工具や処理剤を使用してきちんと仕上げましょう。



プロヘリ落とし
裁断した革のヘリを取り除く道具。写真左側のシャフトと紙ヤスリを使って、刃先のコンディションを向上させることができる ¥1,995



ミニドレッサー／NTドレッサー平面型／NTドレッサー曲面型
コバを均等に均す際に使用するヤスリ。ミニと曲面型は、細かい部分や奥まった部分を均すのに活躍してくれる。NTドレッサーは替刃有り
¥420／¥945／¥1,050



エッジスリッカー／万能スティック／ヘラ付きヘリ磨き／木製丸形ヘリ磨き
処理剤を塗ったコバを磨く道具。エッジスリッカーと万能スティックは、側面に付いた3パターンの溝を使い、コバを革の厚さに合わせて効率的に磨くことができる。ヘラ付きのヘリ磨きは、ヘラ部分をノリ付けにも使用可能。木製丸形ヘリ磨きは、リーズナブルで入門に最適なアイテム ¥2,625／¥1,312／¥525／¥315



磨きガラス板
床面に仕上げ剤を塗った際に、擦って磨き上げるための板。革をすく際の下敷きとしても活用できる ¥1,627



上左:**トコノール**／
上右:**CMC**／
下:**コバワックス**／
コバや床面を磨き上げる処理剤。コバワックスは熱で溶かしてから使用。CMCとトコノールは、革に塗りつけてから磨いて使用する。CMCは水で溶く必要があるので、初心者にはトコノールが扱い易い
¥420～／¥735／¥294

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



エッジコート／コバインク／イリス コバ仕上げ剤
コバや床面に塗りつけて使用する仕上げ剤。コバインクはコバを染めるための染料なので、その上に更に仕上げ剤を塗って仕上げ作業は完了する。エッジコートとイリス コバ仕上げ剤は、塗るだけで美しい仕上がりを実現してくれる
¥1,050／¥661／¥1,239

接着

革同士を貼り付けるための接着剤は、鞄作りになくてはならないアイテムです。それぞれの接着剤に特徴があるので、接着する部分に合わせてセレクトしましょう。



白ボンド＃600／白ボンド＃100
水性ボンドのため、硬くなっても水で薄めて再使用可能。速乾性では無いため接着に多少の時間が掛かる。＃600は濃度が濃く、口金を入れ込むのに最適。＃100は内容量の異なる3サイズ ¥357～／¥462～



ゴムのり／エールスーパーボンド／クリヤーボンド
ゴムのりは、貼った部分が硬くならないので裏面をベタ貼りする際に使用する。ただし、接着力が低いので注意。エルスーパーボンドは高い接着力を誇る。クリヤーボンドは無色透明の接着剤
¥525～／¥661～／¥514

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



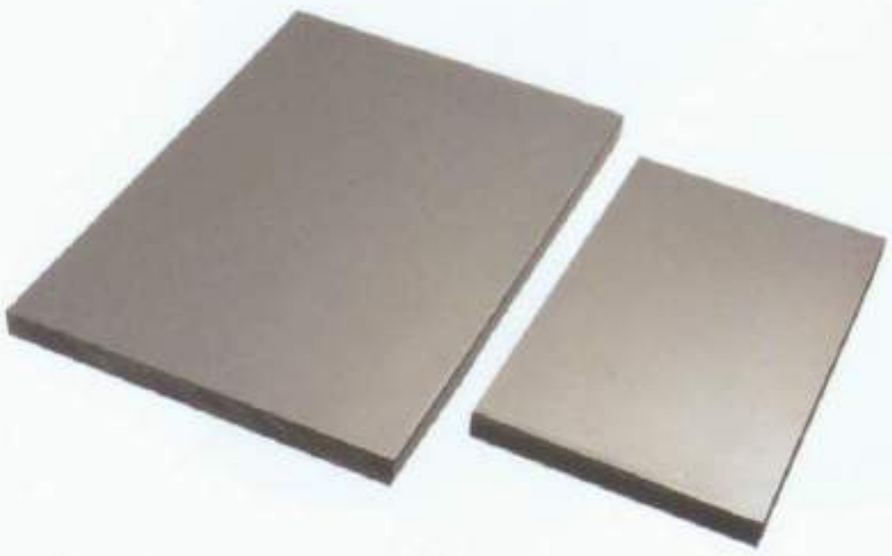
ゴムのりブラシ／のりベラ／ミニのりベラ
接着剤を伸ばす際に使用。ゴムのりブラシは広範囲にゴムのりを伸ばしたり、凹凸のある面に塗ったりする際に効率的に作業できる
¥126／¥472／¥210



ローラー
革同士を接着する際に、上から押さえつけて密着度を向上させる
¥924

穴あけ

革を縫うためや金具類を取り付ける際に必要な穴を開けるための工具は、手縫いで革製品を作るには無くてはならないアイテムです。用途毎に工具を使い分けましょう。



ゴム板
菱目打や平目打、ハトメ抜きなどで革に穴をあける際に、革の下敷きとして使用する。3種類のサイズがある ¥262〜



フェルト
ゴム板の下に敷くことで、防音性を高めることができるアイテム。サイズは300×300mmで、厚さは6mmとなる
¥1,050

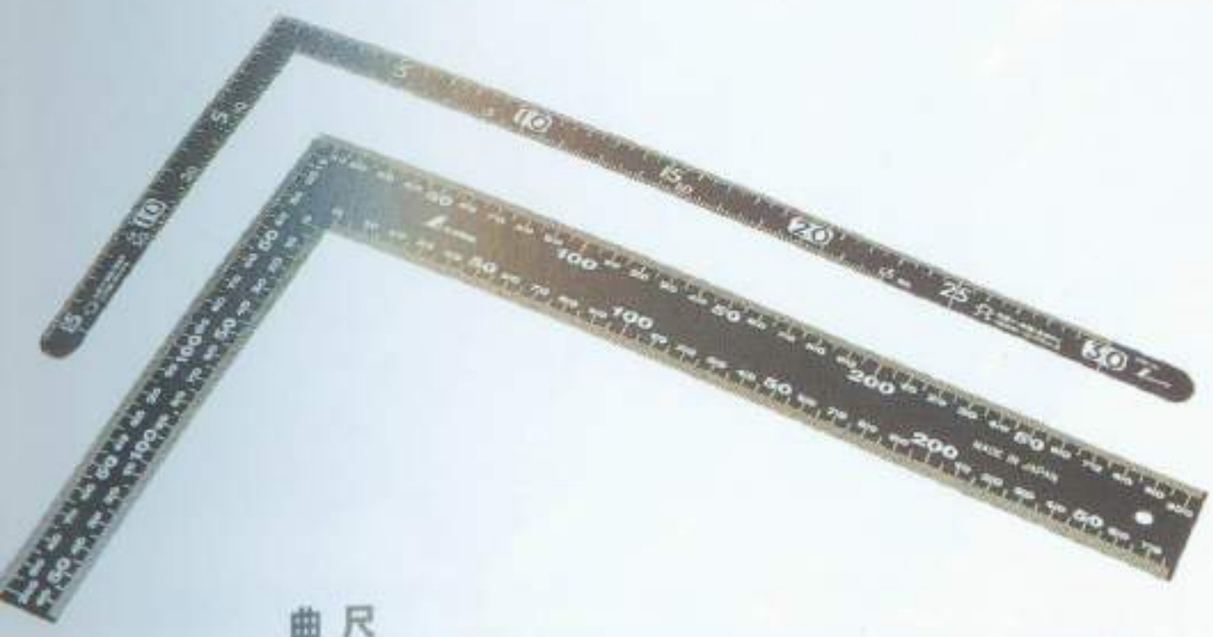


木 槌／木槌タイコ／ポリヘッド槌
穴あけ工具を打ち付けるための打ち具。形状による使い分けはなく、重い物はハトメ抜き、軽い物は刻印や目打ちなどに使用するのが一般的
¥840／¥1,260〜／¥2,730



マスターモウル／積革マレット
少ない力で効率的に打ち棒に力を加えることのできるナイロン製樹脂を使用した槌。筒状のモウルは接触面に平均に力が加わるためバランスに優れている
¥10,500〜／¥12,600

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



曲 尺
各部のサイズを測るための計測具。カッターで革を裁断する際にも使用する。曲尺自体のサイズは2種類ある ¥367〜



鉄 筆／銀ペン
写真左の2本が鉄筆で、右2本が銀ペン。鉄筆はタンローにトレーシングペーパーから図案を写すときに使用し、銀ペンは型紙を革の上に置いて印を付ける際に使用する ¥399〜／¥315〜



ステッチンググルーバー／ねじネン／皮革コンパス／ディバイダー
全て縫い線を付けるための工具。革を削って縫い線を付けるステッチンググルーバーは、ある程度厚みのある革に使用する。ねじネンは縫い線引きや飾り線引きで最も一般的な工具。皮革コンパスとディバイダーの用途は同じで、ハトメ位置を記す際などに使用する
¥1,312〜／¥1,785／¥2,625／¥819



ステッチルレット
先端に付いたコマを回転させて縫い目の印付けを施す工具。コマは交換可能で3.5、4.5、5.5mmの3種類のピッチのコマが付属する ¥1,522



丸ギリ／菱ギリ
菱ギリは菱目打ちであけた穴を貫通させるための道具。丸ギリは、金具の位置や印付け、革に型紙を当てて裁断線を引く際に使用する
¥378／¥787〜

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





菱目打

刃先が菱形になっている目打は、縫い線が斜めになり美しいラインを生み出す。刃数が多い物ほど直線に向いており、少ない物は曲線部分に穴を開けるのに使用する ¥420〜



平目打

糸で縫製するのに使用する菱目打に対し、レースでかがる際に使用する平目打。刃数の違いは菱目打と同様で、刃の幅が広い物は金具の取り付け穴を開けるのに使用する ¥273〜





ハトメ抜き

カシメやホックといった金具類を取り付ける穴を開ける際に使用する穴開け工具。サイズは、一番小さい物で2号（直径0.6mm）、一番大きい物で100号（直径300mm）と、非常に多彩なラインナップがあり、取り付ける工具によって使い分ける必要がある ¥367〜

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





シェイプパンチ
革に様々な形の穴を開けることのできる変形抜き型。デザインはダイヤやハート、星など様々な種類があり、オリジナリティの高い透かし模様を作り上げることができる ¥840



美錠抜き
美錠を取り付ける穴を開けるための工具。取り付けたい美錠に合わせてサイズを変更する必要があり、12mm、15mm、18mm、21mmのサイズがある ¥3,360〜





アイレット打ち／カシメ打ち／ジャンパーホック打ち／ホック打ち
様々な金具類を取り付ける際に使用する打ち棒。金具の種類によって工具は異なる。アイレット打ちのみ専用の打ち台が付属する
¥1,260〜／¥315〜／¥367／¥504

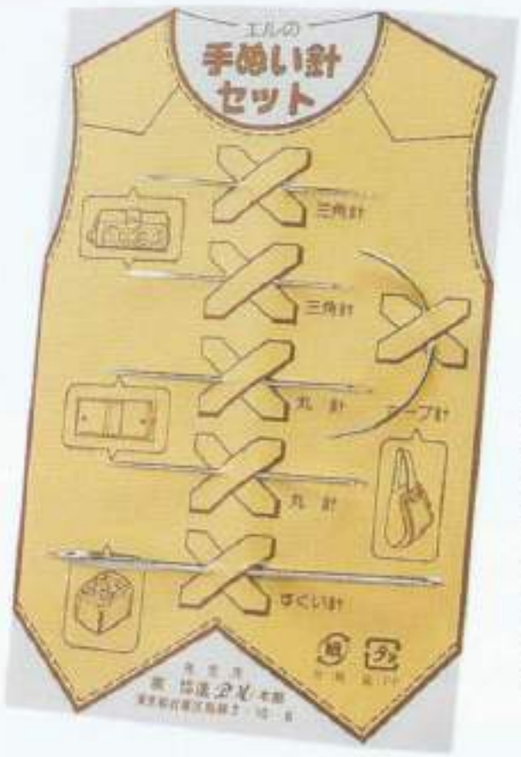


万能打ち台／打ち台(丸皿)
打ち棒を使う際に、革の下に置く打ち台。万能打ち台は6種類の金具に対応しており、重量があるので裁断時の重石としても使用可能 ¥1,312／¥472

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

縫製

革を縫い合わせるためには、糸はもちろん、針も必要となります。糸はカラーが豊富に揃っているので、作品の雰囲気に合わせてチョイスします。



手縫い針
目打などで開けた穴に、糸を通すための針。丸針と三角針は糸を付けて使用し、すくい針はすくい縫いの際に使用する。写真はそれらがセットになった手縫い針セット
¥157〜



左:**糸引きロウ**／右上:**ビーズワックス**／右下:**ミニロウ**
手縫い糸に馴染ませることで、毛羽立ちを抑えるロウ。糸自体の強度も上がり、縫った際に緩まないようにする役割もある。粘り気の強いビーズワックスは鞄作りに最適
¥703／¥525／¥178



左上:**ラミー糸**／右上:**シニュー**／下:**麻手縫い糸**
ラミー糸は麻素材に光沢をプラス。シニューは、動物の腱を束ねて作っていた糸に似せたもので、好みの太さに糸を割いて、再度より直して使用する。麻手縫い糸はロウ付けされていない純粋な麻の糸。使用する際はロウ引きしてから使うのが一般的
¥1,050〜／¥577〜／¥252〜



レーシングポニー
最大30cmまでの革を固定することのできるアイテム。仕立物をしっかりと固定することで、手縫いの作業をスムーズに進めることができる
¥15,540



ステッチングポニー
12cmまでのアイテムが固定可能な手縫い用の工具。ベルトなどの小物を手縫いで仕上げる際に使用する。ネジ止めで仕立物を固定する
¥3,675

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



ソーイングパッド
厚手の革を手縫いで縫製する際にあると便利なアイテム。右手に付けて使用し、親指の付け根部分で針を押し込むことで、楽に針を押し出すことができる ¥3,150

着色

オリジナリティの追求に、染色は欠かせない項目の1つです。染料の種類によって、同じ色でも仕上がりに違いが生まれる場合もあることを覚えておきましょう。



各種筆
染料を革に塗りつけるための筆は、非常に多くの種類がある。基本的には細かい部分には小さい物、広い範囲には大きな物を使うのが一般的。また、すり込み刷毛は、文字通り染料を刷り込む際に使用する ¥136〜



エールダイ
水とアルコール、どちらでも薄めることのできるタイプの染料。使い勝手が良いので初心者でも安心して使うことができる ¥388〜



エルアンティックフィニッシュ
塗り込むことで凹凸部分に陰影を与え、アンティック調に仕上げるペースト状の水溶性塗料。独特の風合いに仕上がる ¥682

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



液体アルコール染料
アルコールで薄めて使用する染料。耐光性が高く、落ち着いた風合いを演出することができる。仕上げにはシアゲールなどを使用する　¥399〜



レザーダイ
染め付きが良く、しっかりと色を付けることのできる染料。原液のままかアルコールで薄めて使用する。塗りつける際に使用する専用のタンポが付属する　¥682〜

仕上げ

自分の手で作り上げた作品を、より美しくするのが仕上げ剤です。仕上げ剤の有無で、その耐久性などにも大きな影響が生じるので、必ず持っておきたいアイテムです。





ニートフットオイル／オイルワックス
ニートフットオイルは100%純粋な牛脚脂で、革に柔軟性を与えながらも防水性を付加できる。オイルワックスは表面につやを出すことのできるタイプ。どちらもオイルタイプの仕上げ剤　¥840〜／¥630



レザーラッカー／バインダー／水性ラッカー／シアゲール
レザーラッカーは染色後にバインダーの上から塗ることで防水や色止めの効果を発揮。バインダーは染色後の色止め剤として使用。どんな染料や顔料にも使用できる水性ラッカーは、仕上がりが自然な艶になる。スプレータイプで手軽に艶をだせるのがシアゲール
¥871〜／¥294〜／¥525／¥1,260

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

工具キット

これからレザークラフトを始めようと思っている人に最適な工具キットを、協進エルでは多数ラインナップしています。入門にはこれらのセットが最適です。



ハンドソーイング・ツールセット
これから手縫いのレザークラフトを始める人に最適な基本工具のセット。菱目打や木槌、縫い糸などがセットになっており、基本的な手縫いの技法マニュアルも付属している ¥8,190



ハンドソーング・ベーシックセット
手縫いでレザー作品を作る際に必要なアイテムのセット。菱目打や菱ギリ、縫い針、ロウ付き麻糸、ノリなどが付き、ケースと簡単なマニュアルも付属する ¥2,992



プロ菱ギリ・菱目打セット
2本刃と4本刃の菱目打と菱ギリのセット。サイズが3種類設定されているので、メインの用途に合わせて選択可能 ¥2,205



ヘリ落とし&グルーバーセット
刃幅の異なる2種類のヘリ落としとステッチンググルーバーのセット ¥3,150



プロ菱ギリ3本セット
切れ味の鋭いプロ菱ギリ3本と工具ケースのセット。サイズは細・中・太の3種類となる ¥2,677

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



プロ・ヘリ落とし
3本セット
抜群の切れ味で、ストレス無く作業のできるヘリ落としの3本セット
¥5,460



プロ・グルーバー
&ルレットセット
線引き用のモデラの付いたステッチンググルーバーと、4パターンのピッチコマが付いたステッチルレットのセット
¥4,515

仕立て用品

必ず必要になるわけではありませんが、作品に機能性や彩りをプラスする際に役立つ仕立て用品は、ここでは紹介しきれないほどたくさんの種類があります。



Dカン／角カン／ナスカン
革に通して使用する各種カン類。サイズや形状の異なるものが多数あり、鞄作りでは比較的多用するアイテムなので数種類揃えておきたい
¥189～／¥157～／¥325～



各種金具類
カシメやジャンパーホック、マグネットなど、デザイン性や機能性をプラスするための金具。デザインやサイズは非常に多くラインナップされている
¥210～



ファスナー
鞄の口やポケットなどに取り付けるためのファスナー。様々なサイズがあるので、取り付ける部分に合わせてチョイスすることができる ¥78～

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

APPROPRIATE FOR BAG

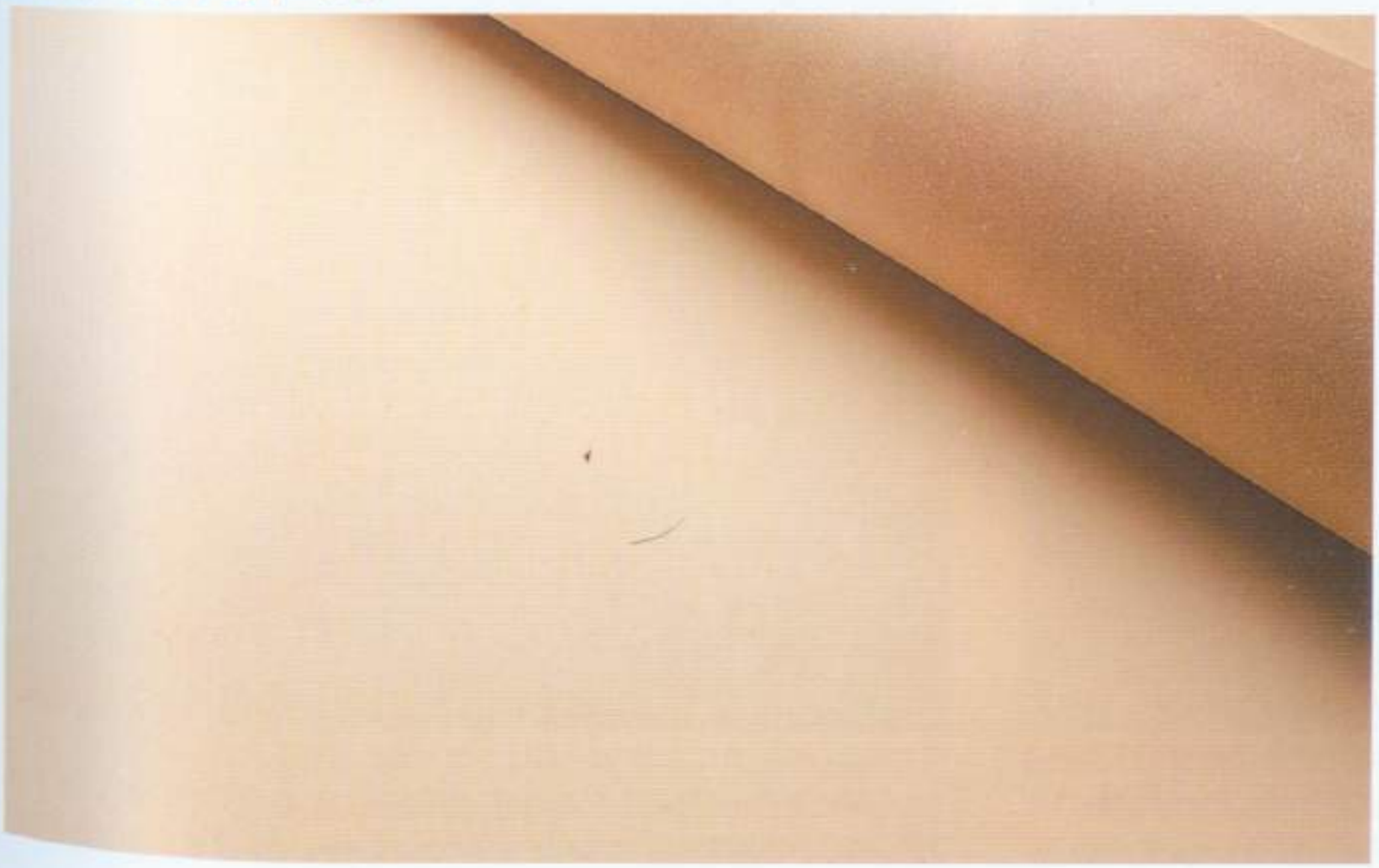
鞄作りに適した革

レザークラフトに使用される革は非常に種類が豊富で、それぞれ異なる特徴を持っています。ここでは鞄作りに適した革を紹介しているので、革を選ぶ際の参考にしてください。

実際に革屋さんに足を運んだことがある人なら分かると思いますが、一概に『革』といってもその種類は莫大です。動物の種類でも、牛や豚、鹿、馬、山羊などがあり、部位によってもその性質や特徴は大きく変わり、その希少性や加工によって値段も異なります。また、自分では染色のできない革の種類でも、数種類のカラーバリエーションが揃っている物もあります。ここで紹介している革は、『鞄作りに適した革』として、協進エルで取り扱っている数多くの種類の中から厳選してもらった革です。記載している価格は1デシ(革のサイズを表現する単位。1デシは縦10cm×横10cm)あたりの価格なので、実際の革の価格は、『デシ単価×その革のデシ数』となり、購入する革のサイズによって異なります。また、革の値段は変動が激しいので、記載している価格は参考程度にとどめておいた方が良いでしょう。



EU.ダブルバット・ヌメ



きめの細かい良質なヌメ革で、最近のクラフターに最も高い人気を誇る革。銀面はきめが細かく、染色することも可能だが、染色等をしなくても洗練された仕上がりになる。ダブルバット(P20参照)判なので、無駄なく使えるのも人気の1つとして挙げられる　¥156/ds〜

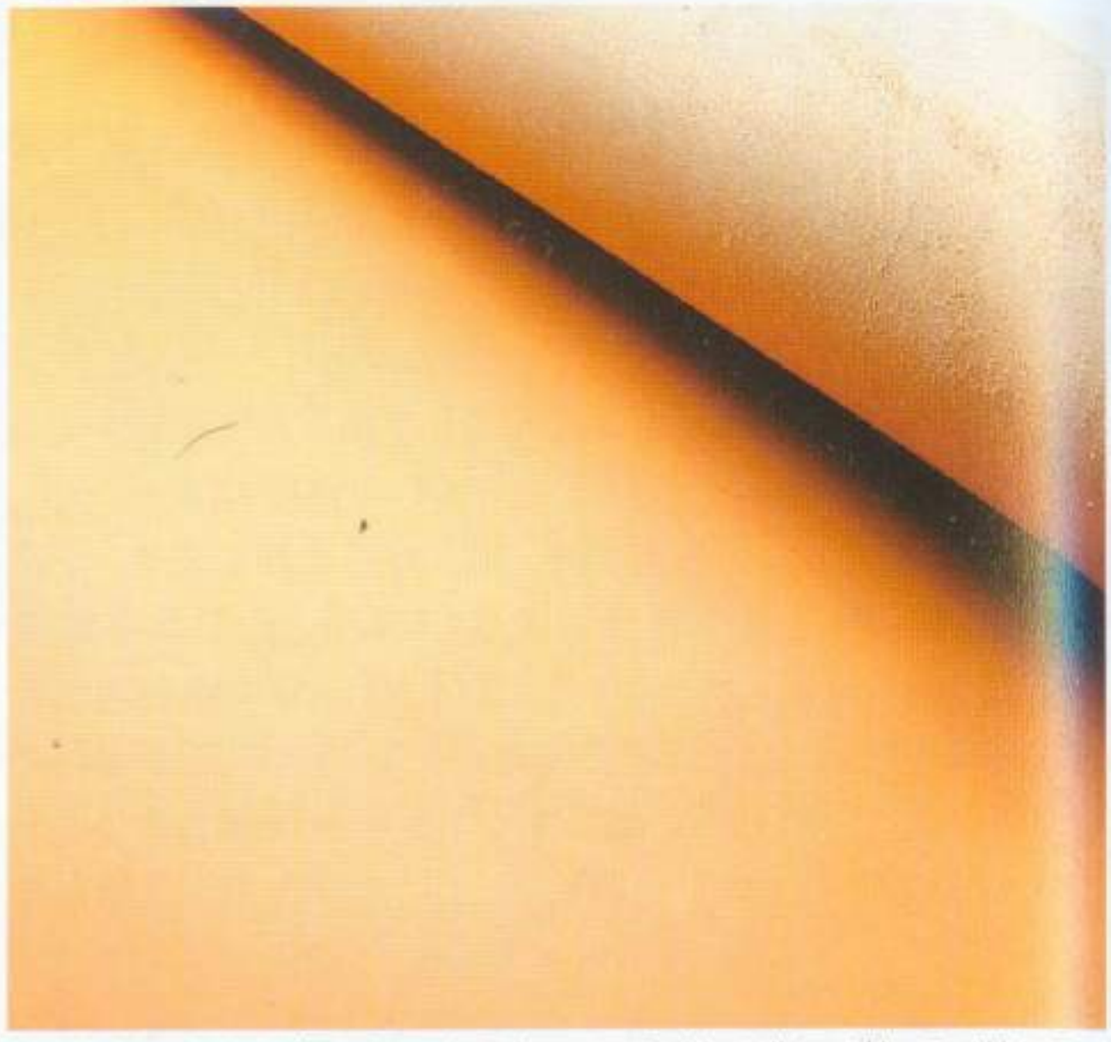
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

アメリカンオイル



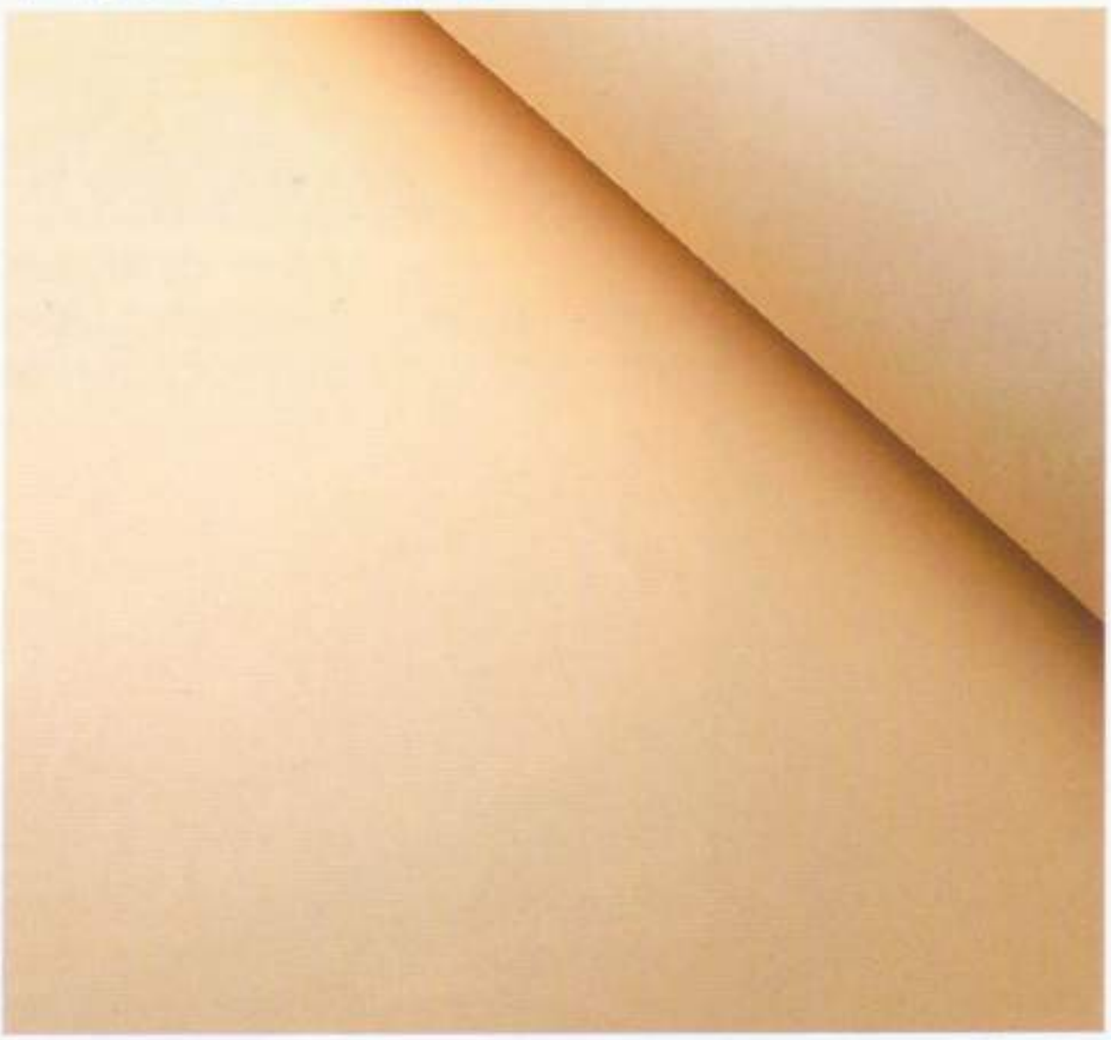
レザークラフトが誕生した初期の頃から根強い人気を誇る、オイルを染み込ませたタンニンなめしの牛ヌメ革。カービングを施すにも最適で、鞄だけでなくインテリアや小物の製作にも向いている。染色可　¥111/ds～

マリオネット



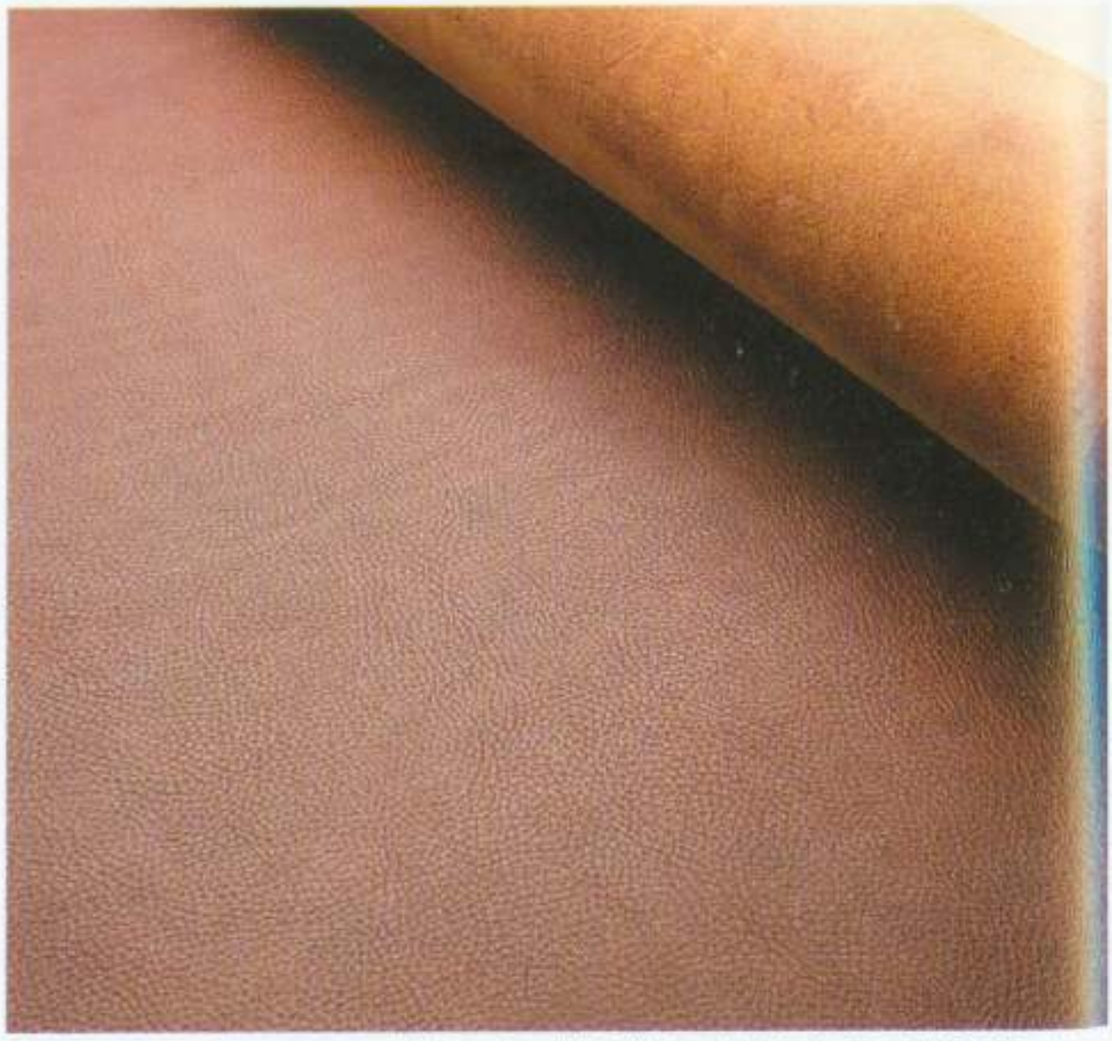
オイルをしっかりと含み、腰のあるタンニンなめしの牛ヌメ革。ヌメ革ならではの自然な風合いと、使い込むことで味の出る特徴が多くの人に支持されている。タンニンなめしの革としては珍しい白もある。染色不可　¥93/ds

ドイツヌメグレージング



ヨーロッパ原皮を純植物タンニンを使用してなめした最高級ヌメ革。表面には汚れを付きにくくするグレージング加工が施されている。使い込むことでアメ色に変色していく、味わい深い一枚。染色不可　¥137/ds

トスカーナ



手触りはしっとりしており、使うことで艶が増すイタリアからの輸入革。タンニンなめしで仕上げられた革ながら、シボが深いため傷になりにくい特徴がある。カラーバリエーションは黒・茶・チョコの3色。染色不可　¥158/ds

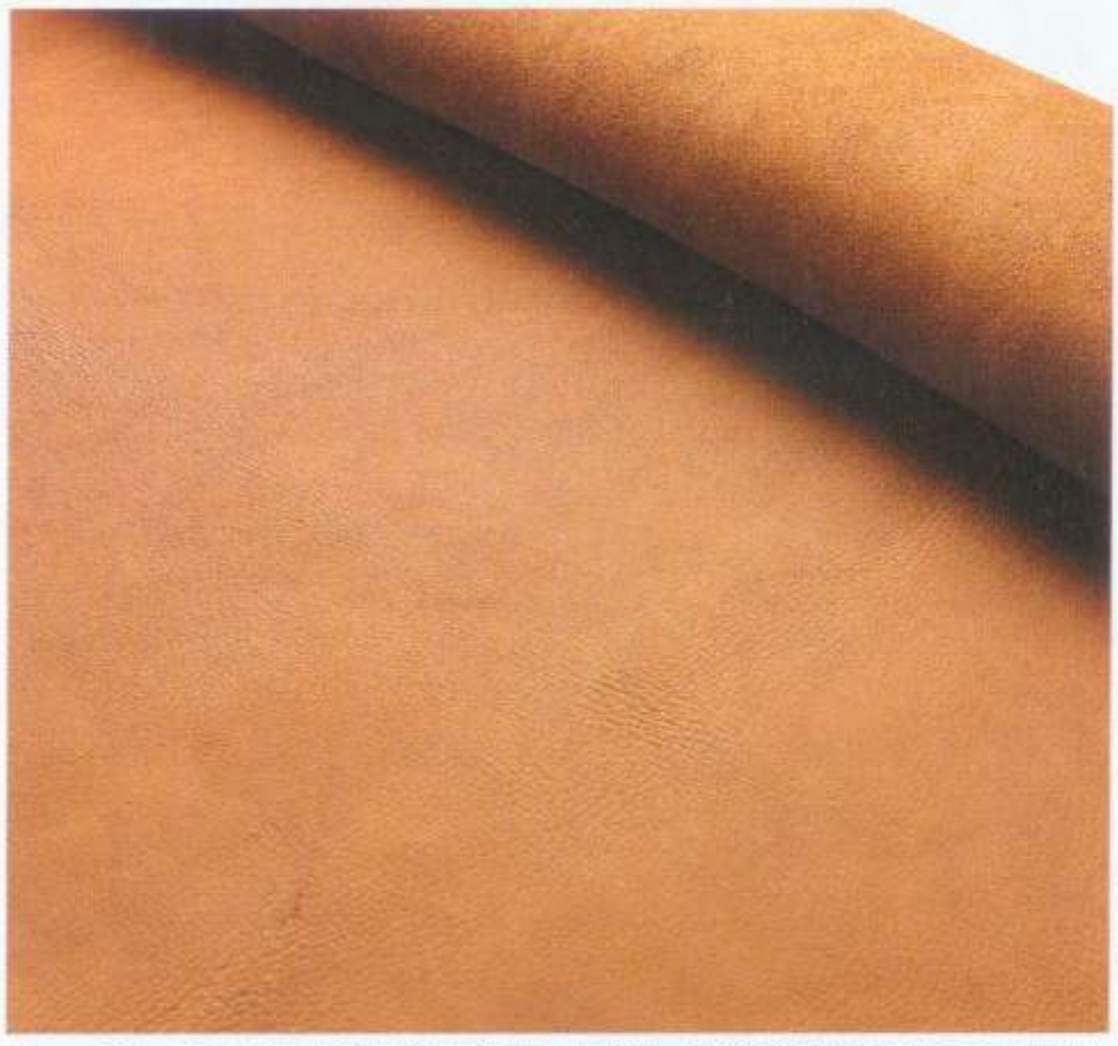
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

ゴートシュリンク



ゴート(山羊)革ならではのボリュームのあるシボが印象的な一枚。1枚のサイズが鞄作りにちょうど良いので、初心者にも買いやすい。カラーは10色から選択することができ、1枚のサイズは約65/ds。染色不可 ¥95/ds

エルクスキン



ニュージーランド産大鹿の革を使用した1枚。鹿革全般に言えることだが、耐久性が高く濡れても変形しづらいという特徴を持つ。革レースかがりで仕立てあげれば、手作り感を高めることもできる。染色可 ¥126/ds

ピッギーライト



裏地として多く使われる豚革ながら、表革用として作られた一枚。オイルとワックスを配合した仕上げで独特の艶を持ち、手もみ仕上げで付いた独特の皺が特徴的。非常に扱いやすく、ハサミで裁断可能。染色不可 ¥69/ds

ピッコロ



銀面のシボを活かしながらなめされた豚ヌメ革。擦れに強いという特徴をもち、鞄の裏地に多く使用される。無地のものは染料で染めてから使用するのが一般的で、表革に合わせた染色が可能となっている ¥65/ds～

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

HOW TO USE OF DYESTUFF

染料の使い方

革の種類によっては様々なカラーがラインナップされていますが、オリジナリティのある作品を作るには染色は欠かせません。ここでは、染めの基本となる2つの染め方を紹介していきます。

タンポ染め

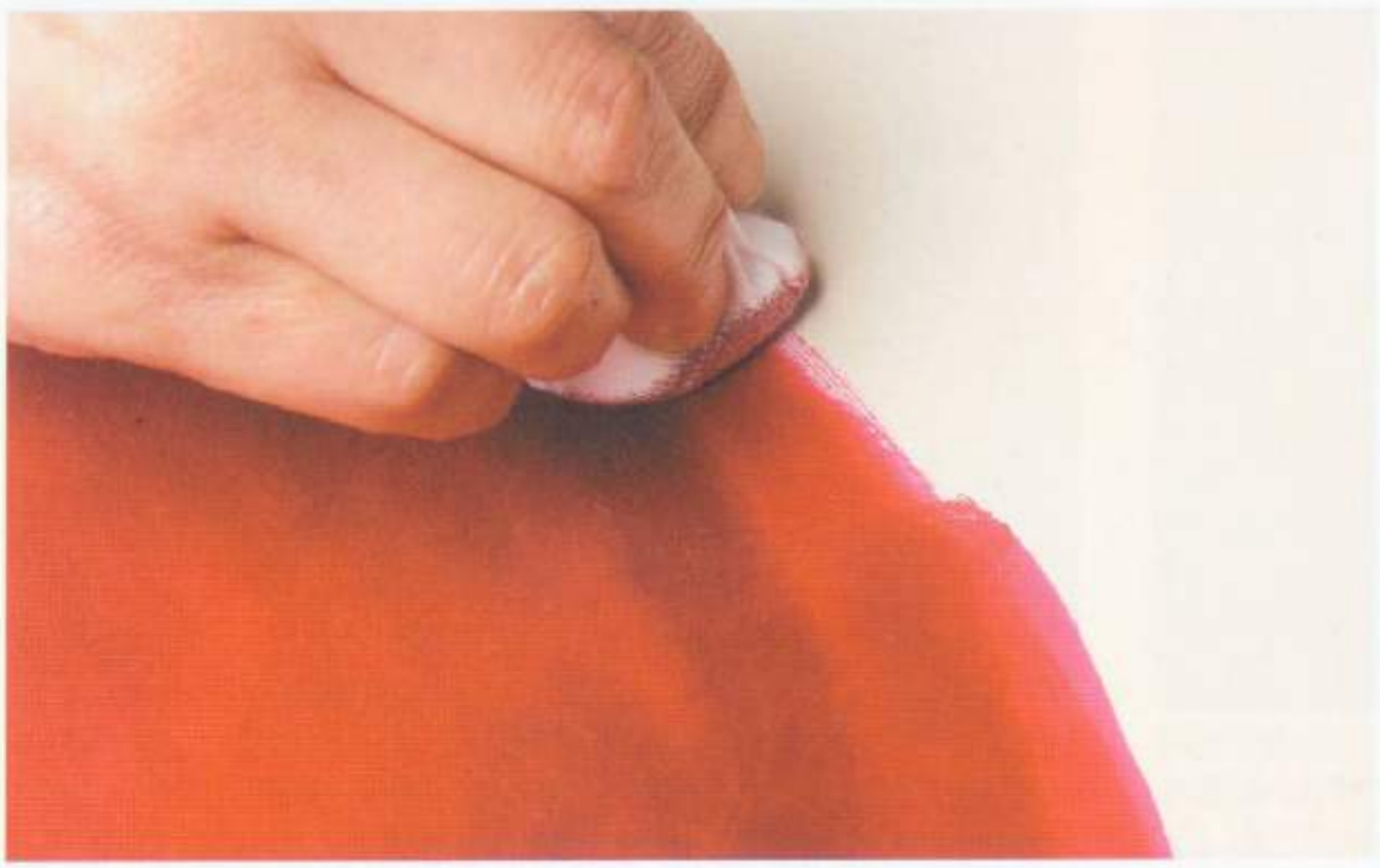
染める範囲が比較的狭いときに活躍するタンポ染め。誰でも簡単にできる技法ですが、端切れの革などを使って色合いを確認してから実作業にうつりましょう。



01 まず、必要な量の染料を容器に注ぐ。今回はアルコール染料の『レザーダイ』を使用して作業を進めていく



02 自分の目指す色よりも薄くした染料を丸めたウエスに染み込ませ、徐々に染料を濃くしながら数回に分けて重ね塗りしていく



染料を染み込ませたウエスは擦るようにして塗り込んでいく。染料を重ね塗りすることで、染めムラを防ぐことができる。ただし、アルコール染料を使用する場合は、繰り返し過ぎると表面が硬くなってしまうので注意。好みの色になったら、表面に仕上げ剤を塗って作業は終了

03

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

刷毛塗り

革の広い部分を染める際に活用するのが刷毛塗りです。小物類の製作ではあまり多用しませんが、鞄などの大物では頻繁に使われる技法です。



01 まず、仕上がりのムラを抑えるため、全体を満遍なく水で湿らせる。あまり塗りすぎると革が硬くなるので注意

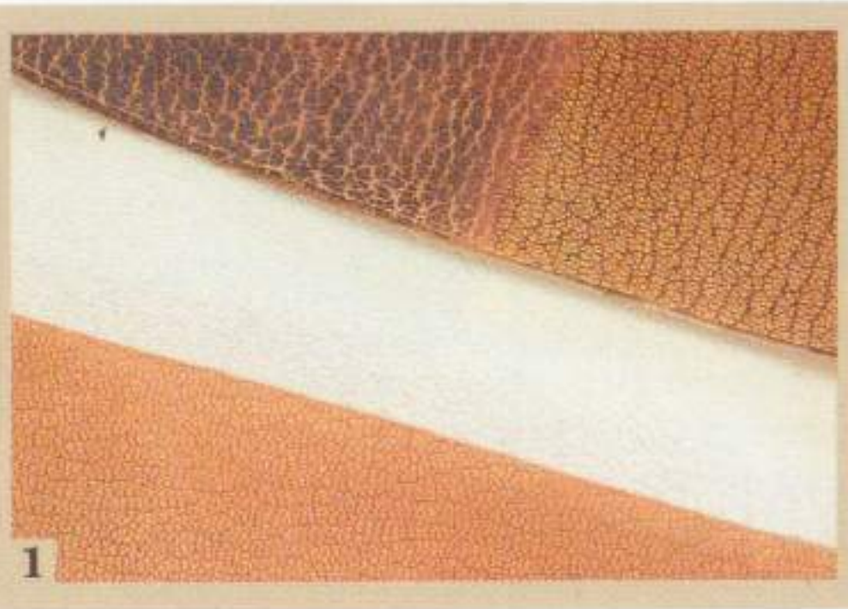


02 次に、水で薄めた水性染料を刷毛で塗り込む。タンポ染めの時と同様に、次第に染料を濃くして塗り重ねていく

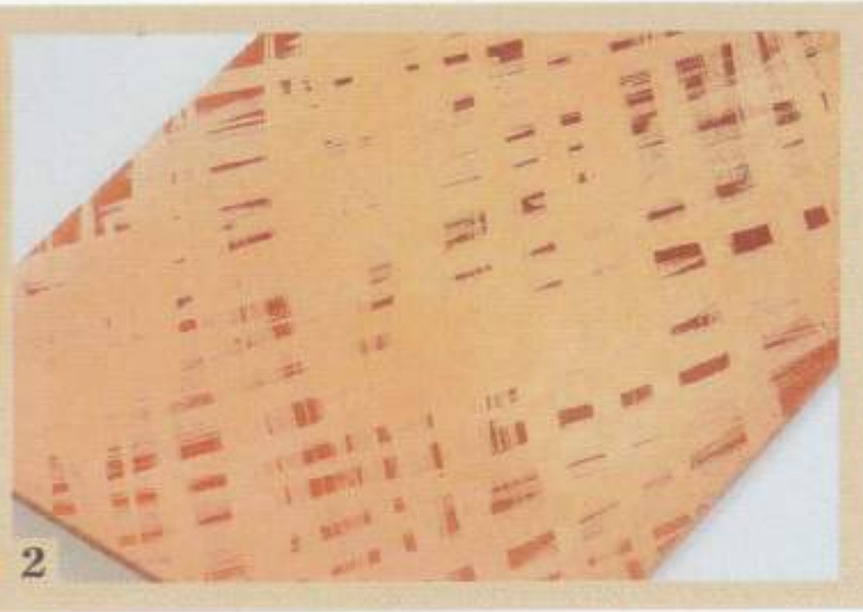


染料がしっかりと乾いたことを確認したら、仕上げ剤を塗る。染料によっては2〜3日乾かす必要があるので、使用する染料の注意書きをしっかりと確認する必要がある。ここで使用する刷毛は、染める面積や好みで使い分けると良い

03



1



2

1染料には様々な種類があり、その使い方次第で同じ革でも表情がガラリと変わる 2表面に仕上げ剤を格子状に塗ってから革を染めた物。アイデア次第で高いオリジナリティを演出することも可能だ

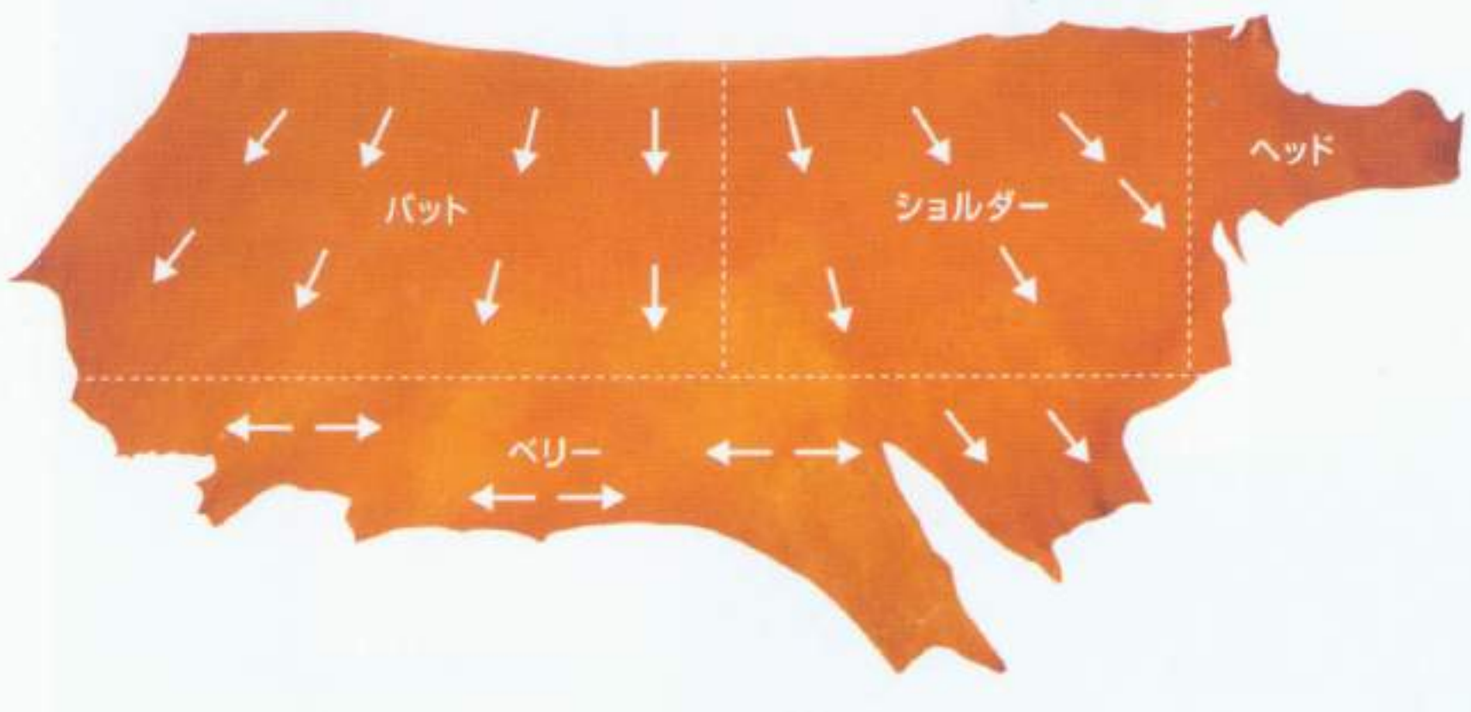
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

LEASER BASIC KNOWLEDGE

革の基礎知識

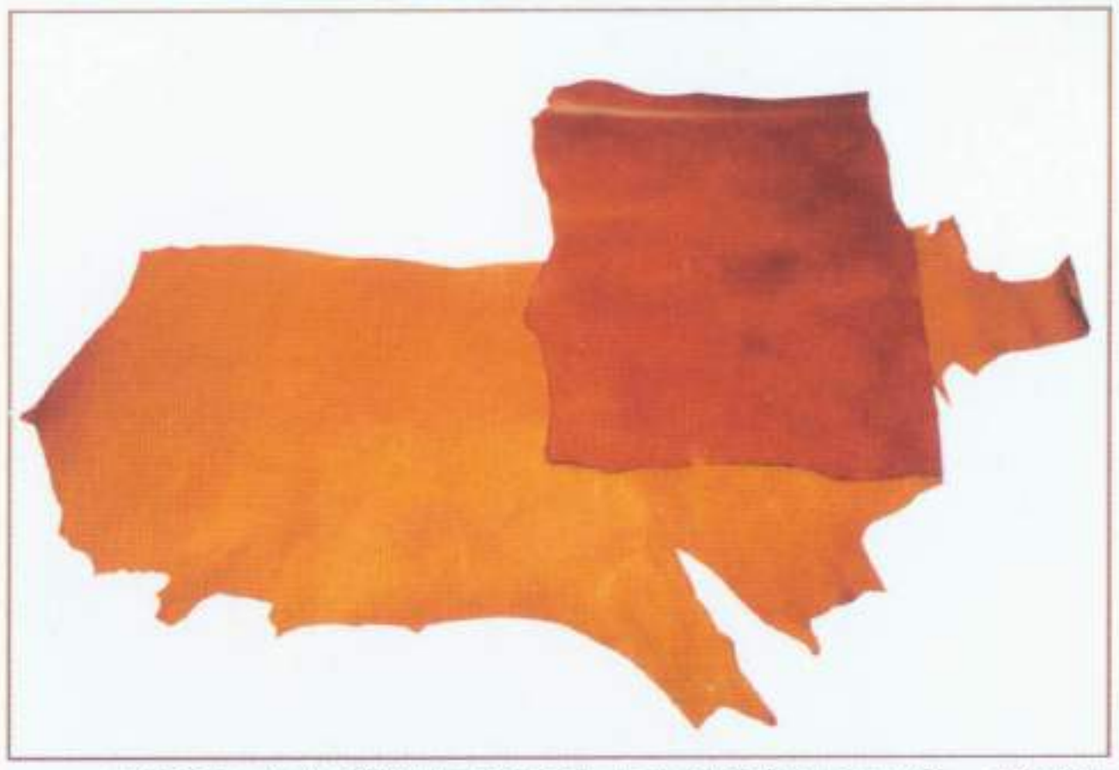
鞄作りを始める前に、革の基礎知識として各部の名称と繊維方向について理解しておきましょう。ショップで革を買う際に覚えておけば、その知識は必ず役に立つはずです。

部位の名称と繊維方向



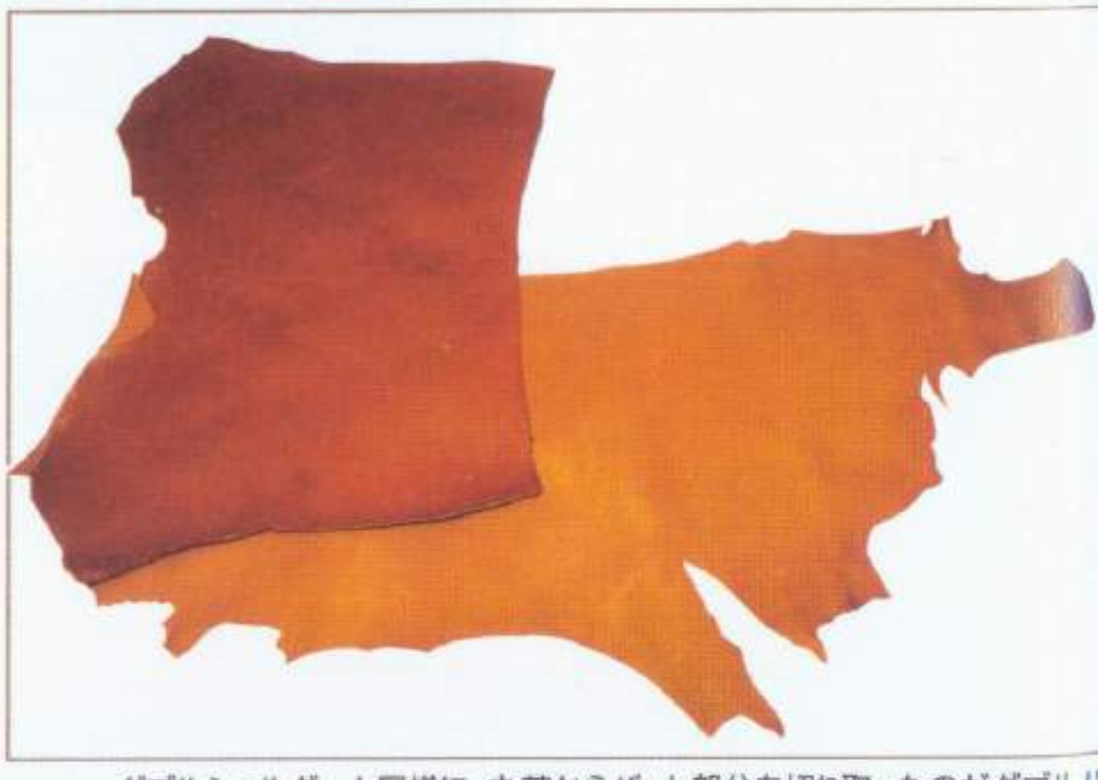
レザークラフトに使用する革には繊維の方向があり、場所によって様々な方向を向いています。左の写真にある矢印の方向に強く(伸びにくい)、直角方向に対しては弱い(伸びやすい)という特性があり、使用用途によって向きを考慮して裁断する必要があります。特に、折り畳んで使用するパーツは、曲げる方向と繊維の向きを同一にすることで仕上がりがきれいになります。すでに裁断済の革を使うときは、縦横に引っ張って確認しましょう。また、半裁(動物一頭分の革(丸革)を、背中を中心に左右に切り分けた革)1枚のサイズは約230デシ程度が平均となっています。

●ダブルショルダーとは?



丸革のショルダー部分だけを切り取ったものがダブルショルダー。首周りはシワが多く出ており、独特な仕上がりになるのが特徴です

●ダブルバットとは?



ダブルショルダーと同様に、丸革からバット部分を切り取ったのがダブルバットです。シワが少なく、形状的にも無駄無く使うこができます

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

BASIC TECHNIC

革鞄作りの基本 ―トートバッグの製作―

革鞄作りの基本を覚えるには、四角を基調としたシンプルなトートバッグの製作が最適です。ここでは型紙の作り方から革の購入方法、そして裁断から縫製まで、その全てを丁寧に解説します。

革鞄を一から作り上げるためには、数多くの作業工程を経なければなりません。当然、製作する鞄のタイプによってその作業内容は変化してきますが、覚えなければならない基本的な作業工程は自ずと絞られてきます。そこで本項では、革鞄の中でも最もシンプルといえる「トートバッグ」を題材に、革鞄作りに欠かせない基本的な技術を解説していきます。その内容は、「完成形を想定した型紙作り」から「材料となる革の購入方法」、「一枚革からのパーツの取り方」、「各パーツの裁断方法」、「縫い線の引き方」、「菱目打ち」、「革の接着」、「革の縫製」、「仕上げのコバ磨き」と多岐に渡り、どれも欠かすことのできない重要な作業です。

P30で紹介している縮尺図を参考に型紙を作り、解説する内容に倣って作業を進めれば、革鞄作りの基本を覚えながら素敵なトートバッグが仕上げられるでしょう。

1 型紙を製作する

曲線のないトートバッグなら、自分自身で一から型紙を起こすことも決して難しくありません。収納したい物や用途を考慮の上、縦長や横長、そして大小など、自分が思い描く理想的なトートバッグの型紙を作りましょう。



1 トートバッグに収納したい物を想定し、胴のサイズを決める。ここではA4サイズの書籍を参考に、胴のサイズを決定した



2 型紙には、1cmごとに方眼が設けられた工作用紙が重宝する。定規を用い、決定したサイズのアウトラインをしっかりと引く

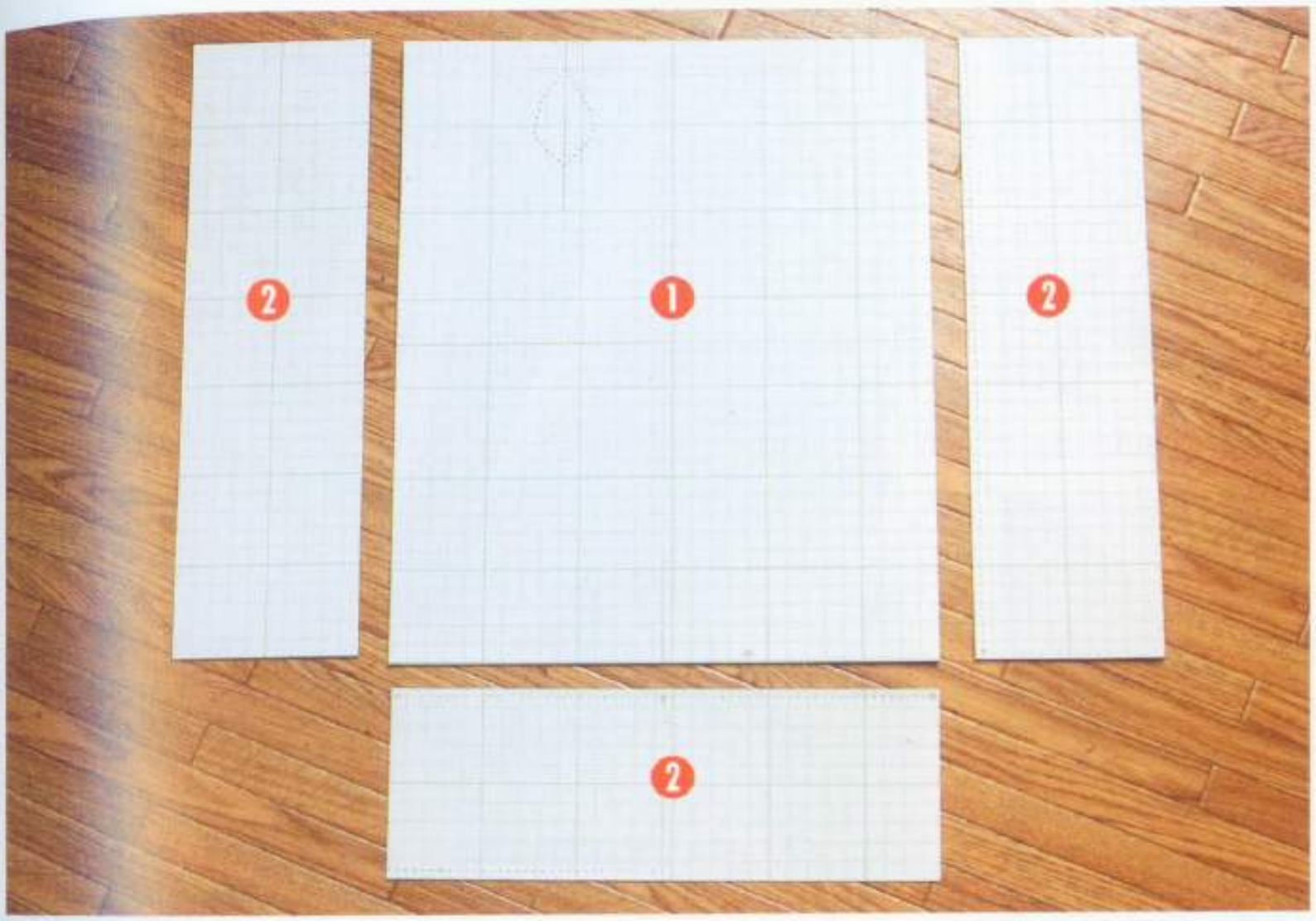


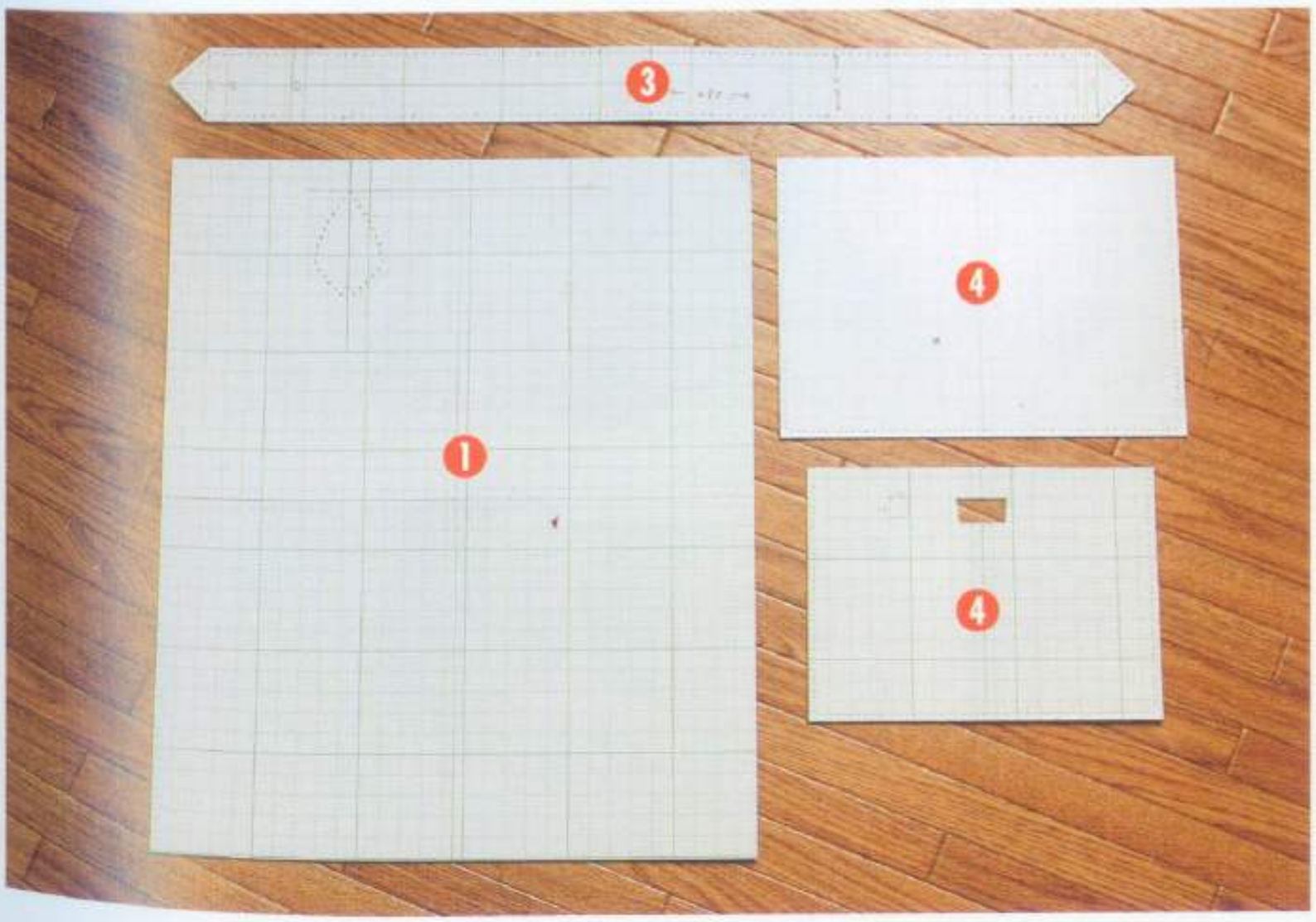
3 アウトラインに従って型紙をカットする。革を裁断する際は型紙を元にアウトラインを引くため、定規を使用して寸分違わずに型紙を切り出す

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

切り出した型紙

トートバッグ作りに必要な全ての型紙と、以降で登場する各パーツの呼称を解説します。各パーツの実寸サイズに関しては、P30で紹介する縮尺図を参照してください。





❶ 胴

鞄を多方面から捉えた時、最も平面積が広く見える、いわゆる"本体"にあたる部分を「胴」と呼びます。一般的な鞄は2つの胴を持ち、これらが面で向かい合い、その間をマチ(後述)でつなぐことにより鞄としてのスタイルを形作っています。鞄に前後の区別がある場合は、2つの胴を「前胴」、「後胴」のように区別しますが、トートバッグに関しては、特別に前後の区別はありません。胴の大きさは収納したい物のサイズや自分の好みに合わせ、縦横比を自由に変えることができます

❷ マチ

鞄の側面にあたる、いわゆる"厚み"になる部分を「マチ(襠)」と呼びます。胴の両側面と接続する各マチを「脇マチ」、胴の底面と接続するマチを「底マチ」と呼び、胴と共にこれらを組み合わせれば単純な箱形になります。各マチの短い辺がそのまま厚みになるので、用途や好みに合わせてサイズを自由に変更するのも良いでしょう。左の写真で紹介する型紙では脇マチと底マチが分割されていますが、この項ではマチを分割しない"通しマチ"を用いてトートバッグを製作していきます

❸ ハンドル(持ち手)

鞄を携行する際、実際に手にする部分をハンドルと呼びます。世に様々な形の鞄があるように、ハンドルにも多種多様な形や材質が存在しますが、この項では胴と同じ革を用い、オーソドックスなハンドルを製作します

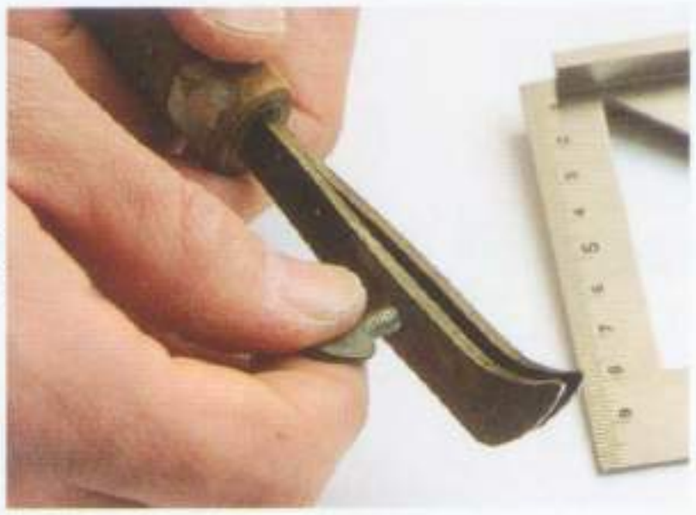
❹ 内ポケット

胴の内側にポケットを設ける際の型紙で、胴に収まるサイズであればある程度自由に設定できます。作業工程が増えるため好みで有り無しを選択すれば良いのですが、有れば勿論便利ですし、仕上がった時の雰囲気もグッと変わってきます

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

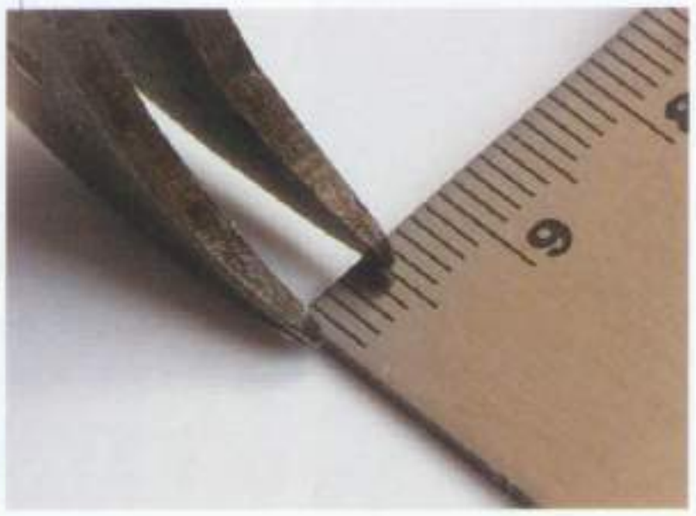
型紙に縫い線を引く

切り出した型紙に、菱目(縫い目)を打つ際のガイドラインとなる縫い線を引きます。
この作業は縫い線を引く練習にもなり、菱目を打つことで仕上がりも把握できます。



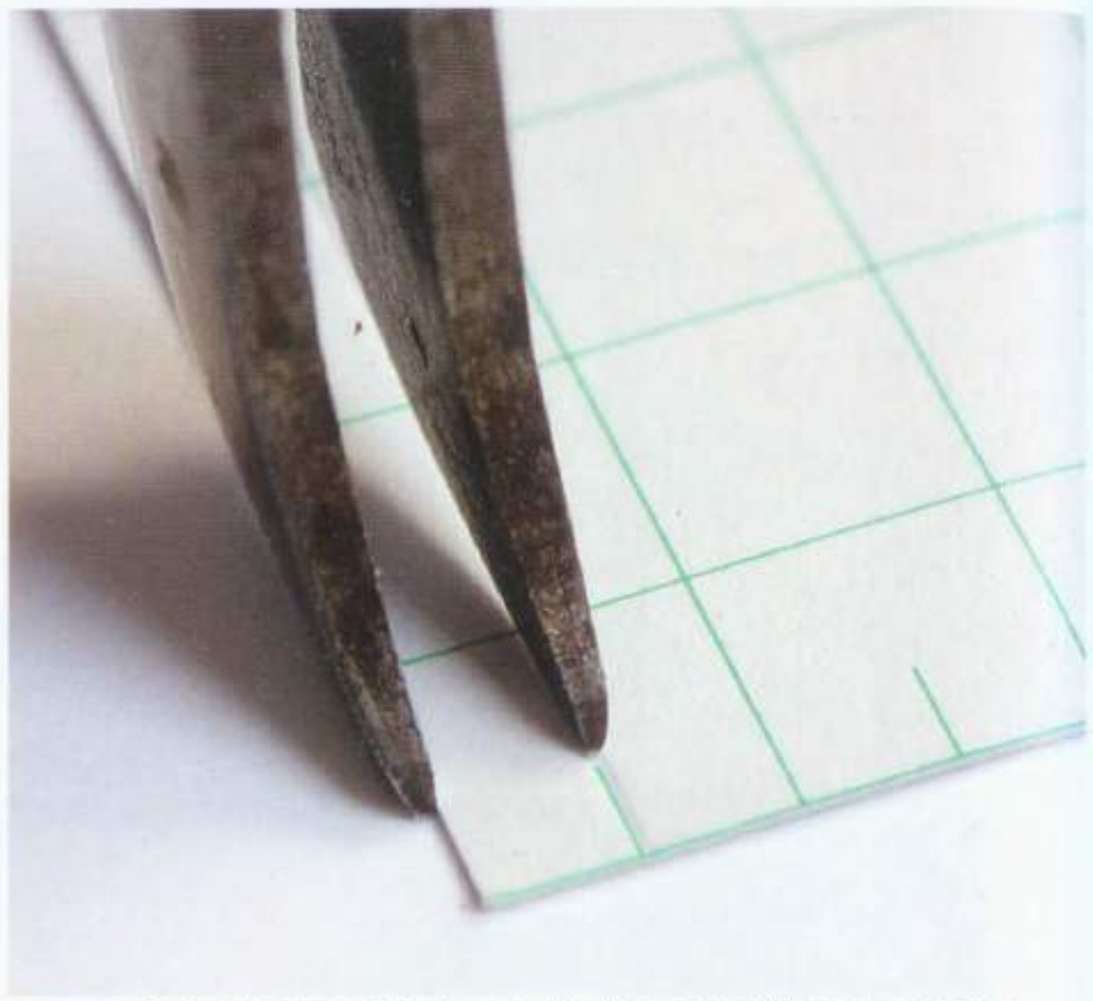
縫い線を引く際は「ねじネン」を使用する。片刃の横に付属する蝶ねじを捻り、2つの刃の幅を調整する

1



刃の内側を定規の目盛りにあて、正確にねじネンを調整。ここでは実際の革へ引く縫い線と同じく、5mmの幅に設定する

2



長い刃を型紙の側面に合わせ、短い刃を型紙の上に乗せる。そして、長い刃を型紙の側面に沿わせながら縫い線を引く

3



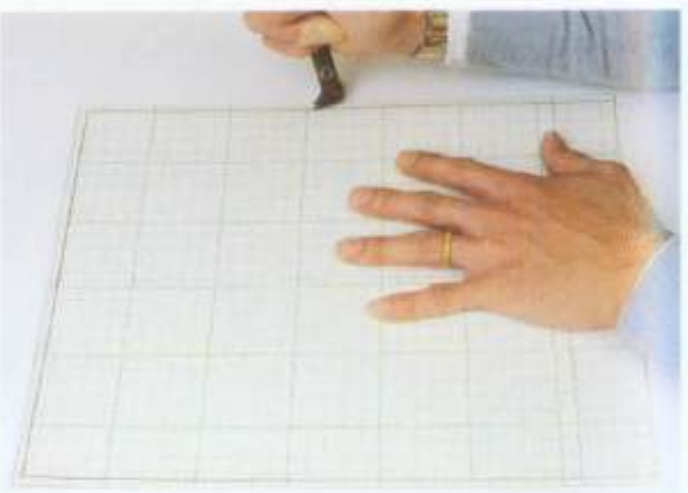
ねじネンは上の写真のように親指を立ててしっかりと握り、線を引く型紙も残りの手でしっかりと押さえる。型紙に沿わせた刃先がぶれると縫い線もぶれ、また、ねじネンが左右に振れると一定の線が引けないので、均一に力を掛けながら確実に縫い線を引く。最初は薄く跡が付く程度でも良いので、繰り返し真っ直ぐな線を引く練習をすると良い

4



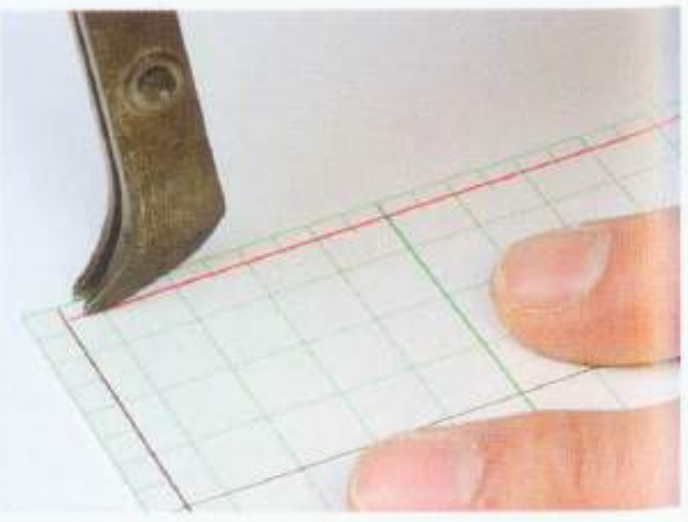
胴の両側面と底面に掛け、"コ"の字を描くように縫い線(後にマチと縫い合わせる際の縫い線)を引く。各角は縫い線が交差しないよう、その手前で双方から調整する

5



胴の上側面は飾り縫い(文字通り飾りのために縫い、他のパーツとは縫い合わせない)とし、細かい菱目に細い縫い糸を通すため、3mm幅の縫い線(写真内の赤線)を引く

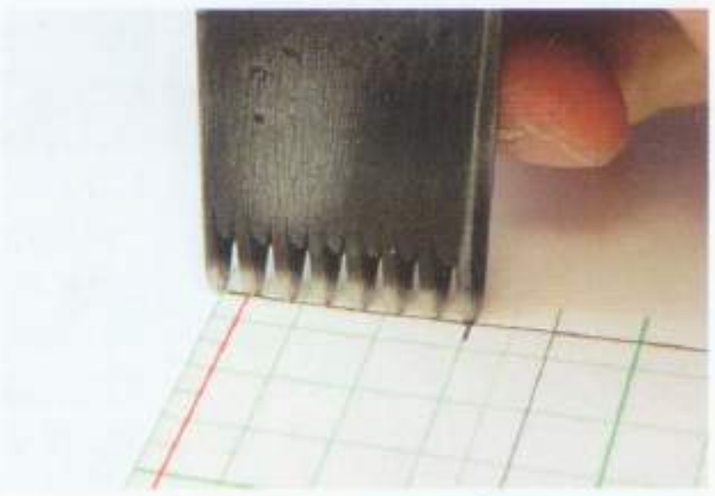
6



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

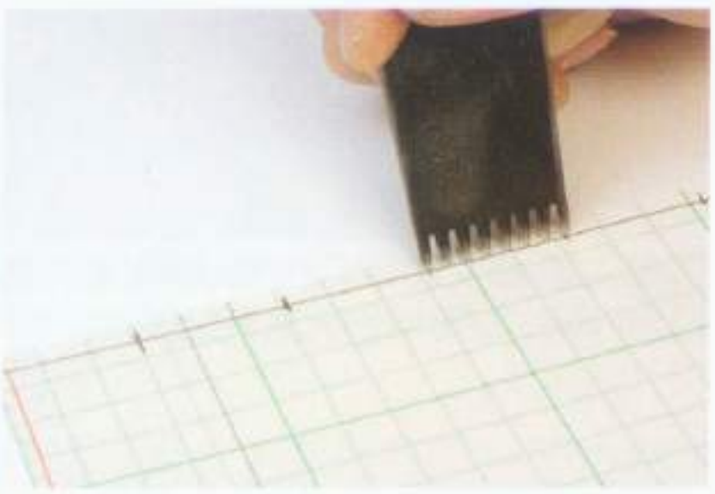
型紙に菱目を打つ

型紙に縫い線を引いたら、その縫い線に従って菱目を打ちます。これは菱目を打つ練習になり、各パーツを縫い合わせる際の菱目を正確に揃えることにもつながります。



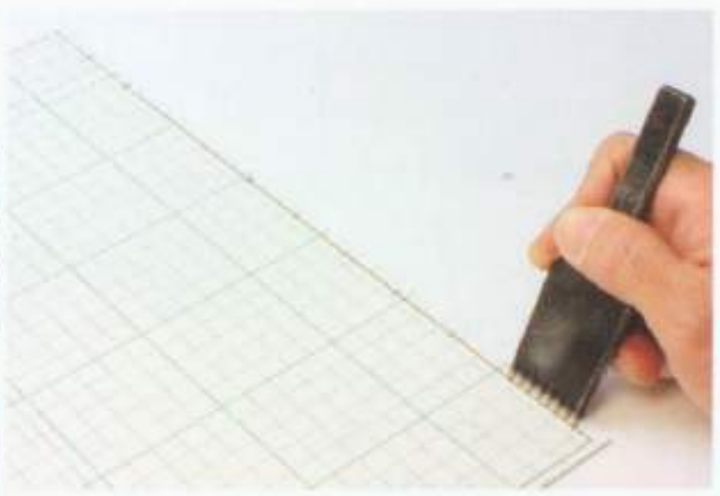
縫い線が交わる角（飾り縫いの線と交わる上角）に、1刃ずらした状態で菱目打を合わせ、全ての刃先で軽く印を付ける

1



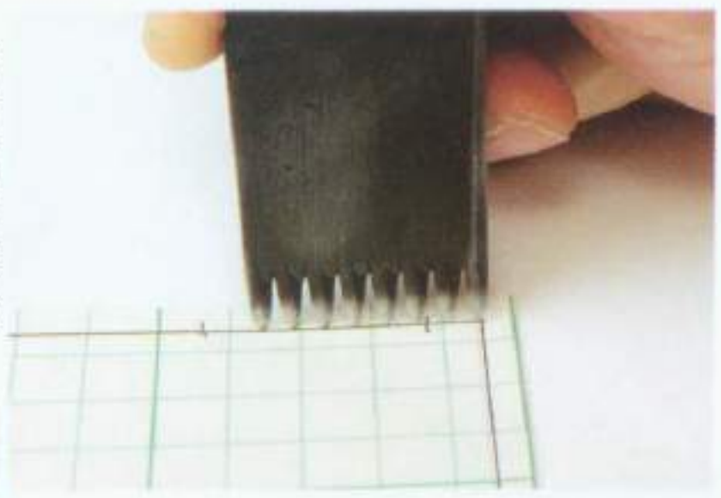
先に付けた印の一番端（左の写真で右端の刃が付けた印）に1刃を重ね、同じようにして印を付ける。底面に向かってこれを繰り返し、縫い線の端手前まで印を付けていく

2



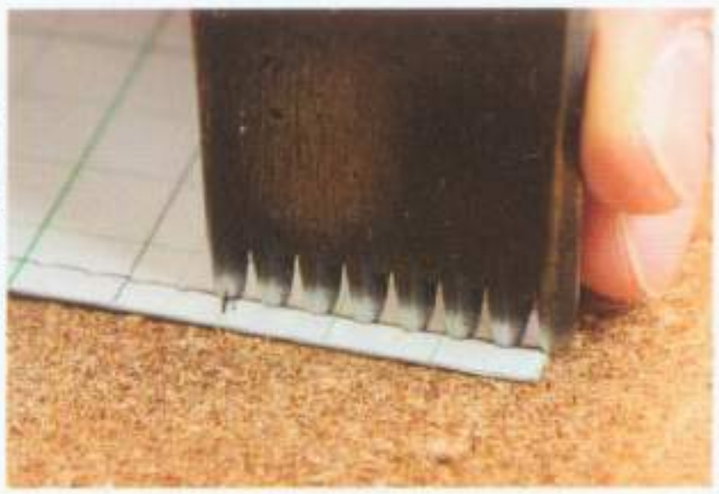
縫い線の端手前まで印を付けたら、菱目を角（胴側面と底面の縫い線が交わる位置）に揃えるため、印を付ける手を止める

3



角に菱目打の端の刃を合わせ、同じように印を付ける。これで、これまでに付けてきた印と角手前の印がずれる場合でも、実際に菱目を打つ際に微調整することができる

4



始めに付けた印に刃先を合わせ、実際に菱目を打っていく。縫い線から菱目がずれないよう、正確に菱目打の刃先を縫い線に揃えること

5



印を付けた時と同様に、先に打った菱目の端へ1刃を重ねつつ、底面へ向かって菱目を打っていく

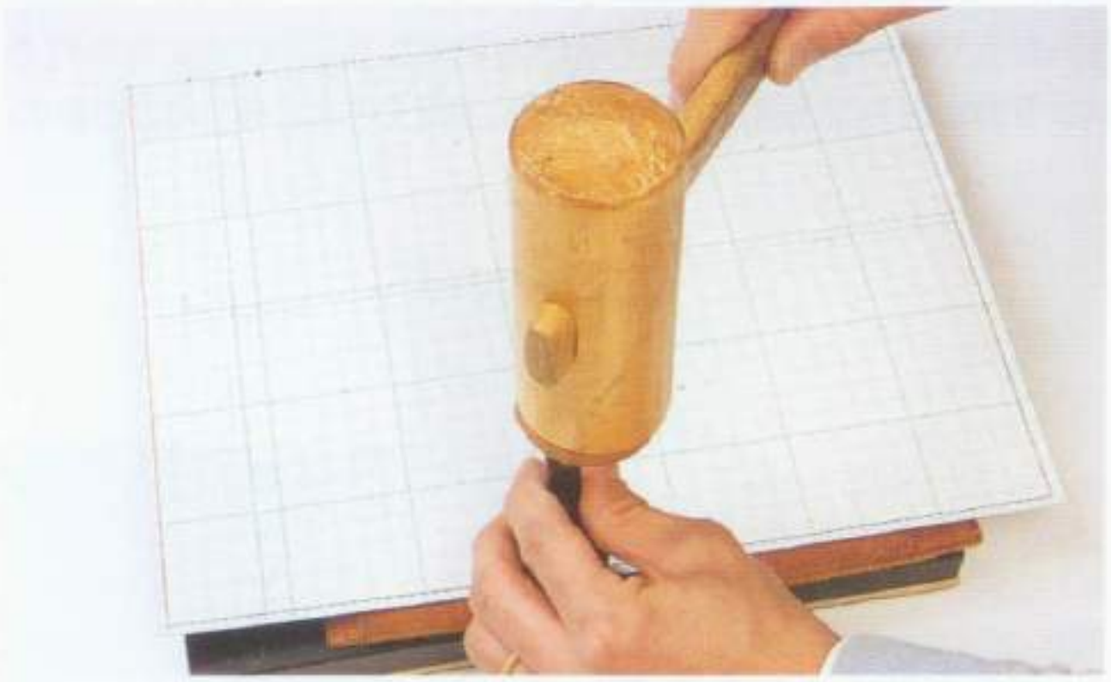
6



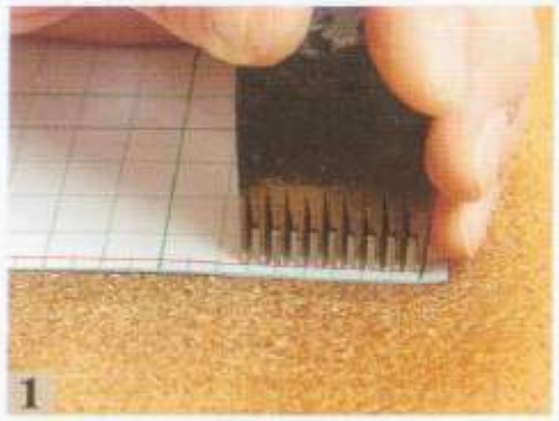
角の手前まで来たら、予め付けておいた印を確認。文字通り菱形に開く菱目の幅を利用して、角に菱目がピタリと収まるように、菱目打の位置を微調整する

7

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



8 これまでと同じ手順を繰り返し、胴の底面から反対側の側面へ掛け、"コ"の字を描くように菱目を打つ

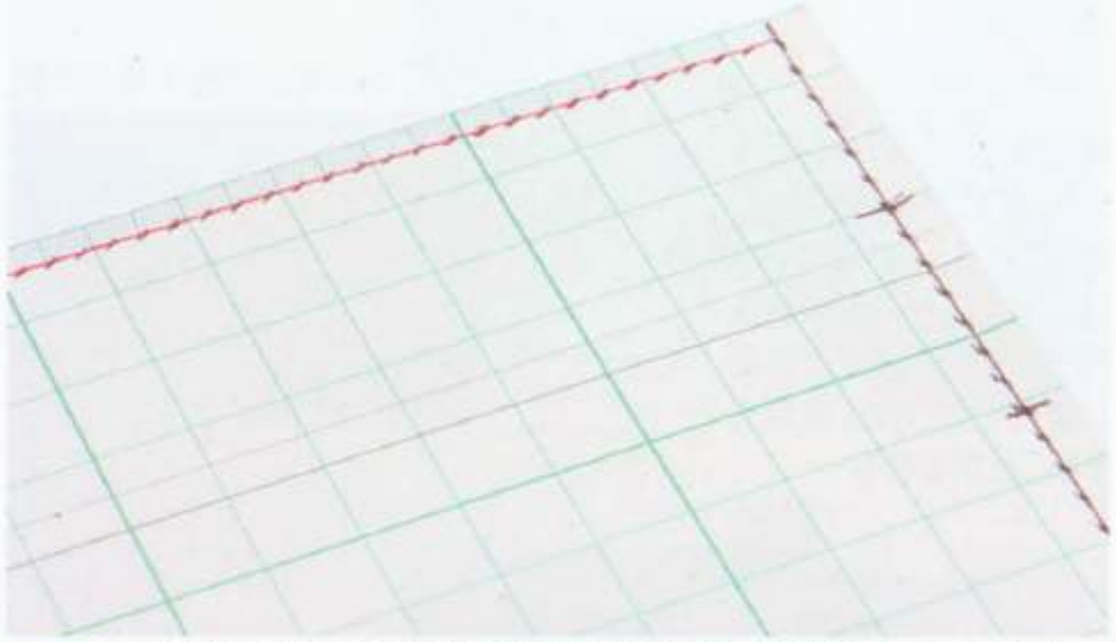






1飾り縫いをする上側面には、ピッチ(刃の間隔)が狭い菱目を打つ。まず、これまでと同様に印を付ける 2角の穴が広がり過ぎないよう、その1つ手前から打つ 3端まで菱目を打つ

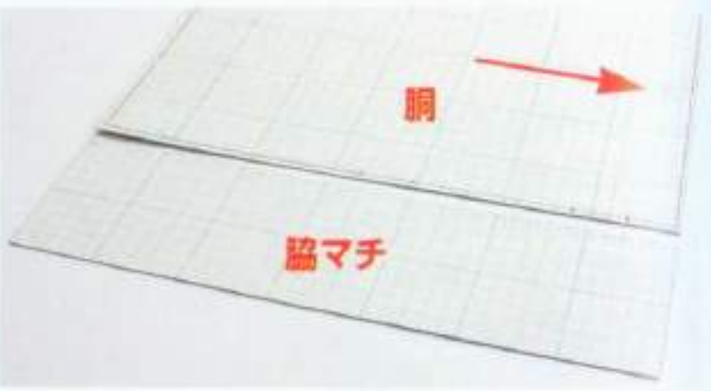
9

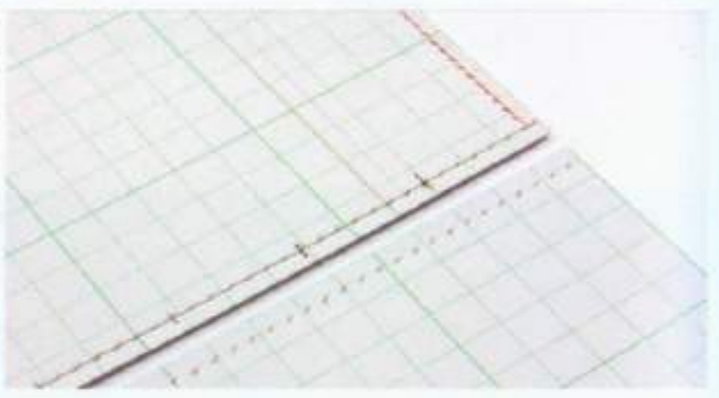


10 マチと飾り縫いの菱目を打ち終えた状態。実際に革で作業をする時でも、同じ手順を用いれば正確な菱目を打つことができる

胴に菱目を打ち終えたら、次はマチに菱目を打つ。まずは脇マチの両側面に、胴の側面と同じ5mm幅の縫い線を引き、胴の側面と同じ手順で菱目を打つ。この時、予め菱目を打った胴を傍らに置いておけば、双方の菱目がずれていないかを確認することができる

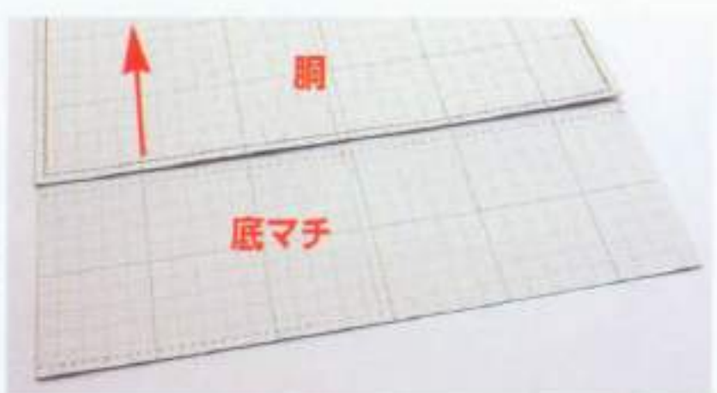
11

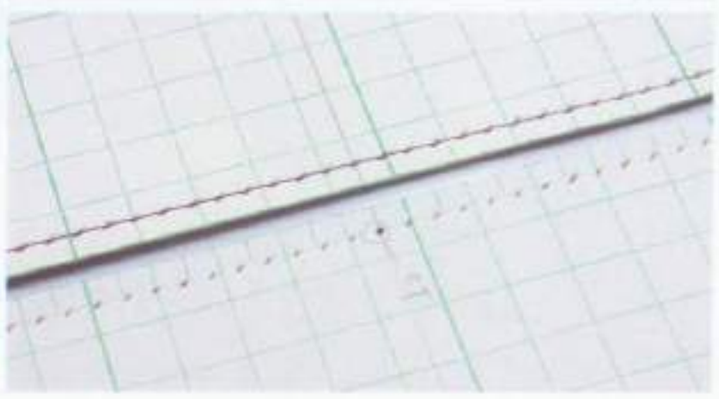


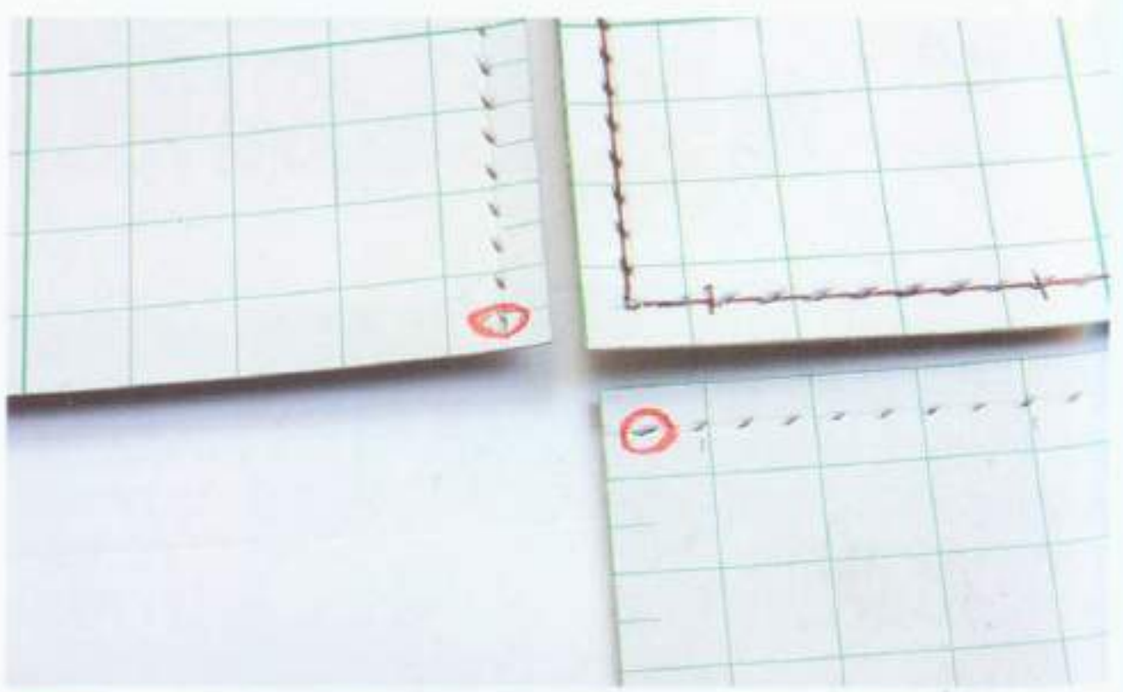


脇マチと同様に、底マチにも菱目を打つ。この時、角の菱目を揃えるのは勿論のこと、胴の中心と底マチの中心に位置する菱目にも注意し、これをピタリと揃えた上で型紙に印を付けておく。これは実際に革のマチと胴を合わせる際、菱目がずれていないことを確認するための目印になる

12

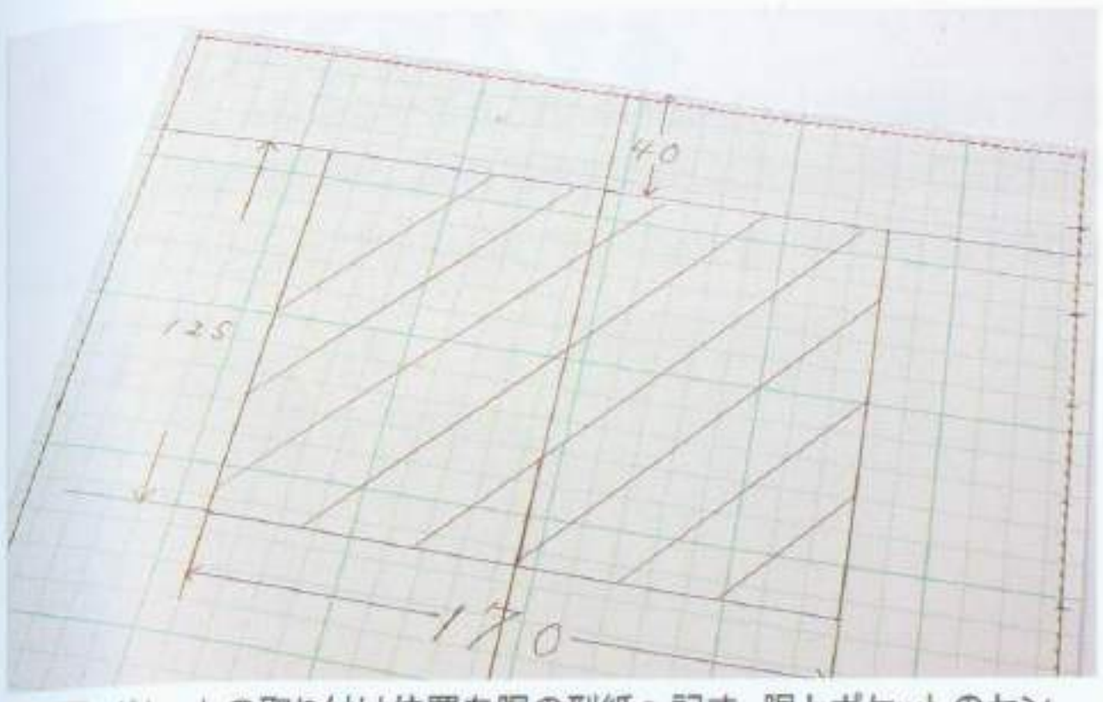




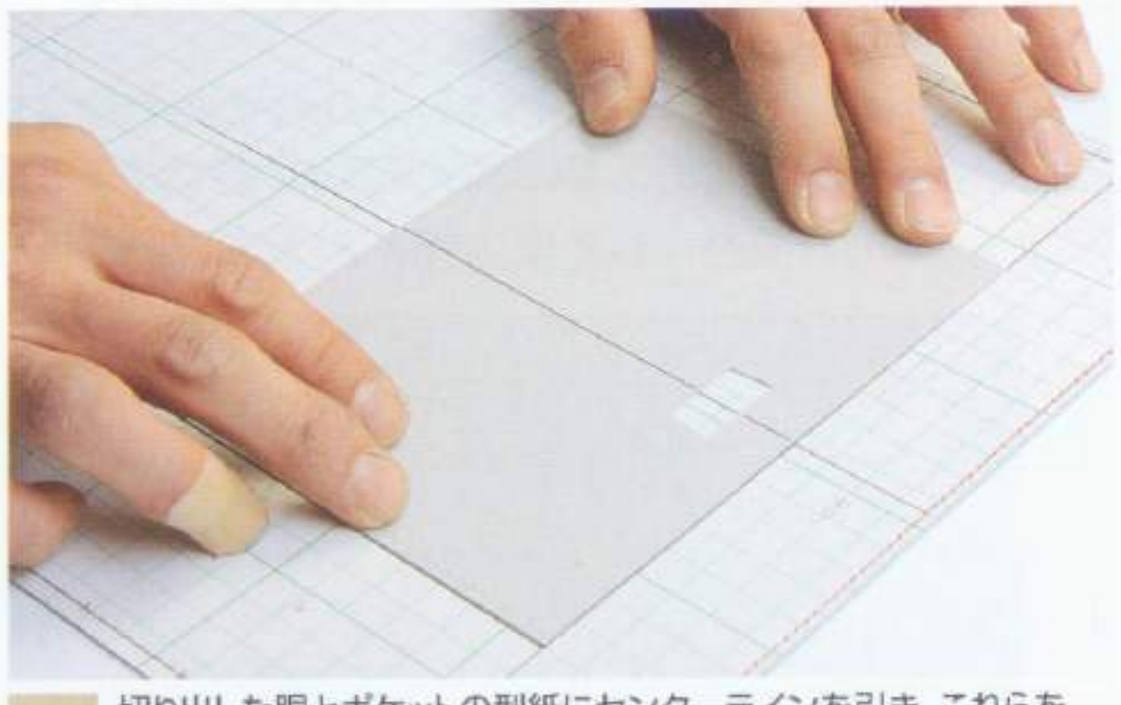


13 胴と脇・底の各マチの角。通しマチとするため、実際の革では丸印が隣同士に並び、胴底面の角に開けた菱目と縫い合わさる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



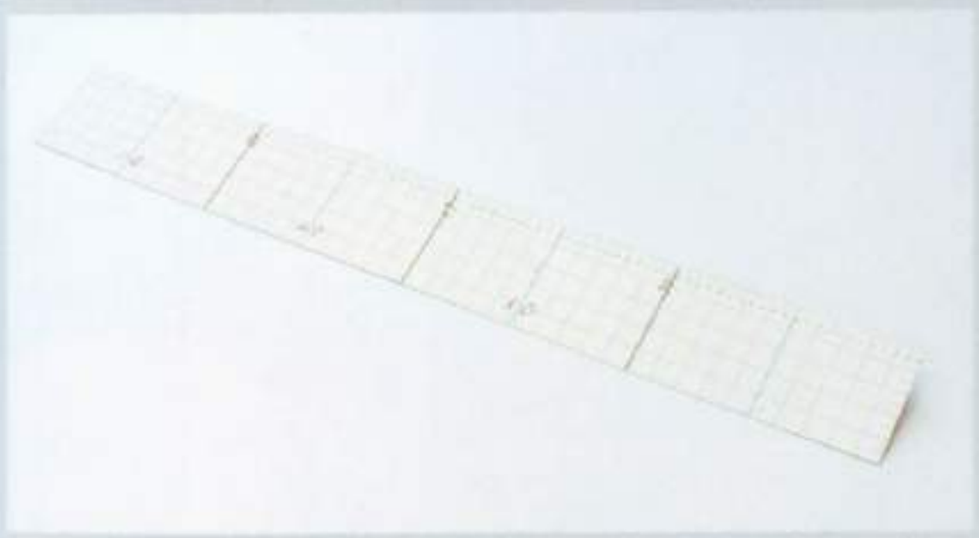
14 ポケットの取り付け位置を胴の型紙へ記す。胴とポケットのセンターを揃え、使い勝手の良い好みの位置で設定する



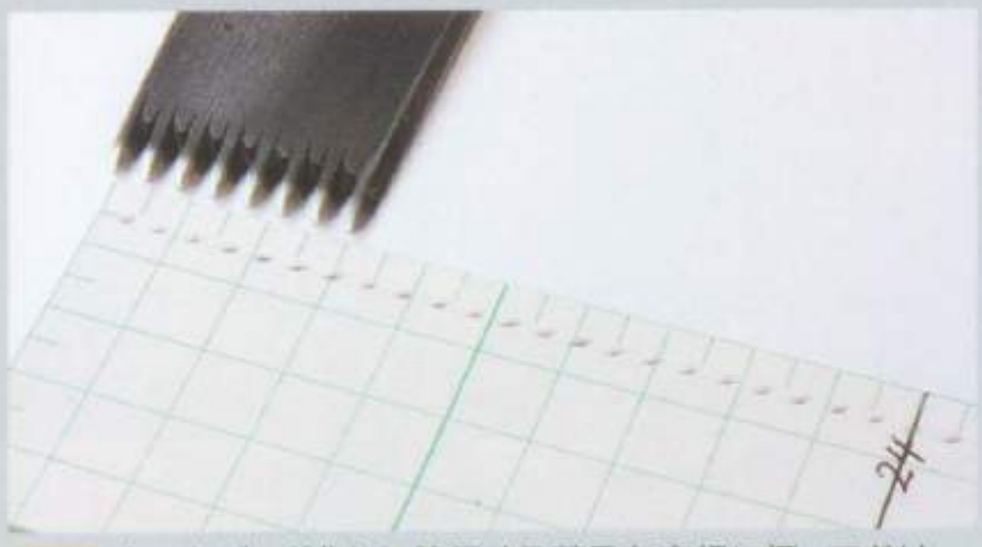
15 切り出した胴とポケットの型紙にセンターラインを引き、これらを実際に合わせてみれば、より完成形がイメージし易い

菱目の目安(定規)を用いる

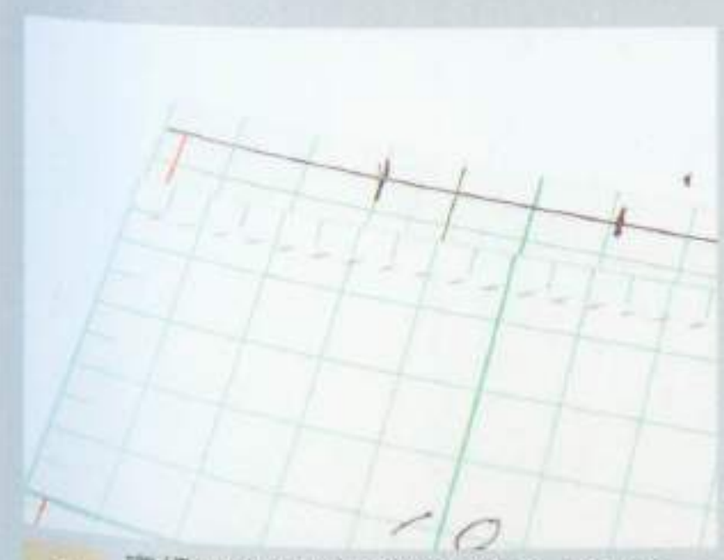
基本的な菱目打ちの技術をマスターした後は、わざわざ型紙に菱目を打つ必要はありませんが、菱目の数や間隔が把握しやすくなるテンプレートがあると便利です。



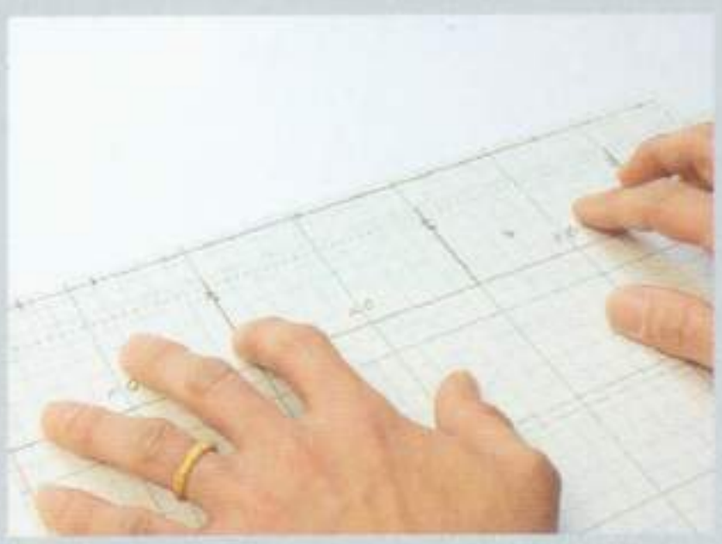
1 余った型紙を胴の側面より少し長めに取り、これに一定の菱目を打って定規のように使用する



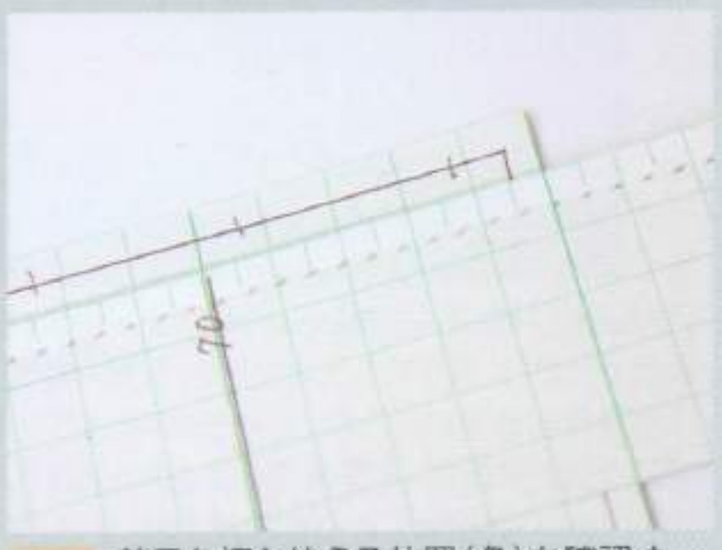
2 トートバッグ作りに使用する菱目を定規に打っておけば、各側面に収まる菱目の数を把握することができる



3 定規の端を型紙の端へ揃え、実際に菱目を打つ縫い線と平行に並べる



4 定規に打った菱目と型紙の縫い線を目で追い、打つ菱目の数を把握する

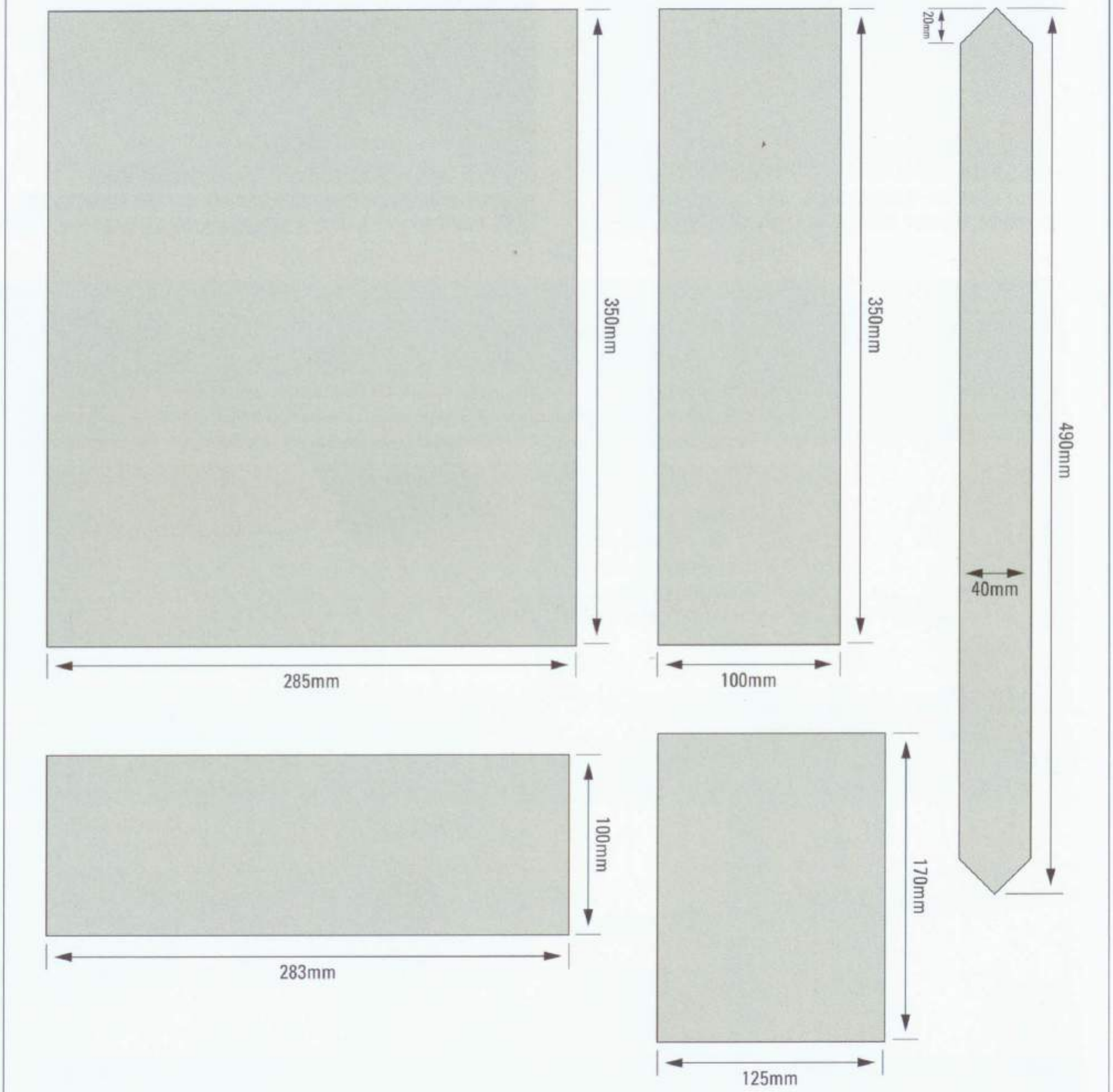


5 菱目を打ち終える位置(角)を確認すれば、微調整する際の目安となる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

型　紙

製作するトートバッグの実寸サイズです。すべて角を基調としているため、表した数値を参考に工作用紙などで型紙を製作してください。各辺の数値を同じ比率で変更し、大きさを変えることもできます。



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

2 皮革を購入する

型紙を製作したら、次は材料となる皮革を購入します。皮革は、巻末で紹介しているような皮革材料屋やクラフトショップで小売しているので、下記を参考に実際にお店へ足を運び、革鞄に最適な一枚を選びましょう。







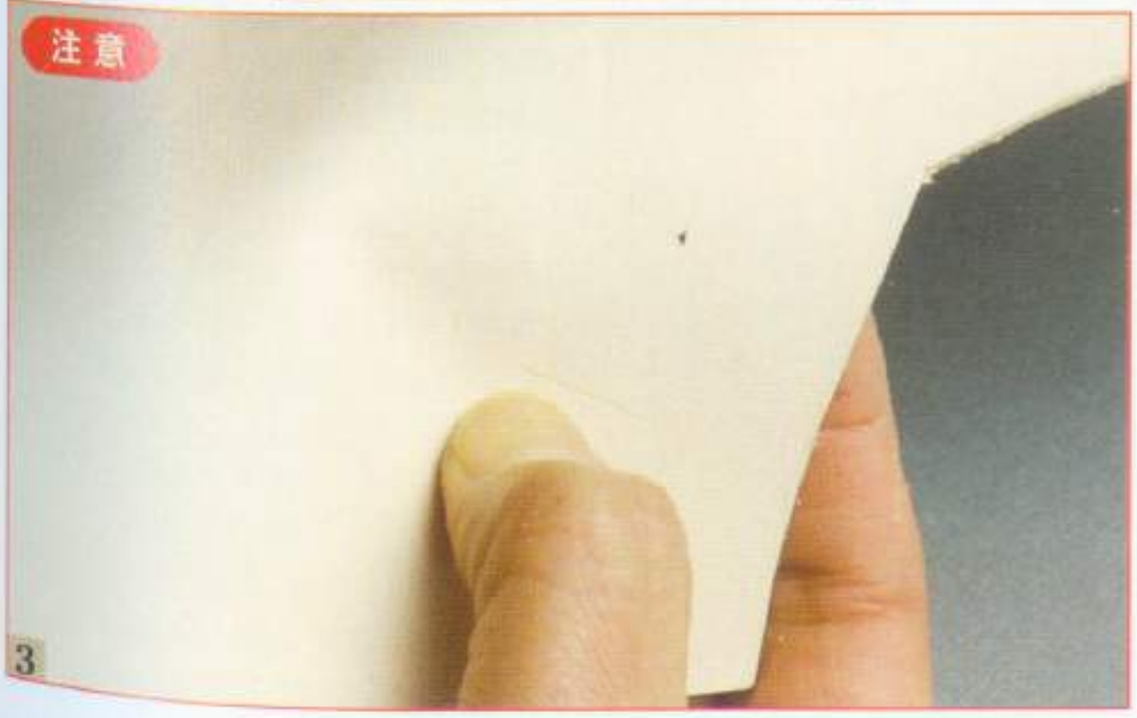
切り出した型紙を元に、トートバッグを製作するためにどれ位の皮革が必要か判断し、皮革材料屋さんへと足を運びます。一口に皮革といっても様々な種類があり、ビギナーには扱いが難しい皮革もありますので、分からない事は遠慮なく店員さんに尋ねましょう。きっと親身になって答えてくれます



1



2



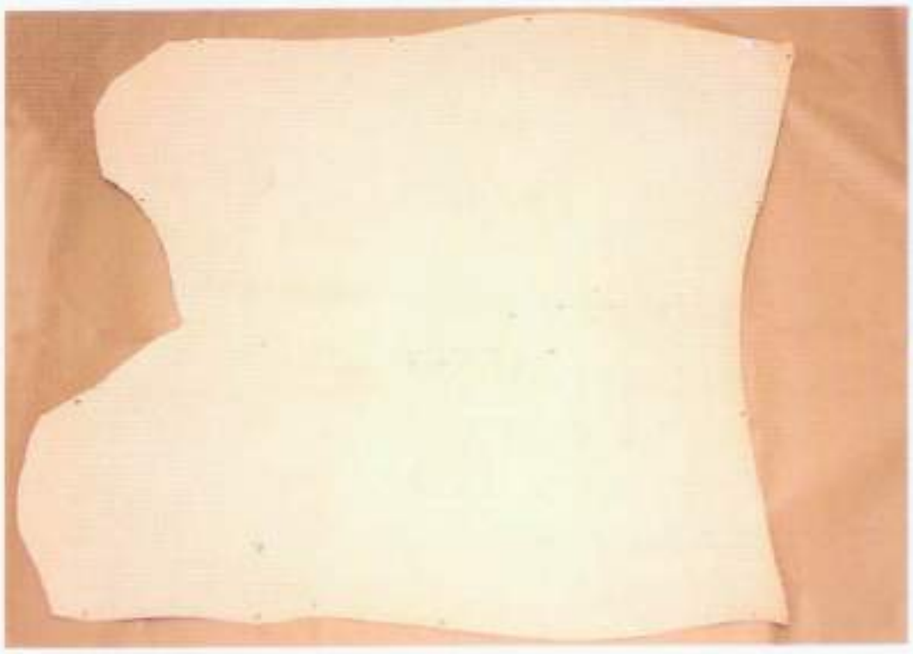
3

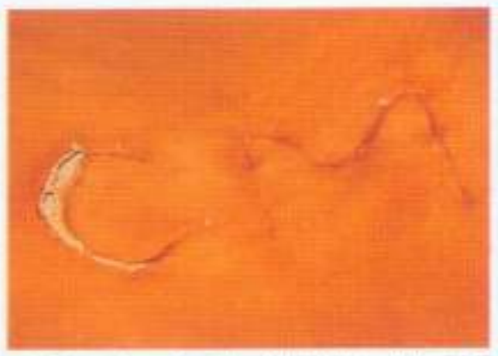
1一般的に、一枚革として販売されている革には平均デシ数が記載されており、これに皮革の種類ごとに定められたデシ単価を掛けた数値が販売価格となります。次頁の写真のように型紙を置き、必要な部分だけを購入するという事はできないので、できる限り無駄なくパーツが取れる皮革を選ぶか、余った端切れを小物製作などに充てると良いでしょう　**2**市販されている状態の皮革には原厚があり(平均数値・部位により多少は前後する)、そのままの厚みが必ずしも革鞄作りに適しているとは限りません。店員さんに依頼すればすいてもらう(=厚みを一定に揃えるための"ベタすき"。一般的に別途料金が必要)ことができるので、カタログの数値や実寸(ダイヤルゲージで測る)などを参考に、革鞄作りに適した厚みにすいてもらいましょう　**3**これは皮革材料屋さんでのマナーですが、見せてもらう革はあくまでも商品です。表革を伸びた爪などで擦ると簡単に傷付けてしまうので、購入前の皮革は丁寧に扱いましょう

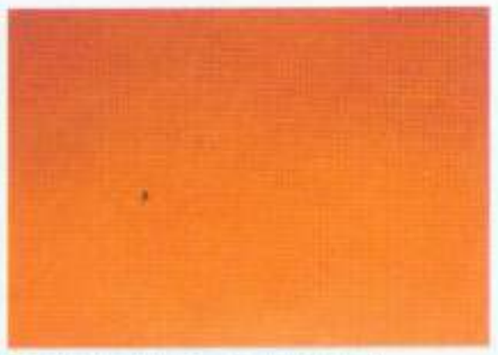
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

3 一枚革からパーツを取る

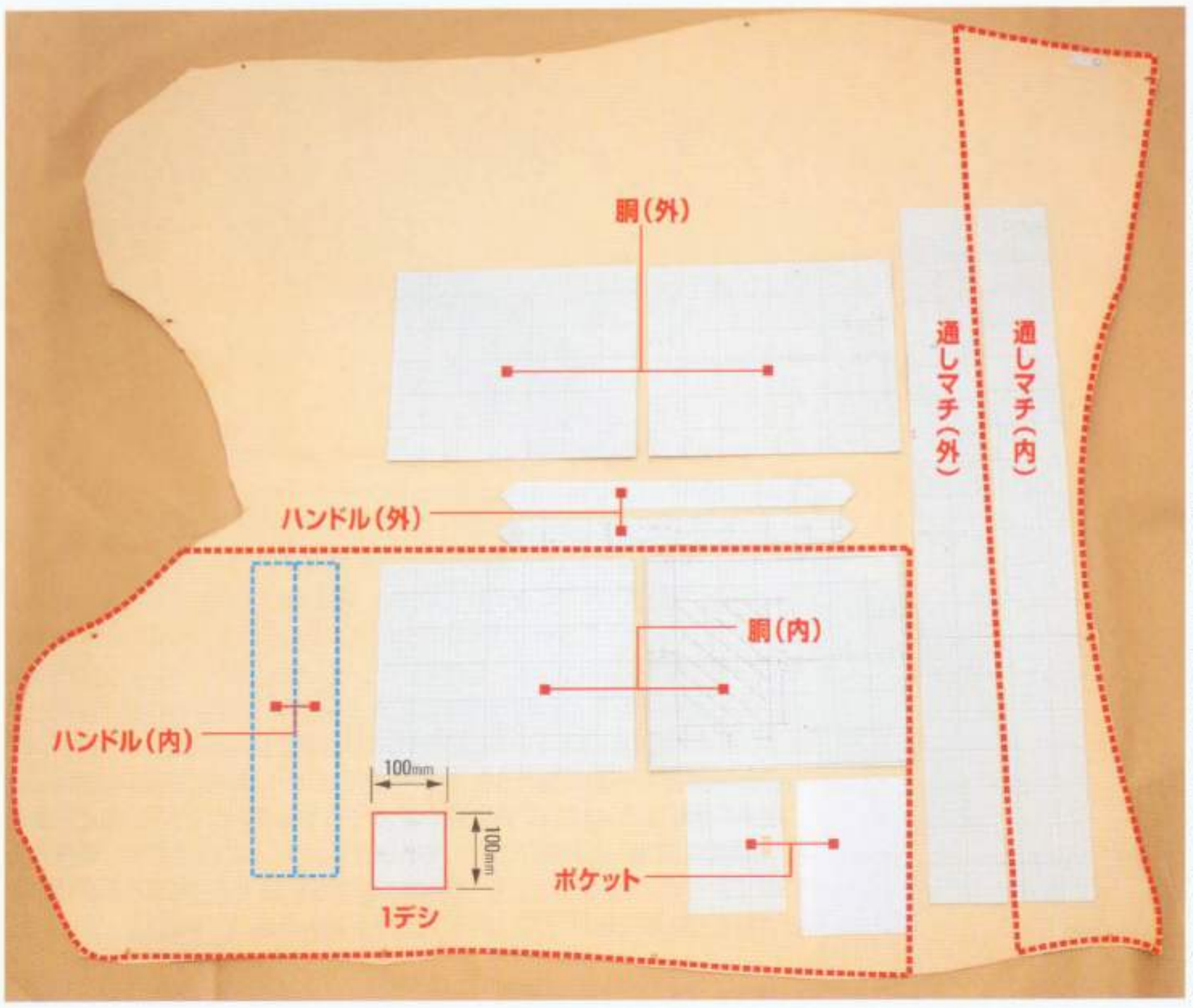
個々のパーツ面積が広くなりがちな革鞄においては、パーツの取り都合が良い(上質な部位を無駄無く使える)一枚革の購入がお勧めです。ここでは、そんな一枚革からパーツを取る際のポイントを解説します。







本項のトートバッグ製作には、良質で全体的にシワが少なく、パーツの取り都合が良いダブルバットのヌメ革を選びました。皮革によっては"焼き印"や"血筋"が多少目立つこともありますが、そのような部分を避けてもなお良質な部位が多く、ビギナーにとっては扱いやすい、お勧めの皮革です



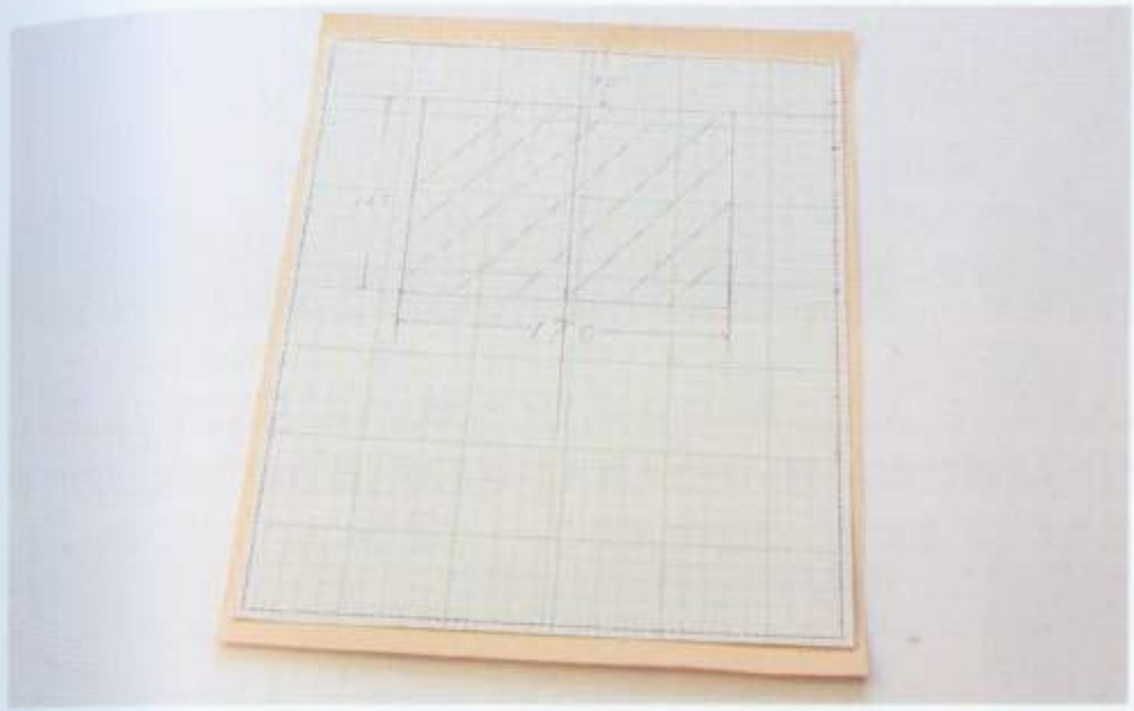
一枚革からパーツを取る際の一例。巻頭で解説した「革の伸び方向」や「曲がり方向」を確認し、負荷が掛かる方向と革の伸び方向を違わせ、各パーツの配置を確認の上、面が自然に曲がる向きでパーツを取ります。これから製作するトートバッグには内革を貼り合わせるので、胴やマチ、そしてハンドルは2枚ずつ取ります。完成したトートバッグを柔らかく保つために、内に貼り合わせる革は外の革よりも薄くすいて取りますが、"ベタすき"を依頼する際に無駄が無いよう(ベタすきを依頼する際は基本的に、革の面積ではなく枚数単位で料金が掛かる)、ここではパーツを大まかに3分割して取っています。赤枠で囲っているパーツは内側に貼り合わせるパーツで、本項では、これらを含む2枚は1.2mm厚、残りの外側に用いるパーツは1.6mm厚にすいています。ベタすきを依頼したり貼り合わせる作業が難しいという方は、一枚革で製作することもできるので、その場合は初めから、用途に合わせた原厚を選択します。＊参考として1デシを実寸で置いていますが、意外と革を使うことが分かるでしょう

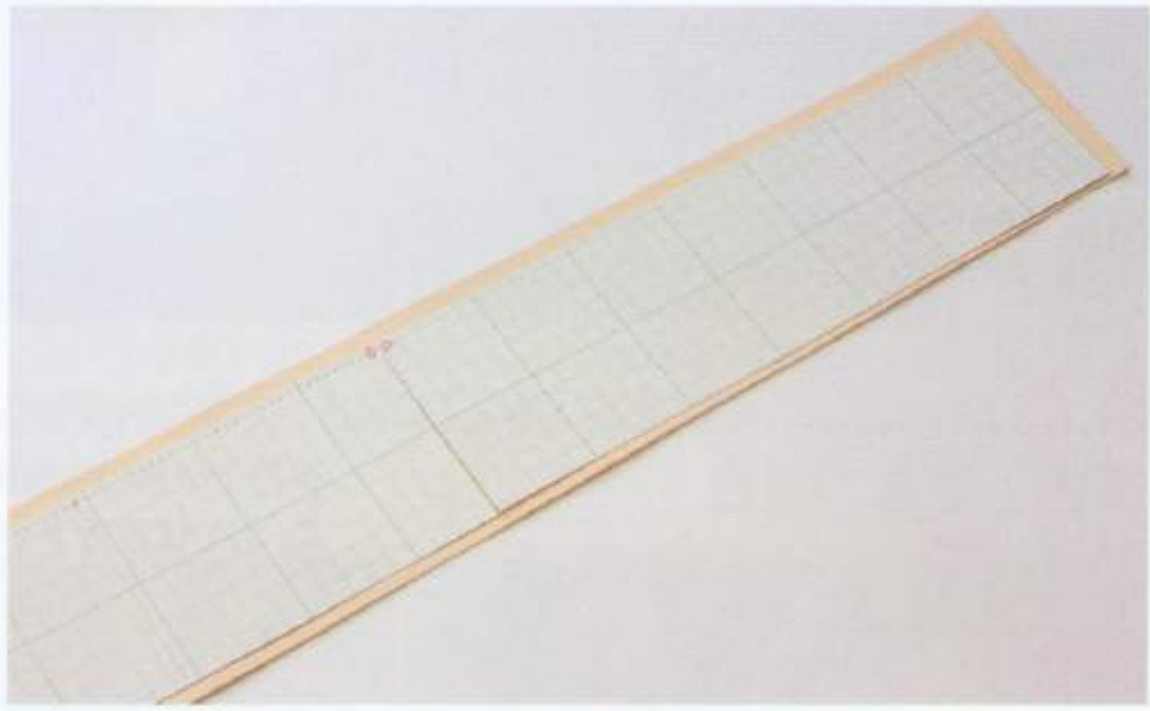
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

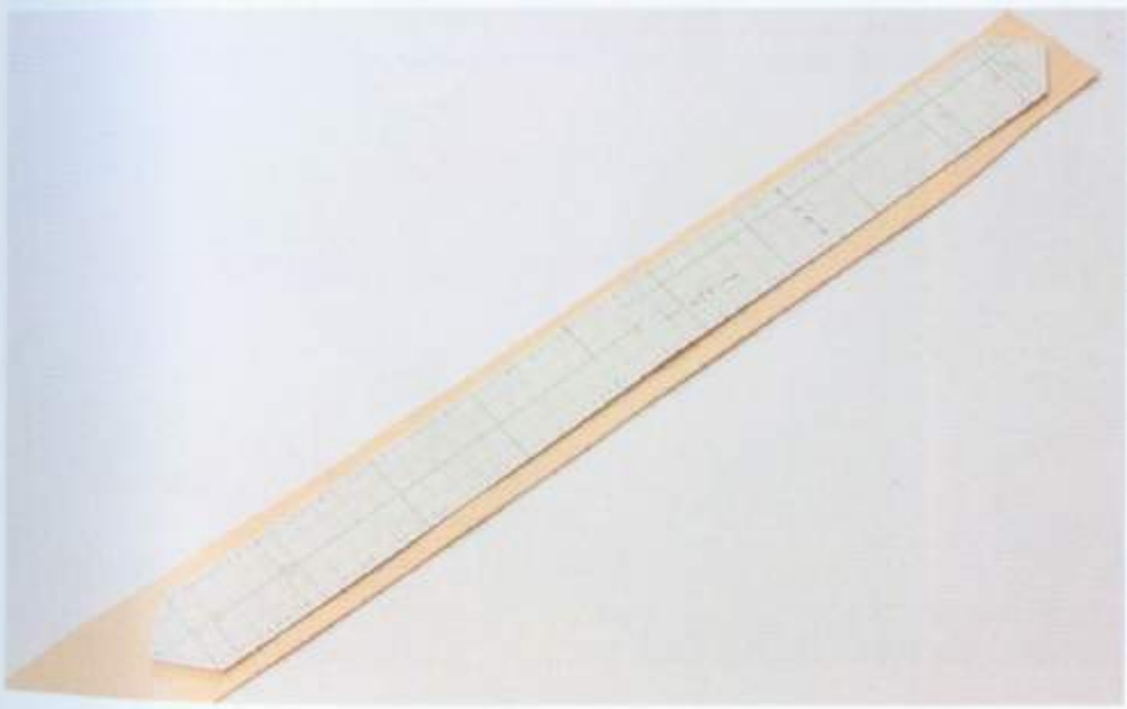
基本テクニック 4

各パーツを裁断する

パーツの裁断は、革鞄作りにおいて最も基本となる作業の1つです。裁断には革包丁を使うのが一般的ですが、直線を基調としたトートバッグであれば、カッターナイフでも充分正確に裁断することができます。

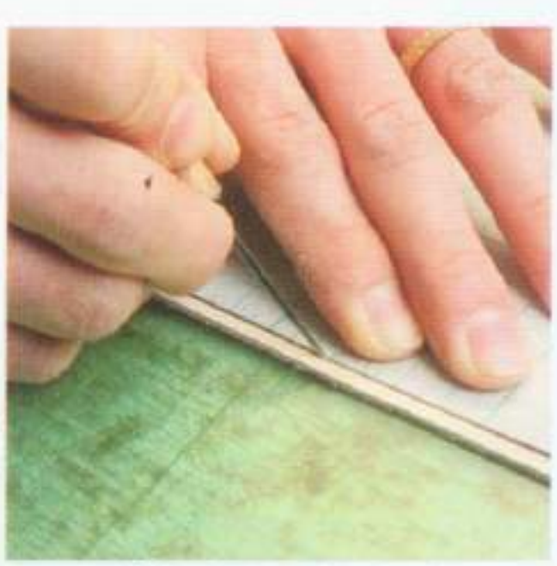






1 各パーツの取り方を決定したら、まずは型紙よりも一回り大きなサイズに粗裁ちする。比較的厚みを抑えた今回の革ならば、カッターナイフでも充分に裁断できるが、粗裁ちであれば練習にもなるので、ある程度の余裕を持たせた上で、革包丁で裁断しても良い。左上は胴、その右は通しマチで、これは2枚の脇マチと底マチを継いだ1枚の状態で粗裁ちする。残る左下はハンドルで、ポケットも同様に裁断する



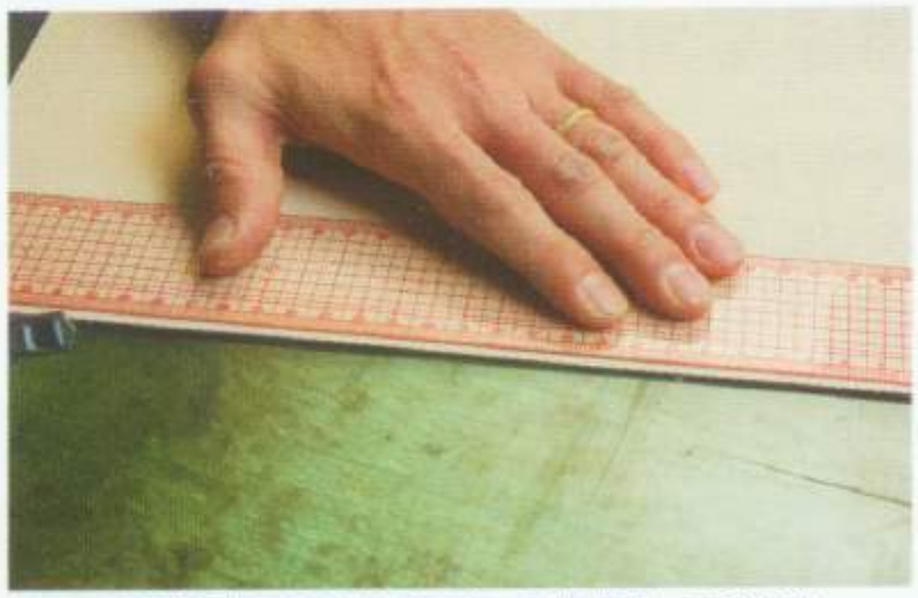


2 粗裁ちした革の上に型紙を置き、これがずれないようにしっかりと押さえ、菱ギリや丸ギリでアウトラインを引く

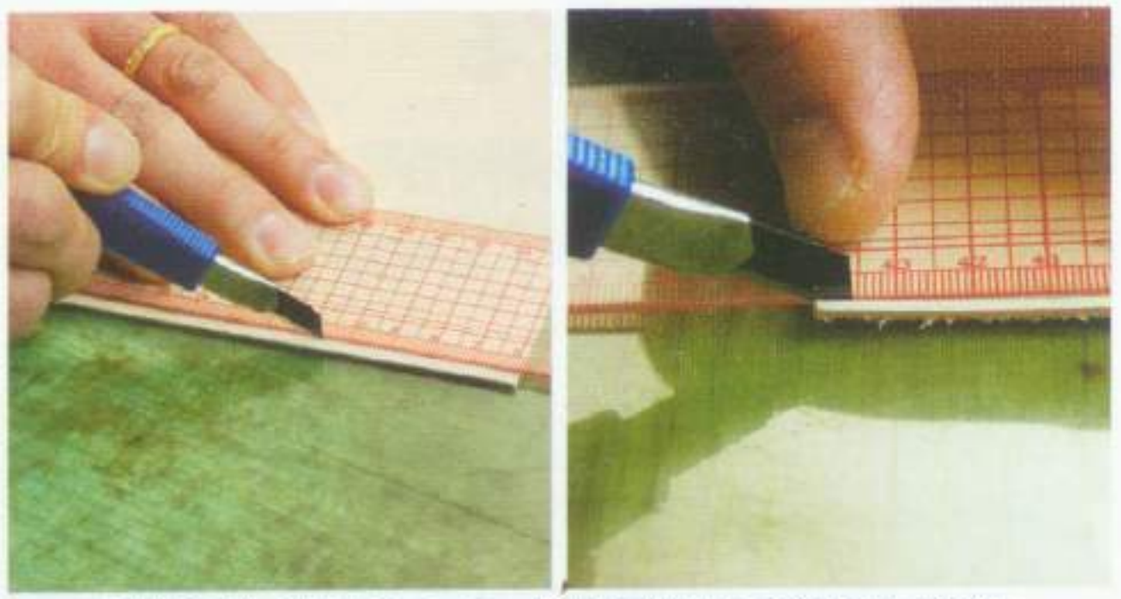


3 引いた線＝裁断線となるので、型紙からずれることなく、かつ分かりやすい線を引く

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



4 直線を裁つ場合はカッターでも充分。正確に裁つため、定規を裁断線にピッタリと合わせる



5 定規をガイドにしてカッターの刃を沿わせ、これを真っ直ぐに引いて革を裁つ。カッターは強度のある黒刃が扱いやすい

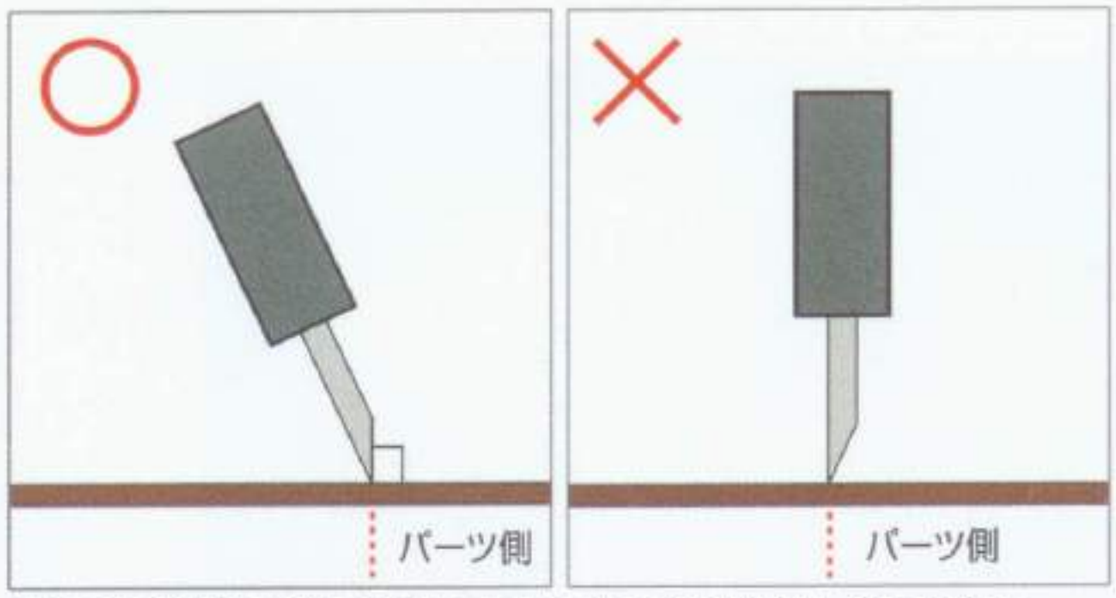
革包丁で裁つ場合

革包丁の扱いには慣れが必要ですが、使い方さえ覚えれば正確に革を裁つことができます。初めは粗裁ちや端切れなどで練習し、慣れた所でパーツの裁断に使うと良いでしょう。

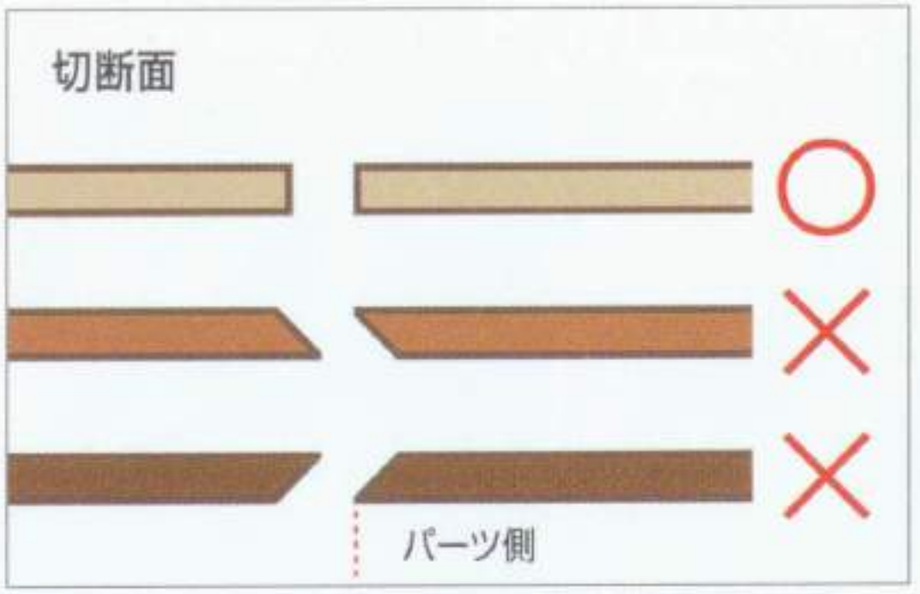
直線を裁つ場合は、革包丁の刃の表をパーツ側にして引きます。右の写真は正しい革包丁の握り方で、革包丁を握る手の肘はしっかりと作業台の上に安定させ、反対の手は革をしっかりと押さえます







皮包丁は裁断線に対して切刃を垂直に立てるのが原則。柄を垂直に立ててしまうと、切刃が裁断線に対し斜めに切り込んでしまいます

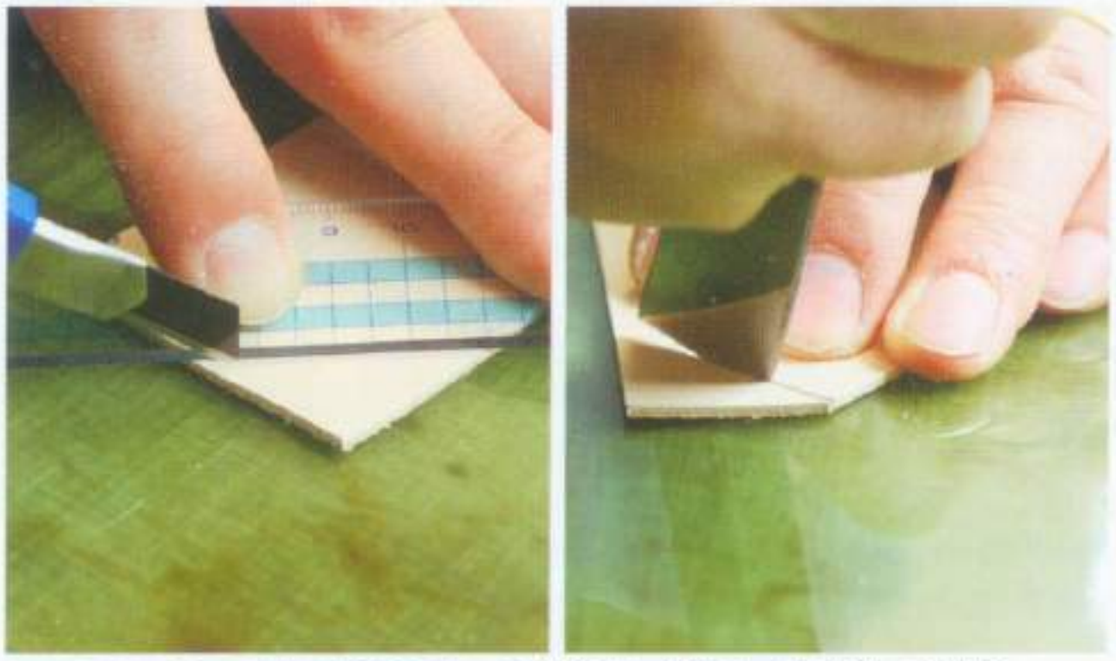


裁断面はそのままコバとなるので、均等な裁断線を引き、きれいにコバを磨くために真っ直ぐに裁ちます

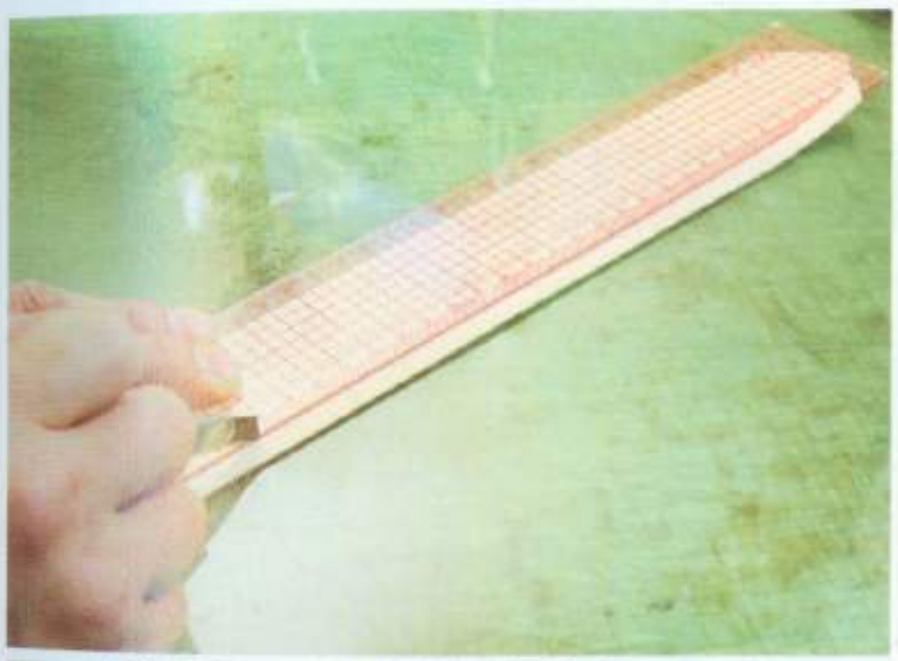
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



6 ハンドル取り付け部も、正確にアウトラインを引く。向きを変える時、型紙がずれないよう注意



7 カッターでも革包丁でも、直線部は一辺ごとに区切って裁断。一辺の裁断線が短ければ、革包丁で練習するのも良い



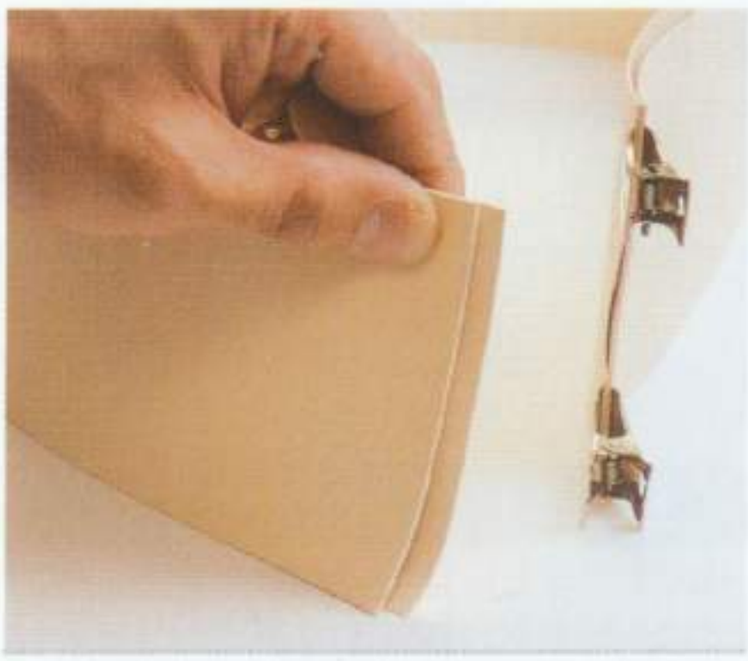
8 直線の長い一辺を裁断する場合、慣れないうちは定規とカッターを用いる方が正確に裁てる

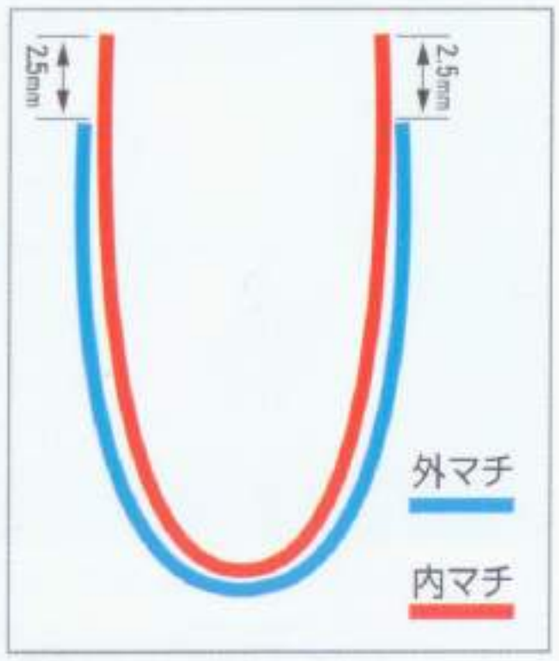


9 通しマチは最も長いパーツとなる。裁断線を引く途中でずれないようにしっかりと型紙を継ぎ、確実に型紙を押さえて裁断線を引く



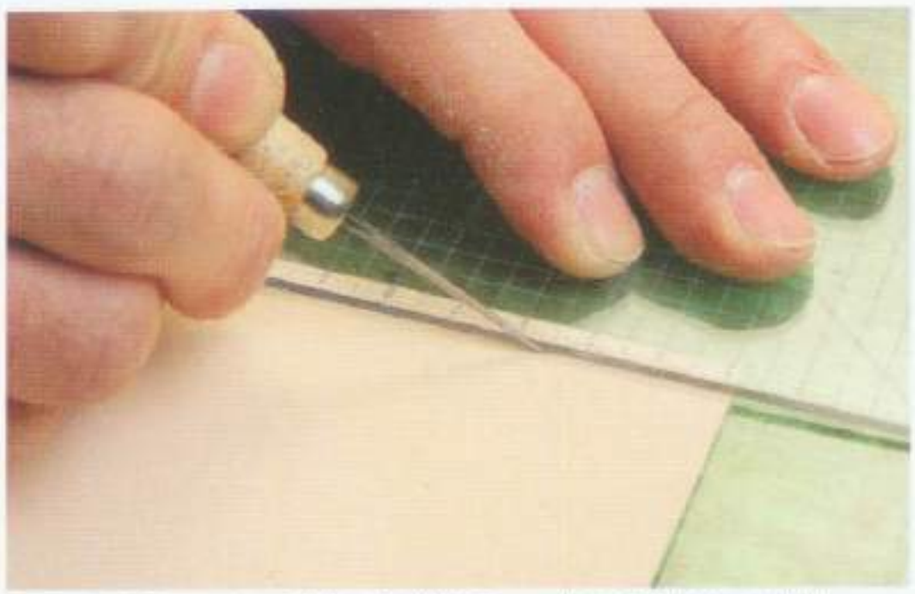
10 幅が広く方眼が設けられた定規などがあると、裁断の途中でずれが生じた際も確認しやすい



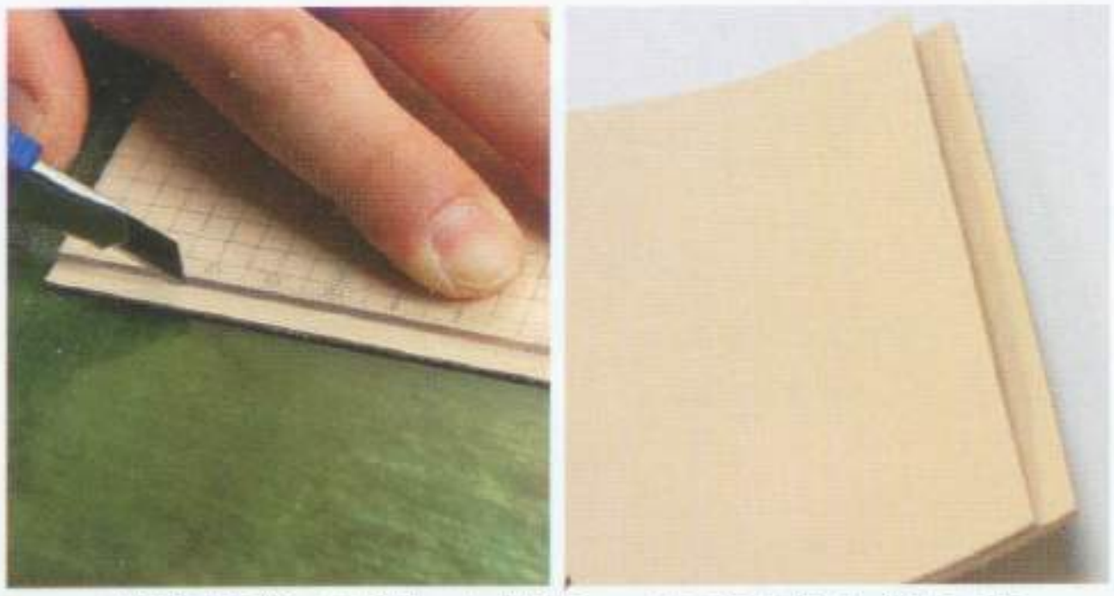


11 通しマチは"U"字に湾曲させて用いるため、同じ長さで貼り合わせると内革が余ってしまう。このため、通しマチ・内革の端を5mm短く裁断しておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



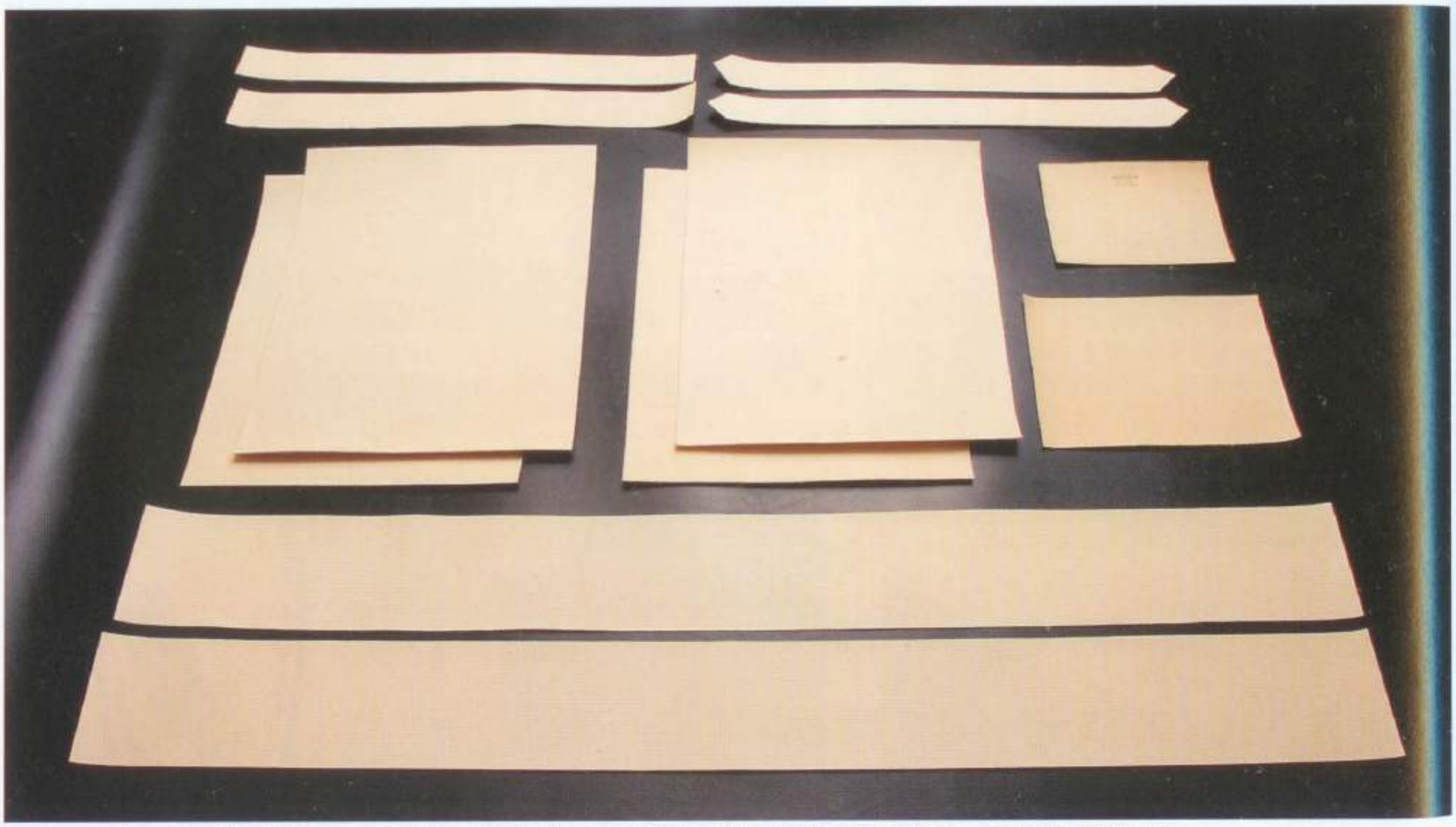
12 通しマチ・内革の片端を5mm幅でけがき、両端を2.5mmずつ詰める意味合いとする



13 裁断線に従って裁断。片側2.5mmずつのずれは、通しマチ(外革)と貼り合わせる際に両端を揃え、湾曲させて調整する

裁断した全パーツ

粗裁ちした革に型紙を合わせ、そのアウトラインに沿って裁断した全てのパーツです。ポケットを除く全てのパーツに内革を貼り合わせるため、かなりの面積になります。



左上にある2枚の革は、隣に並ぶ1.6mm厚の「ハンドル」に貼り合わせる「ハンドル・内革」で、これは1.2mm厚にすいた革をハンドルよりも広めに取ったもの。その下にある4枚の革は「胴」と「胴・内革」で、それぞれ1.6mm厚と1.2mm厚が2枚ずつ揃う。胴の隣はポケットで、その厚みは1.2mm。これは胴の内側に備えるが、大きさや有無は好みで選択できる。一番下に並ぶ横長のパーツは、都合3枚の型紙(脇マチ×2枚・底マチ×1枚)を継いで裁断した「通しマチ」とその内革で、内革は外革より5mm短い

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

基本テクニック

5 縫い線を引く

パーツを全て揃えたら、これを縫い合わせる際の縫い目となる菱目を打つため、その菱目のガイドラインとなる「縫い線」を引いていきます。手順は型紙の時と同様ですが、実際の革に引く感覚をしっかりと覚えましょう。



1 型紙にねじネンを引いた時と同様、ねじネンの幅をパーツの部位ごとに調整して縫い線を引く



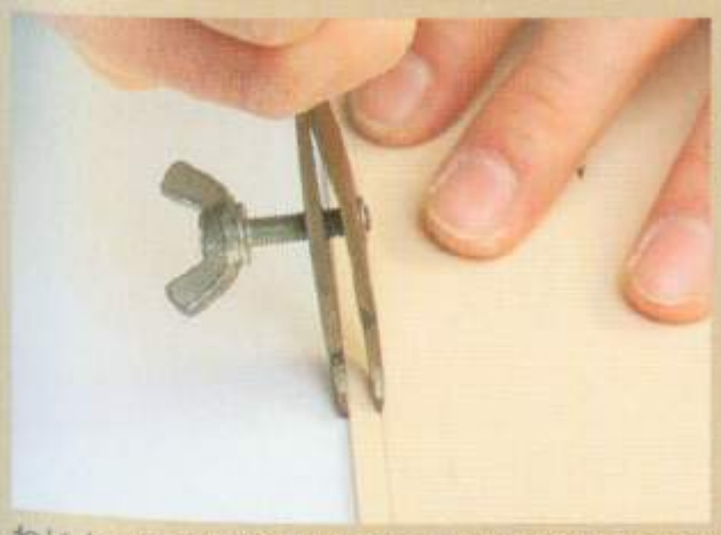
2 パーツの上に縫い線を引いた型紙を乗せ、これと比較しながら進めると確認しやすい

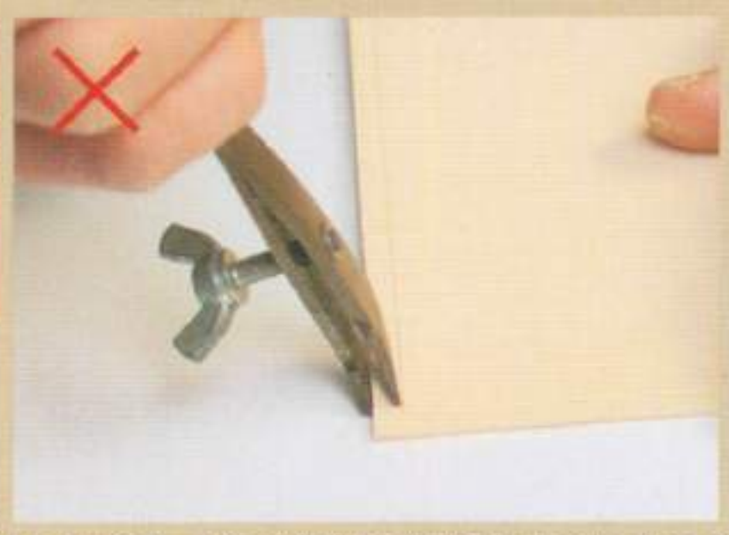
POINT

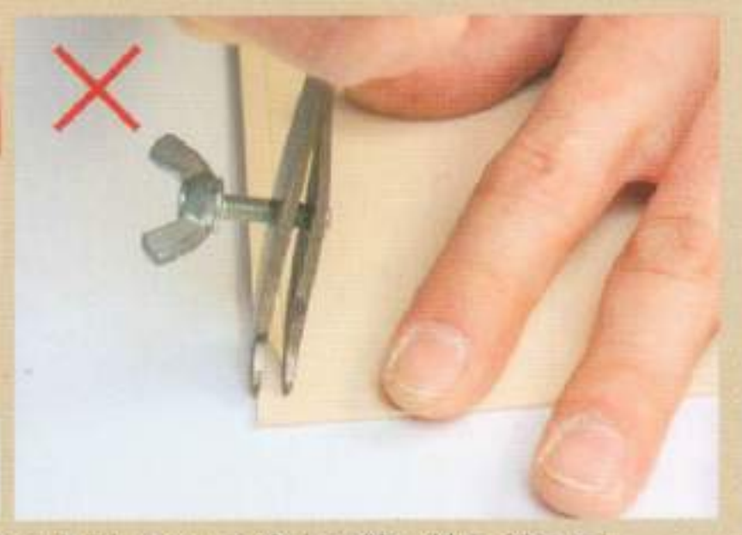




刃先をぶれさせることなく一定の縫い線を引くためには、ねじネンの柄に親指を添えてしっかりと握り、肘を作業台の上に据えた安定した状態で引く。菱目を打つ際のガイドラインとなるので、厚過ぎずかつ薄過ぎず、一定のラインを引く







ねじネンは、実際に線を引く刃を革の表面へ垂直にあてる。これが左右にぶれてしまうと、ねじネンを引いている途中で縫い線もぶれてしまい、コバに対して平行な縫い線が引けない。正確かつ均等な菱目を打つためには、縫い線も常に正確でなければならない

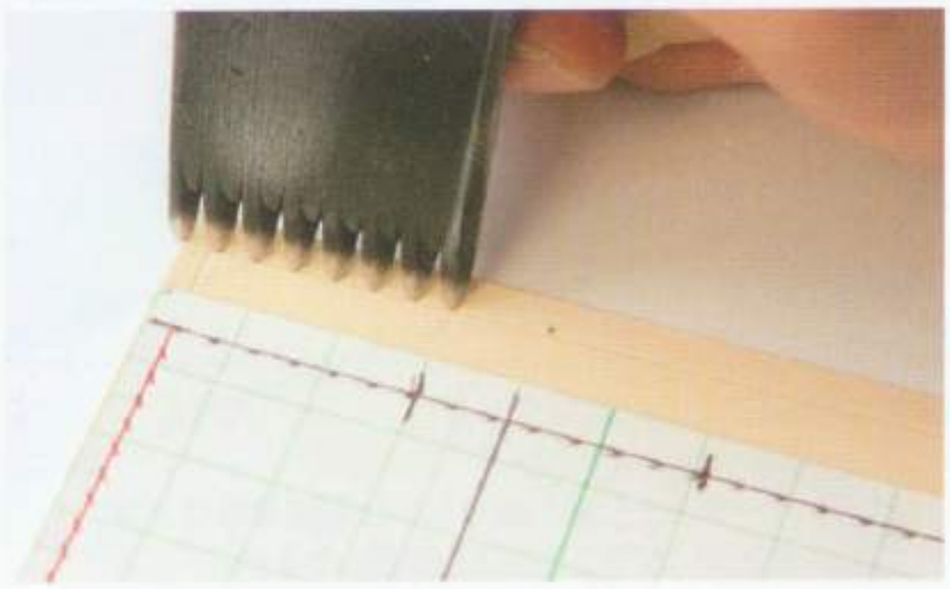
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

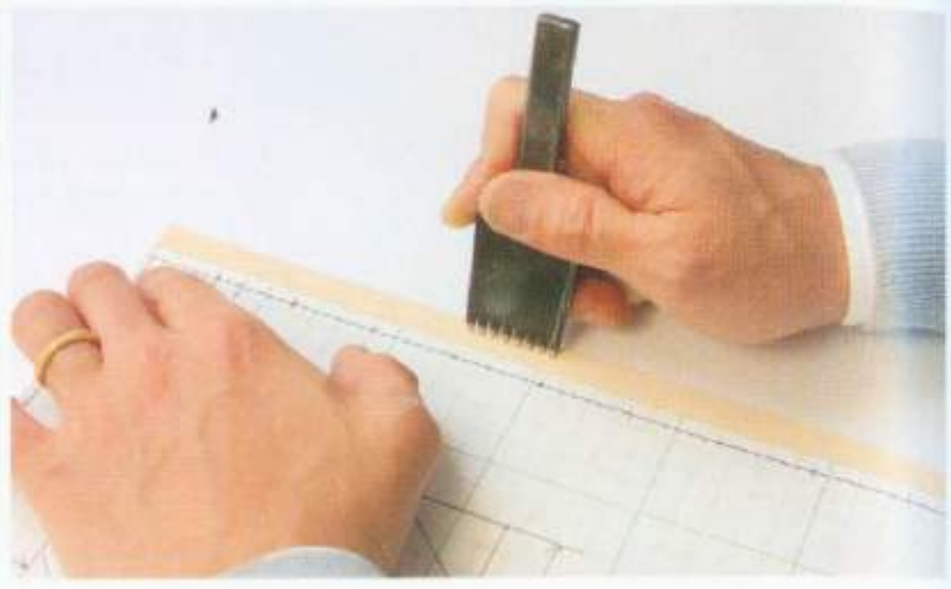
基本テクニック

6 菱目を打つ

各パーツの位置を正確に合わせて縫製し、またその縫い目を美しいものとするためには、菱目数や間隔を一定に揃えることが重要です。型紙に打った菱目を確認しながら、各パーツへ正確に菱目を打っていきましょう。

■胴

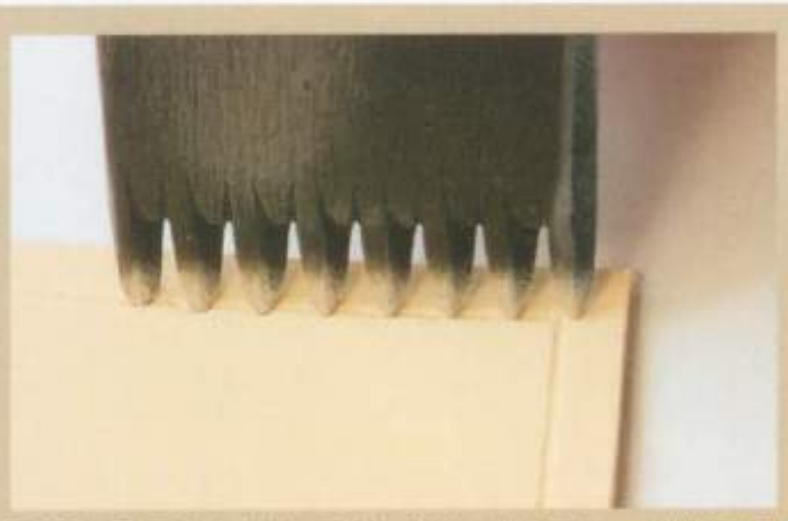


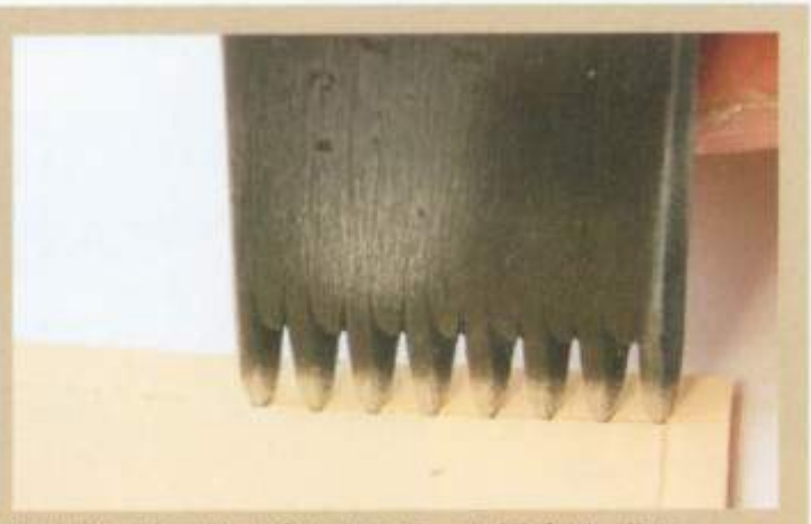


まずは2枚の胴に菱目を打つ。パーツの上に菱目を打った型紙を乗せ、型紙の菱目を参考に、パーツの上へ菱目打の刃先で印を付ける

1

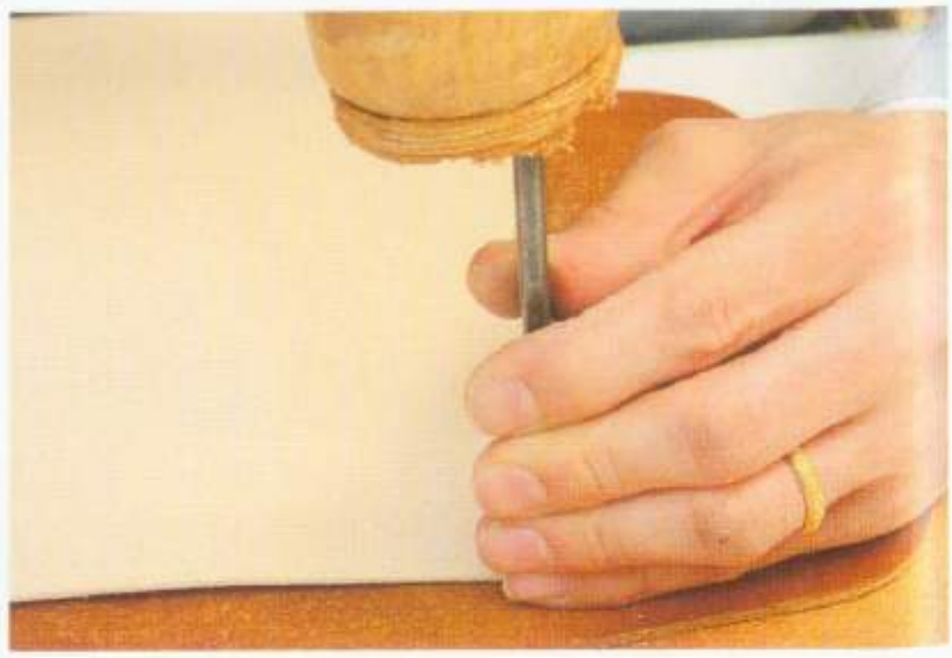
POINT





型紙で確認した時と同様、印を付けていった端で刃先が縫い線の端と合わなくなった場合は、先に縫い線の端と菱目打の刃先を揃え(写真右)、そこから菱目打を戻す方向で目の位置を微調整する





身体に対して縫い線を垂直にし、端から手前へ来るように菱目を打つ。写真のように指先全てで菱目打を支え、縫い線に対し垂直に刃先をあてて、木槌などで打ち下ろす

2

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

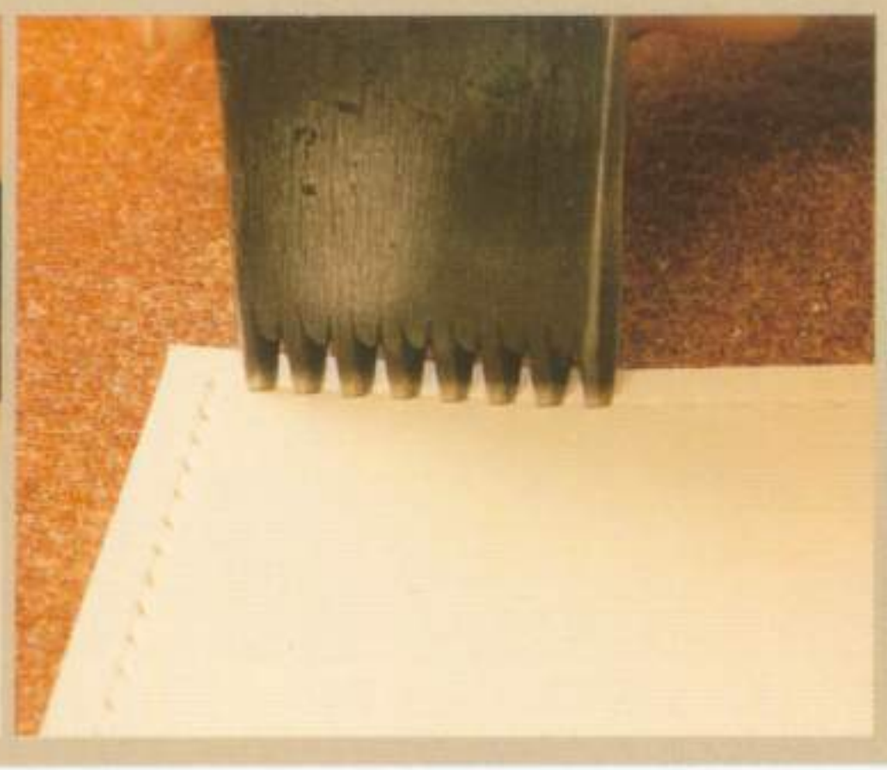
POINT



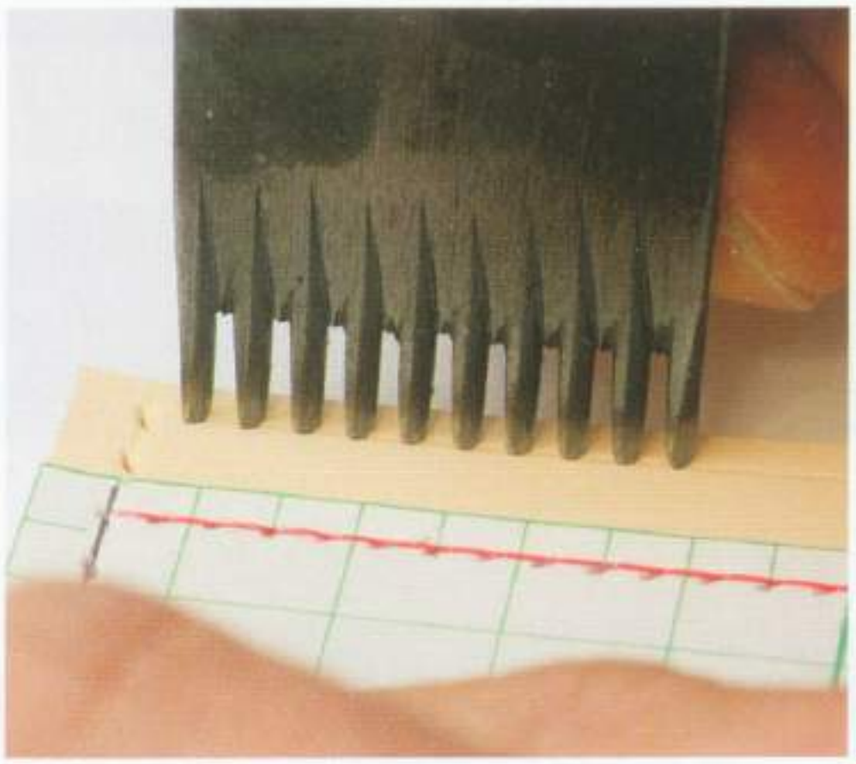


左頁のPOINTで触れた微調整をする際は、菱目打を打ち終える端より2回分程度手前で打つ手を止め(写真左)、端側から、これまでに打ってきた菱目側へずらし込むような方向に力を加えて菱目を揃える。この時は1目掛けに縛られず、状態に合わせて複数の目を掛けると微調整しやすい





端から端まで菱目を打ち終え、辺を変えて菱目を打ち始める際は、角の菱目が大きく開き過ぎないよう1目ずらして打ち始める。ただし、角の菱目と菱目打の端を必ず一旦揃え(写真左)、菱目の間隔を揃えてから打ち始める



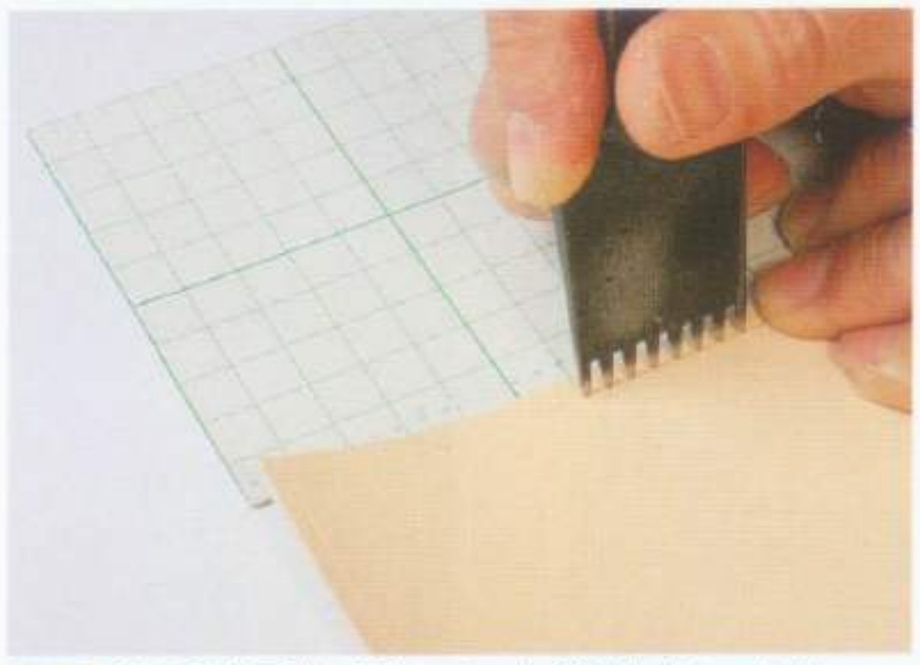


5mm幅の縫い線を引いた、"コ"の字型を描く辺全てに菱目を打ち終えたら、胴の上縁へ引いた3mm幅の縫い線へ菱目を打つ。飾り縫いの意味合いを込め、ここでは狭いピッチの菱目打(縫い目が細かくなる)を用いているが、揃えるのが難しい場合は手持ちの菱目打で良い

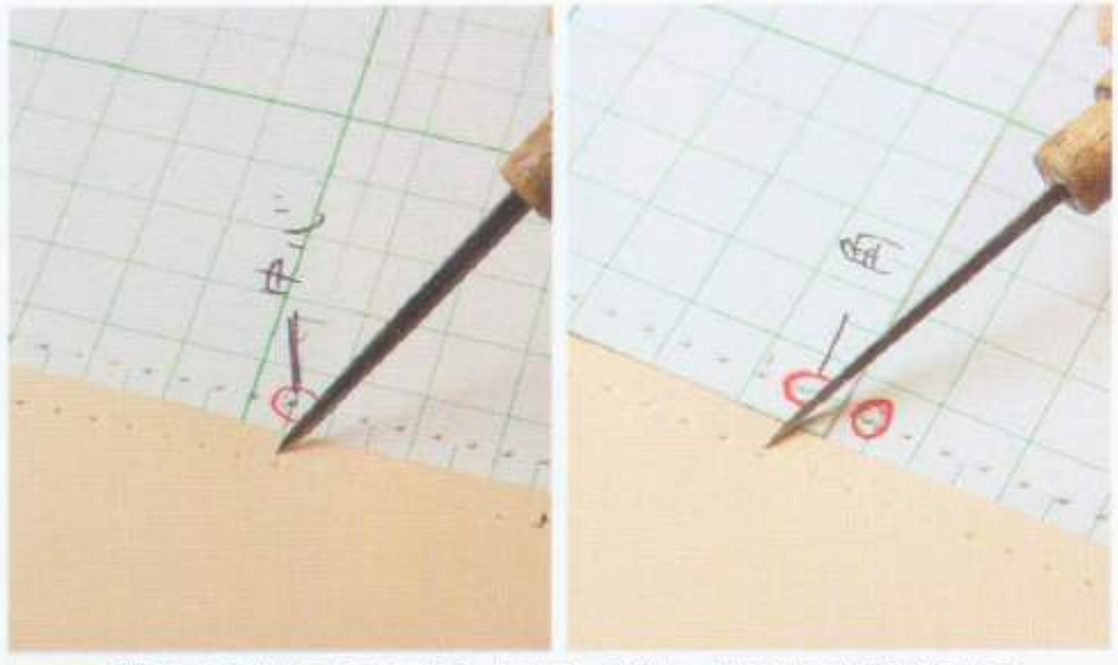
3

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●通しマチ



4 胴の時と同様、通しマチへも菱目を打つ。まずは型紙に倣い、菱目打の刃先で印を付ける



5 胴の中心(底マチの中心・左右2ヵ所)と、胴の下・四隅(底マチの両端と各脇マチの下端・左右計4ヵ所)の印は明確に揃える



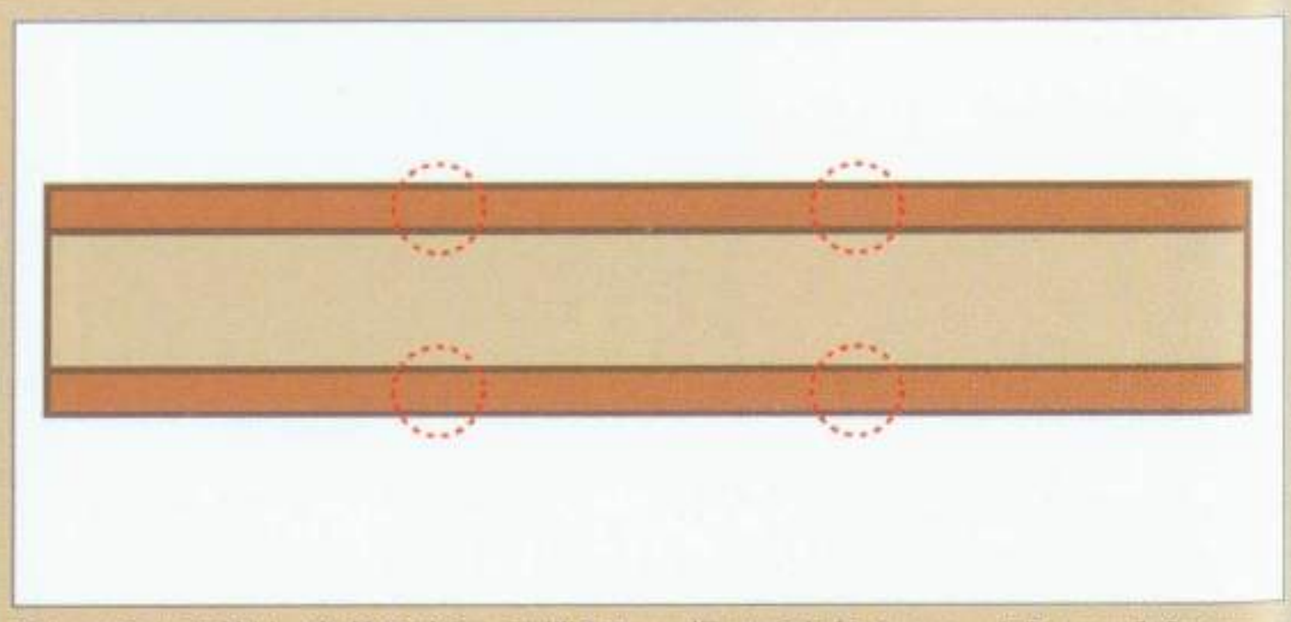
6 通しマチの長い辺へ、端から端まで正確に菱目を打つ。胴の中心と胴の下・両角は、型紙に揃えた印に合わせ正確に打つ



7 通しマチの短い2辺(マチの上縁にあたる)は、胴の上縁と同様、3mm幅で飾り縫いをする

POINT





通しマチと内革は、各革の床面・両端を1cm幅ですき(1.6mm→1.2mm、1.2mm→0.8mm)、さらに胴の下・四隅を0.5mmまですいておくと、胴と縫い合わせ易くなる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

基本テクニック 7

革を接着する

パーツ同士を縫い合わせる際や、内革を貼り合わせる際などには、それぞれの革を接着する必要があります。ここでは通しマチへ内革を貼り合わせる作業を元に、革同士を接着する際に基本となる手順を解説します。





1 通しマチと内革の上縁（両端の短い辺同士）を先に貼り合わせる。まずは双方の床面に、5mm幅程度で白ボンドを塗る



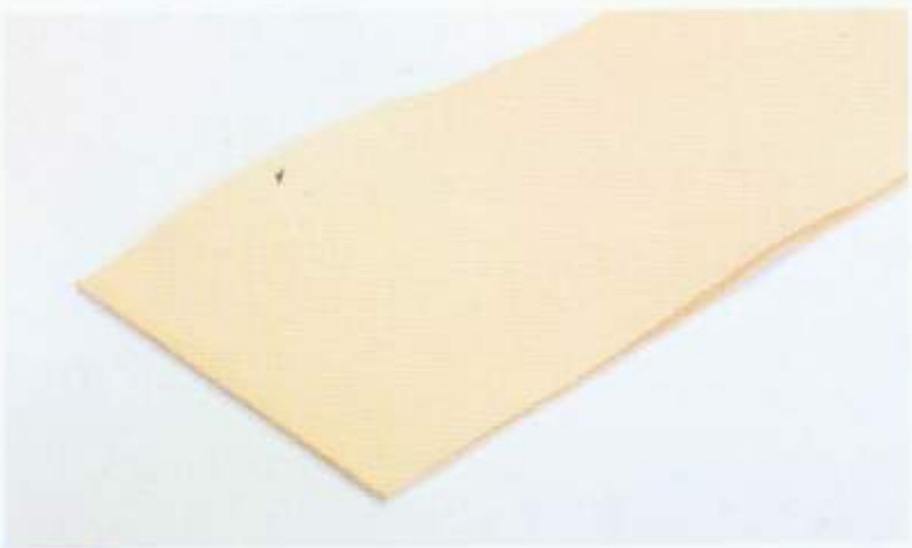
2 白ボンドを塗った接着面同士を、双方の角と角、そして辺をピッタリと揃えて貼り合わせる

きれいなウエスなどで圧着し、接着を確実にする。ローラーがあれば、これで圧着しても良い。ただし、銀面やコバが汚れるので、白ボンドがはみ出していた場合は確実に拭き取っておくこと

3







4 反対側の上縁も接着し、短い内革との誤差を調整すべく、底マチに向かって側面を接着していく



5 通しマチの両側面（脇マチに該当する部分）へ、上縁と同様に5mm幅程度で白ボンドを塗る

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





6 白ボンドを塗った接着面をしっかりと圧着。この作業を繰り返し、底マチの四隅(各角)へつながる側面を全て接着して、右写真の状態にする



7 底マチの両側面を残し、上縁から四隅までの辺全てを接着。最後に底マチ部を貼り合わせる



8 底マチ部の角と角をつなぐように、通しマチと内革の両側面に5mm幅程度で白ボンドを塗る

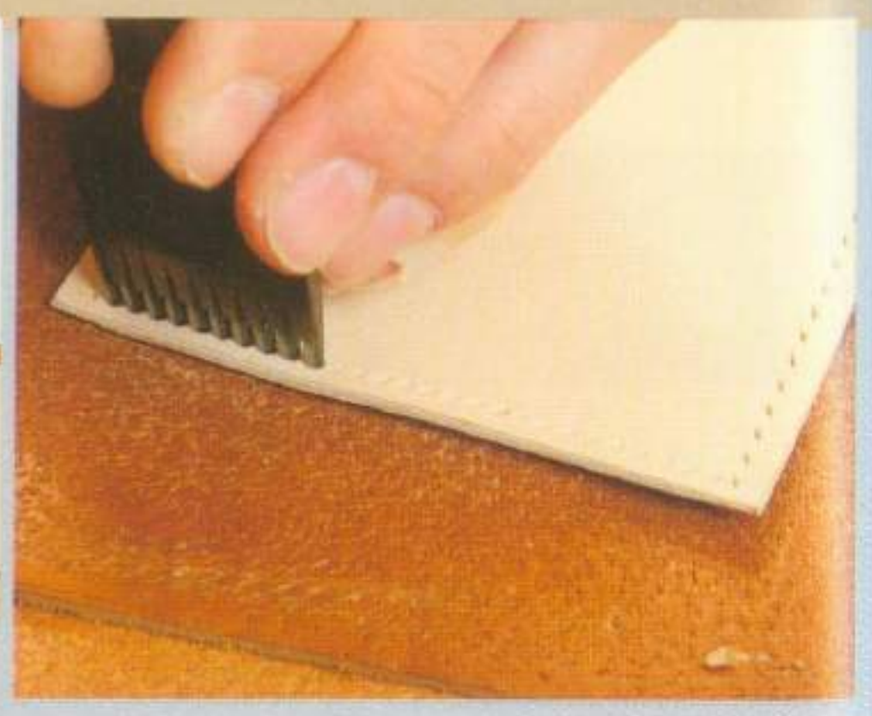


9 内革が5mm短い分を調整するため、"コ"の字型に折り曲げた状態で両側面を貼り合わせる

菱目を打つ

通しマチとその内革を貼り合わせたら、通しマチ側から打った菱目をなぞるように菱目打を打ち、貼り合わせた内革にも菱目を開ける。ただし、強く打ち過ぎると菱目が開き過ぎてしまうので、内革に軽く刃先が覗く程度で良い





Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

基本テクニック 8

パーツを縫い合わせる

ここからは、内革を貼り合わせた通しマチを元に、縫製の基本である「平縫い」の手順を解説します。“糸の長さの取り方”や“ロウ引き”、“針への糸の通し方”から“実際の平縫い”まで、しっかりと覚えていきましょう。

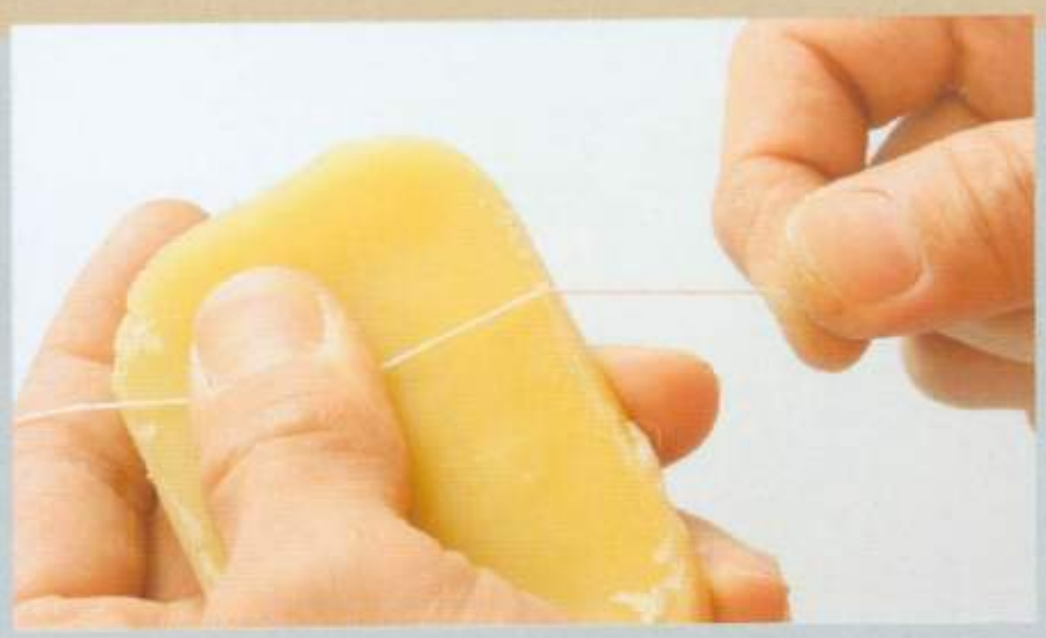
糸の長さ

縫製する部位に対してどれ位の糸を取るかは、状況により微細に異なってくる。基本は縫う距離の3倍強から4倍程度だが、菱目のピッチや糸が細い場合は、その分余計に糸を取る必要がある。また縫う距離が長い場合は、腕の一振りで全ての糸を引くことができなくなるため、作業性を優先させて2回に分けることもできる。ここでは、通しマチの上縁を30×3糸(30番手の3本より)で縫い合わせるために、縫う距離の4倍弱の糸を取っている

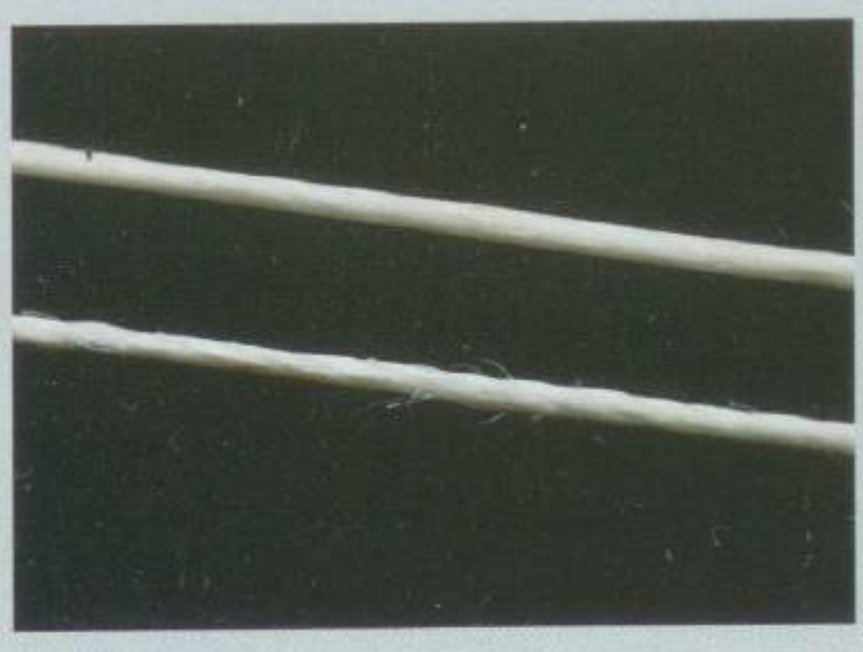


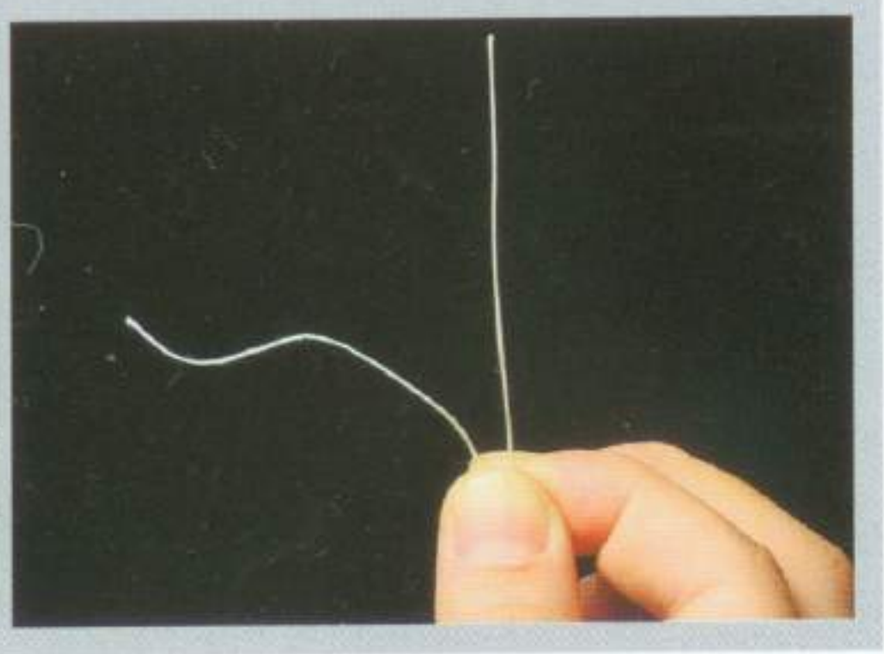
ロウ引き

天然の麻糸を縫い糸に選択した場合は、「糸のケバ立ちを抑える」、「縫製を進めるうちに、糸が革と擦れて摩耗することを防ぐ」、「糸のよりが戻ることを防ぐ」、「縫い目がほつれることを防ぐ」という目的で、これをあらかじめ“ロウ引き”する必要がある。糸引きロウに麻糸を食い込ませるようにあて、ロウを繰り返し引いて糸にロウを馴染ませるが、仕上がりの目安は下記の2点を参考にすると良い



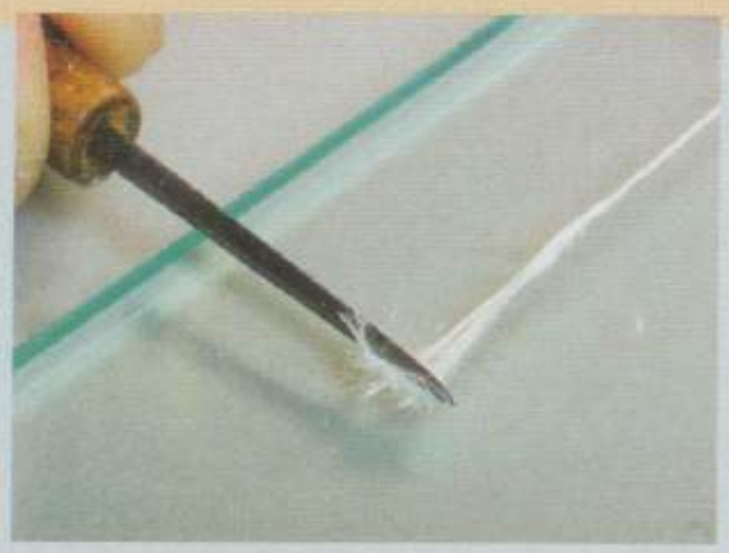
左写真内、上の糸のように、繊維の細かいケバやほつれが無くなるまでロウ引きする。程良くロウ引した糸は、ある程度のコシを持ち、右写真のようにピンと立つようになる





Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

針に糸を通す



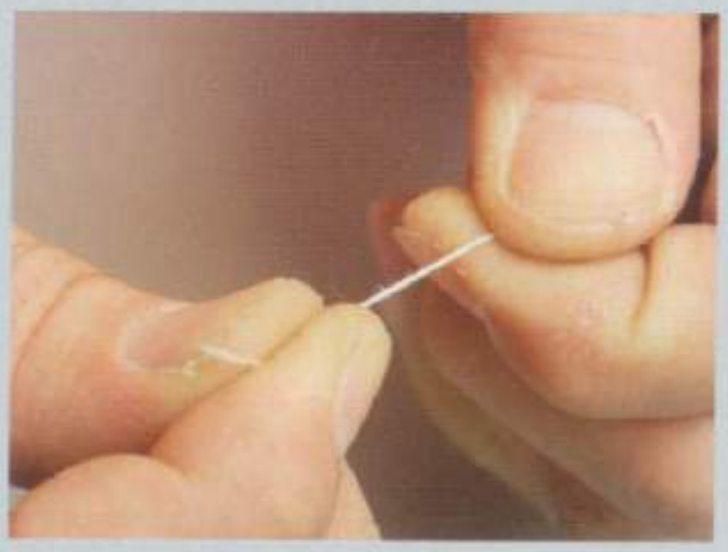
縫い針に糸を通す際は、糸端を針の目に通し易いよう、その先端を4~5cm程すいておく(ガラス板の上に乗せ、菱ギリなどで繊維をほぐして減らす)

1



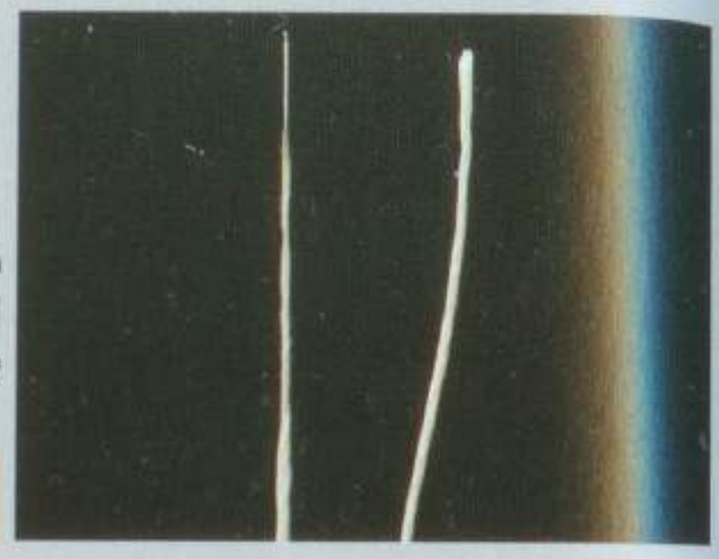
バラバラにケバ立った糸端では針の目に通しにくいため、すいた糸の先端をロウ引きしてまとめる

2



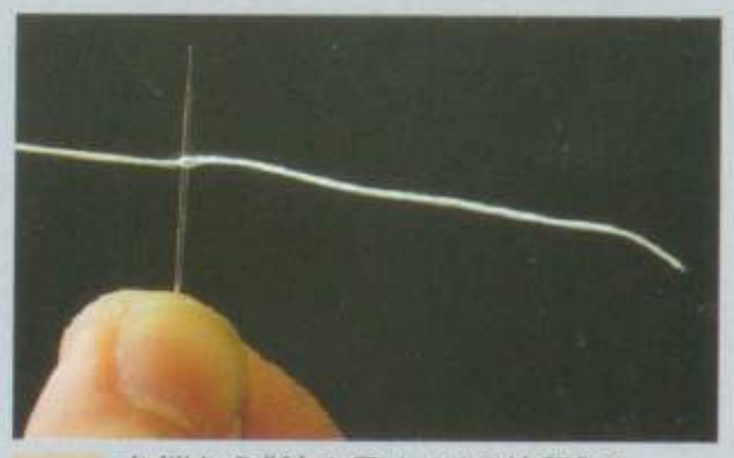
ロウ引きした糸端を指先でより、先細にして針の目へ通しやすくする

3



左は糸の先端を細くすいてよった糸で、右はロウ引きしたのみの糸。針への通し易さは一目瞭然だ

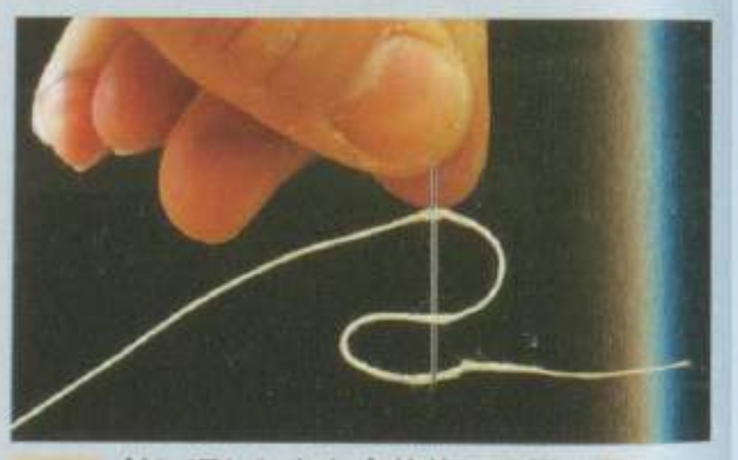
4



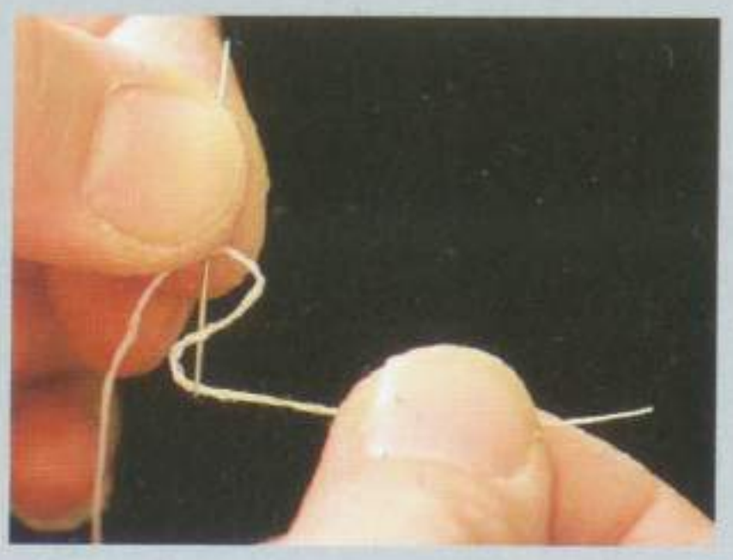
5 糸端から"針の長さの1.5倍程"の所へ、よりを割るように針を刺す



6 1cm程度開け、長い方の糸へよりを割るように、さらに針を刺す

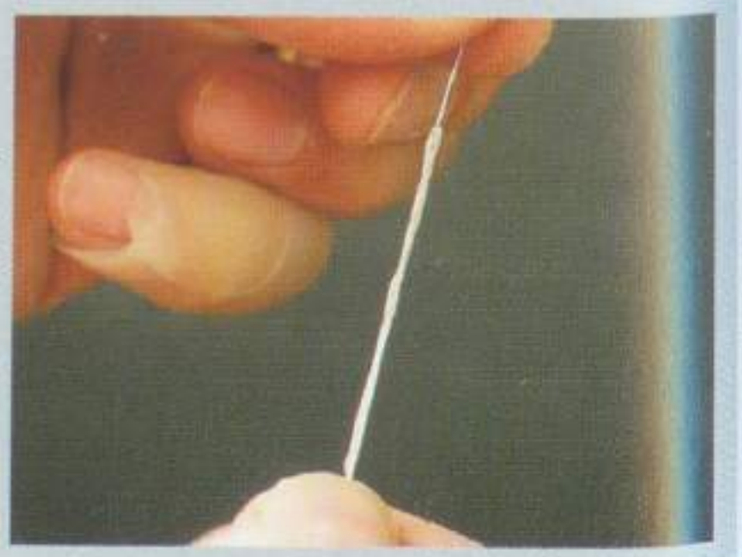


7 針に通した糸を全体的に目側へ下げ、針の目に糸端を通す



糸端が目から抜けないように注意し、針で刺した糸を目の方へ降ろしていく

8



針で刺した糸を完全に針から降ろし、針の目に通した糸と共による。この作業を糸の両端で行ない、糸の両端にそれぞれ針を通しておく

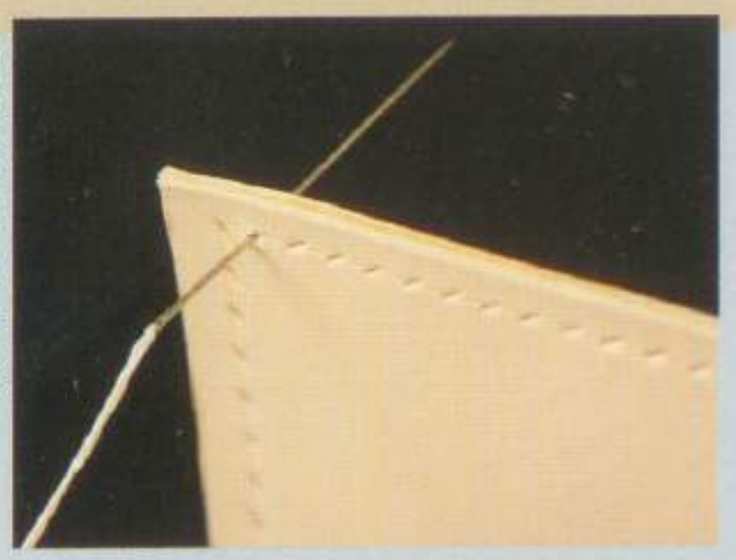
9

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

平縫い

平縫いの縫い始め。縫い進める方向は手前側(写真右側)だが、端に強度を保たせるための「1目返し」をするため、一番端よりも1目手前に針を通す。＊作業はレース(縫い)台に挟んだ状態で進めていく

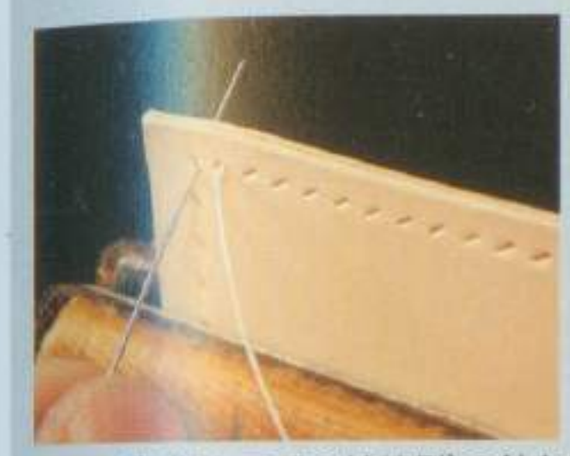
1



通した針を反対側に抜き、糸の両端にある針を揃えて、革を挟んだ糸の長さを均等にする

2



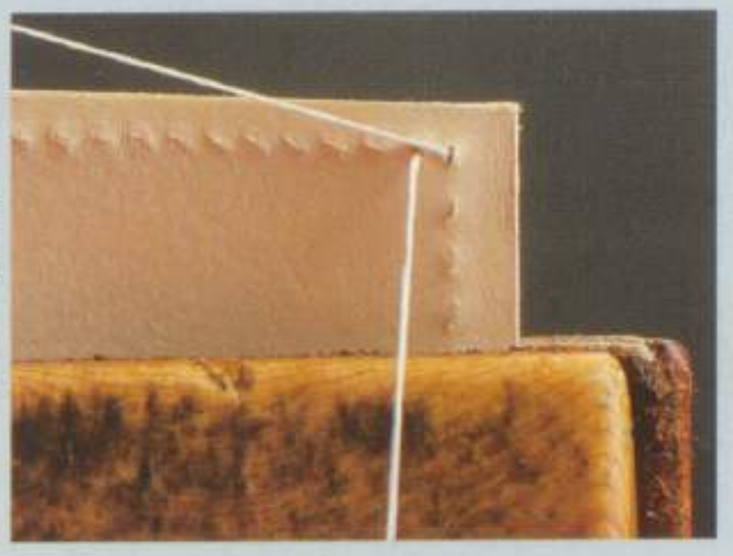




3 左(通しマチの外革側)の針を奥の目(一番端、角の菱目)に通し、右(内革側)へ軽く引き抜く

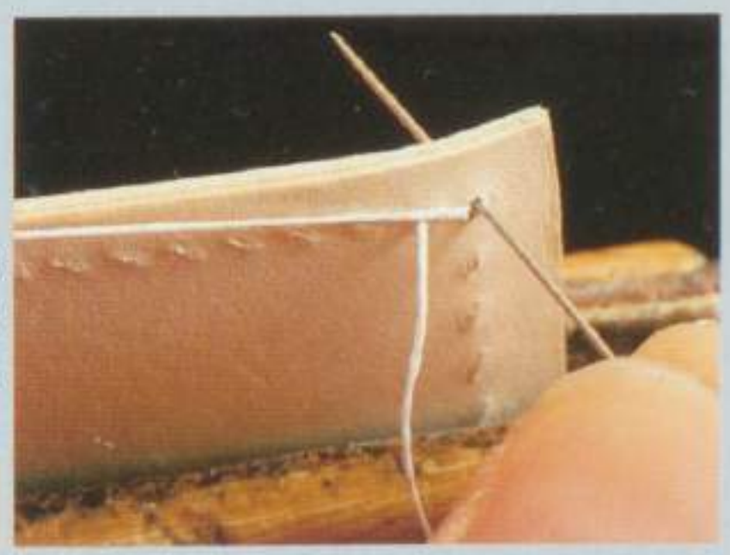
左記の状態を右から見た写真。左から通した糸(写真上)を手前側に引くが、この時はまだ、完全に引き抜くことはしない

4



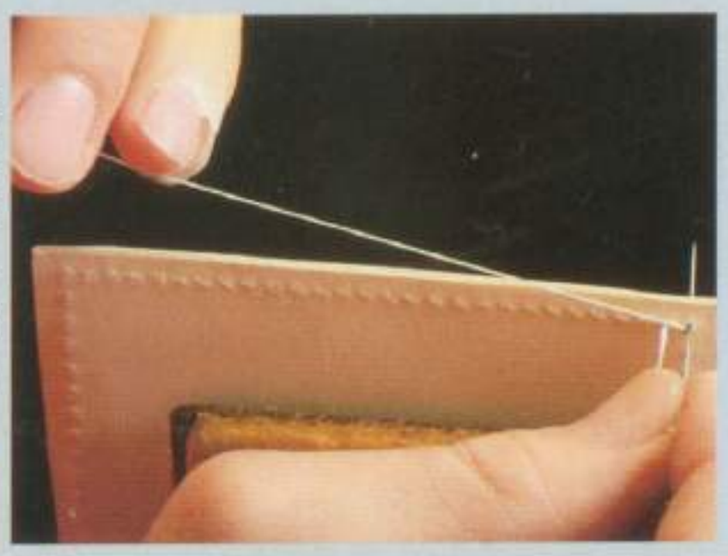
先に手前へ引いた糸(3で右から通した糸)はそのままに、その糸の奥(菱目との間)へ右に残っている針を通す

5



右から通した針はそのままに、ここで左から通した糸を軽く引き、針が糸に通っていないことを確認。通っていると引っ掛かるので、その時は針を抜いてやり直す

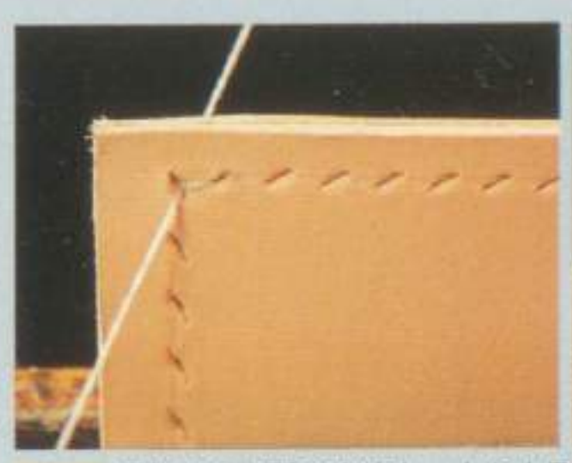
6







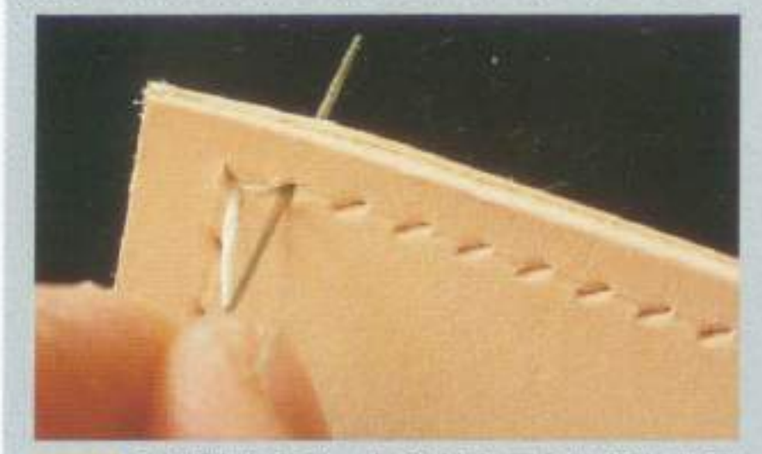
7 右の針が糸に通っていないことを確認したら、その針を左側へ突き通し、左右両側の糸をゆっくりと引く





8 引いた両側の糸をしっかりと引き締めれば、縫い目が1目完成する。＊左写真は左から、右写真は右から縫い目を見た所

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



9 再び左に戻り、左の針を最初に通した目(1つ目の縫い目と菱目の間)へ通す



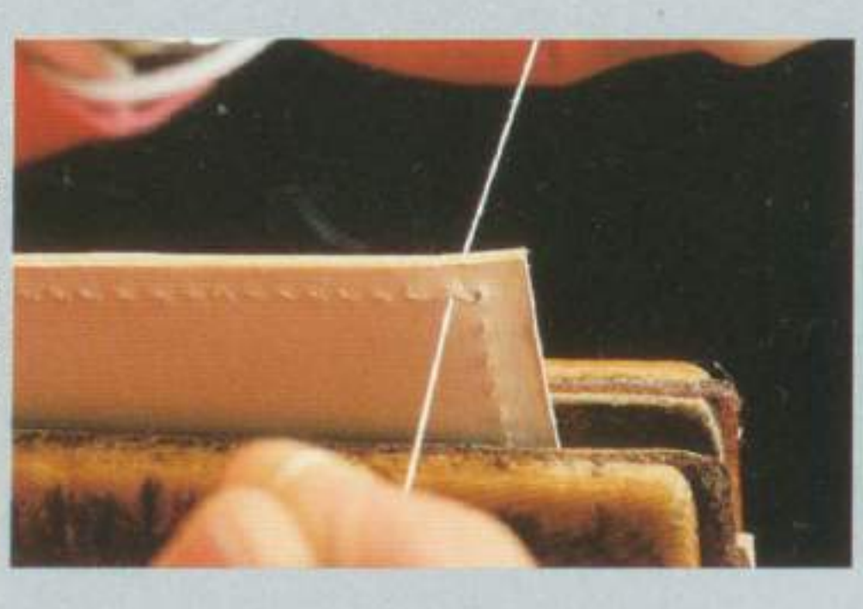
10 左から通した糸を手前に引き、1つ目の縫い目と通した糸の間に右の針を通す

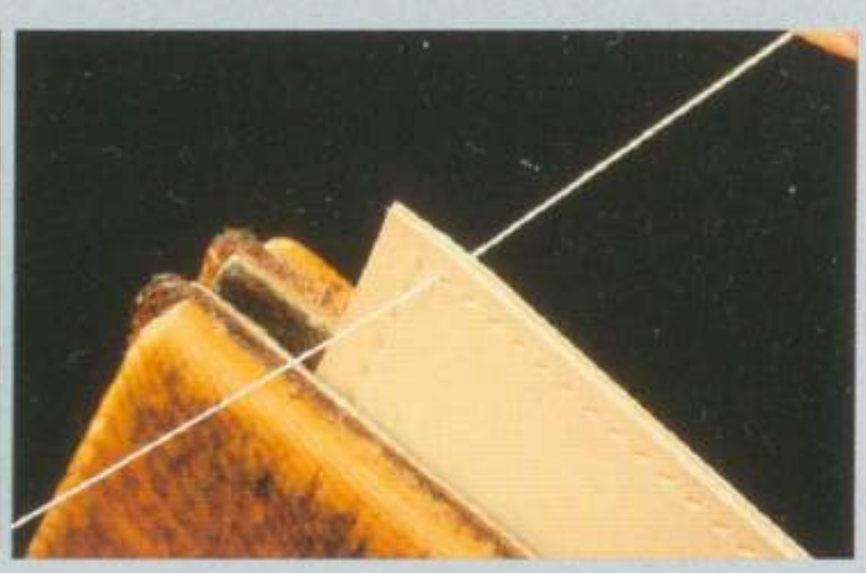


11 左から見た写真。先程のように糸を引き、針が糸に通っていないことを確認する

針が糸に通っていないことを確認したら、両側の糸をしっかりと引いて縫い目を作る。9からここまでの作業が平縫いの基本で、先に縫った1つ目はこの縫い目と重なるため、1目返しということになる

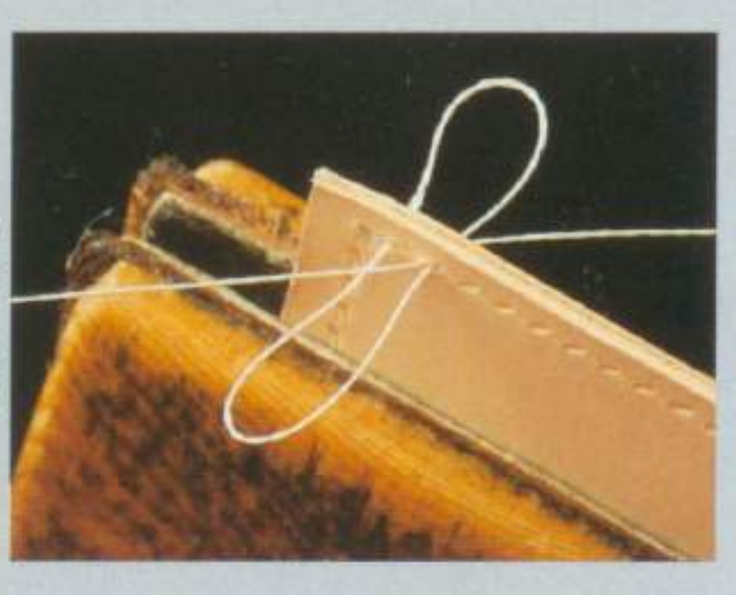
12





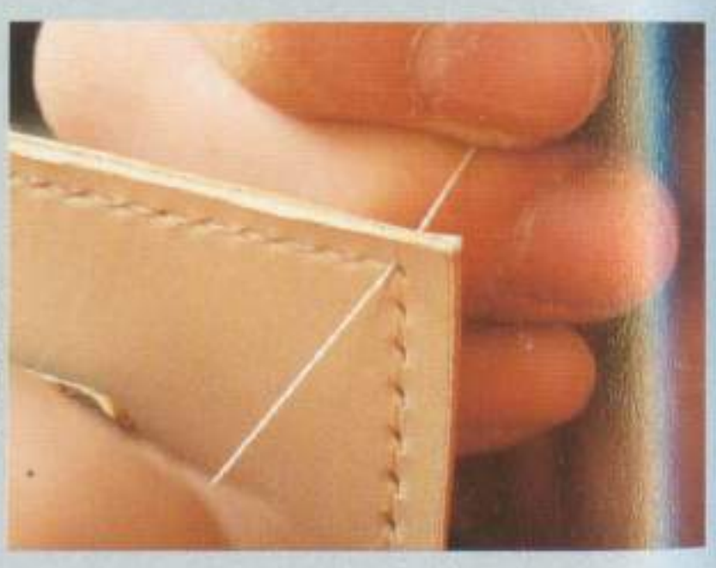
後は手前(写真右側・縫い手がいる方向)へ向け、左右の針を交互に菱目へと通しながら、平縫いを続けていく

13



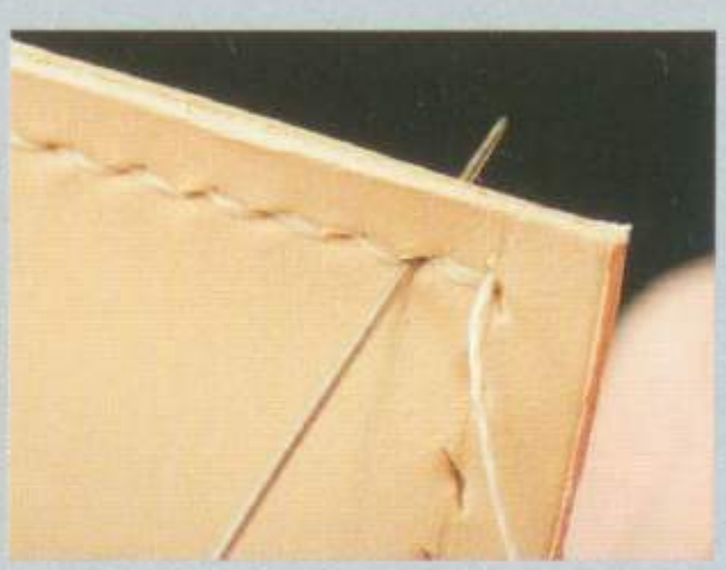
平縫いを続け、一番端に縫い目を作ってしっかりと締めたら、一番始めと同様に1目返して処理をする

14



返す1目を作る順序が変わるだけで、縫い始めと方法は変わらない。まずは左の針を、角から1つ手前の菱目(縫い目と縫い目の間)に通す

15



左から通した糸を奥にし(向きを変えれば手前に引くことになる)、その糸と一番端の縫い目の間へ、右の針を通す

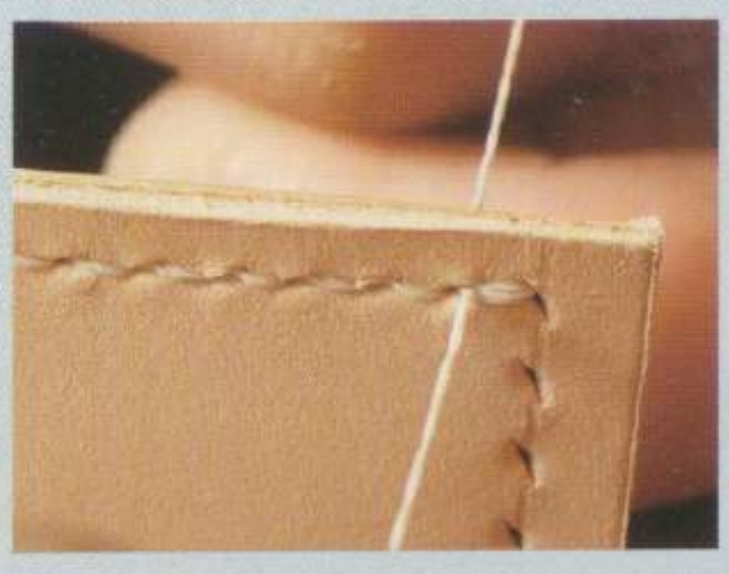
16



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

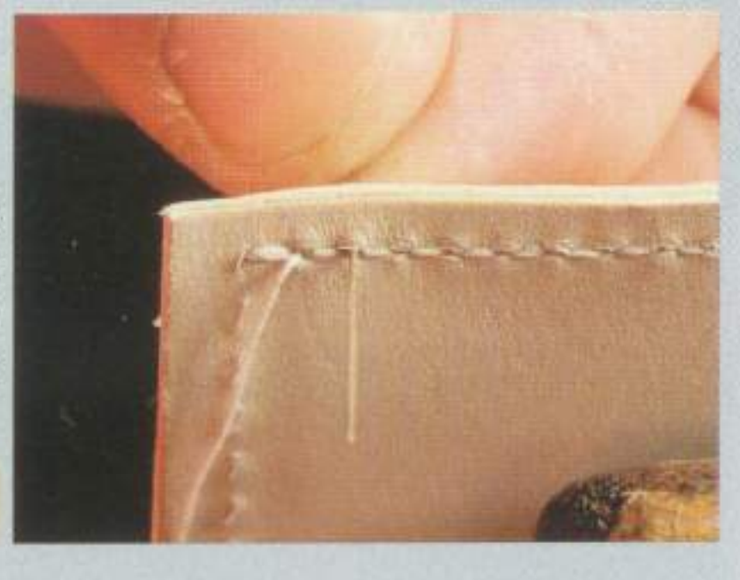
奥にした糸を引き、右から通した針が糸に通っていないことを確認したら、この針を左側に引き抜く。両側の糸をしっかりと引き締めれば、縫い終わりの1目返しは終了となる

17



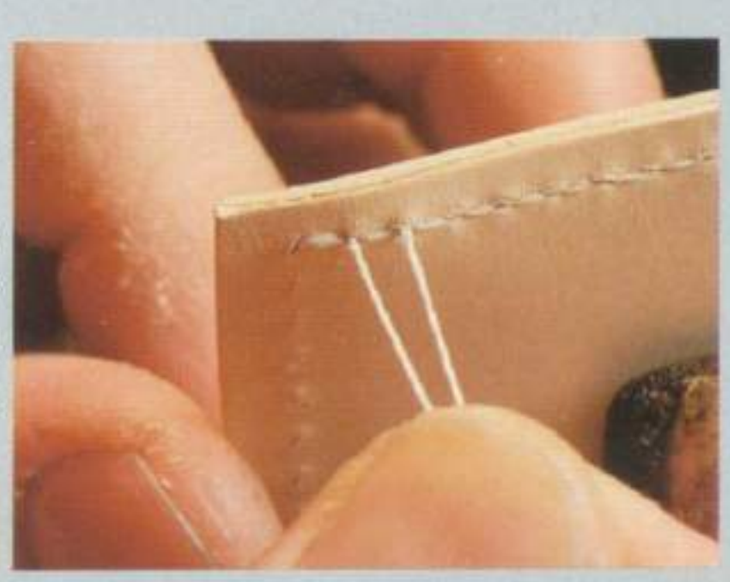
余った糸は、見えなくなる内革側で処理をする。左の針を1目先の縫い目の間から通し、これを完全に右へ引き抜く

18



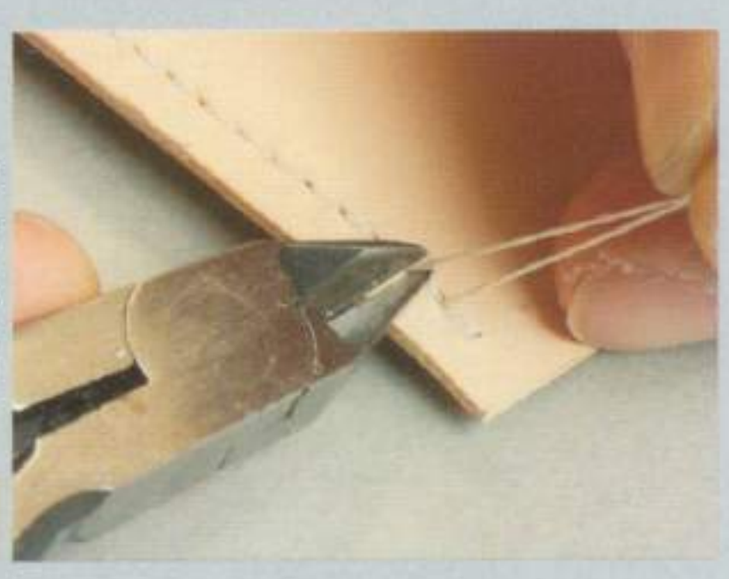
右(内革側)へ出た2本の糸。これまでの縫い目がしっかりと締められていれば、自然にほどけるようなことはない

19



右へ出た2本の糸は、菱目の付け根ギリギリで切断する。刃先が平らな糸切りハサミより、先が細く角度の付いたニッパーなどが扱いやすい

20



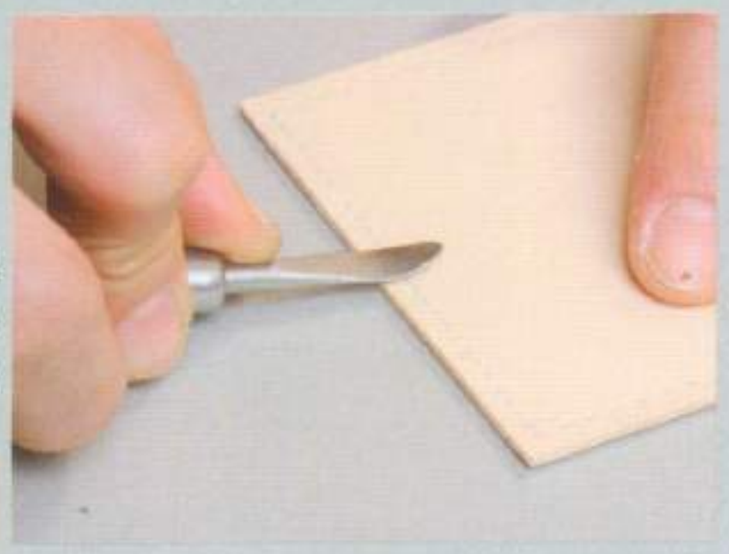
切断した糸端と菱目の隙間に白ボンドを塗る。固定するというよりは、糸の端がほつれないようにまとめるといった意味合い

21



最後に、縫い目を表側(外革側)から軽く均してやると、縫い目が整ってきれいに仕上がる

22



飾り縫いを終えた通しマチの上縁。基本の平縫いで、通しマチの両端共に縫い合わせておく。この先も同じく平縫いのみを用いるので、確実にその手順を覚えておきたい

23



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

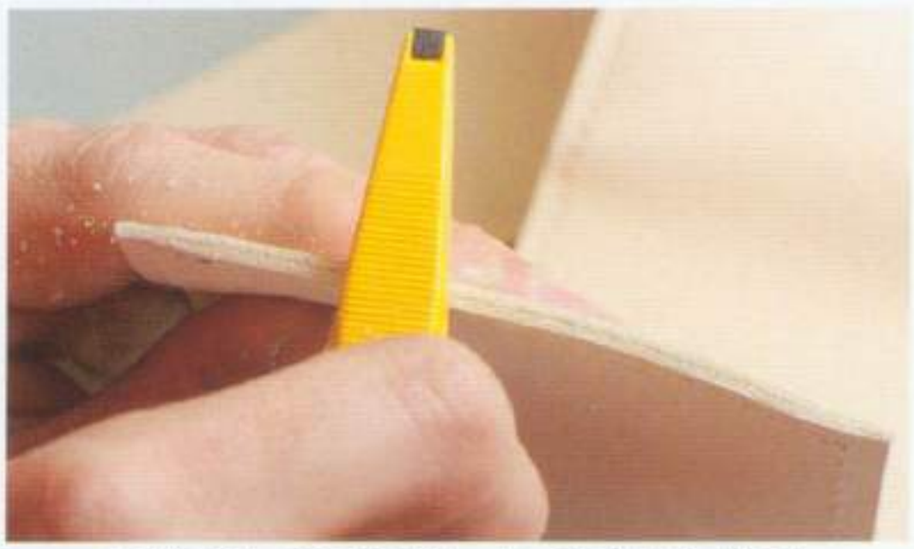
基本テクニック

9

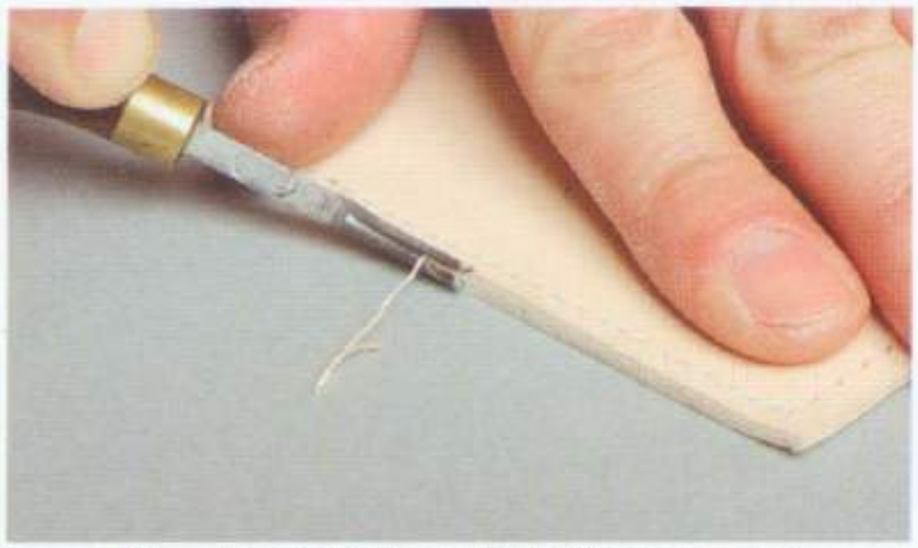


コバを磨く

平縫いまでの基本テクニックを覚えたら、最後にコバの仕上げ方を覚えましょう。ここでもトートバッグ作りの工程に沿い、飾り縫いをした通しマチ・上縁のコバを磨きます。



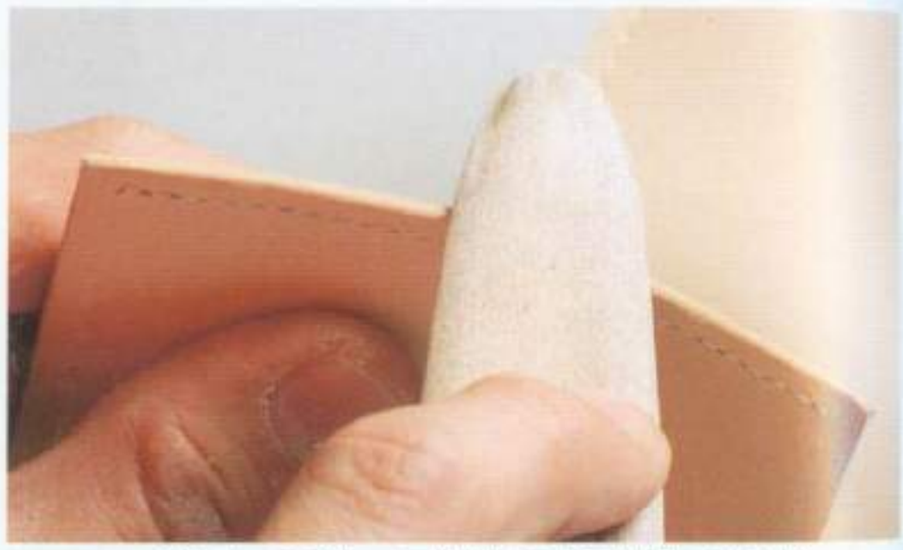
1 コバに対して平行にドレッサーを動かす。削るというよりは、凹凸を均す感覚で動かす



2 ドレッサーを掛けたコバの角が立つので、これを落とすためにヘリ落としで削る



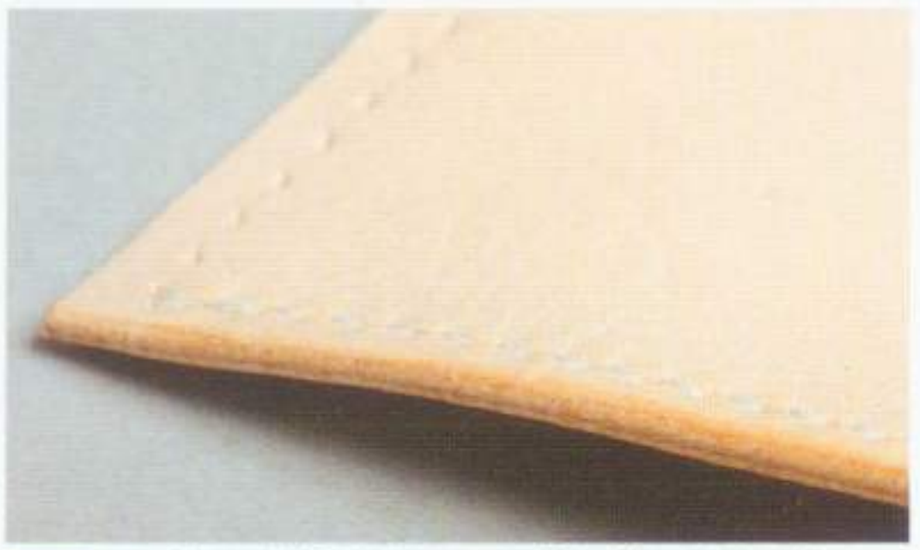
3 ヘリを落としたコバに、トコノール(磨き剤)を薄く塗る。縫い目に付かないよう注意が必要



4 コバに木ベラ(木ベラ以外の専用道具でもOK)をあて、角を均すような感覚で満遍なく擦る



5 木ベラで擦ったコバをきれいなウエスでさらに擦り、ツヤが出るまで磨き上げる



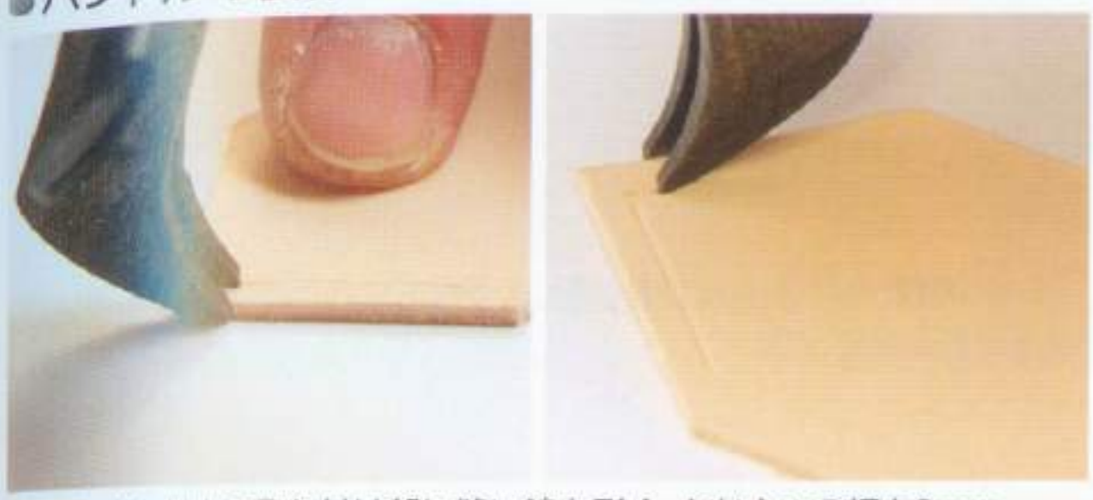
6 コバ磨きを終えた通しマチ上縁。縫い目まで響かない程度に、満足いくまで繰り返しても良い

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

10 トートバッグの完成まで

革鞄作りの基本となる技術を覚えたら、これを駆使してトートバッグを仕上げていきます。途中、多少複雑な工程も含まれますが、基本以上の技術を用いることはないので、確実に仕上げることができるでしょう。

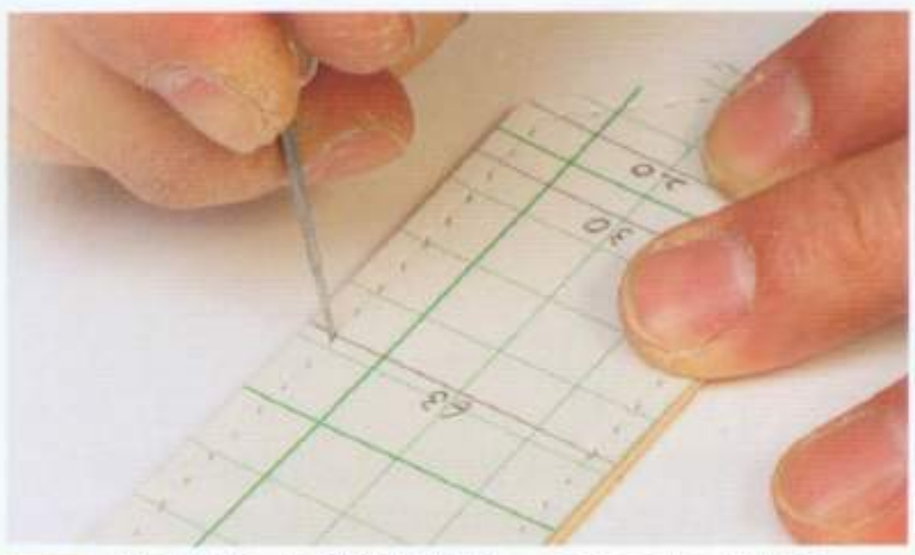
ハンドルの製作



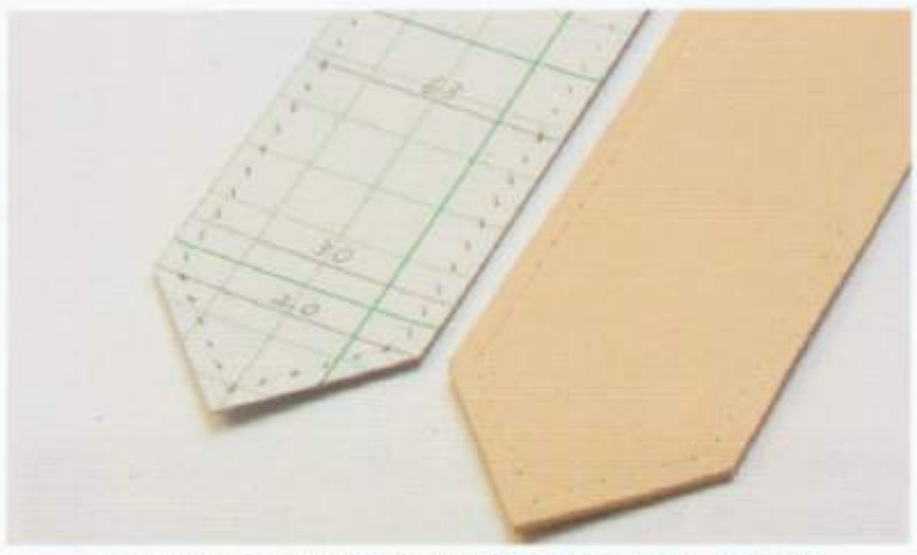
1 ハンドルの取り付け部に縫い線を引く。ねじネンの幅を3mmに調整し、縫い線が交わらないよう少しずつ引く



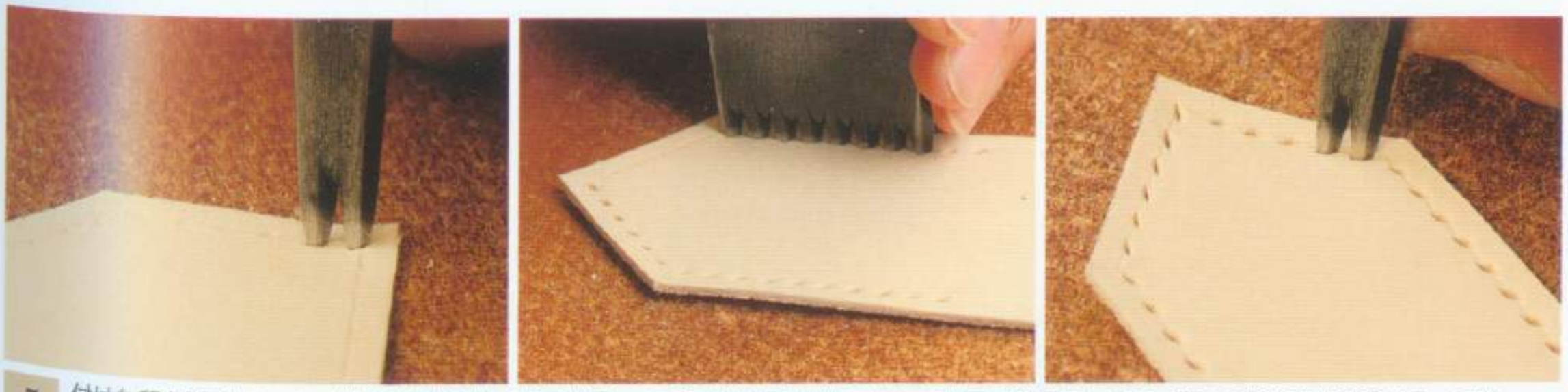
2 取り付け部の三角に縫い線を引いたら、そのまま両側面まで縫い線を延ばしていく



3 菱目を打った型紙を用意し、これをハンドルの上に乗せて、菱ギリで菱目の印を付けていく

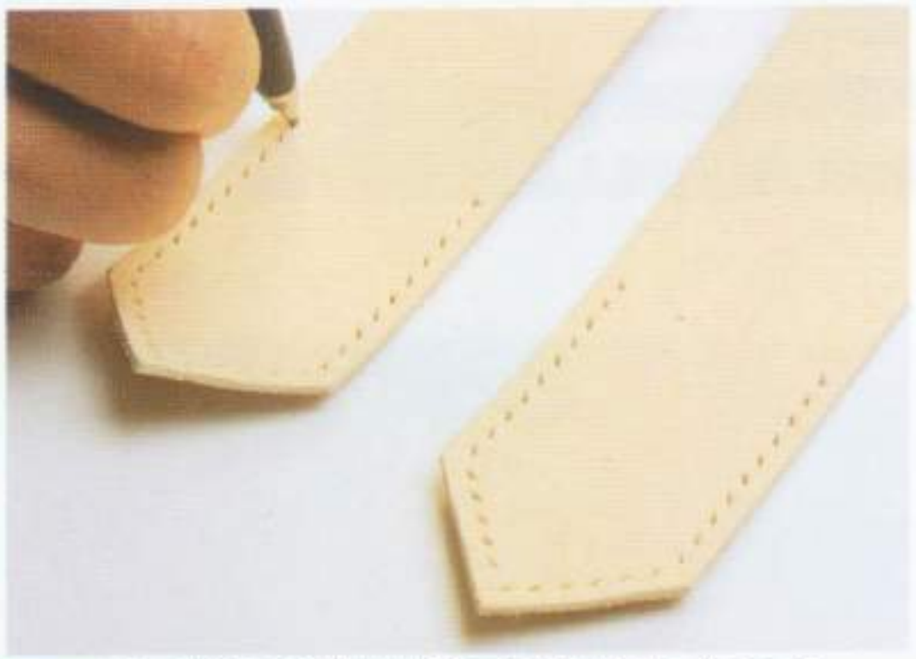


4 まずはハンドル取り付け部の印を付け、胴に縫い合わせる際の菱目位置を明確にする

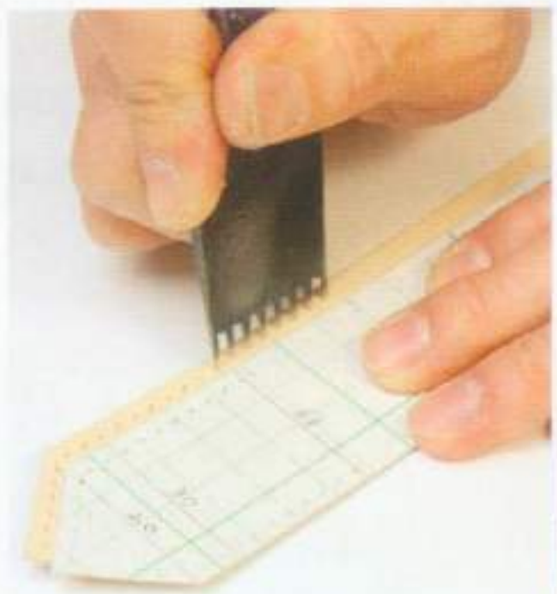


5 付けた印を目安にし、ハンドル取り付け部へ菱目を打つ。三角部は間隔が狭いため、2本目の菱目打を用いて菱目の間隔を微調整する。最終的に、三角の各二等辺に収まる菱目数がそれぞれ同じになるよう微調整し、ハンドル取り付け部の端までしっかりとした菱目を打つ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

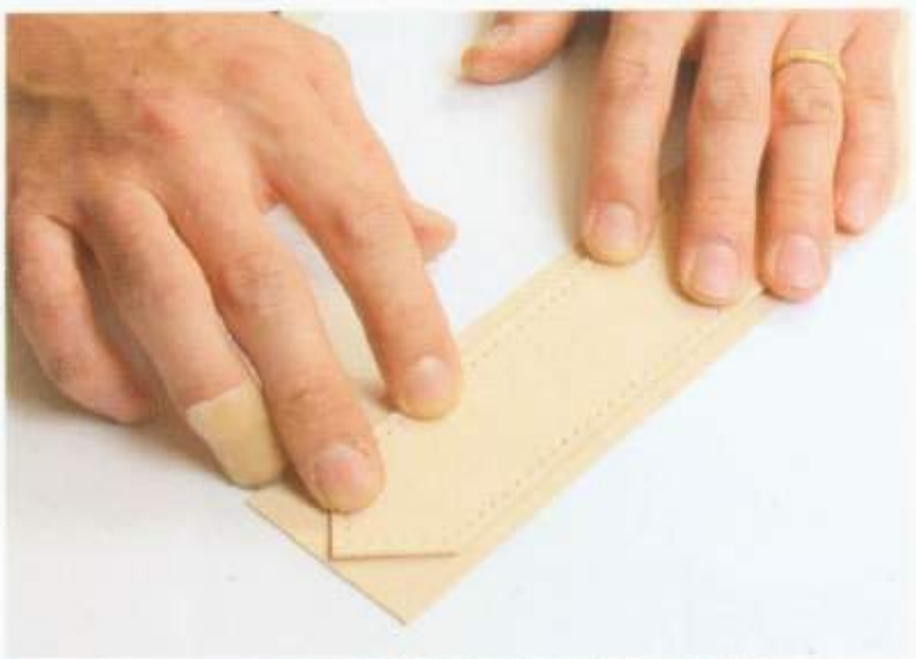


6 ハンドルの取り付け部全てに菱目を打ったら、折り合わせる際の境目となる菱目に印を付ける





7 再びハンドルの型紙を用意し、これを参照して菱目の印を付け、ハンドルの両側面全体に菱目を打っていく



8 次はハンドルに内革を貼り合わせる。内革にハンドルが収まるよう、床面同士を合わせる



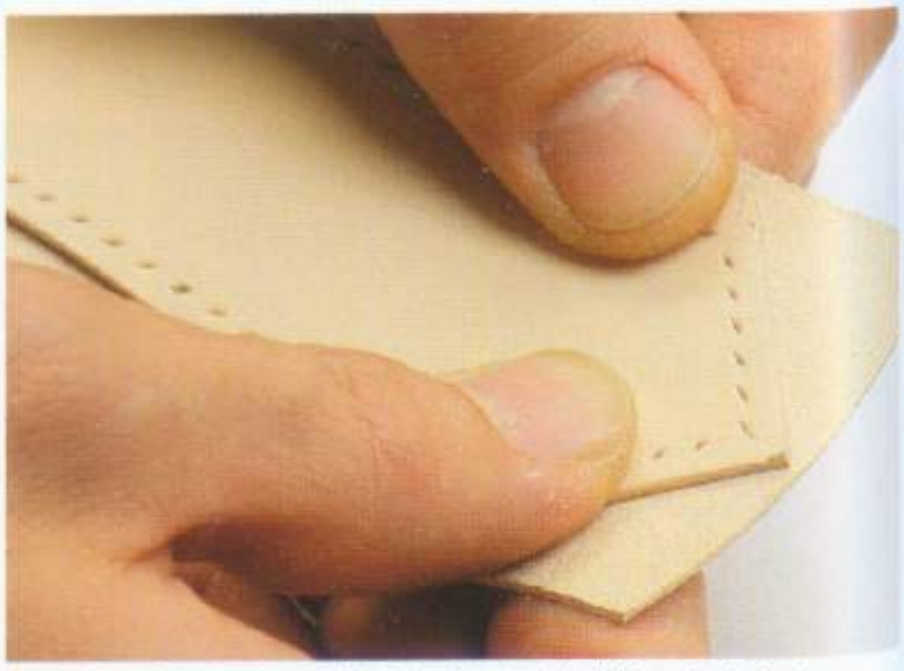


9 ハンドルがずれないようにしっかりと押さえ、ハンドルの側面に沿って菱ギリや丸ギリでアウトラインを引く





10 ハンドルの菱目より外側と、内革のアウトライン内側・3mm程に白ボンドを塗る。ここでボンドを塗るのは、ハンドル取り付け部のみ



11 三角の頂点と各辺をピッタリと揃え、まずはハンドル取り付け部のみをしっかりと接着する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



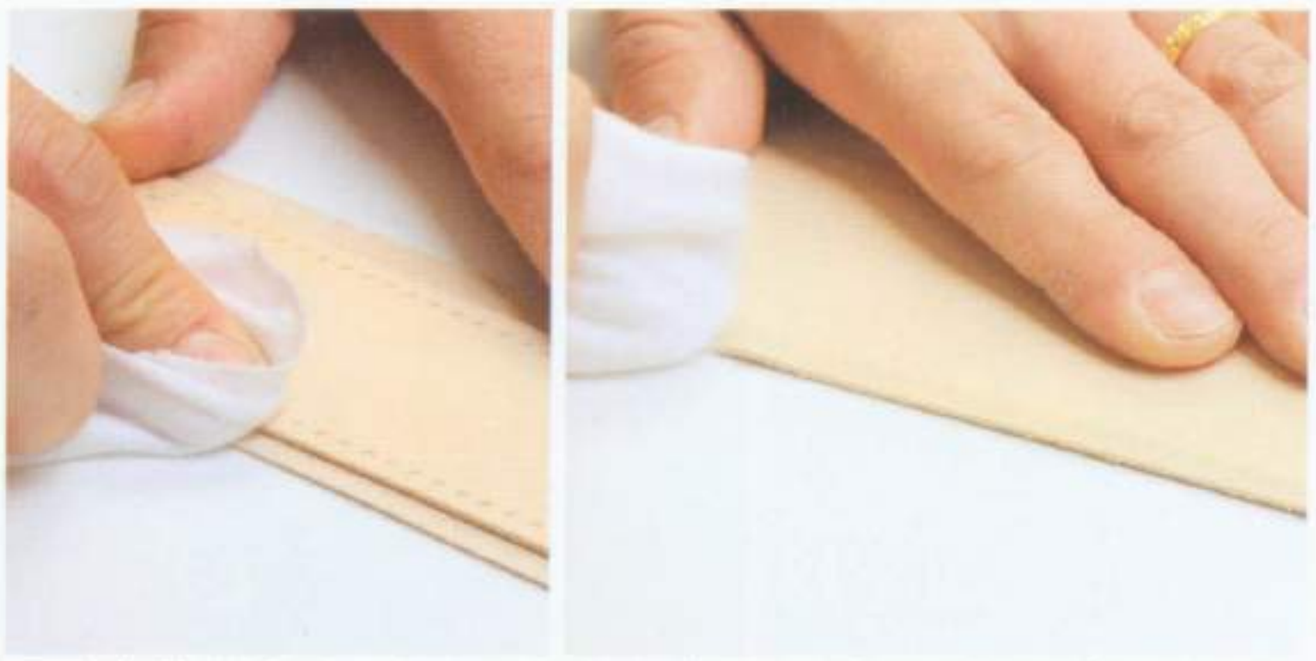
12 ハンドル側からきれいなウエスをあて、軽く擦るようにして圧着する



13 内革側からもしっかりと圧着する。銀面を汚す可能性があるので、ローラーを使用する場合も内革側からあてる



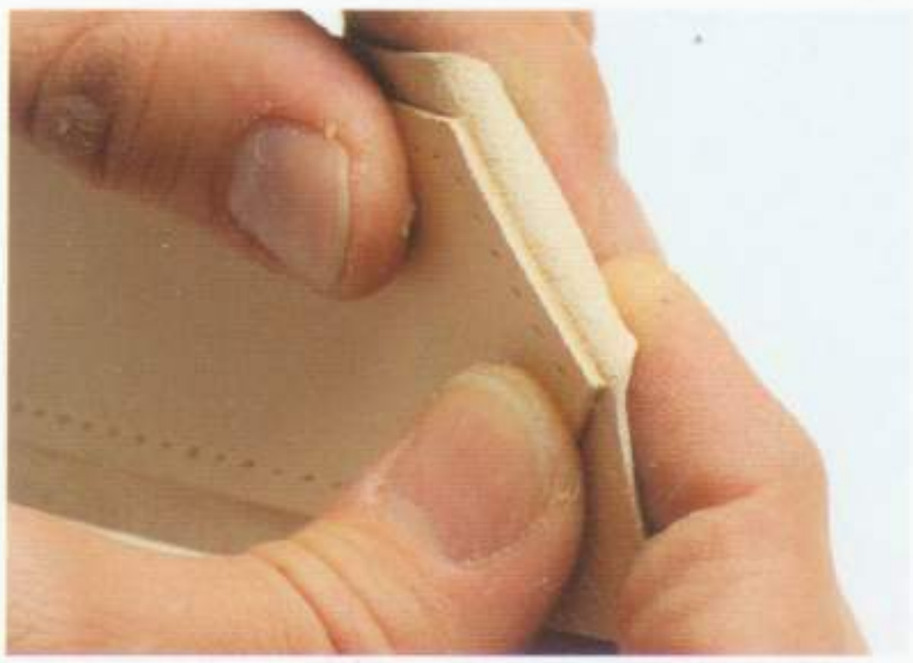
14 次はハンドルの両側面を貼り合わせる。ハンドル取り付け部と同様、両側面に白ボンドを塗る



15 内革にけがいたアウトラインからはみ出さないよう、ハンドルをピッタリと合わせて貼り合わせ、両面からしっかりと圧着する



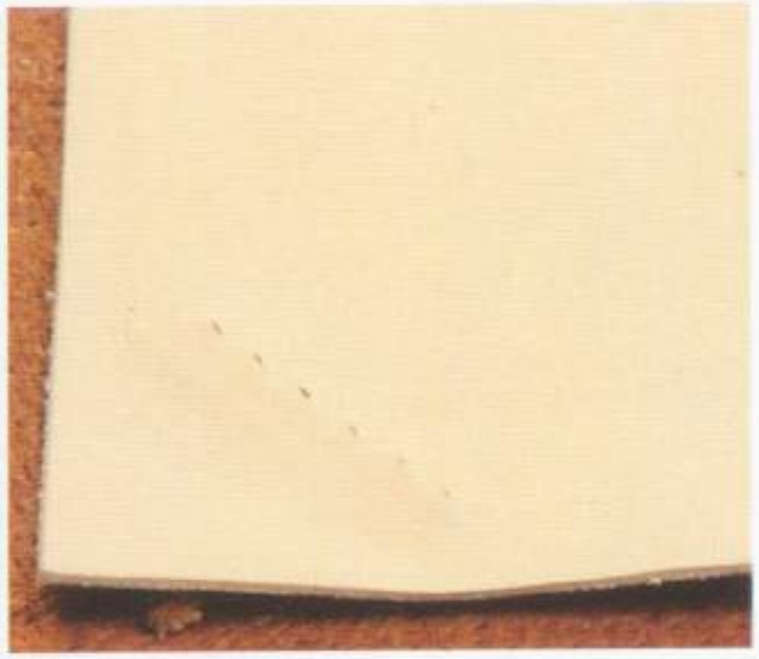
16 最後に、残る反対側のハンドル取り付け部に白ボンドを塗り、これをピッタリと貼り合わせる



17 10～15分程度おき、確実に乾いていることを確認。内革をめくり、接着面に隙間が無ければOK

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



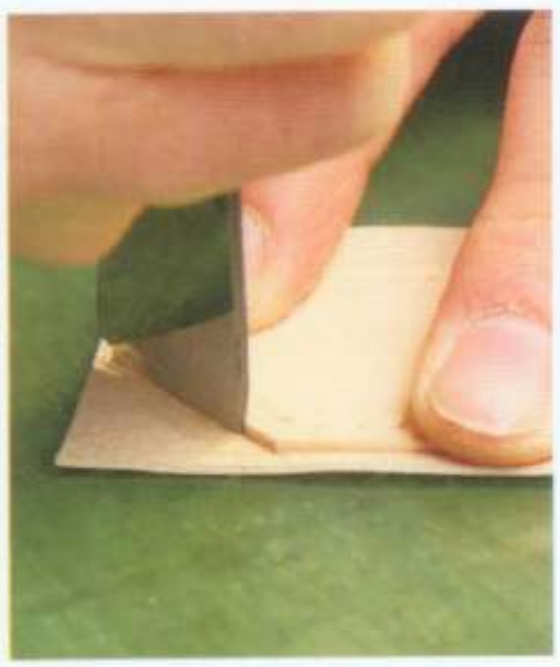


18 ハンドル側に打った菱目より、貼り合わせた内革に菱目を開ける。まずはハンドル取り付け部の三角へ、内革から刃先が出る程度に菱目打を打つ

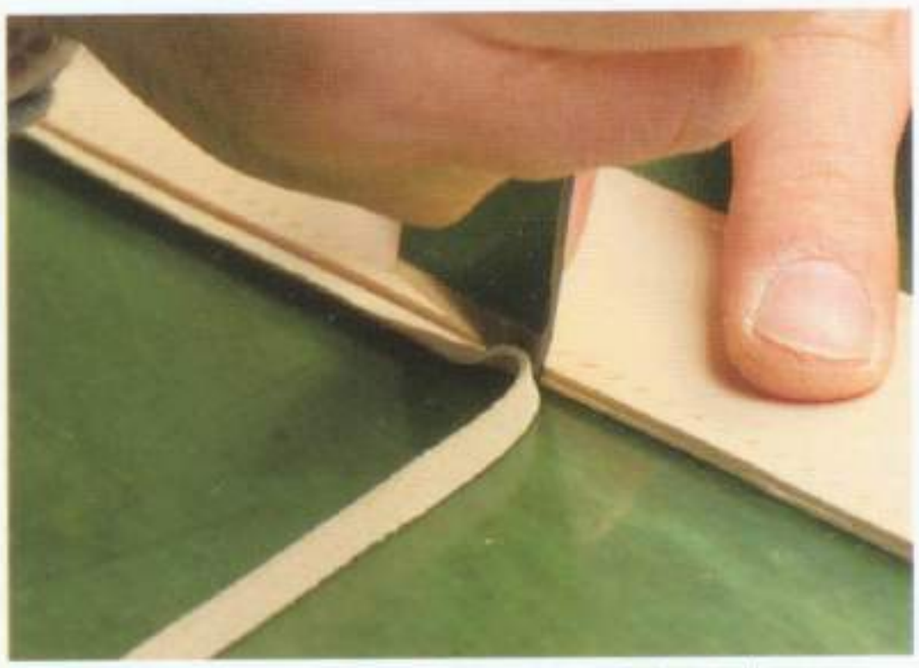


19 続いて、両側面へも同様に菱目打を打つ。菱目が大きくなり過ぎないよう、力加減に注意する

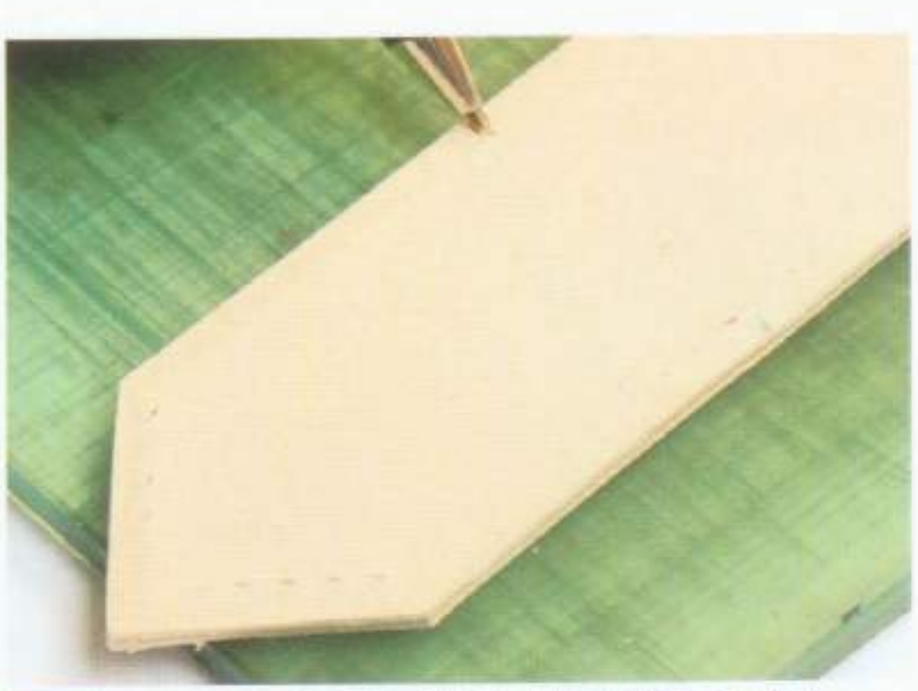




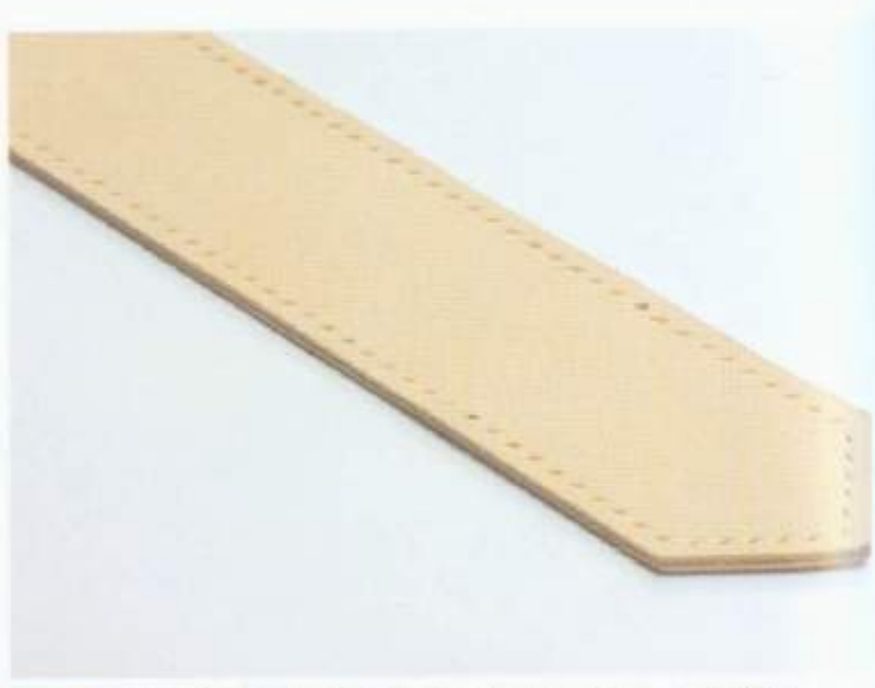
20 内革まで全ての菱目を打ち終えたら、内革のはみ出した部分を裁ち落とす。ハンドルの側面に沿い、まずは三角部を裁つ



21 三角部を裁ち落としたら、次は両側面を裁つ。直線が長いので、この時は革包丁が効果的

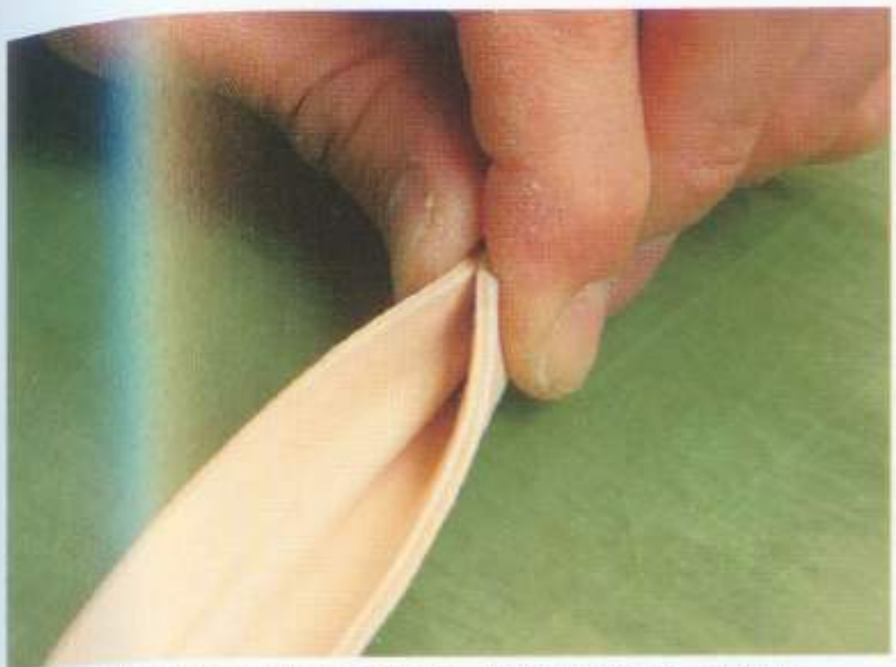


22 工程の 6 (P50)で菱目に付けた印を、貼り合わせた内革側にも記しておく

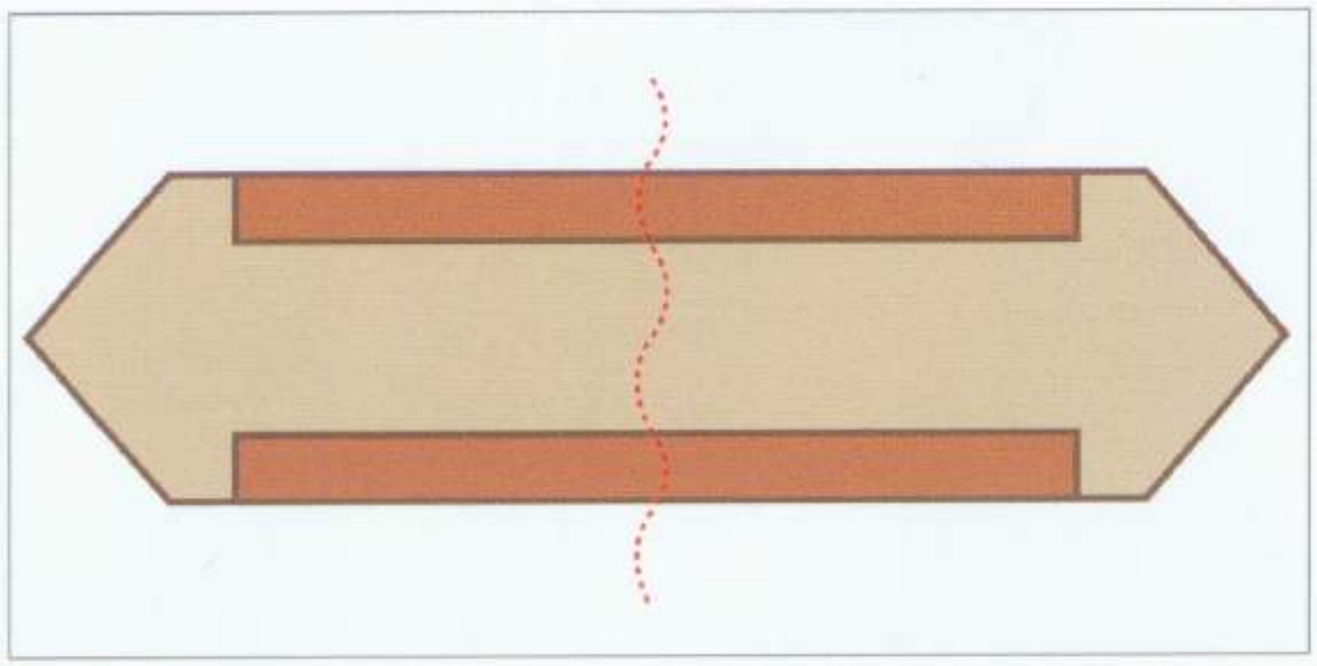


23 内革を貼って菱目を打ったハンドル。この後は、取り付け部を残して両側面を縫い合わせる

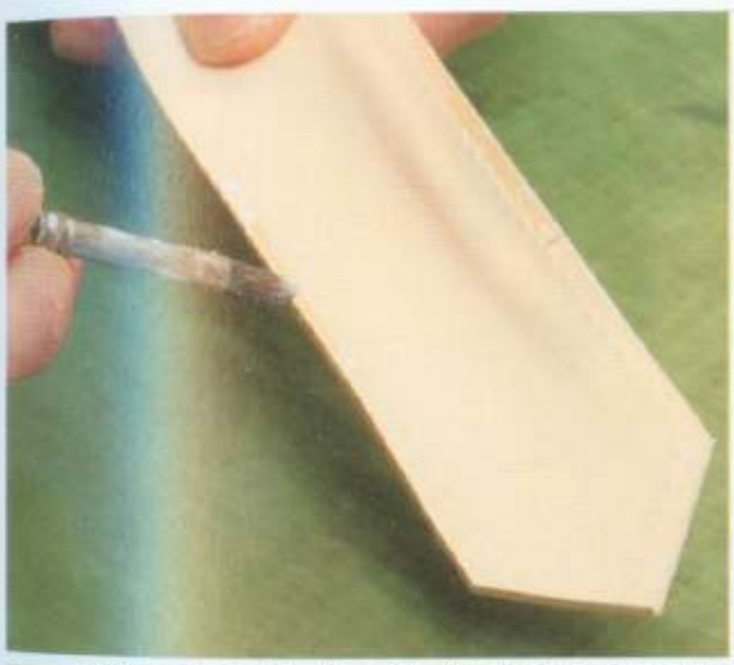
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



24 貼り合わせ易いようにクセを付けるため、取り付け部以外の側面を内革側へ折り合わせる

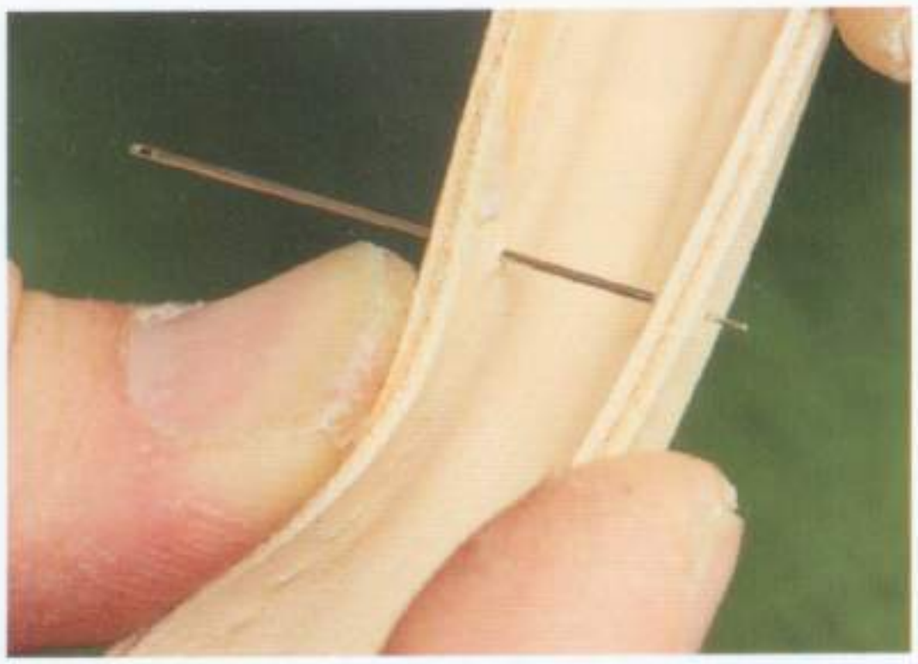


25 接着し、縫い合わせる部分は上記イラストの通り。ハンドル取り付け部の端、両側面に付けた印が境目となるので、これを改めて確認しておく



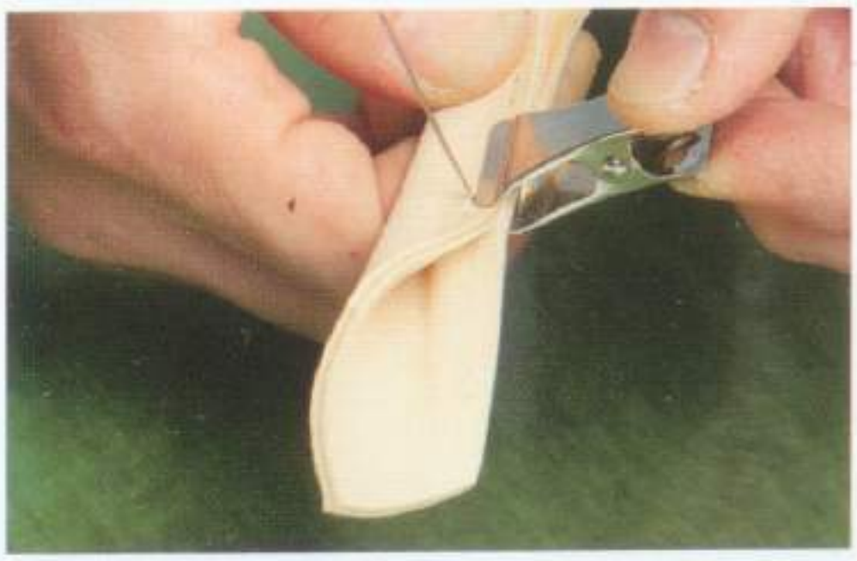


26 印よりも内側、貼り合わせる両側面に白ボンドを塗る。自然な膨らみを残すため全面には塗らず、菱目の外側のみに塗る

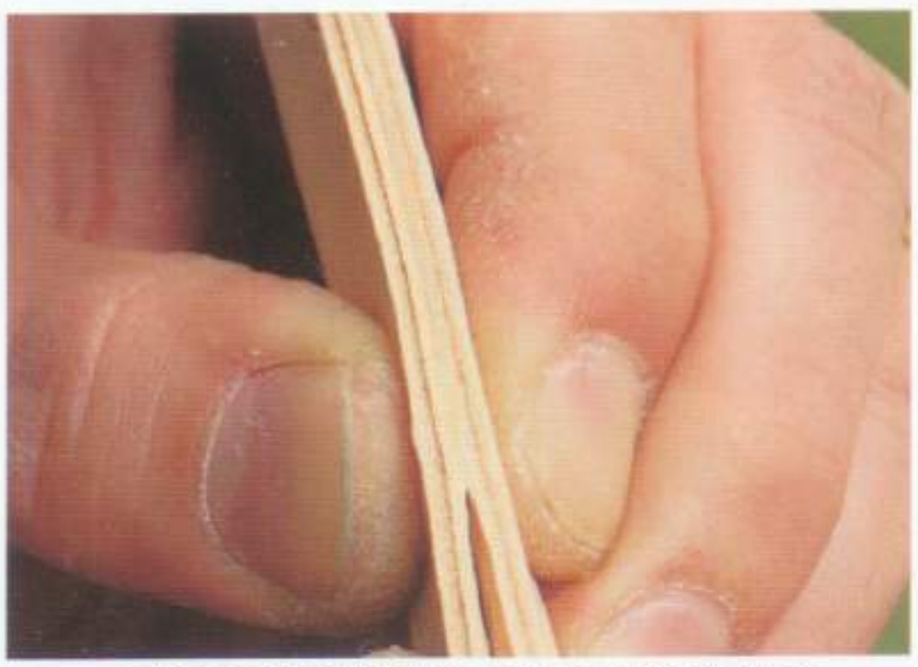


27 側面に打った全ての菱目位置が揃うよう、一番端にあたる印を付けた菱目に縫い針を刺す

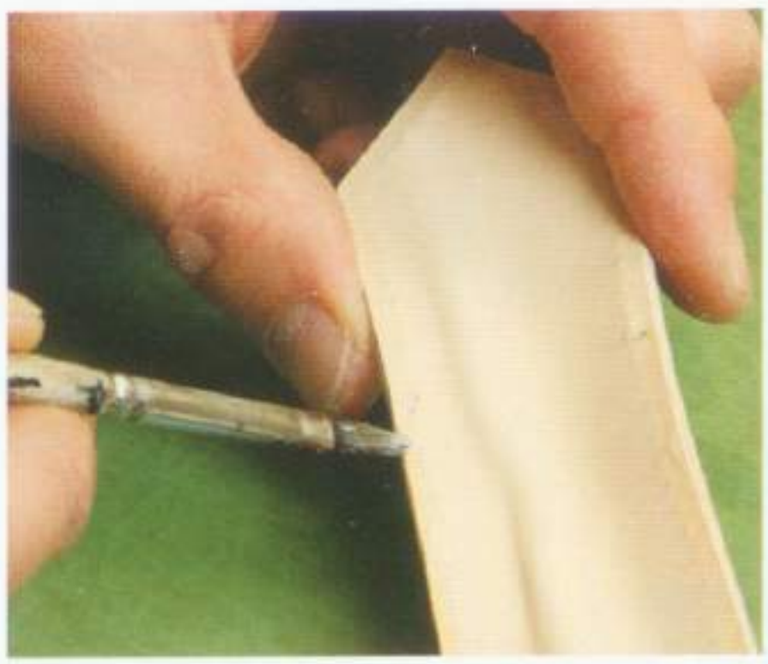
CHECK!

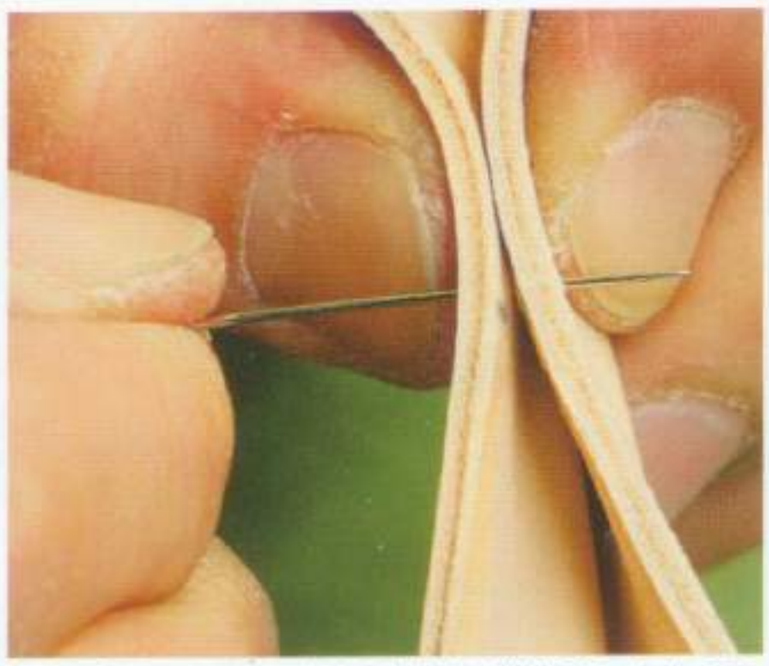


28 針を刺した端の部分から貼り合わせるが、広がりクセが強いので、クリップで固定する



29 両側面の菱目位置が揃っていることを確認しながら、ハンドル中央へ向けて15cm程度を接着







30 片側の端と、端から中央に向かう15cm程度を貼り合わせたら、次は反対側の端を貼り合わせる。先に貼り合わせた手順と同様、取り付け部との境目に付けた印から中央に向けて白ボンドを塗り、印を付けた菱目に針を刺してこれを合わせて、貼り合わせた部分をクリップで固定する





31 取り付け部を除く両端を接着したら、最後に中央部を貼り合わせる。接着面が剥がれたら、隙間からボンドを塗れば良い

POINT



コバをきれいに仕上げるため、接着面からはみ出したボンドはこまめに拭き取る



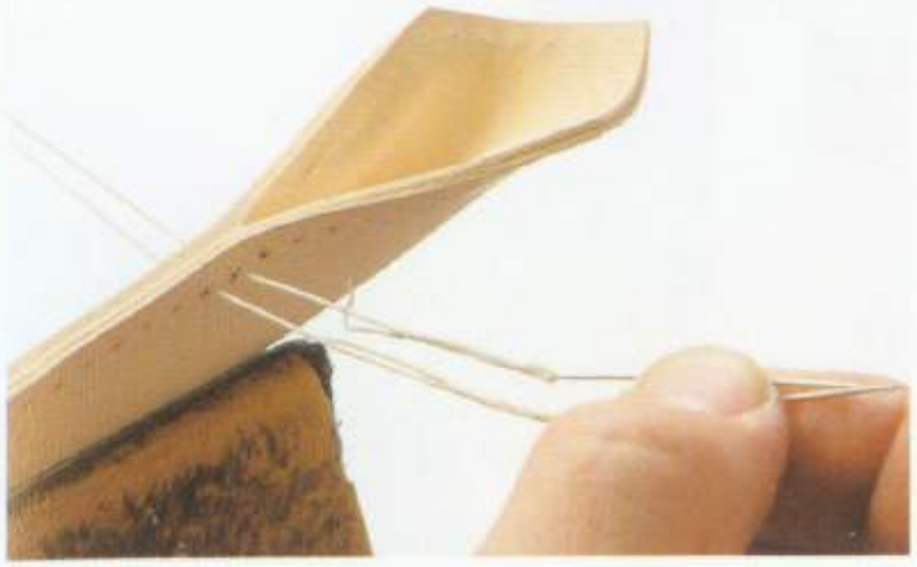
32 広がりクセが強いため、接着面が完全に乾燥するまではクリップで留めておく



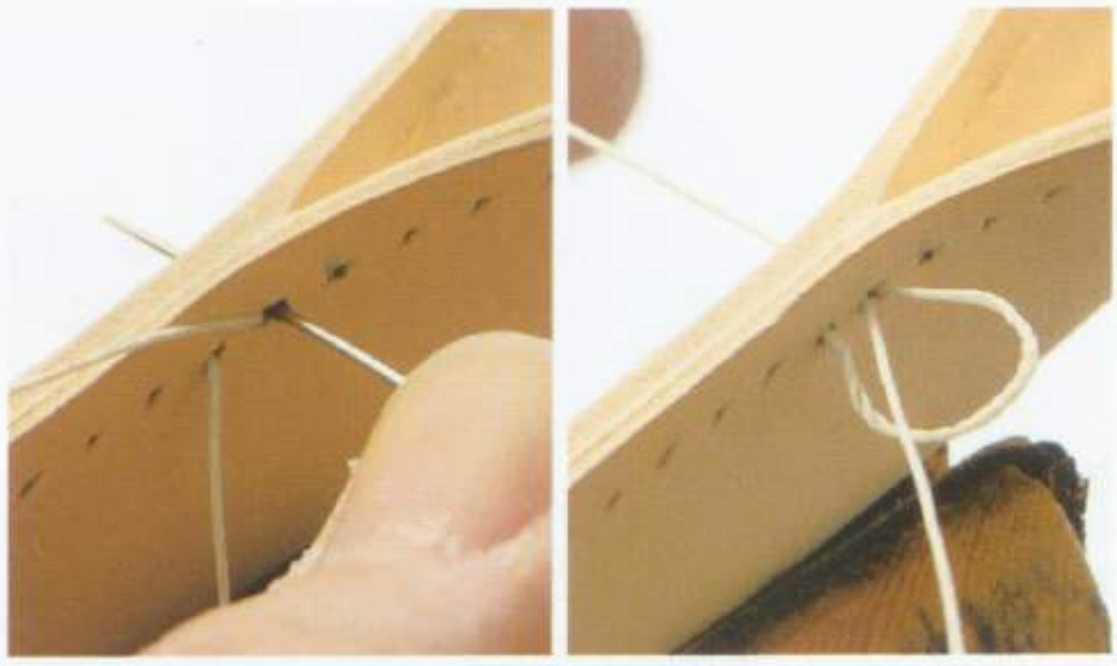
33 10～15分程経過したらクリップを外し、白ボンドで貼り合わせた両側面を縫い合わせる

Сумдук Кожевника - vk.com/kozhcraft

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



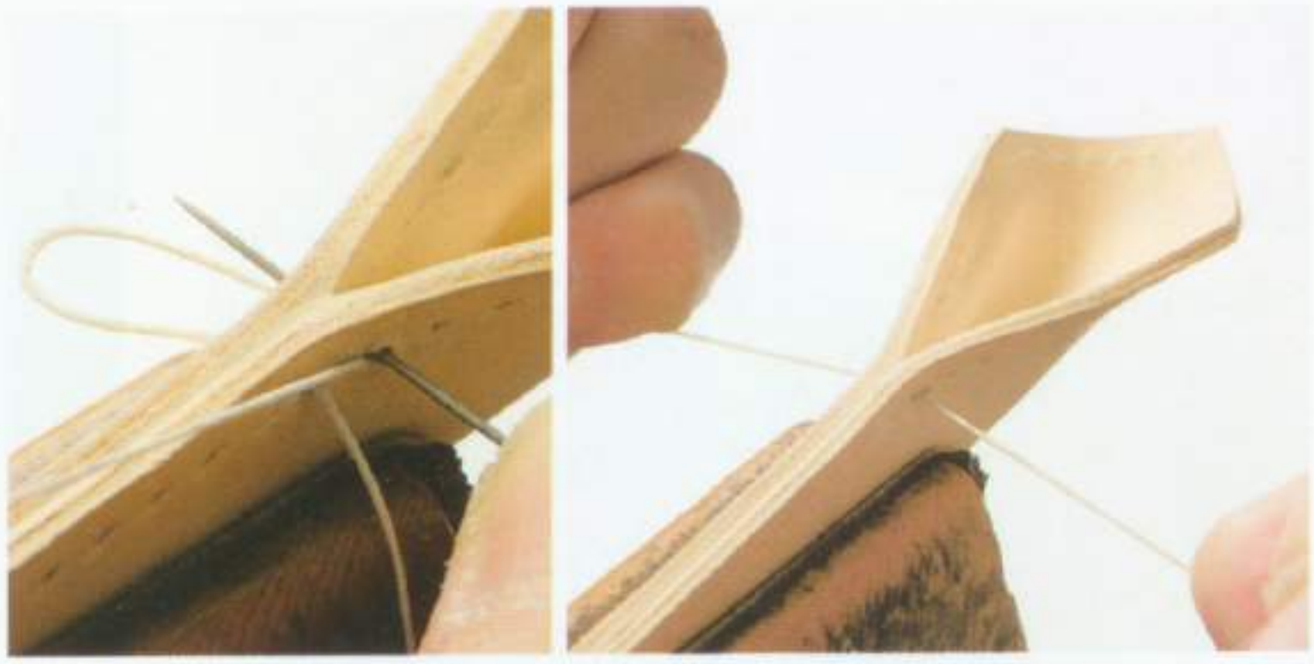
34 取り付け部に強度を保たせるため、印を付けた菱目から2目を返して平縫いする



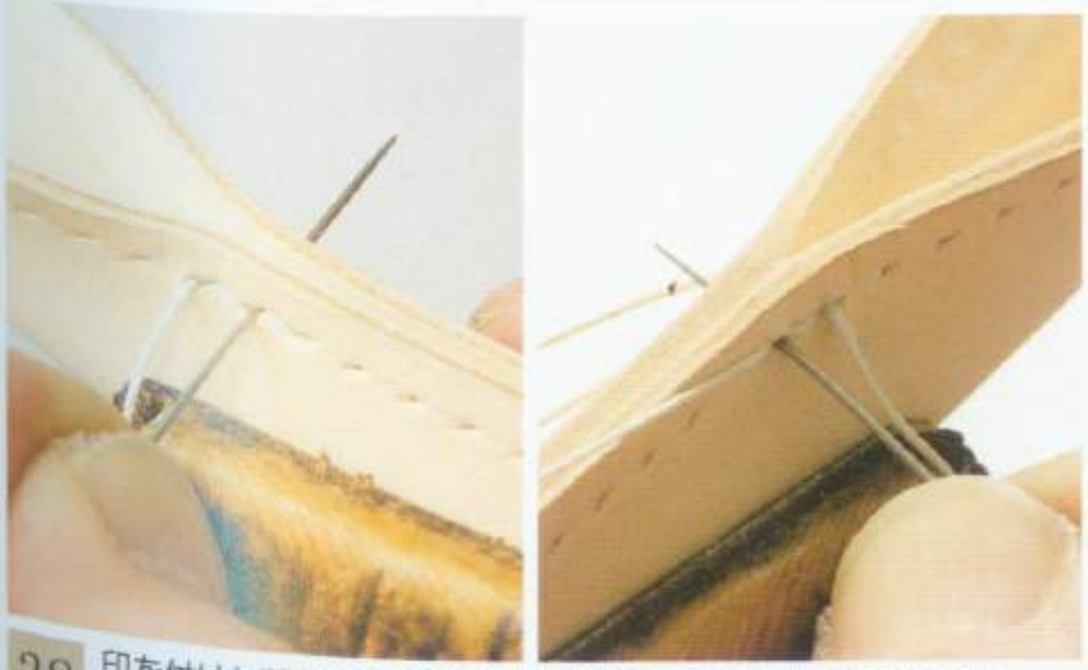
35 印を付けた菱目から2目手前の菱目に針を通し、印を付けた菱目側へ向かって最初の1目を縫う



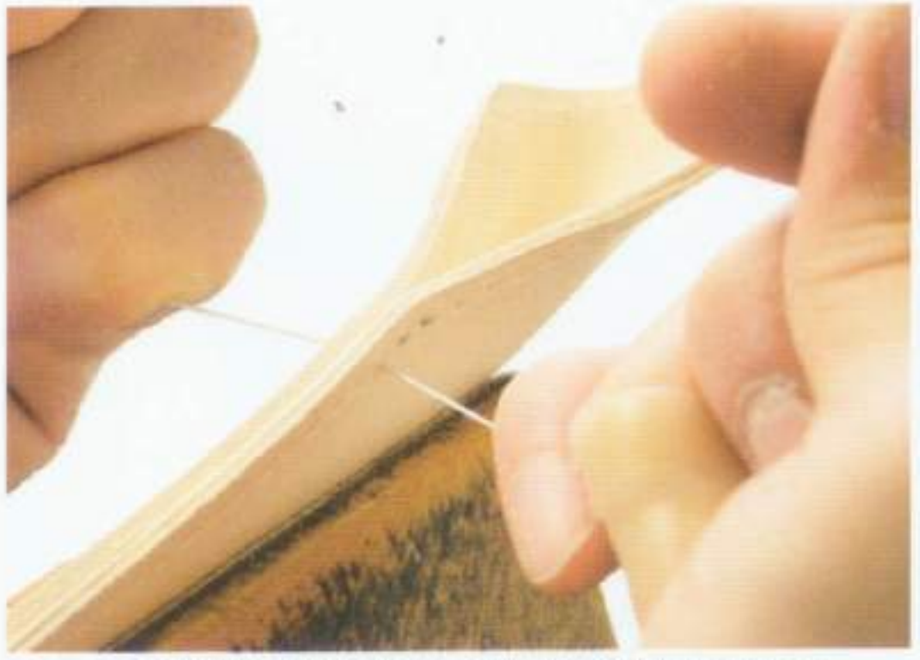
36 縫い合わせる革に厚みがあり、また充分な強度を保たせたいことから、しっかりと目を締める



37 最初の1目を縫い終えたら、次は印を付けた菱目にかけて1目を縫う。ちなみに印を付けた菱目は、ハンドルを胴に縫い合わせる際の菱目も兼ねる

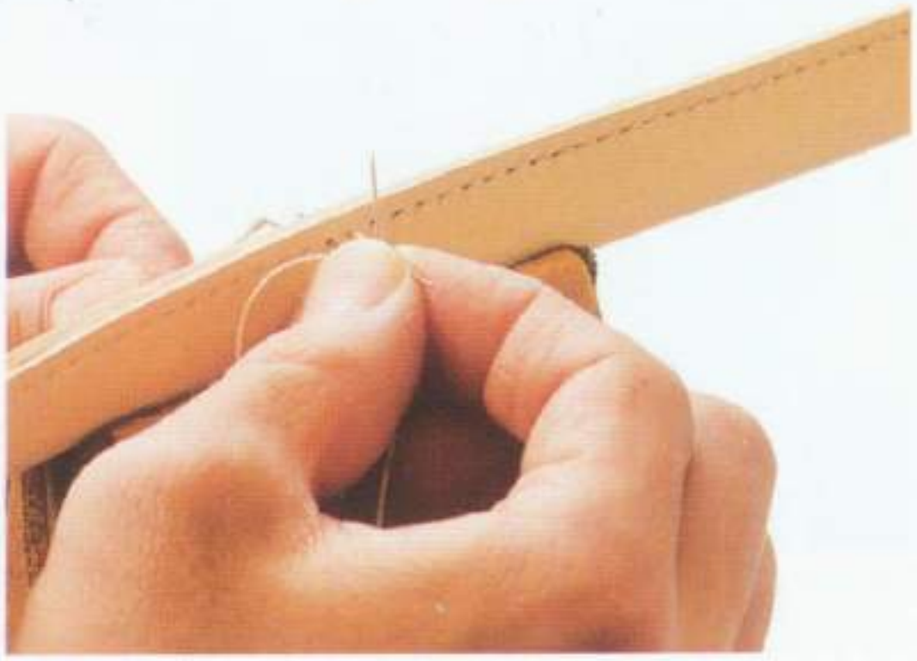


38 印を付けた菱目までの2目を縫い終えたら、そこから手前に向け、反対側の端(もう一方の印)まで平縫いで縫い進める



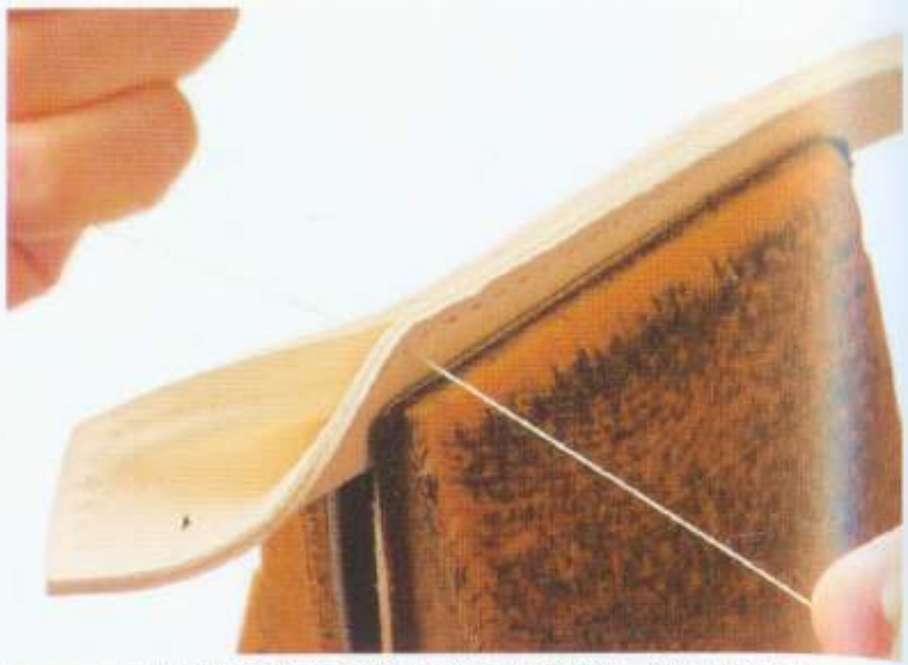
39 この写真の状態がちょうど、印より2目を返して縫い合わせた状態。後は1目ずつ縫い進める

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

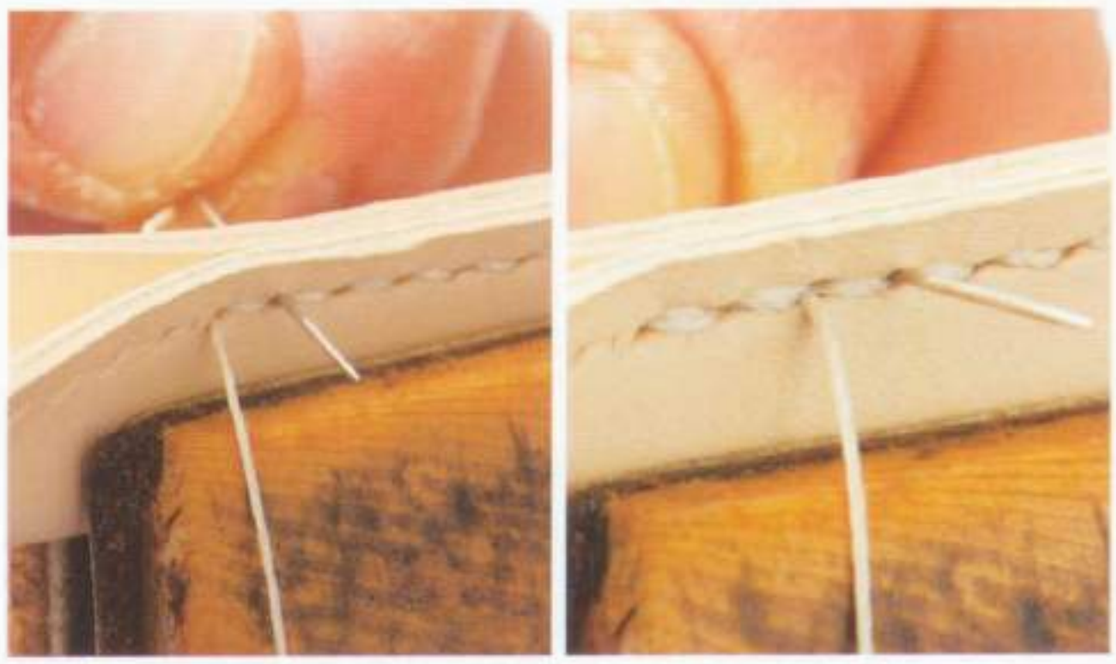


反対側の端に向けてハンドルを縫い進める。ちなみに、ここで使用している糸は20×3の麻糸

40



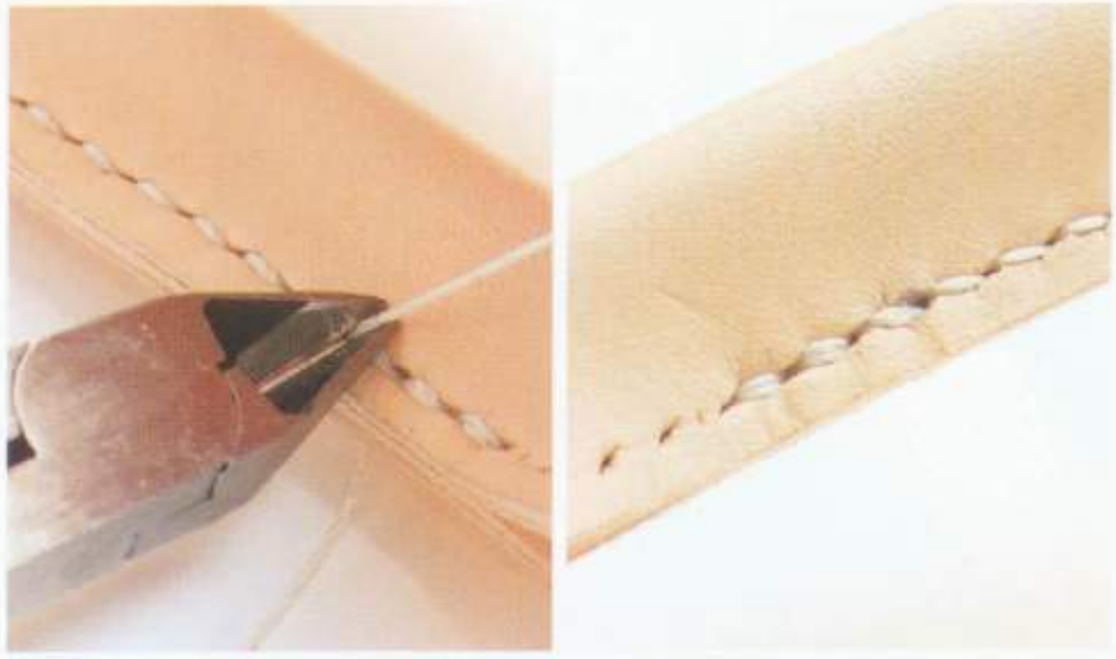
41 反対側の端まで縫い終えた状態。縫い始めと同様、強度を保たすためにここから縫い返す



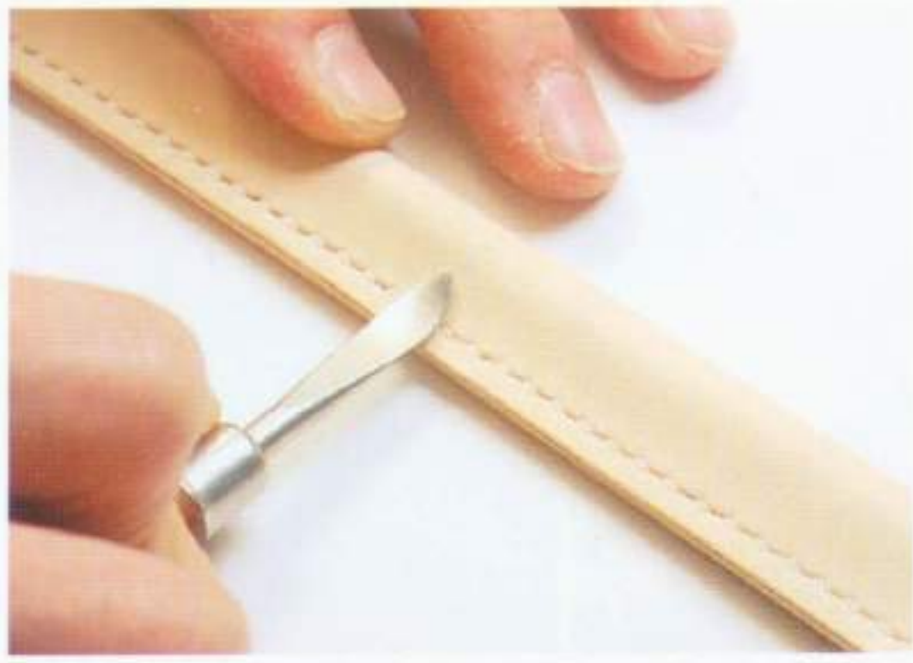
42 縫い目の間から針を通して返し縫いをする。2目以上返したい場合でも、右写真のように同じ手順を繰り返せばよい



43 縫い始めとは違い、こちら側は3目を返した状態。最後もきつく締め、縫い終わりの処理をする



44 縫い目を左右均等に揃えるため、残りの糸をそれぞれの側に残したまま切断し、白ボンドを塗って処理をする

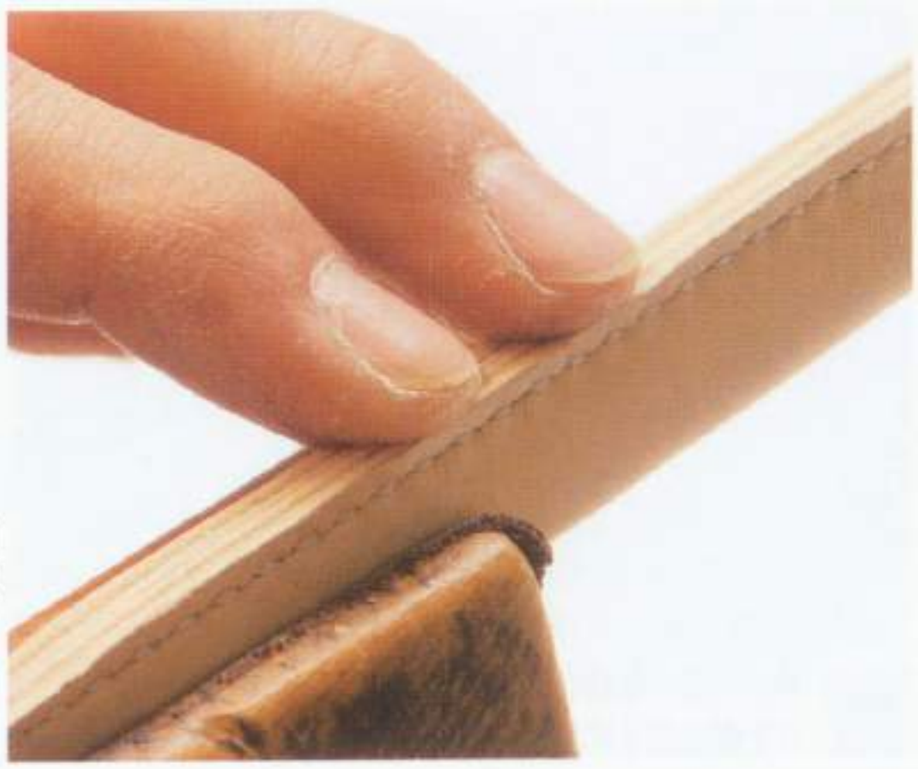


45 全体の縫い目を整えるため、縫い目の上を最後に軽く均しておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

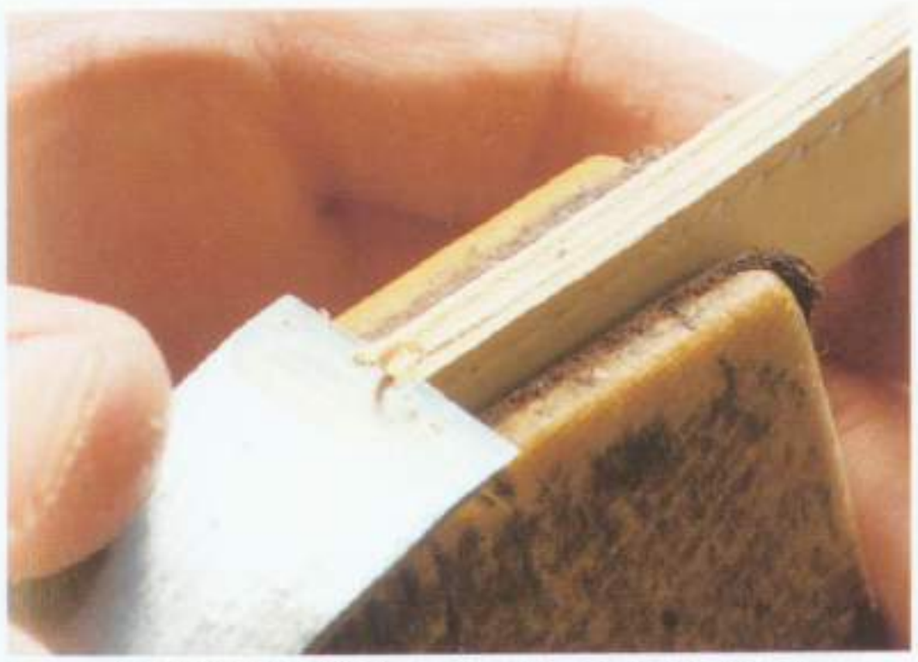


46 次は接着面のコバを磨く。コバはハンドルの握り心地に影響するので、丁寧に磨いていく



2つのコバが合わさった面に触れ、内革の裁ち落とし損ねなどの凹凸を確認

47



48 凹凸が目立つ箇所に関しては、凸のみを落とすように革包丁で段差を均す

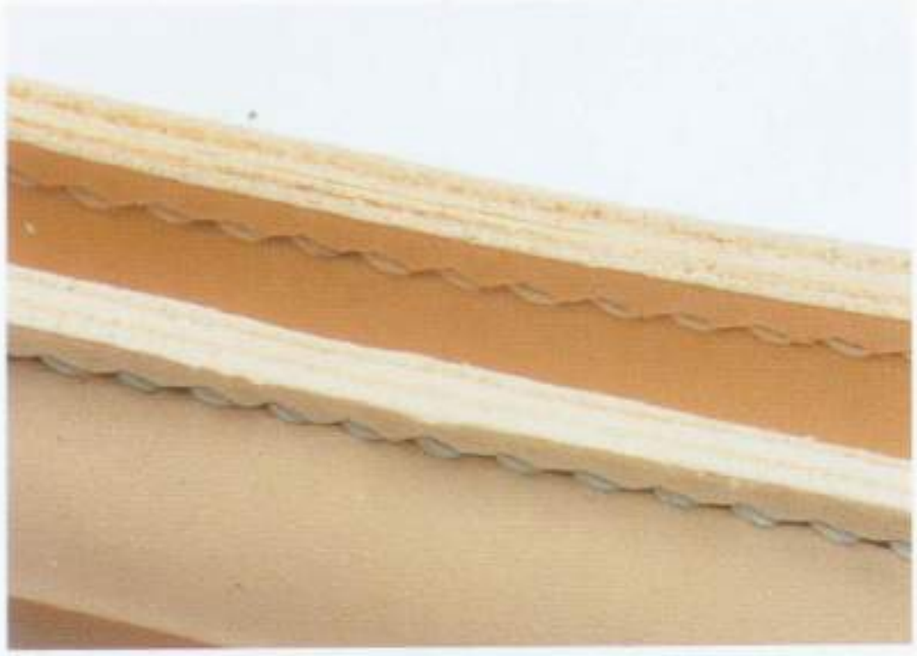
POINT



革包丁の刃は、裏面をコバに対して平行にあてる。角度を付けるとコバに切り込み、そこだけがえぐれてしまうので注意



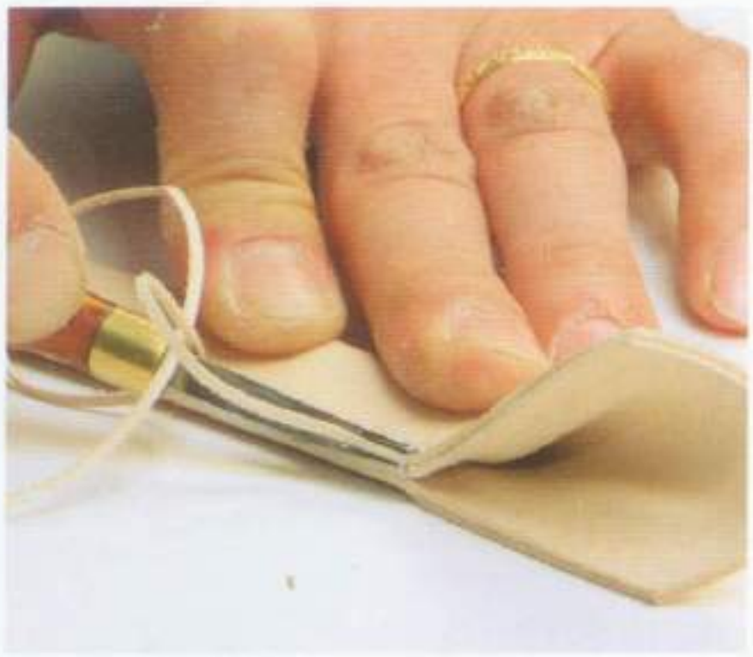
49 ドレッサーを用い、さらにコバの表面を均一に整える。ただし、掛け過ぎて縫い目に影響しないように注意すること



50 奥が未処理で、手前が処理済みのコバ。貼り合わせた革の層が明確になるまで整える

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





51 ドレッサーを掛けた後はコバの両端(ヘリ)が反り立つ。そこで、手へのあたりを柔らかくする意味も含め、ヘリ落としで均一に力を掛けて落とす



52 手前が未処理で、奥が処理済み。手前に見える立った角が、奥ではなだらかに落ちている







53 ヘリを落としたコバにトコノールを塗り、木ベラとウエスを用いて磨く。ヘリを落とし、丸みを帯びた部分にも染み込ませるようにトコノールを塗り、"丸く形付けるように"木ベラで均してはウエスで磨き上げるという作業を繰り返すと、理想的な仕上がりが得られる



54 指先で触れた時、その表面を滑るくらいが理想。この状態になるまで、丹念にコバを磨く

コバ磨きを施したコバと、未処理のコバの比較写真。どちらがどちらかは言わずもがな、コバ磨きの効果が一目瞭然に分かる

55



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





56 ハンドル取り付け部のコバも、接着面と同様に磨く。この部分は薄いので、ヘリは軽く落とす程度で済ませる



57 コバ磨き前(左)とコバ磨き後(右)。胴に付けた後は磨けないので、先にしっかりと仕上げておく

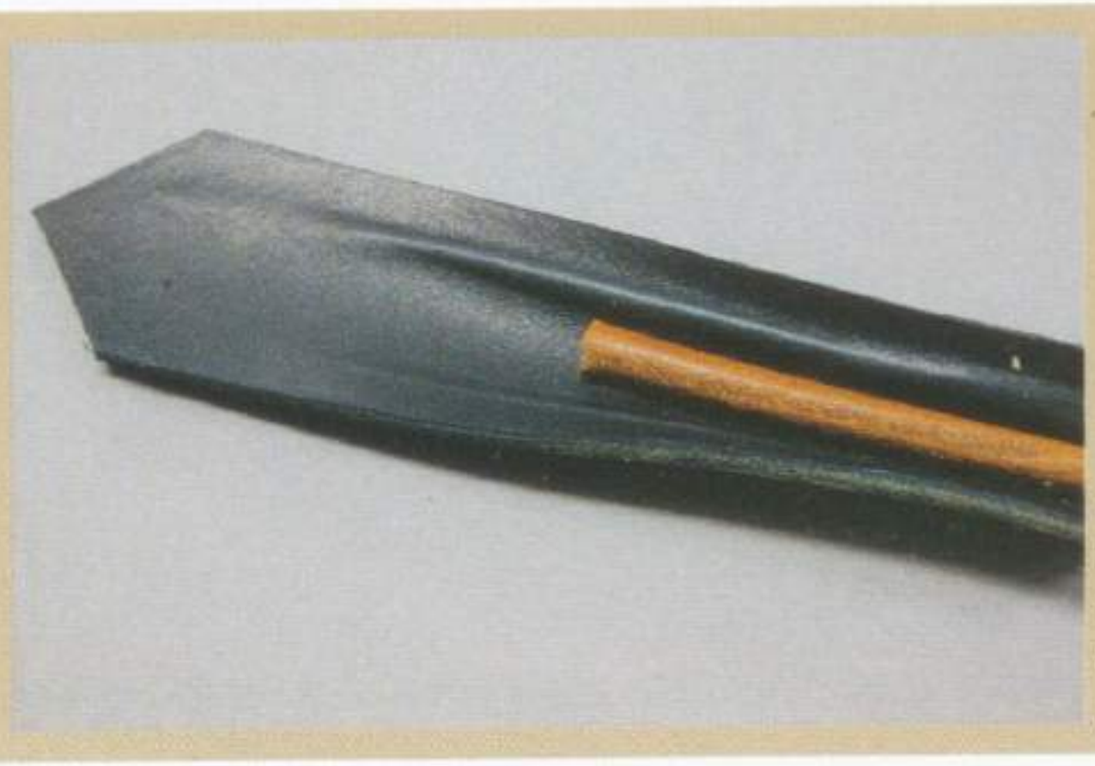
●完成したハンドル





芯材を一切入れていないため、自然で柔らかな丸みを帯びています。手へのあたりも柔らかく、使い続けるうちにしっとりと馴染んでくるハンドルです

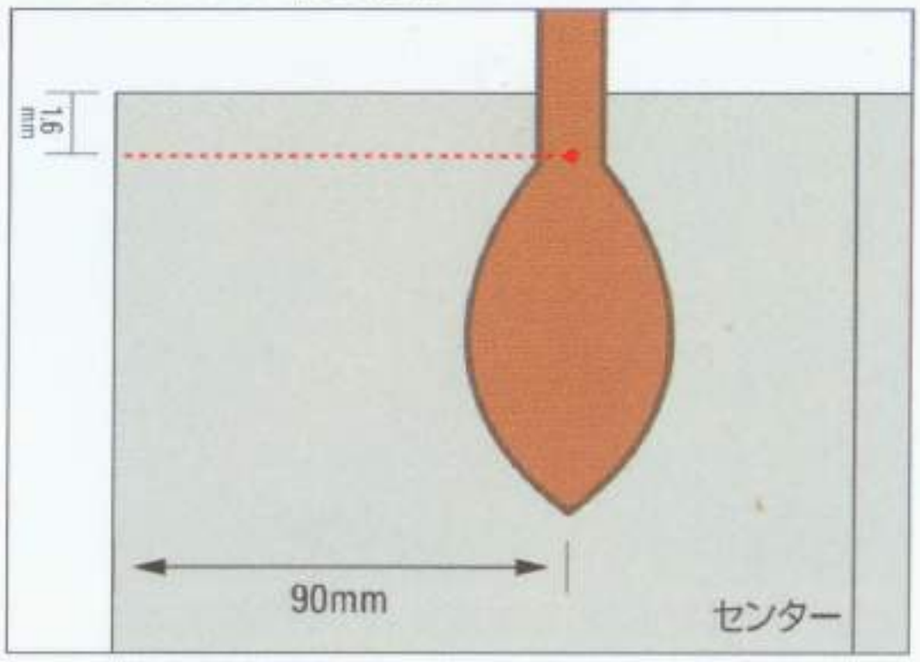
POINT



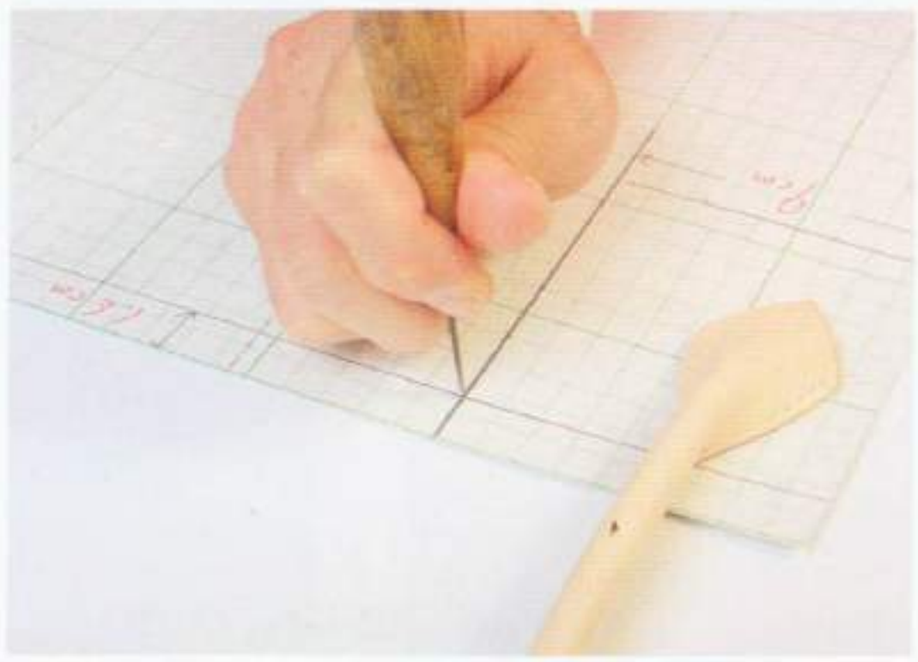
カチっとした固めのハンドルが好みの場合は、側面を貼り合わせる際に中へ芯材を入れる。市販されている専用の芯材の他、丸革紐なども利用できるが、その際は芯材に合わせ、ハンドルの幅や厚みなどを調整する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●ハンドルの取り付け



1 胴の型紙を元に、両側面から均等なハンドル取り付け位置を決める。本工程では上記位置

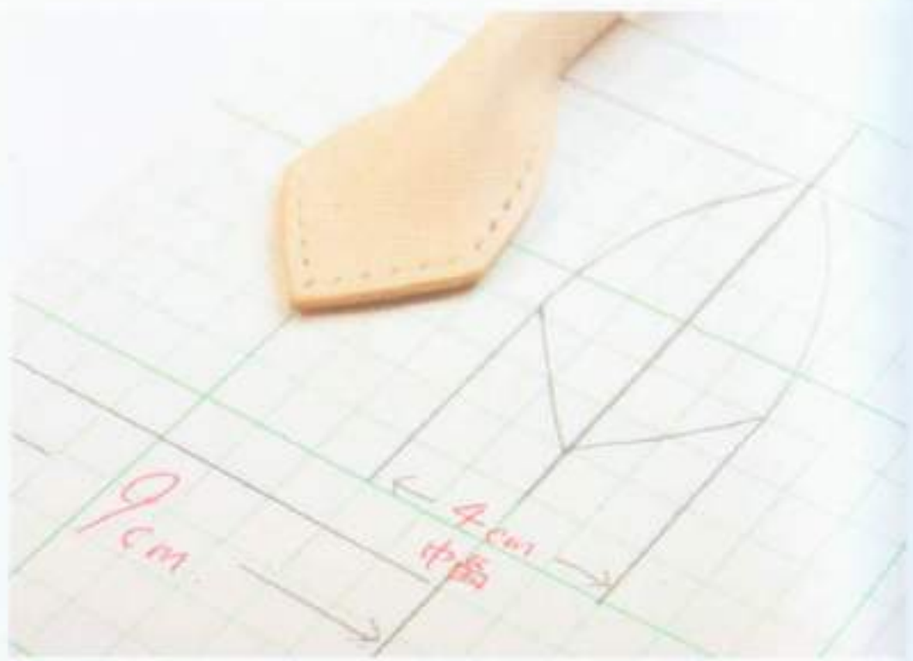


2 取り付け位置を決めたら、取り付け部付け根(ハンドルに印を付けた菱目)位置を型紙に印す





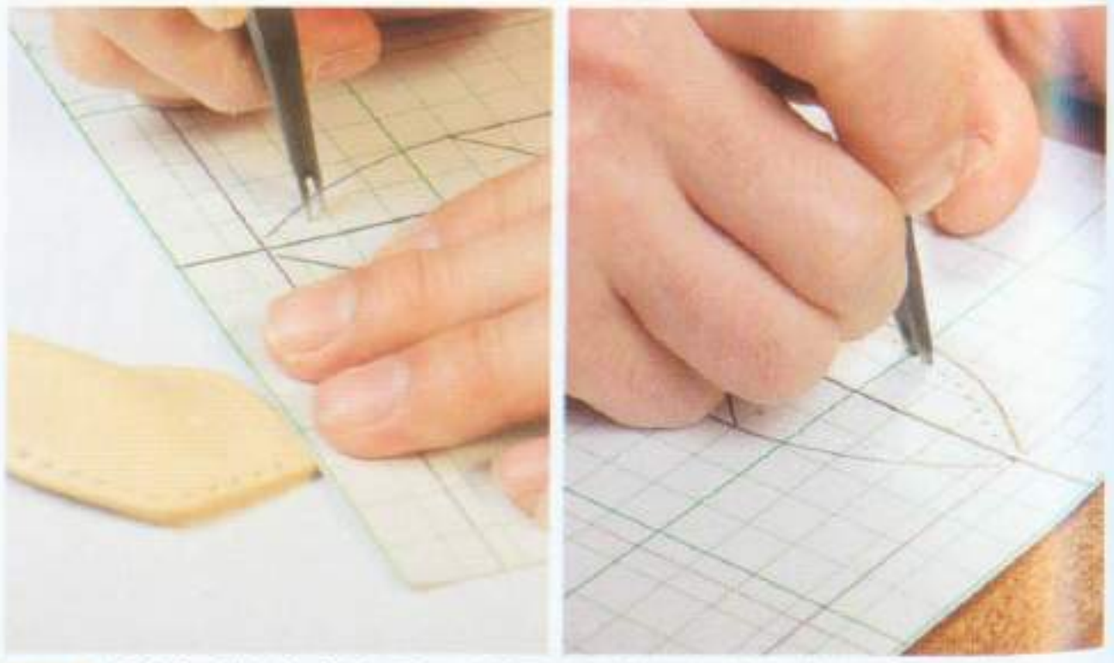
3 ハンドルと型紙に付けた印、そして取り付け部の先端を型紙に合わせ、取り付け部のアウトラインをトレースする



4 胴の型紙へ、ハンドルの取り付け位置を明確に記した状態。これを元に、胴へ菱目を打っていく

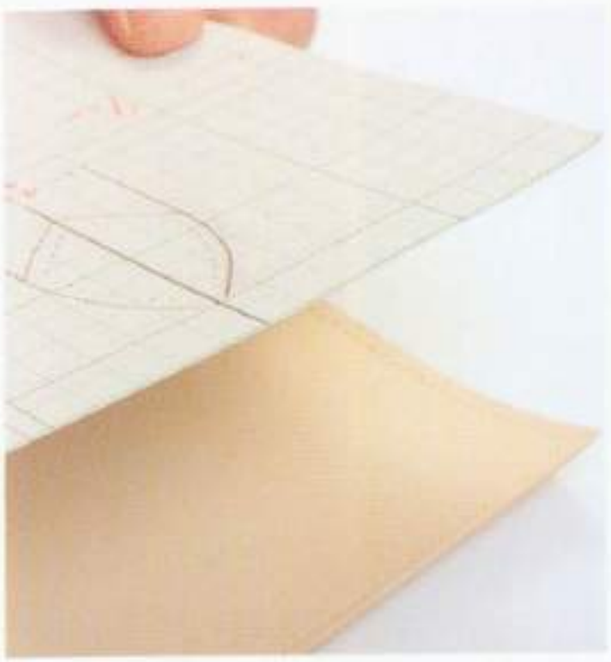


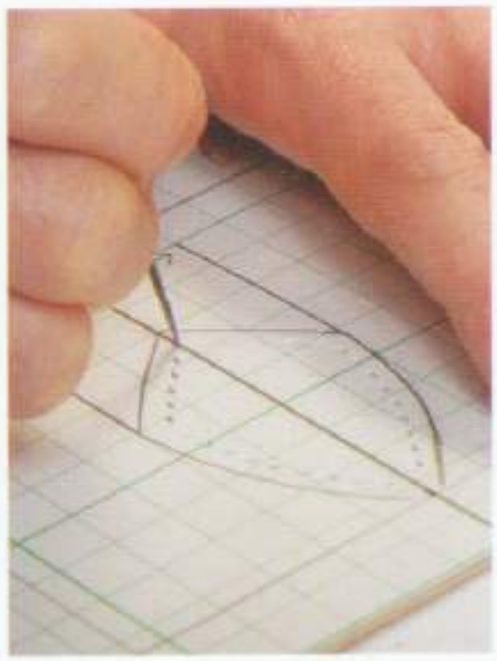
5 アウトラインにピッタリと取り付け部を合わせ、菱ギリで、菱目を通して型紙に印を付ける



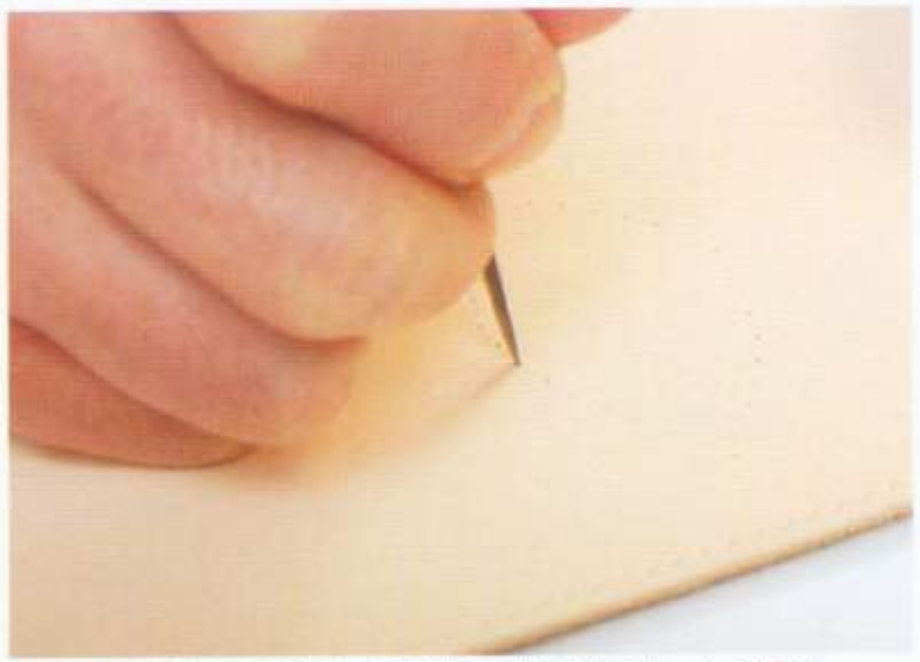
6 型紙に付けた印を元に、間隔を調整しながら型紙へ菱目を打つ。ハンドルの菱目と重なるよう、正確に打つ必要がある

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





7 型紙を胴の銀面にピッタリと合わせ(上下も揃える)、型紙の菱目から菱ギリを刺して、銀面に軽く菱目の跡を付ける



8 型紙を取り除き、菱ギリで付けた跡へさらに菱ギリを刺して、菱目を打つ位置を明確にする

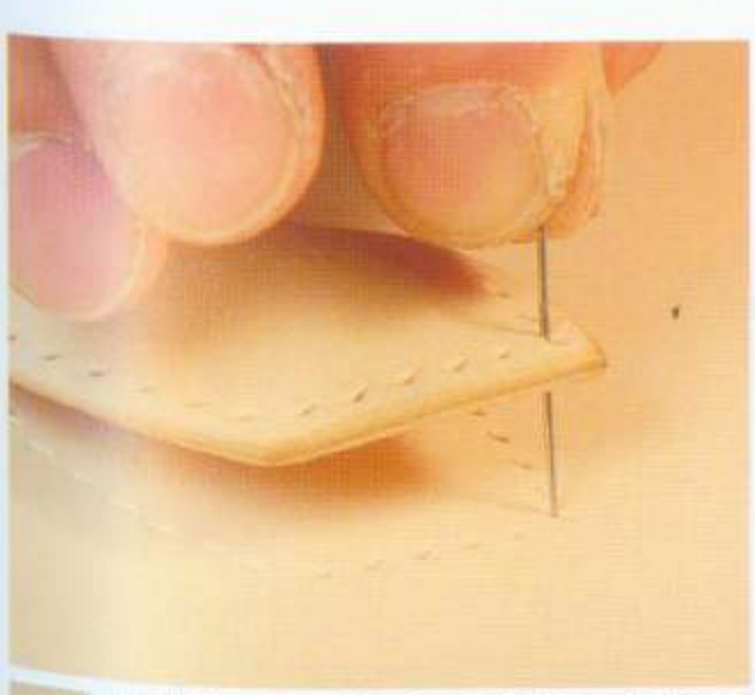


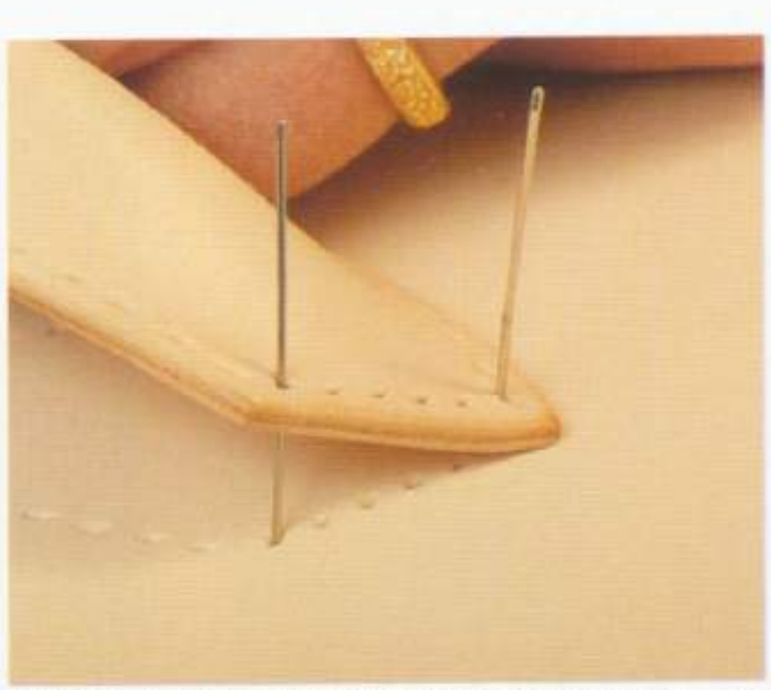
9 銀面に付けた印を目安に、均等な間隔で菱目を打つ。ハンドルと見比べながら打っても良い

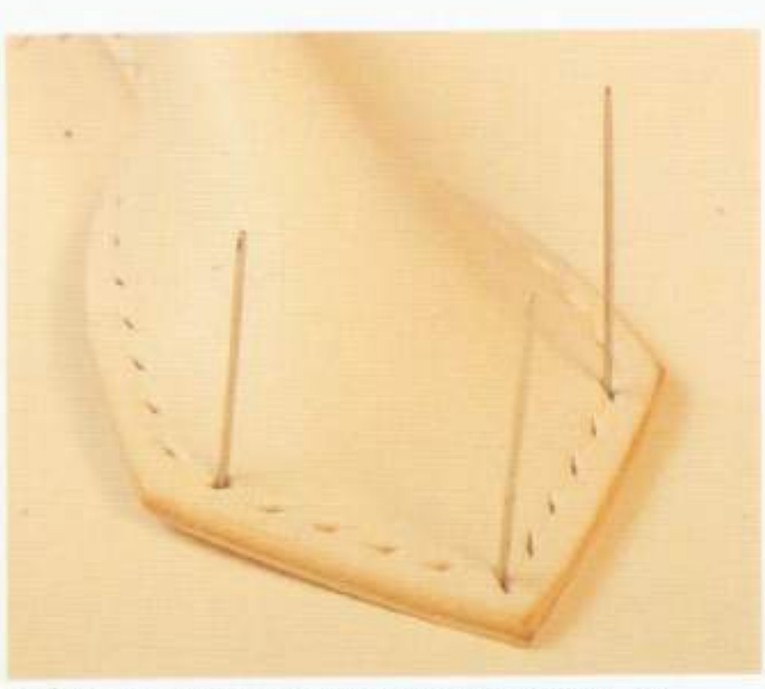
CHECK!



10 もう一方のハンドル取り付け部は、型紙を裏返せば、7からの手順で正確に菱目を打てる

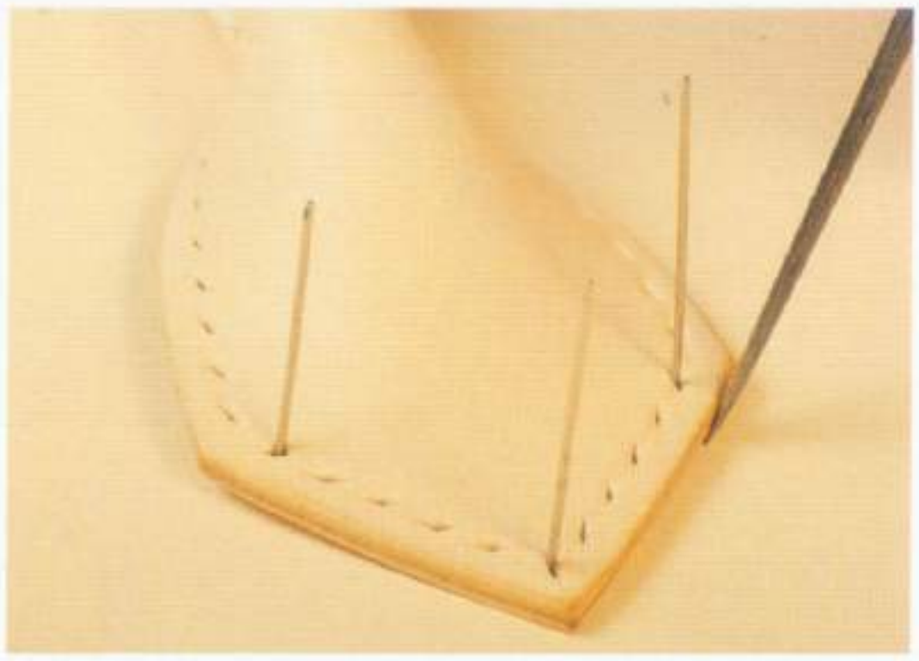




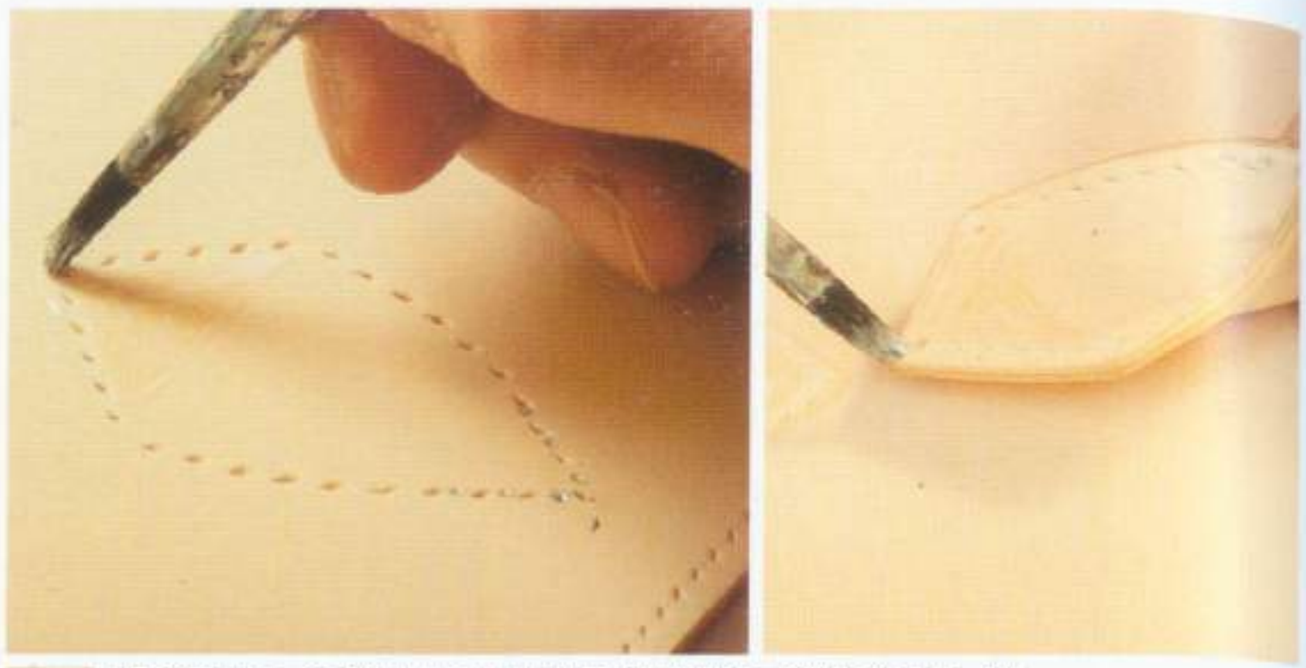


11 ハンドルの取り付け部は、先端の三角部のみを接着した状態で付け根部分から縫い始める。そこで、胴とハンドル取り付け部の菱目を揃え、胴の銀面側にボンドを塗る範囲をトレースするために、三角形の各頂点に該当する菱目を揃えて針を刺す(下にスポンジなどを敷くと良い)

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



12 菱目がずれないように注意し、アウトラインギリギリにごく薄い線を引く(確認できれば良い)



13 胴の銀面・三角部とハンドル取り付け部の三角部全面に、菱目を避けて白ボンドを薄く塗る





14 アウトラインを引いた時と同様、三角形の各頂点付近の菱目を揃えて針を刺し、白ボンドを塗った接着面を貼り合わせる

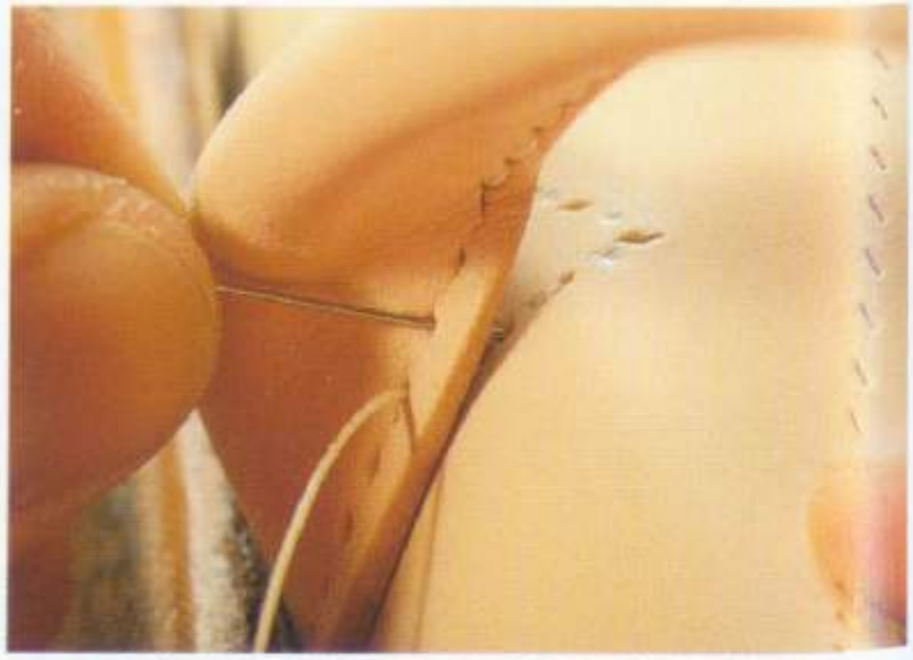


15 縫製の途中で剥がれないよう、接着面はしっかりと乾かす(起こしても剥がれない程度まで)



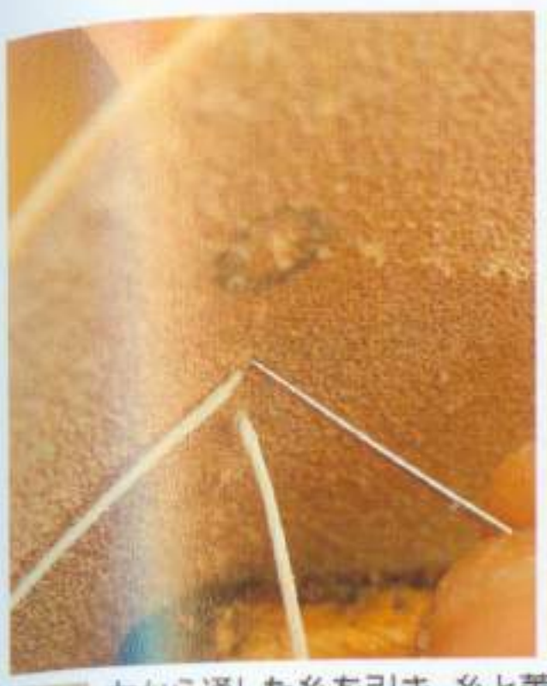


16 付け根の頂点(印部)を縫い始めと捉え、その両側を3目返して縫う。従って、最初に針を通す菱目は印より4つ手前の菱目



17 左右の糸を均等にし、左の針を頂点側へ向かう次の菱目(ハンドルと胴)へ刺して糸を通す

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



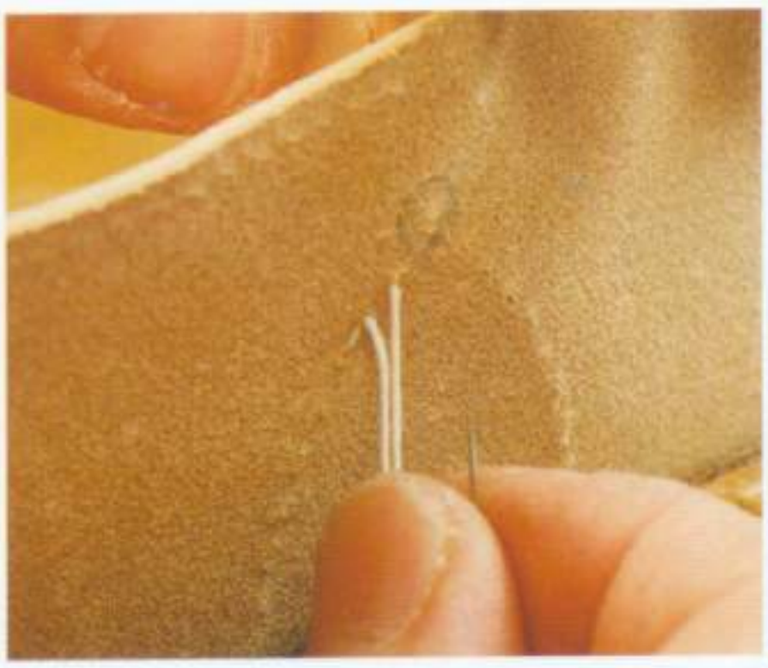


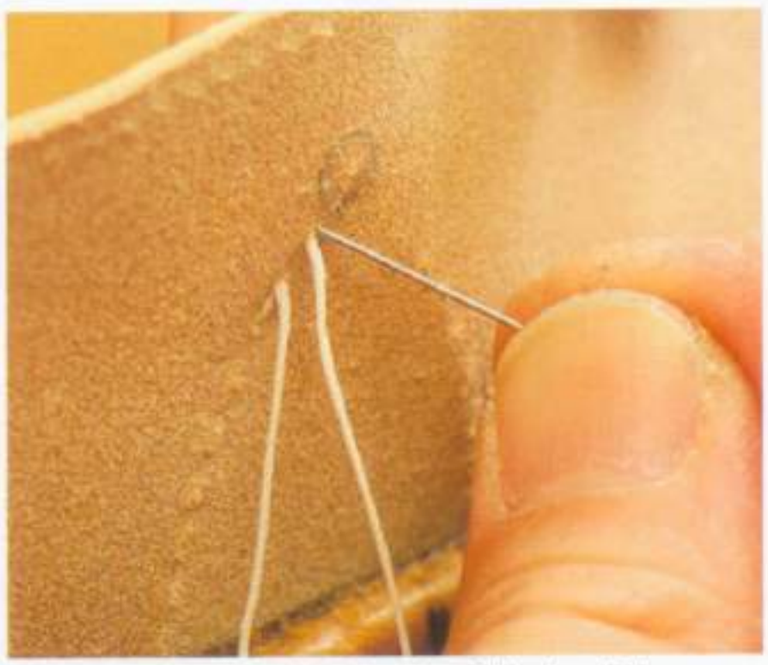
18 左から通した糸を引き、糸と菱目の間に右の針を通す。ここで左の糸を引き、糸に右の針を通していないことを確認



19 糸に針を通していないことを確認したら、左右の糸を引いて最初の1目を締める

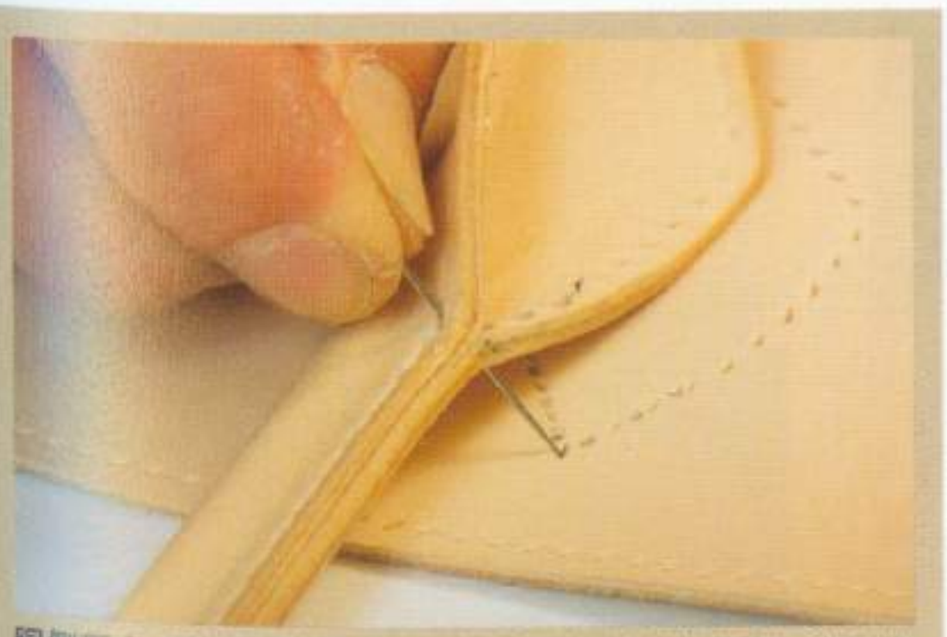




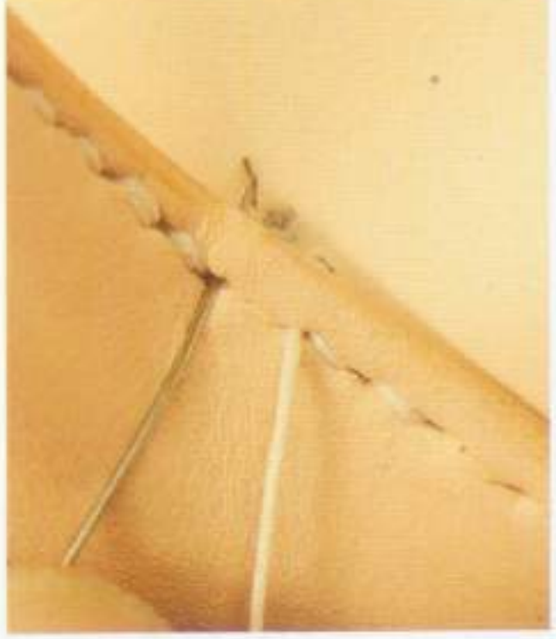


20 最初の1目を縫った時と同様、ハンドル付け根の頂点に向かい次の菱目に左の針を通す。そして右(胴の床面)から糸を引き、右の針を左へ通して次の目を締める。胴の床面側は菱目が確認し難いので、通す菱目を間違えないように注意。頂点の菱目に印を付けておくと確認し易い

POINT



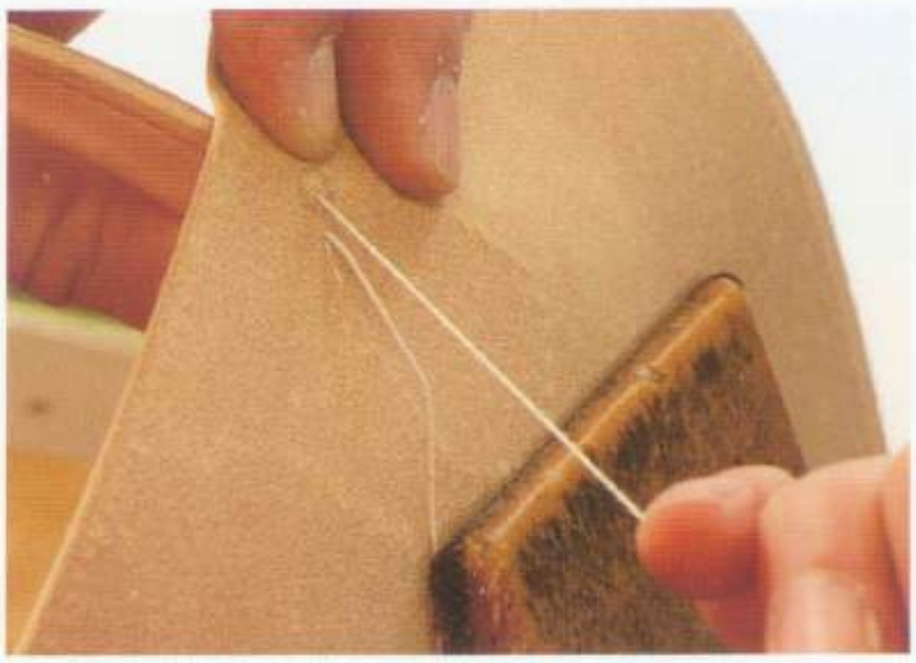
胴側頂点の菱目は、ハンドルの両側面を縫い合わせた際の端の菱目(2つの菱目が重なっている)と共に縫い合わせる



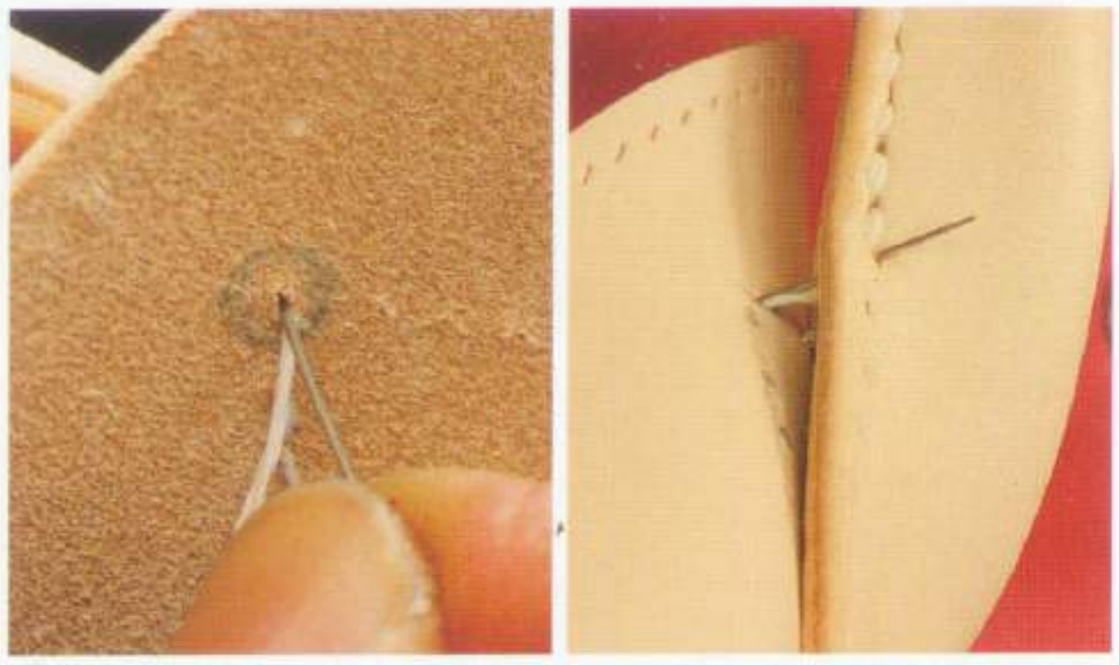


21 左写真のように2目を縫い終えたら、左の針をハンドルの印を付けた菱穴に通し、さらに、胴の付け根頂点の菱穴に通す

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



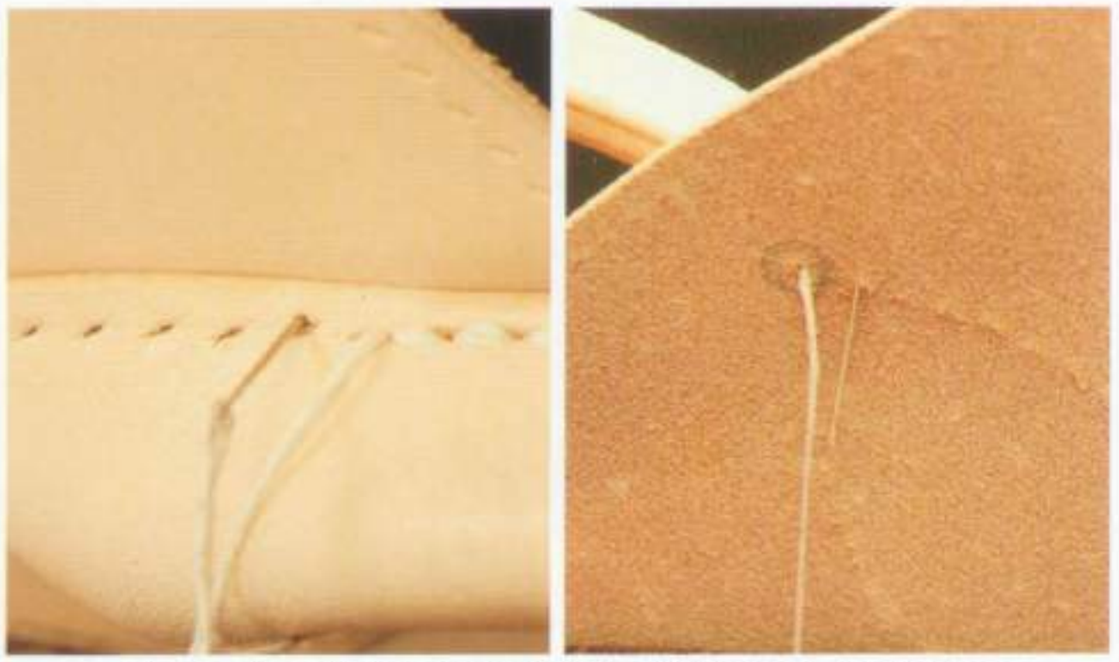
22 左から通した針を右側に貫き、糸を軽く引いておく。間違いがなければこの写真の状態になる



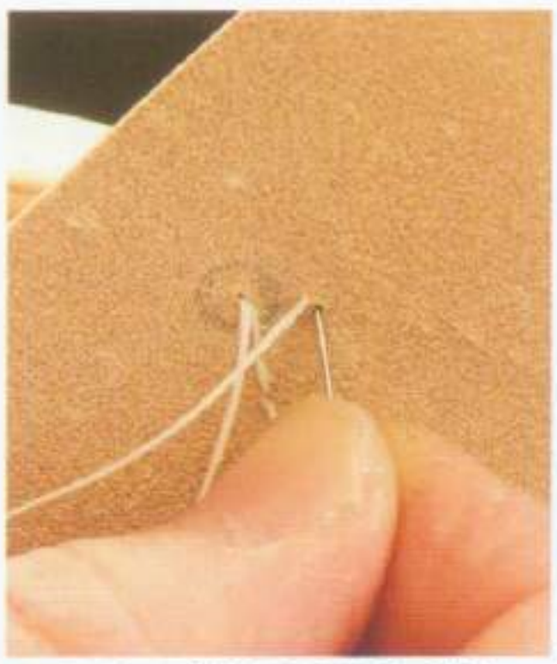
23 左から通した糸を手前に引き、今度は右の針を頂点に通す。そしてさらに、印を付けたハンドルの菱目・反対側へ通す



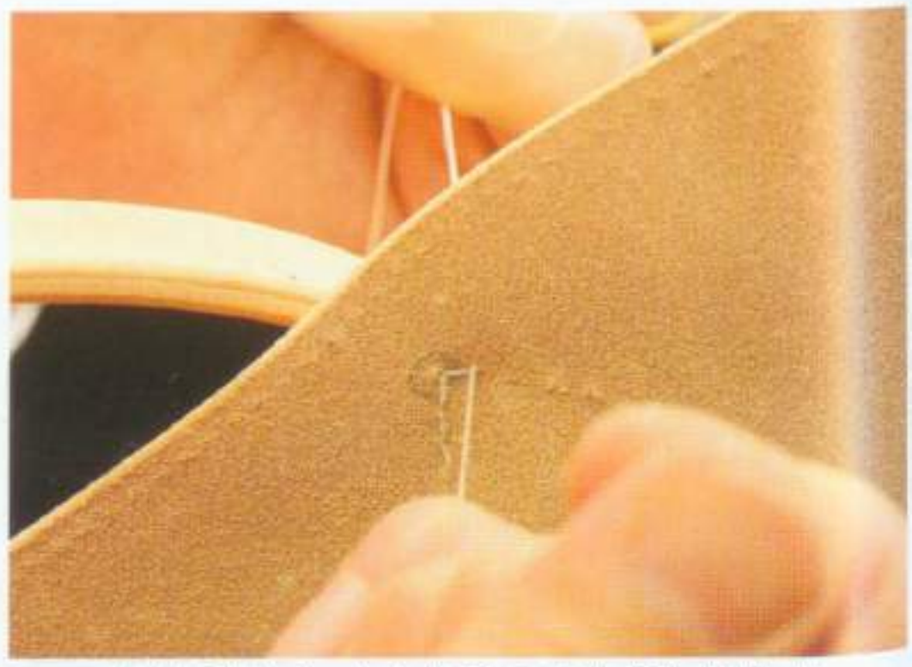
24 糸に針を通していないことを確認し、左右の糸を引いてしっかりと目を締める



25 続けて、ハンドル取り付け部の下三角(貼り合わせた部分)に向かい、左の針を次の菱目へと通す



26 右の針を同じ菱目から通し、ハンドル側の同じ菱目から抜く。繰り返しになるが、常に針を糸に通していないことを確認する



27 左右の糸をしっかりと引いて目を締めれば、付け根の頂点反対側にも縫い目ができる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

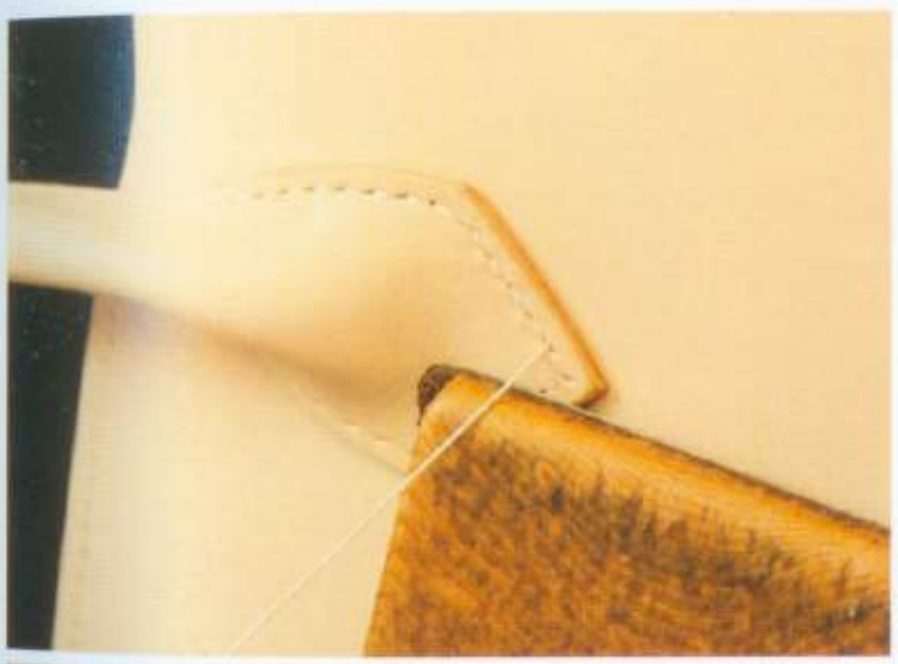


28 ここからは、同じ手順でこれまでに縫い進めてきた縫い目(頂点を挟む合計4目)を返していく

最初に針を通した1目まで返したら、頂点の反対側にある1目までを通常の平縫いで縫い進める。現状で返し縫いをした目は4目だが、残る反対側の2目は、先の1目まで到達した時点で、再び返す

29





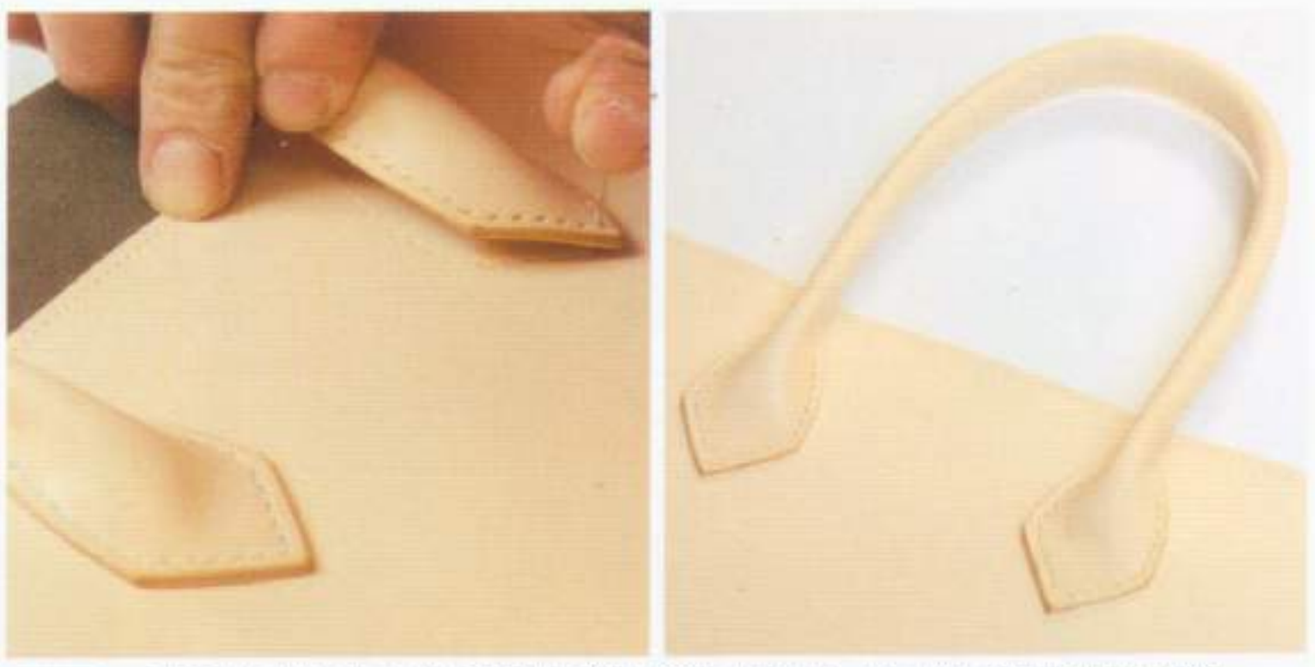
30 胴が幅広のために縫いにくいが、1つ1つの菱目を確認しながら、最後の1目まで縫い進める



31 先に返し縫いをした1目まで縫い終えたら(写真右)、そこから2目を返して縫い、最終的に付け根の両側3目を返す



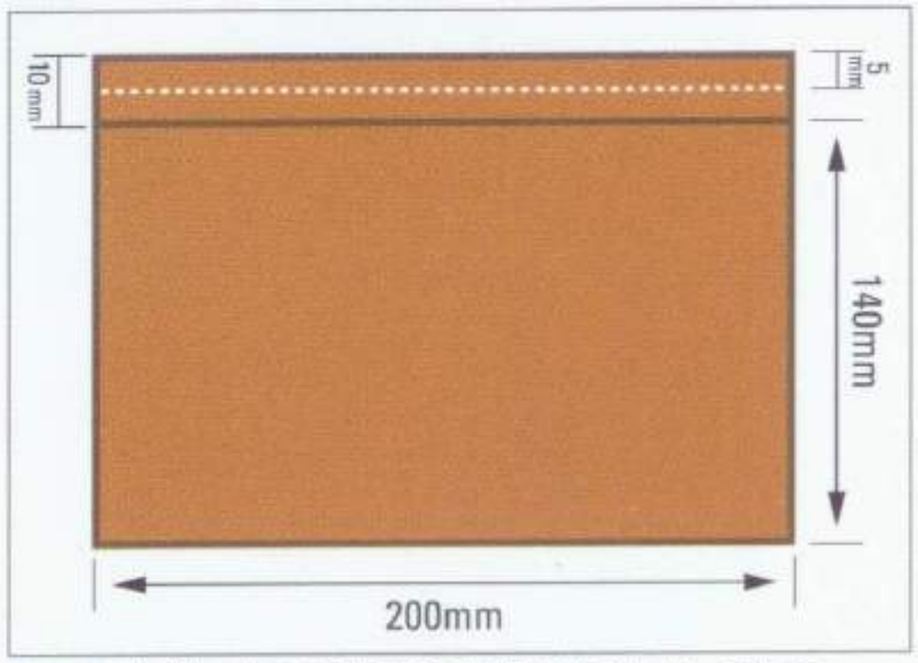
32 最後の1目はハンドル側の糸を胴の床面側に通し、ここ(写真)でしっかりと結んで処理をする



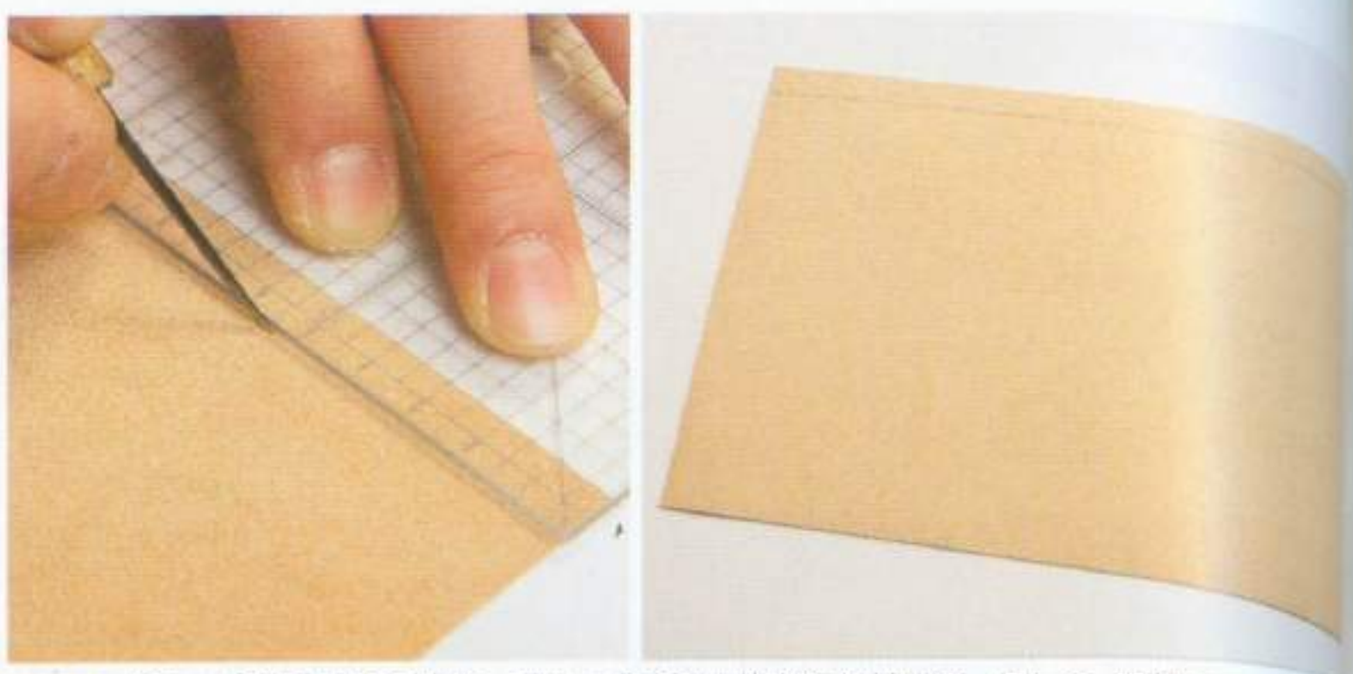
33 一方のハンドルも同様の手順で縫い合わせれば、ハンドルの取り付けは終了。両方の胴にハンドルが付くので、残りの胴でも同じ作業を済ませておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●内ポケットの取り付け



1 内ポケットの口に強度を保たせるため、口にあたる1cm幅を落り返して貼り合わせる



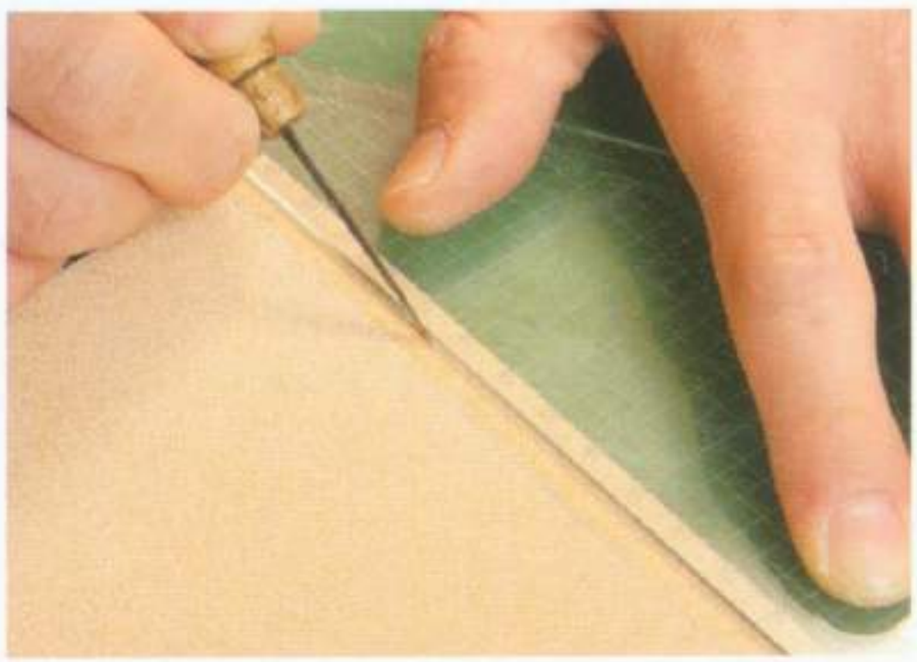
2 ポケットの口にする1辺に、10mm幅のけがき線を付ける。そして、現状で1.2mm厚のこの部分を、すき機を使い0.8mm厚まで均等にすく



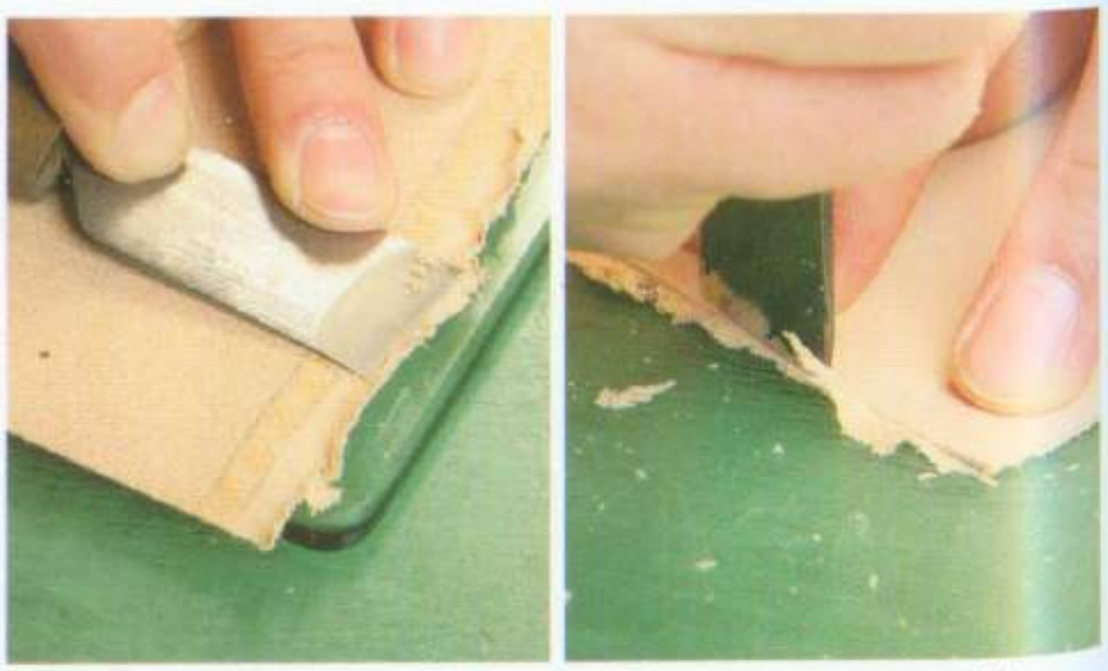
3 すき機は一般的な道具ではないので、この部分のみはすき屋さんに依頼することになる



4 1.2mm厚をコバにする幅のみ0.8mmにすいた所。ポケットの厚みを均等にするため、さらに0.4mmを手すきする



5 ポケットの口を折り返して処理するため、10mm幅にすいた部分をさらに5mm幅へ分ける



6 5mm幅に分けたコバ側全体を、革包丁で0.4mm厚まで手すきする。この作業は、豆カンナでは少し厳しいかもしれない

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



7 コバ側のみをさらに手すきによって0.4mm厚まですき終えた所。これを折り返して貼り合わせれば結果的に1.2mm厚となり、ポケットと同じ厚みを得ながらも、ポケット口となるコバに強度が得られる。これはプロならではの作業なので、省略してコバ磨きのみで済ますこともできる



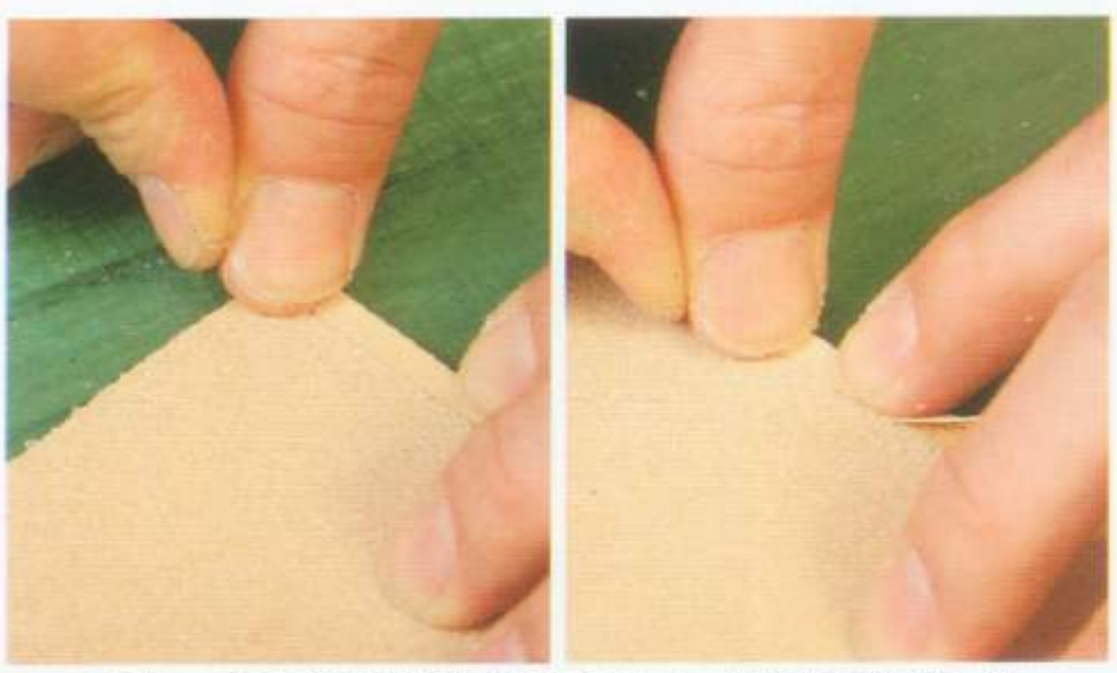
8 折り返す際のくせを付けるため、5mm幅に分けた中心線をカービングナイフなどで軽くなぞる



9 中心線に定規をあてたまま、木ベラなどで0.4mm厚にすいた部分を折り返す。そしてさらに手で返し、折りくせを付ける



10 折り返して貼り合わせる部分に白ボンドを塗る。床面同士なので、この部分は貼り合わせやすい



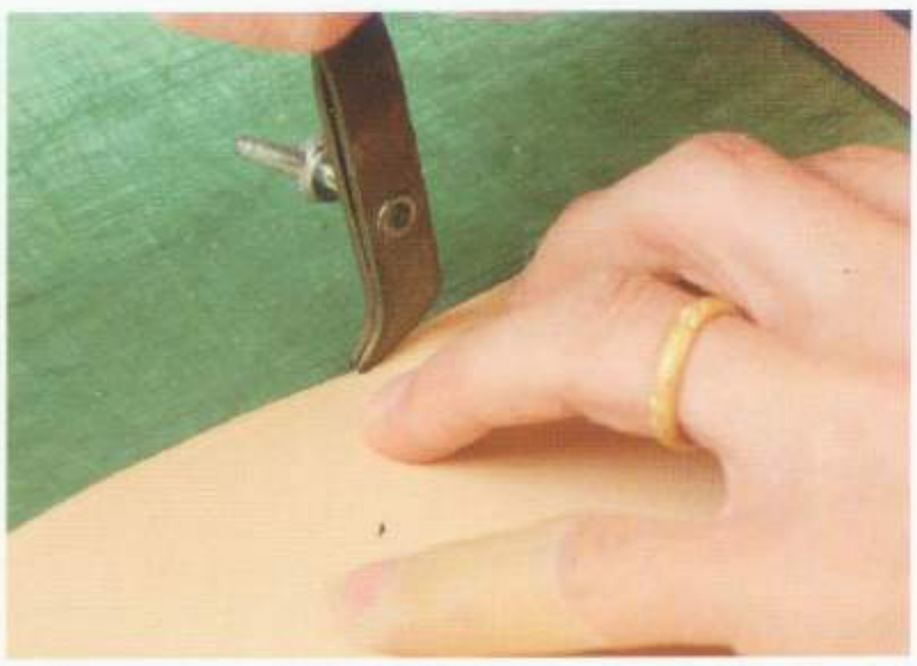
11 0.5mm厚にすいた部分のみを折り、しっかりと圧着する。始めに両端を圧着し、歪みを整えながら中央まで貼り合わせる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





12 貼り合わせた部分が剥がれないよう、ローラーや木ベラなどを使ってさらに圧着する



13 折り返したコバにワンポイントを与えるため、ねじネンで飾り線(ここでは2mm幅)を引く



14 製作したポケットに型紙を合わせ(コバの良い部分を取る)、アウトラインをトレースする



15 アウトラインに従ってポケットを裁断し、ポケット口を除く3辺へ、"コ"の字型に3mm幅の縫い線を引く



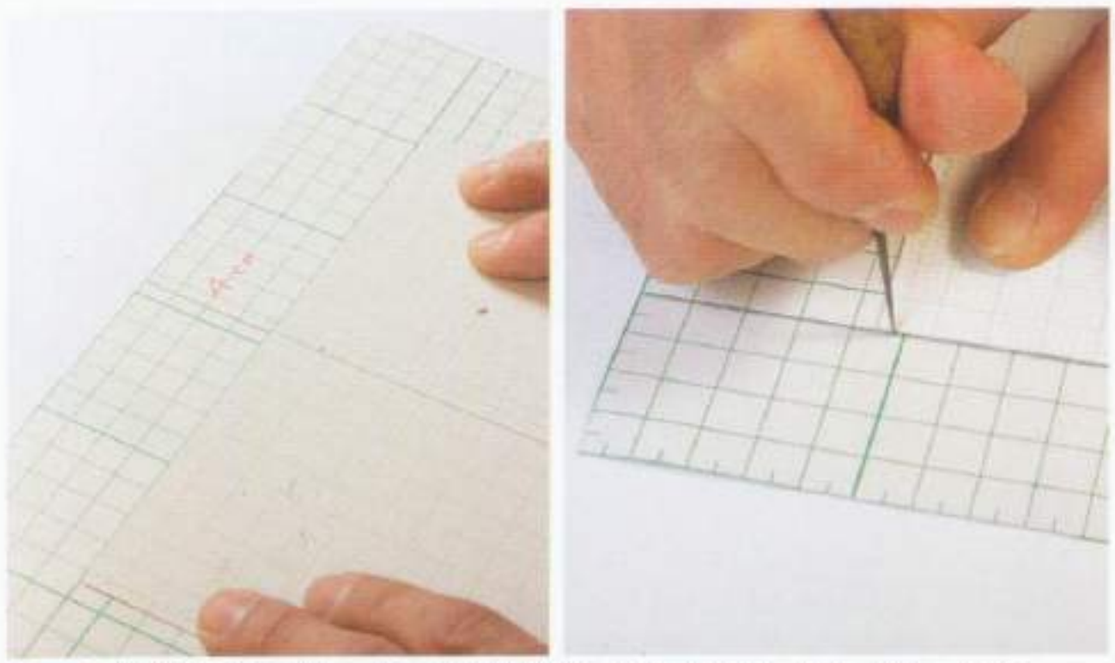


16 胴(内革)に縫い合わせてからでは磨けないので、縫い線を引いた3辺のコバを磨いておく

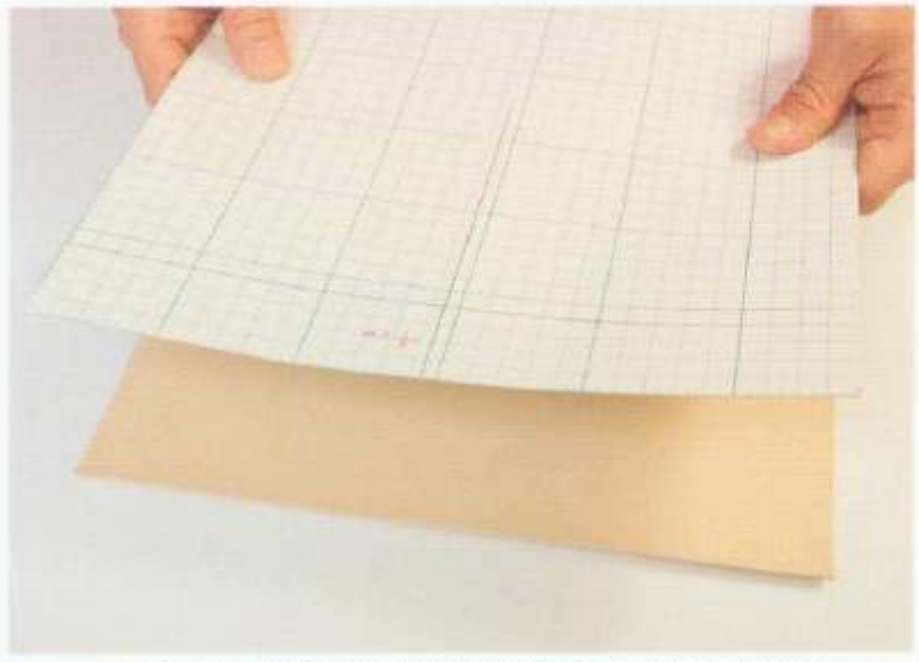


17 縫い線に従って菱目(マチの上縁と同じ、細かいピッチの菱目打を使用)を打てば、ポケットは完成

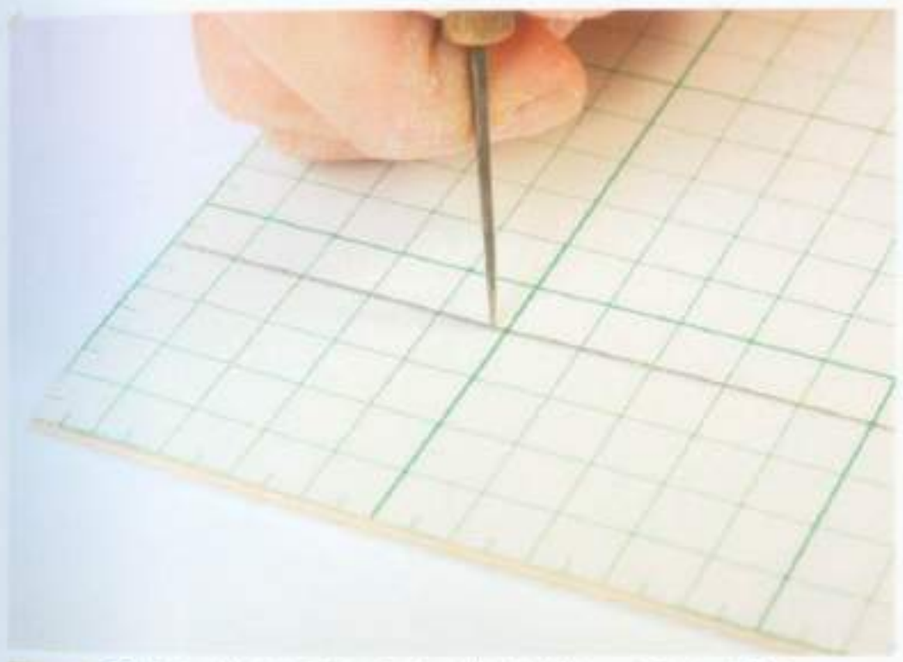
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



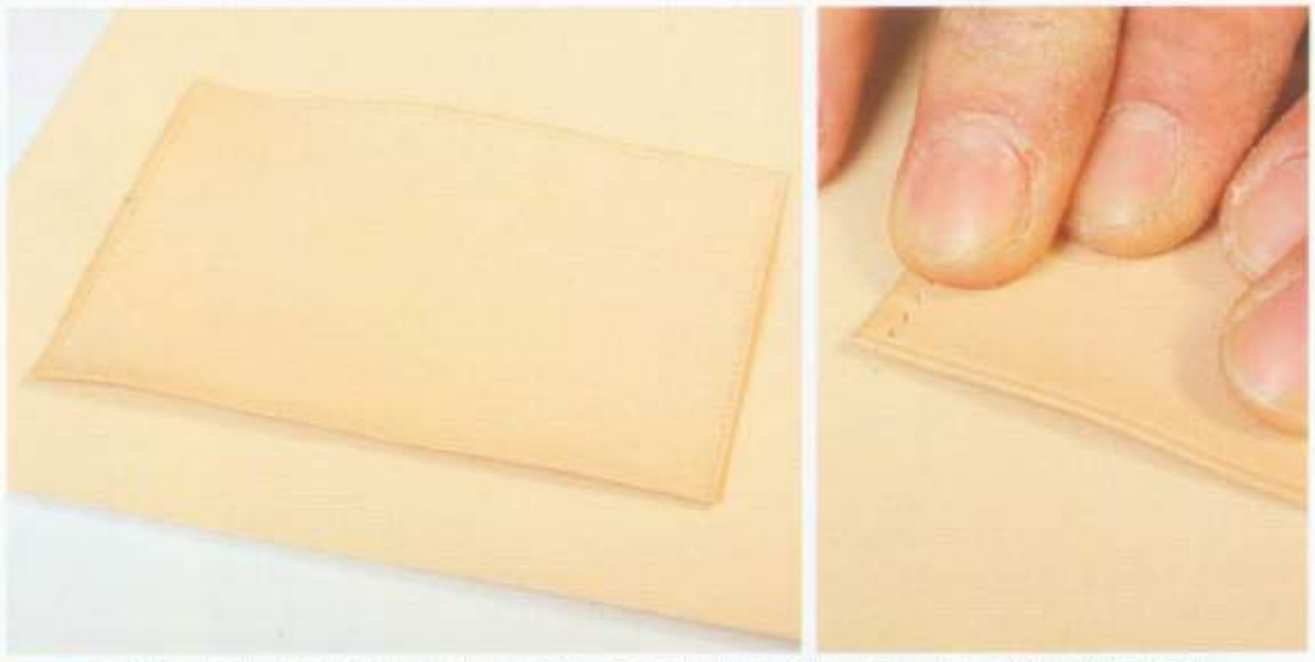
18 胴(内革)にポケット取り付け位置を印すため、胴とポケットの型紙を合わせ、縫い線のライン上に丸ギリで印を付ける



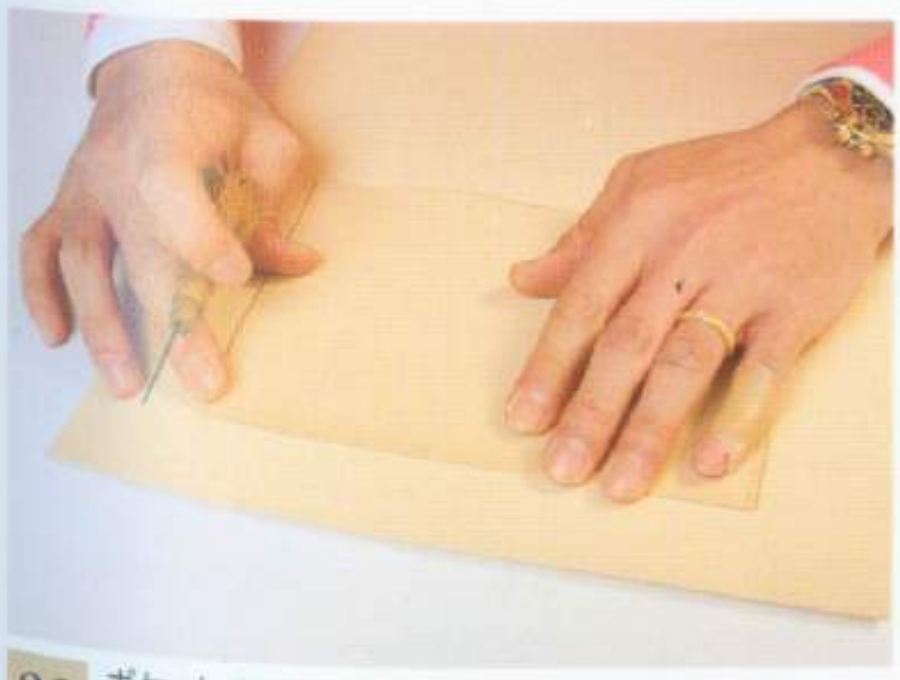
19 ポケットの取り付け位置を印した型紙を、胴(内革)の銀面にピッタリと合わせる



20 型紙に付けた印から丸ギリを刺し、胴(内革)にポケットの縫い線端を印す



21 ポケットを胴(内革)の上に乗せ、胴に付けた印とポケットの縫い線端を合わせる(ポケット口の両端にあたる)

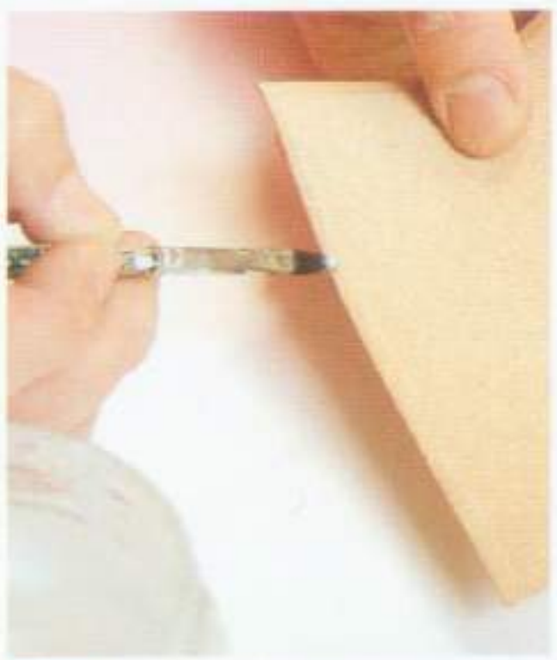


22 ポケットのアウトラインをトレースするため、合わせた状態を保ちつつ、位置を整える



23 ポケットがずれないようにしっかりと押さえ、ポケット口を除く3辺にごく薄くアウトラインを引く

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





24 ポケットの菱目より外側と、胴(内革)に引いた"コ"の字型のアウトライン内側3mm程に白ボンドを塗る



25 先に縫い線の上端と胴の印を合わせ、3辺をアウトラインに沿ってピッタリと貼り合わせる

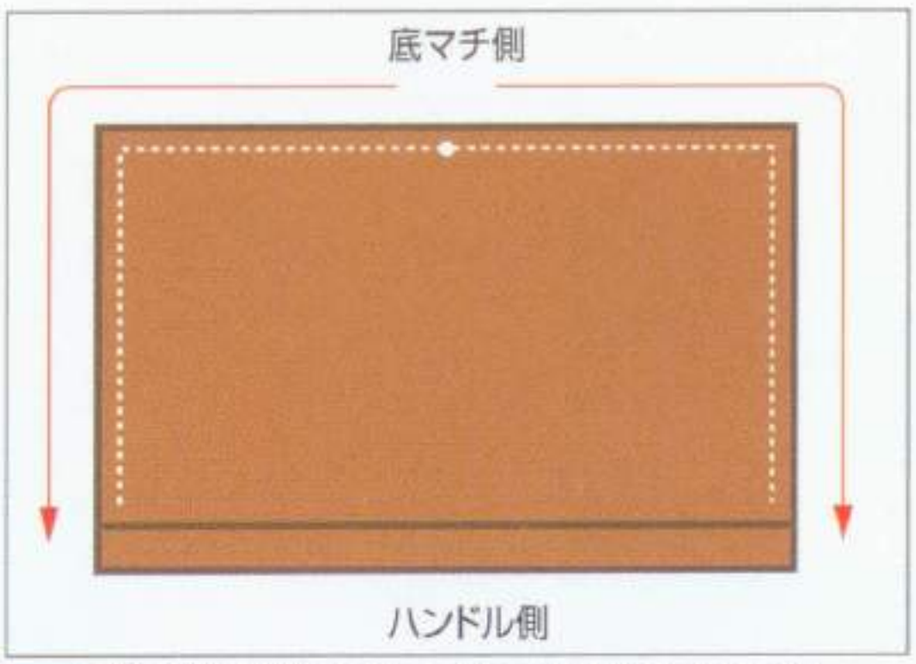




26 貼り合わせた3辺を、ウエスやローラーなどを使いしっかりと圧着。その後、完全に乾燥させるためにしばらく待つ

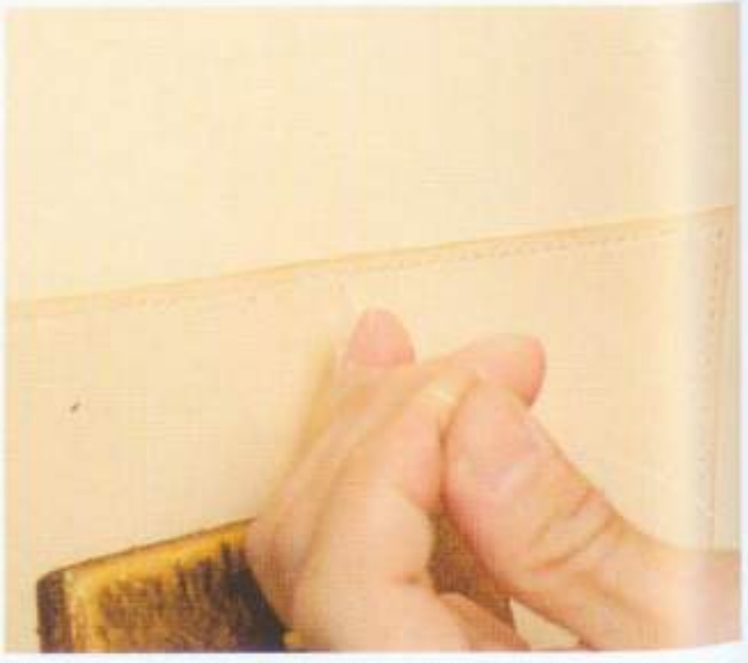


27 ポケットに打った菱目に従い、まだ菱目を開けていない胴(内革)まで菱目を打つ



28 縫う範囲が広いので、ポケットの底を中心で分け、それぞれの端へ向かって縫い進める

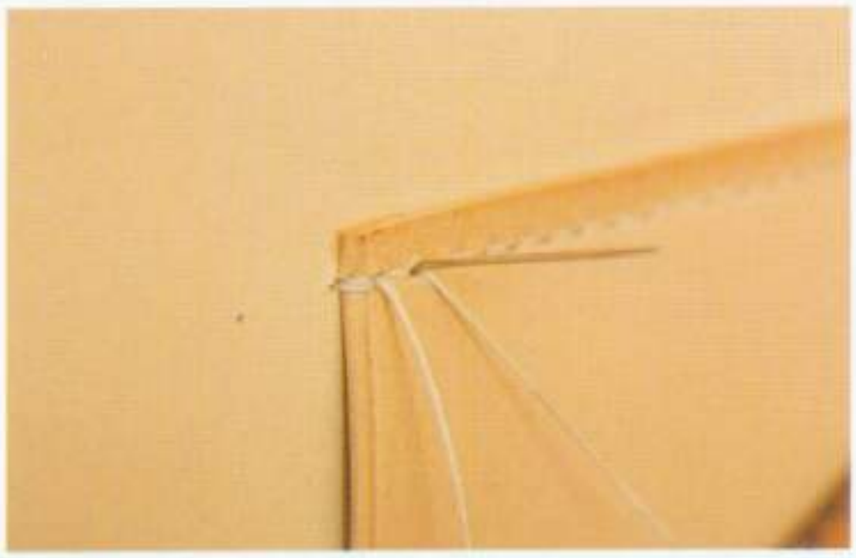




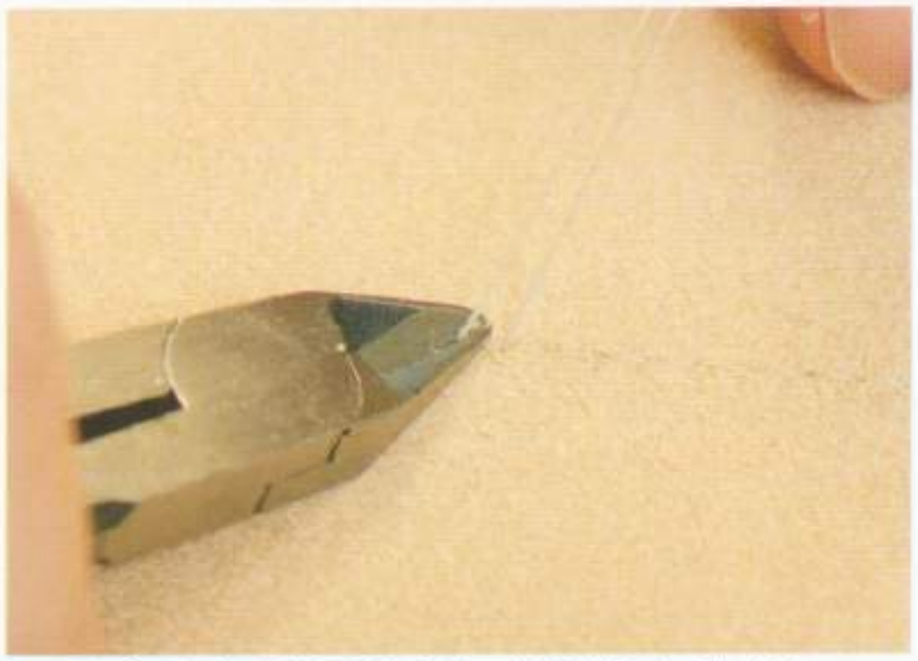
29 ポケット底の中央から、どちらでも良いので任意の方向へ縫い始める。ここでは特に目を返さず、ポケット口まで平縫いで縫い進めていく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

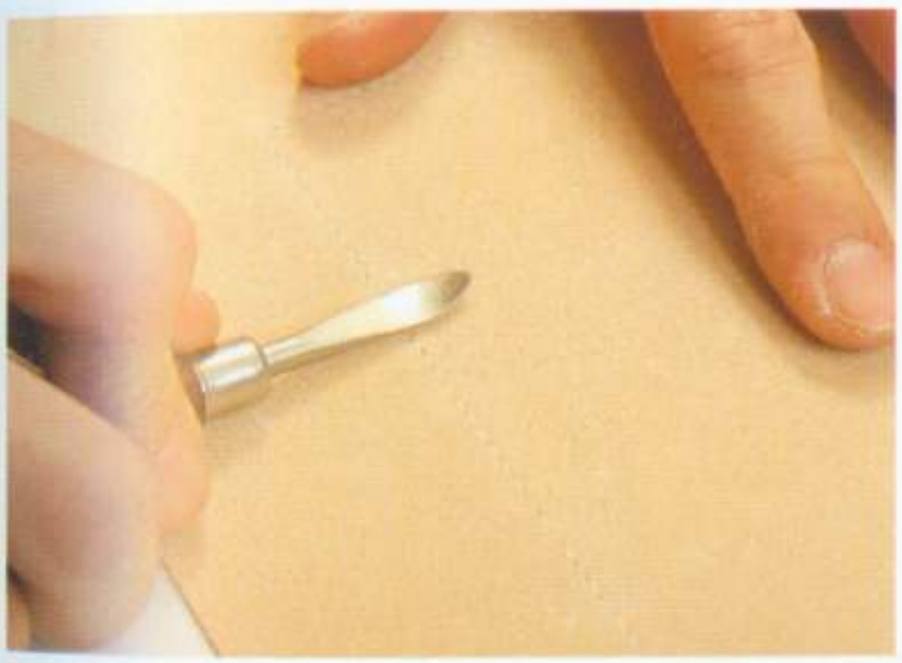
CHECK!



30 縫い終わりの部分は、胴(内革)に付けた印の穴を利用して2目返し、強度を保たせる

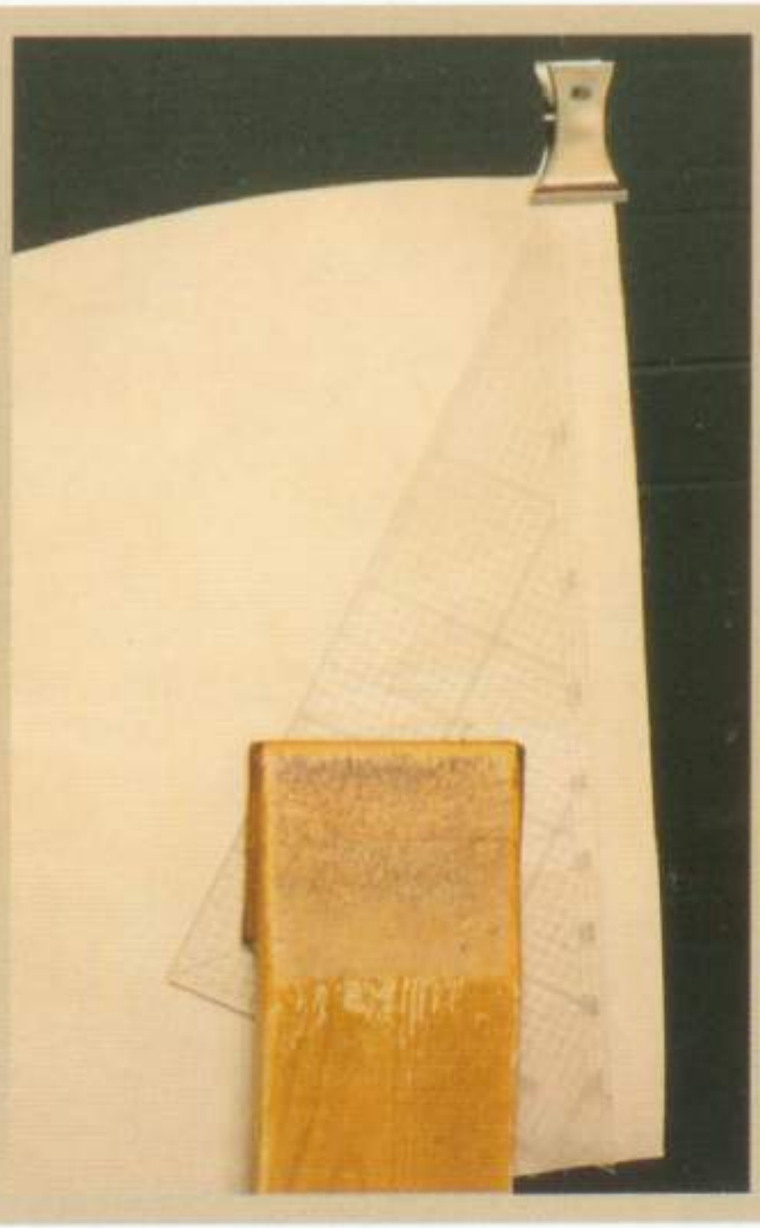


31 余った糸は床面側に通し、切断後に白ボンドを塗って処理をする

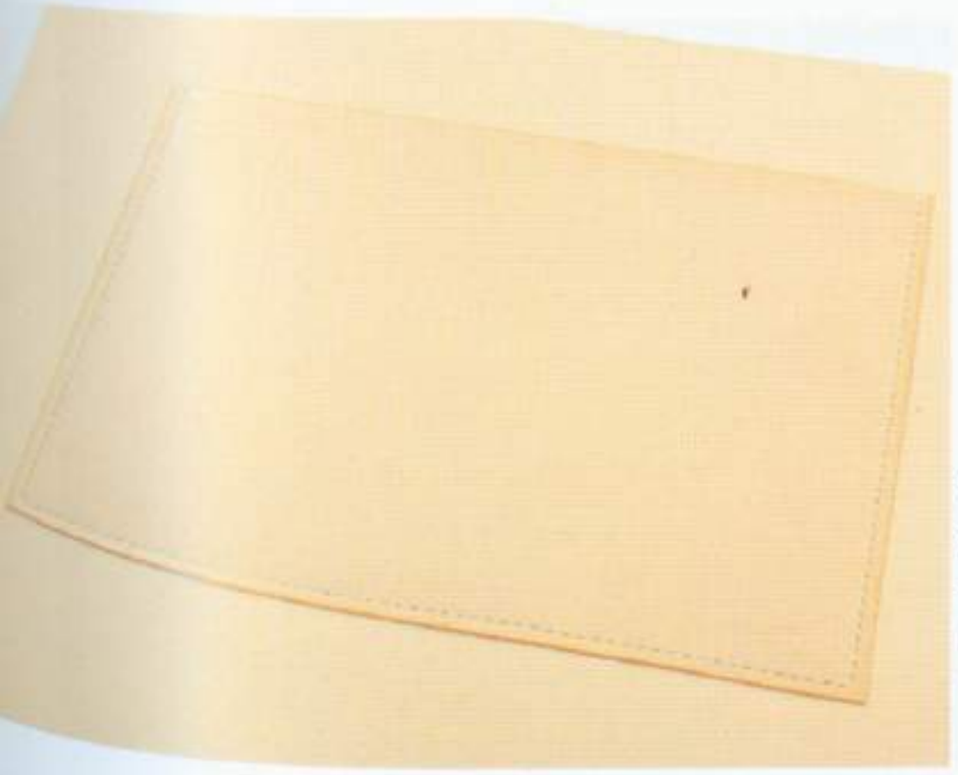


32 最後に、床面側から縫い目を均し、ポケット側の縫い目をきれいに整えておく

POINT



胴のような幅広いパーツに別のパーツを縫い合わせる際は、縫う場所によって抑えが効かなくなり、非常に手間が掛かる。そのような時は手近な物をレース台へ一緒に挟むと、安定して縫う作業を進めることができる

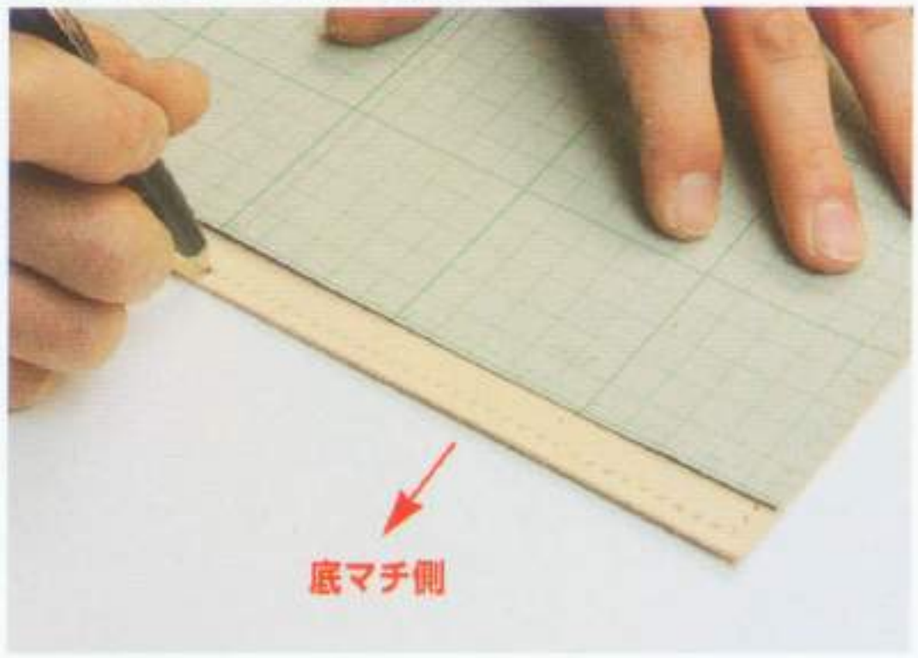


胴(内革)に縫い合わせたポケット。好みにより片側でも両側でも、自由に取り付けることができる

33

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●胴の内革を貼り合わせる



1 胴と胴(内革)を貼り合わせる前に、胴の底マチ・中心にあたる菱目に印を付ける。



2 ポケットの口を見て天地を確認し、胴と胴(内革)の床面同士を貼り合わせる





3 始めは、各胴の上縁を揃えて貼り合わせる。胴の菱目より外側と、胴(内革)のコバから5mm程度の範囲に白ボンドを塗る



4 先に上縁の両角をピッタリと合わせ、そこから中央に向かって貼り合わせていく

POINT





途中で白ボンドが乾いてしまった時は、再び白ボンドを塗って貼り合わせる。水溶性なので、ある程度は重ね塗りしても問題ない



ハンドルの部分は込み入っているので、接着面を手前に引き出すようにして確実に貼り合わせる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





5 上縁を正確に貼り合わせたら、次は同様にして底マチ側を貼り合わせる





6 最後に、脇マチと縫い合わせる両側面を貼り合わせる。接着する幅が広いので2〜3回程度に分けてボンドを塗り、少しずつ貼り合わせても良い



7 各胴を貼り合わせた胴。全面を接着していないため、革本来のしなやかさが残っている



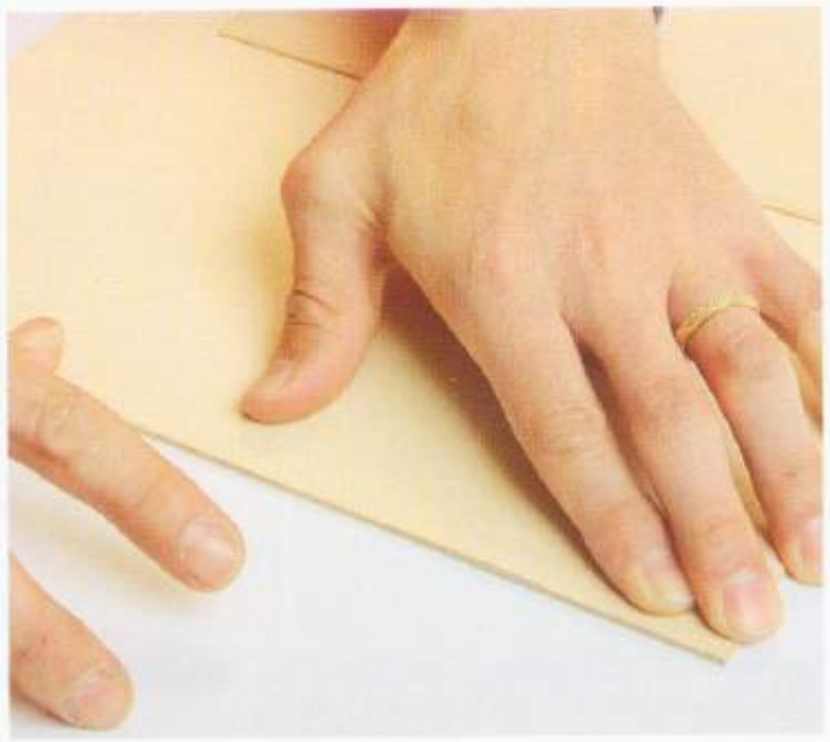
8 貼り合わせた胴(内革)に菱目を開けるため、胴の菱目に従って全側面("ロ"の字)へ菱目打を打つ



9 ハンドル取り付け部の上縁(飾り縫い部)は、ハンドルを避けて2本目の菱目打を用いる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





上縁を正確に貼り合わせたら、次は同様にして底マチ側を貼り合わせる

5





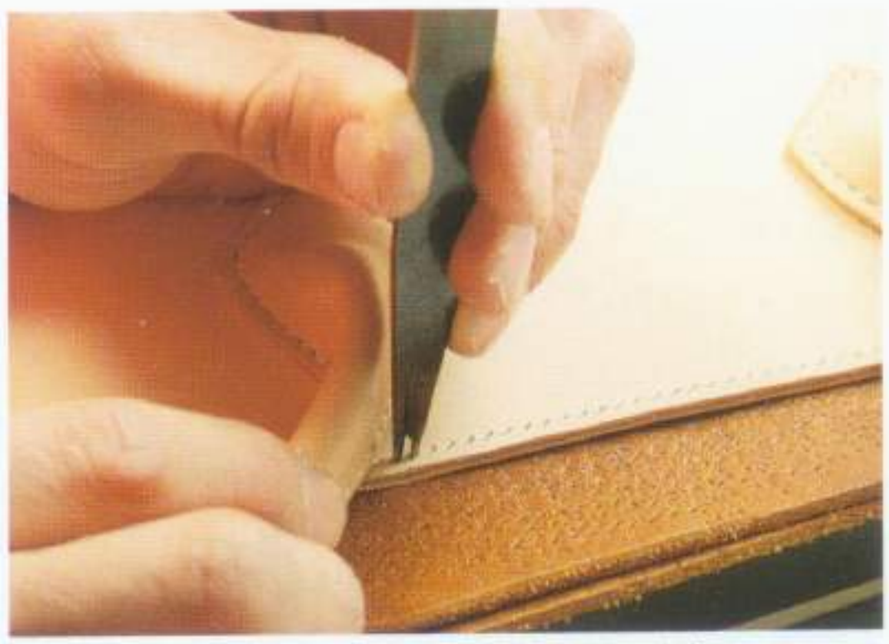
6 最後に、脇マチと縫い合わせる両側面を貼り合わせる。接着する幅が広いので2〜3回程度に分けてボンドを塗り、少しずつ貼り合わせても良い



7 各胴を貼り合わせた胴。全面を接着していないため、革本来のしなやかさが残っている

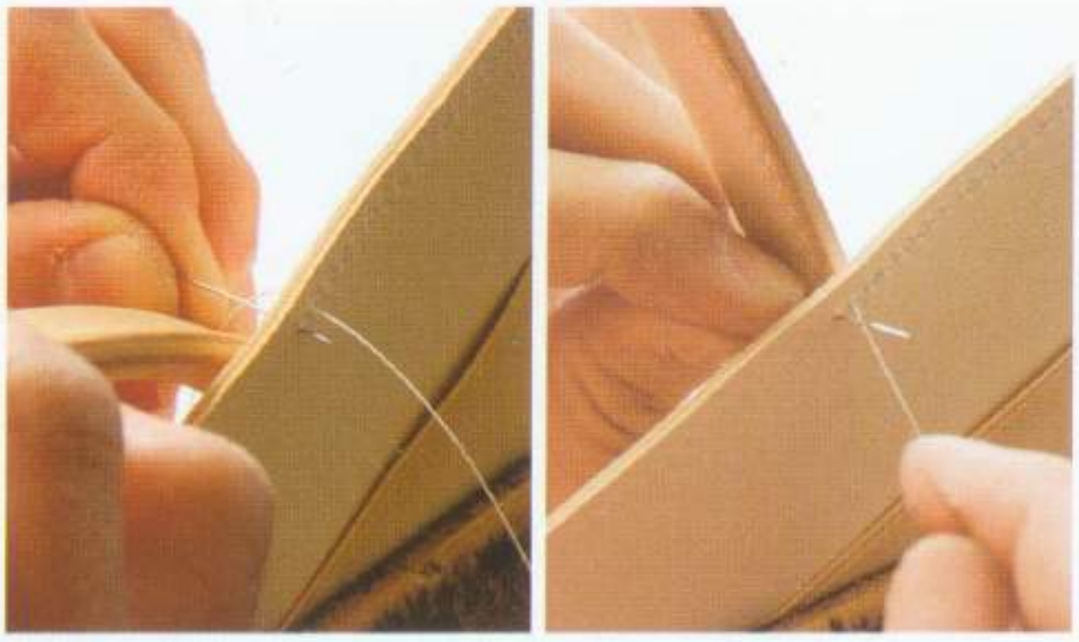


8 貼り合わせた胴(内革)に菱目を開けるため、胴の菱目に従って全側面("ロ"の字)へ菱目打を打つ

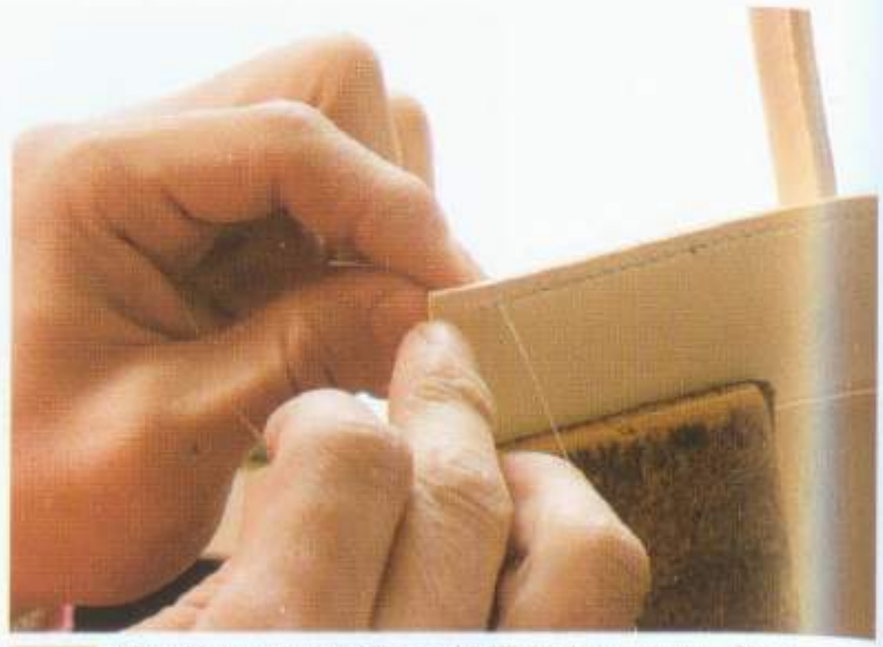


9 ハンドル取り付け部の上縁(飾り縫い部)は、ハンドルを避けて2本目の菱目打を用いる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



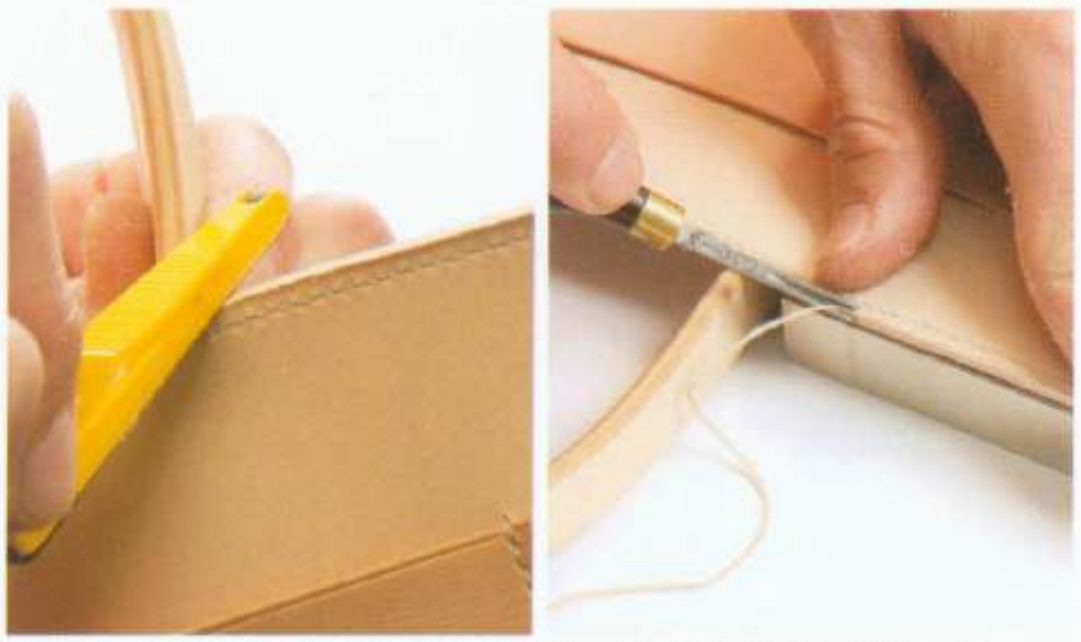
10 胴の上縁を端から飾り縫いする。縫い始めは1目返し、ハンドルの部分はこれを避けながら縫い進める



11 縫い終わりも1目返して処理をする。なお、飾り縫いには30×3の細い糸を使用している



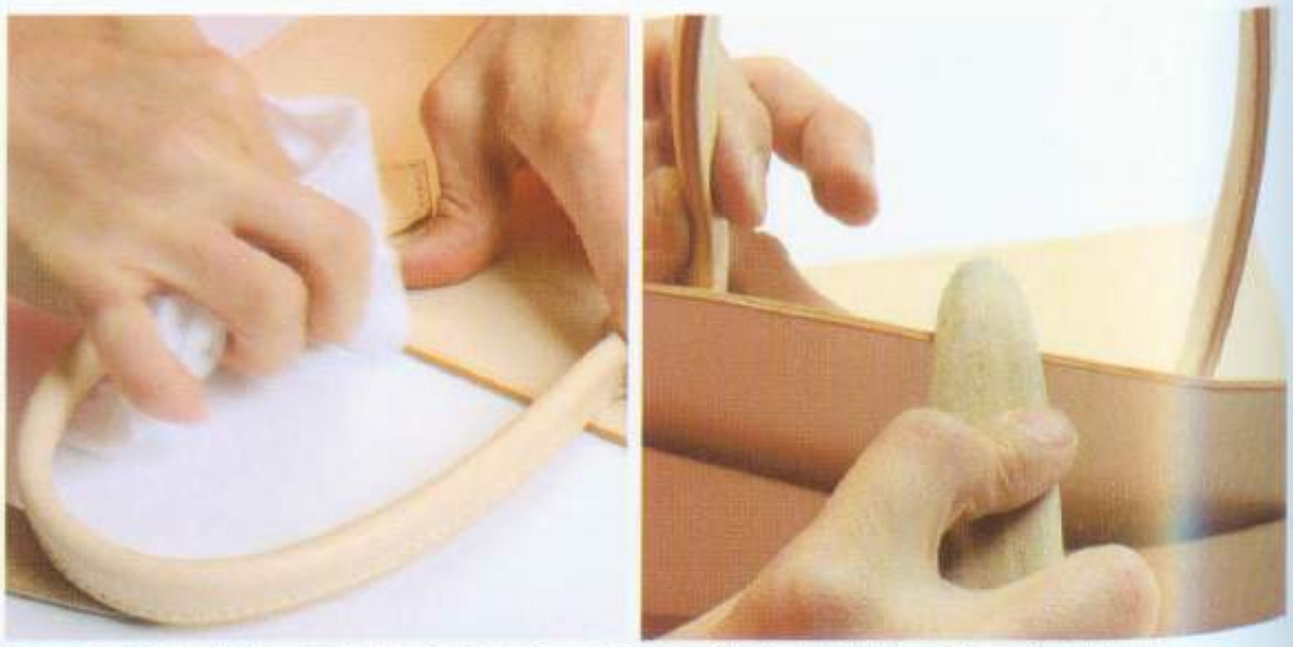
12 上縁の飾り縫いを終えた所。この後は、飾り縫いをした部分のコバを磨いていく



13 コバをドレッサーで均し、角が立ったヘリをごく軽く落としておく。ハンドルに傷を付けないよう注意が必要



14 均したコバにトコノールを塗る。落としたヘリにも塗布するが、縫い目に付かないよう注意する



15 きれいなウエスと木ベラを用い、満足いく仕上がりが得られるまで繰り返し磨く。ウエスで磨く時は、内革側を下にして置くと磨きやすい

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

POINT





ハンドル取り付け部はハンドルが干渉するために磨きづらいが、これを左右に避けるようにして磨く。外側から目にする部分なので、周りのコバと同じく丹念に磨いておきたい





コバ磨きまでを終えた胴。もう一方の胴にも同じ作業を施し、2つの胴を完成させる。2つの胴が揃えば、この後はいよいよ通しマチと縫い合わせる

POINT



ポケットの付け方1つでも、工夫をすることで仕上がりが大きく異なってくる。これは、この後に縫い合わせる通しマチと同じ方法を用いて付けたポケットだが、ポケットの収納力を増やすには有効な手だといえる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

POINT





ハンドル取り付け部はハンドルが干渉するために磨きづらいが、これを左右に逃げるようにして磨く。外側から目にする部分なので、周りのコバと同じく丹念に磨いておきたい





コバ磨きまでを終えた胴。もう一方の胴にも同じ作業を施し、2つの胴を完成させる。2つの胴が揃えば、この後はいよいよ通しマチと縫い合わせる

POINT



ポケットの付け方1つでも、工夫をすることで仕上がりが大きく異なってくる。これは、この後に縫い合わせる通しマチと同じ方法を用いて付けたポケットだが、ポケットの収納力を増やすには有効な手だといえる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

POINT





ハンドル取り付け部はハンドルが干渉するために磨きづらいが、これを左右に避けるようにして磨く。外側から目にする部分なので、周りのコバと同じく丹念に磨いておきたい





コバ磨きまでを終えた胴。もう一方の胴にも同じ作業を施し、2つの胴を完成させる。2つの胴が揃えば、この後はいよいよ通しマチと縫い合わせる

POINT



ポケットの付け方1つでも、工夫をすることで仕上がりが大きく異なってくる。これは、この後に縫い合わせる通しマチと同じ方法を用いて付けたポケットだが、ポケットの収納力を増やすには有効な手だといえる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

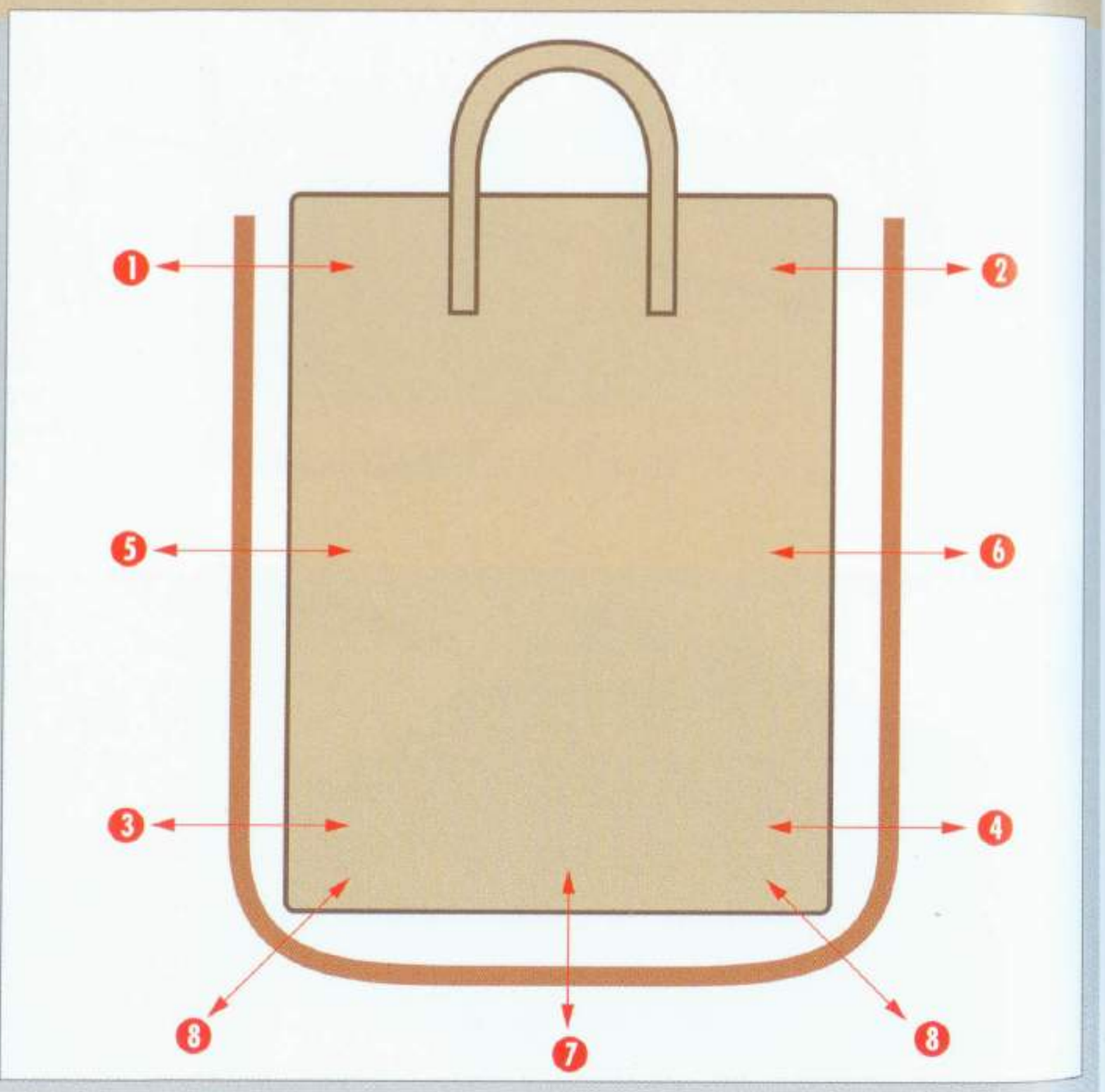
■胴とマチを縫い合わせる



複数あったパーツは、完成を前に「胴」2つ、「通しマチ」1つの、大きな3つのパーツのみになります。片側の胴と通しマチを完全に縫い合わせ、その後に残りの胴を縫い合わせる、といった内容が主な流れになりますが、各パーツが大きい分、作業量が増えるだけで、作業内容自体は決して難しいものではありません

貼り合わせる順序

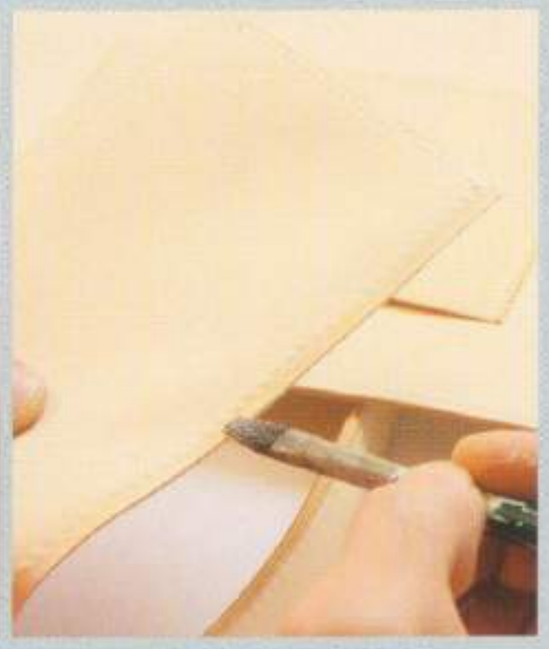
胴と通しマチを縫い合わせる際はこれまでと同様、先に縫い合わせるパーツ同士を接着し、乾燥した後に縫製を進めていく。しかし、胴と通しマチは共に大きなパーツで接着しづらく、なおかつ双方に開けた菱目も正確に揃えなければならない。このため、各部位ごとに貼り合わせていく順序を定め、各部の菱穴を確実に揃えていく。貼り合わせていく順序は右記イラストの通りなので、これと作業工程の解説を元に、確実にパーツを貼り合わせてほしい。なお、接着にはこれまでと同様に白ボンドを用いるが、胴側・通しマチ側共にこれを塗る範囲は、菱目よりも外側として作業を進める



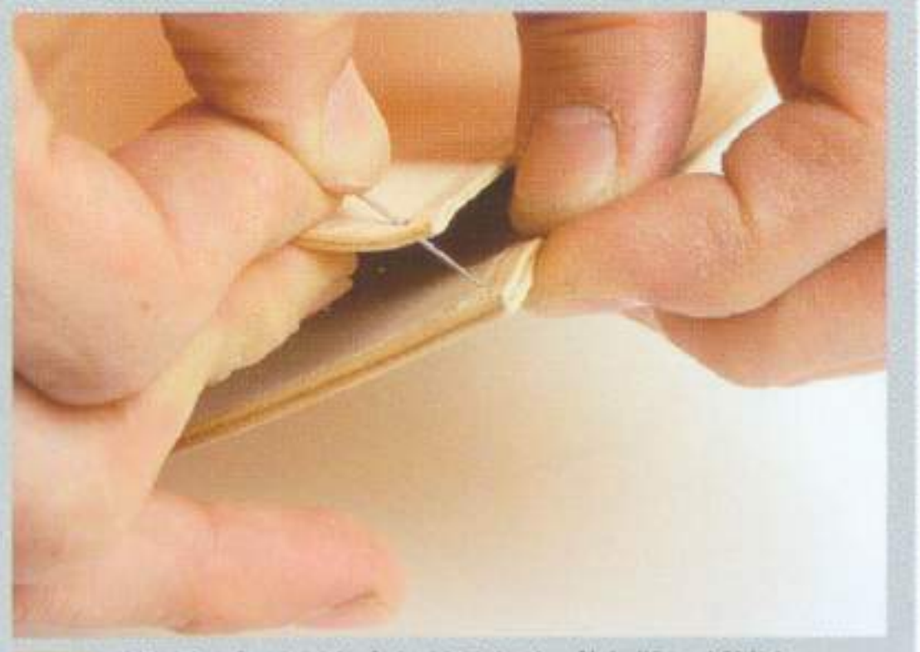
1

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

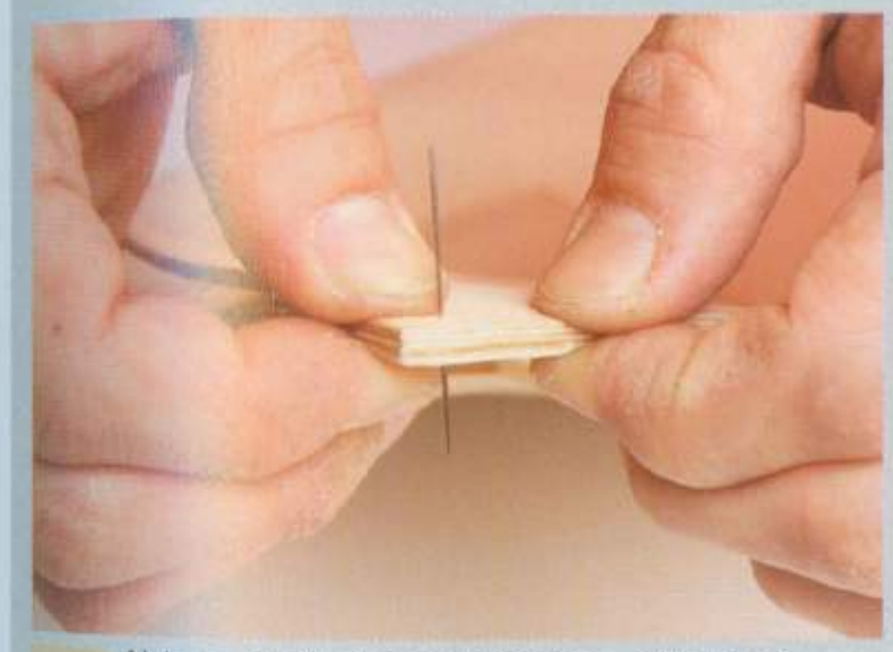




2 工程の始めに解説した通り、最初は上縁の角付近から接着する。どちらの角からでも良いので、両側面へ均等に白ボンドを塗る



3 菱目をピッタリと合わせるため、飾り縫いが済んだ角よりも1つ手前の菱目に針を通す



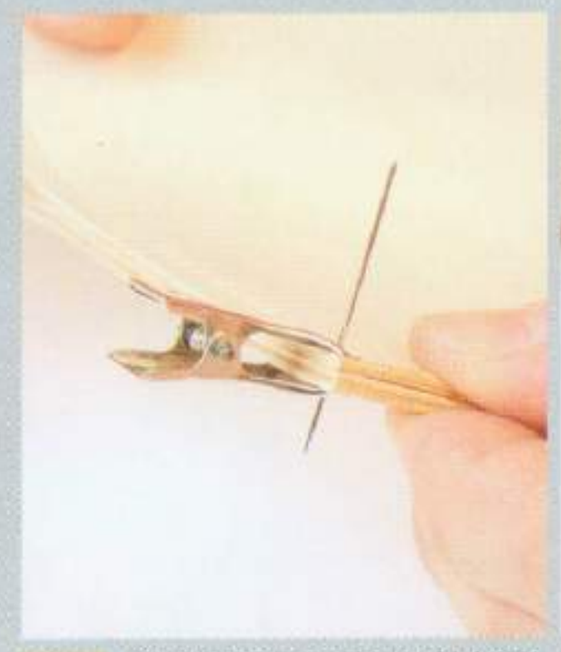
4 針を真っ直ぐに立てて菱目を揃え、角をピッタリと合わせて接着面を貼り合わせる



5 接着面が乾くまでクリップで固定する。ここでは、クリップで留めている程度の範囲を接着する



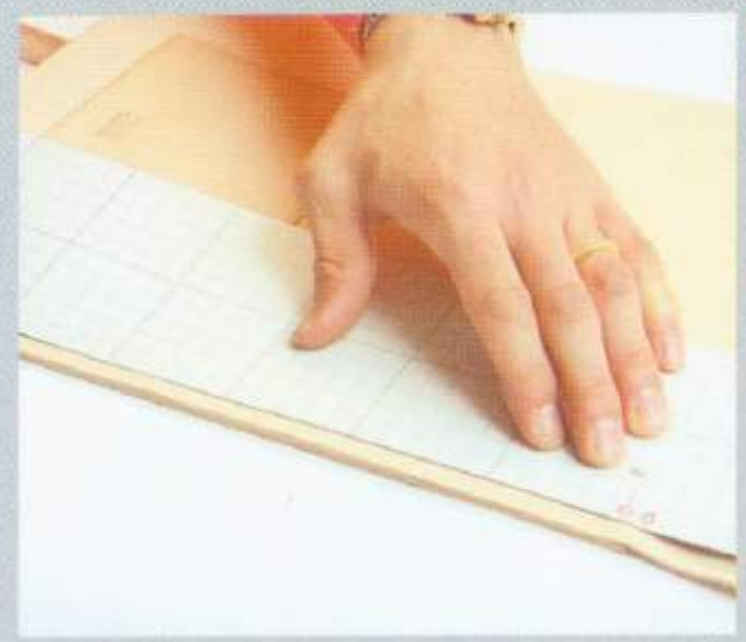
6 続けて、残る反対側の上縁・角を接着する。先の作業と同様、まずは接着面に白ボンドを塗る





7 角から1つ目の菱目に針を通し、両角をピッタリと揃えて接着。接着面をクリップで固定し、ある程度乾燥するまで待つ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





8 次は、底マチの両角から脇マチへ掛ける側面を貼り合わせる。角を正確に揃えるため、通しマチの型紙を並べて、角から1つ手前の菱目を確認する



9 上縁の角を貼り合わせた時と同様、角から1つ手前の菱目に針を通し、位置を揃えて接着する



10 胴の両側面・上下を貼り合わせたら、残る中心付近も貼り合わせていく



11 側面にも菱穴が多数あるため、途中で菱目に針を通し、胴と胴(内革)の菱目が揃っていることを確認しつつ、コバをきれいに揃えながら貼り合わせる





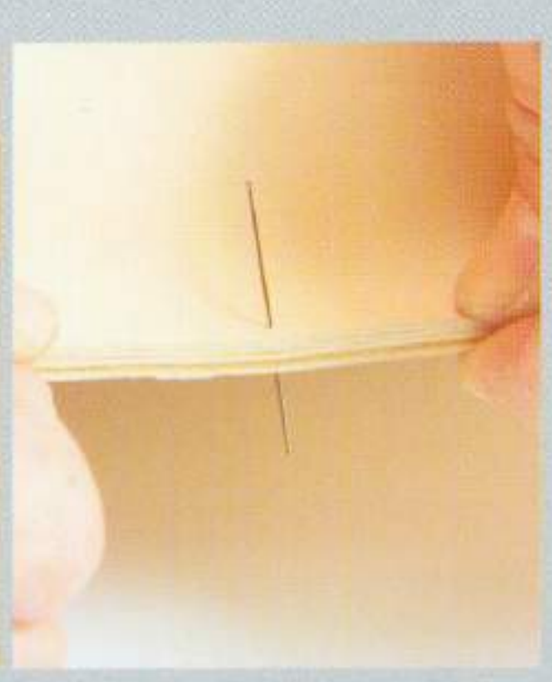
12 同じ手順を繰り返し、反対側の胴側面も貼り合わせる。現状を確認すると、胴の底部(底マチと貼り合わせる部分)を除く全側面が貼り合わさっている



13 底部を貼り合わせる際にも、菱目位置を揃えるために印を付けた中心へ針を刺す

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

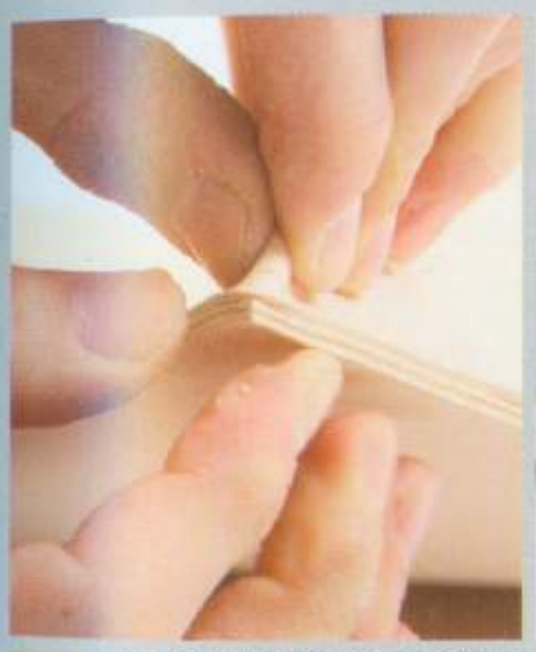




14 底部の中心にあたる菱目を揃えたら、まずはその左右5cm程度に白ボンドを塗って貼り合わせる



15 貼り合わせた箇所がずれないよう、クリップで固定。この後は、中心から各角の間を接着する





16 角を確実に揃えるため、通しマチの角を折り曲げるようにして形を整える。ここでは、木ベラなどを使うと作業を進めやすい



17 通しマチの角にあたる菱目より1つ手前の菱目同士を揃え、これに針を通して揃える





18 角から5cm程度の範囲に白ボンドを塗り、先に揃えた菱目がずれていないことを確認しつつ、角の部分を貼り合わせる



19 接着剤がある程度乾いたら、再び木ベラで角を整え、通しマチ・角の菱目を明確にしておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!



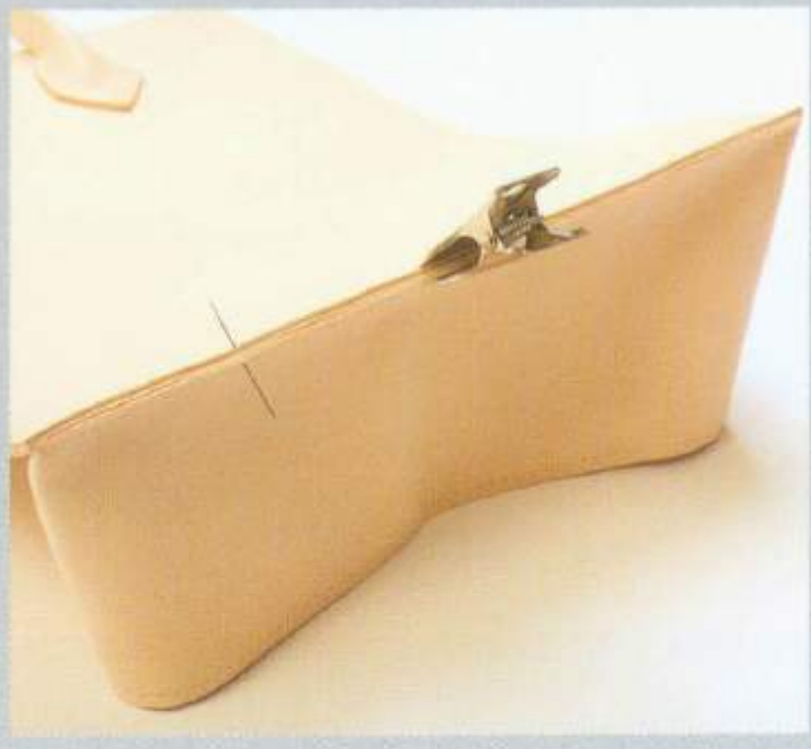
20 角の菱目を揃えることは、この先で胴と通しマチを縫い合わせる際に重要となる。詳しいことはこの角を縫い合わせる工程で明らかとなるが、現状では通しマチの角にあたる菱穴が写真のような状態に位置し、その左右の菱目が揃っていることを確認しておきたい



21 貼り合わせた角から中心に向けた、残りの側面を接着する。この時も途中、底部の1/4程の位置の菱目を確認すると良い



22 反対側の底部も同様に、角から中心に向けて側面同士を貼り合わせる



底部を完全に貼り合わせれば、胴と通しマチの接着は終了。この後は"コ"の字型を縫い合わせる

23

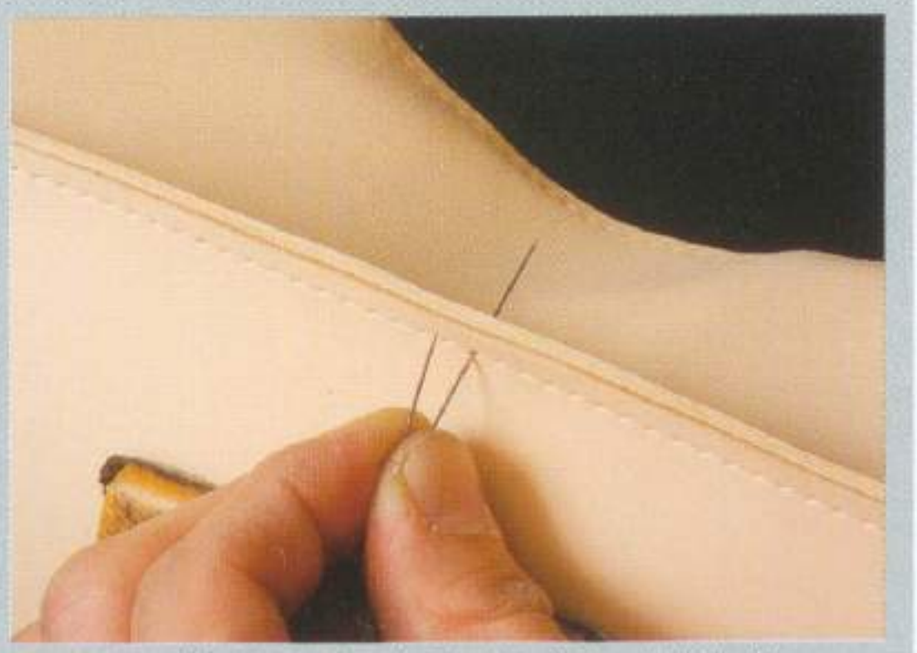


Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

胴と通しマチを縫い合わせる範囲は広い。このため、1本の糸で縫おうとすると大変なので、底部の中心で縫う範囲を分け、赤線の方向へ向けて"L"字型にそれぞれを縫う



24



25 印を付けた底部の中心に糸を通し、始めはどちらか任意の方向へと縫い進める





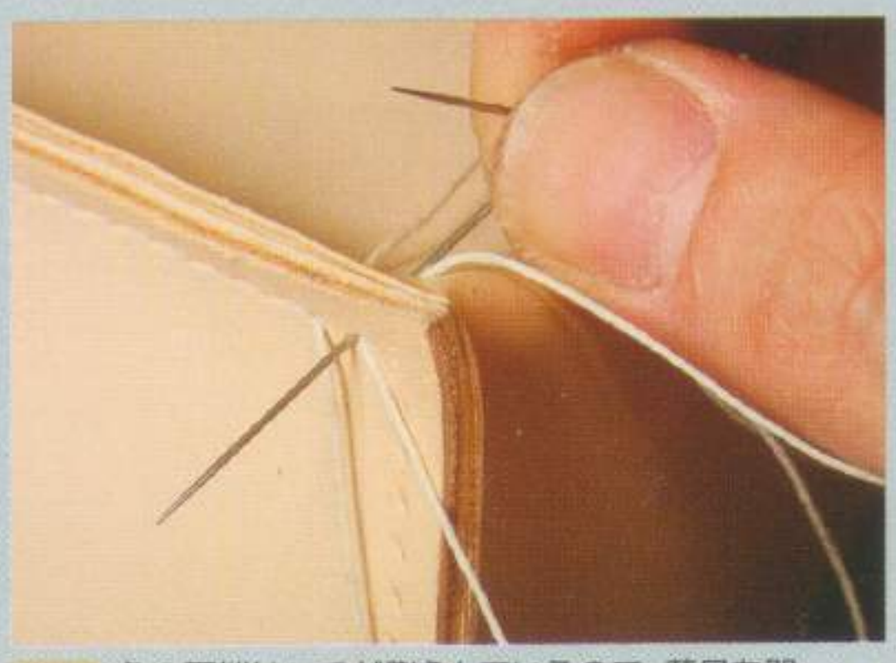
26 縫い始めは、特別に目を返したりはしないので、基本通りの手順で平縫いをすればよい。右の写真は、手前へと縫い進める最初の1目を締めた所



27 最初の1目から縫い進め、そのまま角から1つ手前の菱目まで平縫いを続ける

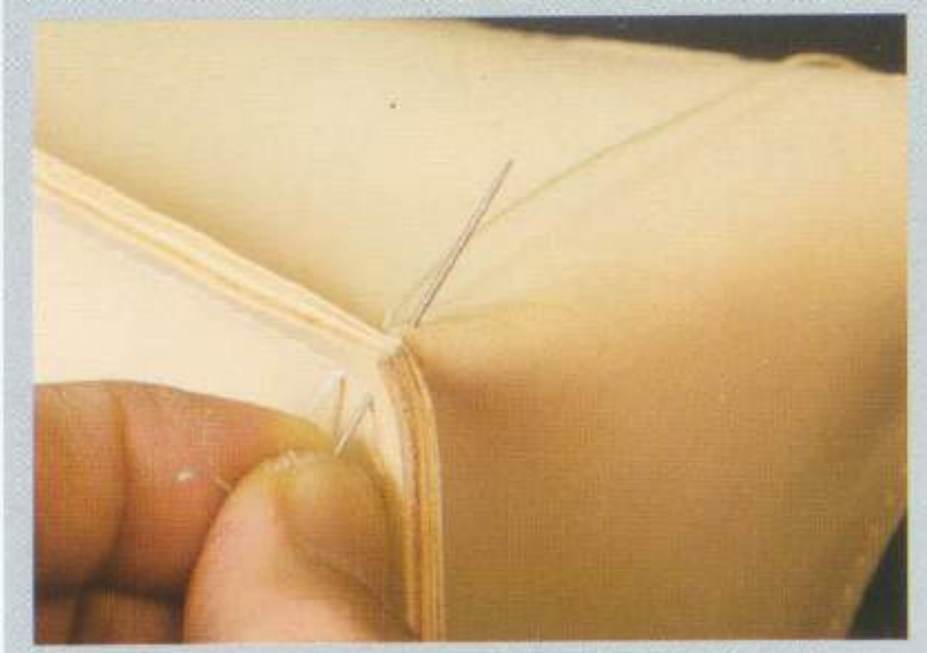


28 角から1つ手前の菱目までは通常の平縫い。従って、ここでもこれまでと同様、左から針を通す

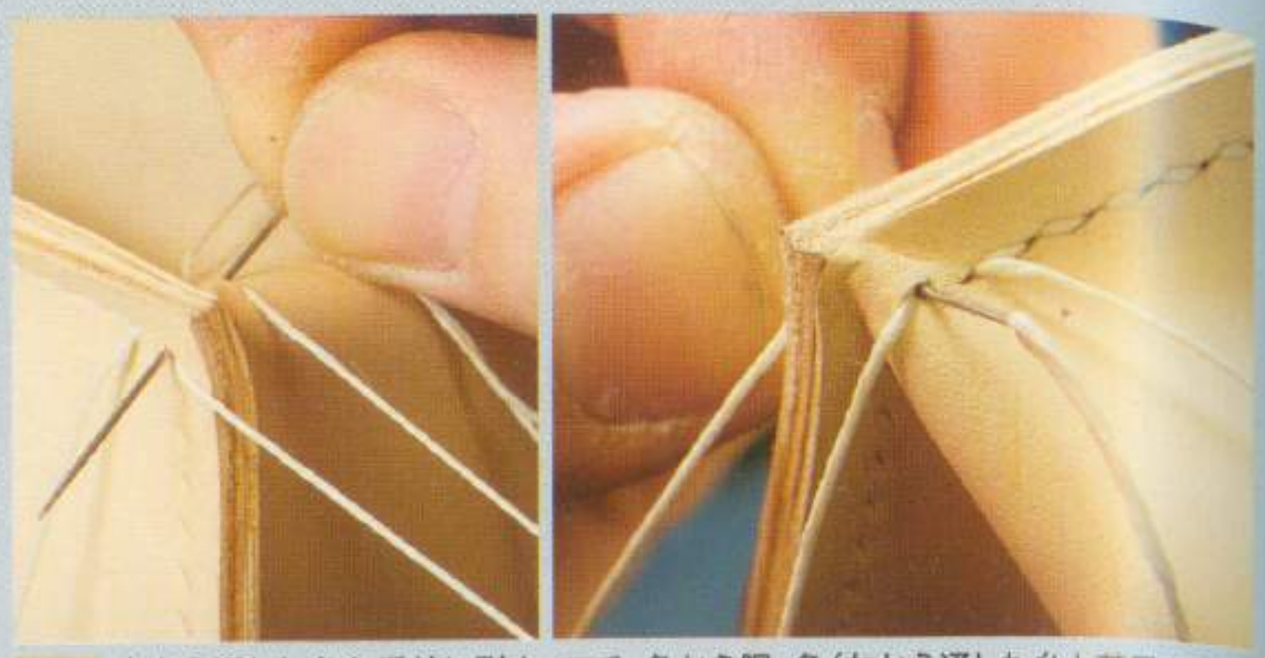


29 角の両端はマチが膨らんでいるので、菱目を間違えないよう形を整えながら、確実に針を通す

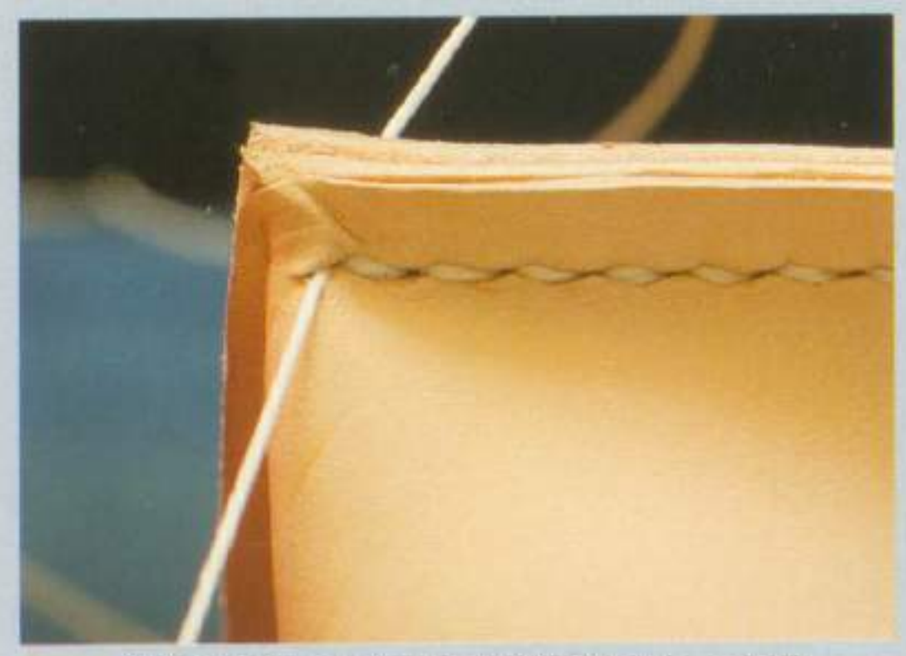
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



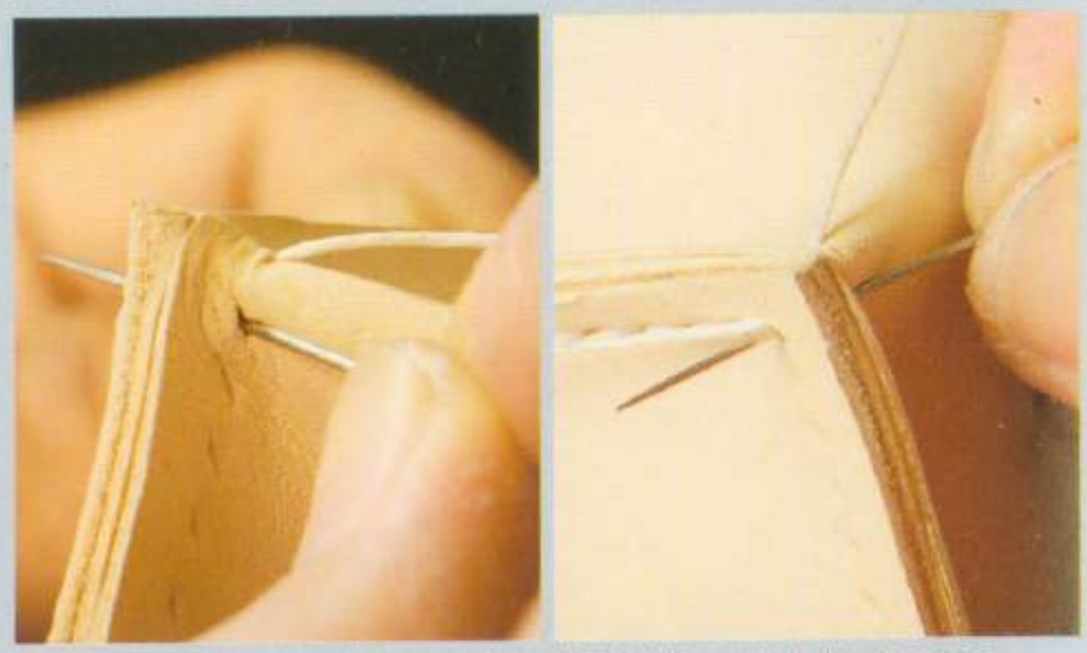
30 角の部分は少し複雑なので注意。まずは左の針を胴・角(菱目)に通し、マチ・角(菱目)に抜く



31 左から通した糸を手前に引き、マチ・角から胴・角(左から通した糸と菱目の間)へ右の針を刺す。そして左の糸を引き、針を糸に通していないことを確認する



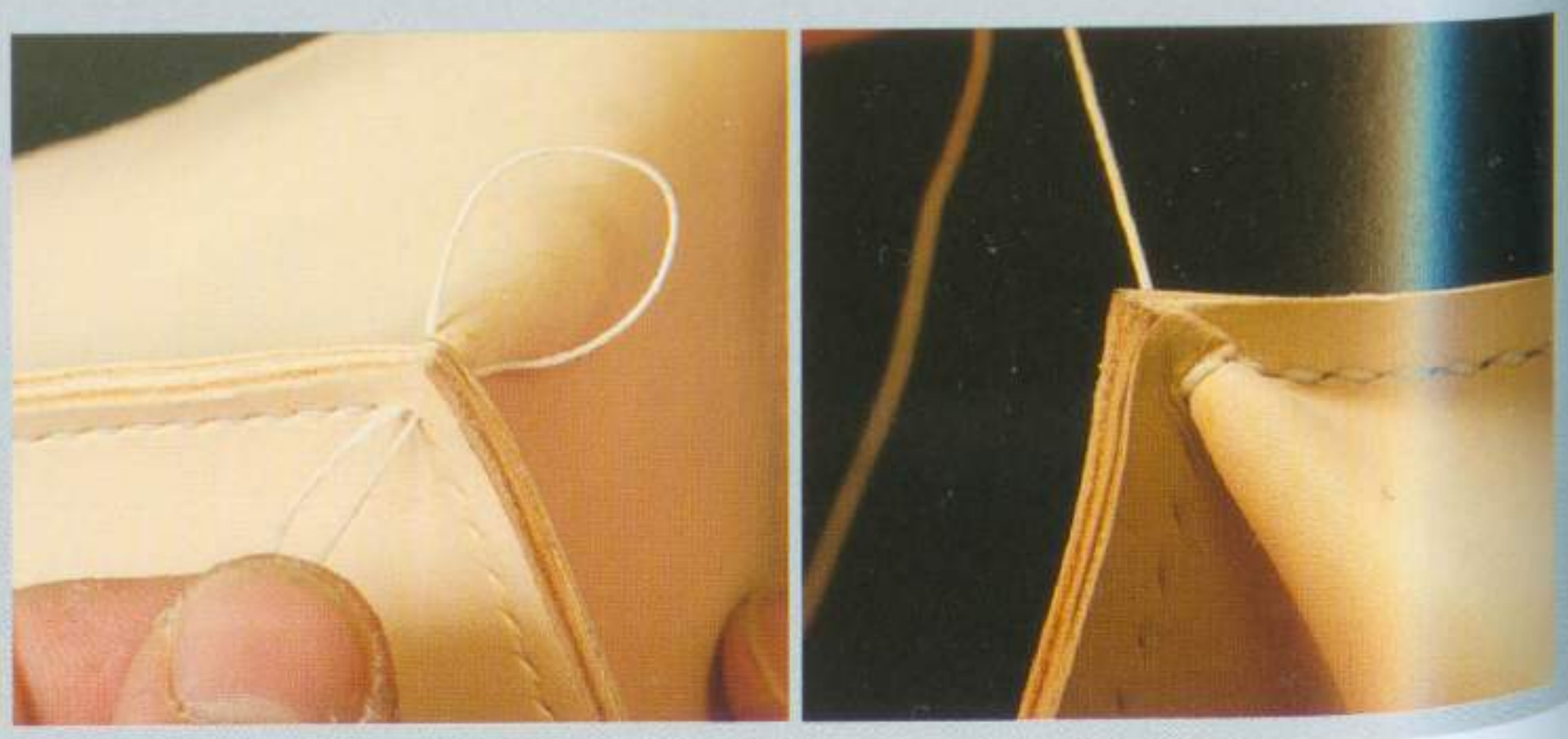
32 針を糸に通していないことを確認したら、そのまま左右の糸を引いて目を締める



33 次は、右の針を角より1つ先の菱目に刺し、これを胴・角の菱目から抜く。この時は、先に通してある糸に通さないように注意

右の針を胴・角から抜き、糸を引いていく。すると、左写真のような輪ができ上がり、これをさらに引いて締めると、右写真のような目が角にできる

34



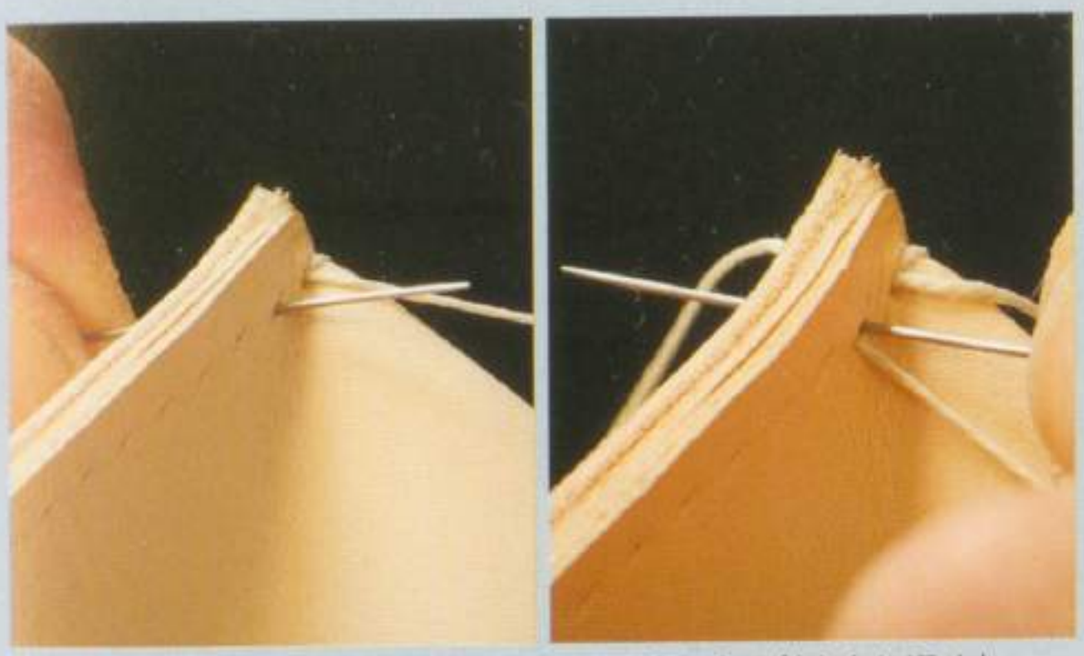
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



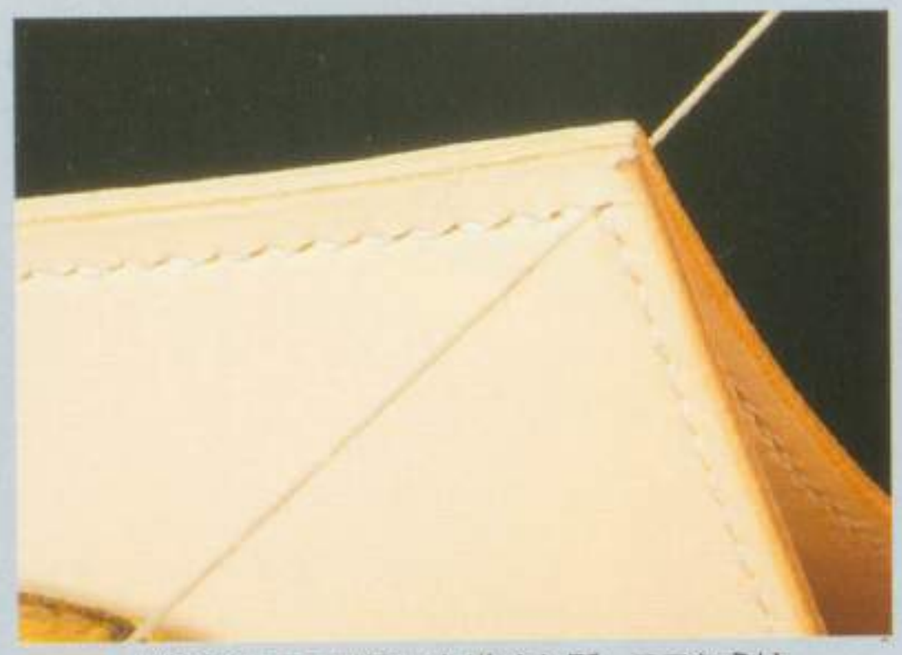
35 今度は左の針を胴・角(右の糸と菱目の間)に刺し、マチ・角から抜く(糸に針を通さないように)



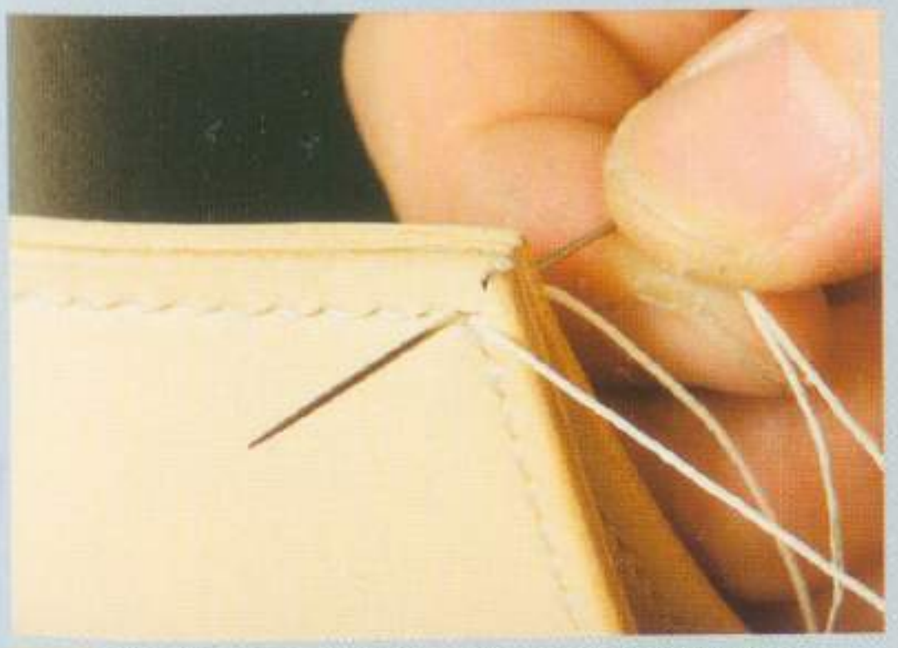
36 左右の糸を引いてしっかりと目を締めれば、角の部分の縫製は終了



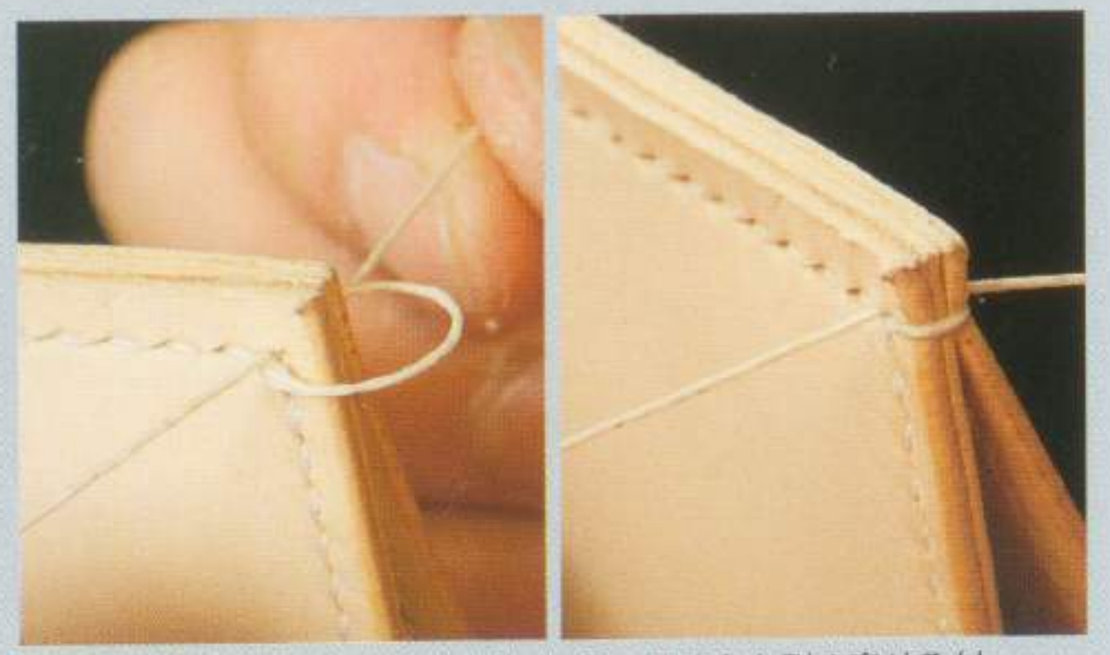
37 ここからは再び、「左の針を右に通し、次に右の針を左に通す」という、基本的な平縫いを上縁まで進めていく



38 上縁の角まで平縫いを進めた所。ここからは、この部分に強度を保たせるための処理をする



39 左の針を右へ取り回し、糸と縫い目の間を縫うように、菱目の中心へと針を通す

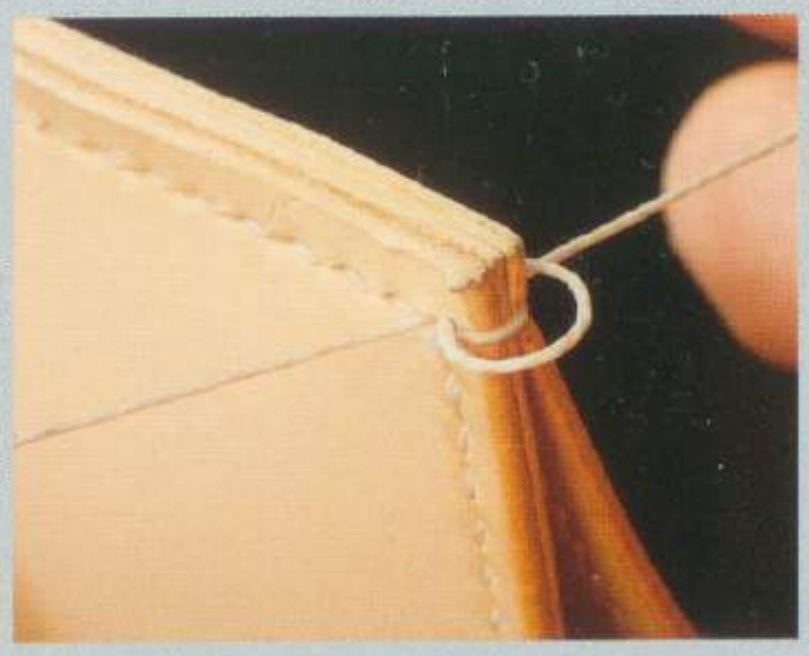


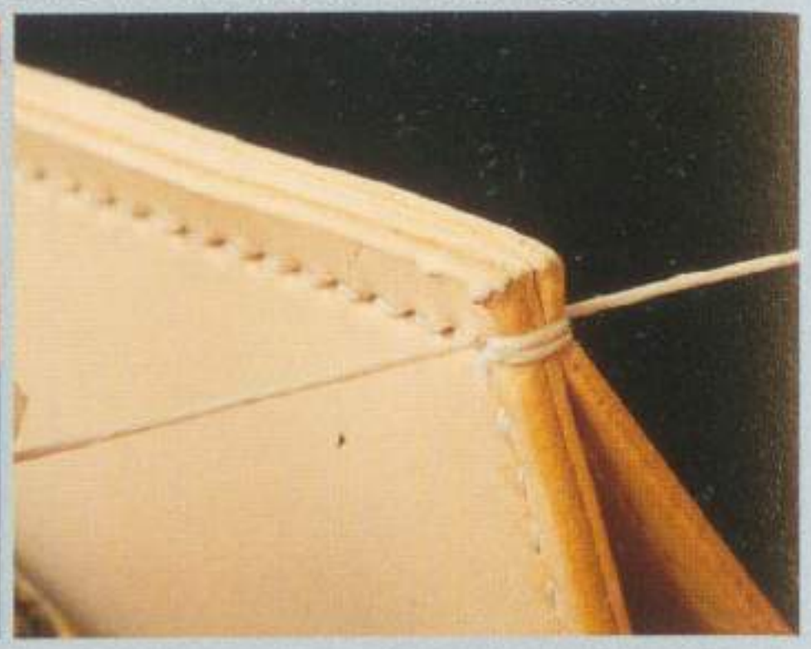
40 右側から通した左の針を抜き、そのまま糸を引き寄せる(左写真)。そして、左右の糸を引き締める(右写真の状態になる)

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!

さらに、ここで再び左の針を右から通し、角の部分に二重の結び目を作る。右写真のように目をずらして並べると、見た目も美しく見える

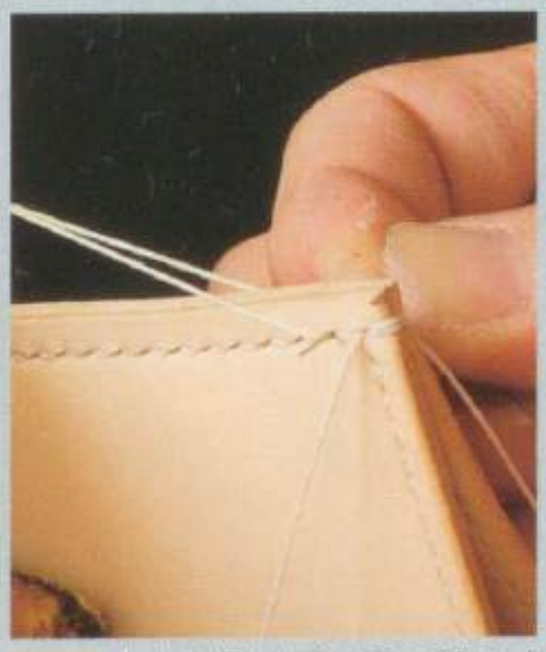




41



42 最後は1目を返して処理する。奥へ戻す形で、左の針を目と目の間に通す





43 左から通した糸と目の間に、右の針を通す。そして両方の糸を引き、縫い目をしっかりと締める



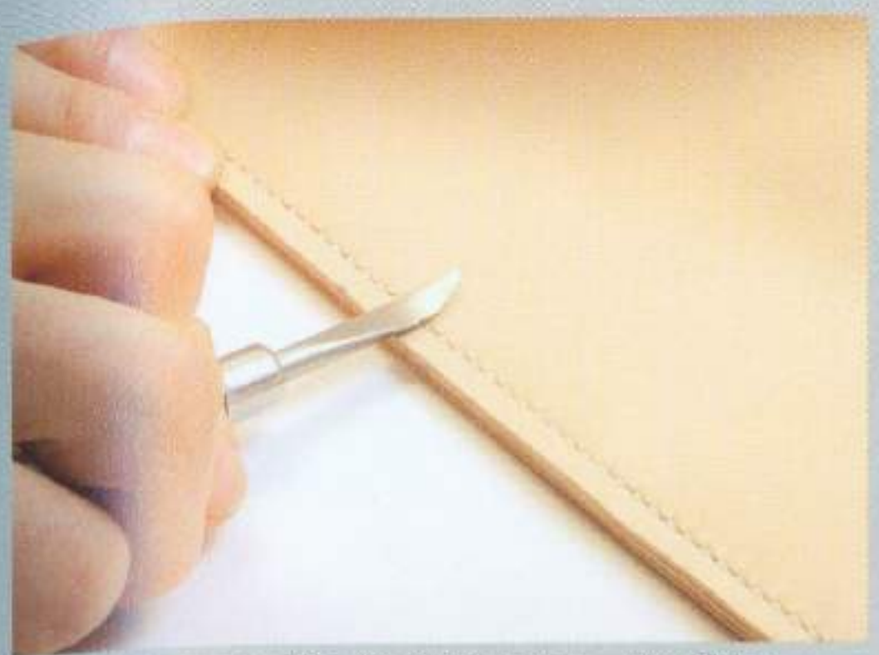


44 左の糸を右に抜いて処理するため、返し縫いをした次の縫い目と縫い目の間に、左の針を通す



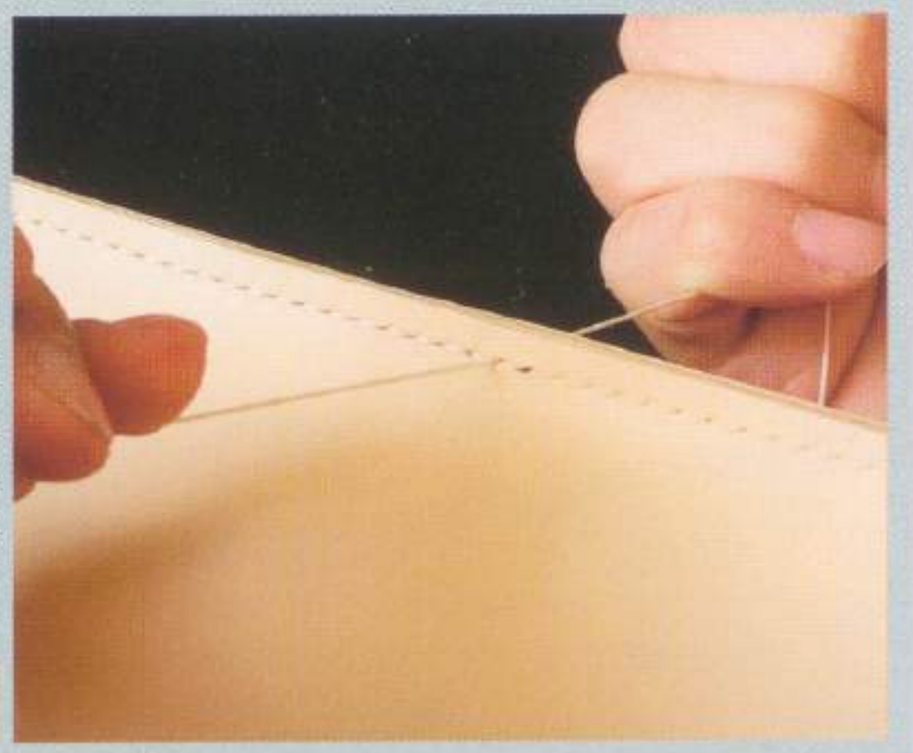
45 余った糸は右、つまり通しマチ側で切断する。切断跡に白ボンドを埋めれば、一方のL字は終了

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

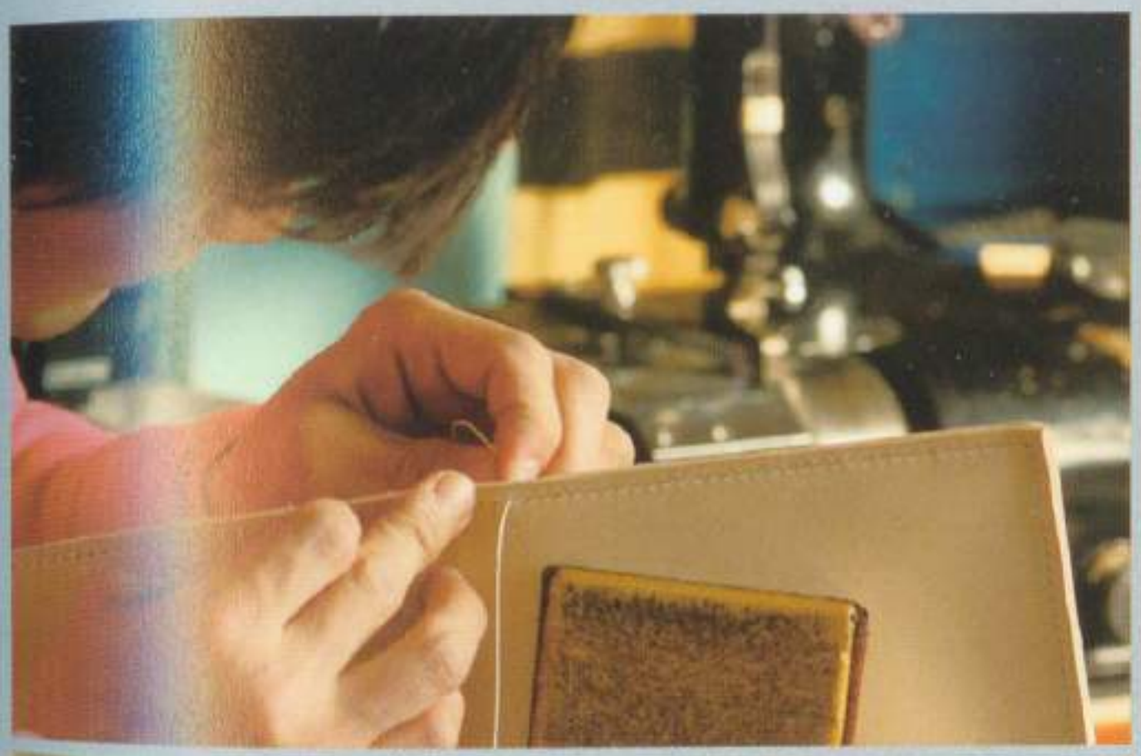


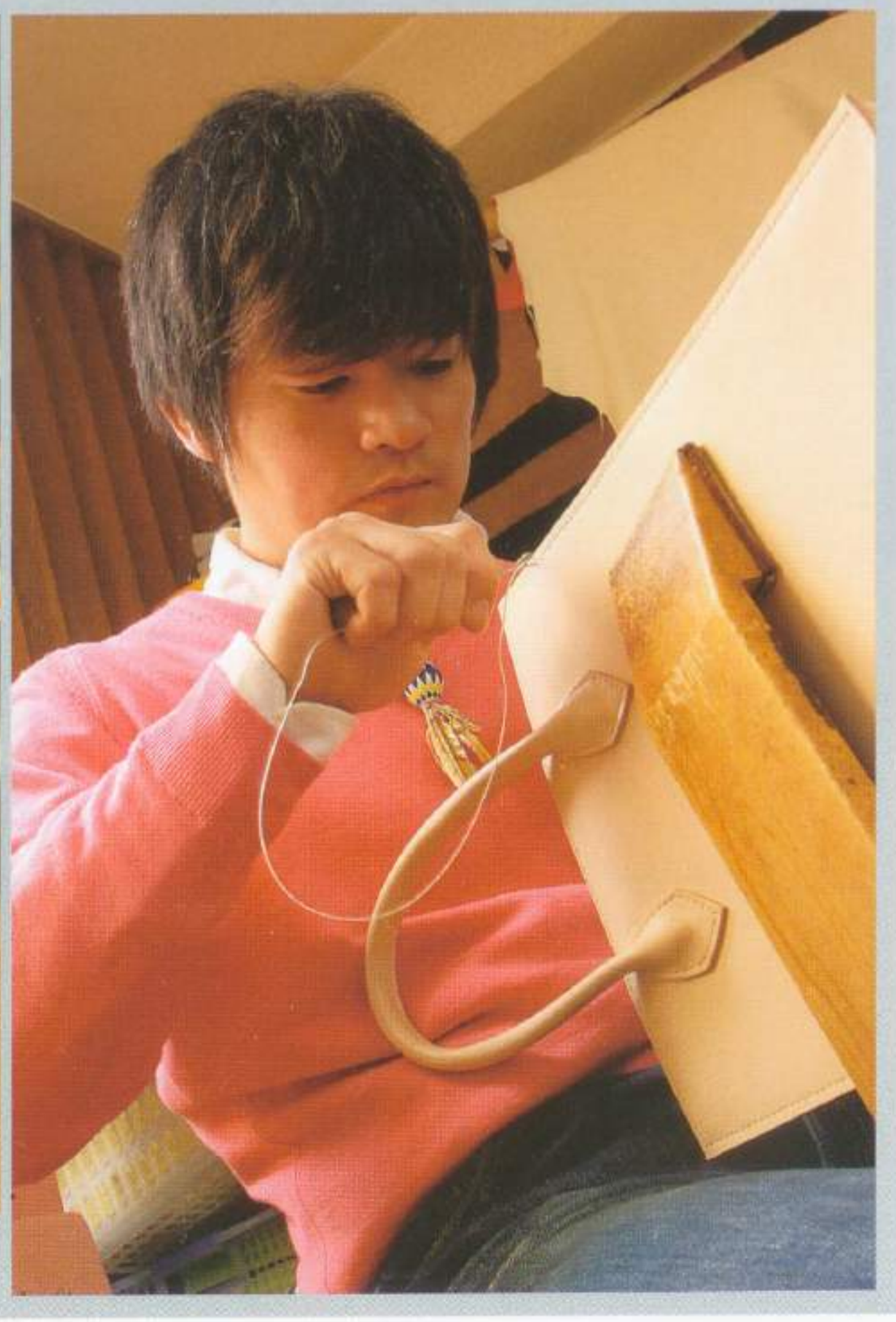
46 これまでと同様、縫い目の上をカービングナイフなどで均し、縫い目を整えておく

片側のL字を縫い終えたら再び底部の中心に戻り、今度はもう一方のL字を縫い始める。縫い始めの菱目は最初と同じなので、先に縫い終えた糸に針を通さないよう注意



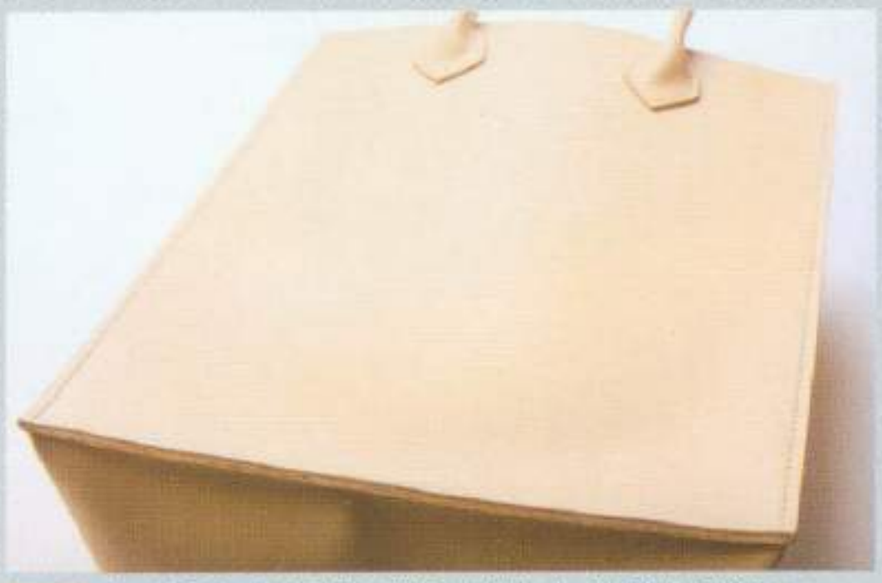
47



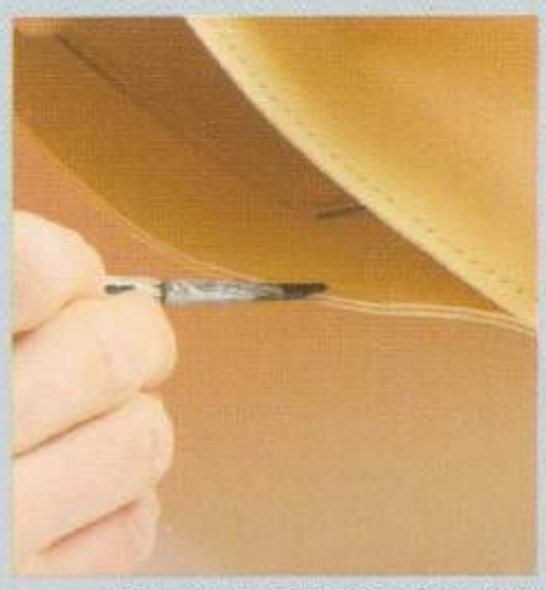


48 縫う範囲が広いので根気を要すが、仕上がりを良くするために、焦らず丁寧に作業を進めてほしい。慣れないうちは途中で一息入れるのも良い

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



49 2つ目のL字を縫い終えれば、片側の胴の縫い合わせは終了。反対側も同じようにして縫う





50 胴と通しマチを貼り合わせる手順は、先の作業と全く同じ。片側の胴が付いたので安定するが、その銀面を汚さないように注意したい

POINT



レース台が使えない場合、このように膝へ挟んでも縫える。ただし、ジーンズなどは色移りに気を配ろう



長いパーツも挟み込める、レーシングツリーなどがあると便利。現在はなかなか入手が難しいレース台だが、革鞄製作を長く続けるのなら、ぜひとも手元に置いておきたい

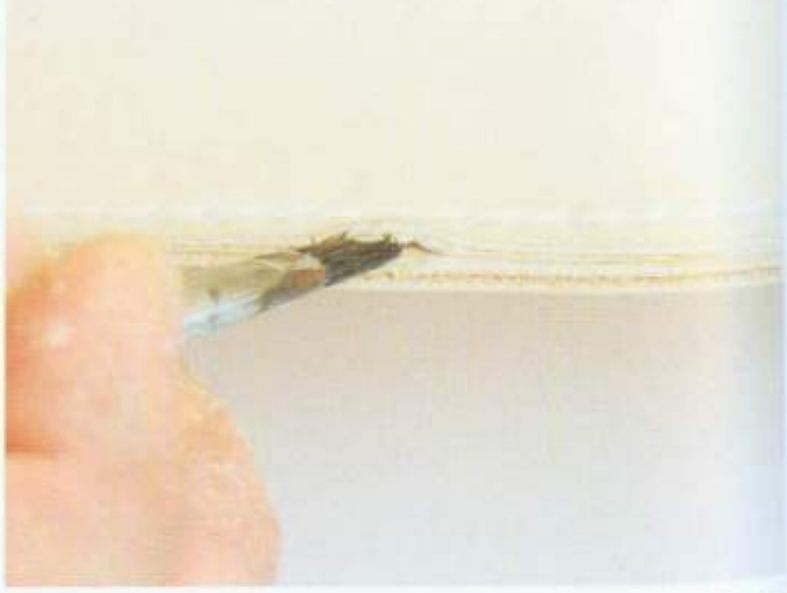
●仕上げのコバ磨き

CHECK!

コバ磨きを始める前にコバの全面をチェックして、接着面が剥がれていないかを確認する。もしも剥がれている箇所があった場合は、その隙間へ白ボンドを塗り、これを完全に貼り合わせておく

1





Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



2 磨く前のコバ。貼り合わせた革の層が見えるものの、そのままではやはり見栄えが良くない



3 基本テクニックに従って、まずはコバの凹凸を確認。目立つ凸部のみを革包丁で削ぎ落とす



4 次はドレッサーで均す。余裕をもって縫い目を5mmに設定したため、しっかりと均せる



5 ドレッサー掛けによって立った角を落とす。均一に落とすのが前提だが、縫い目に響かない範囲なら好みで調整してもよい



6 トコノールをコバに塗り、きれいなウエスと木ベラを用いて丁寧に磨く。コバの幅が厚く、また縫い目までの余裕もあることから、ヘリはしっかりと落としてある。このため、ヘリにもしっかりとトコノールを染み込ませ、木目のようになるまで磨き込む(右写真が理想)

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

完成したトートバッグ

全て基本的な技術のみを用いたものの、素晴らしい出来映えには目を見張るものがあります。丁寧な作業を心掛ければ難しくないので、好みの皮革でぜひ製作してみてください。









ハンドルから通しマチまでを一枚の上質なヌメ革で製作してあり、各パーツに貼り合わせた内革も同じです。各パーツは全面を貼り合わせず、また、マチの仕立てを通しマチとしたことで、バッグ全体に革本来の柔らかな質感を残しているのも特徴の1つでしょう。A4サイズに設定した胴と程良い10cm幅のマチ、そして内革に備えた2つのポケットと、使い勝手の面においても優れたトートバッグです

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

SPECIAL THANKS

仕立てから細工、そして材料と、こだわりの数々が魅力のターキーズ

素晴らしいトートバッグの製作を担当して頂いたのは、自由が丘に工房を構える「ターキーズ」の瀧本氏です。独学で革小物作りを学んできた瀧本氏は、既成概念に囚われない自由な発想を盛り込んだ製品作りを展開。札入れ1つを取ってみても、全体の厚みを極限まで抑えるための仕立てや、普段は目に付かない内側にまで細かな細工を施すなど、手縫いならではのこだわりが光る逸品を仕上げています。また、材料となる皮革にも徹底的にこだわり、ヨーロッパから直輸入の植物タンニンによるなめし革を中心に扱いながら、時にはリザードやスティングレイといった変わり種をアクセントに用いたり、また時には、大胆な箔押しの皮革を製品に用いるなど、その技術にさらなる磨きを掛けるセンスをも持ち合わせています。これまで製品としては扱っていなかった革鞄は、お客さんからのたっての要望に応えたもので、そのような温和な人柄もターキーズの魅力の1つです。

TURKEY'S HAND MADE LEATHER WORKS
東京都世田谷区奥沢6-33-9 内海ビル4F
TEL&FAX 03-5706-0266
URL http://www.turkeys.co.jp/
URL http://store.shopping.yahoo.co.jp/turkeys



KEIJI TAKIMOTO

瀧本 圭二氏
自分がほしい物を作りたいためにこの道へ入り、全て独学で技術を修得。既成概念に囚われず、実際に自分の手を動かし続けて培った技術を活かして、製品作りを展開している


1


2


3


4


5


6


7

1お客さんの要望に応えて作ったという、イタリア製のシボ革を胴表に用いたトートバッグ。本項で製作したトートバッグも、材料と仕立てを変えればこのように仕上がります　**2**表版をリザードで被った、シンプルながら迫力ある札入れ。内側にはマネークリップを内蔵し、ボタンにはスティングレイを用いるといったこだわりが詰まっています　**3**絶妙な締め具合にこだわった、手作りならではの馬蹄形コインケース。表版の材質も様々に変え、バリエーション豊かにラインナップしています　**4**ヴィヴィッドな色合いのリザードを用いたカードケース　**5**アメリカンなテイストを持つ札入れもお手の物ですが、使い勝手を考慮の上、厚みを抑えて仕立てられています　**6**コードバンを用いた長札入れと、ヌメ革を用いた小銭入れ。こちらはヨーロッパテイストの代表的な製品です　**7**天然染料で染めた革を用いた、柔らかな風合いの財布。両面に開き、抜群の収納力を備えています

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

MAKING TECHNIC 1 製作解説①

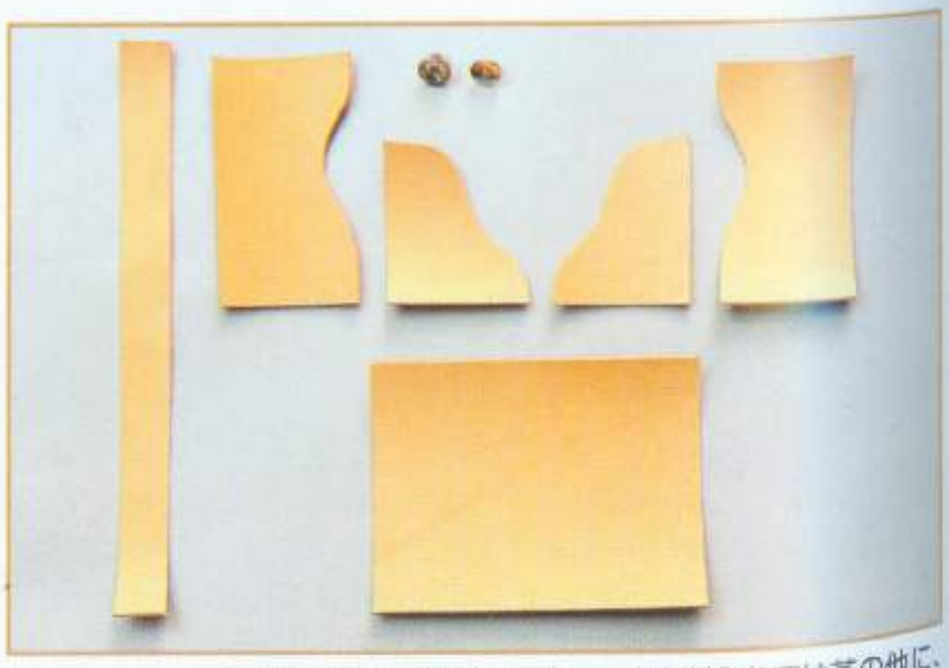
名刺入れ

ベーシックな小物といえる名刺入れですが、サイズを変更すれば様々なバッグを作ることができます。



自分使いにもプレゼントにも最適

製作解説コーナーの最初に紹介するのが、この名刺入れです。本誌のテーマである鞄ではありませんが、いわゆるかぶせがある鞄と基本構造は全く同じですので、この作り方を覚えれば、書類入れやセカンドバッグなど、様々な物に応用することが可能です。むしろ、サイズが小さい分縫いにくい側面があるだけに、名刺入れをしっかり作ることができれば、より大きな鞄にチャレンジした際には、簡単に感じるかも知れません。実用性も非常に高いアイテムですから、プレゼントしても喜ばれることでしょう。

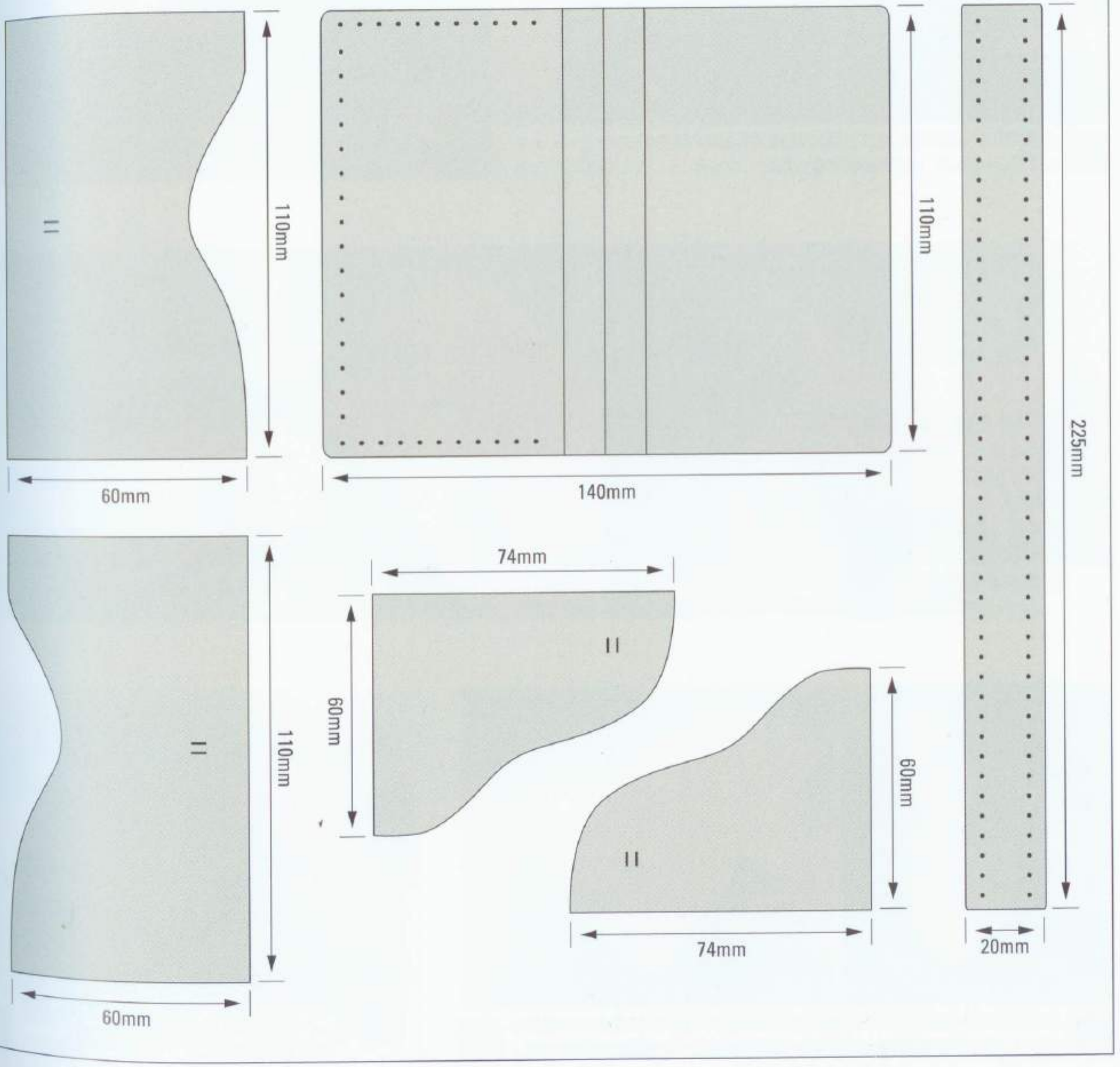


右の図に従って裁断した物。この名刺入れでは革の他に、かぶせ部を固定するためのマグネット1組を使用する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

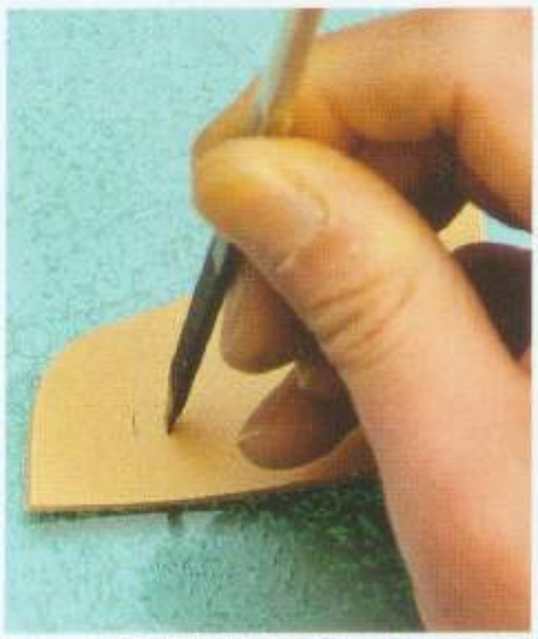
型紙

一番大きな四角形が本体の型紙で、点は菱目を打つ位置になります。縦20、折り返しまでの横12が基本ですが、ポケットに合わせて微調整しましょう。この図は184%に拡大するとほぼ原寸になります。



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●各パーツの製作





1 名刺ホルダー部の向かって左側が直線の部品に、突きギリで切れ込みを入れ、マグネットを差し込む

POINT



通常、マグネットは円い部品を挟んで固定する。厚みが出るため今回は使わないが、それでも充分固定できる

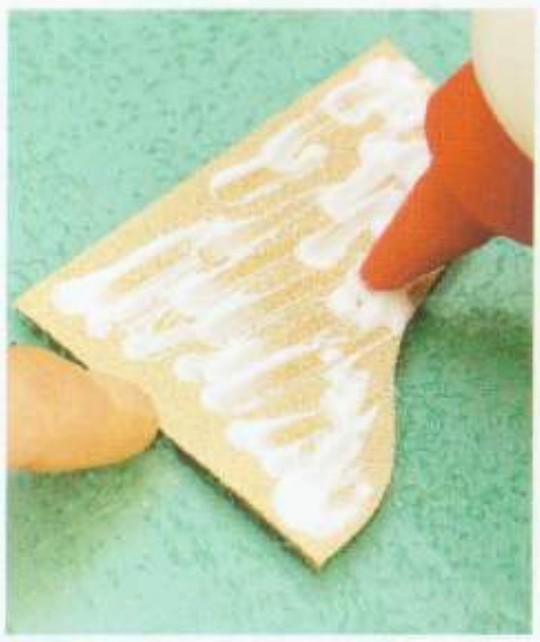


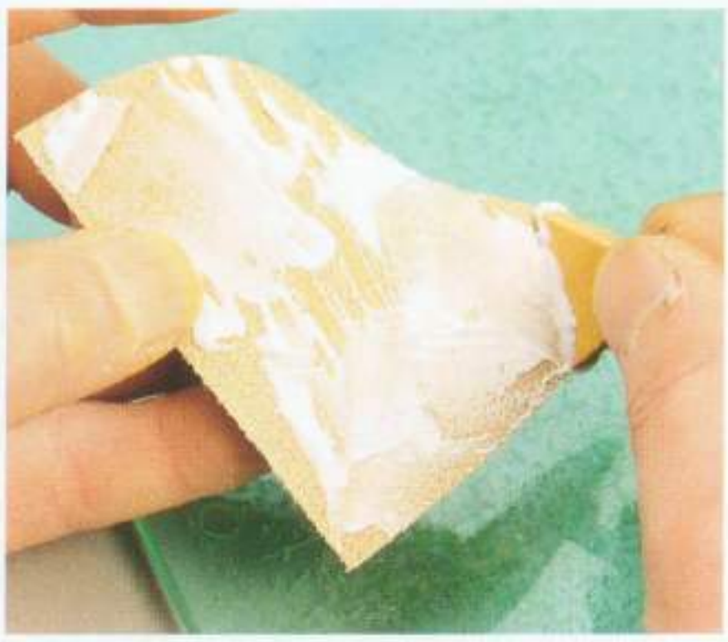
マグネットの爪を固い棒などで折ってから、表側を保護しつつ木槌で軽く叩く。折らずに叩いたり、強く叩きすぎると爪が折れてしまうので注意

2









3 名刺ホルダー部のもう一方の革にボンドを塗り、革の切れ端を使い伸ばしていく。ボンドを塗る量は少な目にしないと、ボンドの層ができてしまう

CHECK!



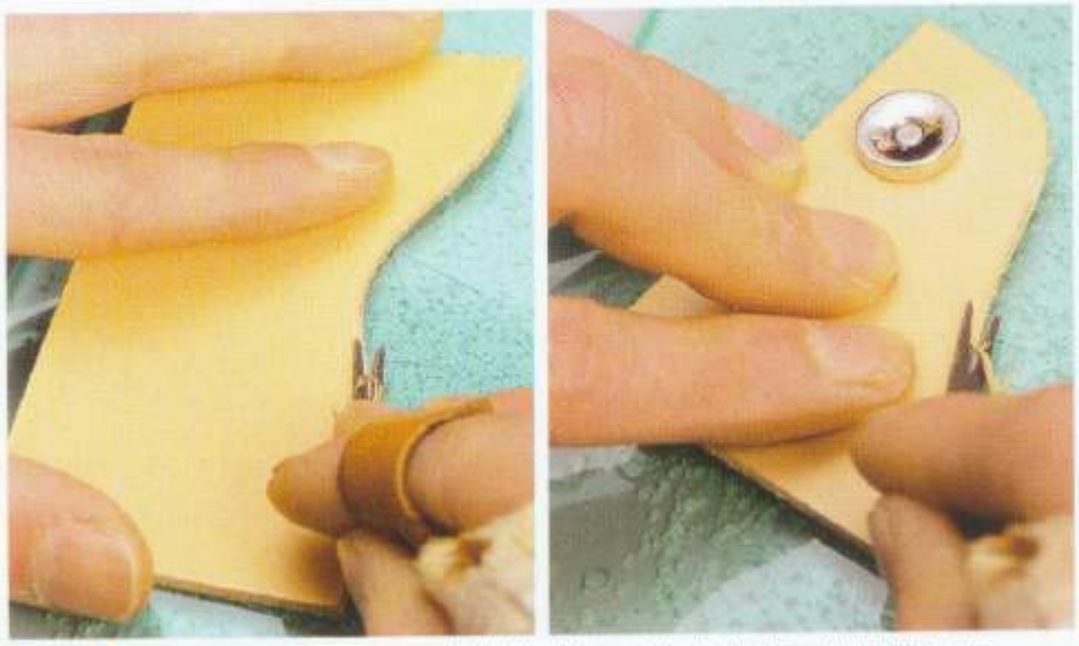
4 薄くボンドを塗っても張り合わせた際にはみ出てしまうので、それは拭き取っておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!



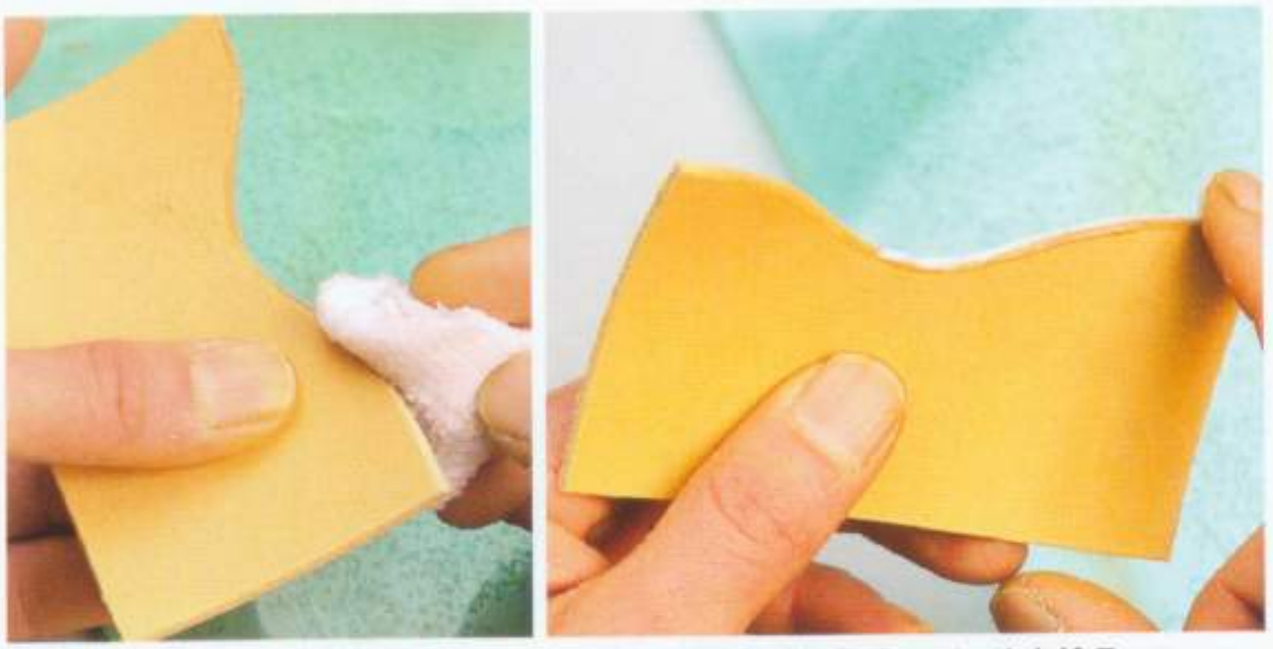
5 張り合わせた革はハサミで押さえるのだが、挟む力の弱い物でないと銀面を傷めてしまう



6 ホルダーとポケットの内側等、縫い合わせた後では作業できないコバを磨いていく。まずはヘリ落としで面取りする



7 120番の布ヤスリ(価格は高いが長持ちする)を使い、コバをやすり、表面をならしていく



8 クセを付けやすくするために、コバを水で湿らせたら、トコノールを塗る。コバ磨き剤は、付着するとボンドの付きが極端に悪くなるので注意したい



9 写真のようなヘリ磨きや爪などを使って、表面の色が変わり滑らかになるまで磨いていく



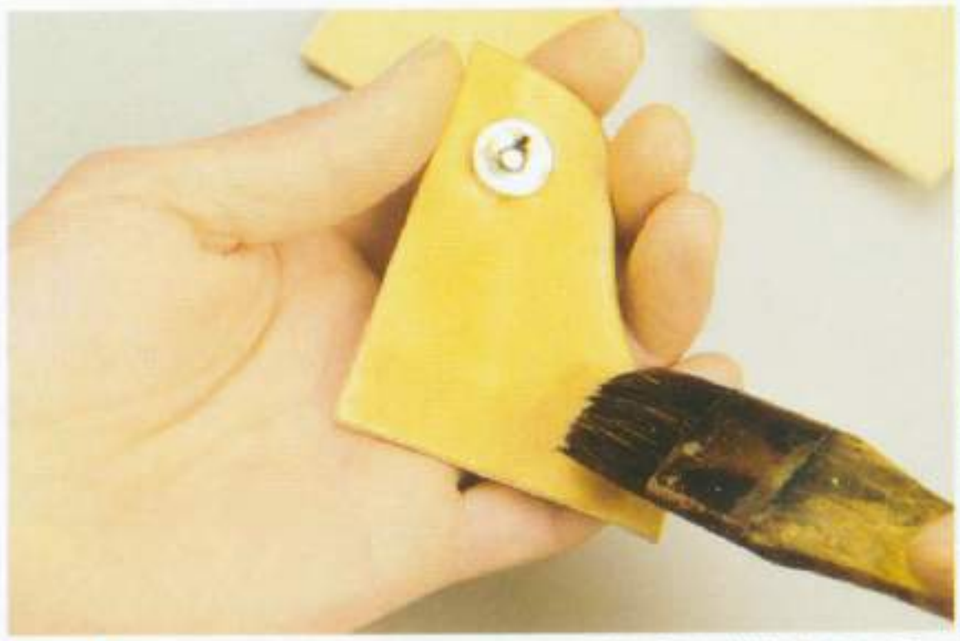
10 名刺を出し入れする際の摩擦を減らすために、本体の革をトコノールとヘリ磨きを使い磨いていく。縁の部分にはトコノールを塗らないこと

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



11 ポケットの革の裏側も、縫いつける縁の部分を除いて、磨いておく

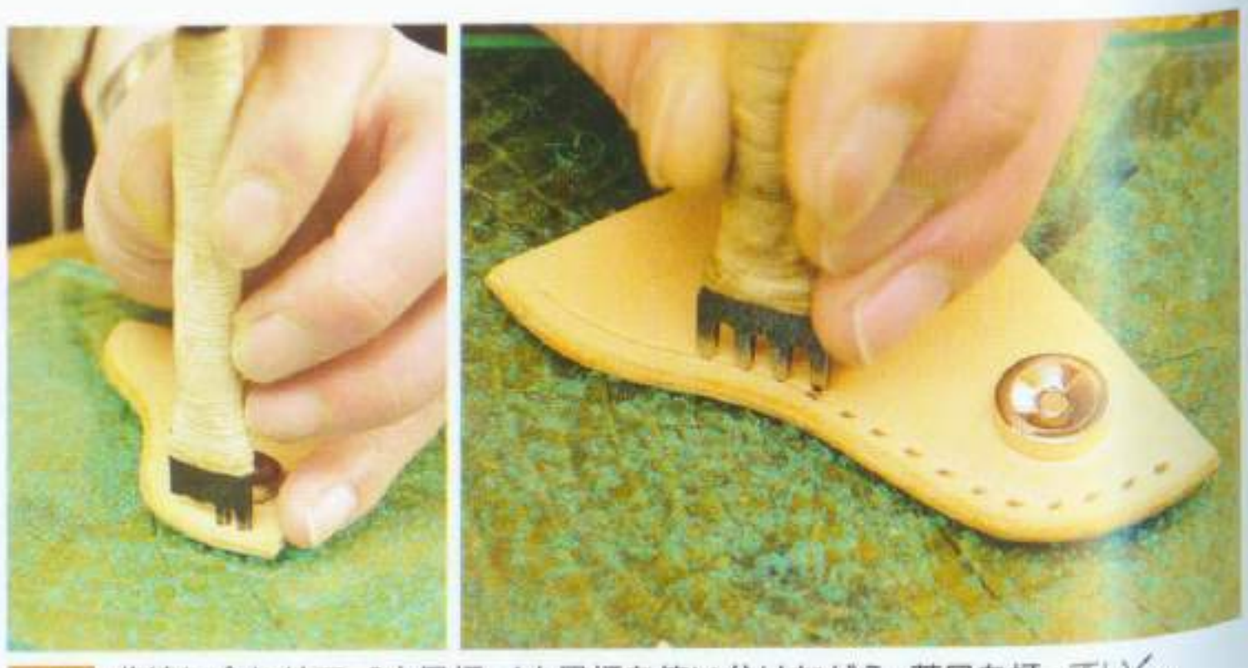




12 アクセントを加えるために、ホルダー部に刻印を入れることにした。まず色が変わる程度に水を塗り、5分ほど待ち乾いて表面が元の色に戻ったら、刻印を木槌で打つ。革が湿っている時は傷付きやすいので注意。応用で、湿らせてガラスで擦ると小傷を消すことができるそうだ



13 ホルダー部を縫うため、最初に縫い線を付けていく。革工房Kでは加工した目打を使う

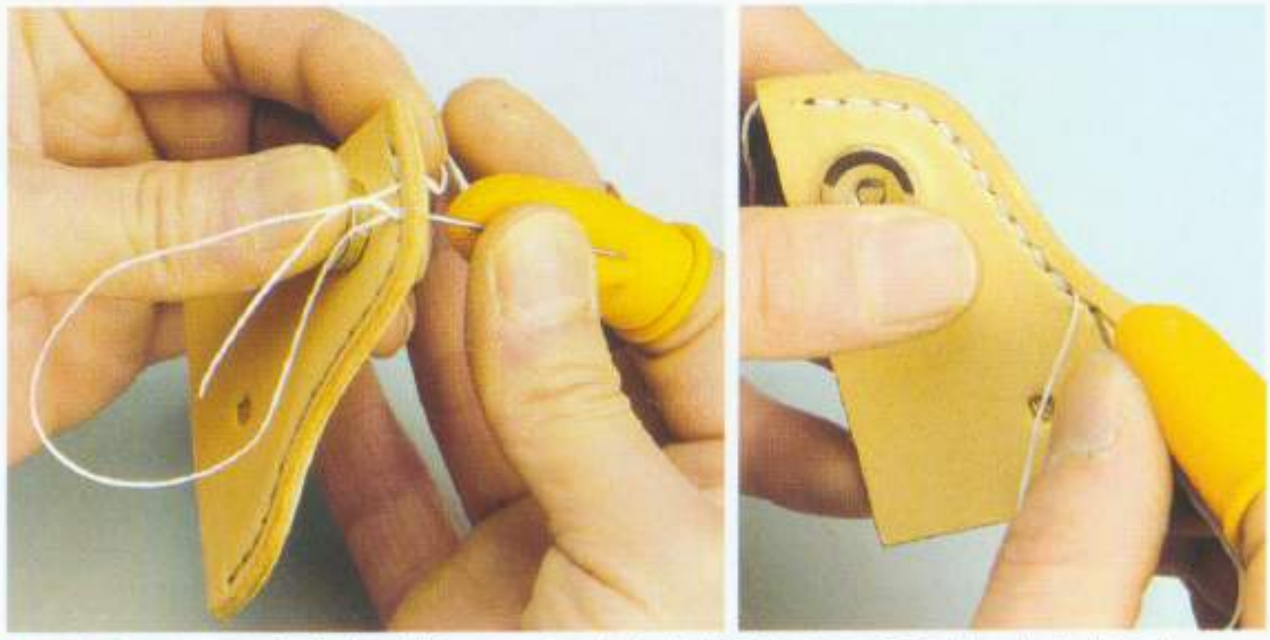


14 曲線に合わせて、2本目打、4本目打を使い分けながら、菱目を打っていく。打ち始めと打ち終わりの位置は、それほど気にしなくても大丈夫だ

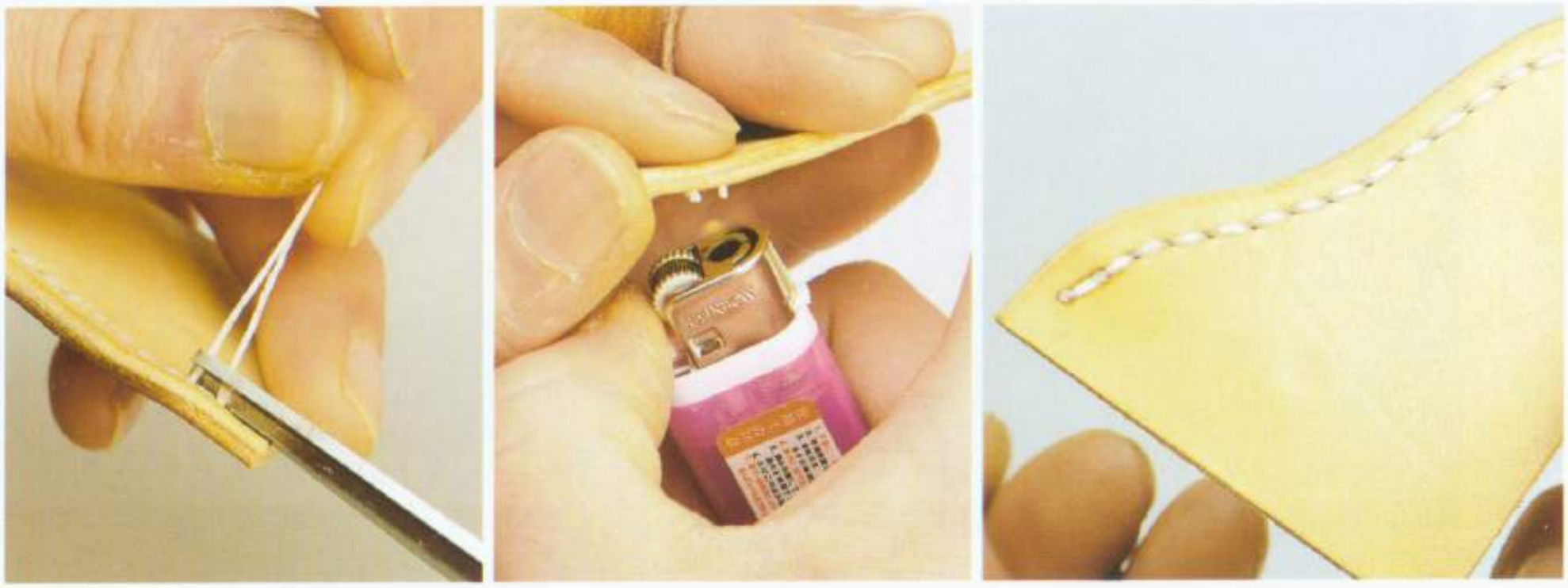
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



15 小さめのヘラを使い、打った目の間を擦って凹ませる。切り取るのに比べ強度が出るそうだ

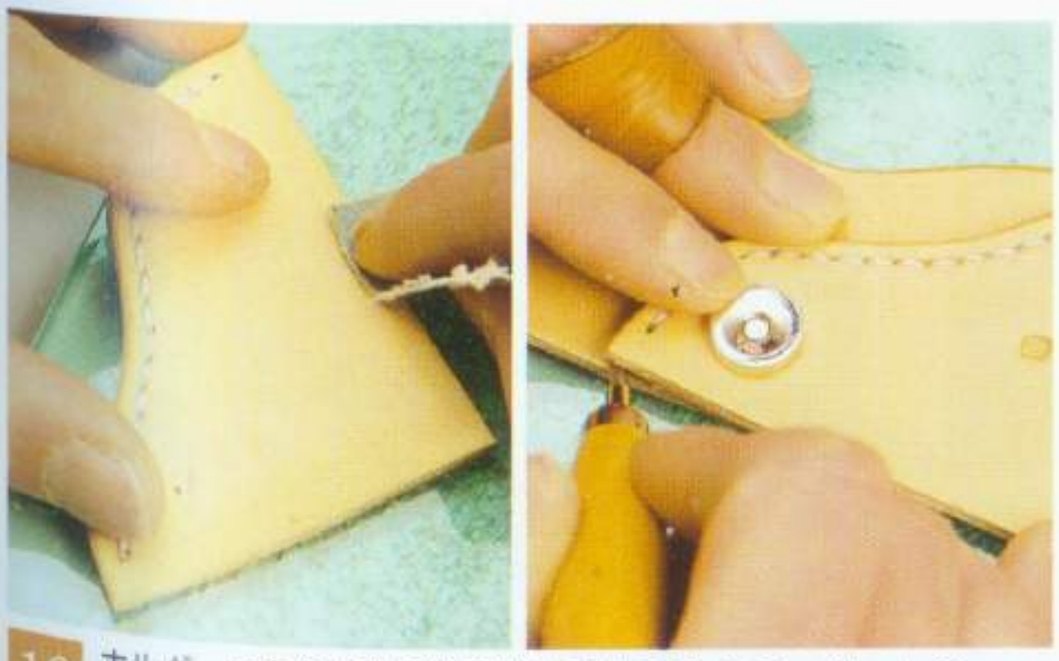


16 ナイロンの糸を使い縫っていく。小さな部品なので、手で持ったままの方が早い。革工房Kの増田氏によると、指サックはお奨めとのこと



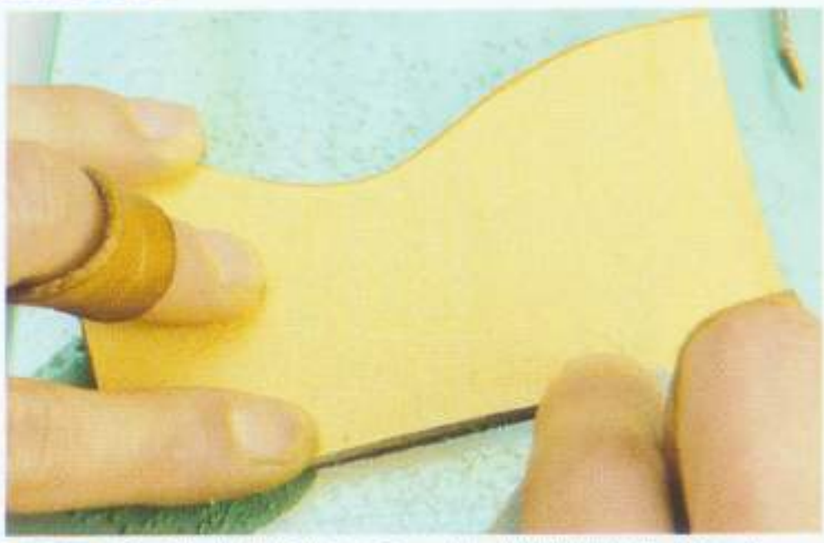
端まで縫い終えたら、3目戻って糸をカットし、その先端をライターで炙った後に爪を押しつけ、抜け止めをする

17



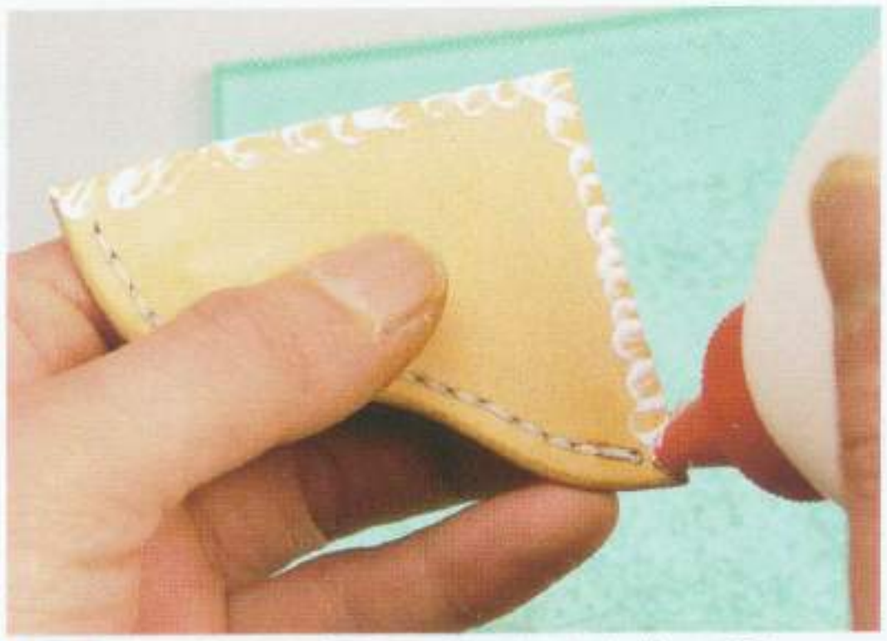
18 ホルダーの直線部分の縁を紙ヤスリで擦ったら、ポケットの革に重ね、その先端部分に丸ギリで印を付けておく

CHECK!

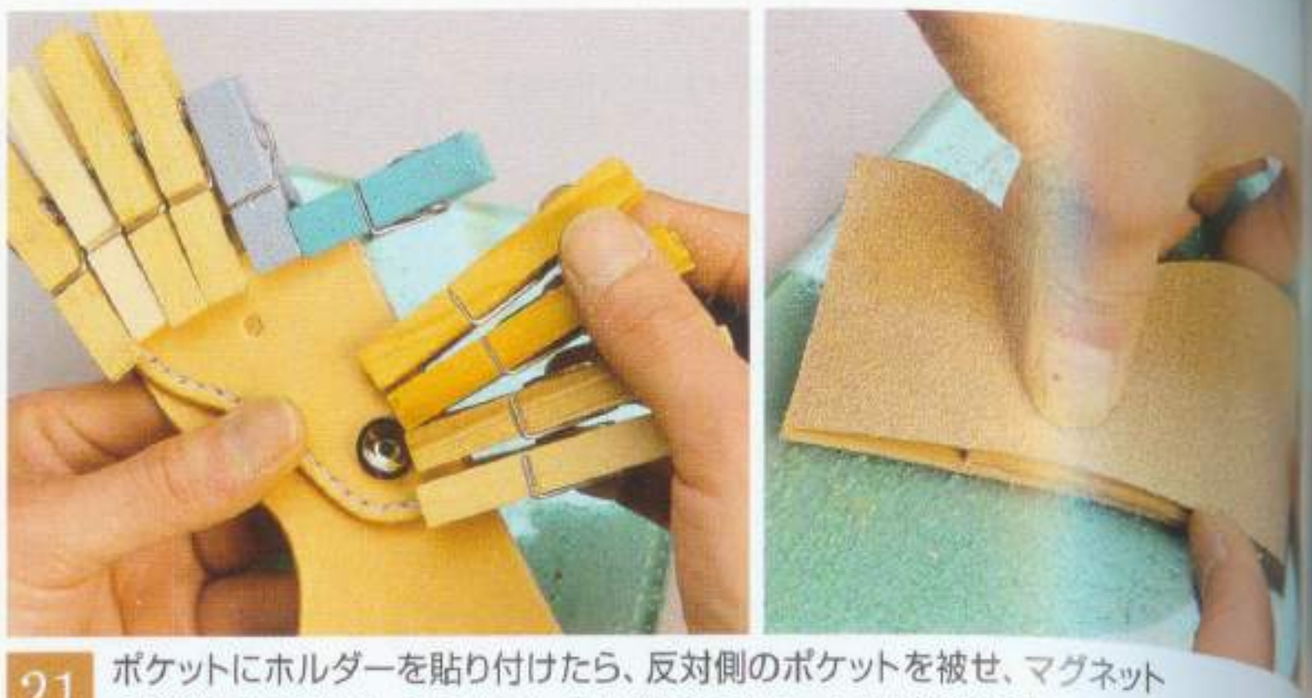


19 印より右側の縁のみ、ボンドが付きやすいよう紙ヤスリを使い、表面を荒らしておく

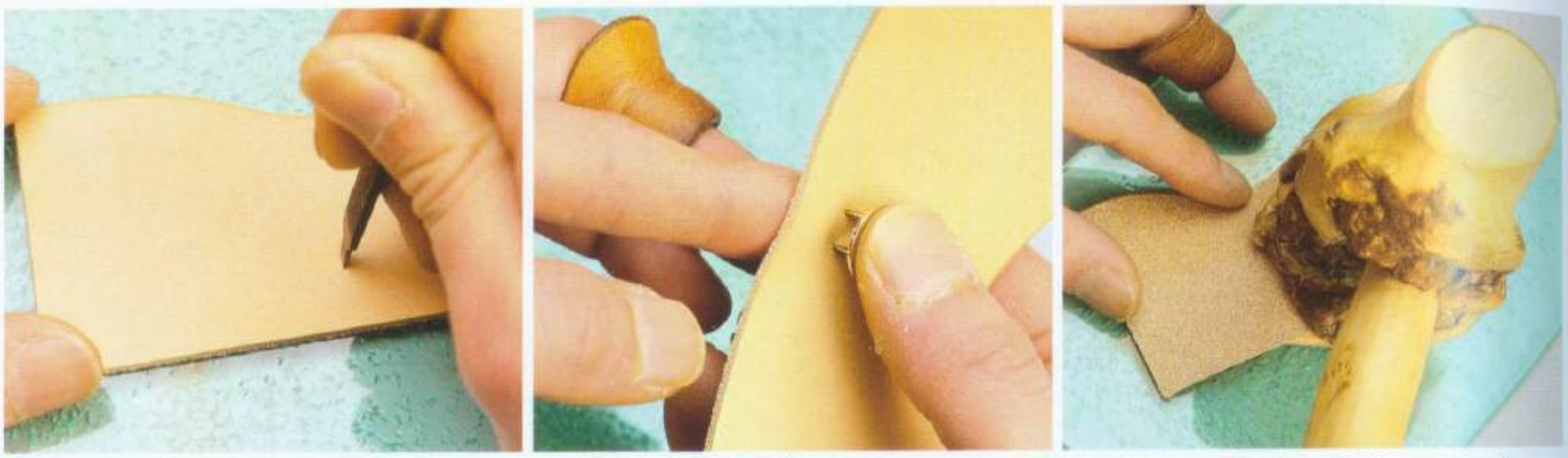
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



20 先ほど表面を荒らしておいた、ホルダーの縁にボンドを塗る。はみ出ないようにすること



21 ポケットにホルダーを貼り付けたら、反対側のポケットを被せ、マグネットの部分を指で押す。こうすると、受け側のマグネット位置がずれない



22 21で付けたマグネットの跡を参考に、押しギリでマグネット用の穴を開ける。次にマグネットの爪の根本を差し目打の柄などで折ってから、木槌で爪の先端を叩く。木槌で叩く際は、数回に分けて軽く叩くこと。そうしないと、マグネットの爪は簡単に痛み、折れてしまうからだ

●全体の組み立て



23 ホルダーの無いポケット裏面にボンドを塗る。銀面とは違い、床面は表面を荒らす必要はない



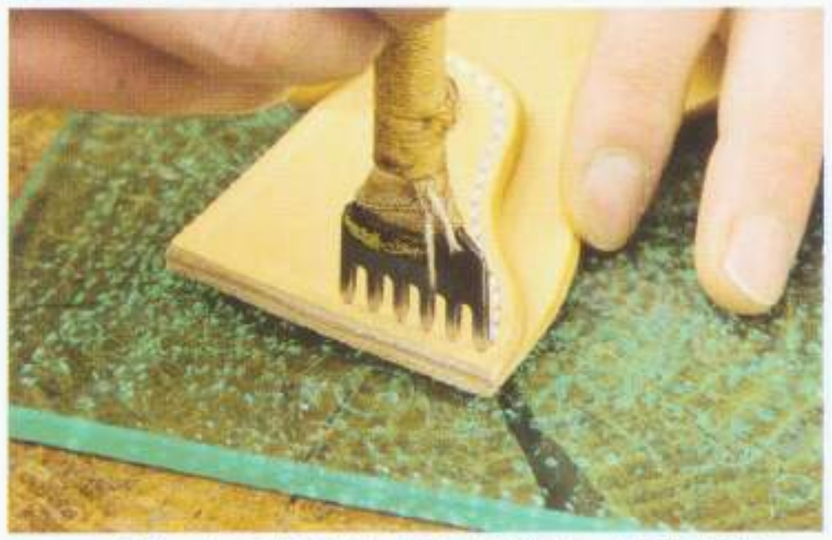
24 本体とずれないように気を付けながら、ポケットを貼り付ける。はみ出たボンドは拭き取る

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



25 ホルダーのあるポケットは、貼り付ける前に縫い線を直線の3辺に付けておく

CHECK!



26 ポケットの短辺は、角に目が来るよう12個目を打ち、これに本体も合わせることになる



短辺の端の目に合わせつつ、長辺にも菱目を打っていく。順当に行けば、20個の菱目を打つことになるはずだ

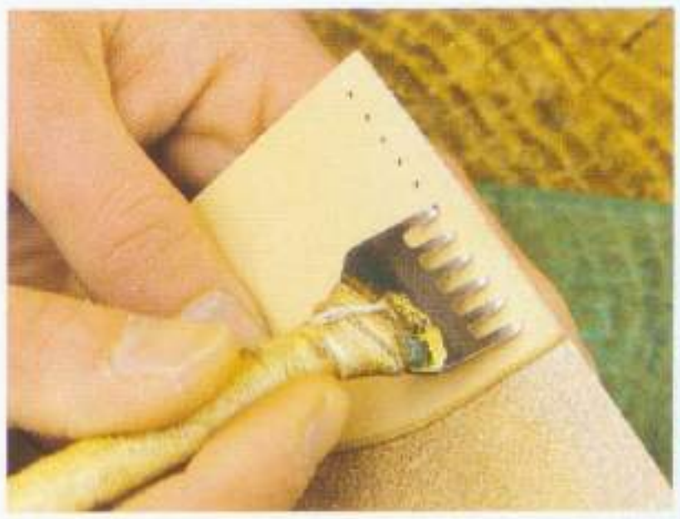
27



本体の縁に縫い線を付けたら、先ほどポケットを貼り付けた側の端から、菱目打で目を打っていく

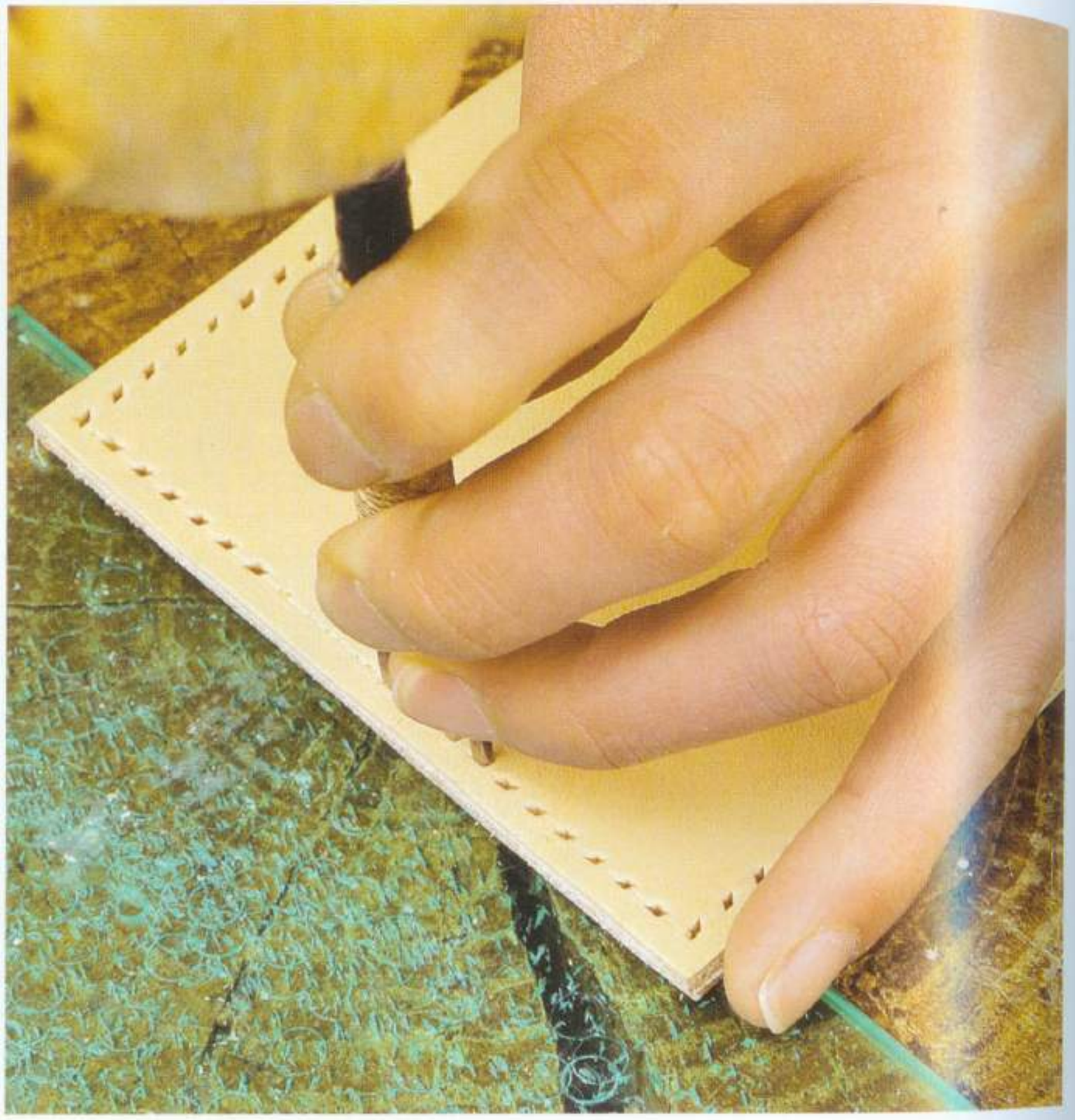
28

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



29

貼り付けた革の段差に菱目が掛からないよう、間隔を調整すること。端から一気に目を打つと歪むので、両端から交互に打っていくのが重要だ





ホルダー付きポケットを縫いつける部分は、ポケット側の菱目の位置に合わせて、目を打っていく

30



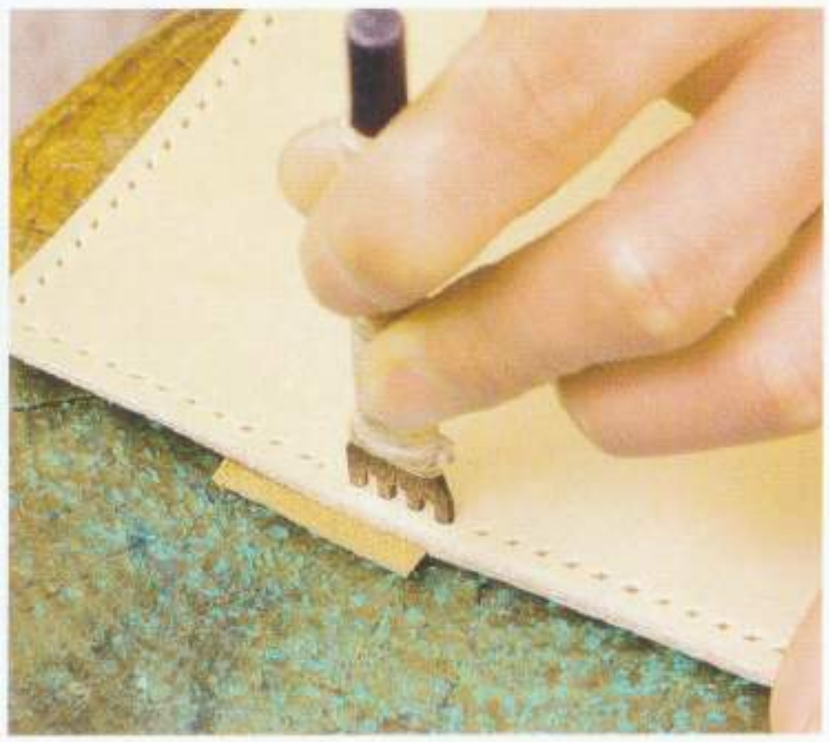
31 どの部分から菱目を打ったのか分かるように、丸ギリで、縫った後隠れる所に印を付ける

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

本体中央部を目打ちする場合は、ポケットと同じ厚さの革を写真の様に配置してから作業すると、正確かつ綺麗に目が打てる

32







33 目打ちした部分は、すべて縫い線に沿ってヘラを使って凹ませておく



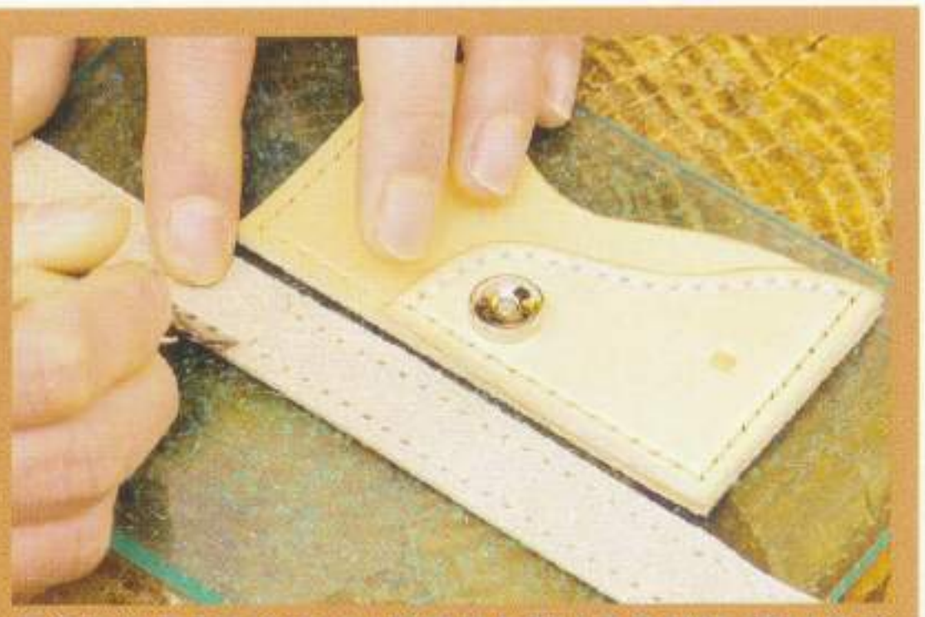


34 マチを作っていく。床面に両端に縫い線を印したら、同じく床面から12個菱目を打つ。裏から打つのは、ポケットや本体と穴の向きを合わせるため



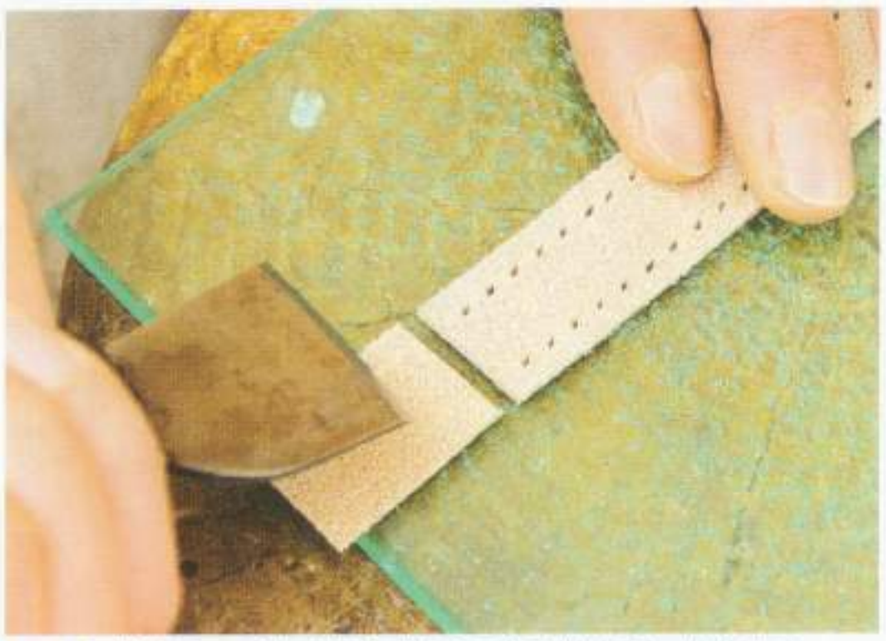
35 12個菱目を打ったら、そこで折ることになるので、ペンなどを使って印を付けておく

POINT



長辺に対応するマチには20個穴を開けるのだが、開け始め(13個目)は折ることを考慮して、12個目から若干距離を取る

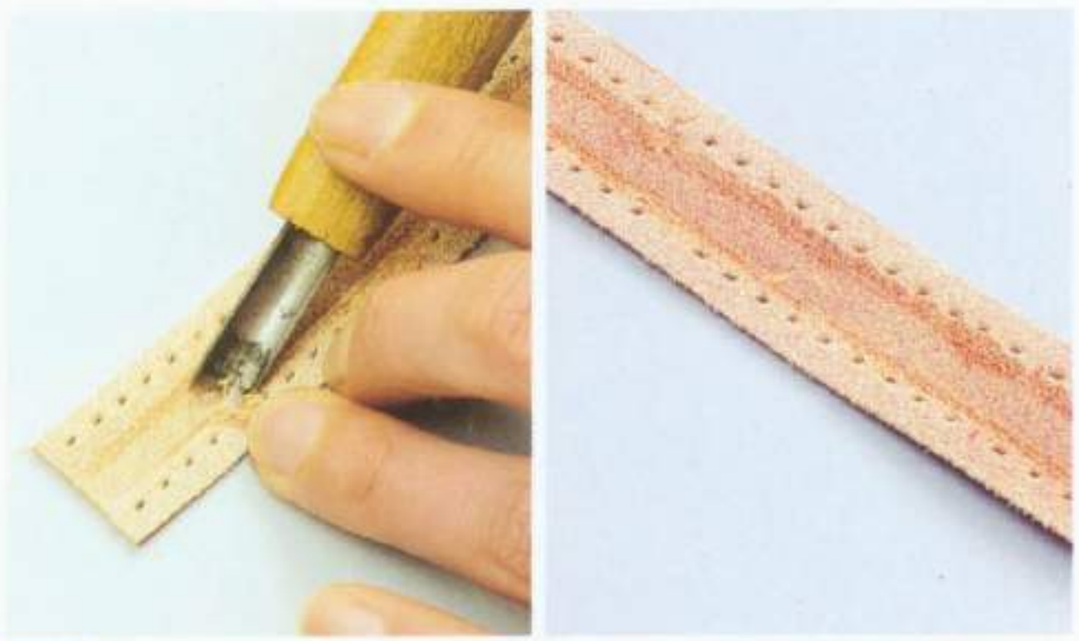
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



36 折り目で印を付け、若干の距離を取り、短辺用に12個菱目を打ったら、余分な部分を切る



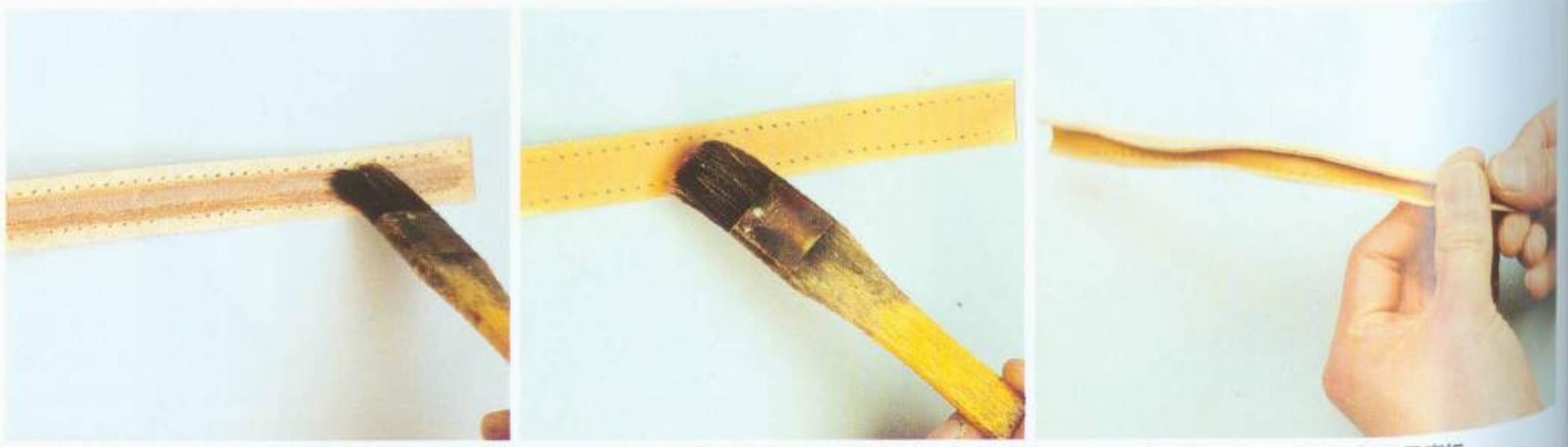
37 マチは折っていくので、まず床面の目の間の部分を水で濡らし、目から1~2mm内側にヘラで印を付けていく



38 左右の印線の間を彫刻刀で削っていく。これは革を曲げやすくするためなので、薄く削る程度で充分だ

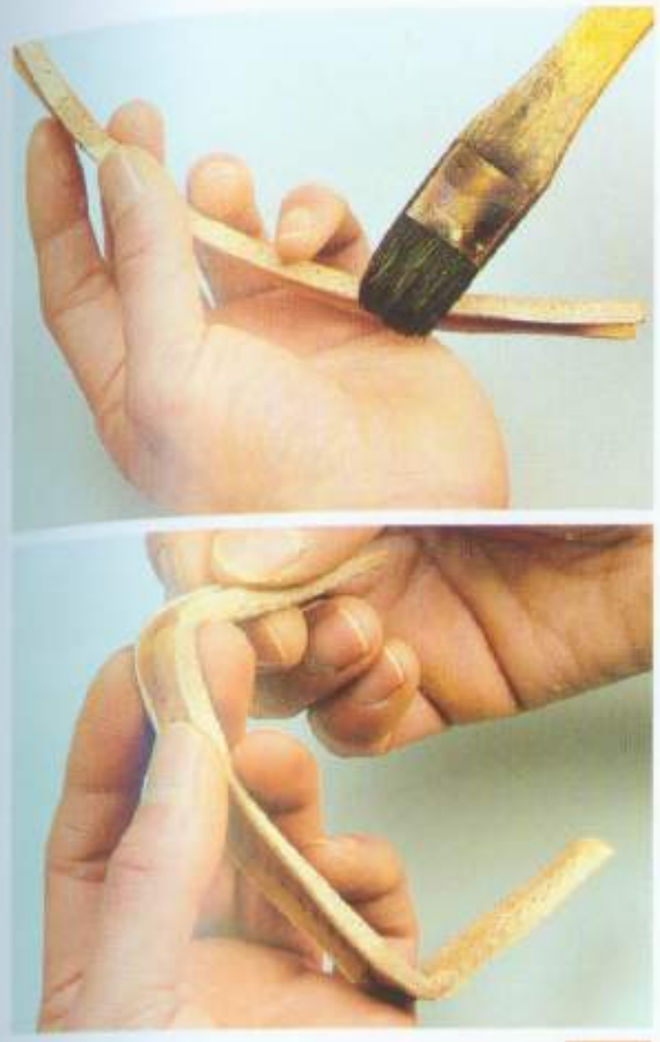


39 マチの短い辺は、縫った後では磨けないので、事前に紙ヤスリと仕上げ剤で磨いておく



40 磨きが終わったら、再びマチを湿らせるのだが、今回は床面だけでなく銀面も刷毛を使って水を塗っていく。その後、削った部分の端を目安に、銀面が内側になるようコの字型にマチを折り、革にクセを付けておく

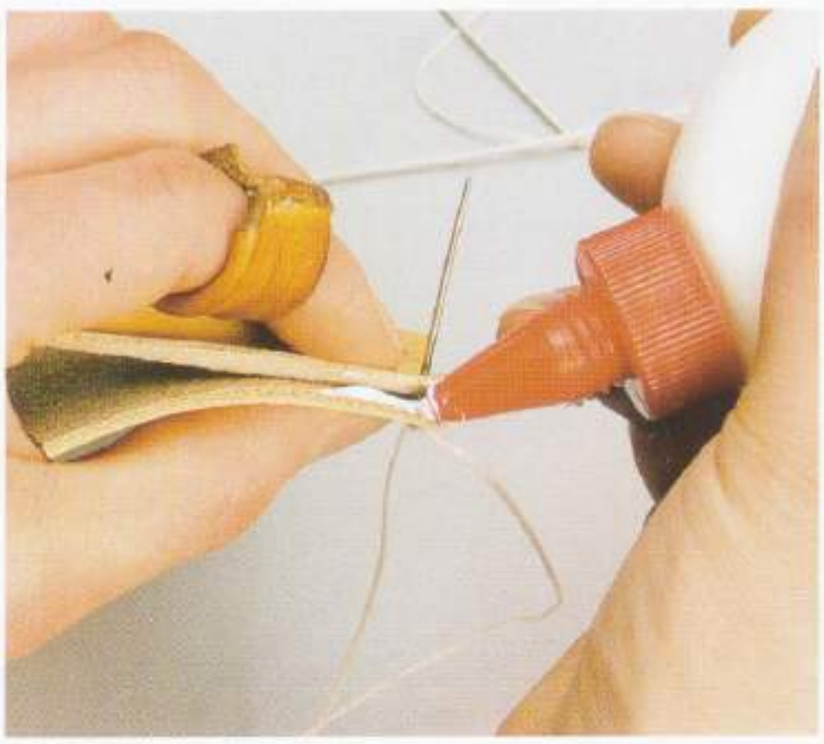
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

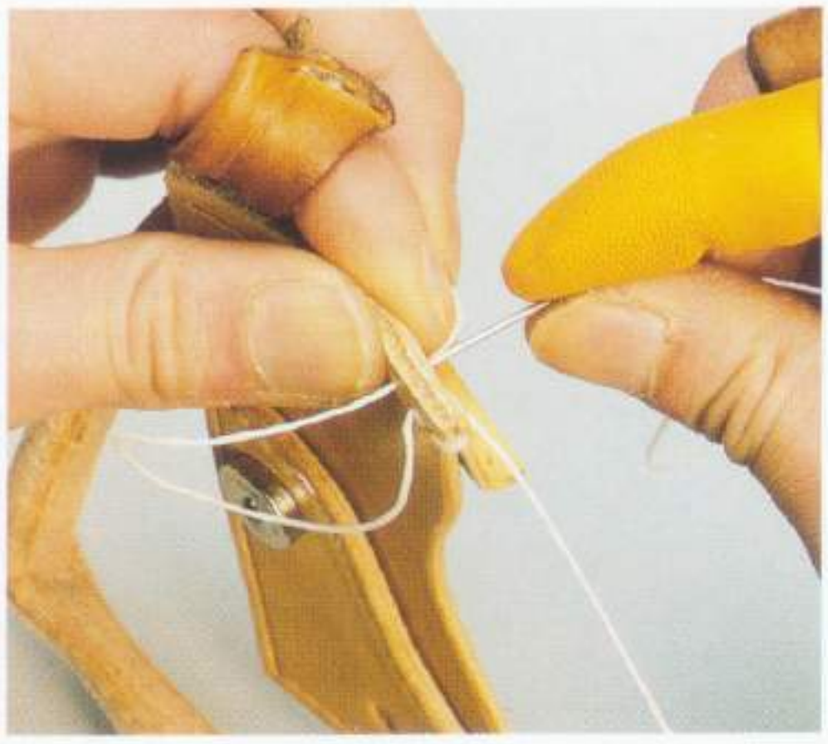




41

目打ちした際に付けた印の部分に水を付け湿らせ、柔らかくしたら、そこを頂点として床面に向かって折る。これでマチの準備は終了となる

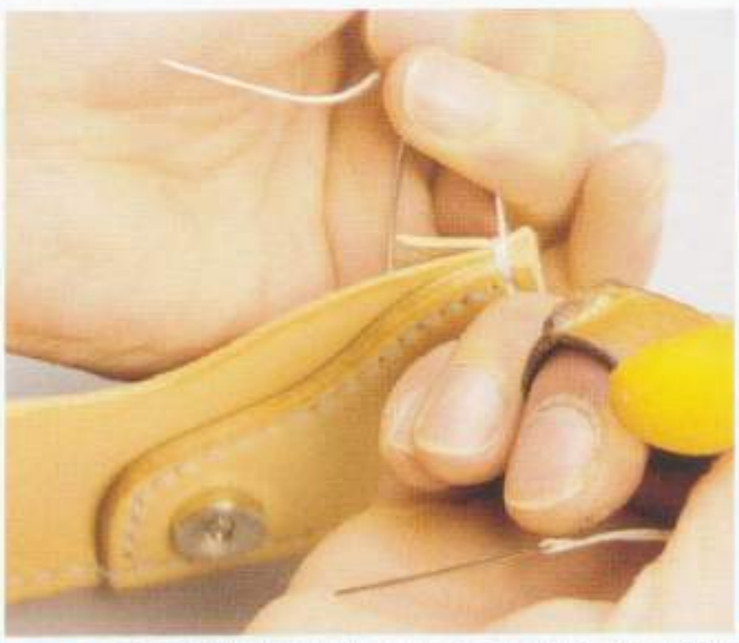




マチをホルダー付ポケットに縫っていく。まず1穴目に糸を通したら、合わせ目にボンドを塗り、革の端に掛かるよう糸の両端を1周させる

42

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





43 その後ははみ出ないようこまめにボンドを塗りつつ(銀面に付いたら乾く前に湿らせたタオルで拭き取る)縫っていき、端まで達したら、縫い始め同様に糸を1周させて3目ほど戻る。糸の端は目立たないマチ側に両方とも出したら、切断後にライターで炙り抜け止めを施す



44 ポケットの革とマチとでは角の形状が異なるので、マチの曲がりに合わせてカットする



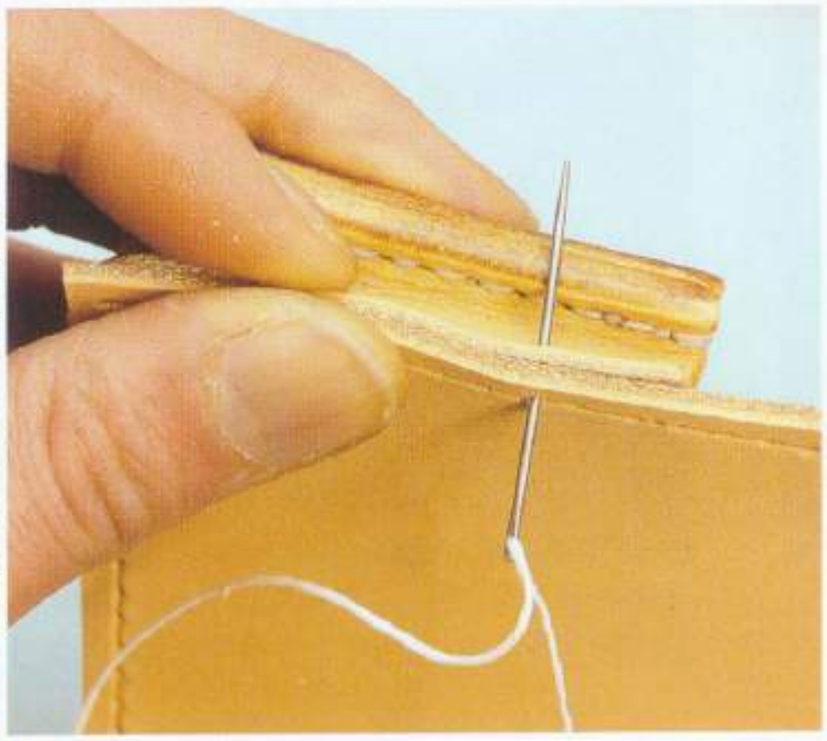

45 逆側を縫った後では作業しにくいので、マチのヘリをヘリ落としで落としたら、ヤスリでポケットとの段差をならしておく

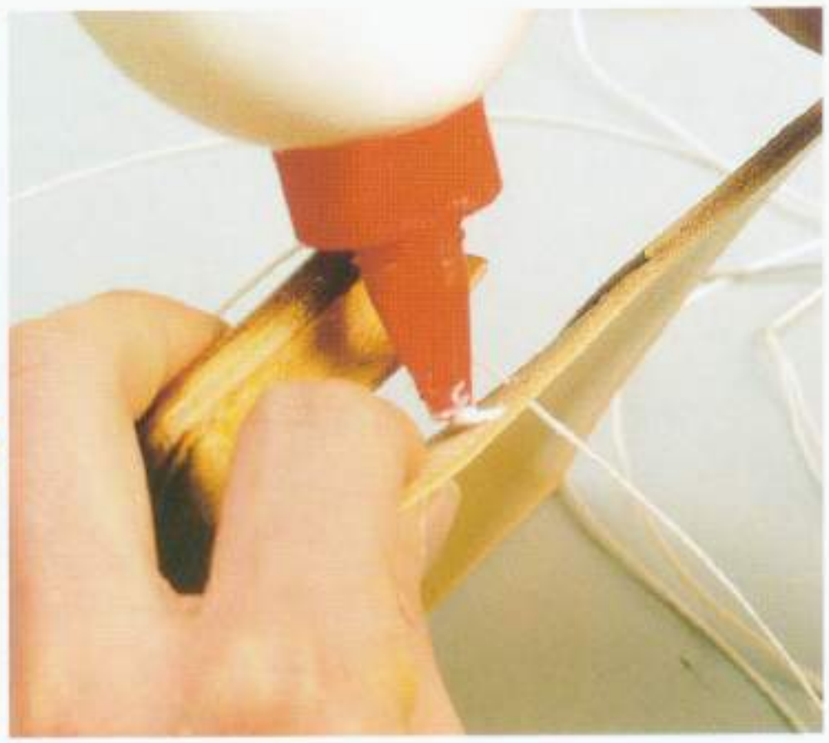




46 ポケット側のコバもこの時点で磨いてしまうと楽だろう。まず湿らせてから磨き剤を縫って、コバ磨きを使って磨いていく。ホルダーがある分厚みがあるので、やや大きめなコバ磨きがあると、綺麗に仕上げることができるだろう

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



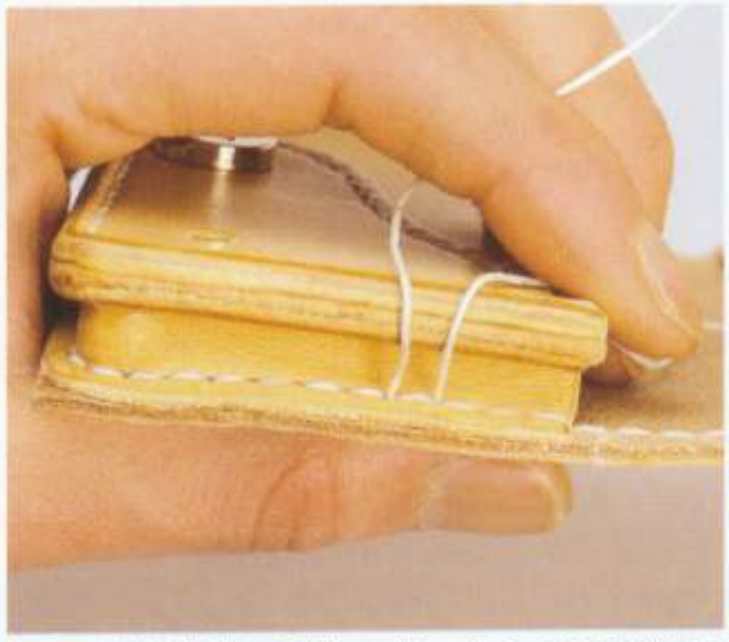


ポケットを本体に縫っていく。本体に付けた印とポケットを合わせ、縫う直前に少量ずつボンドを付けながら、縫い進めていく。縫い始めは端からやや内側の位置にした方が糸が抜けづらく、またここから端に向かった方が縫いやすくなる

47

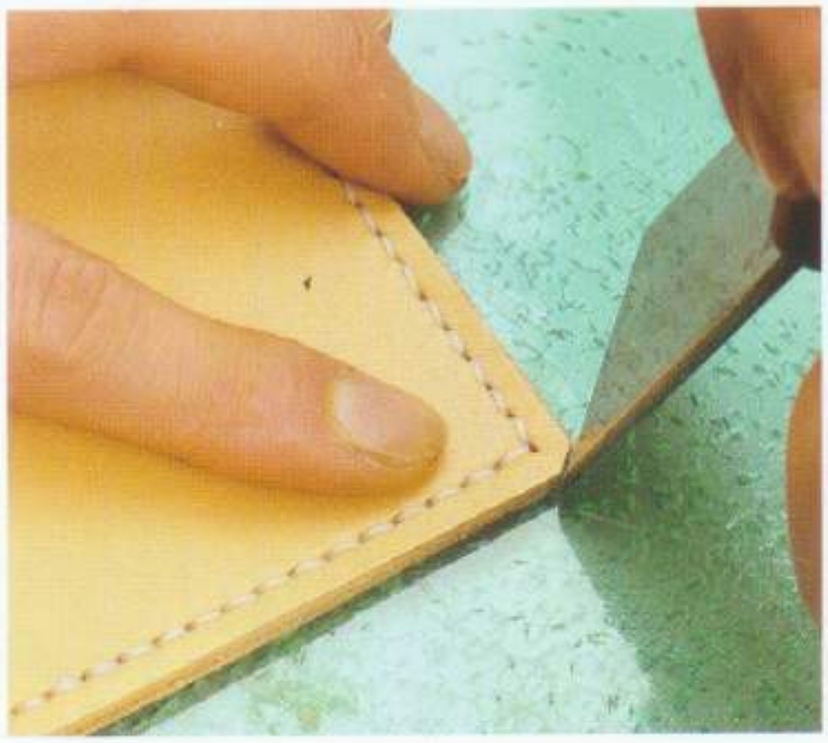


48 目を打つ位置が間違っていなければ、中央部分はこのように糸が通っていくはずだ





49 全周に渡って縫っていったら、写真の位置で縫い終わるはずだ。縫い始め位置を若干越えるまで縫い、マチ側に糸を出し、抜け止めを施す





ホルダー付ポケットにマチを付けた時同様、本体側の角もマチに合わせてカットし、ヘリ落としでマチ側のヘリを落とす

50

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



51 紙ヤスリと磨き剤を使って、磨いていないコバをもれなく磨いて仕上げていく



52 見た目を整え、厚みを抑えるためにポケットのマチを曲げ直す。まずはマチを水で濡らす







53 ポケットの内側から細いヘラを押し入れ、マチの中央部が外側に向かってふくらむ(凸形状になる)ように、しっかりとしごいていく。革が濡れて柔らかくなっているので、伸びるようにしてふくらむはずだ。それが終わったら右の写真のように押して、クセを付ける

●オイルを塗る





54 最後の仕上げに、オイルを塗っていく。ウエスにオイルを適量取り、塗っていく。磨き剤やボンドがあると、オイルが乗らなくなってしまうそうだ



55 オイルが乾いたら、綺麗なタオルで乾拭きすれば、名刺入れの完成だ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

SPECIAL THANKS

バイカー系革小物を中心に幅広い革製品を生み出している工房

印象的な名刺入れの製作方法について解説いただいたのは、茨城県に店を構える革工房Kの増田さんです。増田さん自身がハーレー・ダビッドソンのオーナーという事もあり、製品ラインナップはロングウォレット、メディスンケースといったいわゆるバイカー系（ライダー用）の革小物を中心となっていますが、オーダーにより日用で使える鞄も数多く製作しています。基本的な製品ラインはあるそうですが、オーダーを受けてからの製作になり、そのためか多くの場合、何らかのカスタムメイドが入るそうです。革工房Kは、革製品の製作・販売のお店ではありますが、一般ユーザーからの製作に関する質問も気軽に応えてくれるそうです。そういった敷居の低さと、同店ならではのアイデアが詰まった製品が数多くラインナップされていることもあり、遠くからもお客さんが来るとのこと。興味のある方は、是非とも訪れてみてほしいショップです。

革工房K
茨城県古河市緑町13-3
TEL 0280-32-3089
URL http://www.kawa.shop-site.jp

増田 浩司 氏



KOJI MASUDA

革工房Kを一人で切り盛りするのが増田さん。定番商品であっても、ひと味違ったオリジナリティを生み出す、そのアイデアには脱帽。何でも相談できる気さくな人でもあります













1雰囲気の良い店内には様々なアイテムが展示されています　2商品の1つであるレディースロングウォレット（¥31,500）。赤い蛇革とハートマークがワンポイントになっています　3こちらはたばこケース。手前のかぶせを持ち上げると、中のたばこも持ち上がるというアイデア商品です。デザインも非常に個性的　4これはバイクに取り付けるサドルバッグです。こちらもひとひねりあるオリジナリティ溢れるデザインが採用されています　5オーダーで作られたというバタフライバッグ。蝶のアクセサリーが強いアイキャッチになっているのはもちろん、鞄本体も手が込んだ魅力的なデザインとなっています。多種多様なオーダー品が載っているホームページは、一見の価値があるので、是非見てみましょう

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

MAKING TECHNIC 2 製作解説②

ポシェット ― ショルダーバッグ ―

カブセにクッキリ現れるオビの形を楽しむため、使い込むうちに焼けるヌメ革での製作がお薦めです。



遊び心を捨てずに、ガンガンと日焼けさせて楽しみたいポシェット

このポシェットは、「お尻バッグ」という一風変わったニックネームを持っています。これは製作にご協力頂いた「革工房ピオじい」の松原氏が愛情を込めて付けた呼び名で、目次の写真を見て頂ければ分かる通り、「焼けたカブセをオビから引き抜けば、オビで隠れていた部分のみが…」という、手作りの革鞄ならではの遊び心が反映されたものです。このため、カブセの端をあたかも“お尻”のように、そしてカブセを留めるオビを“パンツ”のように仕立て、使い込むうちに焼けていく特徴を活かすべく、ヌメ革を材料に選択しています。ヌメ革という贅沢な革を使用していますが、真っ黒に日焼けした夏の元気な少年をイメージして、焼けや少しばかりの傷などは気にせずに、ガンガン使いたい革鞄だといえるでしょう。しかし、特徴的な面はそれだけではありません。マチにふっくらとした立体感を出すための“捨てマチ”や、胴やオビに強度を保たせるための“芯材”の使用など、革鞄作りの応用的な技法もしっかりと盛り込まれています。少しばかり残念ですが、“お尻”が恥ずかしいという方はオビやカブセの形状、材質を変えて製作してください。

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



マチの端を内側へ折り返したり、後胴とカブセの間にポケットを設けたり。遊び心溢れながら機能面でも手の込んだ仕立てをしており、日常的に使い続けたくなるポシェットです

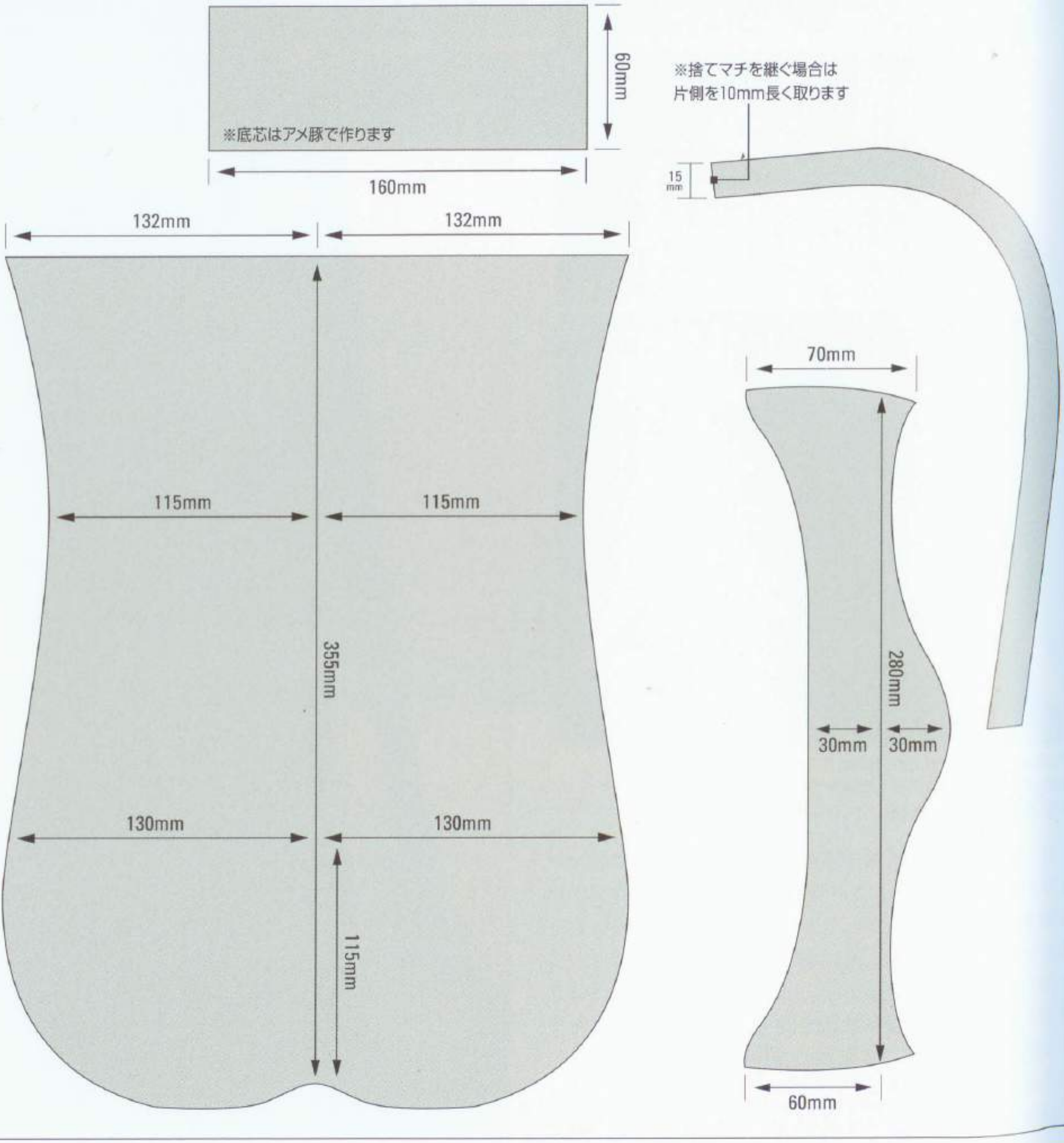


胴とマチを直接縫い合わせず、間に捨てマチを介すことで立体感を演出。初めてでも決して難しい作業ではなく、工程を1つ1つ丁寧にこなせば、きっと誰にでも製作できます

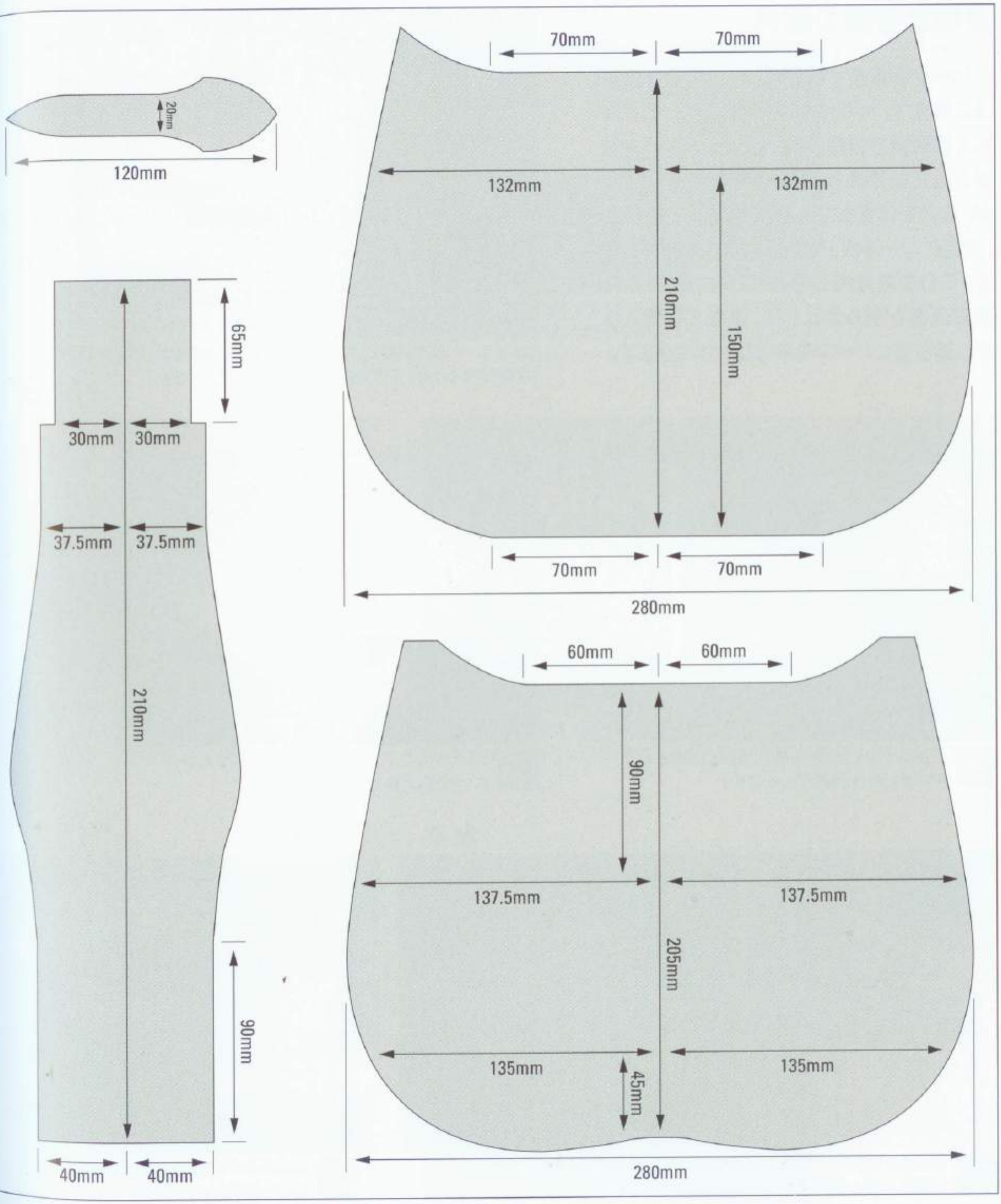
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

型 紙

ここで製作を解説するポシェットの型紙。表示している数値は工程に用いた実寸ですが、好みで大きさを変更することができます。自由に縮尺率を変更して、パーツを裁断する際の目安にしてください。



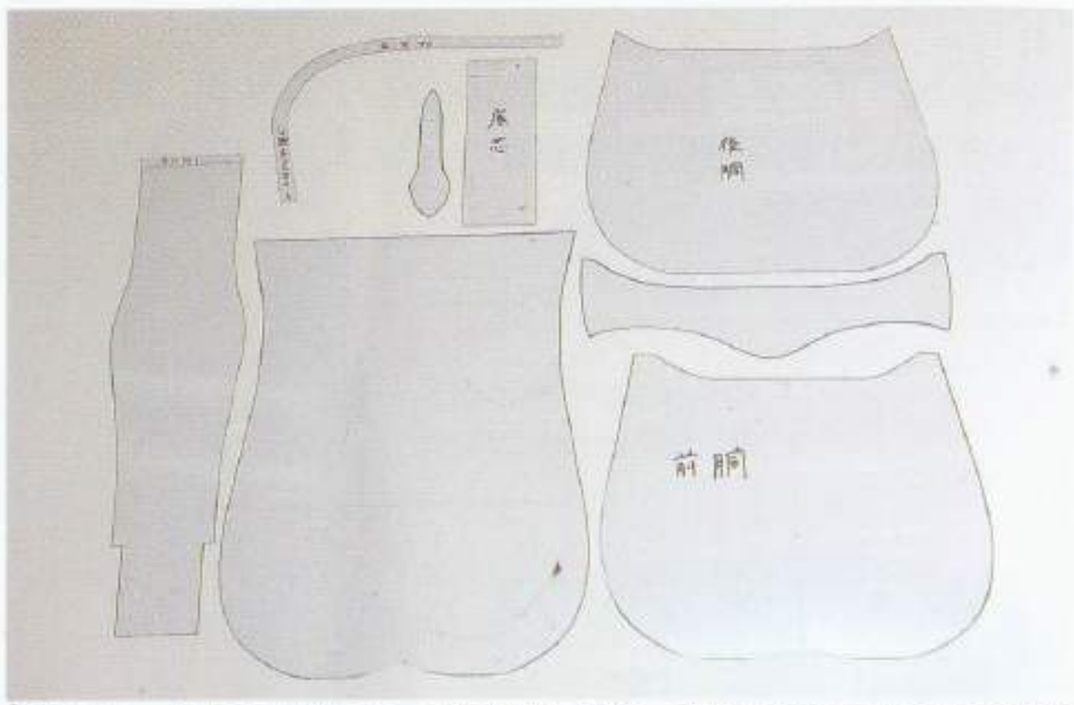
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



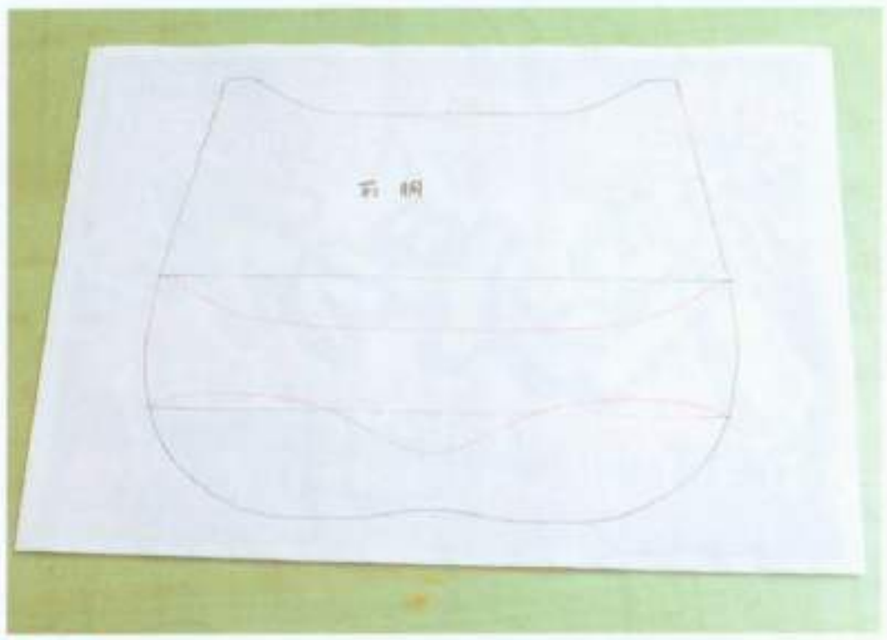
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

便利な型紙の製作

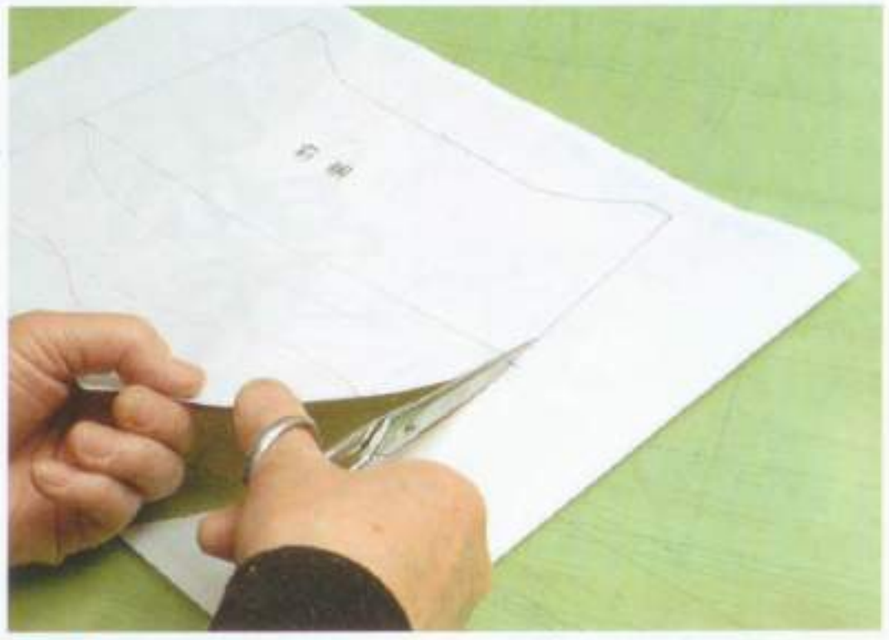
パーツを裁断する際のベースとなる型紙はこれまで、寸法を正確に出し易いことから工作用紙で製作してきました。パーツを裁断するだけであれば工作用紙で充分ですが、ここではさらに一手間を加え、透明な「塩化ビニール板」を材料に型紙を製作します。この型紙を用いるとパーツを取る際に革の表面が明らかとなり、傷などを避けながら都合良くパーツを取ることができます。



塩化ビニール板を材料にして切り出した型紙。型紙を通して革表面の状態が確認できるため、工作用紙よりも都合良くパーツを取ることができます

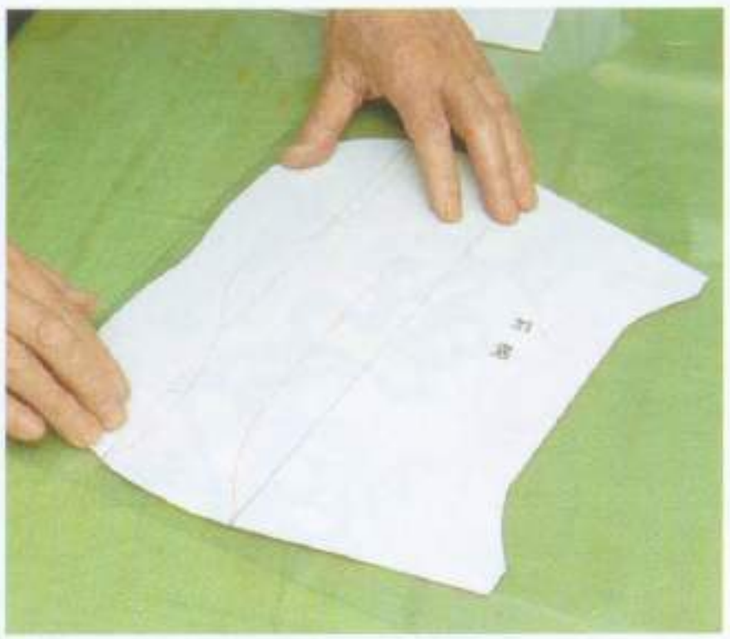


1 正確な寸法を出した型紙を、新聞広告などの薄手の光沢紙へ正確にトレースする



2 トレースしたアウトラインに従ってハサミを入れ、光沢紙で新たな型紙を起こす





3 光沢紙で切り出した型紙の裏にゴム糊(自転車修理用などの)を塗り、これを型紙よりも一回り大きな塩ビ板の上に貼り合わせる



4 型紙のアウトラインに沿って塩ビ板を切る。直線部は定規をあて、カッターで正確に切り出す

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

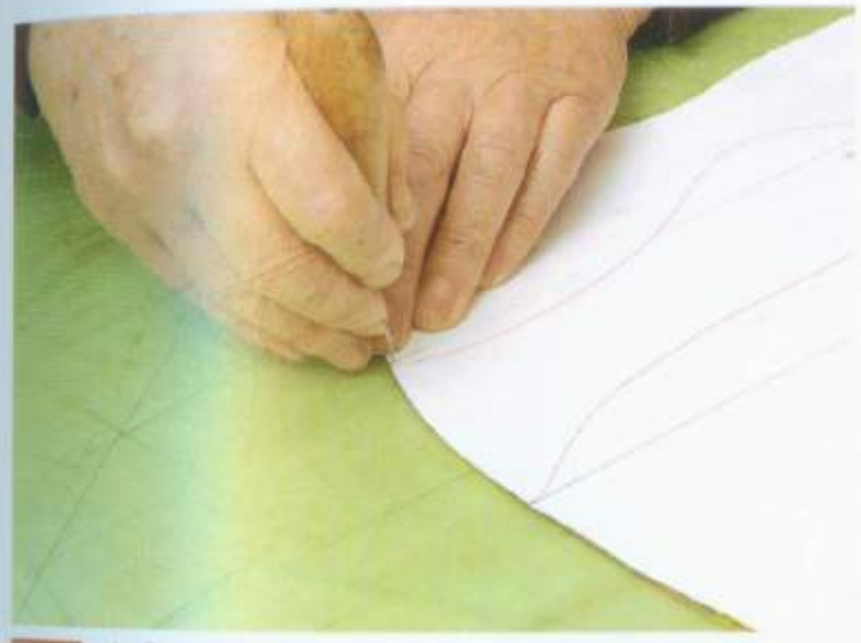


5 塩ビ板は固く、普通のハサミでは曲線が切り出しづらいため、曲線部は反りハサミで切り出す

CHECK!



6 塩ビ板の縁の凹凸を取るためにヤスリを掛ける。曲面部にはラウンドしたヤスリを使用する

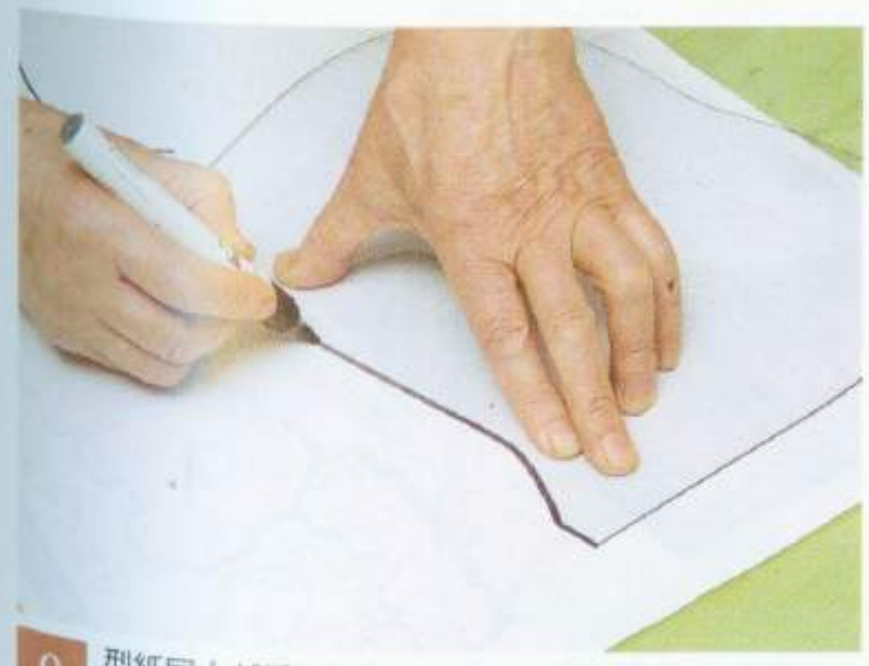


7 オビや芯材の取り付け・貼り合わせ位置を明確にするため、その四隅に丸ギリで印を付ける



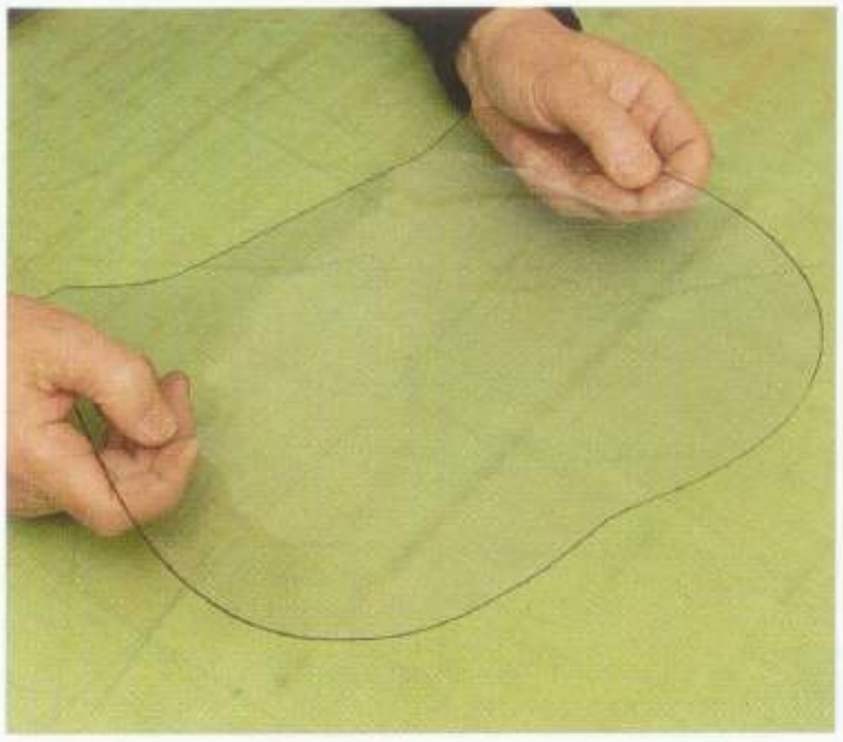


8 光沢紙の型紙を剥がし、先に付けた芯材を貼り合わせる位置の印を丸ギリでつなぎ、後で確認し易いようにしておく



9 型紙同士が重なり合うと分かりづらくなるため、各型紙の縁を油性マジックで縁取る

完成



完成した塩化ビニール板の型紙。革の表面がパーツの形で確認できる上、工作用紙よりも強度があるため、正確に革へ裁断線をトレースすることができます

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

基本パーツの裁断

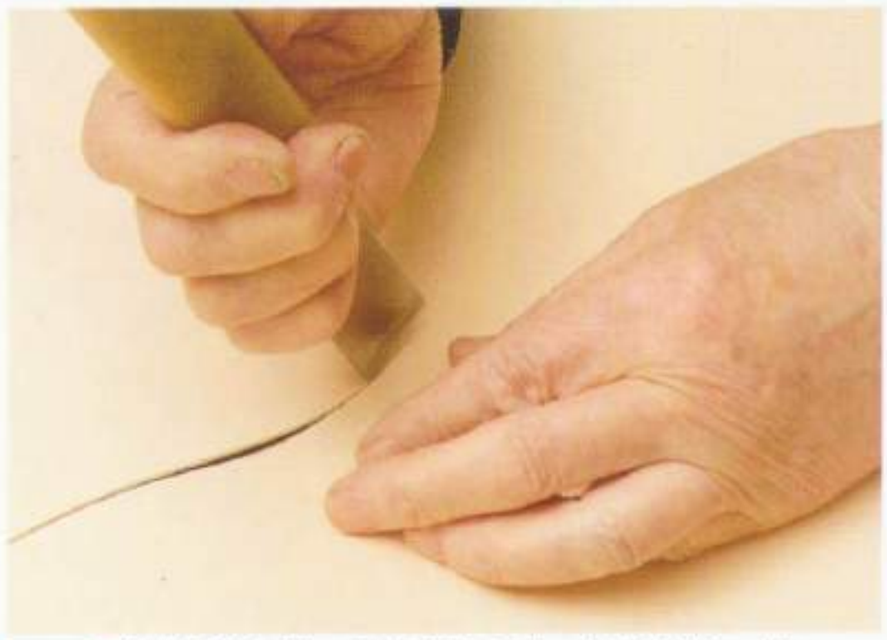
ここからは前項で製作した塩ビ板の型紙を元に、ポシェットの基本となるパーツを革から裁断していきます。透明な型紙の長所を活かし、ポシェットの表面に出るパーツは傷などを避けながら取り、細かな傷などは隠れる部分に回します。裁断線を引いたら裁断に入りますが、曲線部分が多いこのポシェットの場合、パーツの裁断には革包丁が効果的。曲線の裁ち方を覚えてください。



型紙がクリアなので、パーツを取る際に革表面の細かな傷や血筋の跡などが確認し易くなり、これを避けながら都合良くパーツを取ることができる



1 型紙を材料革の上に乗せてしっかりと押さえ、丸ギリで各パーツの裁断線を引く



2 曲線部分を裁つ時は直線を裁つ時とは逆に、革包丁の刃の裏を取るパーツ側に向けて裁つ



3 曲線では、写真のように指を添えると刃先が安定し、刃先がぶれて裁断面が波打つことを防ぐ



4 直線を裁つ時は革包丁を持ち変え、基本通りに刃の表をパーツ側に向けて裁つ

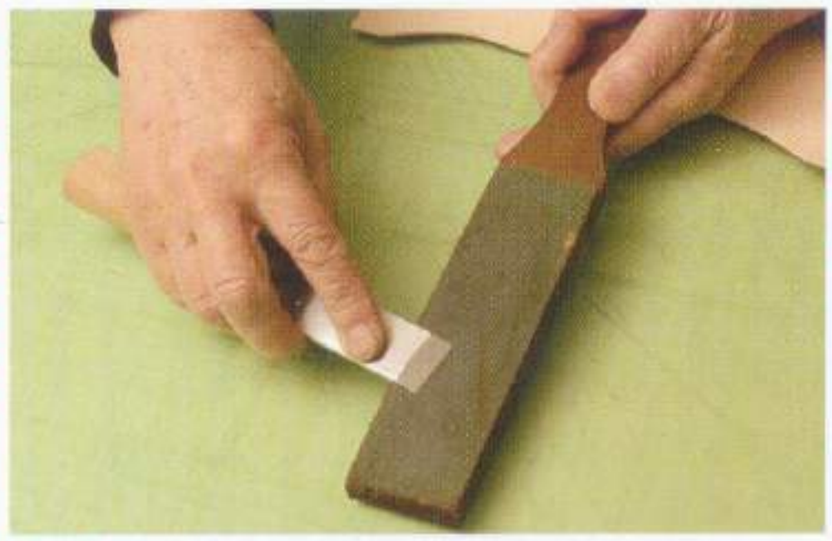
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





5 全てのパーツを裁断し終えたら、銀面を保護するために「皮革用水性ラッカー」を塗る。カット綿にラッカーを染み込ませ、よく絞ってから軽く擦り込む

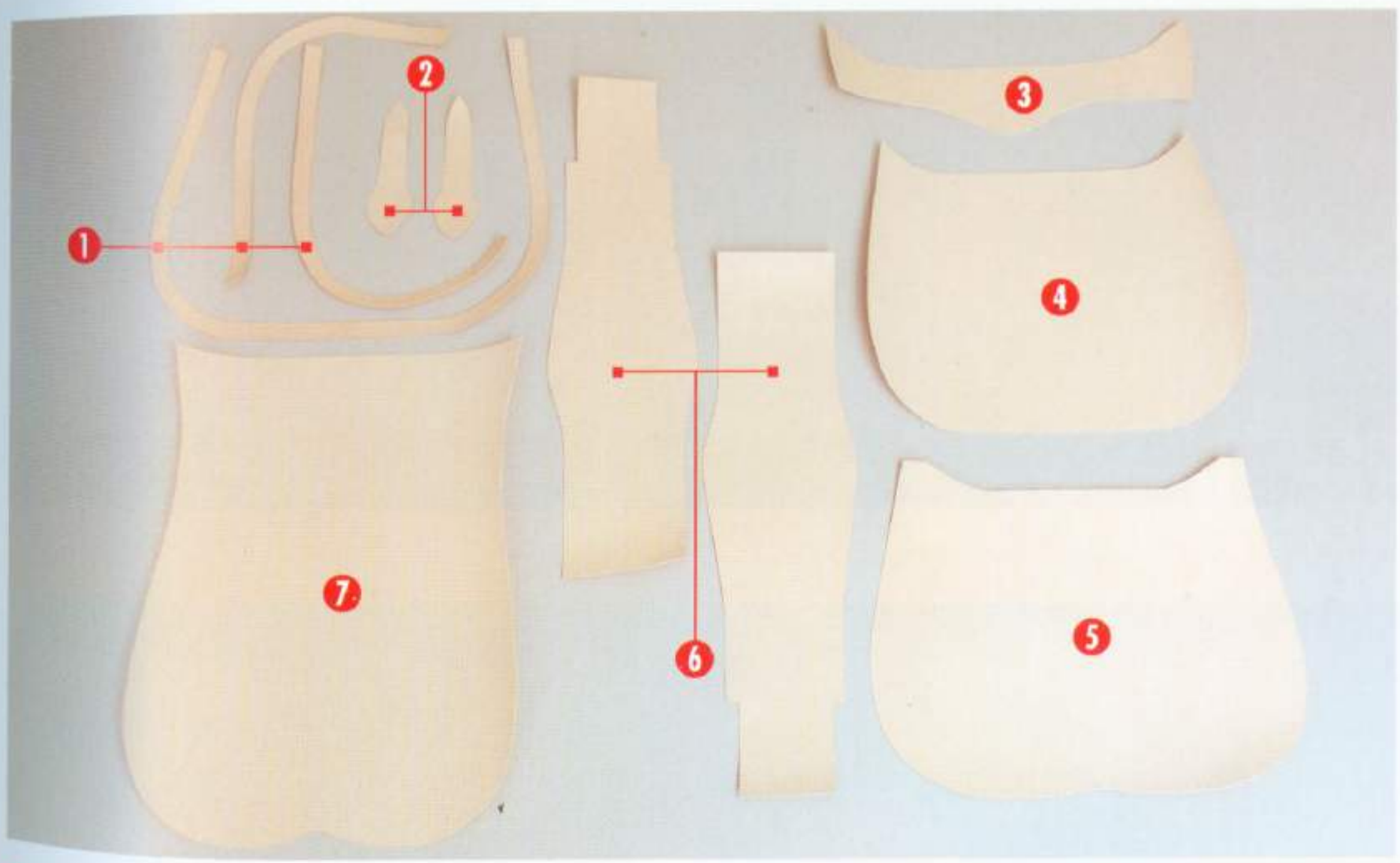
CHECK!



6 タンニンが付着して革包丁の切れが鈍くなった場合は、青棒などの研磨剤でこれを落とす

裁断した基本パーツ

裁断した各基本パーツを並べた写真です。本項でポシェット製作に用いるこれらのパーツは、1.2mm厚にベタすきしたヌメ革・ダブルバット(約160デシ)から取っています。



❶ 捨てマチ
マチに立体感を出すため、胴とマチを直接縫い合わせるのではなく、間に捨てマチを介してから縫い合わせます。パーツを取る便宜上、分割して裁断した後に継ぎますが、P121の工程を見て難しいと感じる場合は、始めから型紙を継いで取ると良いでしょう

❷ ベルト掛け
ベルトの金具を取り付けるパーツです

❸ オビ
前胴に掛かる"カブセ"を留めるパーツです

❹ 後胴
カブセの外側に付き、ポケットを兼ねます

❺ 前胴
オビが付き、カブセの内側に収まります

❻ マチ
柔らかな膨らみを帯びたマチです

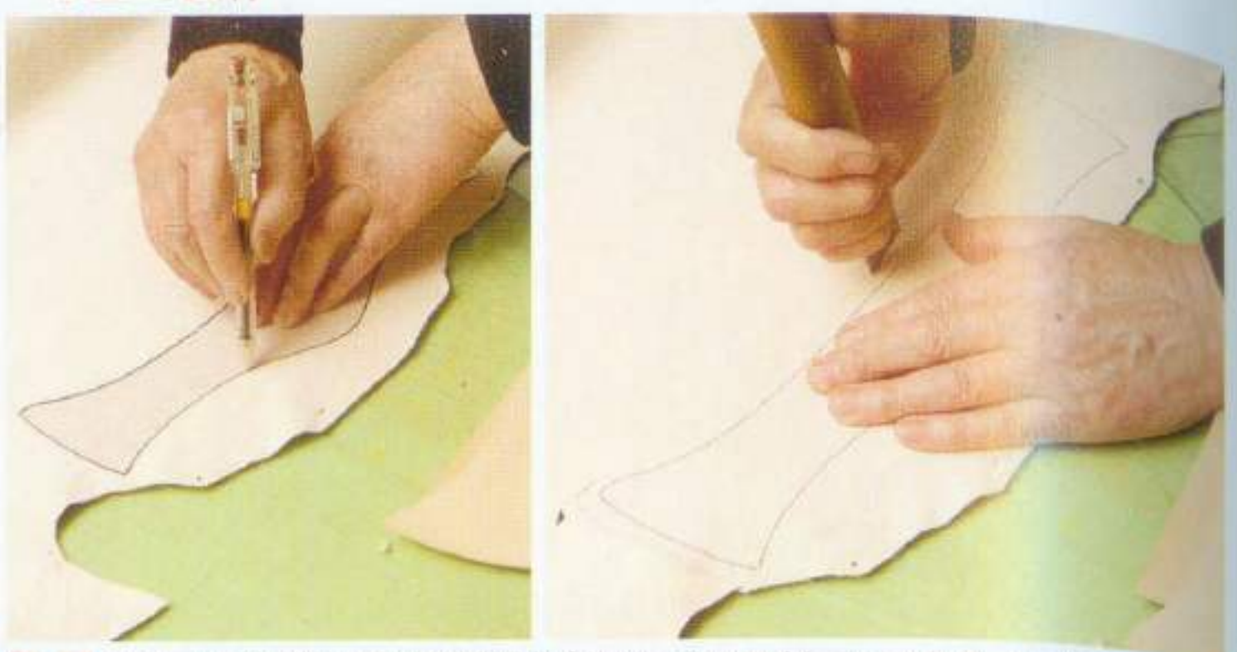
❼ カブセ
後胴側から前胴に被さり、オビで留めます

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

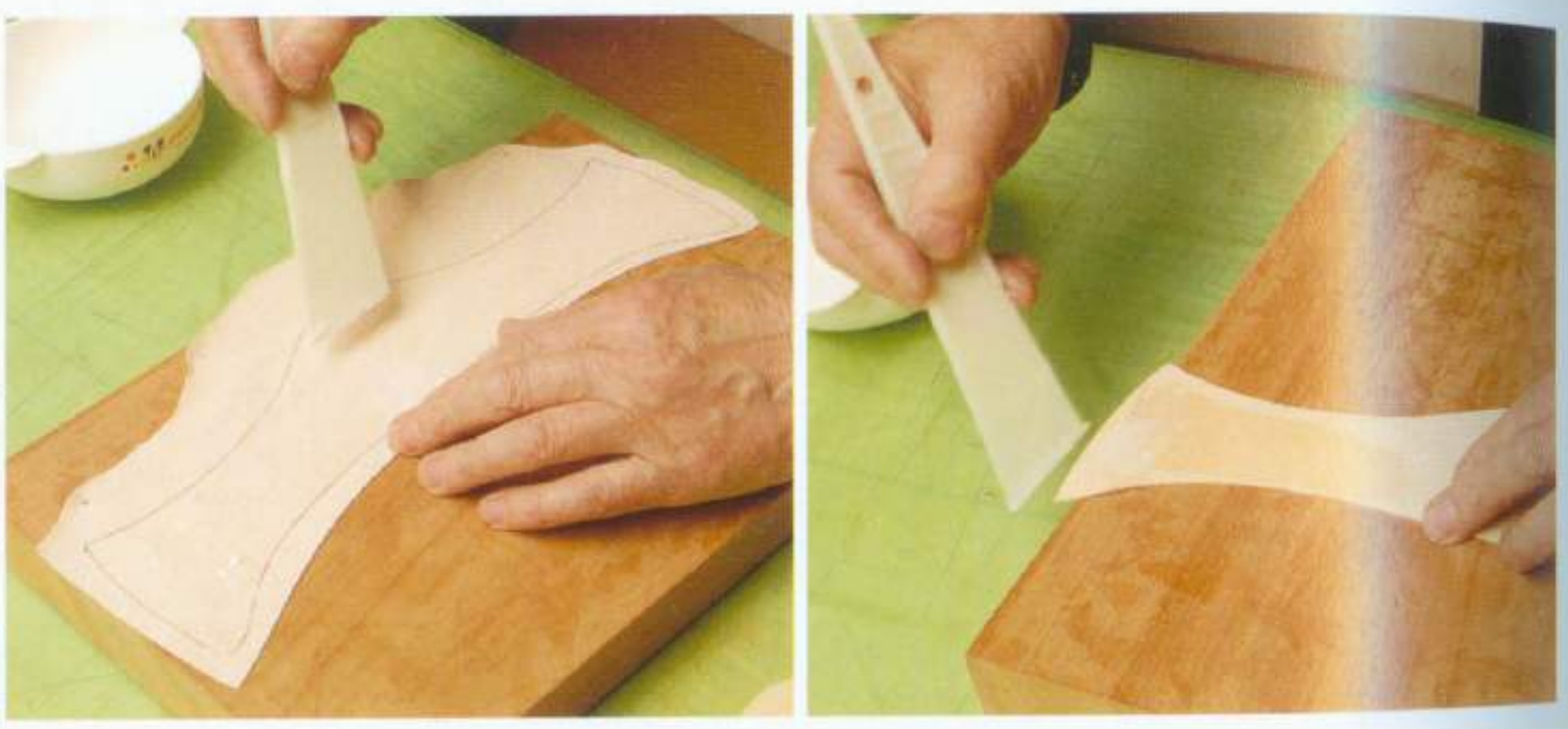
胴周りパーツの製作

マチを除く胴周りパーツは、部分的に芯材などを入れて裏革を貼り合わせ、しっかりとしたポシェットに仕上げます。芯材とは部分的な強度を保たせるために入れるパーツのことで、本項では革の風合いを活かすためにアメ豚を用い、裏革にはソフトなピッコロ(0.4mm厚の豚革)を合わせます。芯材の使い方は違うタイプの革鞄を製作する上でも役立つので、ぜひ覚えておきましょう。

●オビの製作

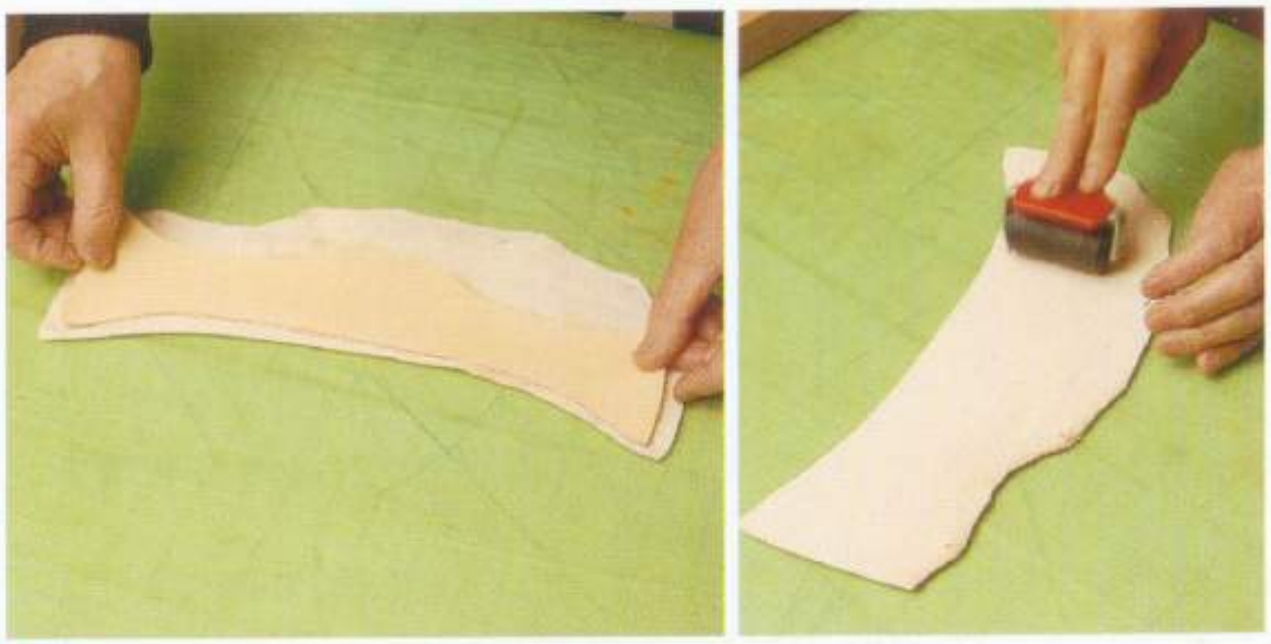


1 ピッコロの床面にオビの型紙を合わせ、そのアウトラインをボールペンなどで大まかにトレースする。そして、アウトラインよりも広めにこれを裁断する



裁断したピッコロの床面とオビ(パーツ)の床面に白ボンド(水溶性接着剤)をよく伸ばして塗り、双方を貼り合わせる

2



3 ピッコロにトレースしたアウトラインに沿ってオビを合わせ、銀面を汚さないようピッコロ側からローラーなどで圧着する



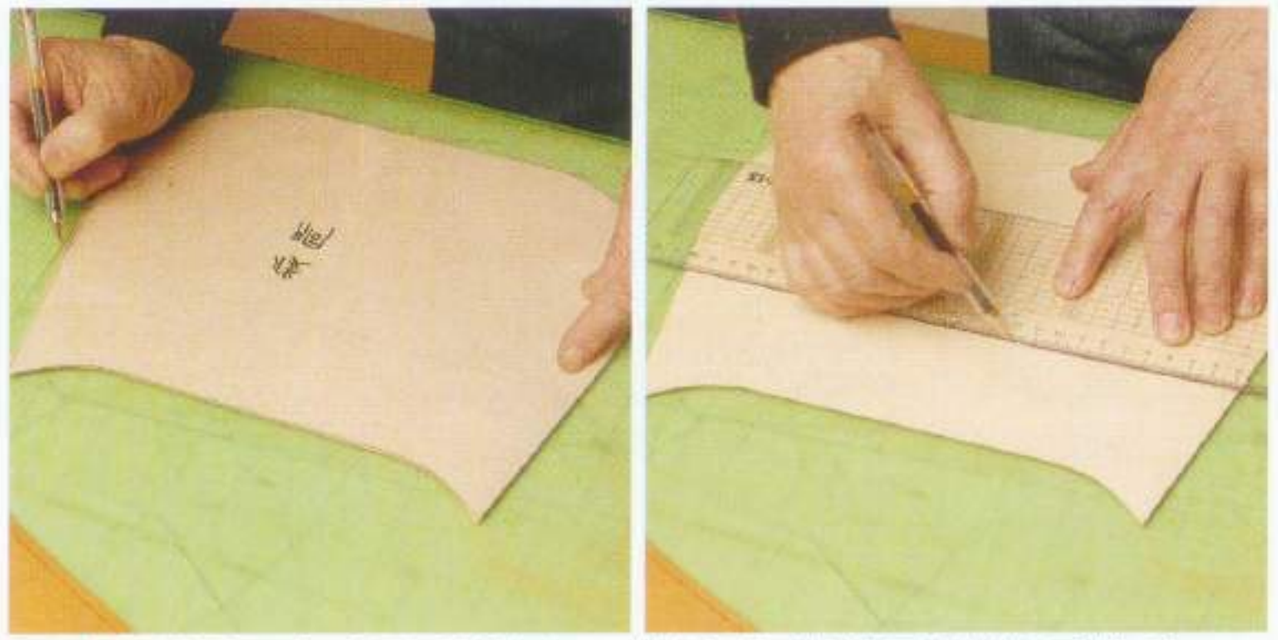
4 白ボンドが乾燥したことを確認の上、銀面側を表にしてアウトラインに沿ってピッコロを裁つ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●後胴と前胴の製作



5 後胴のポケット口に入れる芯材とするため、型紙を元にアメ豚床面へ芯材の形をトレースする



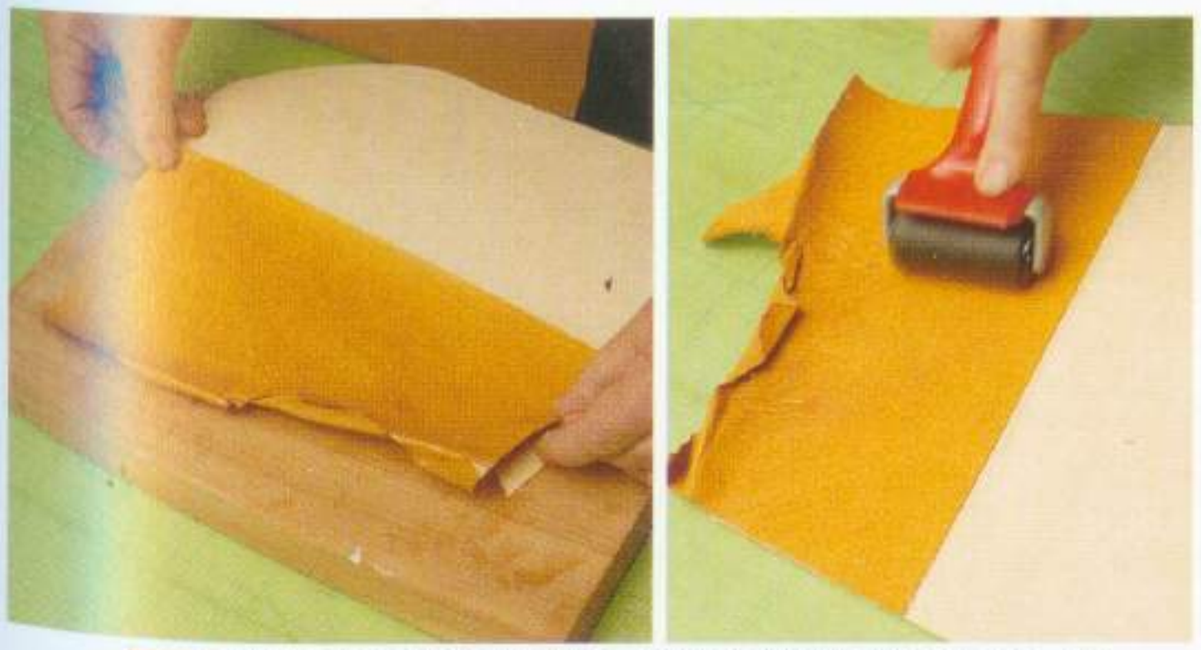
6 後胴(パーツ)の床面に型紙をあて、芯材を合わせる境目(直線)の両端に印を付ける。そして各印を定規でつなぎ、ボールペンで真っ直ぐな線を引く



7 アメ豚を裁断する。合わせ目となる直線部は正確に裁ち、他の3辺は大まかに裁断する



8 アメ豚と後胴の床面に白ボンドを塗る。先に引いた直線が境目となるので、後胴はこれより上側にのみ白ボンドを塗る



9 境目の直線をピタリと揃え、アメ豚と後胴を貼り合わせる。貼り合わせた後は銀面を汚さないよう、アメ豚側から圧着する



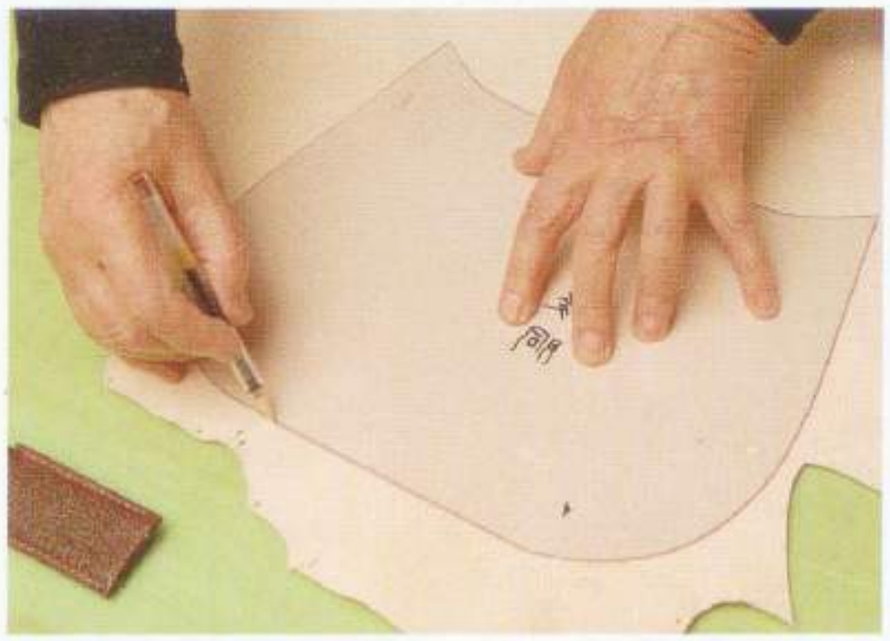
10 白ボンドが乾燥したことを確認し、銀面側を表にして後胴からはみ出したアメ豚を裁ち落とす

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!

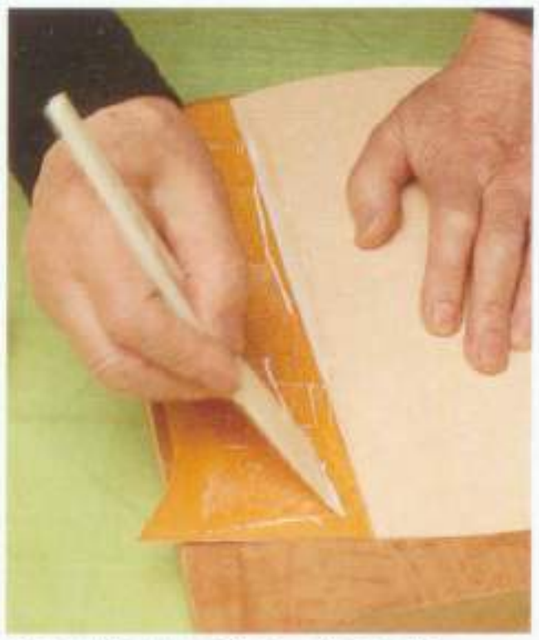


11 ピッコロとの接着性を良くするため、アメ豚の銀面をヤスリ掛け(荒らす)しておく



12 オビと同様に裏革を貼り合わせるため、後胴の型紙よりも広めにピッコロを裁断する





13 裁断したピッコロと後胴の床面に白ボンドを塗る。全面を貼り合わせるので、ボンドは薄くムラなく伸ばす



14 ピッコロにトレースしたアウトラインに合わせ、後胴の床面をピタリと貼り合わせる



15 圧着する面積が広いので、空気を押し出すように中心から外側に向けてローラーをあてる

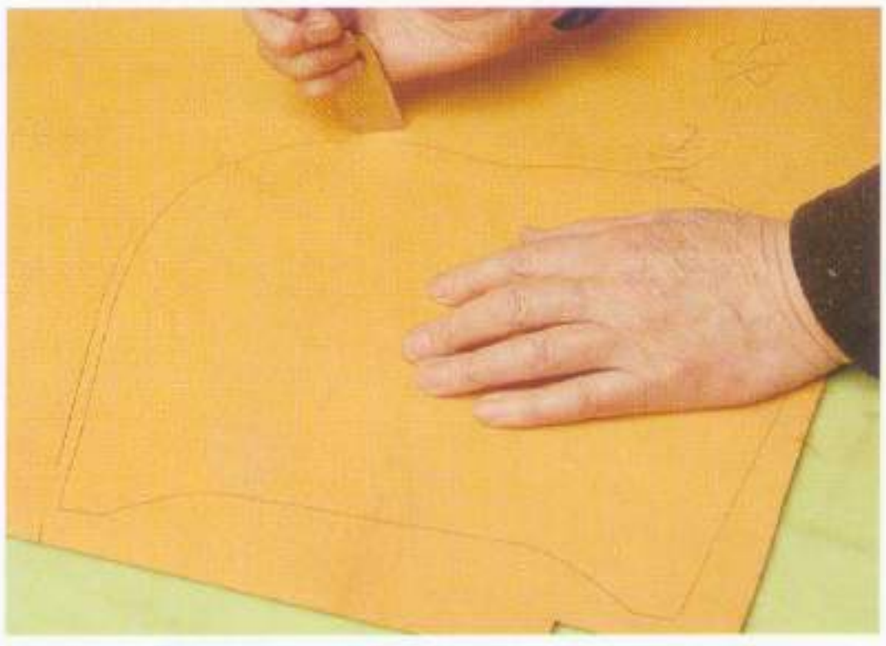


16 後胴の銀面を表にし、アウトラインからはみ出しているピッコロを丁寧に裁ち落とす

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



17 前胴は全面に芯材を入れるため、型紙をアメ豚に合わせて全体のアウトラインを引く



18 アメ豚を裁断して前胴に貼り、後は後胴と同じ手順で、裏革となるピッコロを貼り合わせる

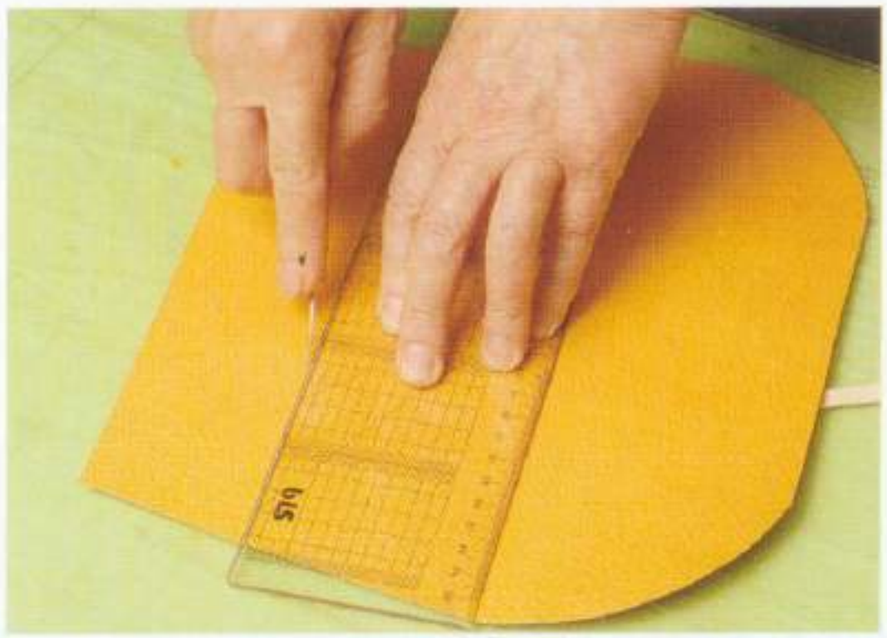
■カブセの製作



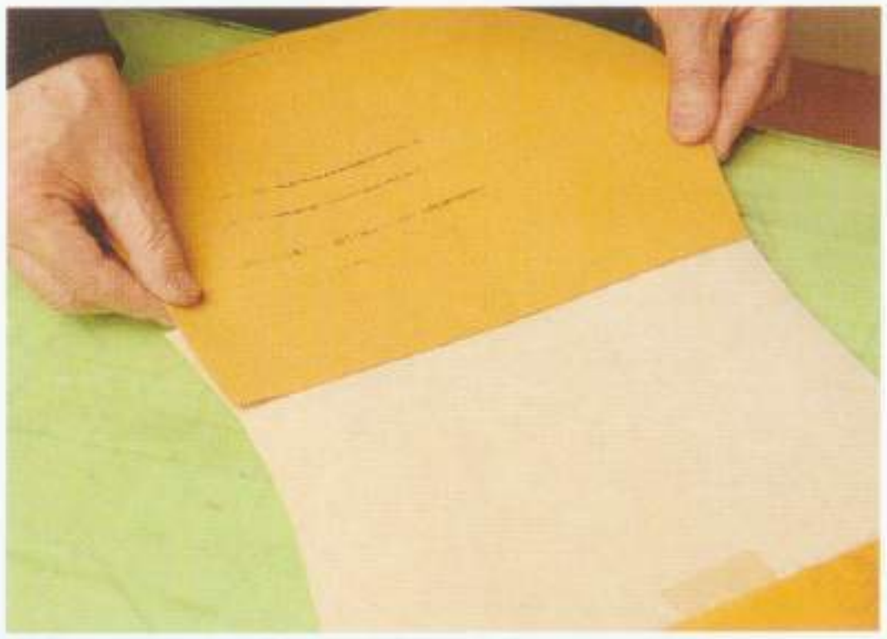
19 カブセにはあらかじめ、後胴に芯材を貼った時と同手順で、オビ留めする部分に芯材を貼る



20 後胴に縫い合わせるアメ豚（内ポケットになる）を貼るため、上縁を10mm程度軽くすいておく

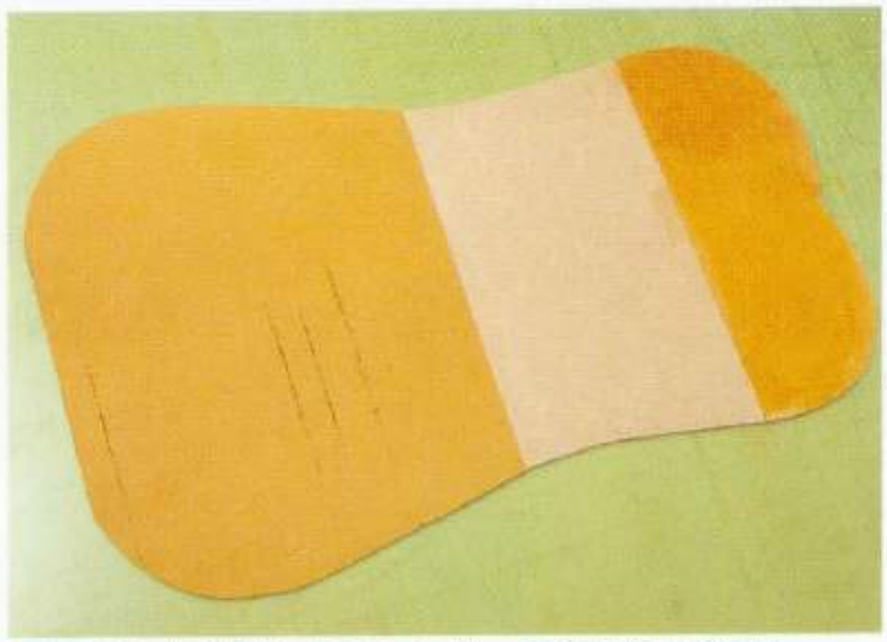


21 後胴の型紙を元にアメ豚を裁断し、銀面にカブセと貼り合わせる際の目印となる境目線を引く



22 境目線の上側が接着面になるので、これをヤスリで荒らした後、白ボンドでカブセと接着する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



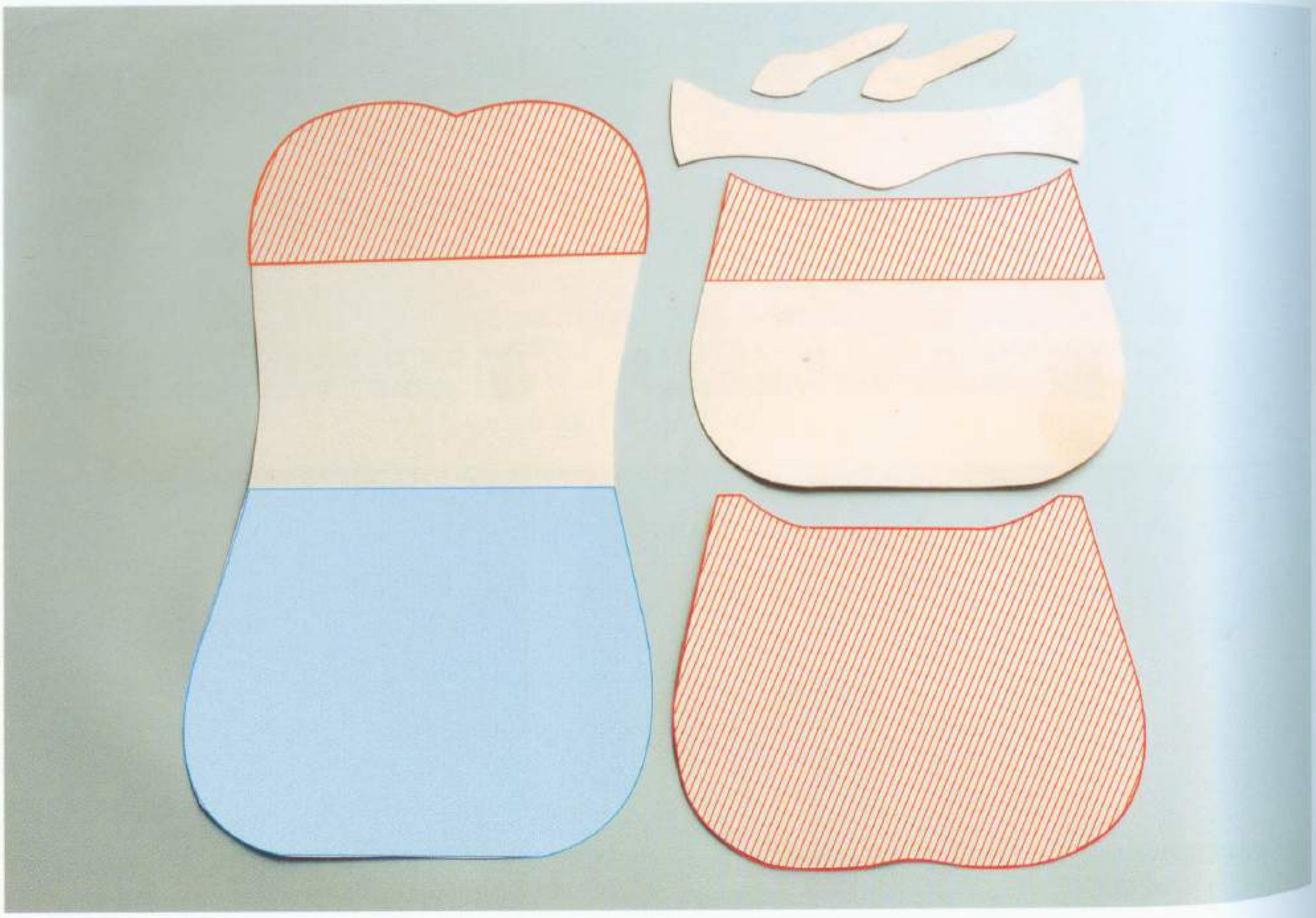
23 アメ豚を貼り終えたカブセ。写真左側を後胴と縫い合わせ、右側はオビで留める部分になる



24 後胴と縫い合わせる部分を含め、カブセの床面にビッコロを貼り合わせる。貼り合わせる面積は広いものの、その手順は後胴や前胴と変わらない

裏革を貼り合わせた胴周りパーツ

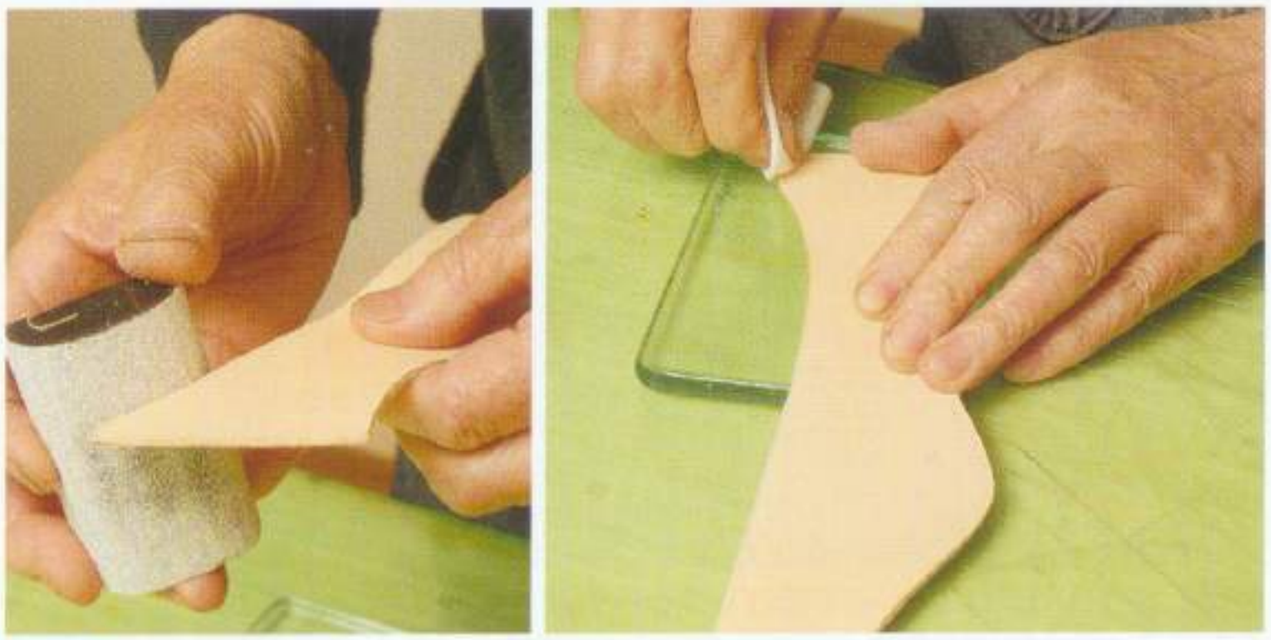
適所に芯材を入れ、床面に裏革を貼り合わせた胴回りパーツ。赤く網掛けした部分には補強の芯材が入り、青い網掛け部には後胴と合わせるアメ豚を合わせています。



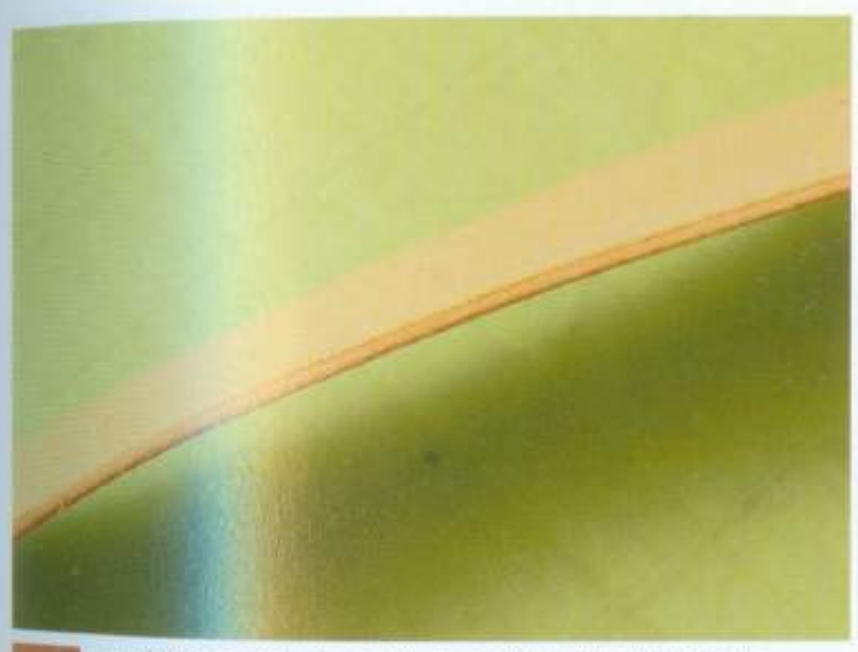
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

胴周りパーツの仕上げ

胴周りのパーツ全てに裏革を貼り終えたら、その各部に菱目打ちや飾り縫い、コバ磨きを施し、各パーツを単体として仕上げます。飾り縫いとコバ磨きを施す部分は、マチと縫い合わせる部分を残した全ての側面で、詳しくは次頁で解説します。なお、飾り縫いは必ずしも必要な工程ではないので、好みによりコバ磨きのみで済ませても良いでしょう(ただし、接着は確実にすること)。



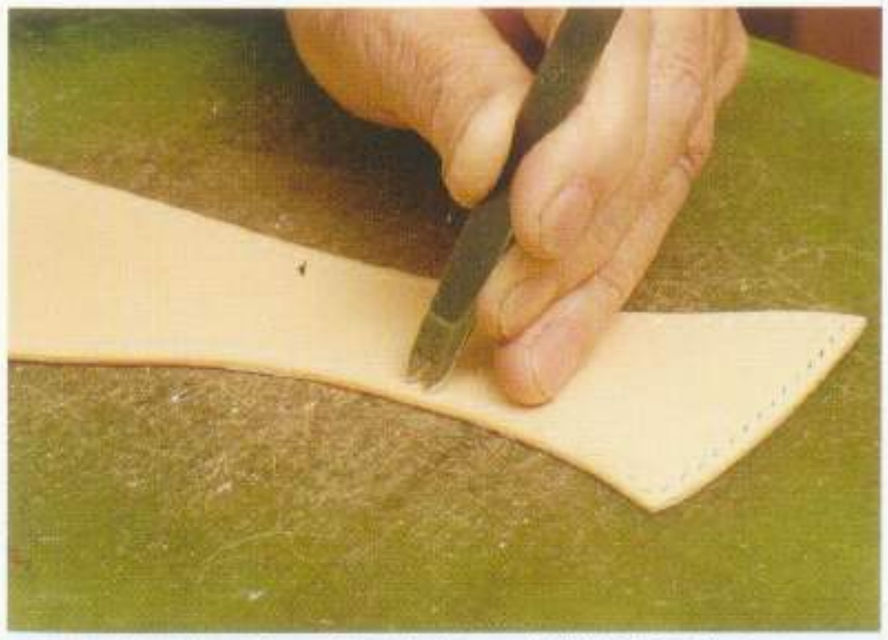
1 次頁の大きな写真内で、赤線が引かれた部分にのみコバ磨きを施す。曲線部はラウンドしたヤスリで削り、トコノールでしっかりと磨く



2 コバ磨きを施したコバ。この後は飾り縫いを施すが、好みによりこのまま済ませても良い



3 次頁の大きな写真内・赤/青線部に、使用する16/3の麻糸に合わせた3mm弱の縫い線を引く

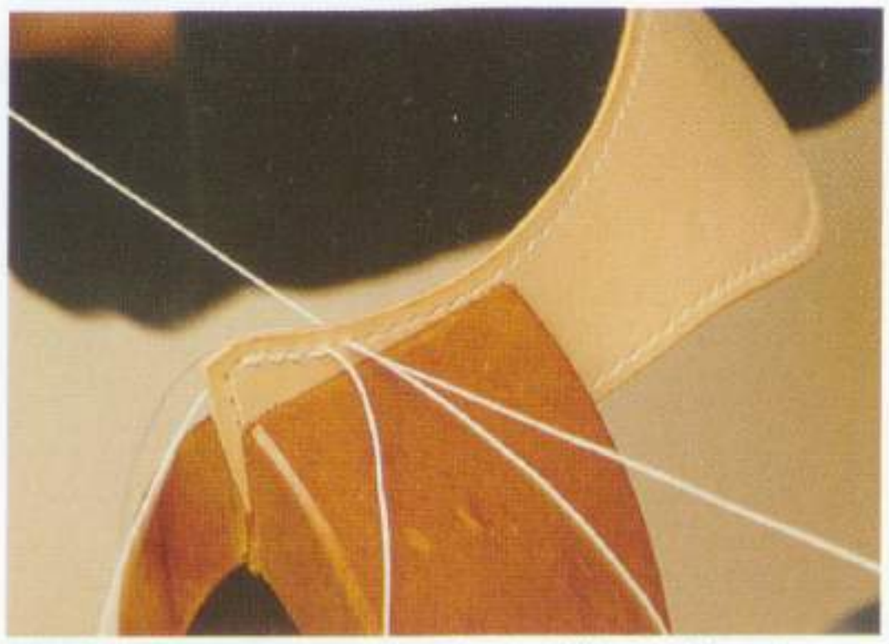


4 縫い線に従って菱目を打つ。曲線部は正確かつ均等な菱目を打つため、2本目の菱目打を使う



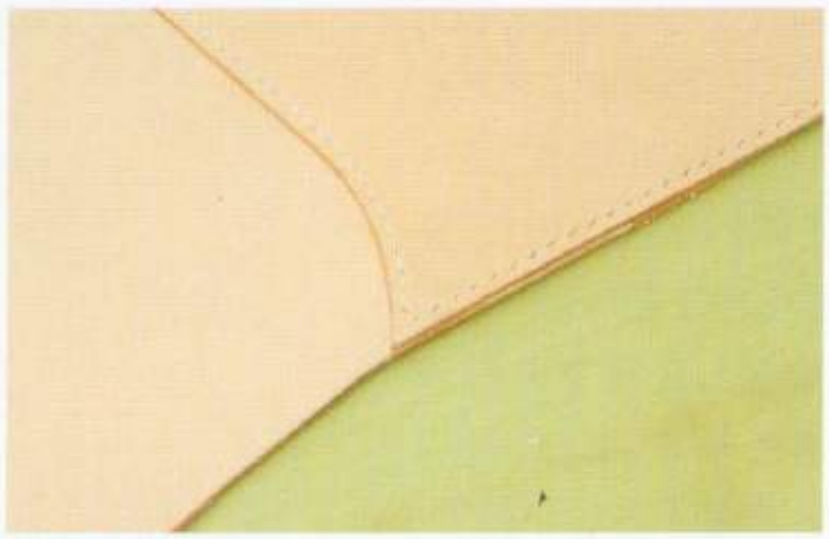
5 菱目打ちを終えたオビ。前胴に縫い合わせる左右の菱目を残し、上下の側面に飾り縫いをする

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



6 強度は不要なため、目を返さず端から平縫いする。薄い部分はあまり強く締めないように注意

CHECK!



7 カブセの飾り縫い線端（写真内に見える縫い線を参照）は、後胴を実際に合わせて確認する

マチに合わせる胴周りパーツ

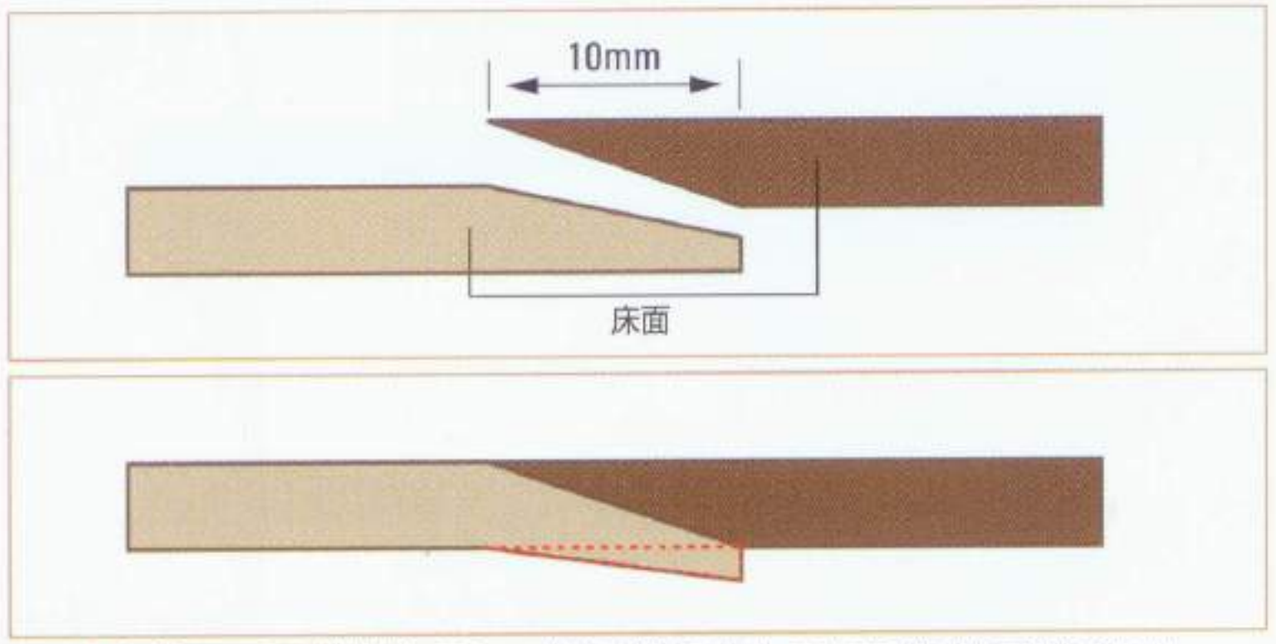
飾り縫いを終えた胴周りパーツの全てです。赤線部分は全て飾り縫いとコバ磨きを施す部分で、残る青線の部分は、マチと縫い合わせるための菱目を打つ部分です。



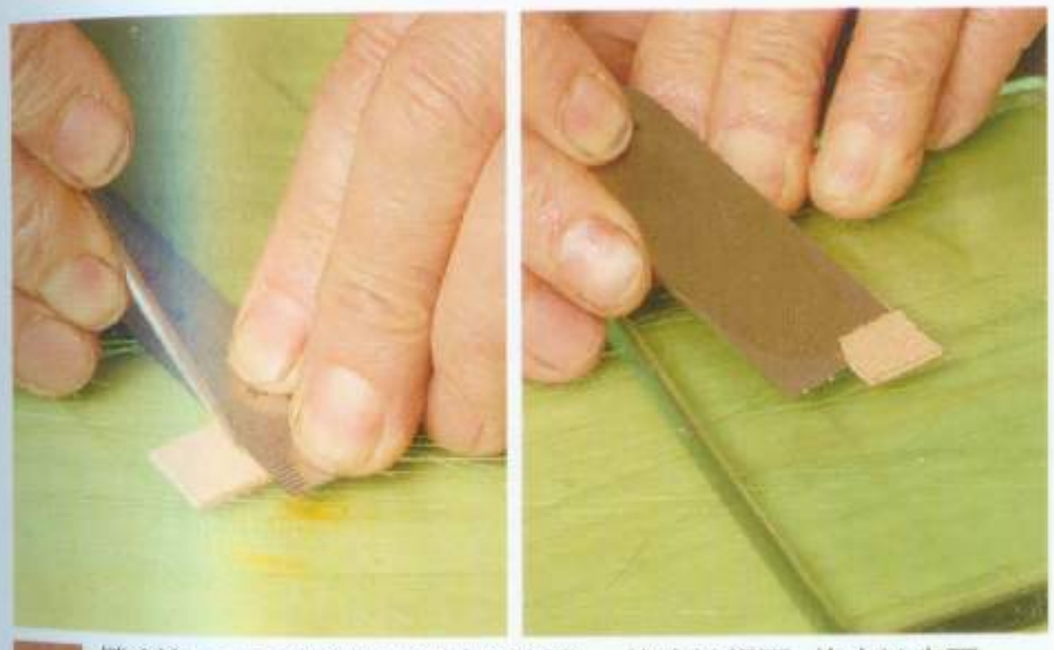
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

マチの製作

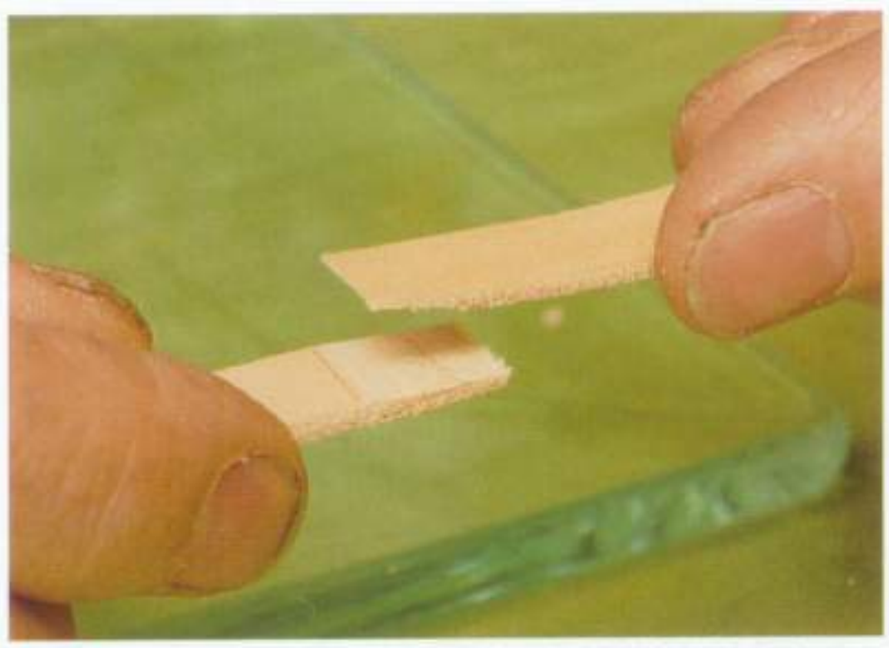
胴周りのパーツを全て仕上げたら、次はマチを製作していきます。型紙通りにパーツを取った場合は、捨てマチ及びマチを継ぐ必要がありますが、この作業には革包丁を用いた難易度の高い“すき”が必要です。これが難しいと感じる場合は、パーツを取る際にあらかじめ型紙をつなげておき、一体のパーツ(マチと捨てマチ)を取った状態でP124からの作業を始めると良いでしょう。



1 各捨てマチの接続部、10mm幅を斜めにすき、これをボンドで貼り合わせて一体のパーツに仕上げる。継ぎ方は、上記イラストの通り

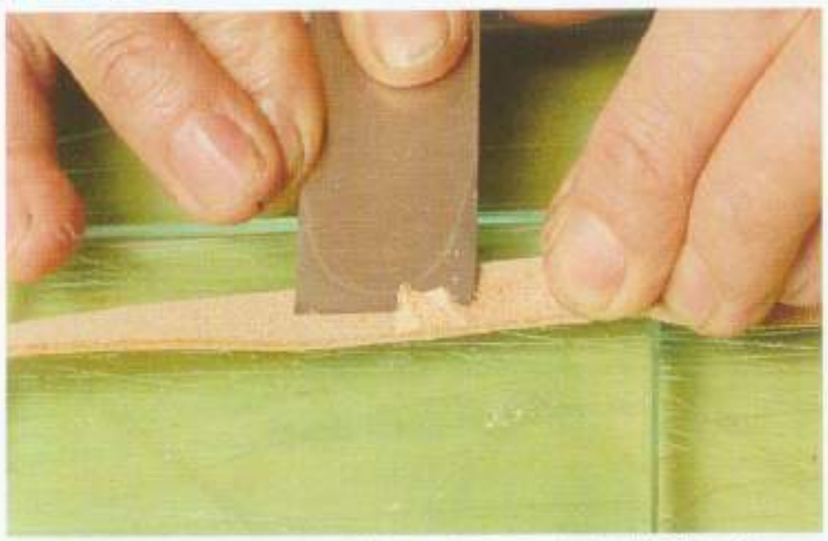


2 継ぐ捨てマチの端(短い方)を確認し、片方は銀面、片方は床面に10mm幅を取り、それぞれを斜めにすく(次の写真を参照)

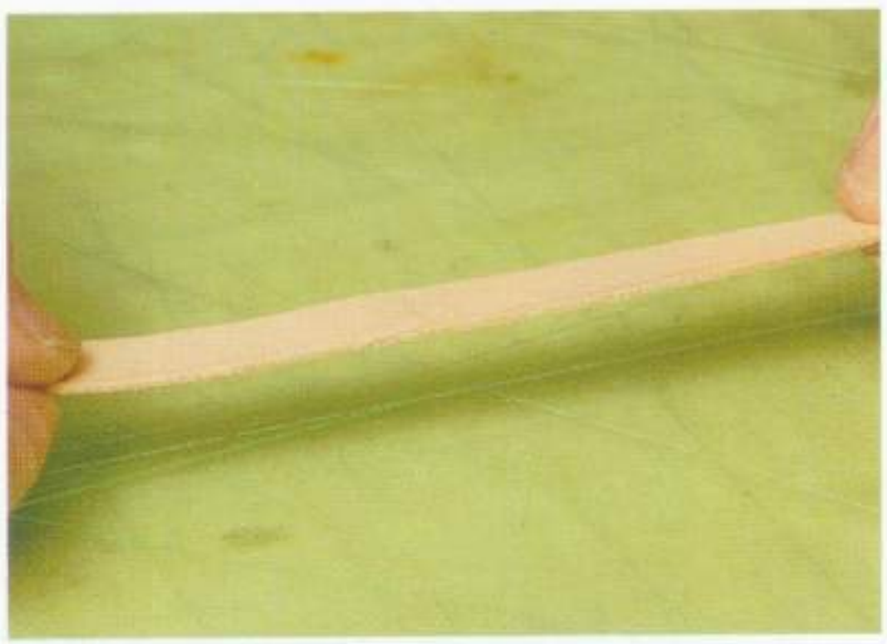


3 各捨てマチのすいた面に白ボンドを塗り、面同士を貼り合わせてしっかりと乾かす

CHECK!



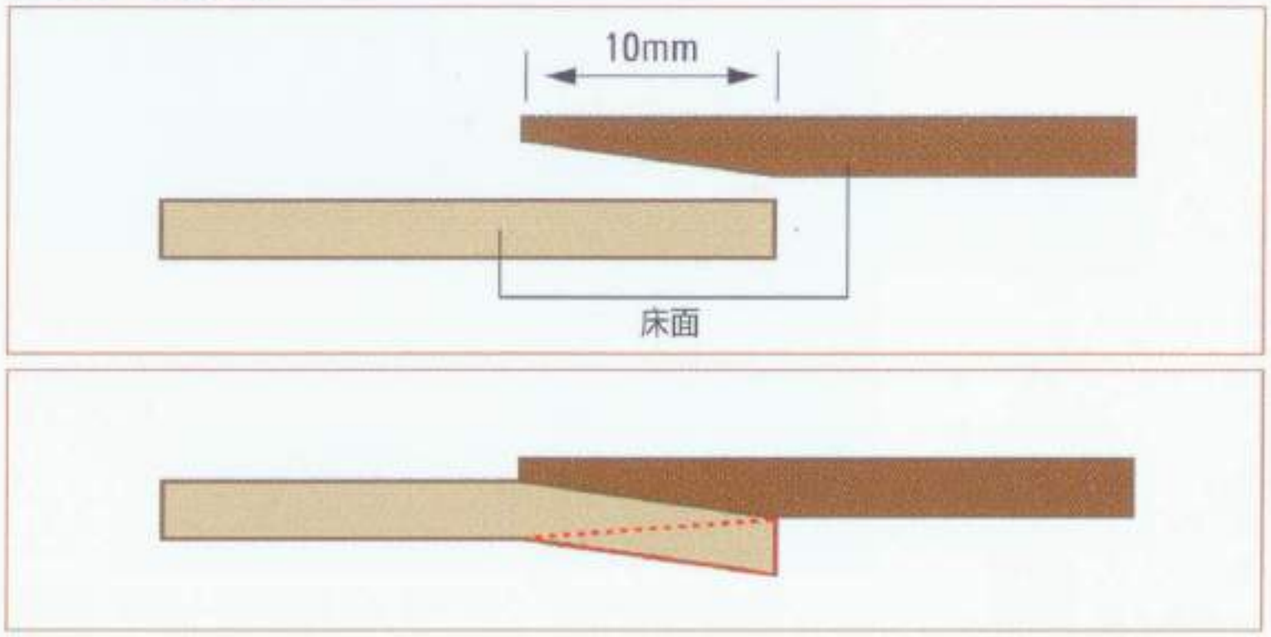
4 銀面側に厚みを残してすいておけば、貼り合わせた後に床面側からすくことができる



5 丁寧にすいて貼り合わせれば、継いだ部分が分からない程に捨てマチを継ぐことができる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●マチを継ぐ



6 捨てマチを継いだ時とは異なり、片側のマチの床面のみを10mm幅ですき、もう片方のマチと貼り合わせた後、床面の厚みを整える



7 片方のマチの床面、接続部を幅10mm程けがき、革包丁で水平に半分程度(約0.6mm)すく

CHECK!



8 すいた部分をもう片方のマチと継ぐので、これを貼り合わせる前にコバを磨いておく





9 もう一方のマチの銀面、接続部を幅10mm程けがき、貼り合わせる接着面をヤスリで荒らしておく





10 すいたマチの接着面が明確になるよう、床面に10mm幅の線を引く。そして、それぞれの接着面に白ボンドを塗る



11 接着面を貼り合わせ、指先でしっかりと圧着。この後に床面をすくので、確実に乾燥させる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

POINT



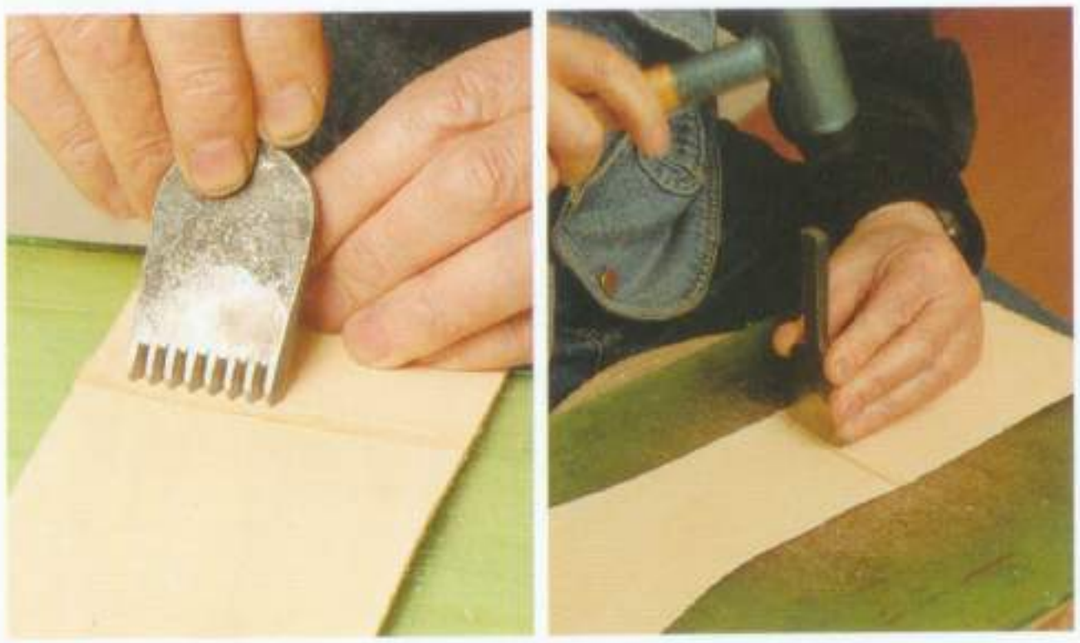
すいていない方のマチの床面が盛り上がっているので、これを革包丁で軽くすき、縫いだ面がフラットになるようヤスリ掛けしておく



12 接続部のコバの段差を利用し、両端を約10mm程度残して幅3mmの縫い線を引く



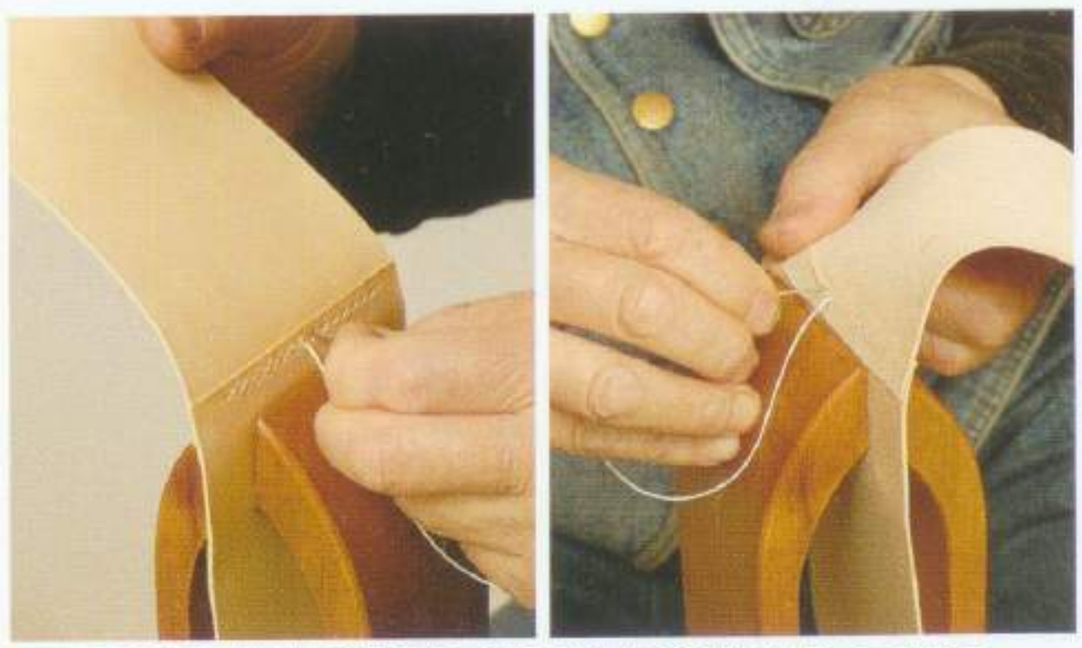
13 縫い線を2分割する中心に丸ギリで印を付け、これを菱目打ちの目安にする



14 印を付けた中心から各端へ向け、菱目打で菱目を打つ。両端を10mm程度残し、中心から均等な菱目数となるよう調整する



15 実際に打った菱目。ここでは8本目の菱目打を用い、中心を重ねることで15の菱目を開けている

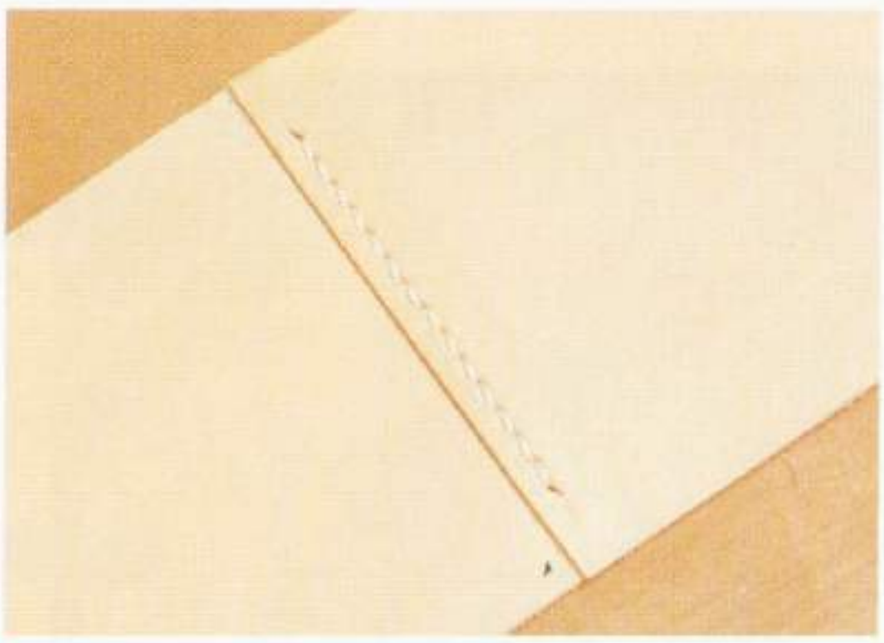


16 16/3の麻糸を3倍強取り、菱目の端から平縫いする。マチは長いパーツなので、左右に折り返しながら縫い進める

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



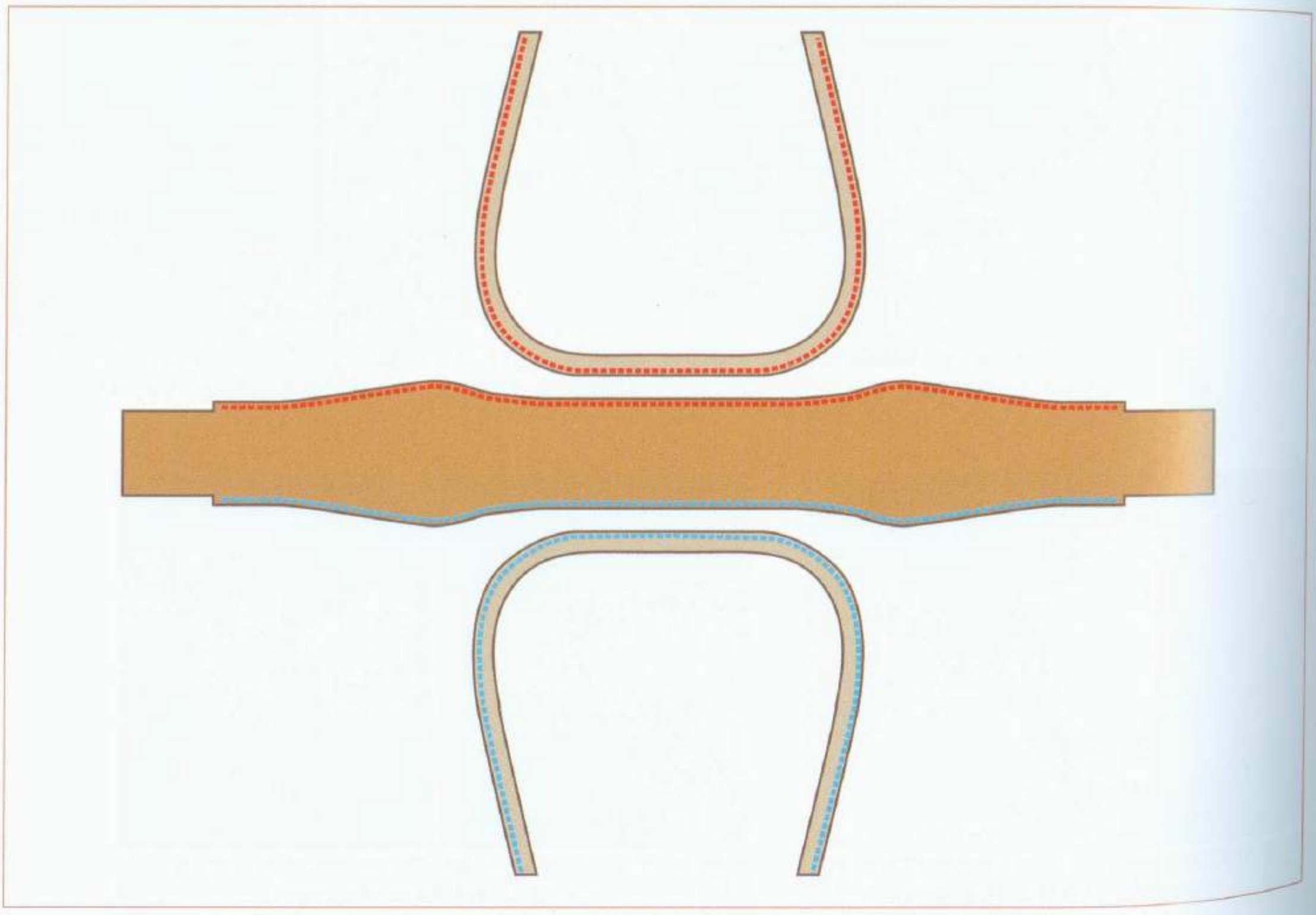
17 裏革を貼り合わせるので床面側を1回結び、縫い終わりは簡潔に処理する



18 継ぎを終えたマチの接続部。外側から見える部分なので丁寧に処理し、強度も充分保っている

■捨てマチを縫う

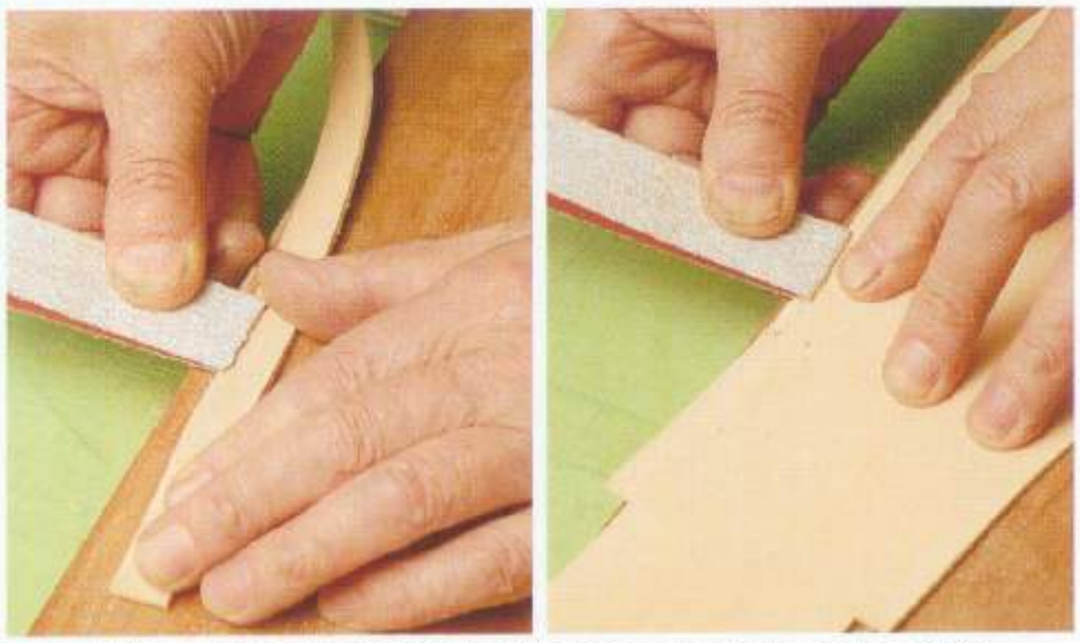
マチと捨てマチをそれぞれ継いだら、下記イラストの通りに赤線部同士と青線部同士を接着し、これが完全に乾燥した後に平縫いで縫い合わせていきます。



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



19 捨てマチの中心を確認するため、その端を合わせて半分に折り、丸ギリで印を付ける

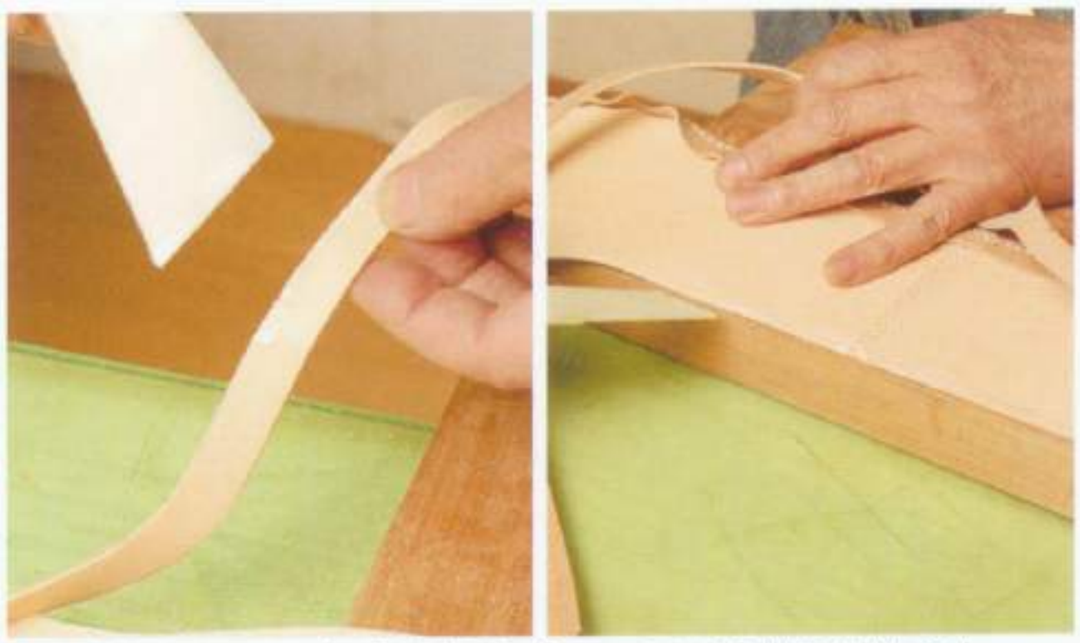


20 捨てマチとマチの銀面同士を貼り合わせるため、前頁で解説した縫製部を端から約3mm程ヤスリ掛けして荒らす

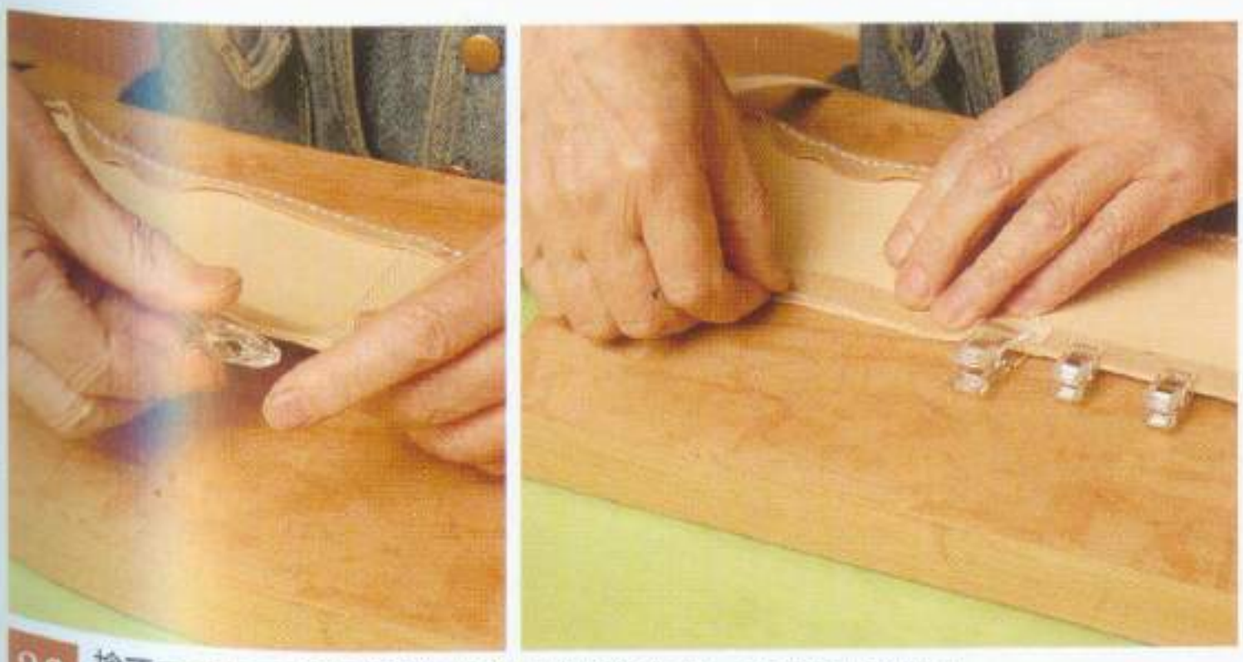
POINT



写真のように台の上へパーツを乗せ、ヤスリを持つ手の指先を台に添えると、必要以上に削り過ぎる失敗をしない

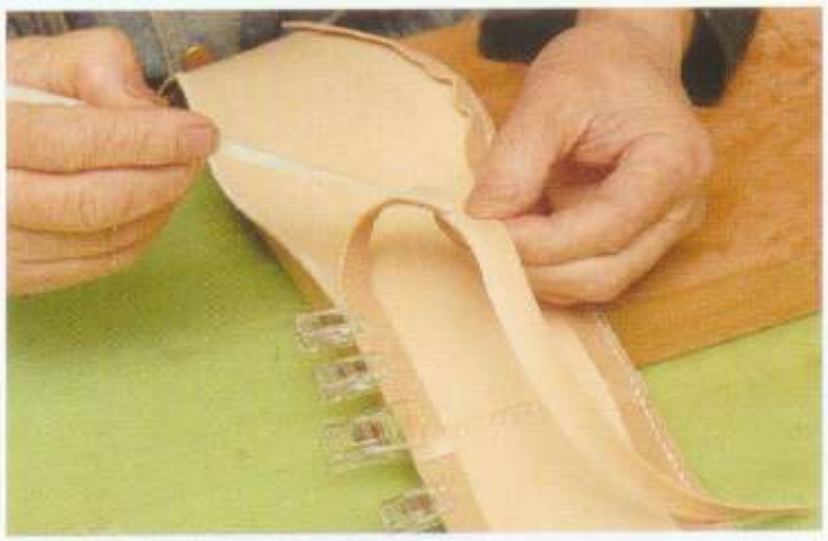


21 始めはマチの底、印を付けた捨てマチの中心付近を貼り合わせる。まずは中心部付近、荒らした各銀面に白ボンドを塗る



22 捨てマチとマチの中心を正確に貼り合わせ、その周辺をクリップで留める。マチの中心は縫い目のラインちょうどになる

CHECK!

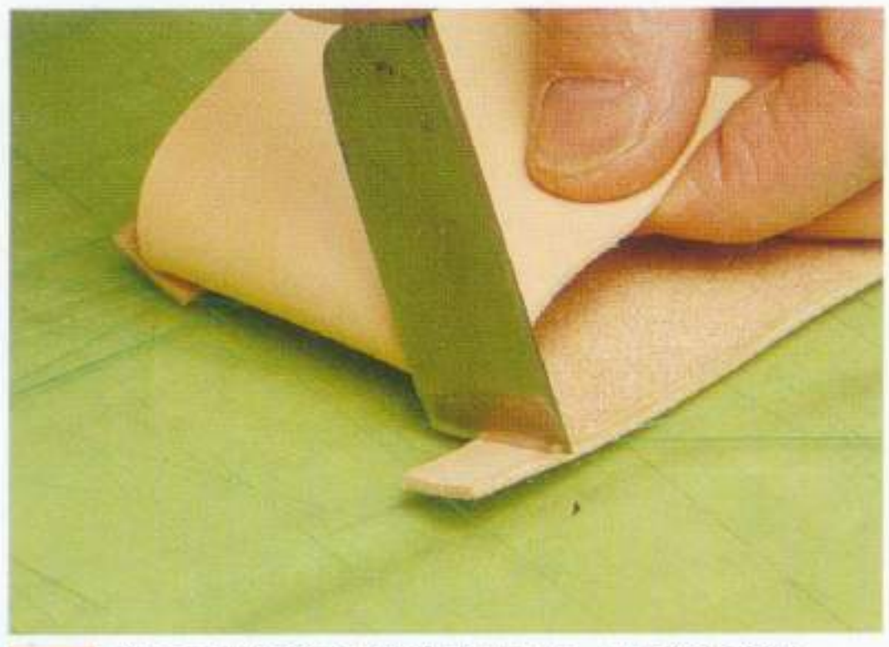


23 中心付近を貼り合わせたら、そこから端へ向かい、少しずつ捨てマチを貼り合わせていく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



24 膨らんだ側面は立体的になるので、少しずつ曲げながら貼り合わせ、クリップで固定していく



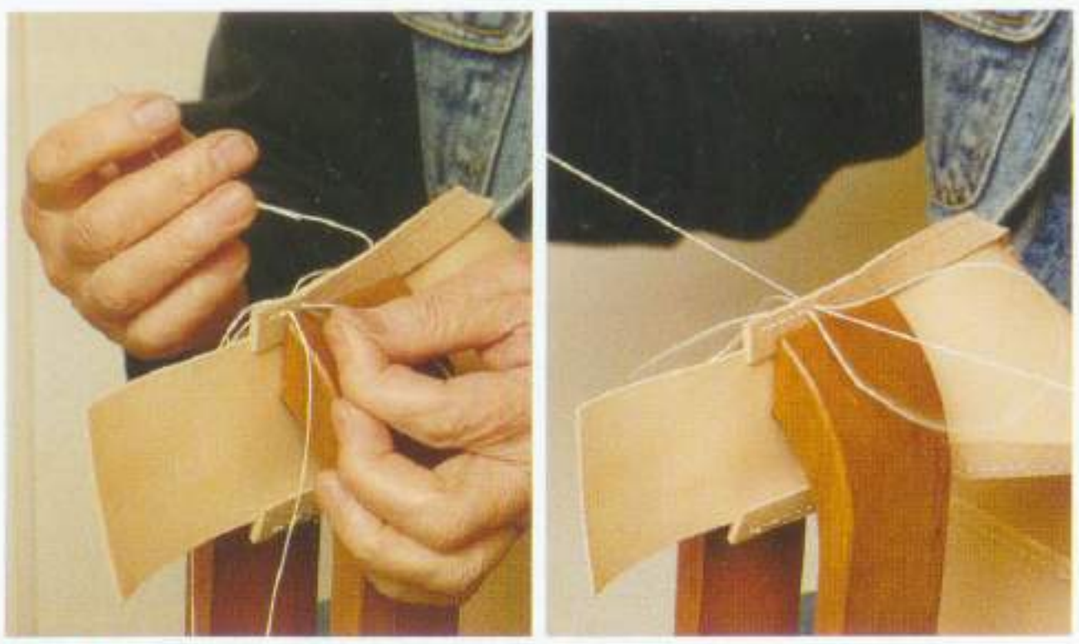
25 捨てマチを全て貼り合わせたら、マチの折り返しになる部分に余る捨てマチを裁ち落とす



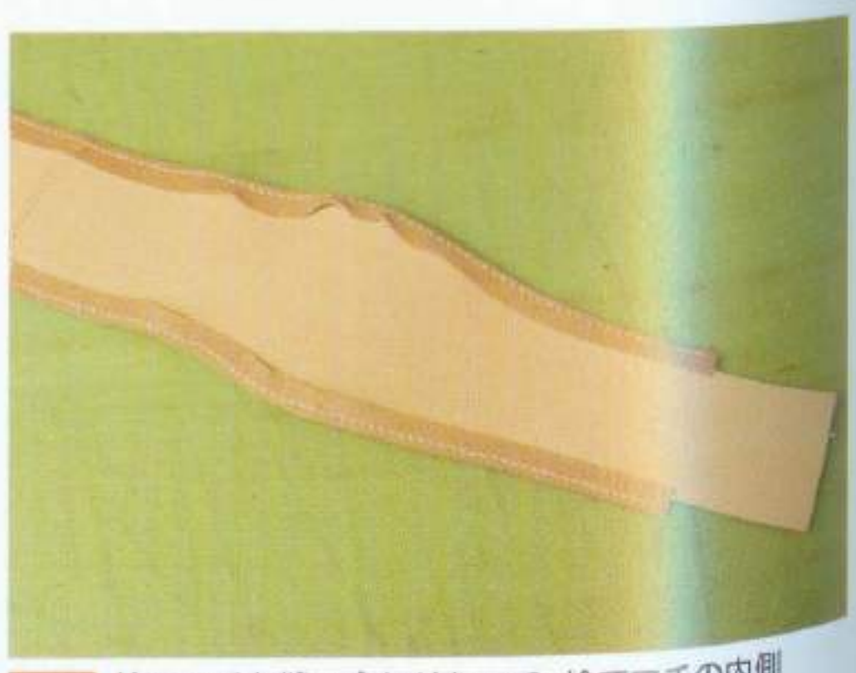
26 捨てマチを縫い合わせるため、捨てマチの側面から3mmの位置にコンパスで縫い線を引く



27 縫い線に従って菱目を打つ。曲線が大半を占めるため、2本目の菱目打を用いて正確に打つ



28 菱目に従ってマチと捨てマチを縫い合わせる。縫い目を返すことはせず、端から端まで平縫いで縫い進める



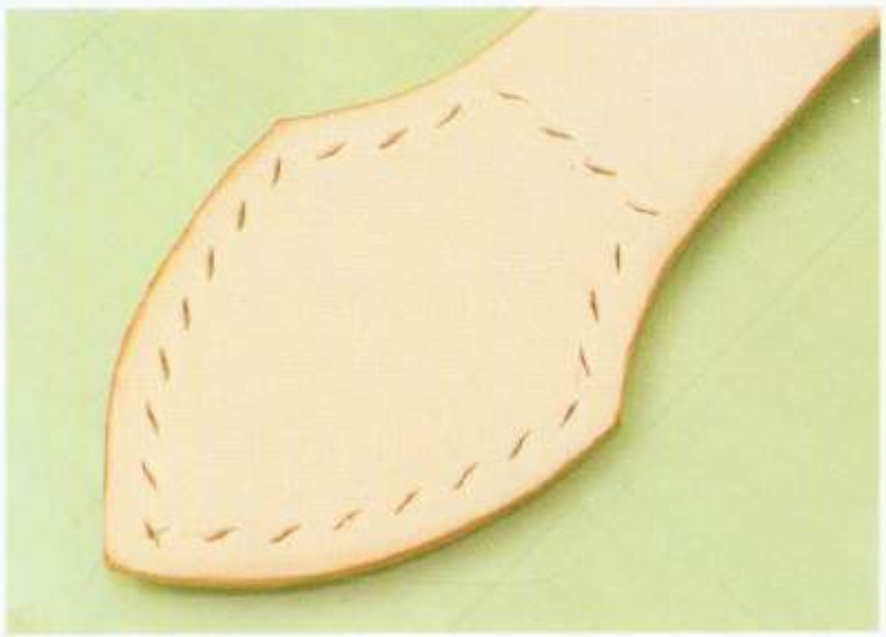
29 捨てマチを縫い合わせたマチ。捨てマチの内側に広がっている部分を、後に胴と縫い合わせる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

ベルト掛けを付ける



30 ベルトを掛ける部分には市販のDカンとバックルを使用。ベルトに合わせ、好みで選べば良い



31 ベルト掛けは裏革のみを貼り合わせてコバを磨き、写真のように側面から3mmで菱目を打つ



32 ベルト掛けの端にDカンを通して折り返し、先細側の先端から3cm程度に白ボンドを塗って、菱目の内側に貼り合わせる

POINT



貼り合わせた先細側の先端のみを軽くすいておくと、マチに縫い合わせた後のベルト掛けがスマートに見える

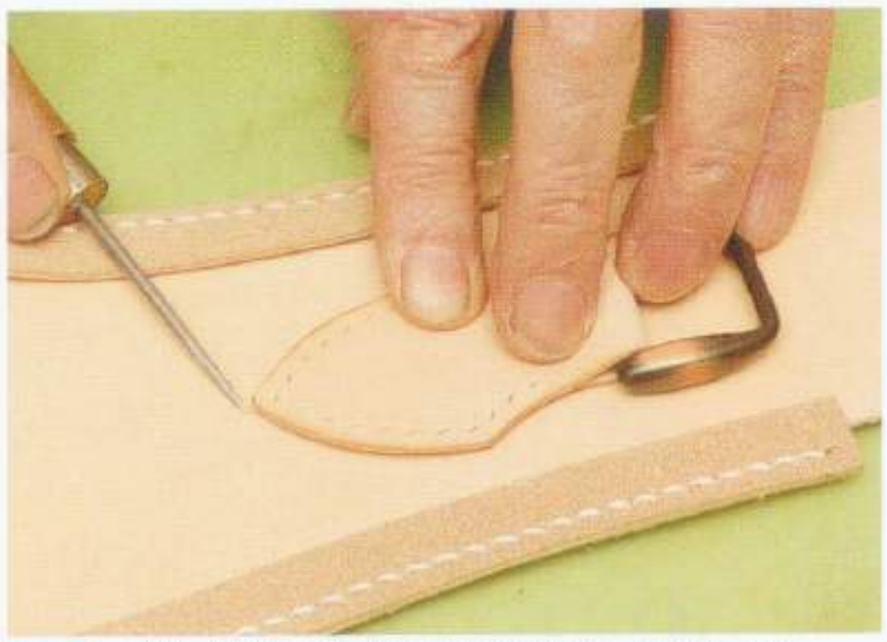


33 マチの床面、折り返しの中心より8.5cm位置にベルト掛け取り付け位置の目印を付ける

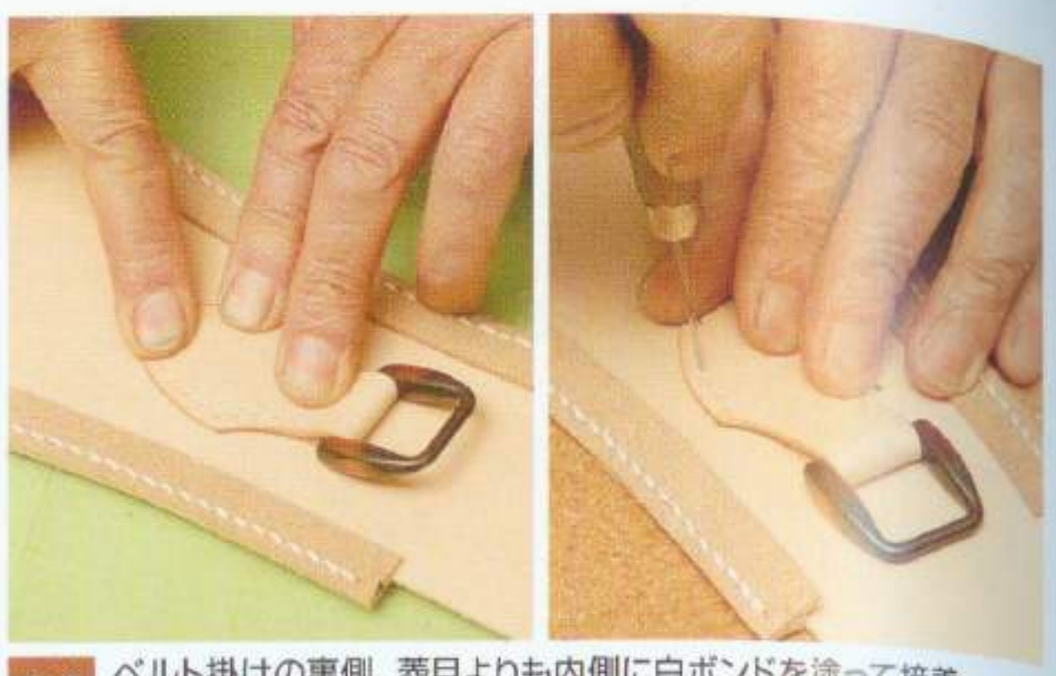


34 付けた目印を丸ギリで貫く。銀面から印が確認できればよいので、先端が軽く出る程度で充分

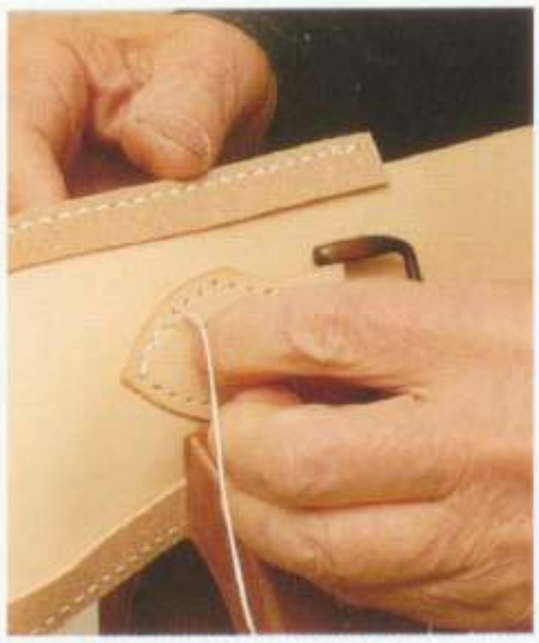
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

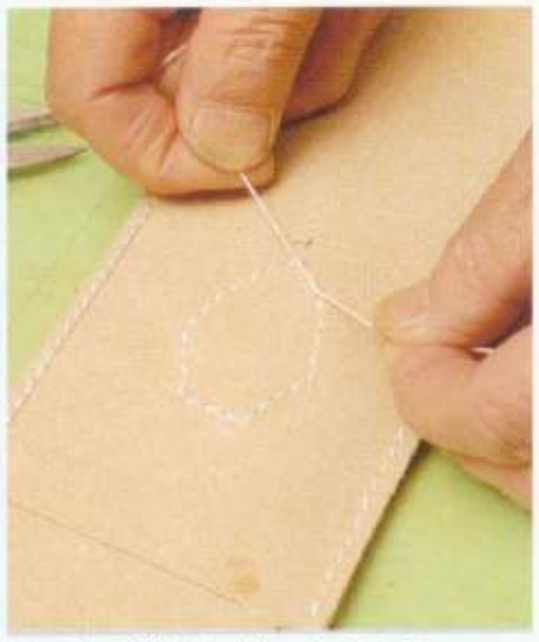


35 ベルト掛けの取り付け位置を確認。目印とベルト掛けの先端を揃え、マチの中央に寄せる



36 ベルト掛けの裏側、菱目よりも内側に白ボンドを塗って接着。乾燥後に全ての菱目を菱ギリで突き、マチに菱目を開ける



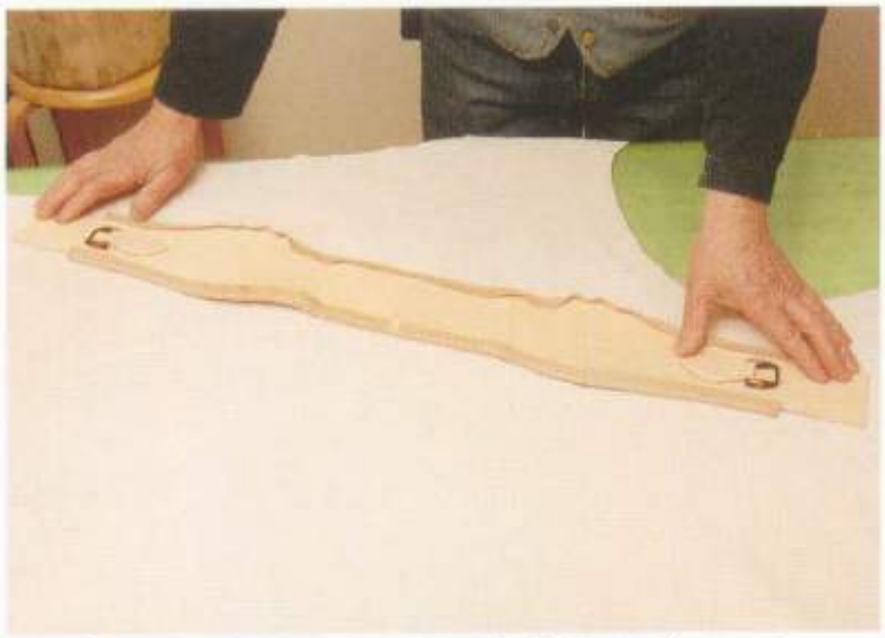


37 ベルト掛けの先端より、平縫いでベルト掛けを縫い合わせる。終わりの処理は、裏革を貼り合わせる床面側で結ぶ



38 取り付けたベルト掛け。マチの両端にベルト掛けを取り付けたら、次は裏革を貼り合わせる

●裏革を貼り合わせる



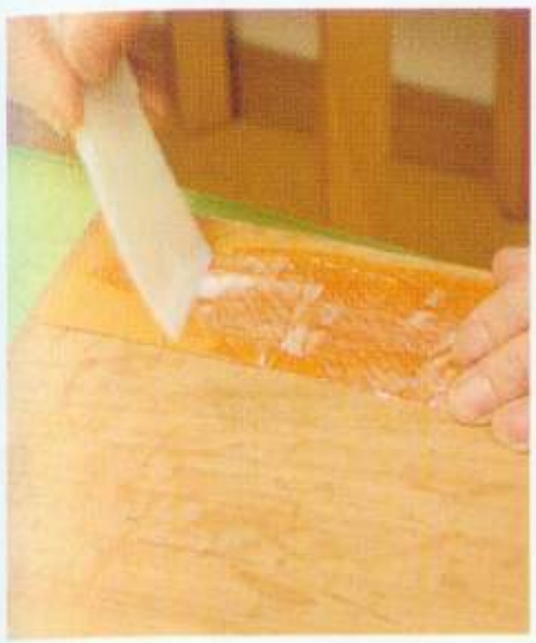
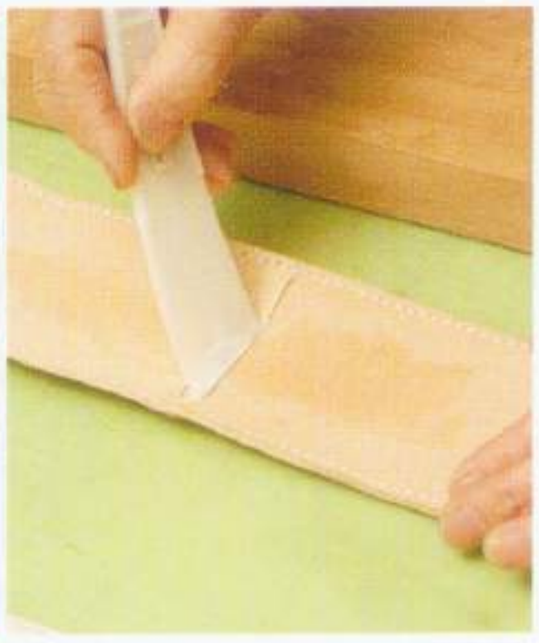
39 マチの裏革にも、胴周りの裏革と同じピッコロを用いる。まずはピッコロの床面にマチを置く





40 裏革は捨てマチの縫い目まで被せるので、マチのアウトラインよりも2.5cm程度余分に裁断線を引き、これに従って革包丁で裁断する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

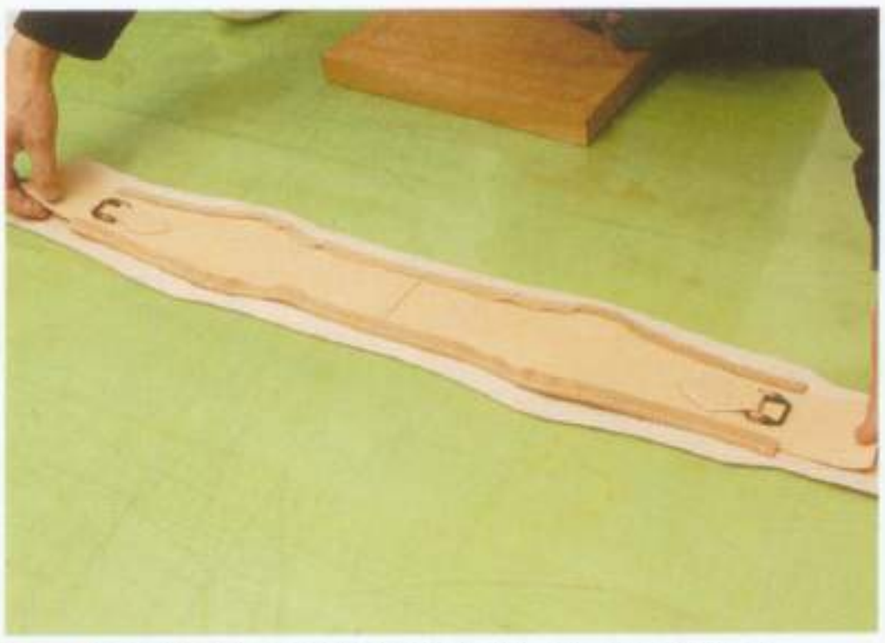
41 マチの底(継いだ部分)に底芯を貼り合わせる。マチの床面に底芯のアウトラインを引き、底芯と床面に白ボンドを塗る



42 底芯をアウトラインに沿って貼り合わせる。底芯の材料は、胴周りの芯材と同じアメ豚を使用




43 裁断したピッコロとマチの床面に白ボンドを塗る。ピッコロ側は大まかに、アウトラインよりも2.5cm程度内側に塗る



44 マチとピッコロを貼り合わせ、ピッコロ側からしっかりと圧着して乾燥させる




45 捨てマチに被せる部分を残して余分なピッコロを裁ち落とすため、捨てマチが付いた側面より1.2cm幅のラインを引く

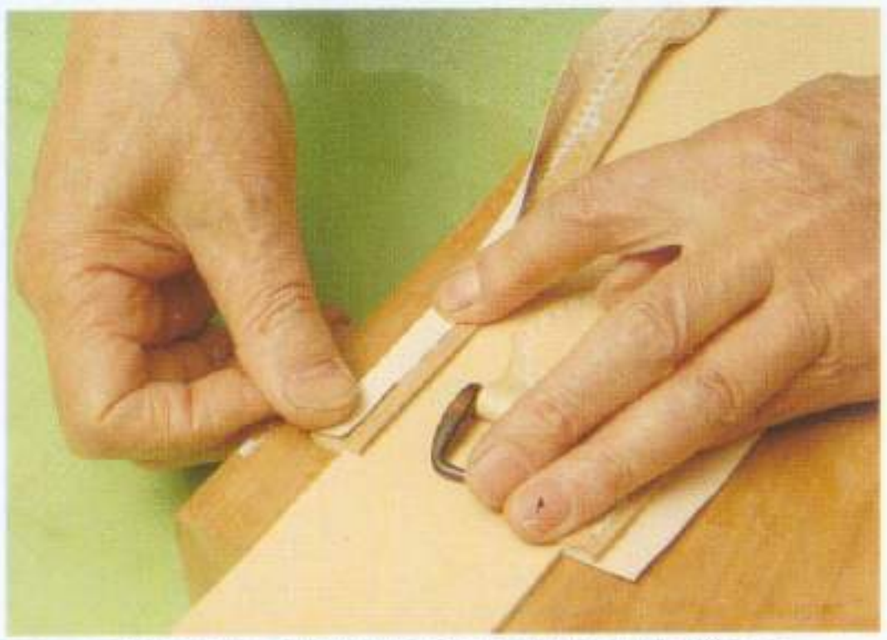


46 ラインに従って余分なピッコロを裁ち落とすと共に、折り返し周辺も側面で裁ち落とす

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



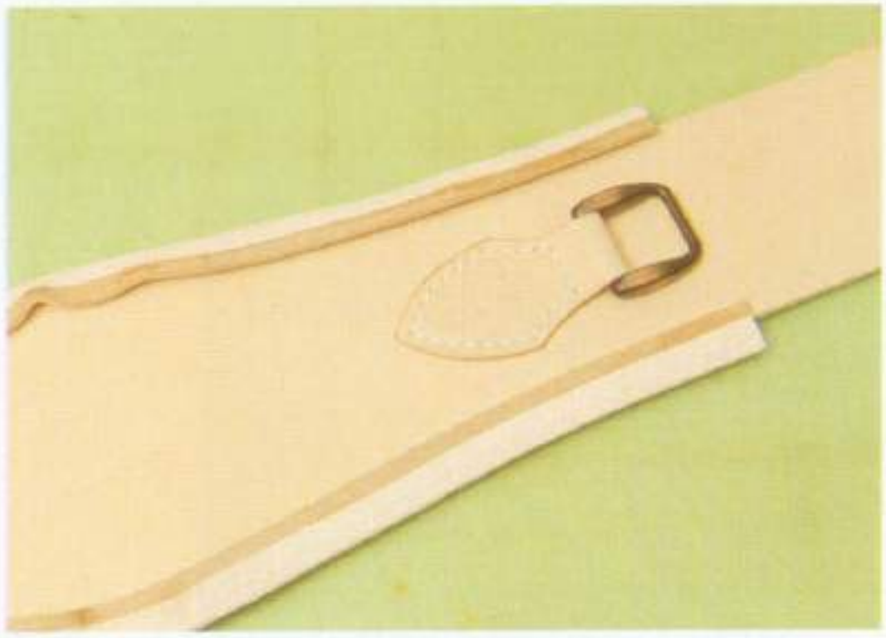
47 裏革(ピッコロ)を捨てマチに被せて貼り合わせるため、双方の接着面に白ボンドを塗る



48 裏革を引き寄せるようにして端から順に捨てマチへ被せ、しっかりと圧着する



49 マチの膨らんだ部分はだぶつくので、小刻みに重ねるようにして貼り合わせる



50 両側へ裏革を被せる。一気に貼り合わせようとせず、少しずつ確実に貼り合わせることが重要

完成したマチ

裏革を貼り合わせればマチの完成です。捨てマチを縫った時点で自然な曲線が付き、下の写真のような状態で胴と縫い合わせます。



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

胴とマチを縫う

胴周りのパーツとマチを完成させたら、いよいよこれらを縫い合わせ、ポシェットの本体を完成させます。本体は先に前胴を縫い合わせますが、この時はあらかじめ前胴を捨てマチに接着し、菱目を開けてから縫い合わせます。前胴に続けて後胴を縫い合わせる際は、あらかじめ後胴とカブセの外周りを接着し、その後にカブセと捨てマチを接着してから、前胴と同様に縫い合わせます。

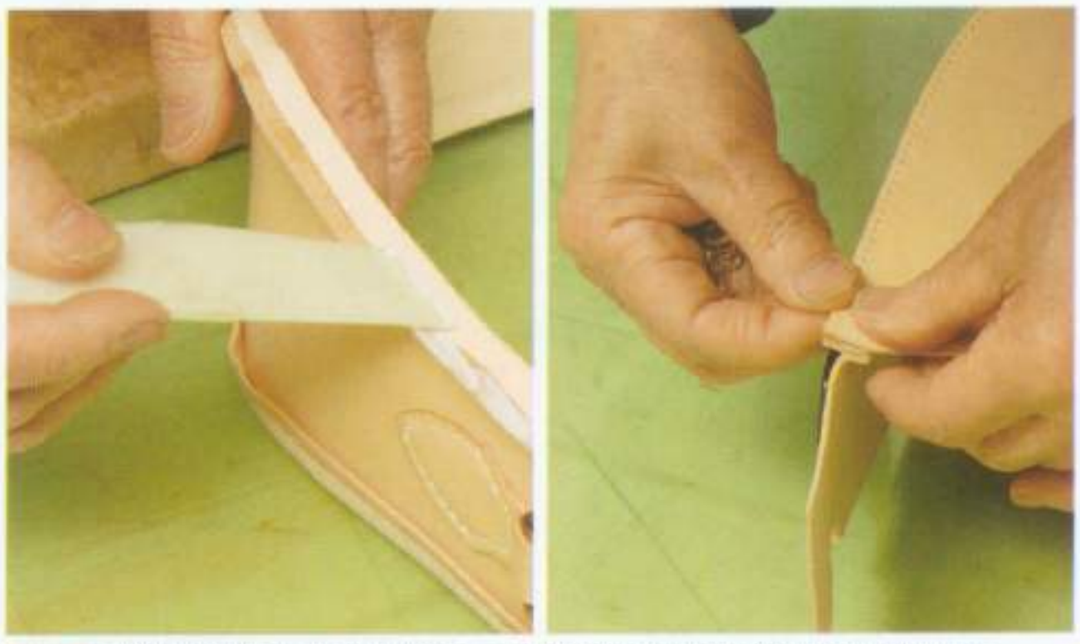
■前胴を縫い合わせる



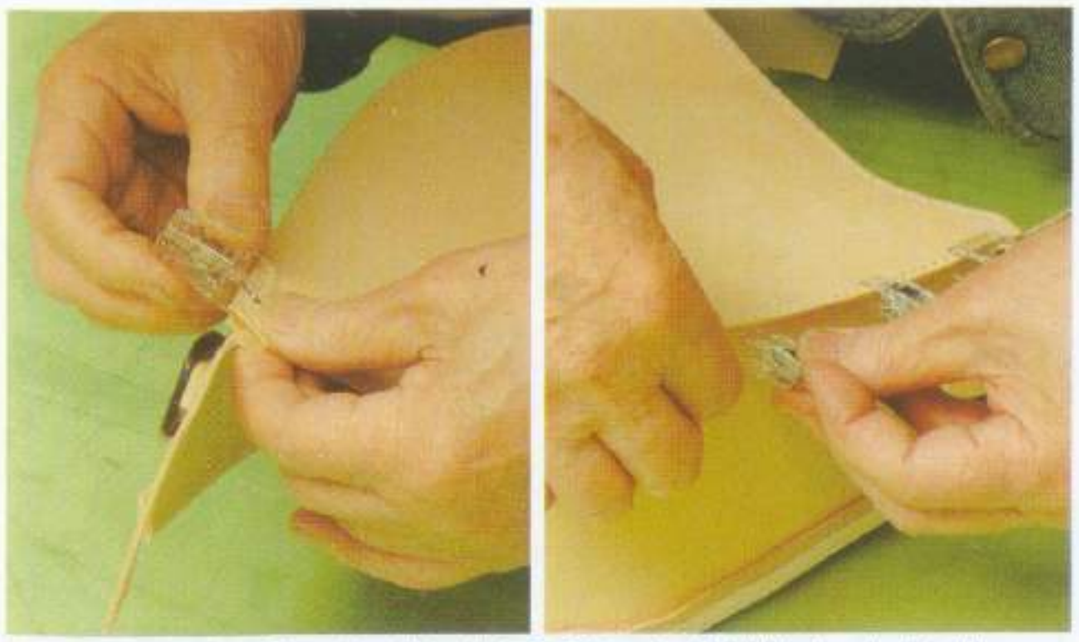
1 捨てマチと前胴を貼り合わせるため、まずは反り返った捨てマチを立ち上げ、平滑に整える



2 前胴の裏革面、菱目を打った外側を貼り合わせるので、この部分をヤスリで荒らしておく



3 前胴の荒らした面と捨てマチの床面(裏革を被せていない面を中心に)に白ボンドを塗り、双方を端から貼り合わせる



4 白ボンドは端の方の狭い範囲に塗り、まずは端をしっかりと接着。ある程度乾くまではクリップで固定しておく



5 端から少しずつ接着面を広げ、角付近は捨てマチを引き出すように、形を整えながら接着する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



6 両端をキチンと揃えつつ、両角や少し窪んだ底面もしっかりと貼り合わせる。コバを揃えることを意識しつつ捨てマチを引き出し、クリップで固定しながら確実に接着。水溶性の白ボンドはやり直しが効くので、上手くいかなくても焦らず、少しずつでも確実に作業を進めれば良い



7 途中で白ボンドがはみ出したら、水を含ませて固く絞ったウエスを用い、丁寧に拭き取る



8 胴に開けた菱目の1つ1つに菱ギリを刺し、捨てマチまで菱目を開ける。菱目がコバ側に寄り過ぎないよう注意すること



9 縫い始めのみを2目返しにして強度を保たせ、後は基本の平縫いで反対の端まで縫い進める

CHECK!

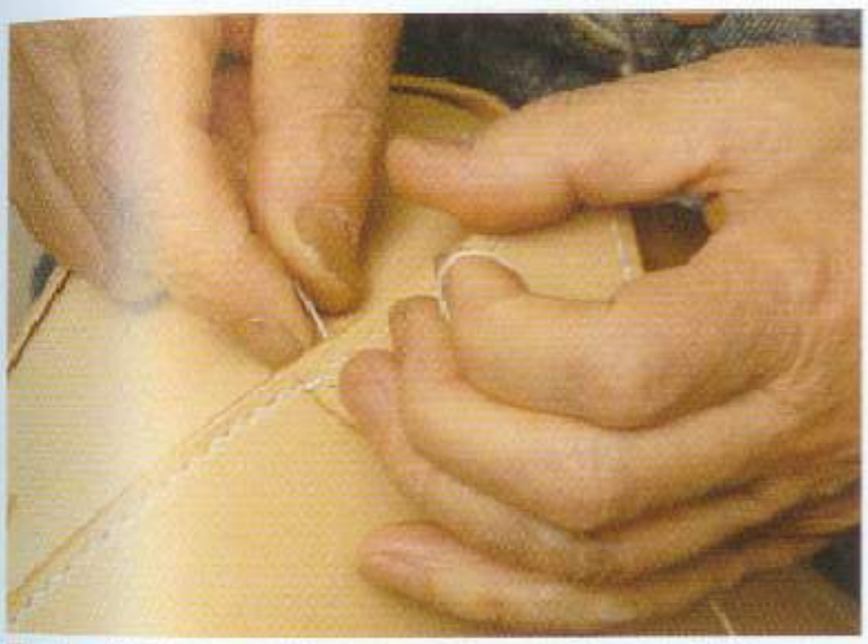


10 ある程度まで縫い進めたら、前胴の型紙を参考にしてオビを合わせる位置を調整する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



11 オビの縫い合わせ方は単純で、最初の菱目さえ揃えれば基本の平縫いと変わらない



12 オビはその両端のみ2目返し、カブセの抜き差しを繰り返しても動じない強度を保たせておく

前胴を縫い合わせた状態

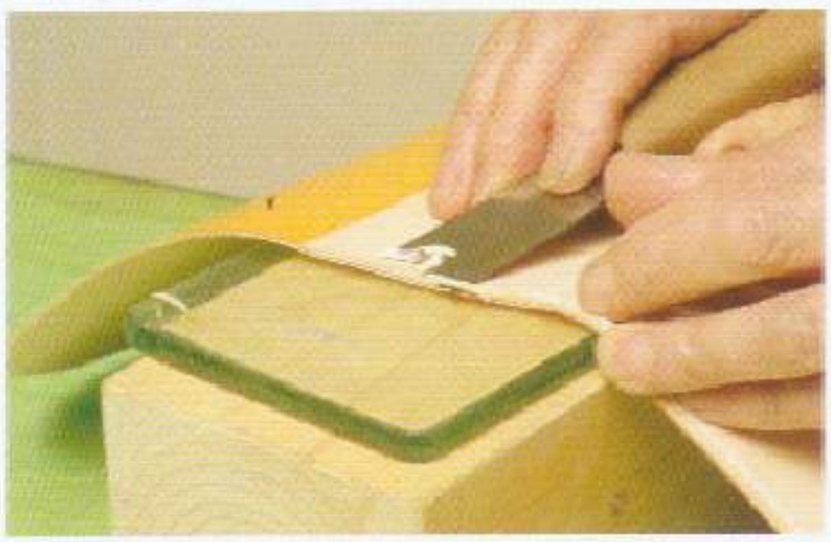
途中でオビを縫い合わせるという作業がありましたが、マチの接着と菱目打ちさえ確実に済ませていれば、縫うのは難しくありません。





■後胴とカブセを縫い合わせる

CHECK!

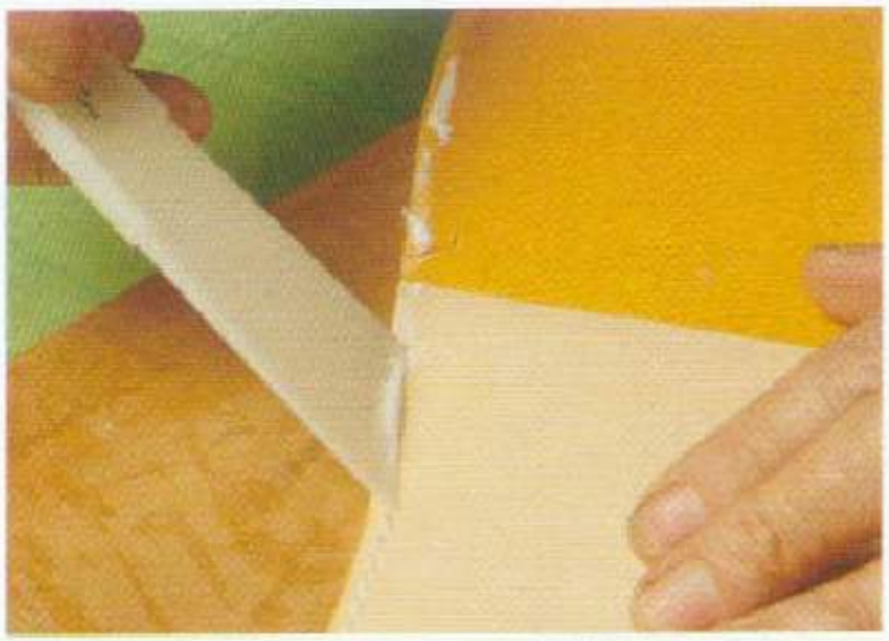


13 カブセのアメ豚部（後胴合わせ面）と飾り縫いの間が厚くなるので、先に軽くすいておく



14 カブセの後胴接着面（アメ豚部）が銀面なので、接着する5mm幅程度を全側面において荒らす

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



15 すいた部分と荒らしたアメ豚部分（飾り縫いを除く端から端まで）に白ボンドを塗る



16 後胴の裏革面、菱目より外側（飾り縫いを除く）全周に白ボンドを塗り、カブセと貼り合わせる（＊後胴全面を貼り合わせるとポケットが塞がってしまうので注意！）



17 貼り合わせた部分をクリップで固定し、完全に乾燥するまでしばらく待つ



18 前胴を貼り合わせた時と同様の手順で、カブセを貼り合わせた後胴と捨てマチを接着。クリップで固定して、再び完全に乾燥するのを待つ



乾燥後は、後胴の菱目から菱ギリで菱目を開け、両端を2目返して端から端まで平縫いする。菱目を開ける時は厚みがあるので、ある程度の力が必要

19



後胴を完全に縫い合わせた状態。縫う範囲は長いものの、途中でオビを合わせるような手間が無いので、最後まで単純に縫い進めることができる

20

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

仕上げ

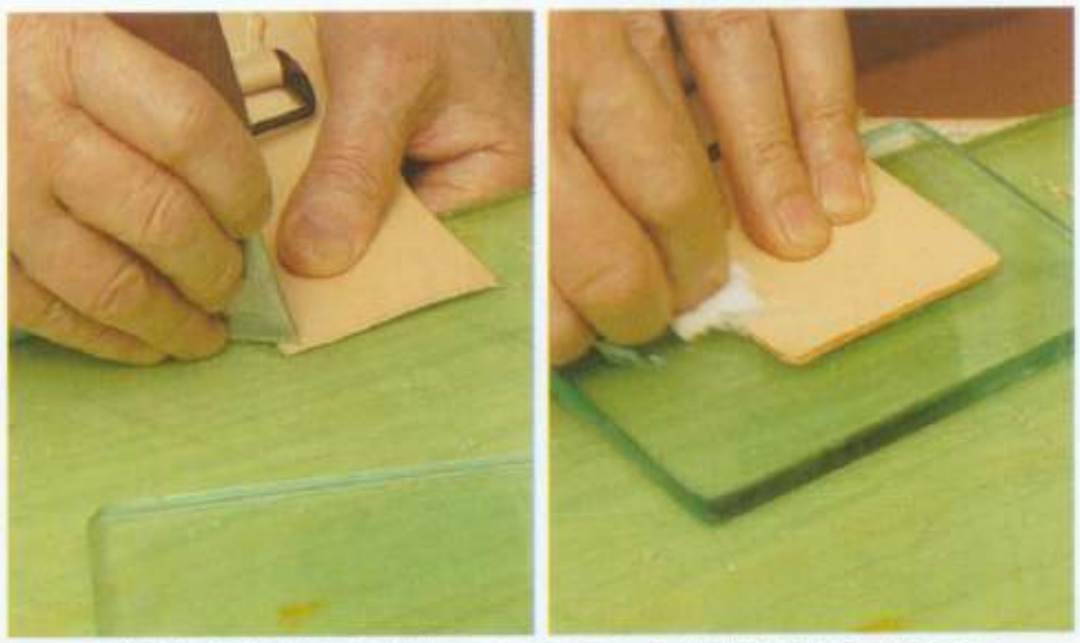
2つの胴とマチを縫い合わせて本体を完成させたら、次は最後の仕上げに移ります。ボシェットの完成度を左右するコバ磨きは、捨てマチを用いたコバに充分な厚みがあるため、磨けば磨くほど木目のような美しさが際立ってきます。肩掛けするためのベルトの作り方は省略していますが、それ程難しくはないので、ボシェットを使われる方の体格や好みに合わせ、自由に製作してみてください。



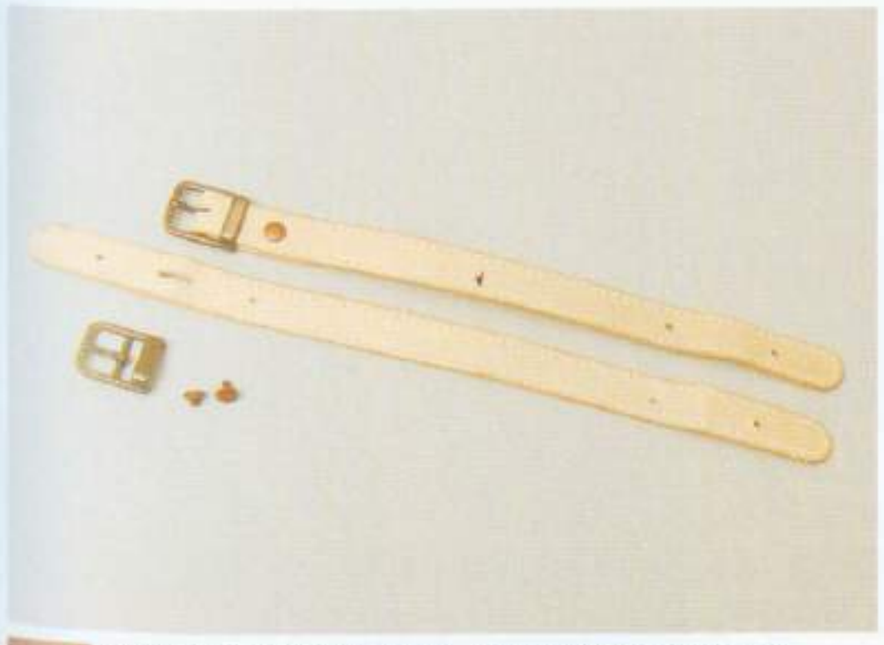
1 胴と捨てマチを貼り合わせたコバを見て、凹凸がある部分を革包丁ですく。そして、コバ全体をヤスリで平滑に均す



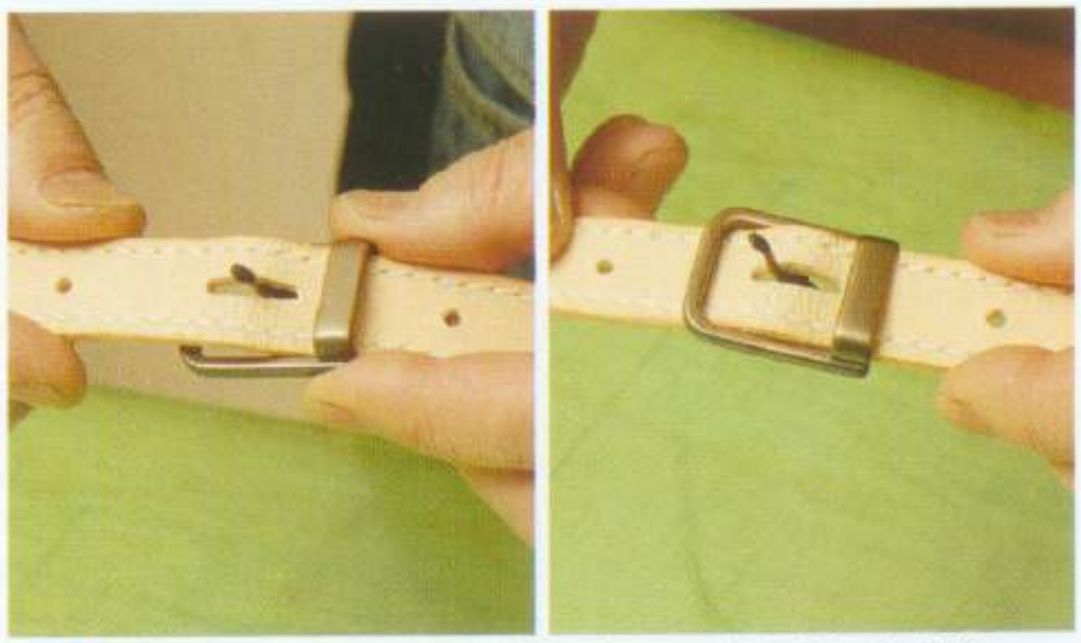
2 トコノールをコバに塗り、きれいなウエスで磨き上げる。満足いく仕上がりまで繰り返すと良い



3 折り返し部分の角が立っているので、これを革包丁で裁ち落とす。この部分のコバも磨いておくと、仕上がりが良くなる

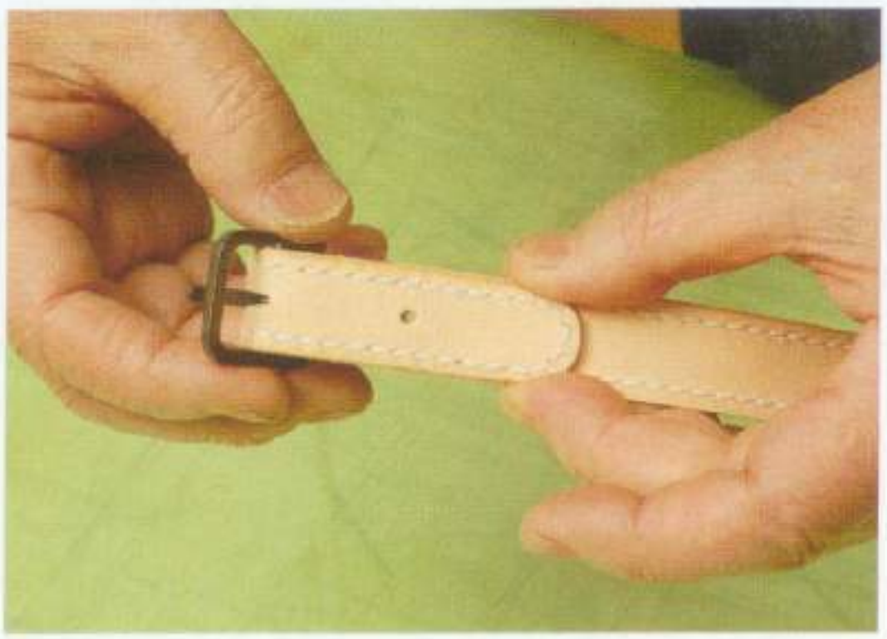


4 写真内下の材料を用い、ベルト掛けに接続する継ぎベルト(写真内上)を完成させる



5 継ぎベルト(左の写真を参考に、バックルに幅を合わせて製作してほしい。長さは自由に設定可能)にバックルを掛ける

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



6 バックルに通した継ぎベルトの先端を折り返し、カシメ留めするための穴位置を揃える



7 揃えた穴にカシメを通し、これを打ち台の上に乗せて打ち金具で叩けば、片側の継ぎベルトが完成する





8 完成した継ぎベルトを、マチに付けたベルト掛けのDカンに通し、端を折り返して穴を揃え、カシメで固定する



9 ここまでの作業で片側継ぎベルトの取り付けは終了。次は反対側の継ぎベルトを取り付ける



10 反対側も継ぎベルトを単体で完成させた後、マチに取り付けたベルト掛けに取り付ける

左右のベルト掛けに適当な長さのベルト(継ぎベルトと同じ幅・好みの長さで製作し、バックル用の穴を開ける)を継げば、ポシェットの製作工程は終了

11



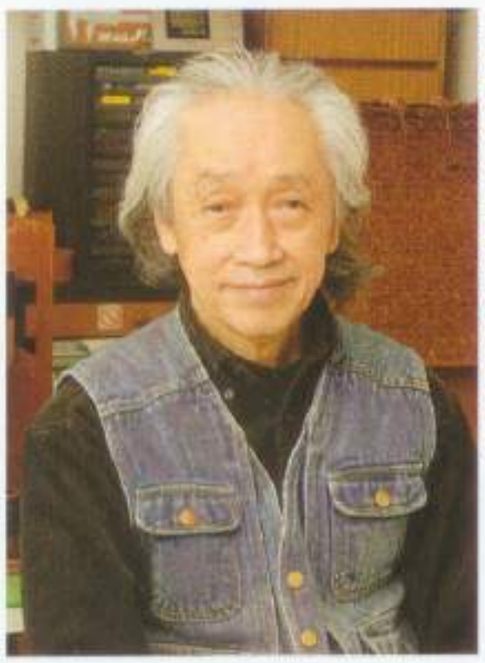
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

SPECIAL THANKS

伝統的な技術を後世へ伝えると共に、自らの創作活動も精力的に展開

遊び心溢れるポシェットの製作を担当して頂いたのは、日本革工芸会の理事である松原満夫氏です。松原氏は伝統的な革工芸の大家である故矢澤十四一氏に師事し、縫製、染色、細工といった様々な技術を習得。現在は自宅を工房として構え、多くの教え子にその技術を伝達する傍ら、皮革や皮革手工芸材料を幅広く取り扱う「協進エル」のスクールでも講師を務め、数多くの生徒さんに慕われています。ご本人が「自分の得意分野は鞄というより、小物や細工物なんです」と仰る通り、伝統技術を駆使して作られた作品の出来映えは「秀逸」の一言に尽きますが、今回製作して頂いたポシェットも素晴らしい作品です。

革工房ピオじい
東京都荒川区東日暮里3-5-2
TEL 03-3866-3226
URL http://www1.tcn-catv.ne.jp/pio-g/



MITSUO MATSUBARA

松原　満夫 氏
日本革工芸会理事。伝統革工芸の大家である故矢澤十四一氏に師事し、革小物・細工物を中心とする教室を開く。伝統的な技術を後世へと伝えるべく、今なお熱心に指導へあたると共に、創作活動も精力的に進める。革包丁や菱目打、砥石などに関する造詣も深い



1



2



3

1白川郷にある合掌造りの古民家を再現した作品です。縁側の石垣から土、そして迫力有る茅葺きの屋根まで、その全ては巧妙な細工が施された革で形作られています　2建物のてっぺんからビー玉を転がすと、その内部をクルクルと周りながらビー玉が転がり、途中で隣の塔を経由して再び建物に戻り、最後は白鳥の背中に転がり込むという「ビー玉転がし」。松原氏が得意とする作品ジャンルの1つで、工芸展などでは常に子供達を虜にする作品です　3レンガのような外壁から屋根、そして敷き詰められた石畳まで、重厚な雰囲気が漂う作品は「アベマリア」が流れるオルゴールボックスです。1つ1つのパーツは全て草木染めなどの手法で染色されており、工芸展では東京都知事賞の栄誉に輝きました

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

MAKING TECHNIC 3 製作解説③

ブリーフケース

男性用ビジネスバッグといえば、ブリーフケースでしょう。手間を掛ければこういった鞄も作れるのです。



玉縁を使い高級感を演出する

これまでの作品とはやや違い、かなり固いイメージがある鞄といえるでしょう。この完成した姿を見ただけでは、非常にハイレベル、という印象を持つかも知れません。ただし、革の鞄を作るという意味ではまだ中級レベルであると言え、形作るための考え方と、細かな配慮、そして忍耐力さえあれば、プロでなくても作り上げることが可能です。またこの鞄の特徴となっているのが、玉縁と呼ばれる縁の処理で、裏返した状態で縫う必要があり、厚みの調整も必須です。仕上がり寸法は縦280mm、横380mmです。







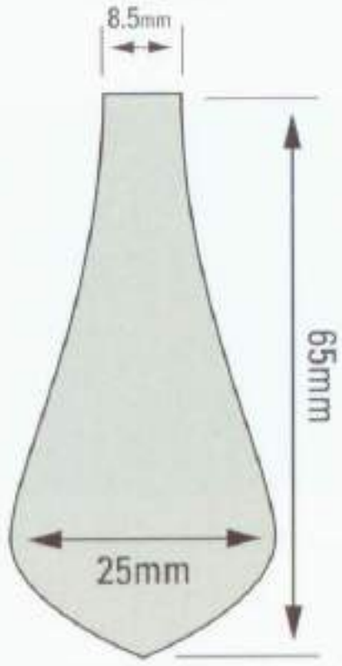
マチは大きなファスナーが付けられ、横のつまみの部分で上下に分割されています。引き手は角カンを入れて折れるようにしてあり、その付け根の処理は必見です。内側は豚革の内張を貼り付け、使い勝手を考えポケットを取り付けています

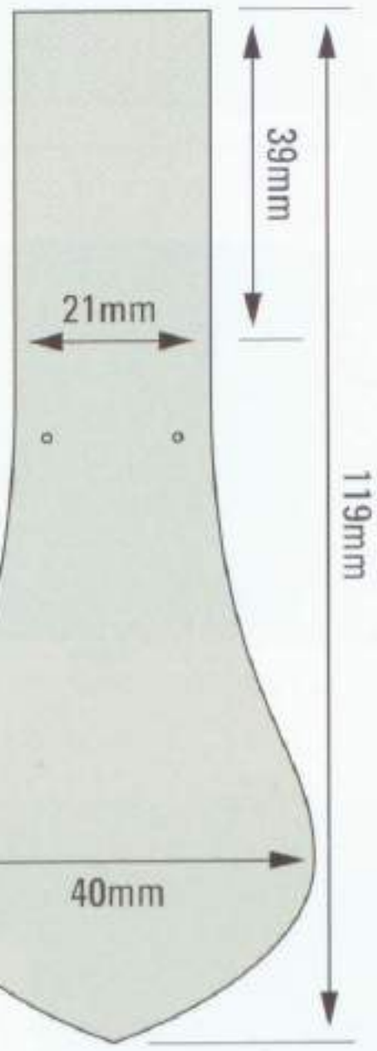
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

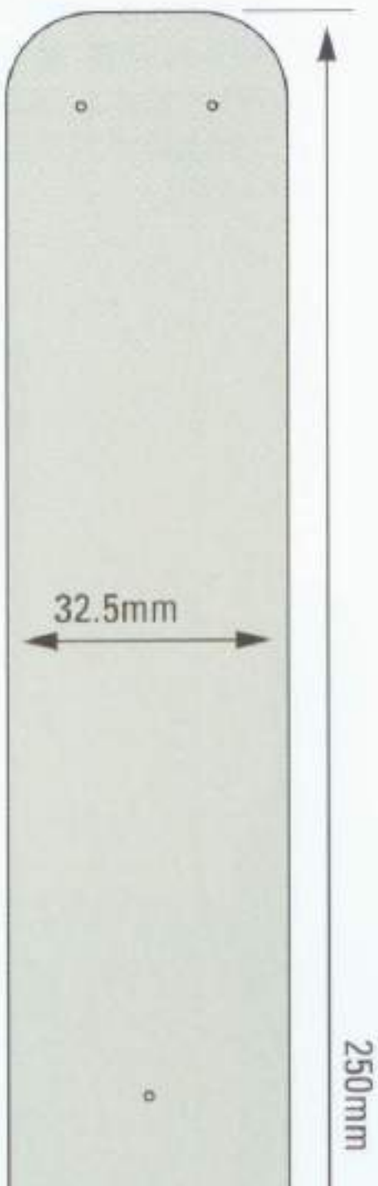
型 紙①

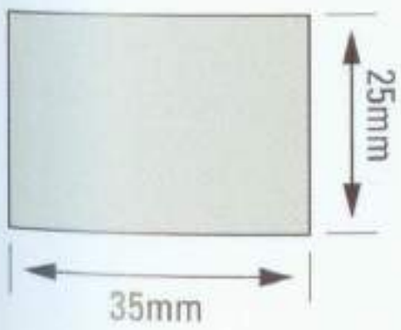
このページは155%、次のページは343%に拡大すれば実寸になります。各マチは、コピー後、色の付いた部分を隙間無く貼り合わせ使用します。玉縁の革は幅1.5cm長さ118cmで取ります。

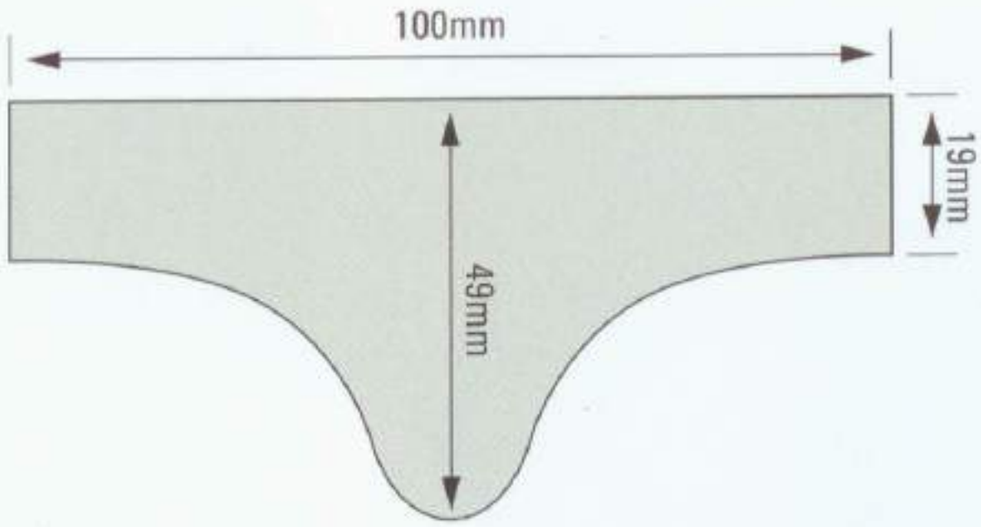












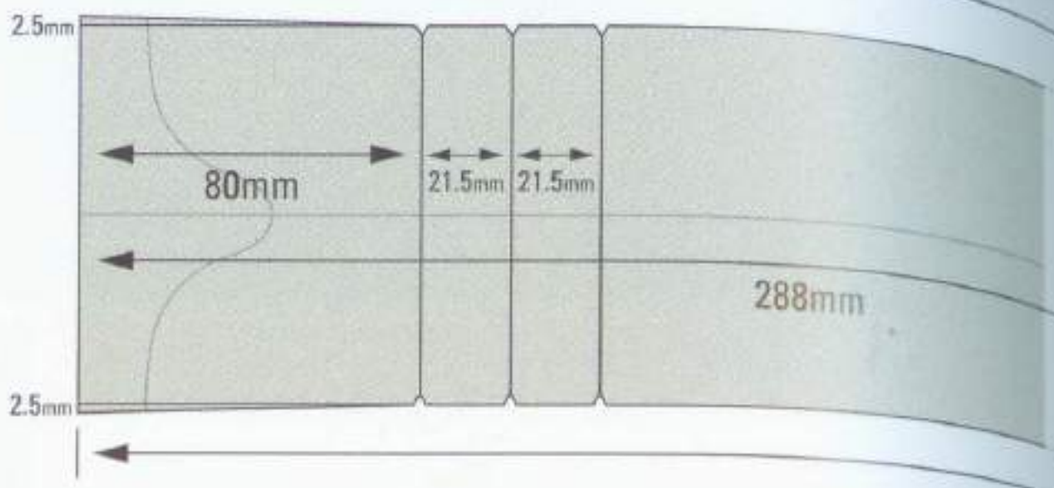


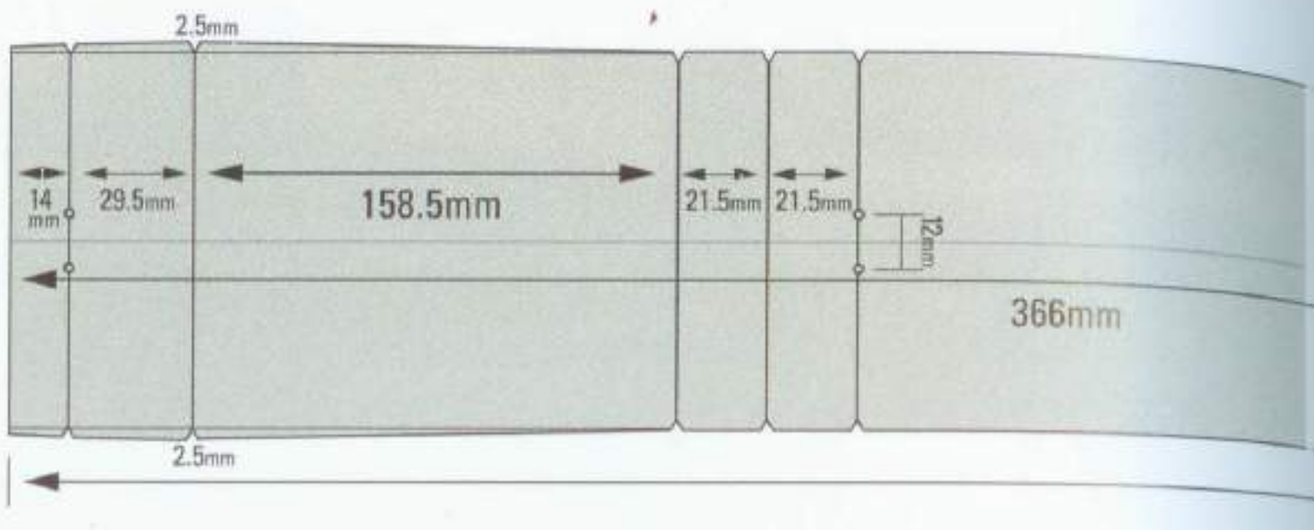
左上から時計回りに、引き手、根革の芯、根革、額縁、つまみ、裏打ちになります。引き手は4個（内ポケット用は上辺幅を5mmになるようにする）、根革とその芯は4個、額縁は1個、つまみは4個、裏打ちは8個、革から切り出すことになります。額縁の四隅にある丸印は、ファスナー取り付け部=窓の位置を示すもので、根革の丸印は角カンを付けた時の縁を示します

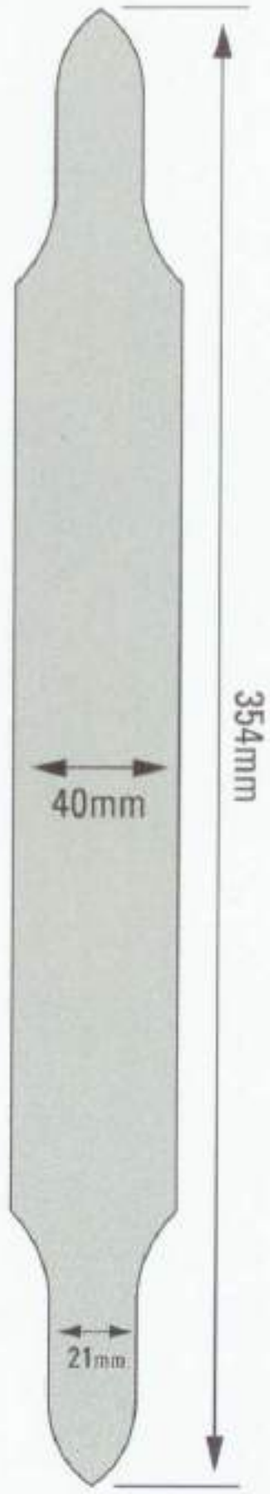
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

型 紙②

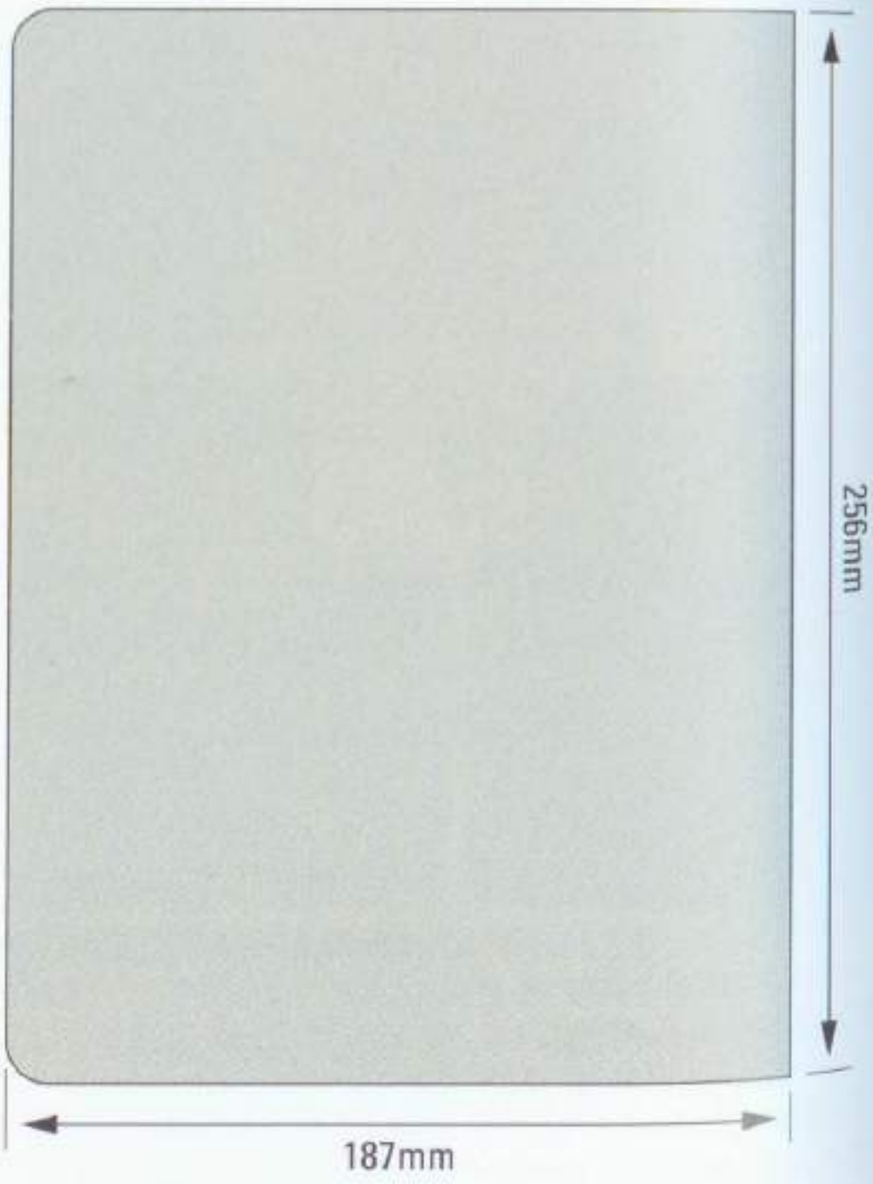
図は、上から底マチ、天マチとなり、下段は左から持ち手(2個切り出します)、ポケット内側、ポケット外側、胴(胴用2枚、内張用2枚)です。天マチの点は、窓の位置を表しています。マチ用の型紙は、マチの内張にも使います



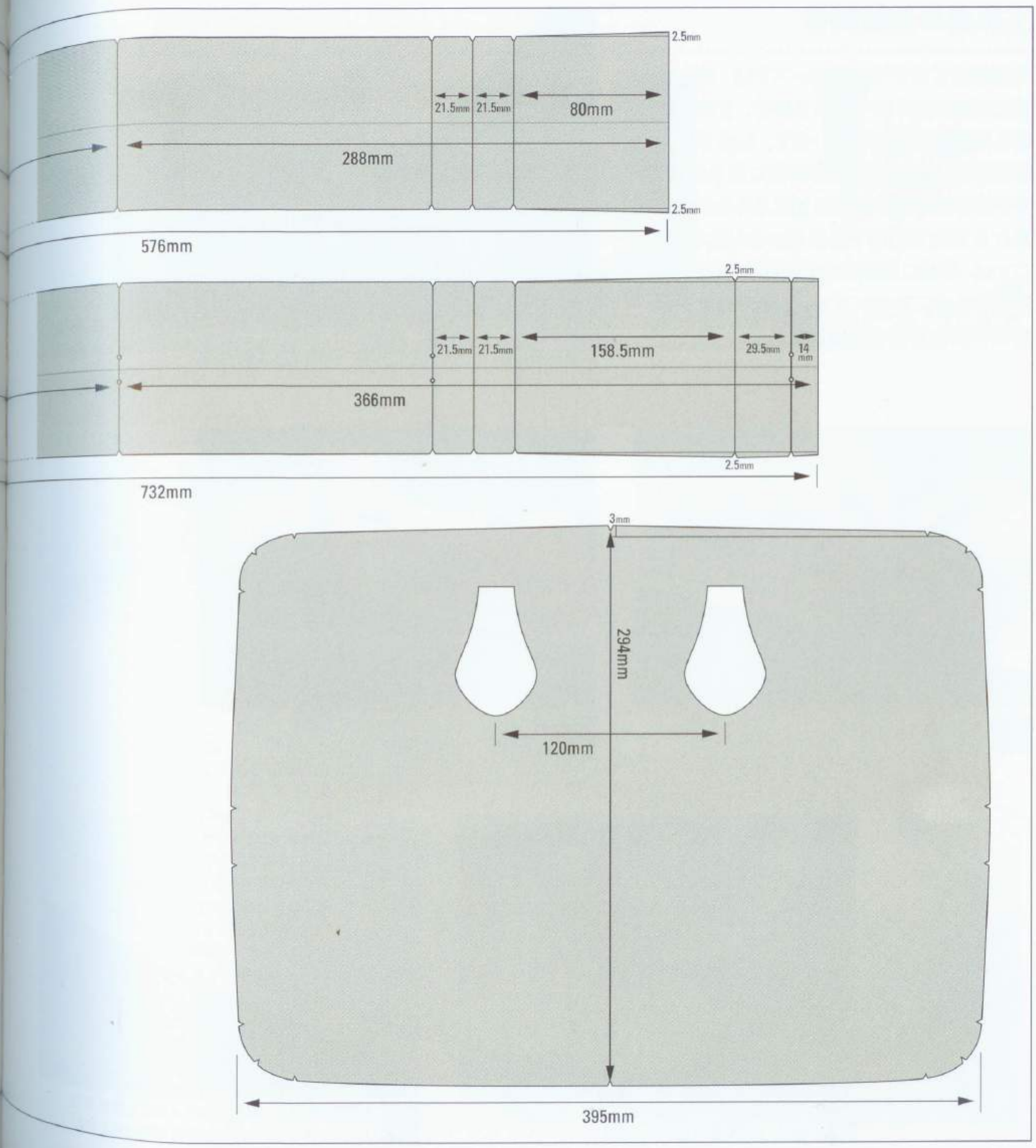








Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

玉縁用の型紙製作

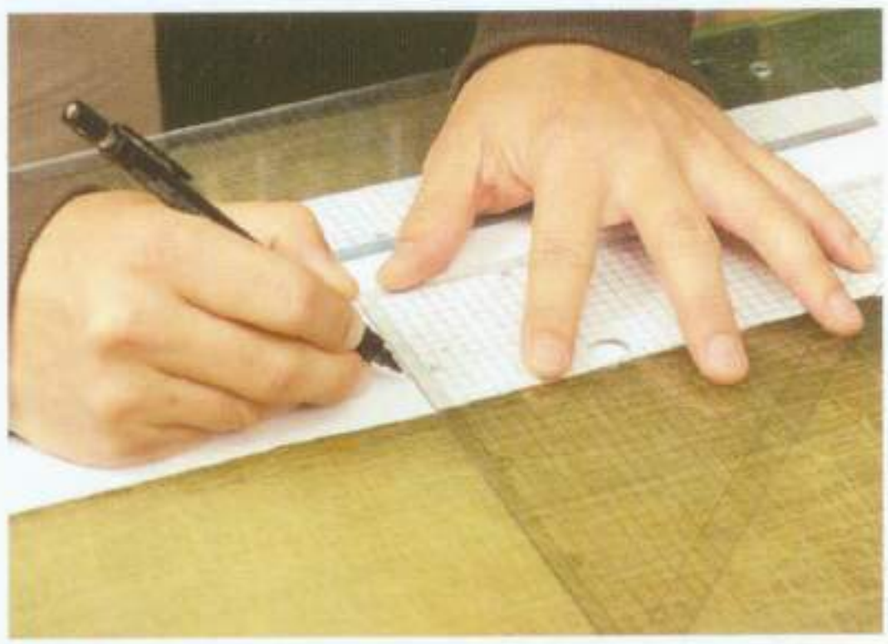
今回紹介するブリーフケースでは、胴とマチとの間に丸く折った革を挟む、玉縁と呼ばれる構造を採用しています。玉縁で仕上げる場合、縫い目は鞄の内側になるため、マチの寸法は縫い目が外側になるものとは異なる方法で決定する必要があります。ここでは、新規に型紙を起こしたり、サイズを変更する際に参考になる、玉縁でのマチ用型紙の製作方法を解説します。



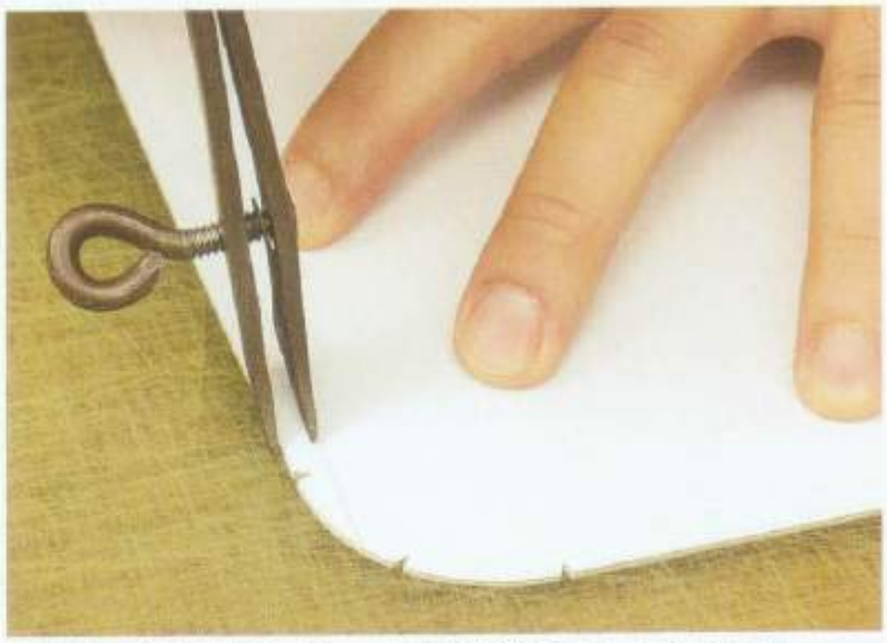
玉縁の鞄では、胴の型紙は、実際の仕上がり寸法よりも一回り大きくする必要があり、それに合わせてマチの長さを決める必要がある



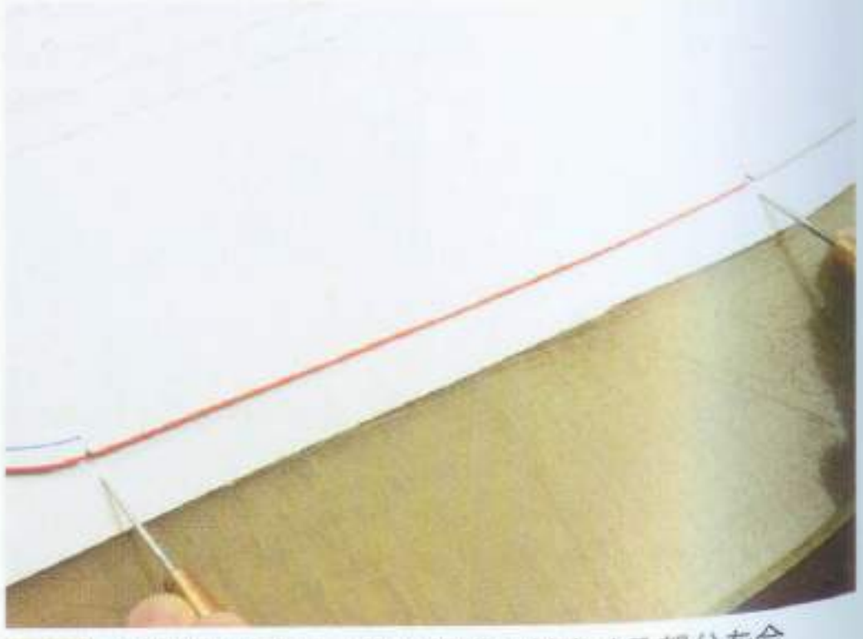
1 まずは基準となる直線を引く。ちなみに型紙は半分に折って作ると、簡単に左右対称になる



2 胴の型紙の中心から角の曲がり始めまでの長さを測り、マチ用の型紙にその長さを印す



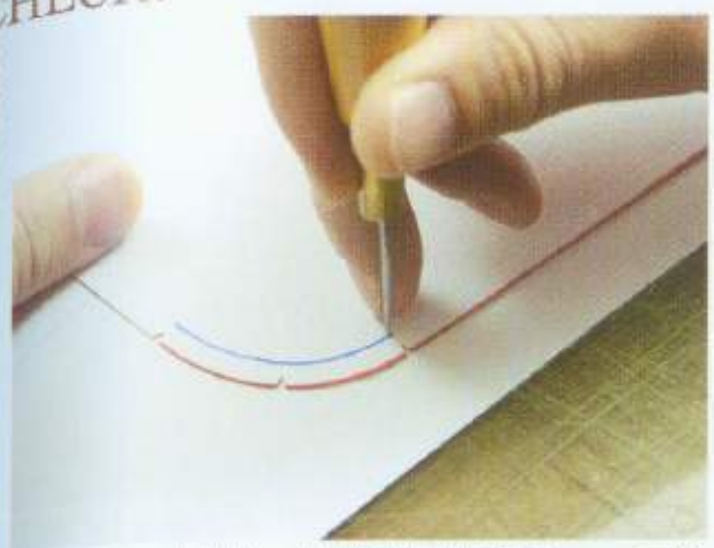
3 玉縁の場合、5mm内側を縫うので、ねじネンを使い、胴の型紙に印を付けておく

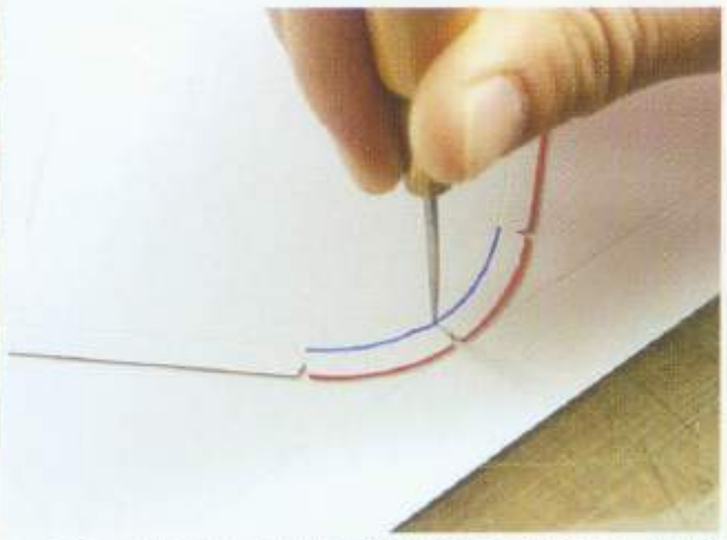


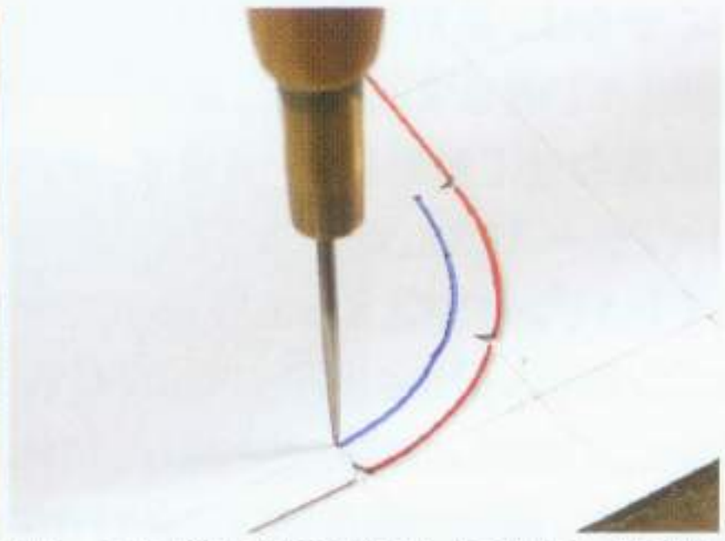
4 2で付けた印と、胴の型紙の対応する部分を合わせる。キリで示している位置が合わせる点だ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!

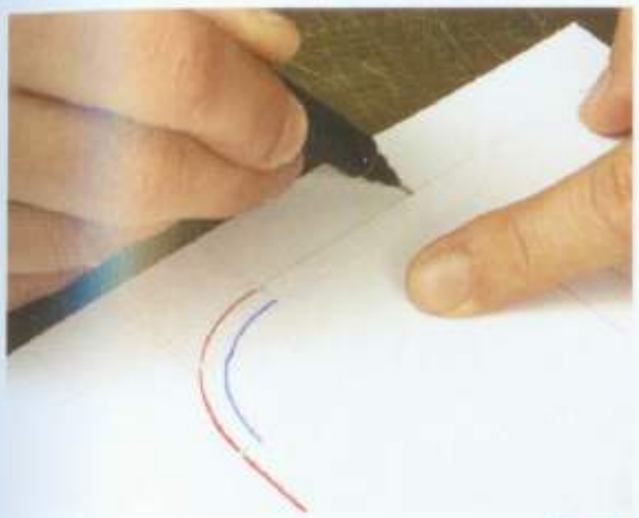






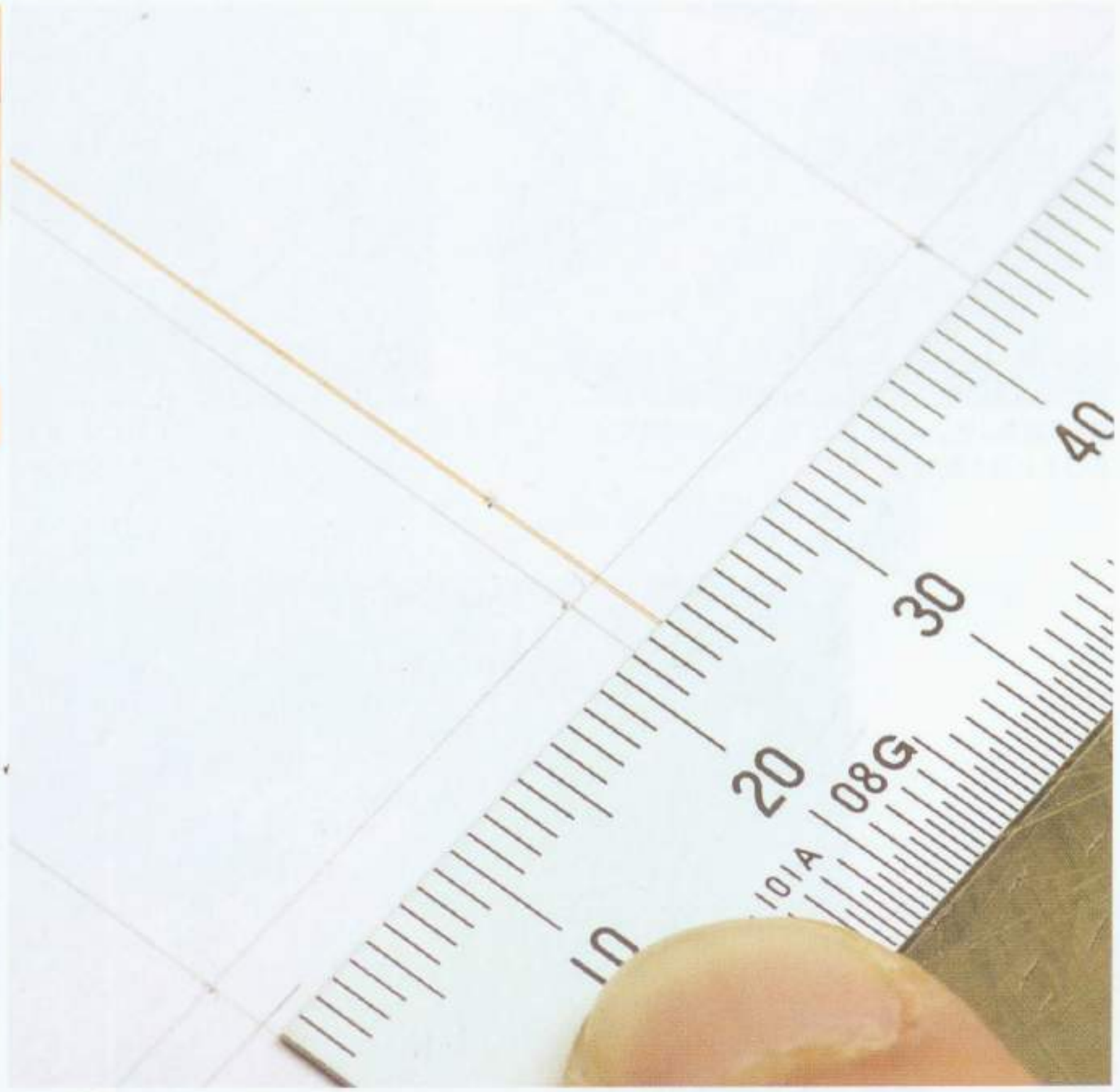
5 角の部分は、曲げの始まり部の5mm内側、つまりねじネンで付けた線上(青の線)に丸ギリを刺し、それを軸に胴の型紙を回転させる。胴の型紙の縁(赤)が1で付けた基準線に接したら回転を止め、キリを接地部上の印線に移し、再度回転、を角の部分が終わるまで繰り返す

CHECK!



6

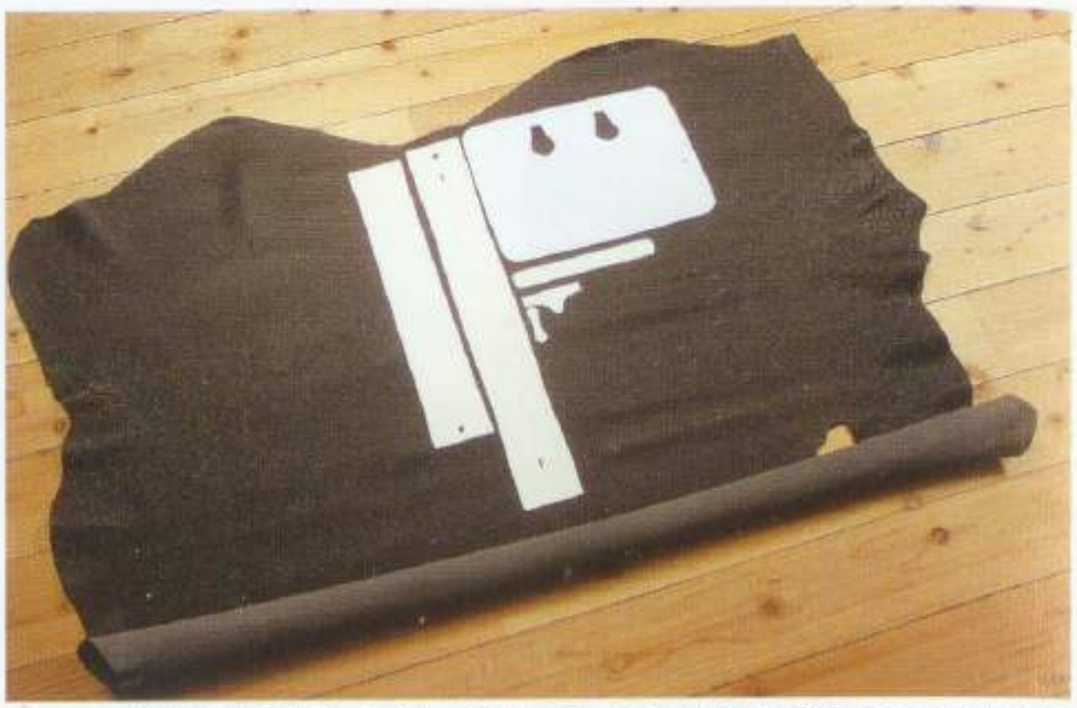
型紙を回している時は、それに刻んであるRの始まりと終わり、Rの頂点、計3ヵ所が基準線に着いた部分に印を付けておく。革は伸びるので、3点間の距離は、それぞれ1～2mm(角全体で2～3mm程度)余分に取っておく。長さが足りないと、革が引っ張られ、マチの中央が内側に引っ張られる形に変形してしまう。胴の型紙も、革が角に引っ張られるのを考慮し、各辺中央部が3mm高くなるよう作られている



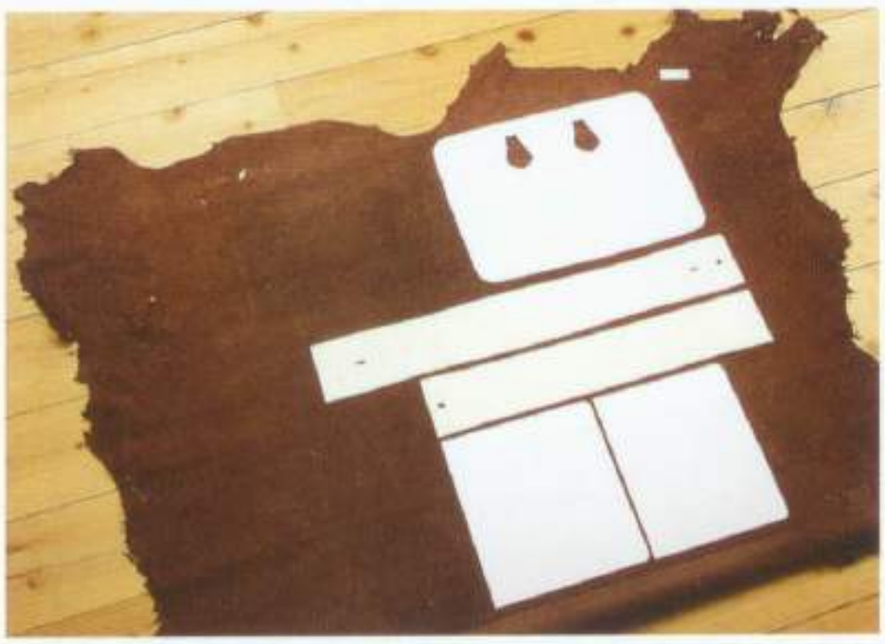
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

基本パーツの裁断

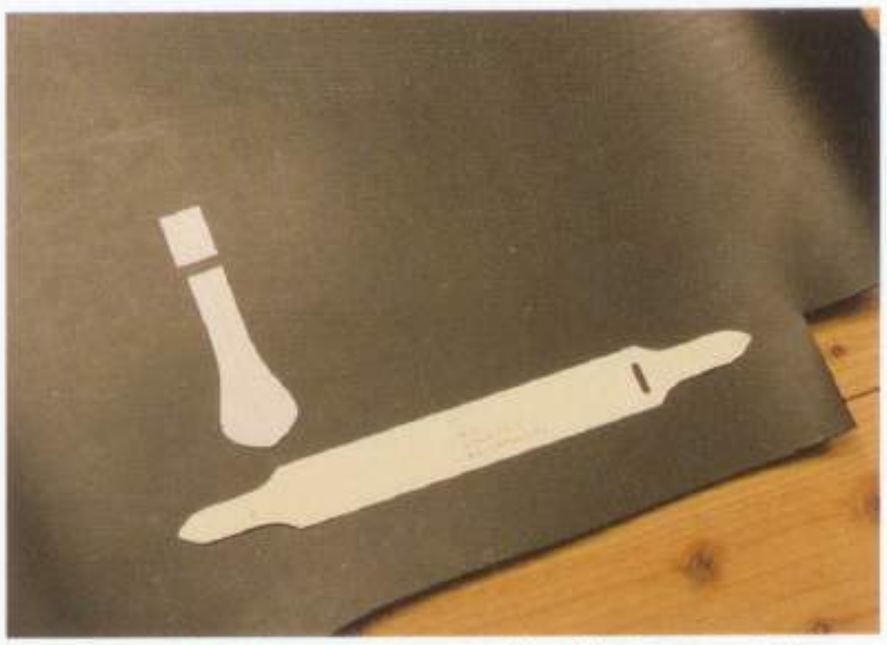
ここからは、具体的な製作工程について、説明していきます。まずは、基本パーツを型紙に合わせて裁断していきます。今回のブリーフケースでは、胴やマチをクロームなめしでシュリンク加工したカーフ、持ち手をタンニンなめしのショルダー革、裏地を同じくタンニンなめしの豚革から作っていきます。それぞれ、製法や使用箇所に合わせて向きや取る位置を決定していきます。



カーフでは鞄の表側になるパーツを取る。これは1頭分の革で、そのとらのない部分を使う。胴はマチを挟んだ反対側にもう一枚取ることになる



こちらは豚革。豚は銀面に傷が多いので床面を使う。マチは伸びる方向で取ること



ショルダー革では持ち手を取るか、伸び止めのテープやロープ芯を使う場合は伸びる方向でないと歪んでしまう

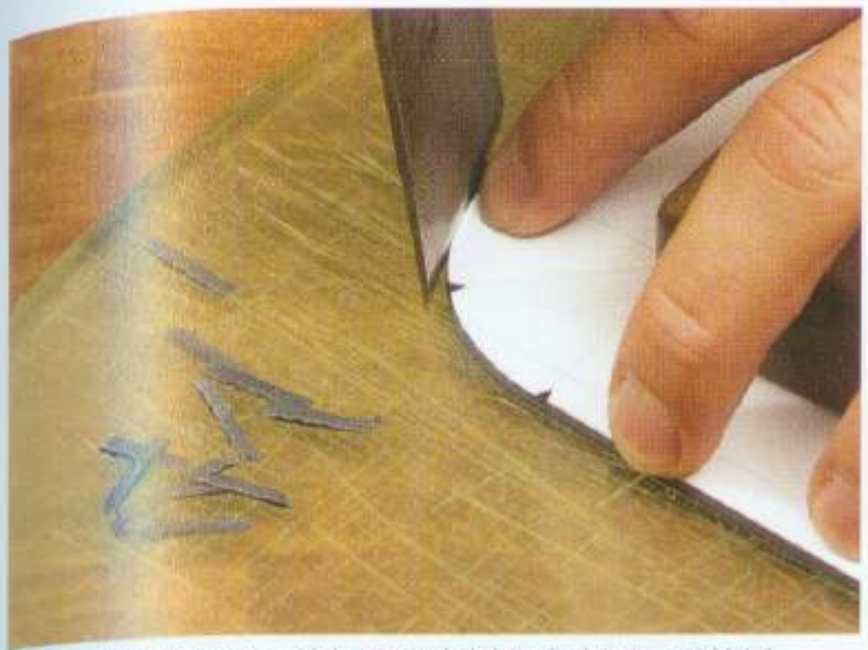


革は、まず粗裁ちしてから、改めて型紙に沿って切るようにした方が、スピーディかつ正確に切り出せる

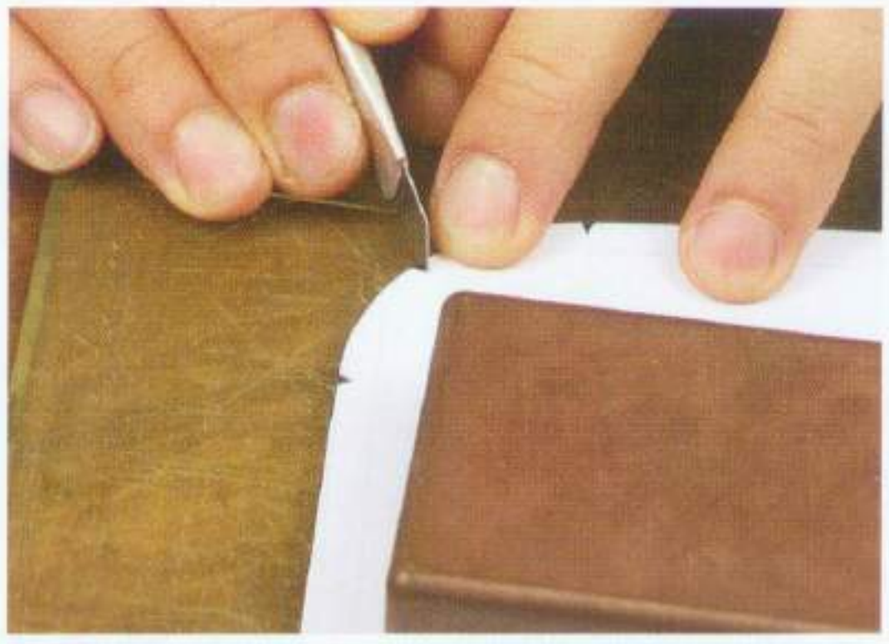
1



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



2 丸い部分は、革包丁の奥側を支点にし手前側を上下させることで、細かく切ると良いだろう



3 胴やマチのRの始・終点や頂点、各部の中心等には、V字に小さく切れ込みを入れる

準備した基本パーツ

これらが使用する基本パーツ達です。玉縁に使用する革は、胴の型紙の外周よりやや伸ばした長さで、幅2cmほどの胴と同じ革を2枚切り出しています。



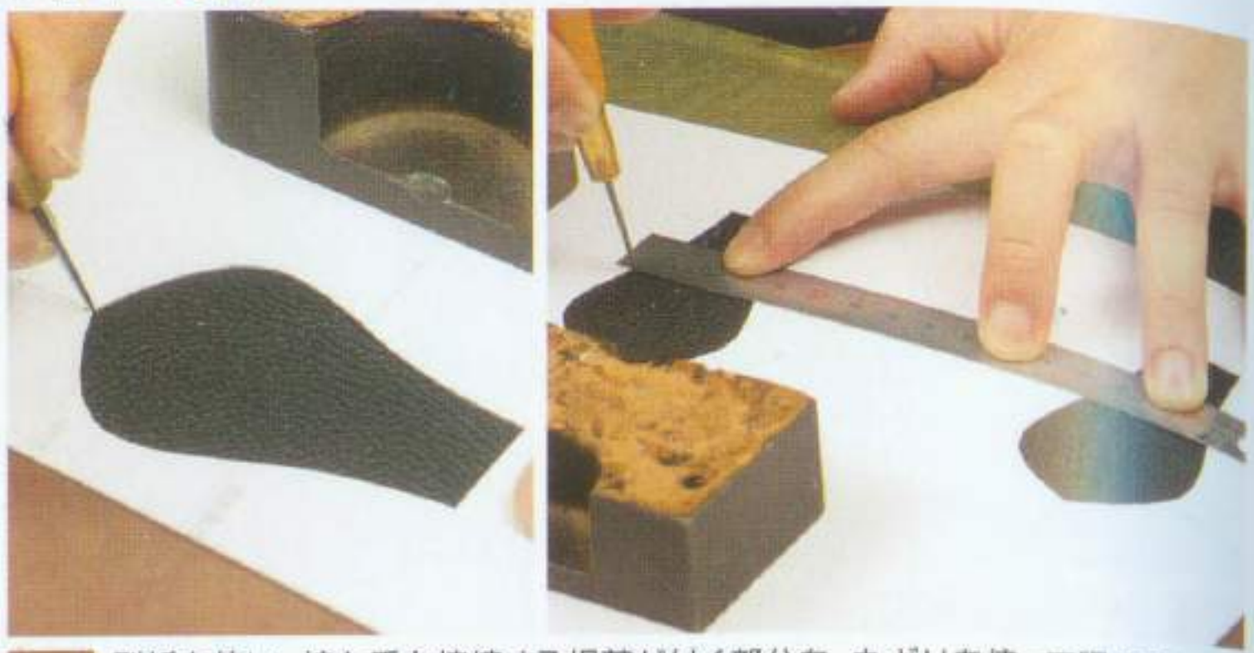
❶ 持ち手
❷ 額 縁(ファスナーの縁)
❸ 裏打ち
❹ つまみ
❺ 根 革
❻ 胴
❼ 胴の裏地
❽ ポケット
❾ 天マチの裏地
❿ 底マチの裏地
⓫ 天マチ
⓬ 底マチ
⓭ 玉 縁

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

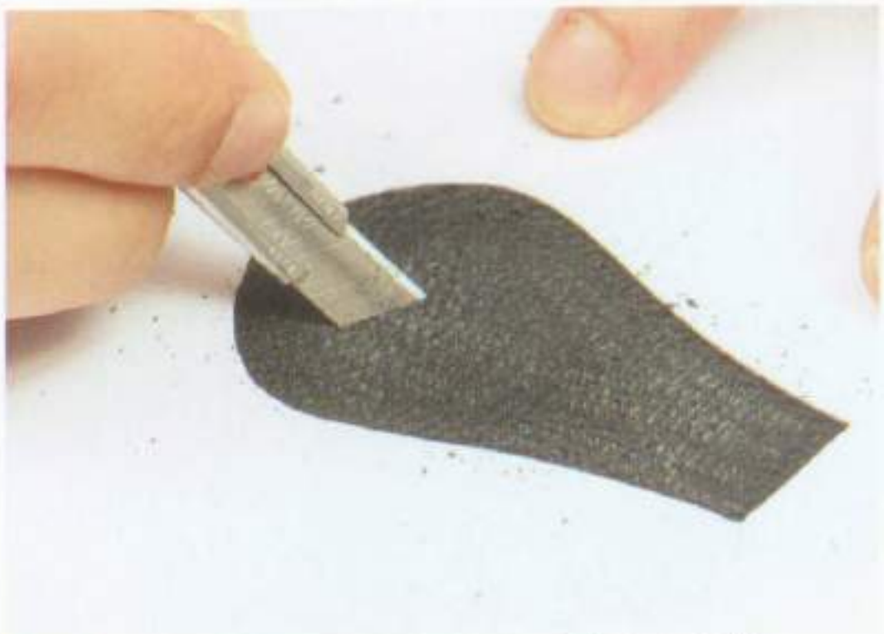
持ち手の製作

まずは、鞄を持つ所である持ち手を製作していきます。金具を入れ根元が折れ曲がるようになっていることもあり、このブリーフケースにおいて最も難しいと言える部分でもあります。見た目という意味ではもちろん、大きな負荷がかかる所だけに、しっかり使えないと実用性の面でも問題が出てきてしまいます。焦らず着実に製作を進めていくことが、何より大切なのです。

●根革の製作



1 型紙を使い、持ち手を接続する根革が付く部分を、丸ギリを使って胴の革に印す。その後定規を使い、折り返した根革の先端が来る所に横線を印す



2 ノリの付きを良くするため、印をした部分の1mmほど内側の銀面をカッターで荒らす



3 そのままの厚みでは切りにくかったので、荒裁ちした根革の部品を革すき機を使い、1.6mmの厚さにすく



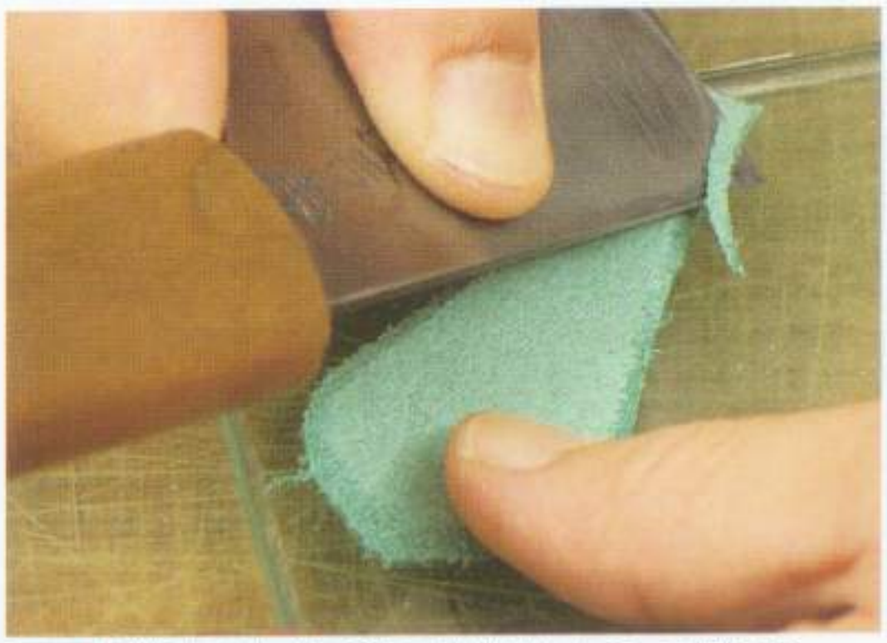
4 型紙と丸ギリを使って正確な形を革に印したら、革包丁で切り出していく。外側に膨らむ曲線は、P145ページで紹介した方法で、内側に絞られていく曲線は、刃先が斜めになった革包丁で、線をなぞるようにして切っていくと、右の写真のように綺麗に切れるはずだ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

POINT



金具をそのまま挟むと根革に段差ができるので、それを避けるために金具と同じ厚さの芯材(床革)を用意する

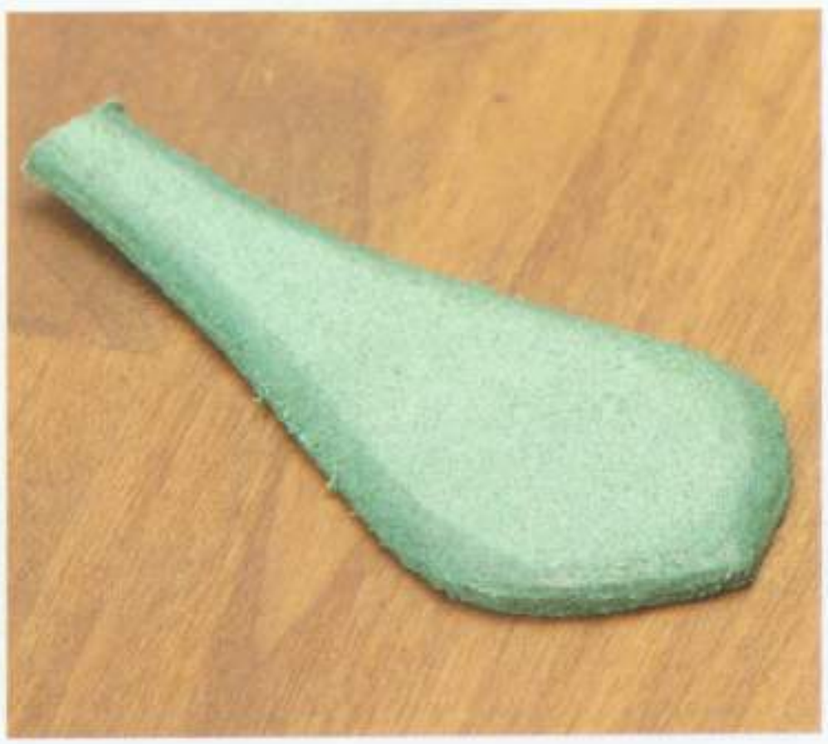


5 型紙に合わせて芯材を切り出したら、表側にする面の角を革包丁で落としておく

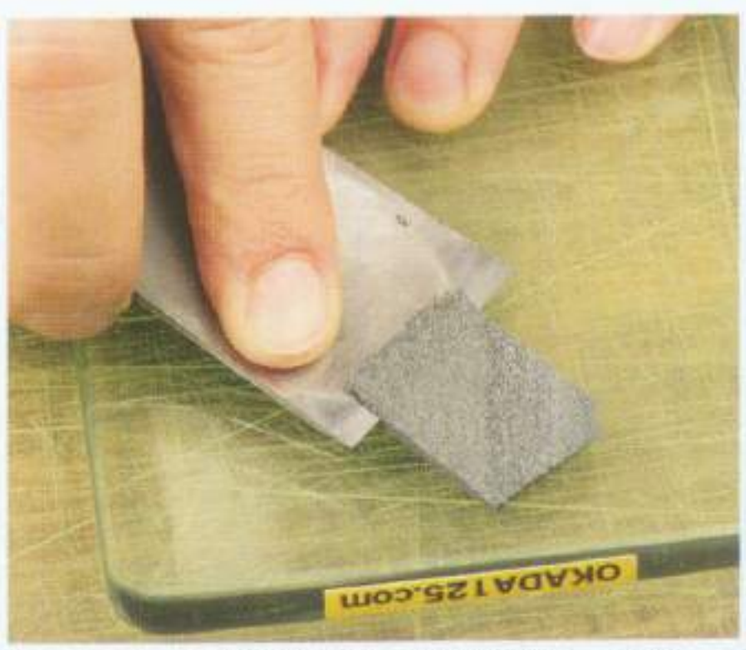
さらに芯材の角に丸みを持たせる。まずは成形しやすいよう、縁を水で濡らしたら、ヘラで擦り写真のように丸くしていく

6







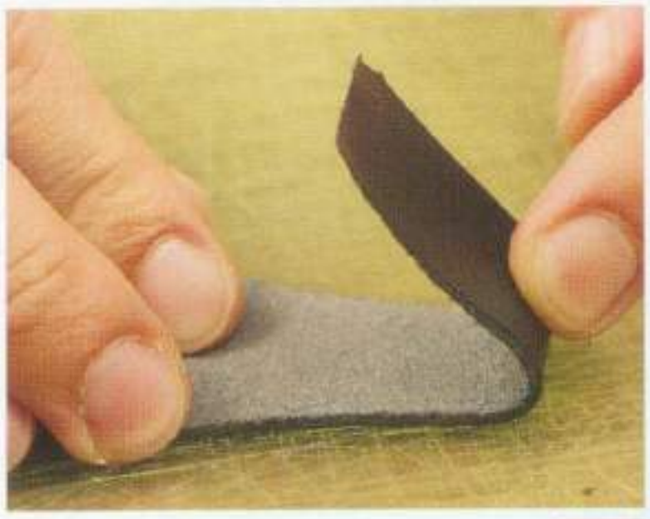




7 根革は表面を覆うだけの構造では強度が出ないので、一部を折り返して取り付ける。ただし、そのまま折って縫いつけると厚みが出る上、内側になる側の先端部で線が出てしまう。そこで、先端になるほど薄くなり、また先端の厚みがほとんどなくなるように、革包丁ですいていく

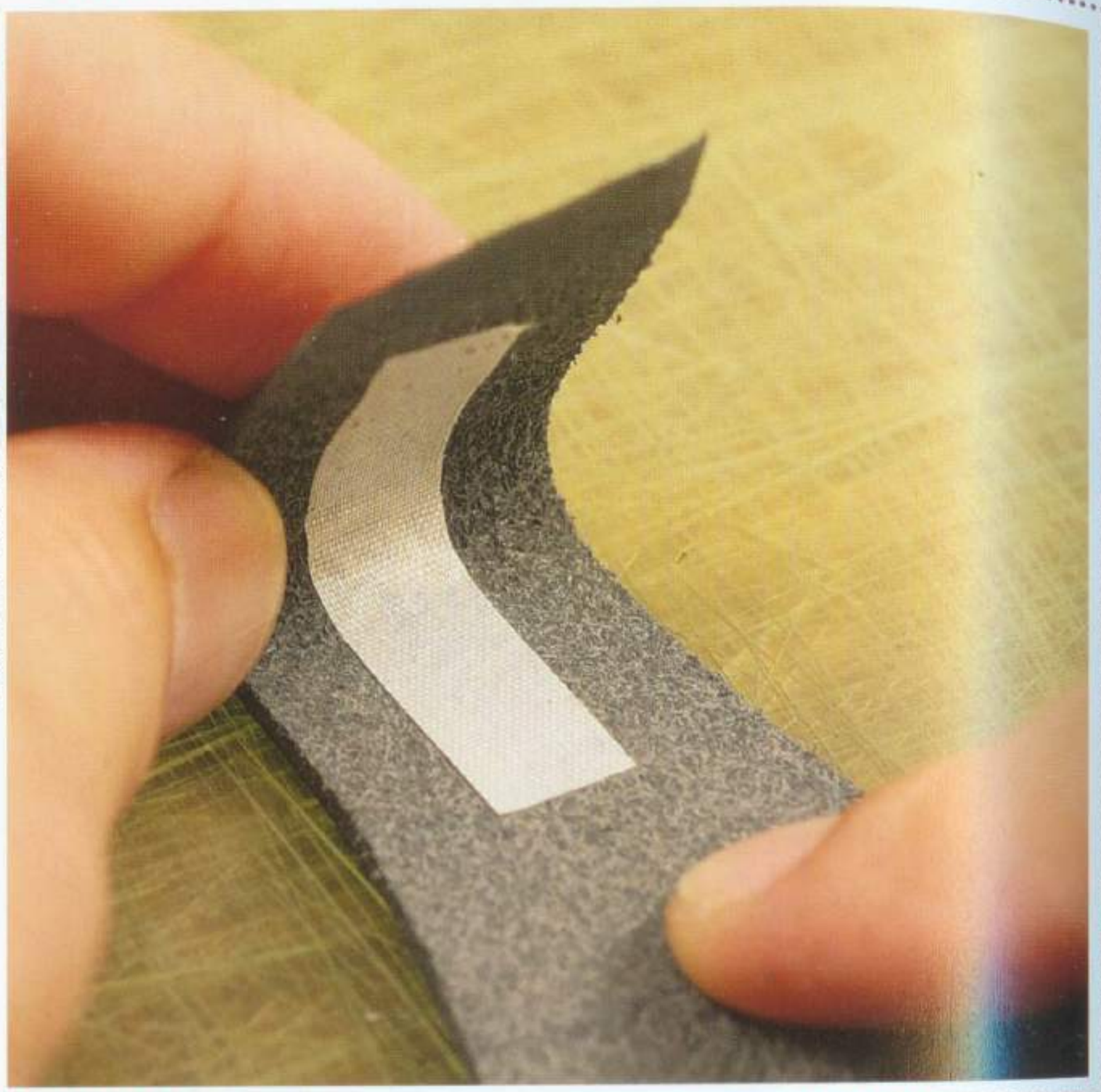
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

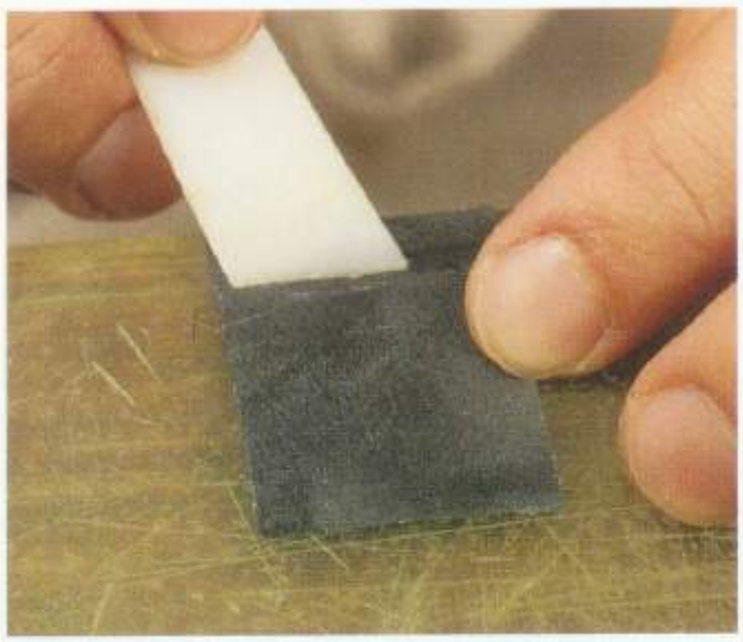
CHECK!

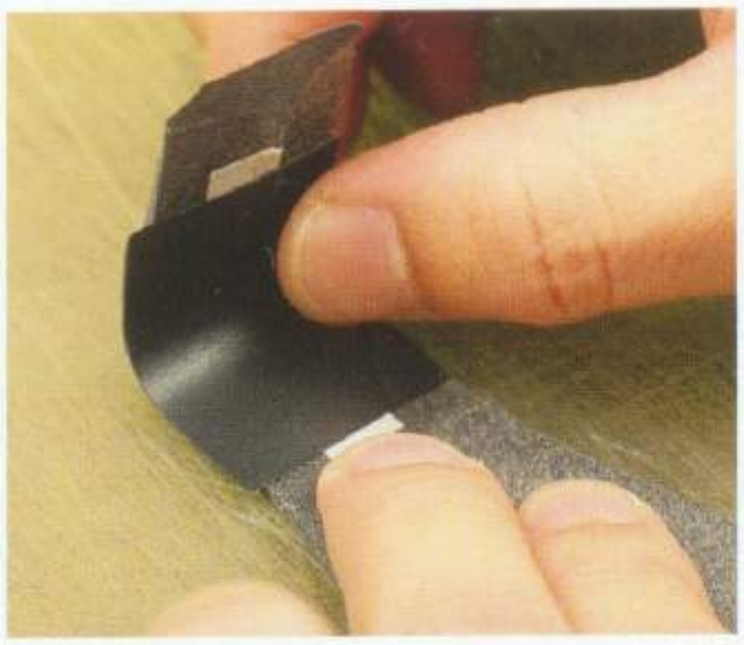


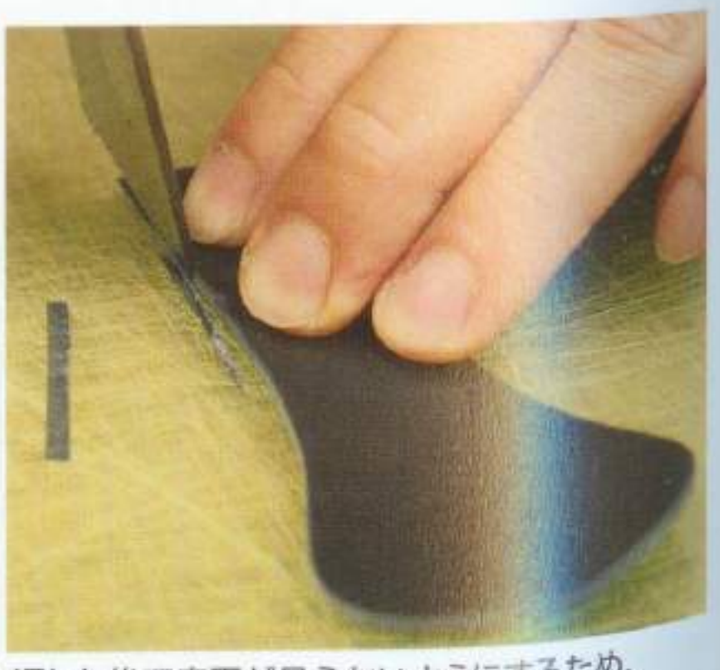
8

根革は伸びない方向で革を取ってあるが、それでも鞄の重みが掛かると伸びてしまうので補強テープを貼るのだが、その前に根革を先端が工程1で付けた線にくる位置で曲げ、癖を付けてから貼ること







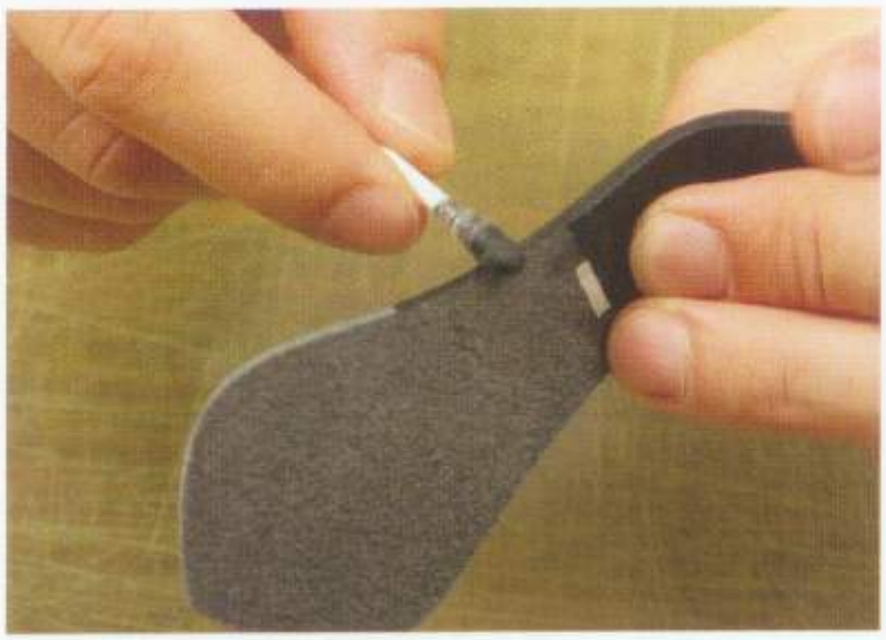


9 補強テープは糸が縦横に編まれており、そのままではほつれる可能性がある。それを防ぎ、折り返した後で床面が見えないようにするため、薄くすいた(両端は線が出ないよう限りなく薄くする)裏打ち用の革を、ゴムのりを両方に塗って貼り付ける。はみ出た革はカットしておくこと

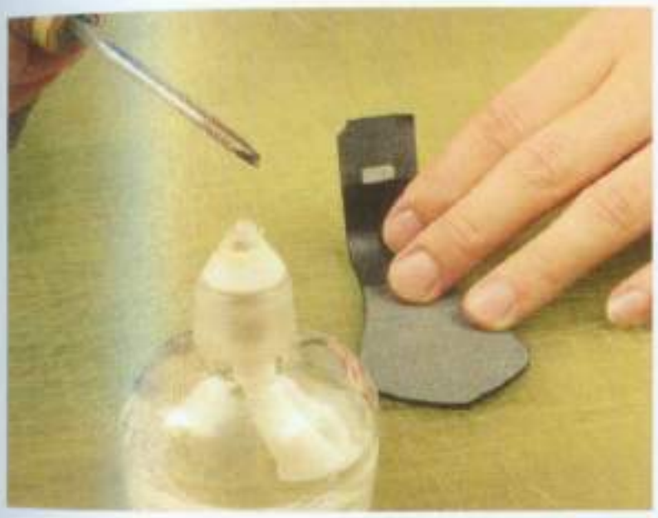
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



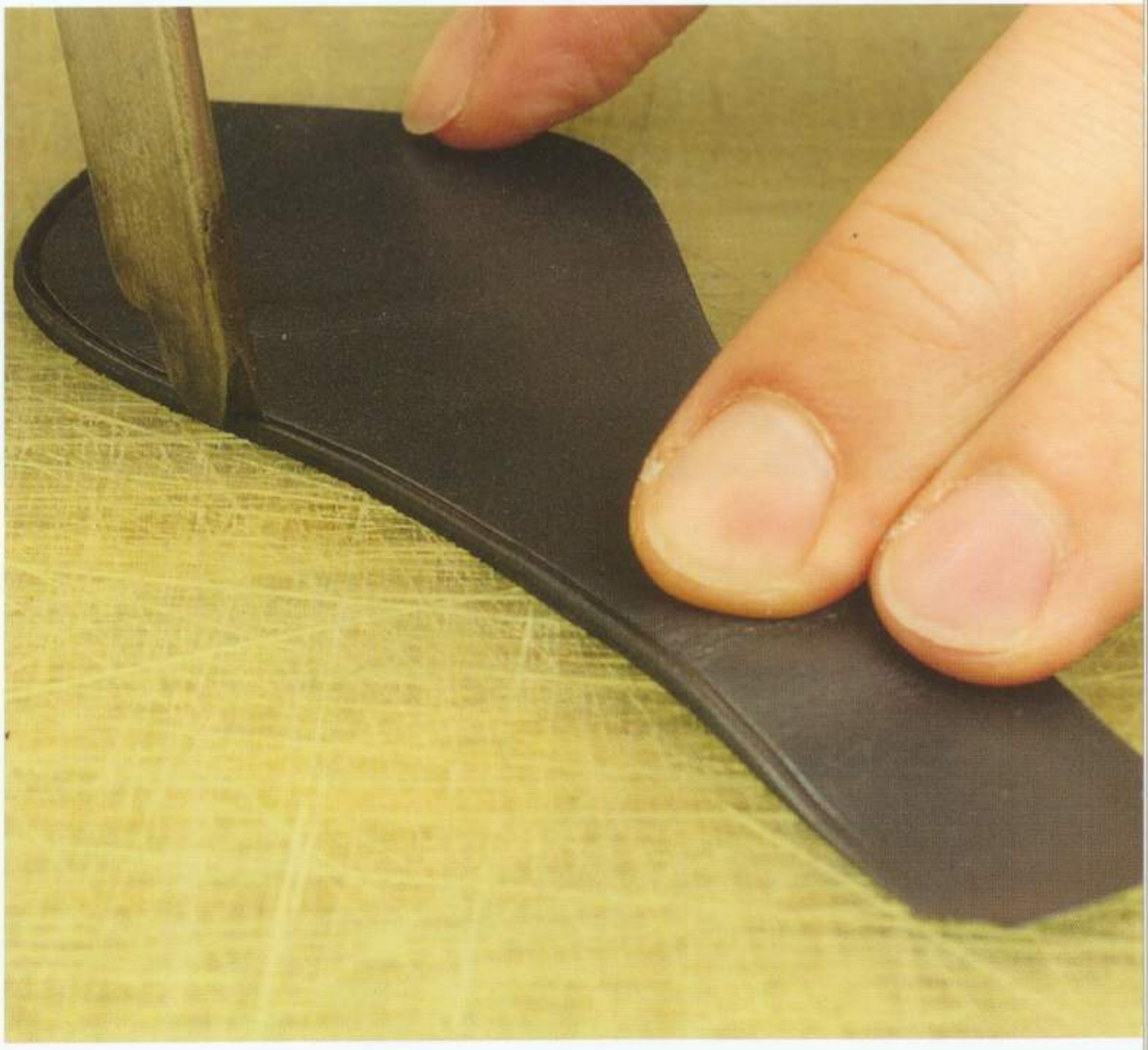
10 根革はこの時点でコバを磨いてしまう。まずは400番の紙ヤスリでコバを研磨する



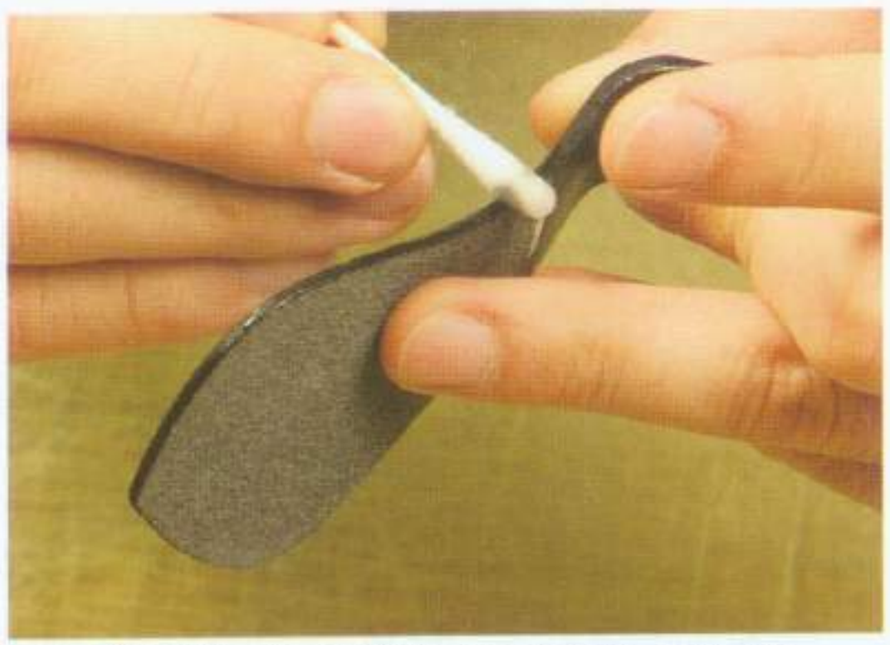
11 銀面の色と合わせるために、ヤスリ掛けをしたコバをクラフト染料で染めておく



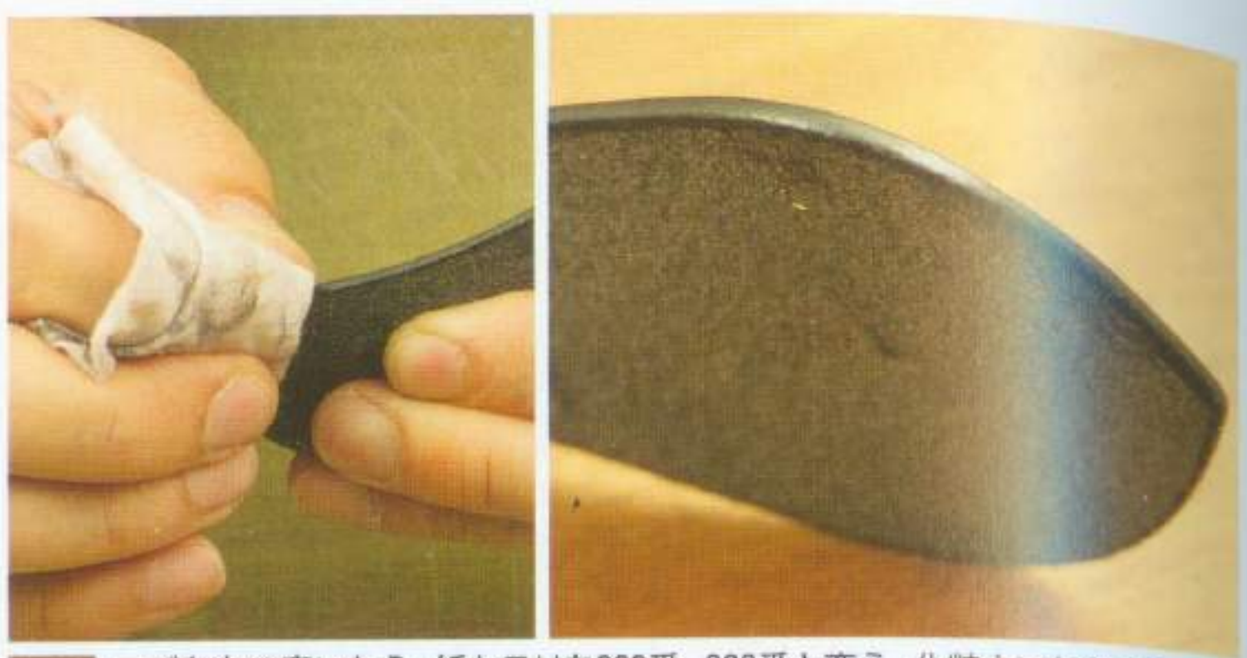
12 コバを補強し、見た目を整えるために、アルコールランプで熱した化粧ネンを、ねじネンを使う要領で、折り返す先端を除いて全周にわたり当てていく



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

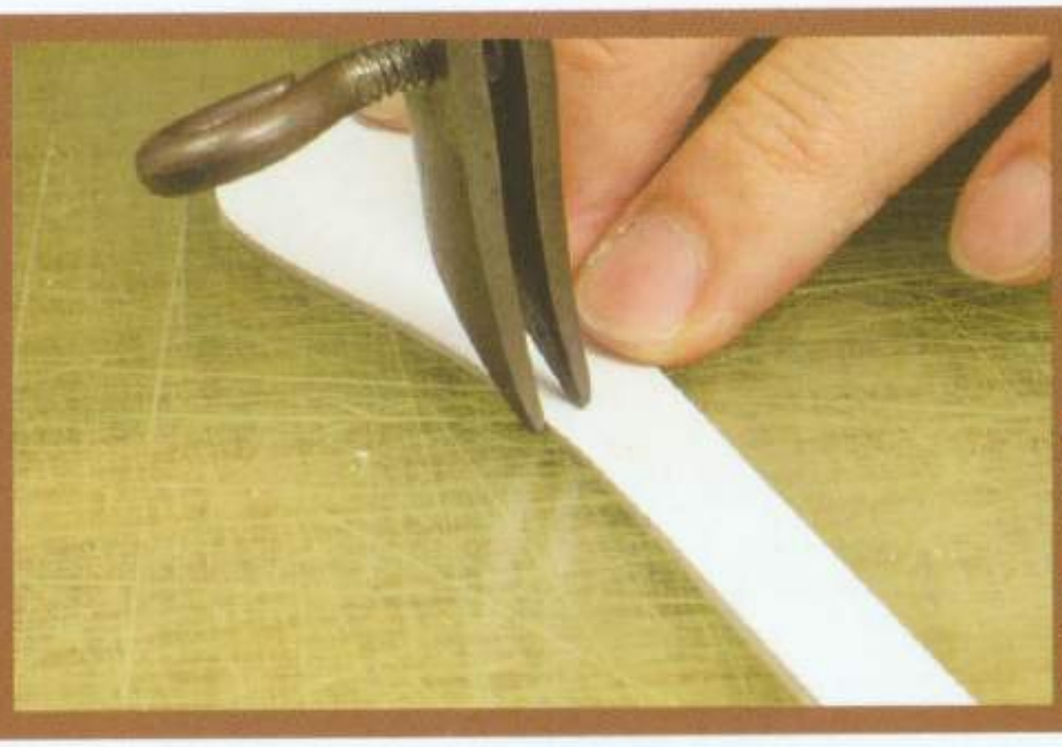


13 根革はタンニンなめしした革を使っているので、ふのりを綿棒などを使いコバに塗っていく



14 コバを布で磨いたら、紙ヤスリを600番、800番と変え、化粧ネンを当てる作業を除いて、研磨、染め、磨きの工程を繰り返すと、右のように仕上がる

POINT



根革に縫い線を付けていくために、ねじネンを使う。ねじネンの幅の調整は定規を使って計るのが一般的だが、微妙にずれる事も多いので、紙に調整後のねじネンを当て、できた跡を計って実際にどの幅で縫い線が印されるのかを確認した方が、より正確だ

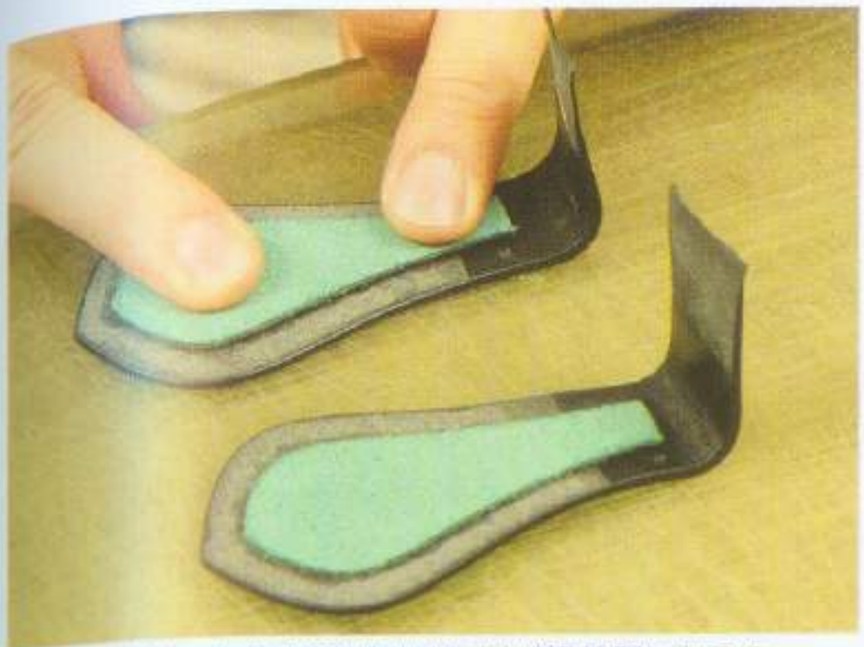


15 コバから3.5mmの位置にねじネンを使い、縫い線を付けるのだが、折り曲げ部にはつけない



16 2本目打を使い、菱目を打つ。根革先端の突起に目がくるよう、調整すること。目の始点と終点は丸ギリで穴を開ける

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



17 芯材を、丸みを帯びさせた側が根革側になるようにし、先端が折り曲げ部直下になるよう貼る

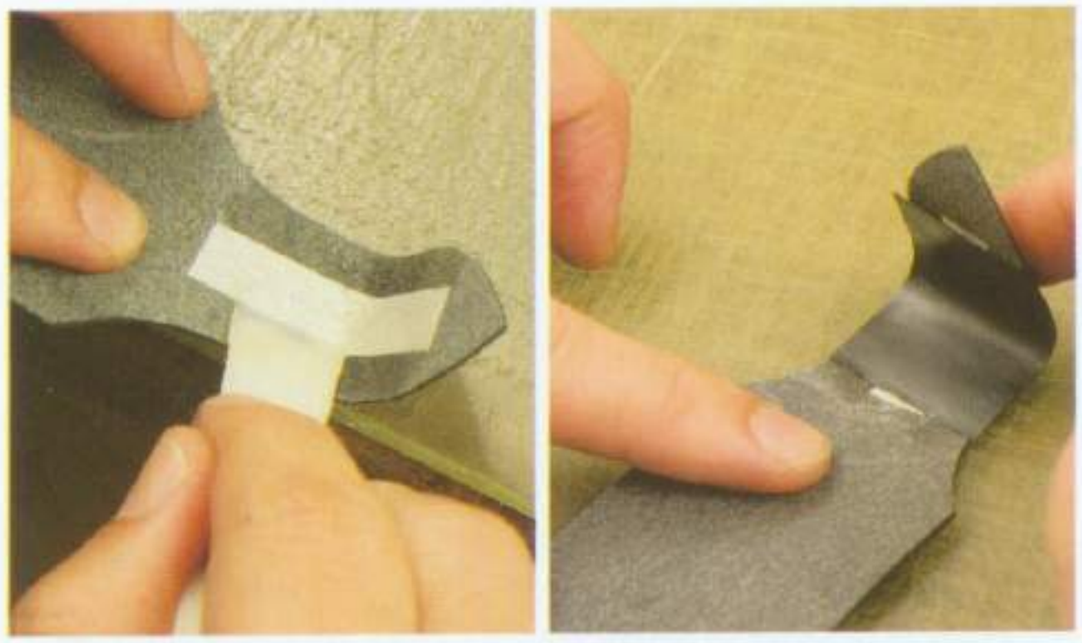


18 片側各2個、計4個根革を作る。見た目が悪くなるので、金具が付く折り曲げ部より上に縫い線や菱目を付けないこと

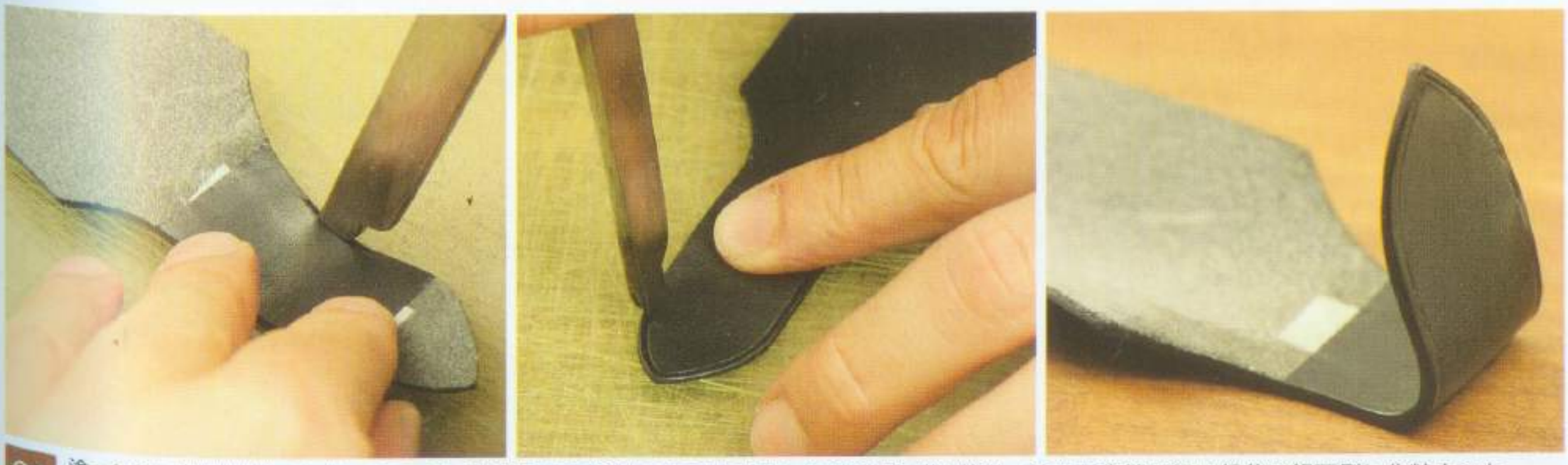
●持ち手の製作



19 持ち手は1.6mm厚になるようすいたら、完成後皺が寄らないよう、写真のように揉んでおく

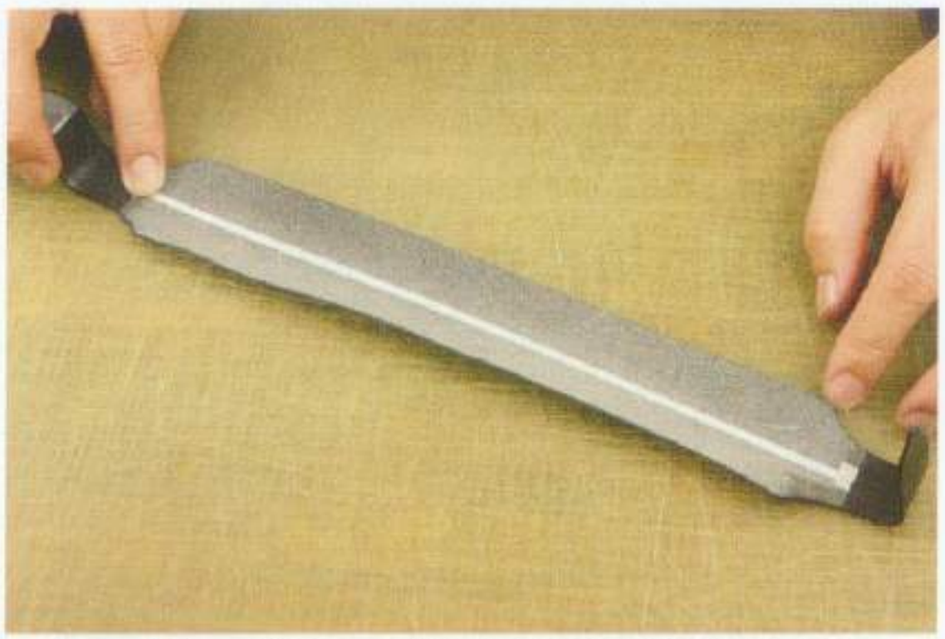


20 型紙に沿い正確に切り出したら、根革同様、癖をつけた後金具の付く部分に補強テープを貼り、裏打ちの革を貼り付ける

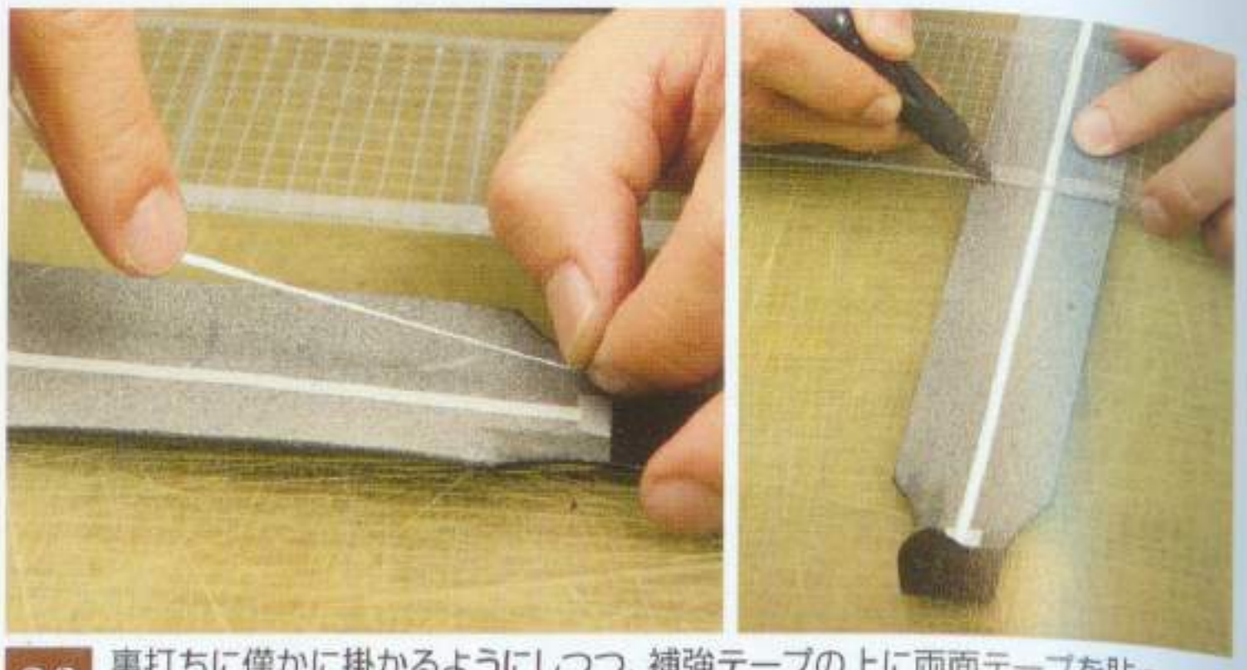


21 塗った後では作業ができないので、完成後見える可能性のある裏打ちした革の折り曲げ部と、持ち手先端の細い部分の銀面側に化粧ネンを当て、補強と成形をした後、コバを磨いておく(磨き方は根革=タンニンなめし革と同じ)

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



22 3mm補強テープを、裏打ちに掛からないよう持ち手中央に、その端に太いテープを横に貼る



23 裏打ちに僅かに掛かるようにしつつ、補強テープの上に両面テープを貼ったら、持ち手の中央部が分かるよう、ペンで印を付ける

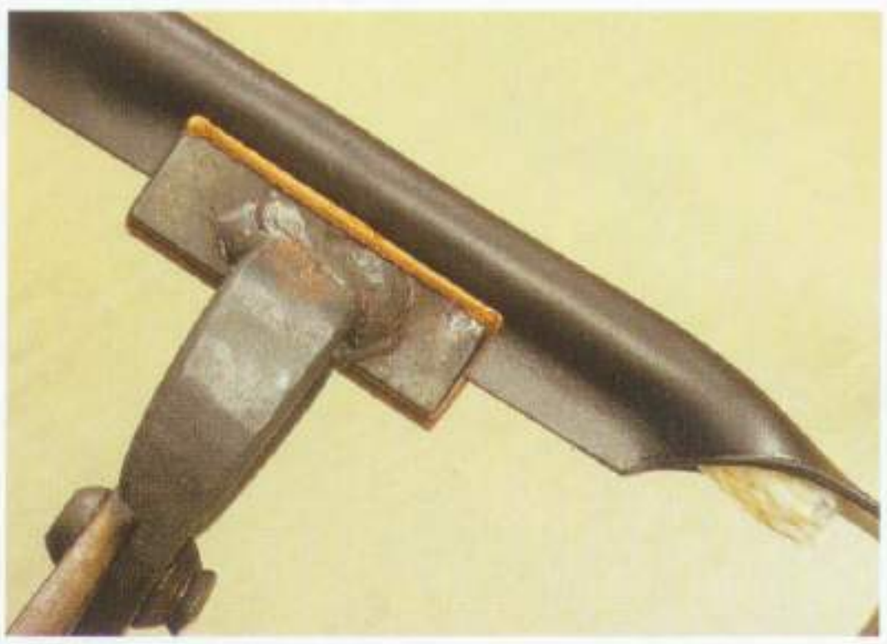
POINT



今回は持ち手に強度を持たせるために、中に麻が入った直径7mmのロープ芯を使用いている



24 芯を25.5cm長にカットし、その中心を持ち手中央に合わせて貼り、芯と周囲の革にノリを塗る



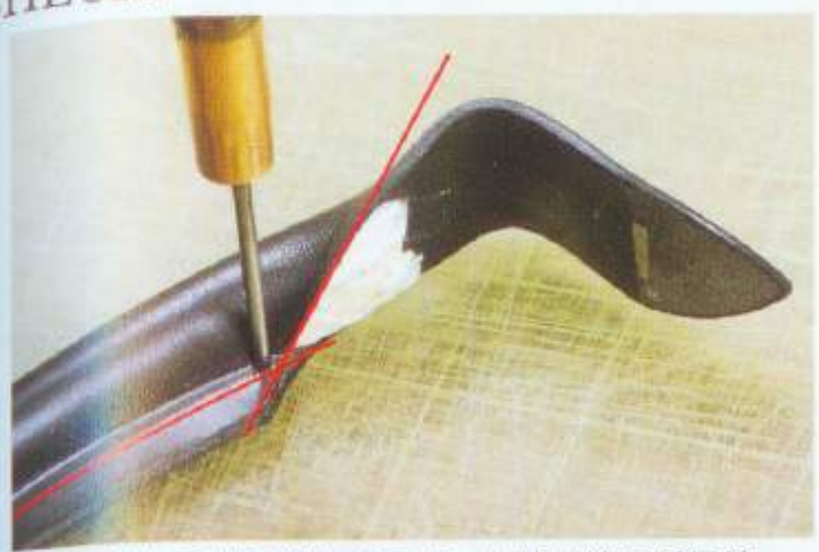
25 両端のコバがずれないよう張り合わせたら(左右交互に作業する)、やっとこで圧着させる



26 縫い目を打つ側のみ、ロープ芯の際をヘラでしっかりと押しつけておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!



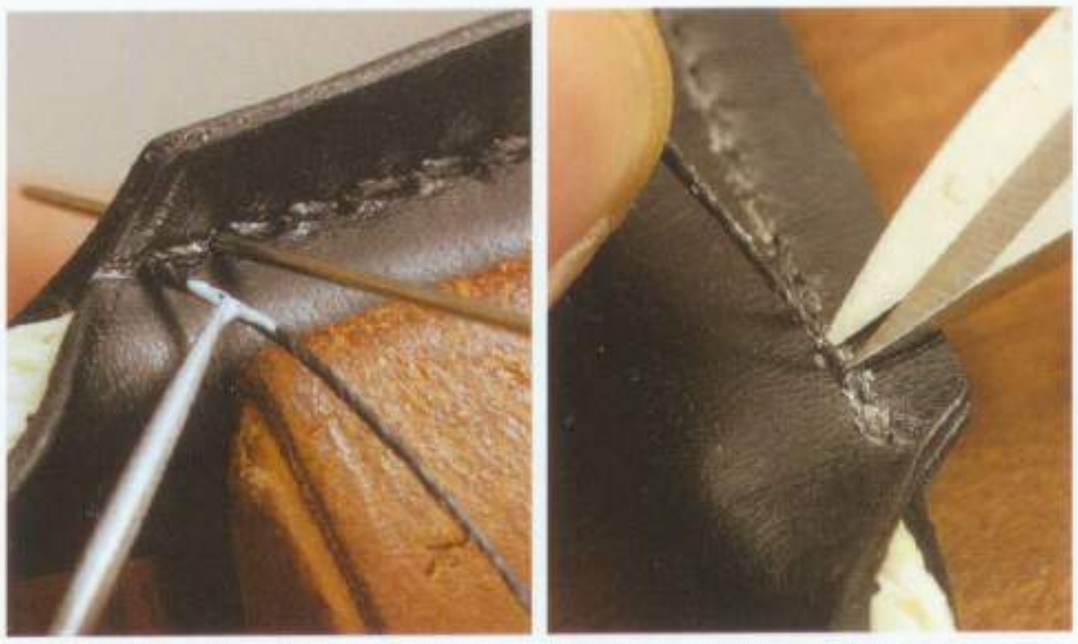
27 持ち手端の斜めのラインと縫い線の延長線上となる始・終点に丸ギリで印を付ける



28 27でつけた印を基準に、弱めに目打ちをする。縫い線はロープ芯より僅かに外にすること



29 ロウ引きした麻布で縫っていく。弱めに目打ちした場合、一目ごと菱ギリで穴を貫通させる



30 端まで縫ったら3目戻るが、戻る際に目に収まる部分の糸にボンドを塗る。最後には目打ち側とは逆側に糸を出して切る

縫い目から2mm離れた位置で革をカットする。通常は3.5mm距離を取るのだが、持ち手の場合、それでは長すぎて、もう一方の持ち手と擦れて痛むので敢えて2mmとする

31





Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



32 切断面の革は角が立っているので、豆カンナを使い、その角を表側裏側とも落としておく



33 角を落としたら、持ち手の他の部分同様にコバを磨き、化粧ネンを当てていく



34 ノリがしっかり張り付くよう、化粧ネンを当てた部分以外の裏打ち表面を、荒らしておく

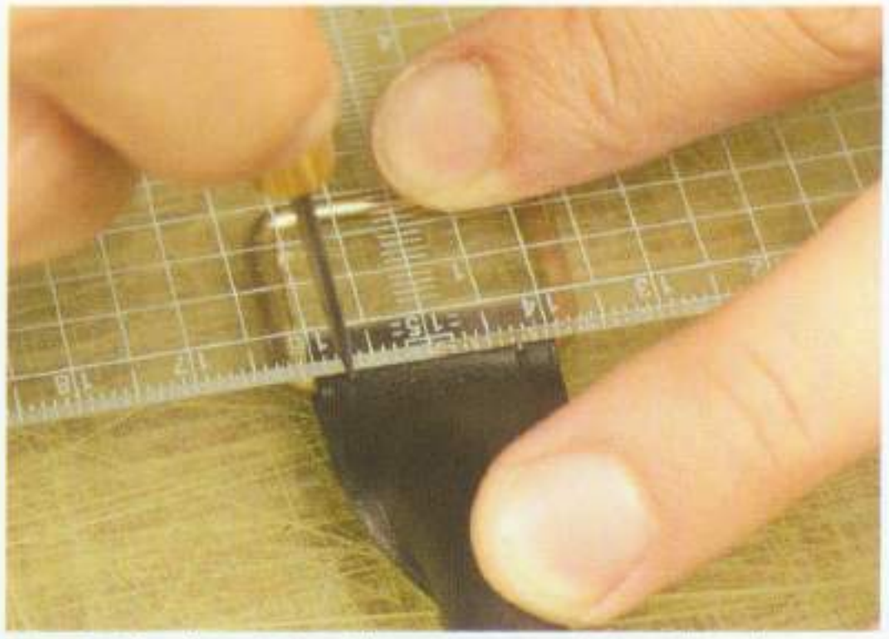




35 金具(角カン)を通したら、はみ出る恐れがあるので最小限度にゴムのりを塗り、先端を折り張り合わせる



36 ねじネンで、先ほど貼り付けたのとは逆側に、他の部分を傷つけないよう縫い線を引く



37 縫い始めと縫い終わりとなる、角カンギリギリの部分に、丸ギリで穴を左右2個開ける

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



38 持ち手を裏返し、こちらの面にも縫い線を引いていく。持ち手をしっかり押さえて作業する

CHECK!

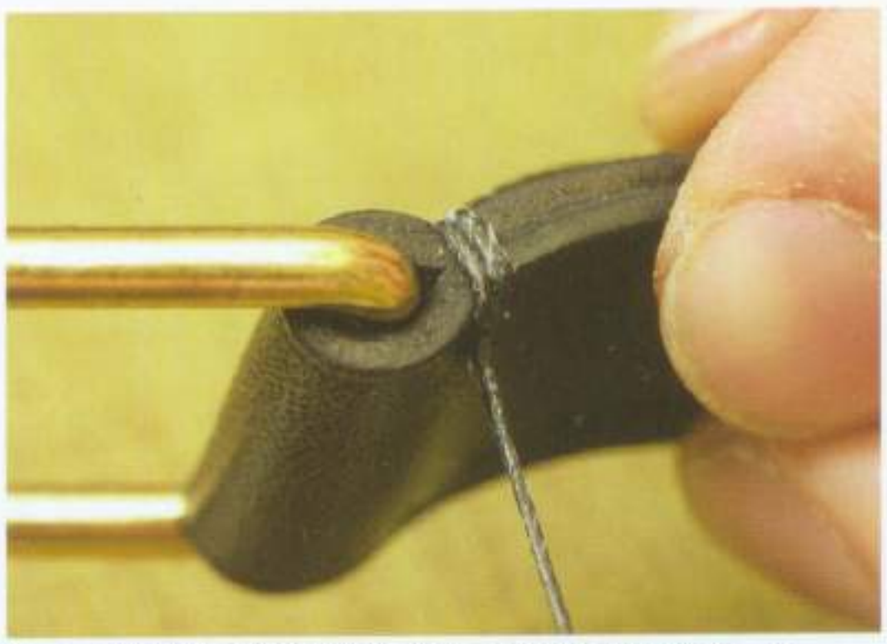




39 通常であれば目打ちで穴を開けるのだが、革が湾曲し内側と外側では穴の数が合わないので、2本目打を跡が付く程度に押すだけにする

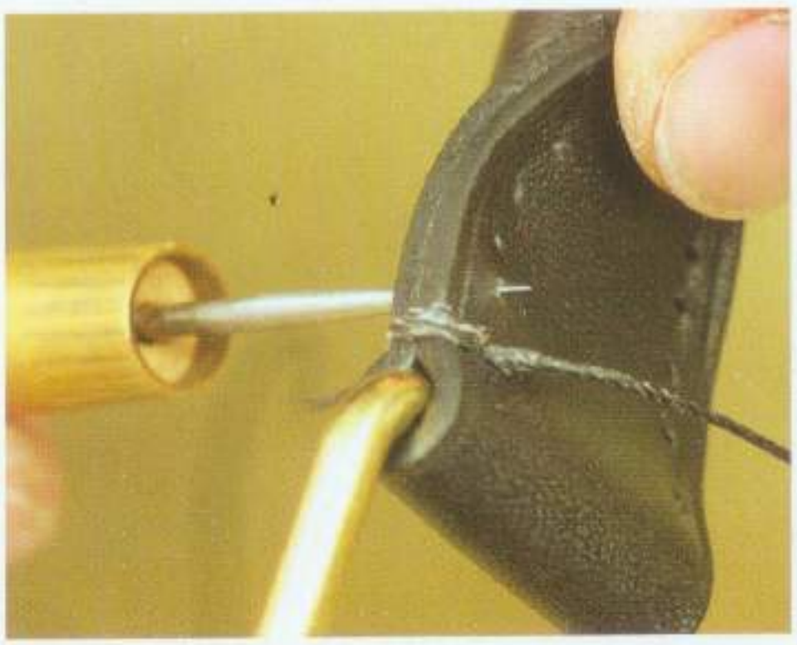


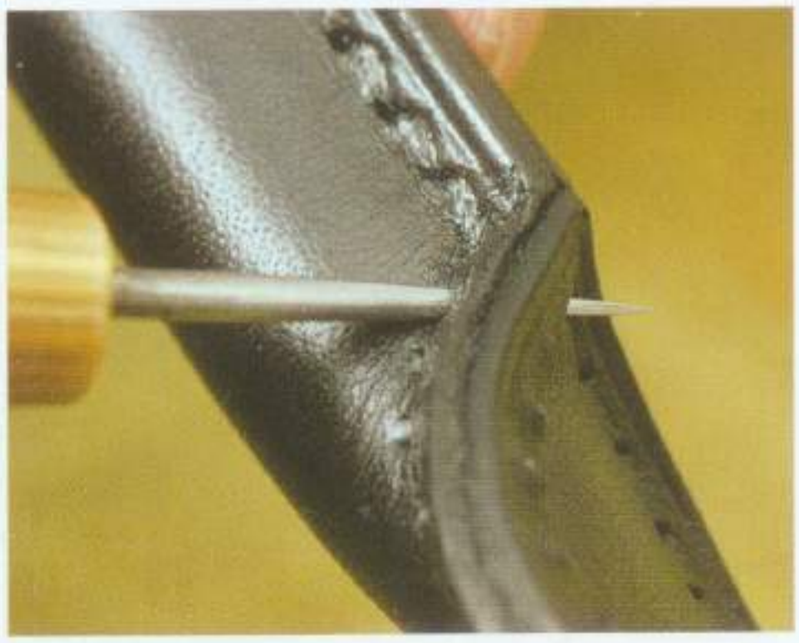
40 跡に沿って菱ギリで穴を開けるのだが、逆側に貫通させないこと。写真の位置は丸ギリを使う



41 丸ギリで穴を開けた角カン脇から縫い始め、このように革を挟んで2周糸を回しカン止めする

CHECK!



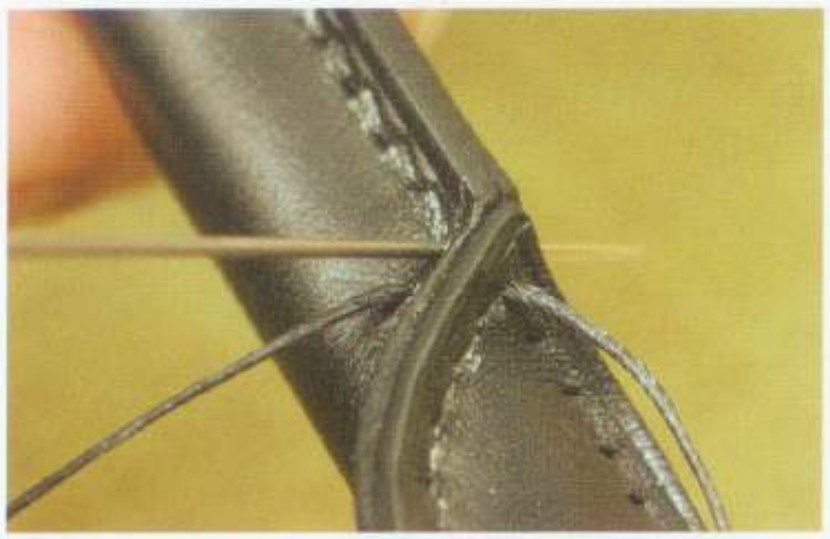


細い丸ギリを、表裏で対応する穴に貫通させ、縫う位置を確認する。頂点の穴同士は、右の写真のような角度で対応することになる

42

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

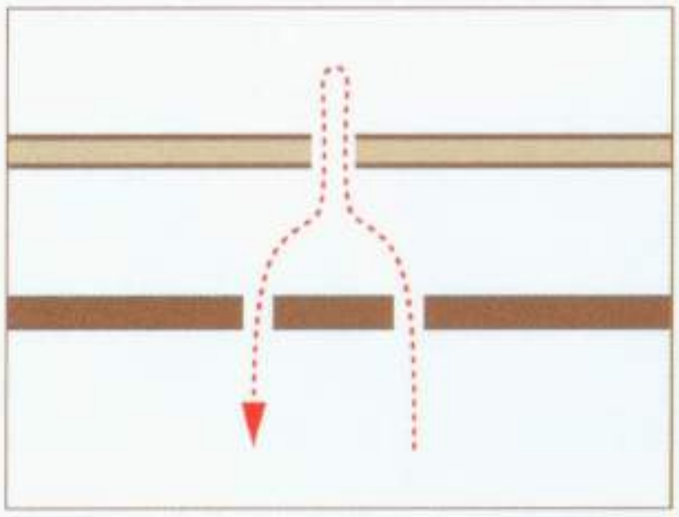
CHECK!



43 縫い進めると、内側の穴が足りなくなるので、一方の針はこの様に持ち手を横断させる

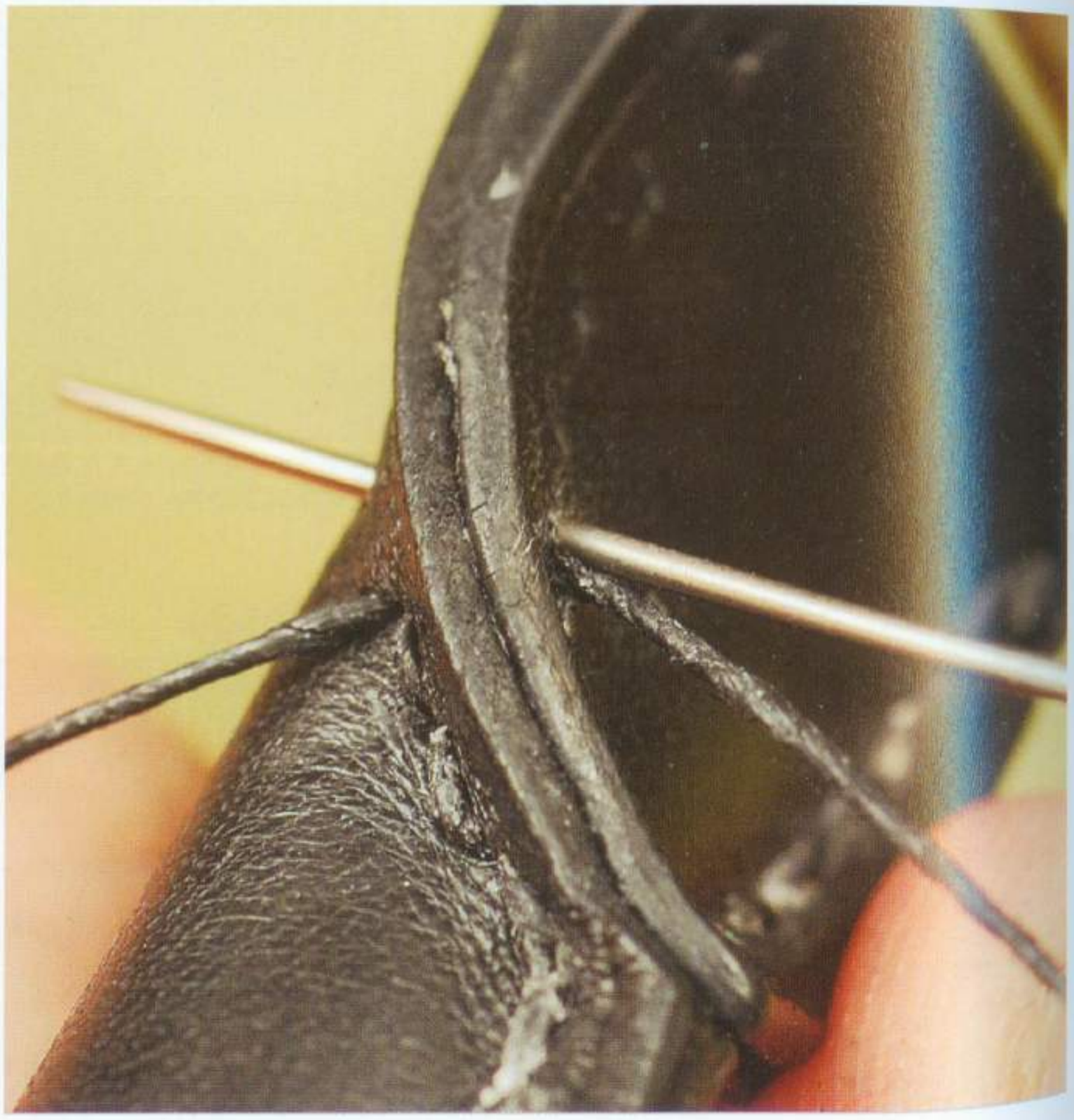


44 きちんと糸を通せていたら、頂点を過ぎた時点で糸の両端はこのような位置関係になる



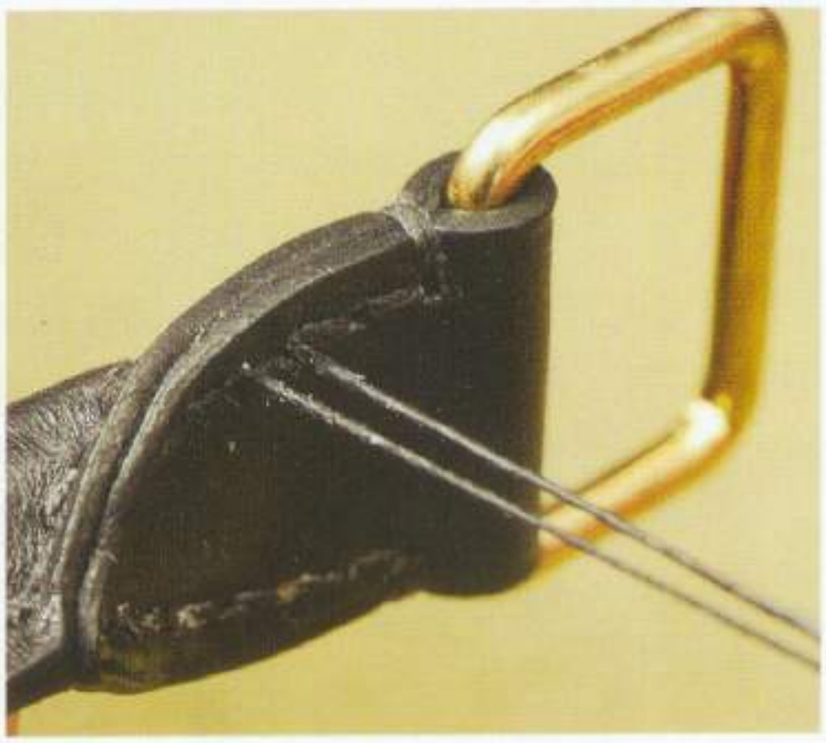
45

金具に向かって縫い進める場合でも、内と外では穴数が合わない。そこで、外側から通した糸を、今出てきた内側の穴に通しつつ、外側の1穴先に通す（図を参照）ことで、穴数の不一致を解消できる



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





カンの根元まで縫い進めたら、縫い始め同様、革を挟むように糸を二周させ、ボンドを塗りつつ3目戻り、内側で糸を切る

46



47

縫い合わせた革にはどうしても段差ができるので、裏側(平らな側)の革を革包丁で切って整えたら、コバを磨いて、持ち手の製作は完了となる



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

胴の製作

持ち手の製作が終わったので、胴の製作をし、持ち手を取り付けていくことにします。この工程では、縫うという作業は僅かしかありませんが、完成度を左右する作業ばかりですので、気を抜くことはできません。玉縁の鞄では、最終的に胴を何枚もの革を合わせて縫い合わせるために、それぞれの革の厚みを充分考慮する必要があるのです。頭で整理しながら進めていきましょう。

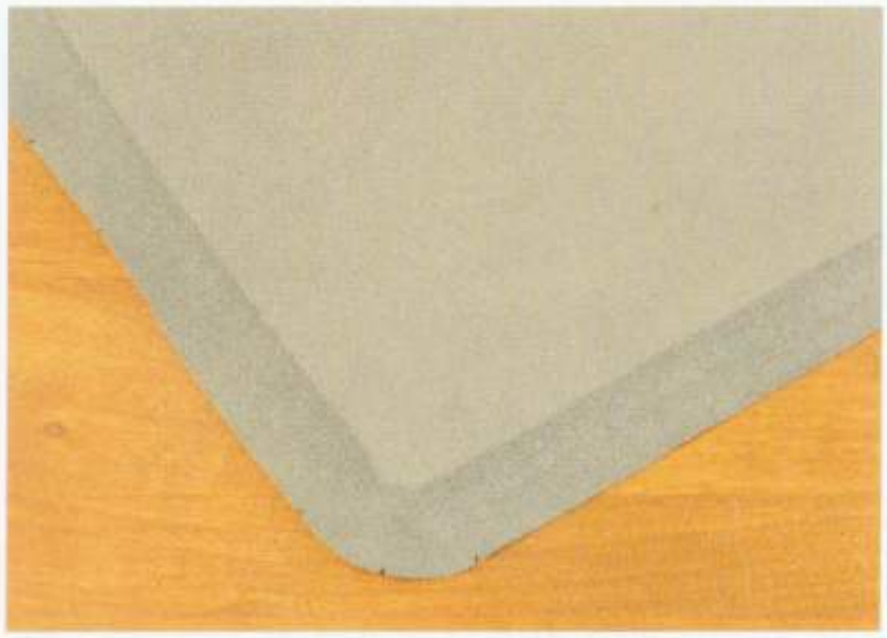
芯材の貼り付け



1 根革を取り付ける位置、根革の中心を印していく。根革の位置が左右で違うと、一気に見劣りしてしまうためだ。根革の中心にも印をしておく



2 銀面の縁、幅3mmほどを、ノリが着きやすいように、全周に渡り荒らしておく



3 胴の床面は、端から2～3cmをすいておく。これは縫い終わった後、折り返し易くするためだ

POINT



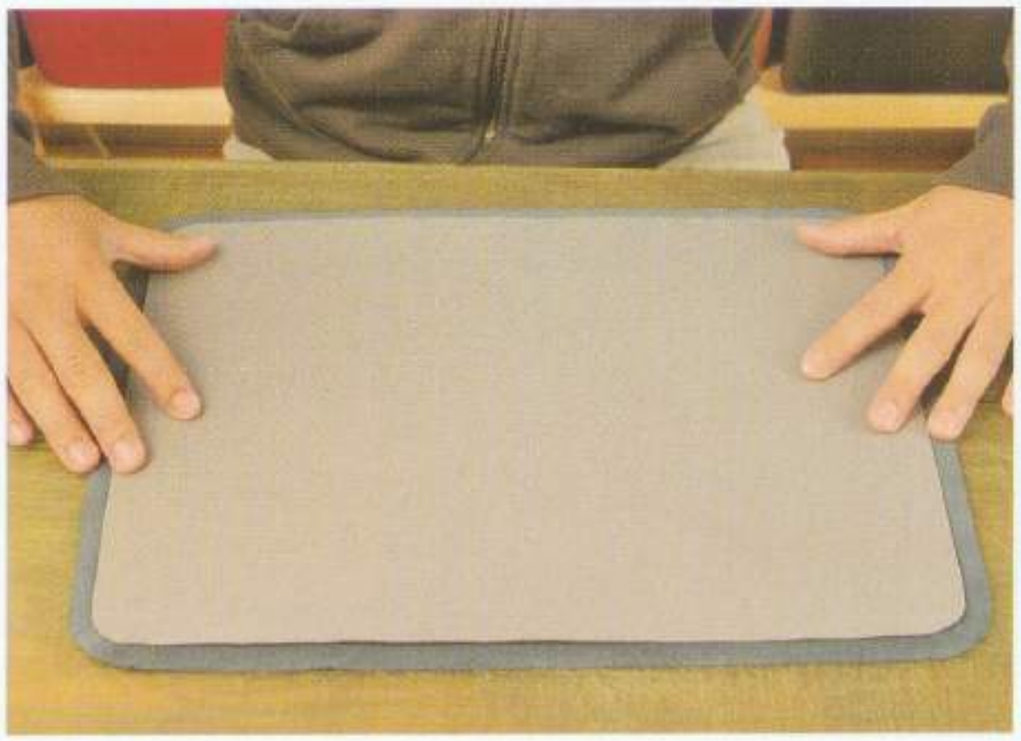
部分的にすくには、このような革すき機があると便利。調整次第で銀面を荒らす用途にも使える

CHECK!



4 胴に貼る芯材を切り出す。胴の型紙通り切ってから、ねじネンで1cm内側に印を入れる

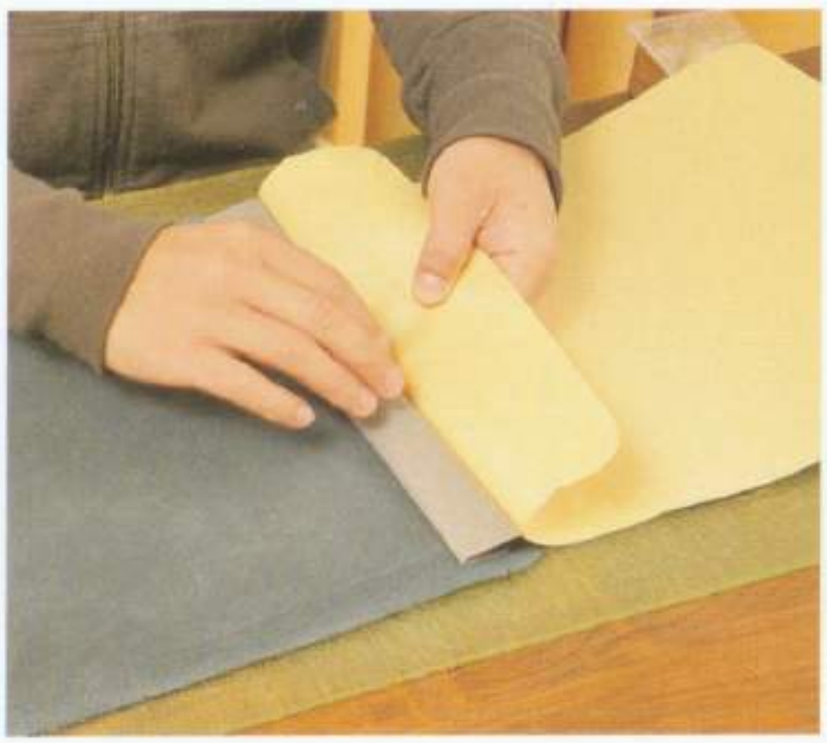
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





ねじネンの跡に沿って切り出したら、各部の隙間が均等になるよう胴の革に合わせ、その位置をペンを使い胴の床面に印を付けておく

5

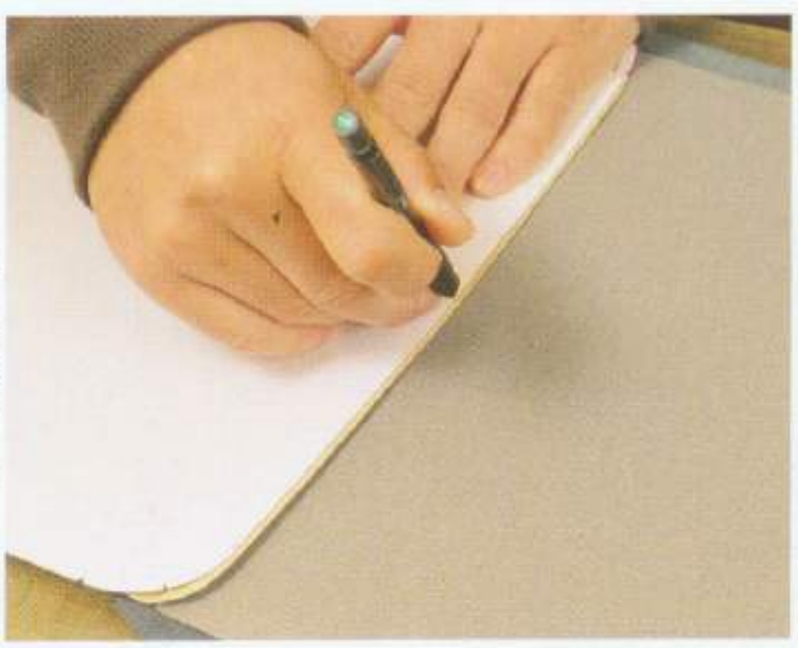




今回使用したスポンジ芯は伸びやすいので、5cmほど保護シートを剥がして貼るを繰り返す、といったように、一度に貼る面積を小さくすると良い

6

CHECK!



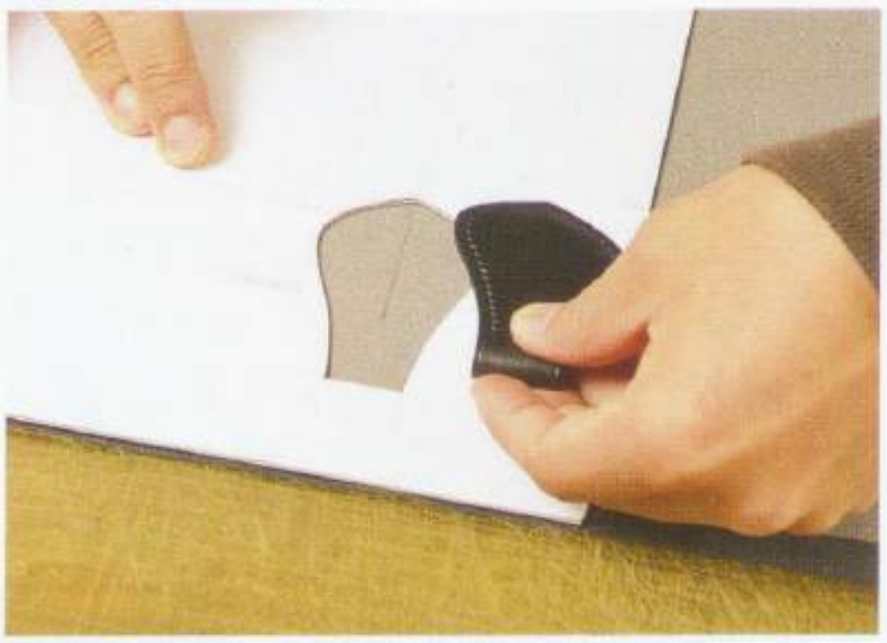


気をつけて貼っても若干伸びてしまうので、型紙や胴側の印を参考に、長すぎる部分は保護シートを剥がしきる前にカットしておくこと

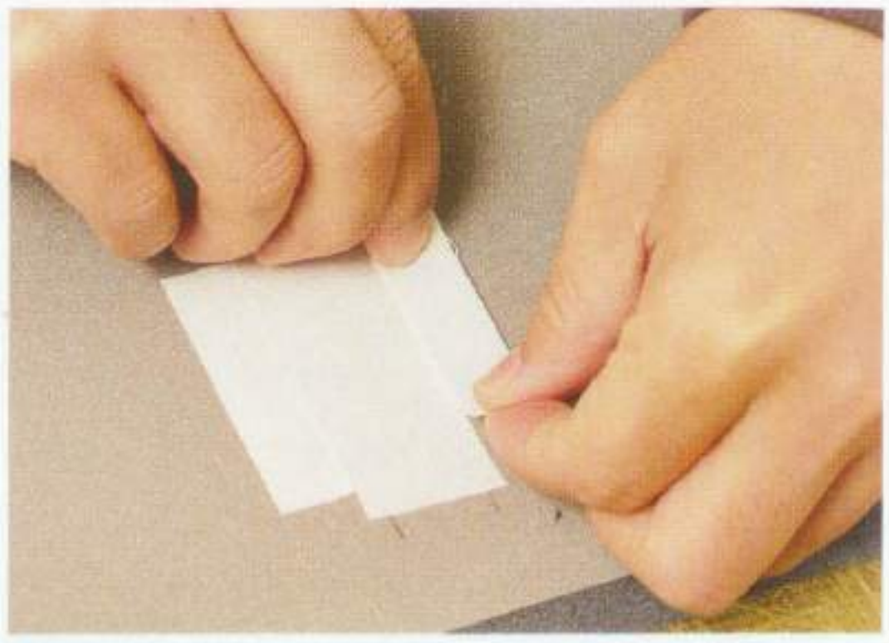
7

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

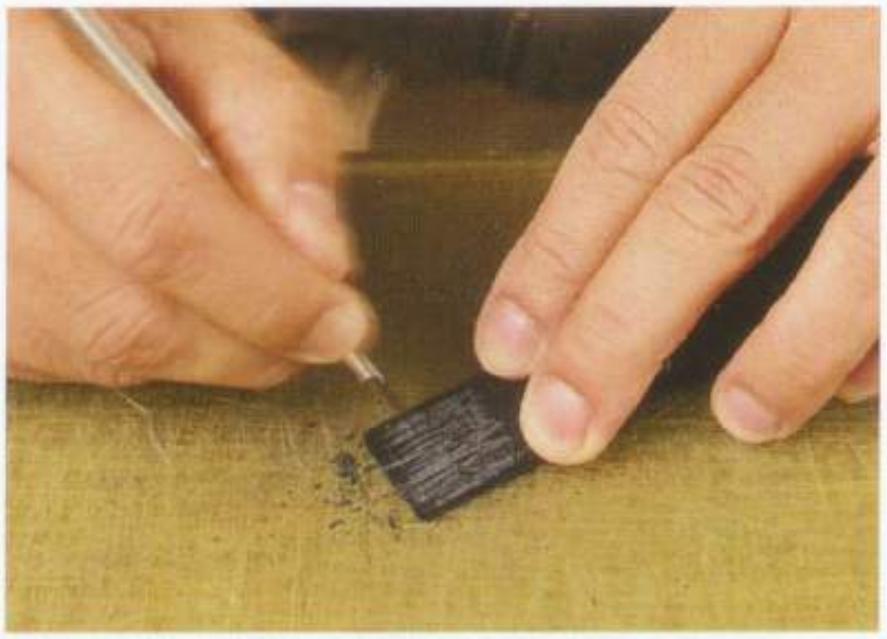
●持ち手の取り付け



8 型紙を使って、根革が付く部分の裏側(芯材)部分に印を付ける。表側からずれないよう注意



9 根革の取り付けを強固にするために、先ほど印を付けた部分を覆うように補強テープを貼る



10 根革の上側、折り返して隠れる部分の銀面を、ノリが付きやすくするために荒らす



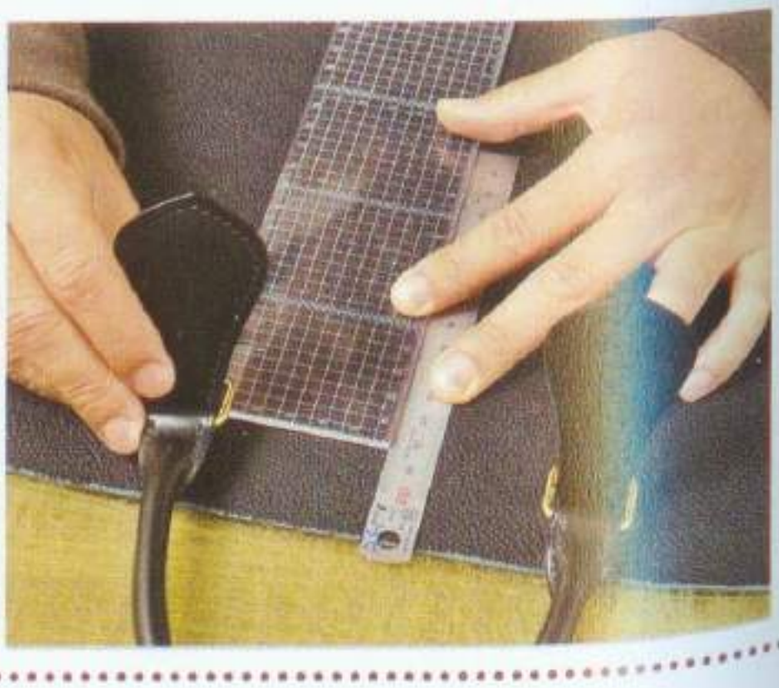
11 根革はずれないよう付ける事が重要だ。そのため、型紙を使い、中心位置を確認、印を付ける

CHECK!

ゴムのりを根革折り返し部と胴に塗り、中心や水平を合わせながら根革を貼る。胴の中心から6cmの位置に根革は来るので、定規を使い改めて曲がっていないか確認する

12

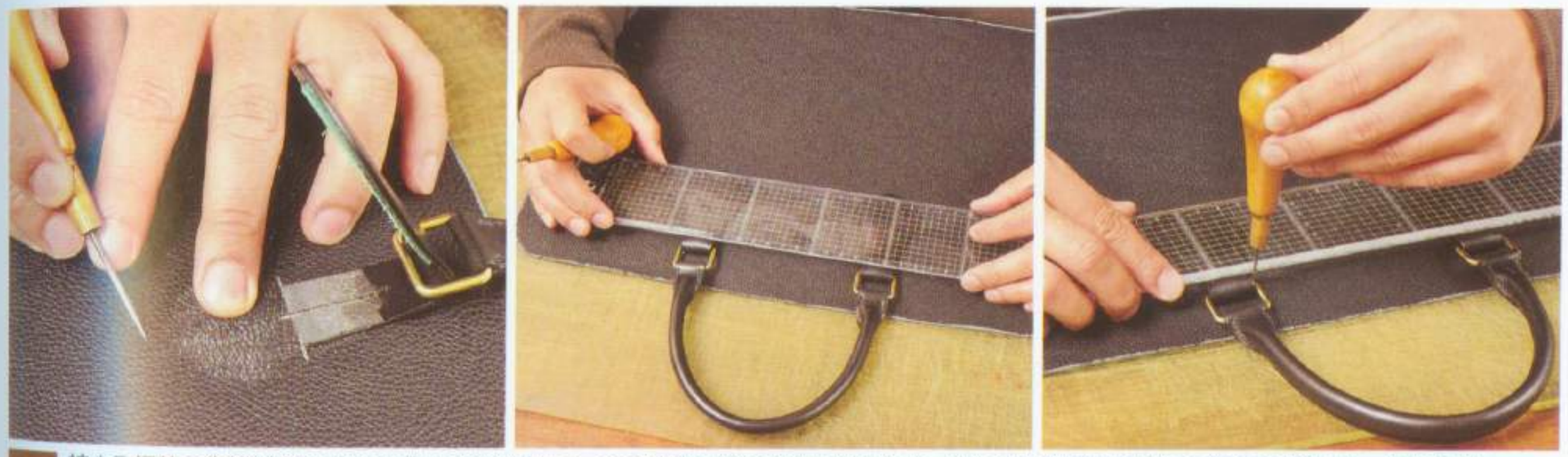




Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



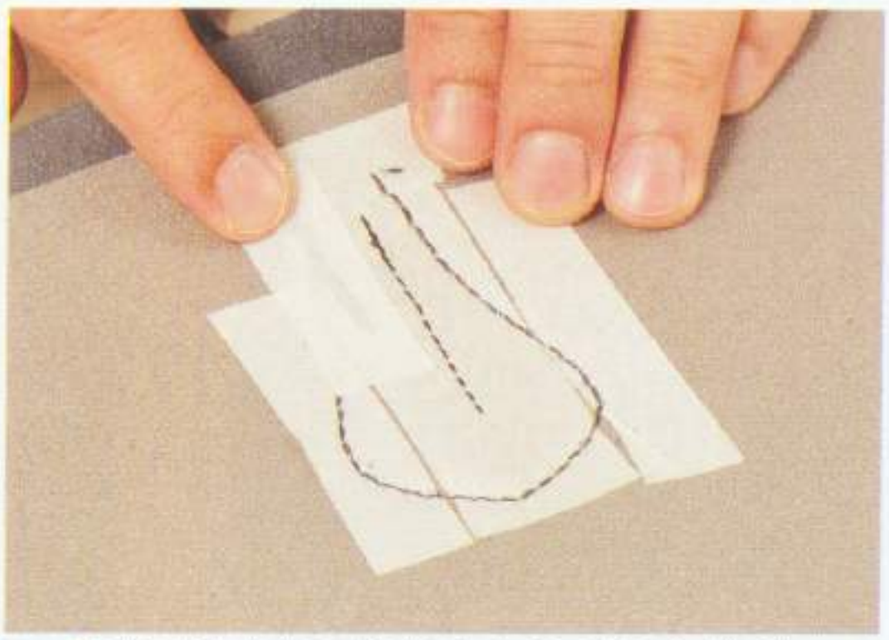
13 根革の中心部を縫うために、目打ちをする。目打ちは根革を付けた部分だけでなく、最終的に上から根革が被さる本体側にも打ち(ここでは本体6穴、根革9穴を開けている)、下側からナイロンの糸(8番を使用)で縫う。上まで縫ったら、3目戻りライターで炙って抜け止めをする



14 被さる根革の先端が来る所に丸ギリで印を付ける。その位置に根革を貼り付けた後、角カン部が左右で平行になるか定規でしっかり確認しておく。僅かなずれでも格好悪くなるためだ。問題なければ、根革の角カン直下の穴に丸ギリを通し、胴にも穴を開け麻糸で縫っていく



15 角カンの直下は、持ち手同様横に2周糸を通してから、丸キリで穴を開けつつ縫いつけていく



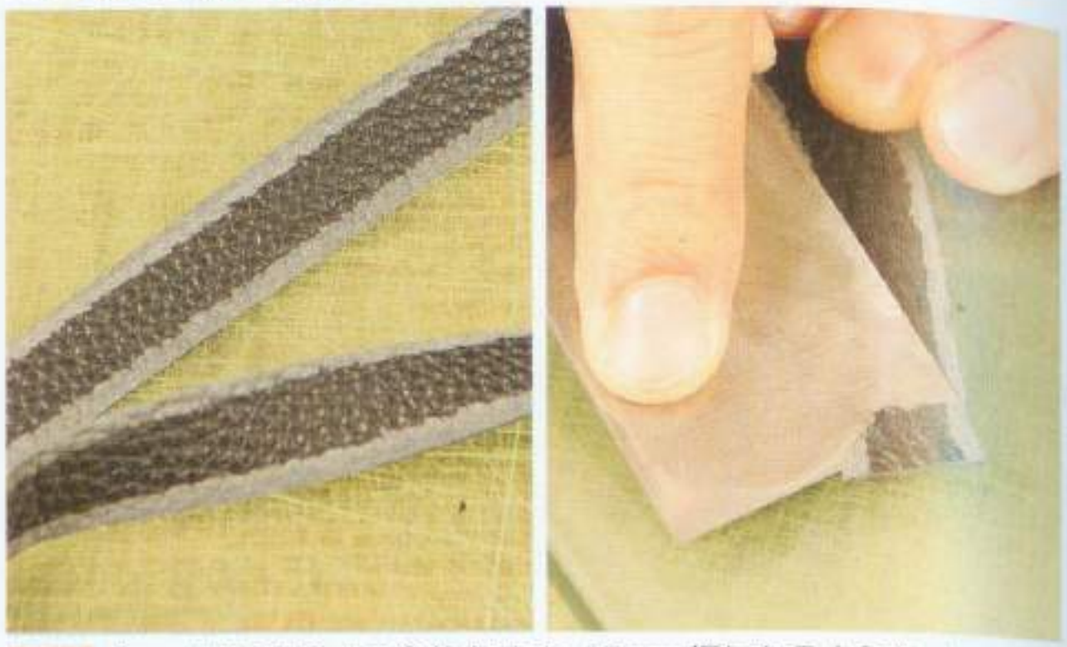
16 縫い終わりも2周糸を回したら、3目戻りボンドで留め、念のため補強テープを貼る

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



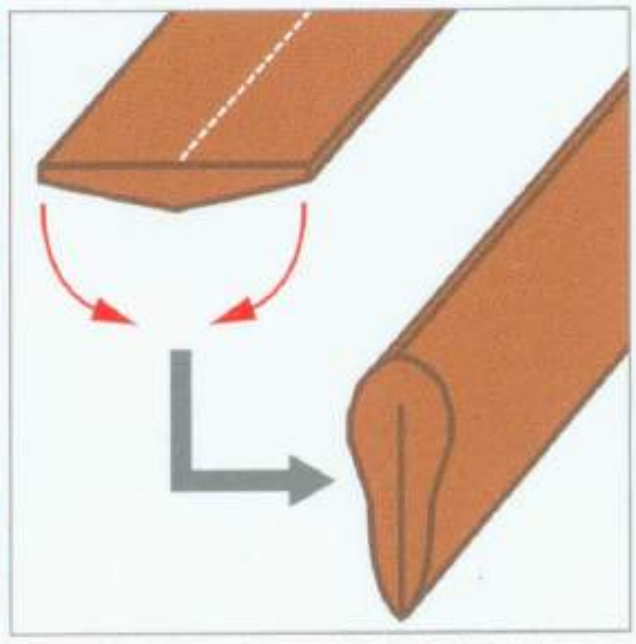
17 縫ったことで化粧ネンの線が消えかけていたので、再度化粧ネンで処理をしておく

●玉縁の取り付け



18 1mm厚になるよう全体をすき、15mm幅になるようカット。銀面の縁を荒らし、一方の端1cm程を半分の厚みにする



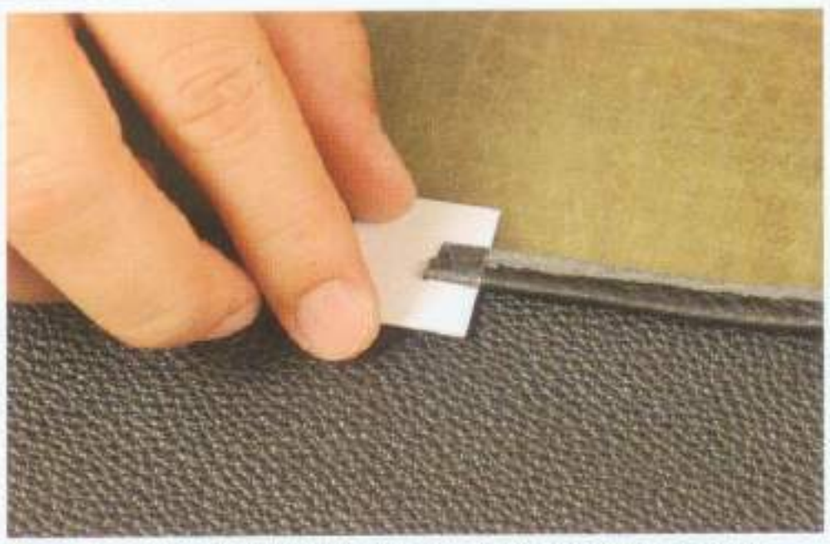


19 断面が逆三角形になるよう床面をすき、一方を少し残して床面中心から折り返して貼る



20 ハンマーで軽く叩いて圧着する。こうすれば断面が涙型の玉縁を作ることができる

CHECK!



21 ノリで玉縁を胴に貼る。玉縁の先端は胴の底中央に置くが、紙を敷き着かないようにする





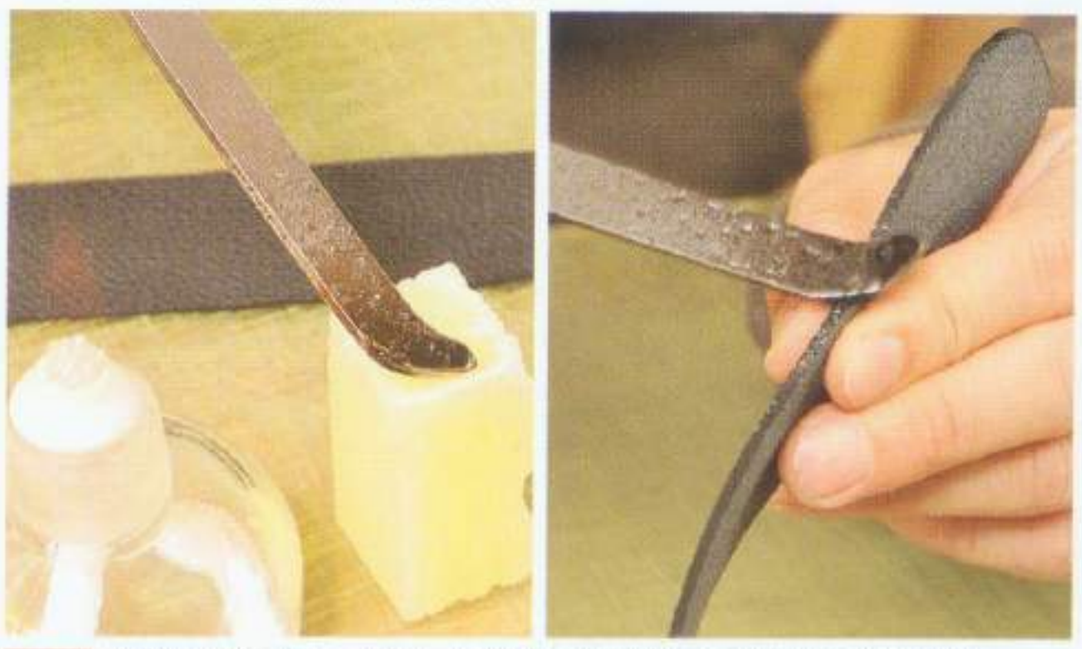
22 玉縁を胴の全周に貼ったら、18で半分の厚みにした部分を定規を使い垂直にカットし、重なる床面を薄くすいていく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

ポケットの製作・取り付け



23 玉縁の先端を後端でくるむように貼り付ける。厚み調整が適切なら、このように段差はでない



24 まずコバを磨く。クロームなめし革なので、ヤスリをかけ染めた後は、溶かした蜜蝋を刷り込み、布で磨くのを繰り返す



25 磨きは通常3回繰り返すが、シュリンク革は5回は磨きたい。磨き終えたら化粧ネンを当てる



26 内張の革に額縁を付ける位置を丸ギリで印たら、ゴムのりを使って貼り付けておく

CHECK!



27 縫い線を付けるのだが、シュリンク革はねじネンを温めないと、線が消えてしまう

POINT



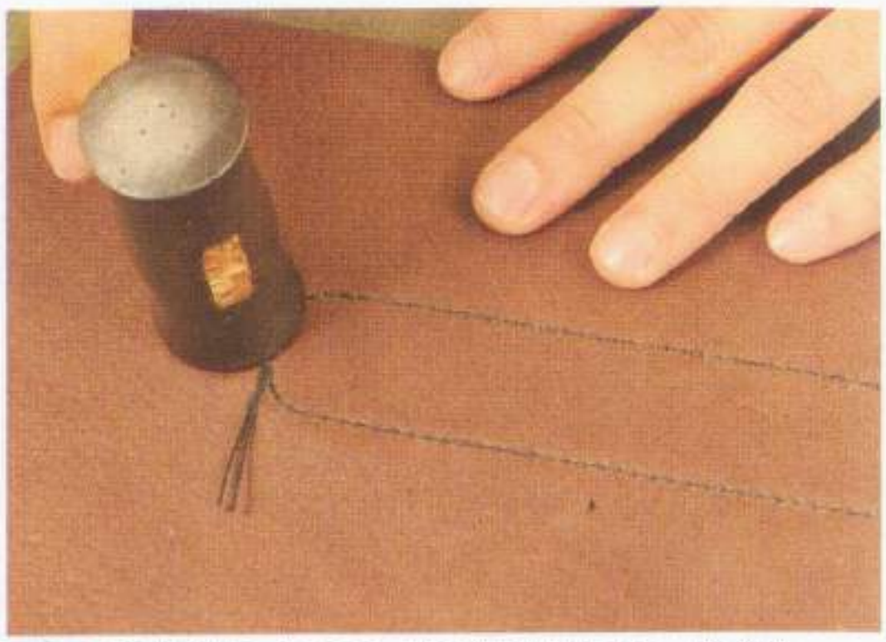
目打ちをする場合、目印程度にするのが理想だが、シュリンク革ではそれが分かりづらいので、しっかり穴を開けてしまう

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

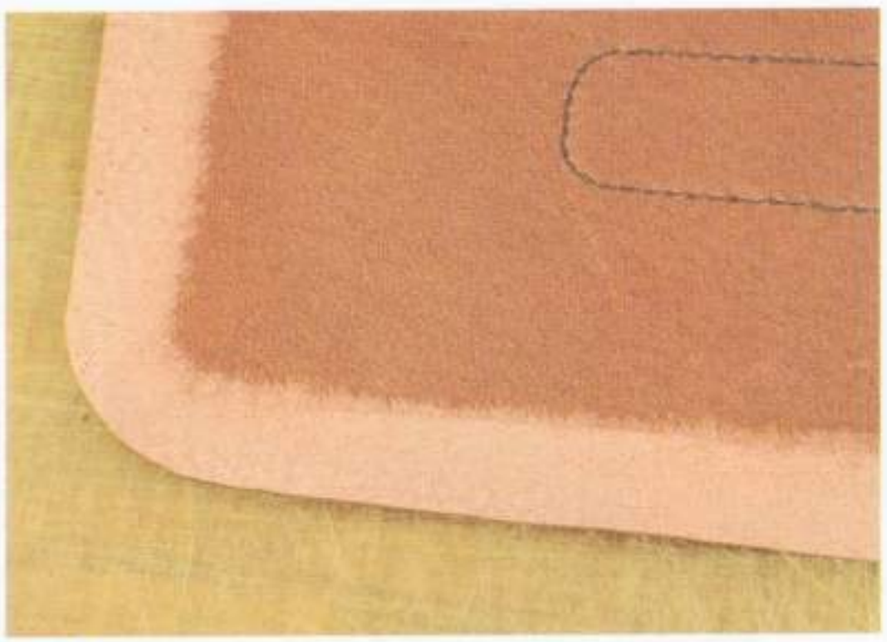
CHECK!



28 額縁を縫う。片側が見えない場合、刺した見える側の針に乗せるように刺すと縫いやすい



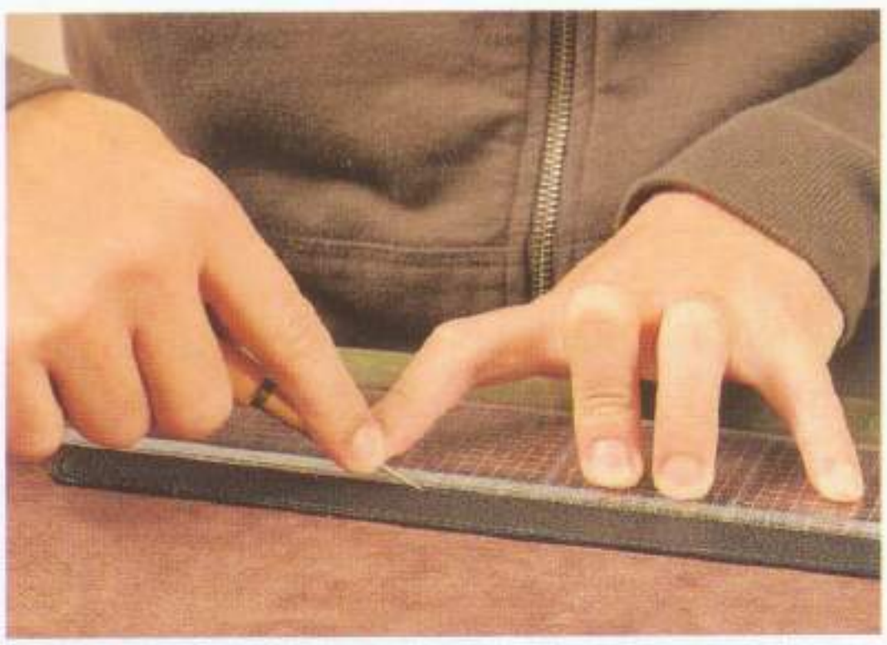
29 麻糸を使ったので、ボンドで固定する。麻糸は糸目が盛り上がるので、叩いて落ち着かせる



30 内張の革も折り返すので、裏側の端2cmほどを先端が0.3mm程になるよう、斜めにすいておく



31 胴の型紙を使い、表側(床面)に中心の目印となるV字の切れ込みを入れておく



32 ファスナーの窓を開けていく。まずは型紙にある四隅の点を打ち、それを定規で繋ぐ

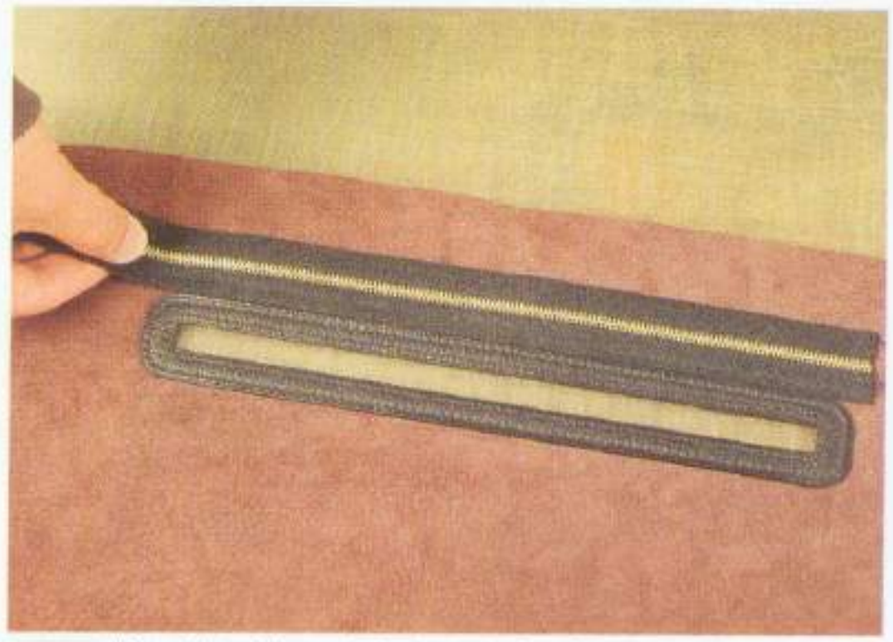


33 長い辺は革包丁を使い、短い辺は突きのみを使って、内張の革ごと額縁の革を切り、幅10mmの窓を開けていく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

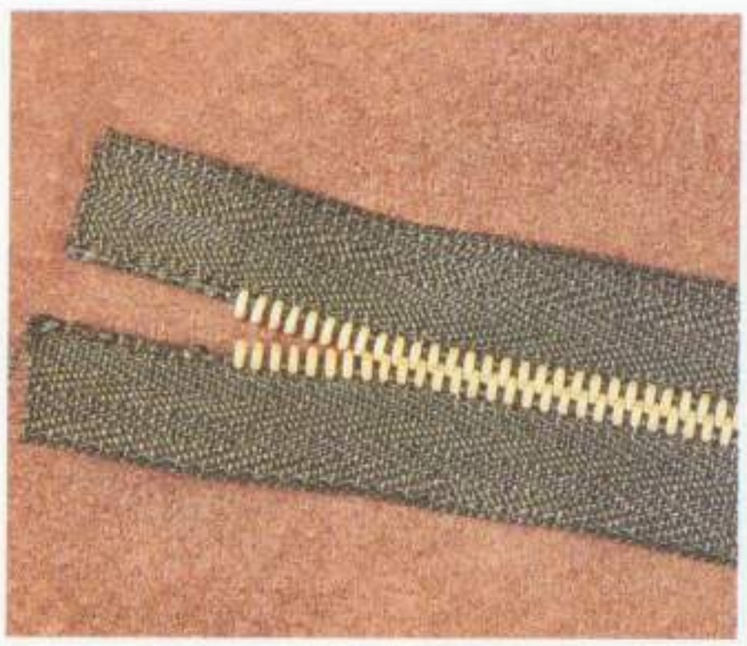


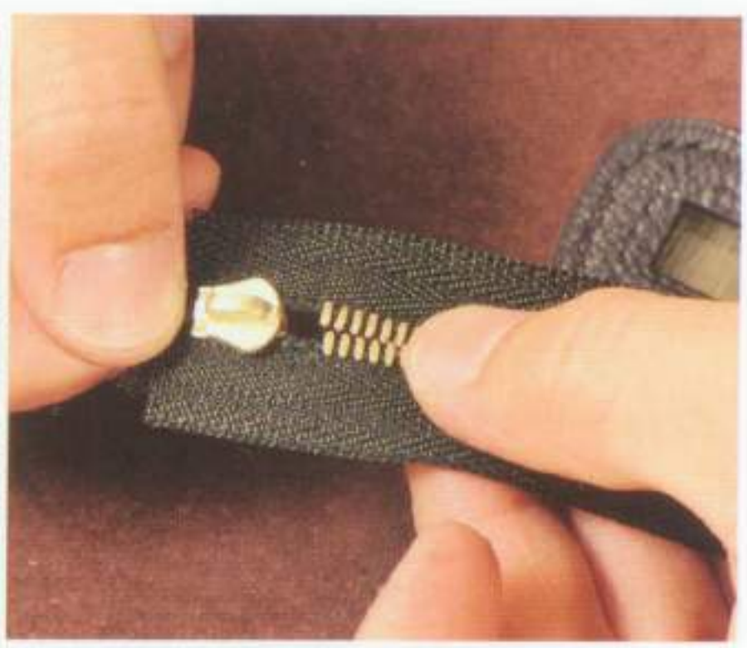
34 額縁の内側のコバも磨いたら、化粧ネンを当てる。その後、3~3.5mm幅で縫い線を入れる



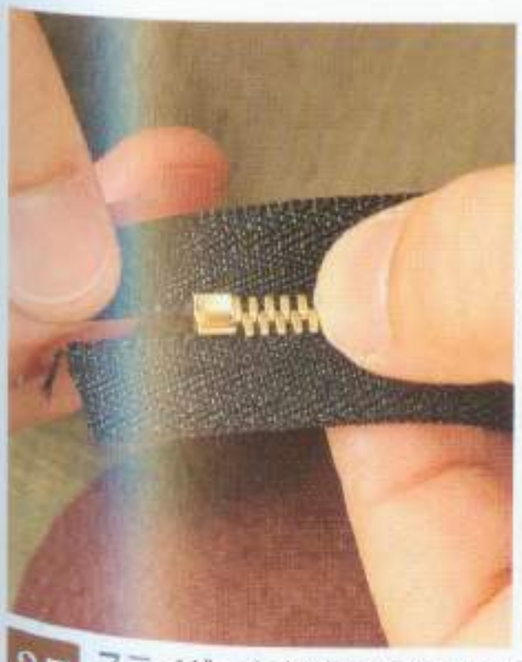
35 縫い線に沿って目打ちしたら、額縁より少し長めにファスナー(幅約5mmの3号)をカットする

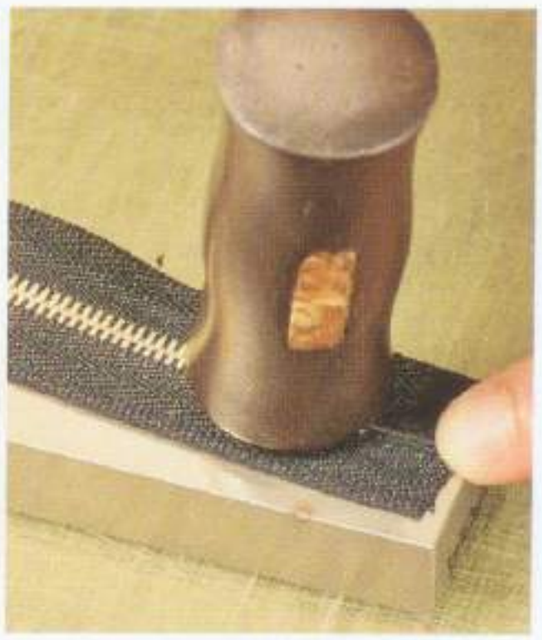






36 スライダーを入れるために、金具(ムシ)を何個か外す。テープ(布)の先端と喰い切りの歯が一致した位置でムシを挟むと、綺麗に外すことができる。写真の程度ムシを外したら、先端が広い方を先に向けて、スライダーをファスナーに通していく





37 スライダーを前方にずらしたら、うしろ止め(H止め)をムシの端にセットし、ハンマーで軽く叩いてかしめ、固定する



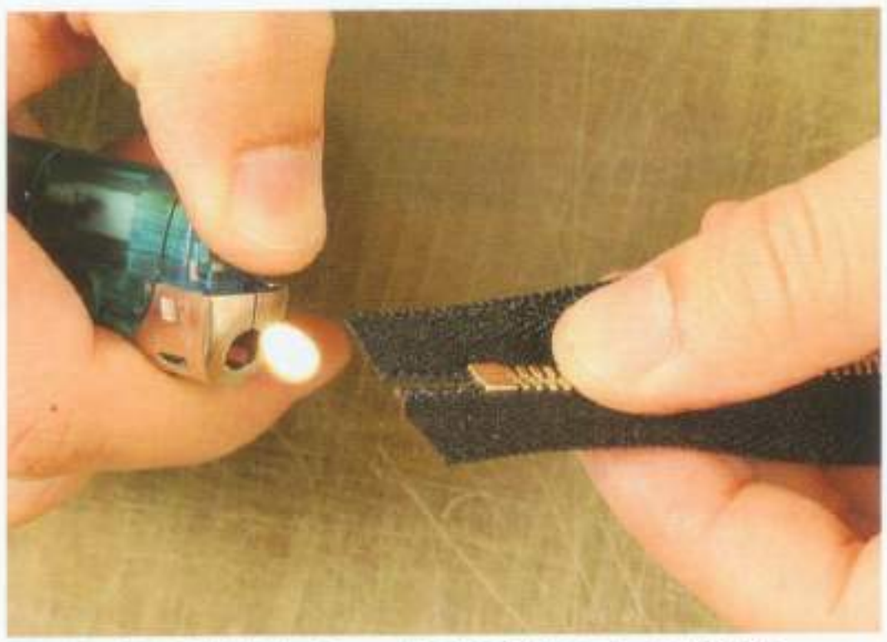
38 ファスナーを額縁に合わせる。先ほど取り付けたうしろ止めが窓ギリギリにくるようにする

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



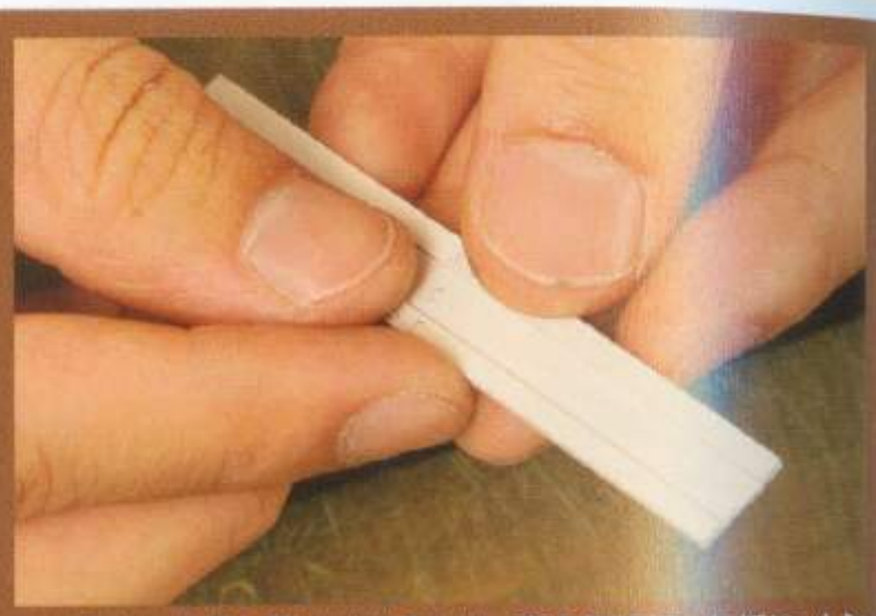


39 ファスナーが閉じる方向にスライダーを動かした先のまえ止めは、左の写真のような小さな物になる。このまえ止めが窓ギリギリの位置になる部分のムシにペンで印を付けたら、それより先のムシを外し、まえ止めをテープを挟むようにして付けハンマーでかしめる

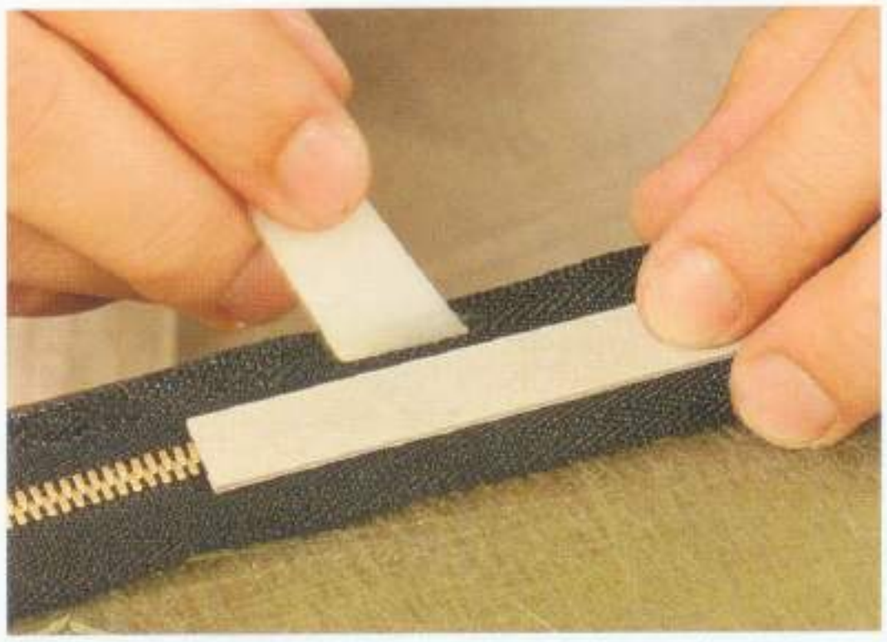


40 うしろ止めから1cm程度を残してテープを切り、端がほつれないようライターで炙る

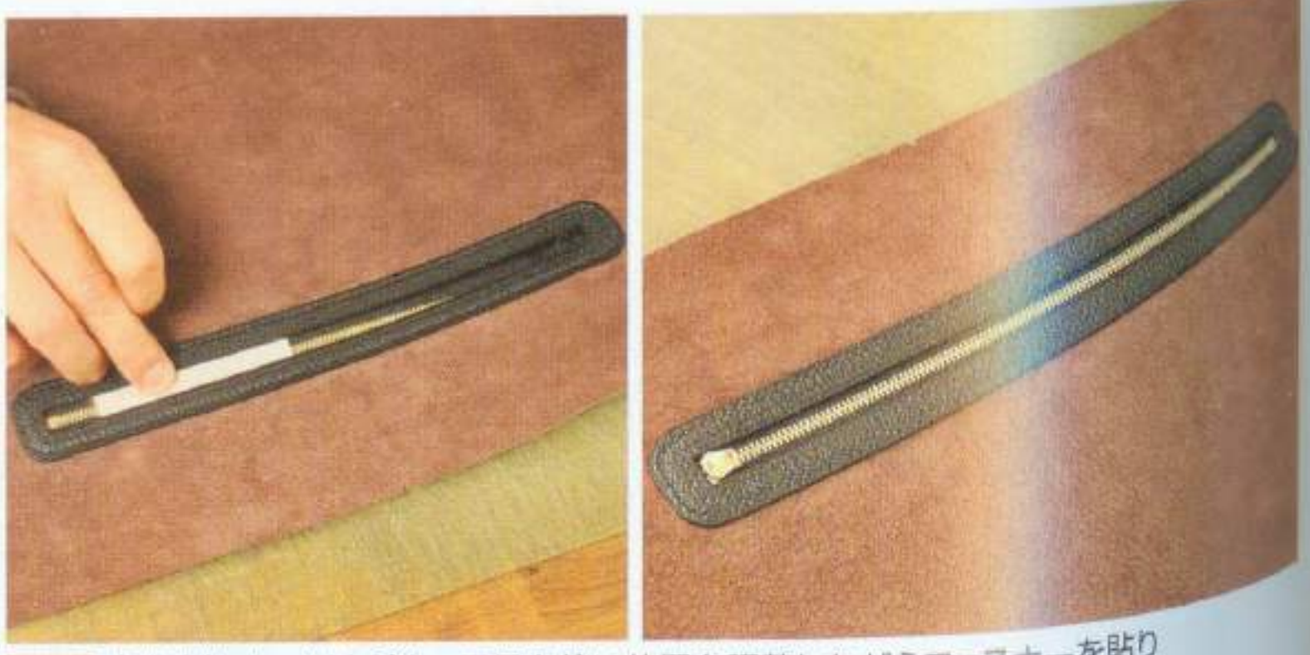
POINT



ファスナーを真っ直ぐ付けるため、窓の幅に切った紙に、ムシと窓の間分の幅(2.5mm)の紙を貼った自作工具を使用する



41 まずは自作工具をファスナーの金具の上に置き、隠れない部分にゴムのりを塗っていく



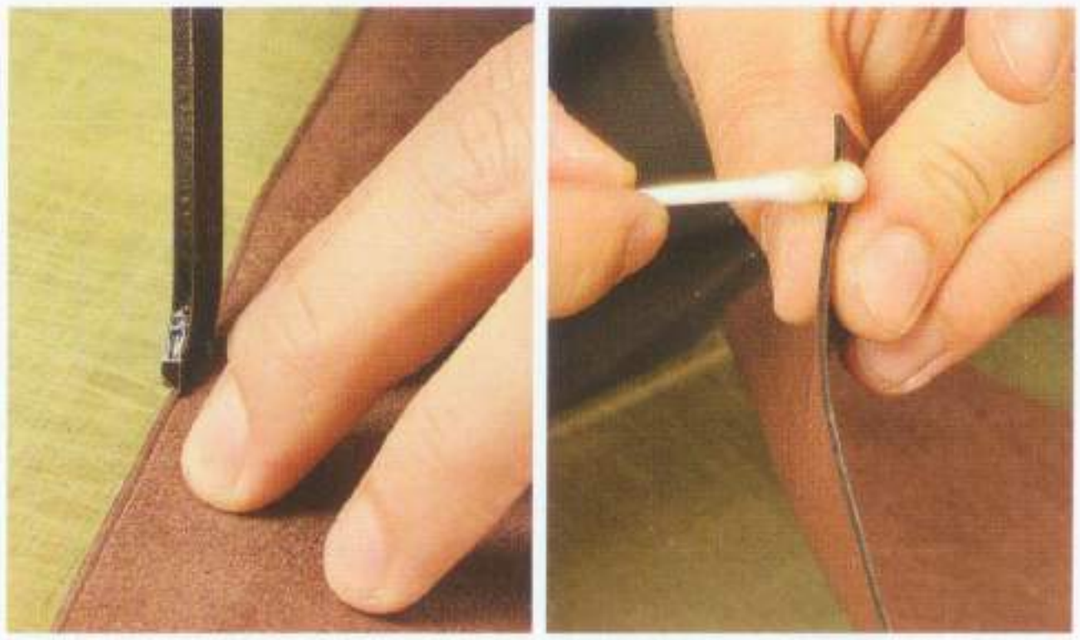
42 額縁側にもノリを塗り、工具を使い位置を調整しながらファスナーを貼り付ければ、ファスナーは真っ直ぐ、額縁の中央に貼り付けることができる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!



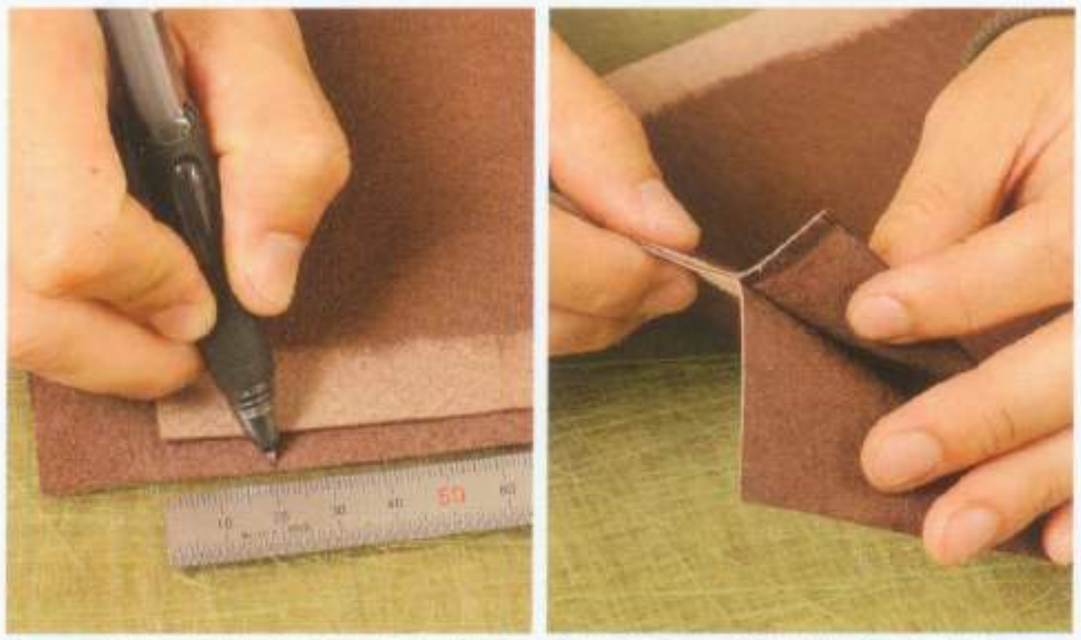
43 ポケットの革は、奥側が額縁の上側、手前側が窓の下端にくる高さにする(幅は同じ)



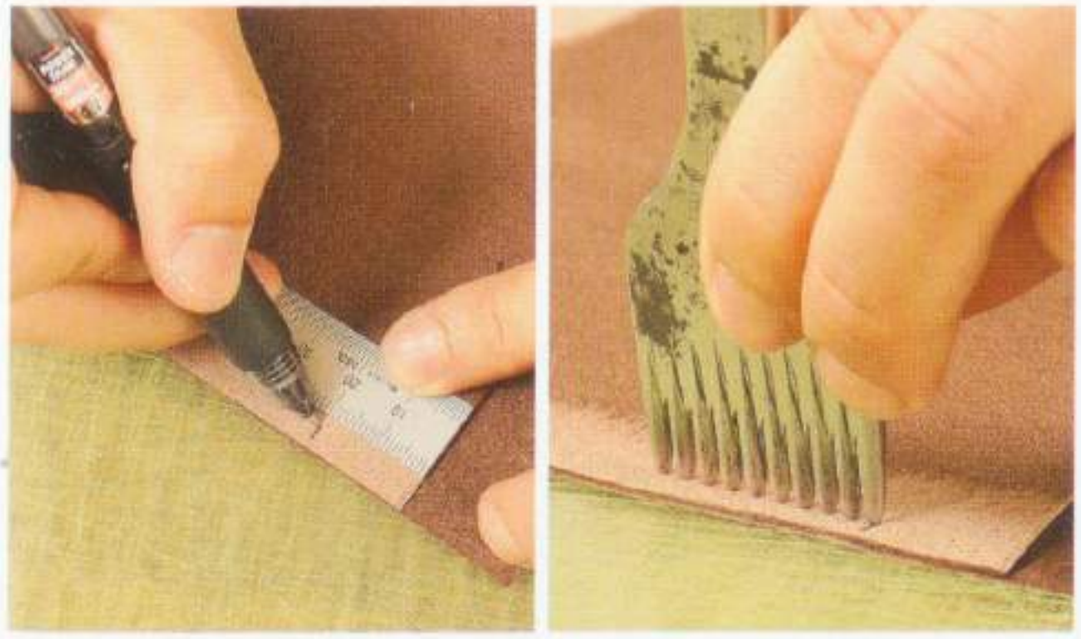
44 手前側の革の上端、ファスナーを開けた時に見える部分のコバのみ、化粧ネンを当て磨く(ふのりを使う磨き方で)



45 今回の革は厚く、表に響く可能性があるので、弱くならない程度に縁の部分をすいておく



46 2枚の革を合わせ、短い側の上辺から2cmの部分を除いて縁にゴムのりを塗り、ポケットの革を貼り合わせる

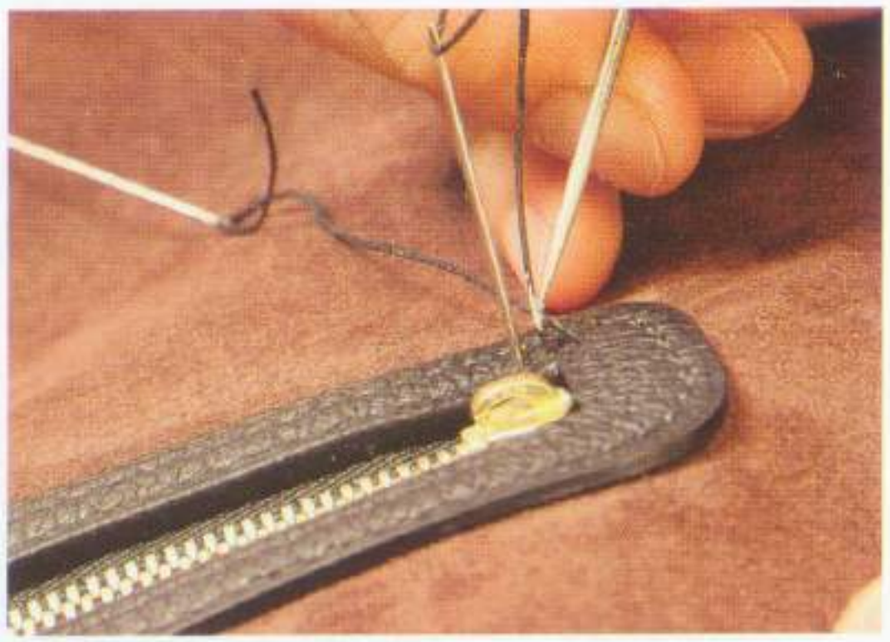


47 先ほど貼り付けなかった位置が分かるようペンで印を付け、そこから下を目打ちし、縫い合わせる



48 自作工具を使い、ポケットの短い方の革を、ファスナーギリギリの位置にのり付けする

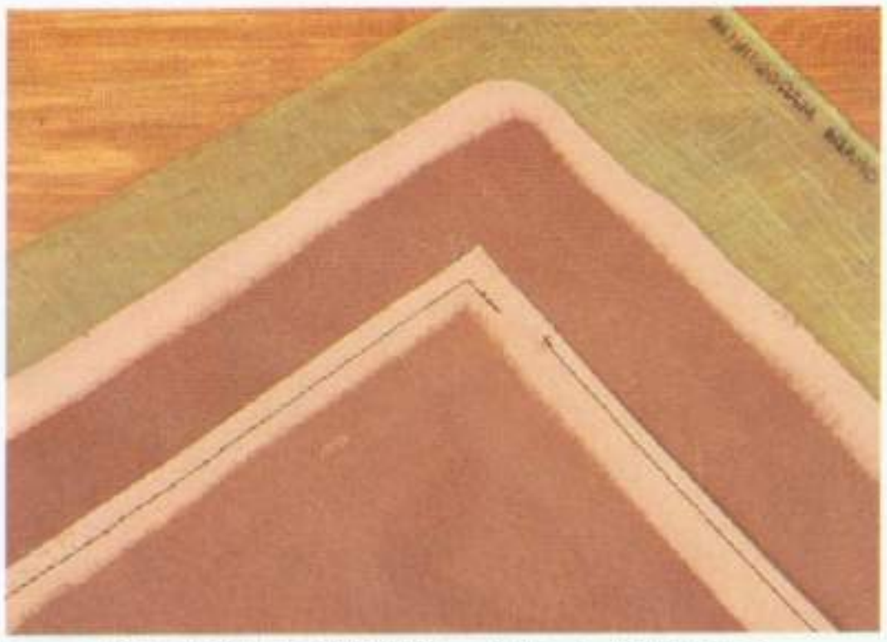
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



49 窓の下辺を縫い額縁とポケットを合わせる。テープが傷むのでポケットの目は丸ギリで開ける



50 ファスナーの上側に残ったポケットの革をのり付けする。金具にのりが付かないよう注意する



51 窓の上辺と短辺を縫い、ポケットを固定する。糸(麻布)を固定したら叩いて糸目をならす

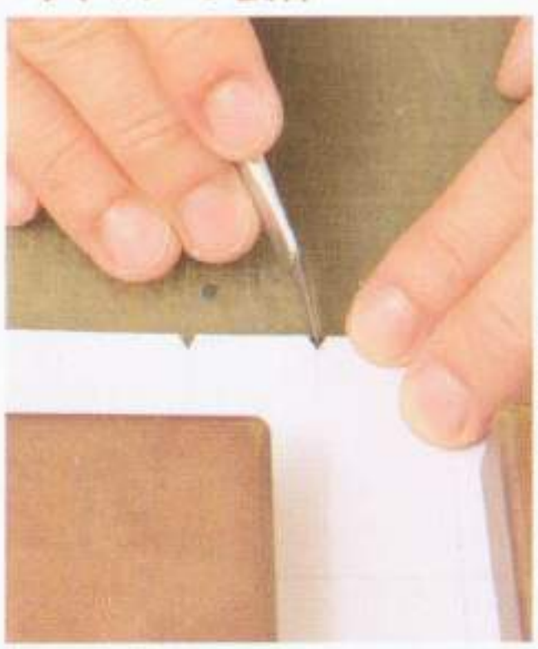


52 きちんと作ることができれば、このような美しい仕上がりを得ることができる

マチの製作

胴のパーツの製作が終われば、主要部品の製作はマチを残すのみです。ただし、長いファスナーが着く玉縁のマチですから、一筋縄ではいかないのが事実です。長さや厚みの調整をしっかりしておかないと、胴と合体させ、裏返していった際に、形が大きく崩れてしまう可能性があります。作業の進め方はもちろん、なぜそうしているのかを充分把握することが、重要になってきます。

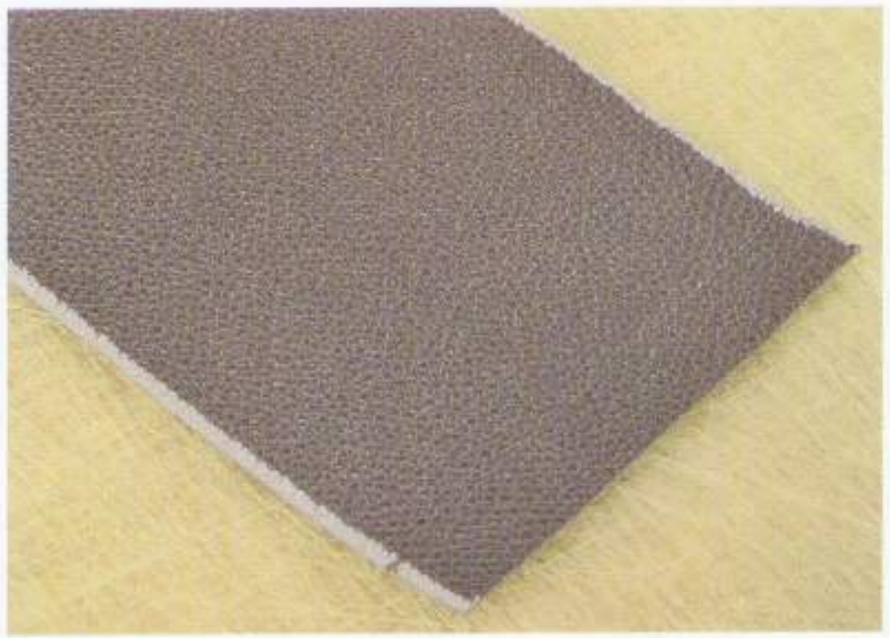
●天マチの製作





1 型紙にある折り目の印を革に刻み、マチの端2～3cmと、底マチと天マチが重なる端の部分を、同じく2～3cmの範囲ですいておく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



2 型紙にある窓の四隅の印を丸ギリで移し、その点を定規を使って結び、つまみの着く線も印す



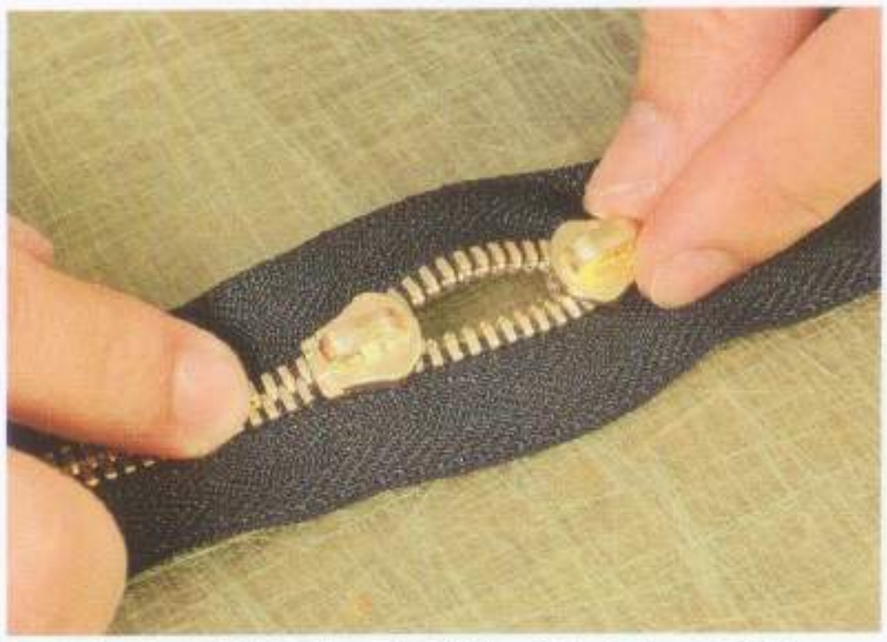
3 2で付けたラインに従って、革包丁で窓の部分の革を切り取ってしまう



4 ファスナーを付けると細工ができなくなるので、窓の部分のコバに紙ヤスリを掛け、染料で染め、蜜ロウを塗り込んで磨く工程を繰り返し磨いておく。化粧ネンも当てることになるが、銀面、床面共に当てること。なお、マチの銀面の端は、後にのり付けするので表面を荒らしてある



5 天マチより少し長めにファスナーをカットする。使用するファスナーは6mm幅の5号である



6 ムシを適宜取り、スライダーを入れる。マチでは両端からダブル用スライダーを入れていく

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



7 一方の端にストッパーをかしめたら、窓にファスナーを当て、端に来る部分に大まかに印を付ける。それから窓の幅12mmの5号ファスナー用自作工具を滑らせ、ファスナーを正しい位置に真っ直ぐに整列させる。すると端の位置が正確に割り出せるので、不要なムシを取り除く



8 もう一方の端にも、大きいストッパーを取り付け、余分なテープを切り、炙ってほつれ止めする



9 温めたねじネンで3.5mmの位置に縫い線を付け、菱目打で菱目を打っていく





10 自作工具を使いながら、窓に対して真っ直ぐにファスナーをゴムのりで貼り付けたら、ハンマーでリボンを叩いて圧着させる

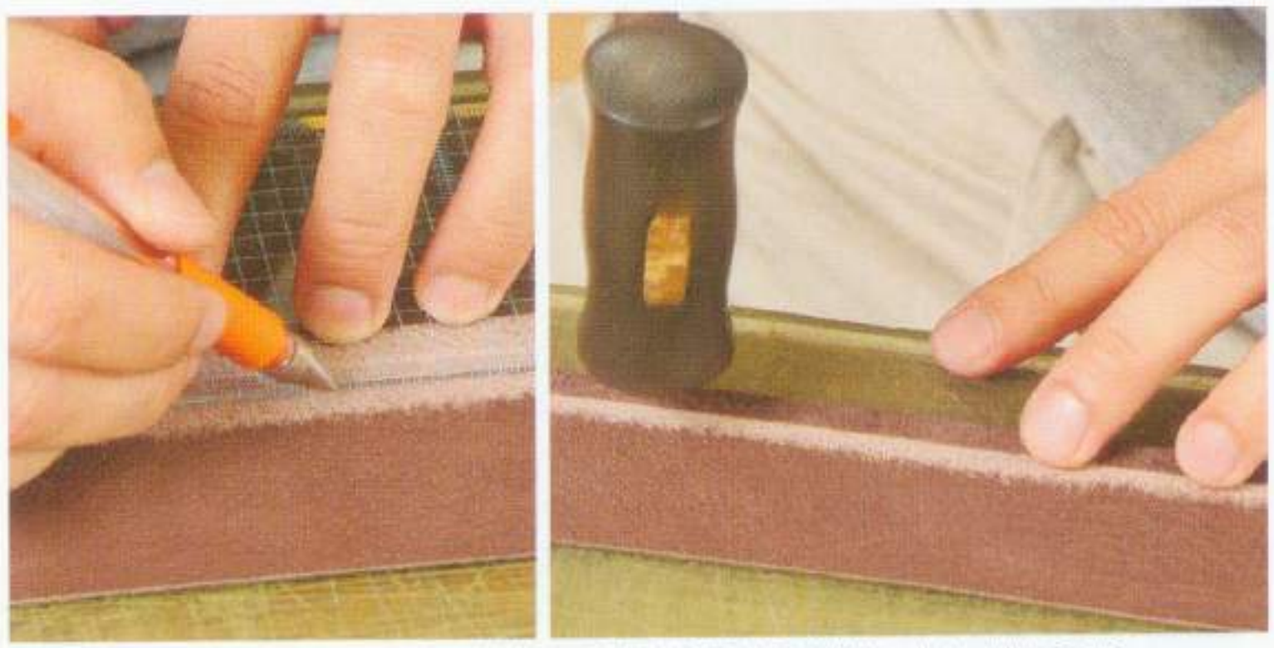


11 天マチ用の型紙を使い、それより2〜3mm大きくなるよう、内張用の豚革を裁断する

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



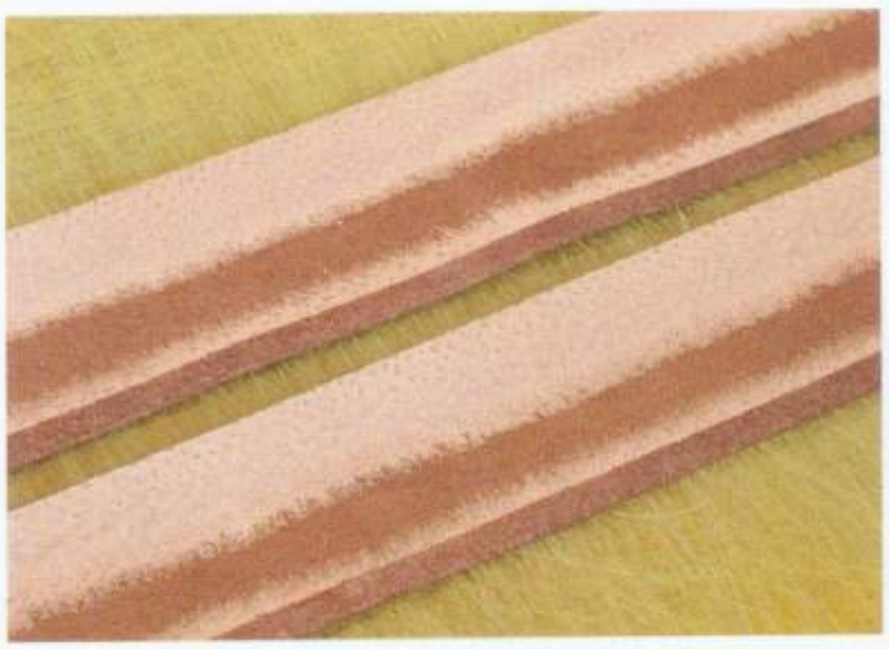
12 型紙を縦に半分に折ったら、その中心線(折った線)に沿って、内張の革を2分割する



13 切った側から2cm程度を先端ほど薄くなるよう斜めにすき、端から12mmの位置に線を引き、それに合わせて縁を折って貼り、叩いて圧着する



14 こうして折ることで、コバの処理が不要になる。仕上げに折った部分に化粧ネンをあてる



15 天マチに貼った際に厚みが出るのを避けるため、裏側を写真のようにすく(薄い皮なら不要)



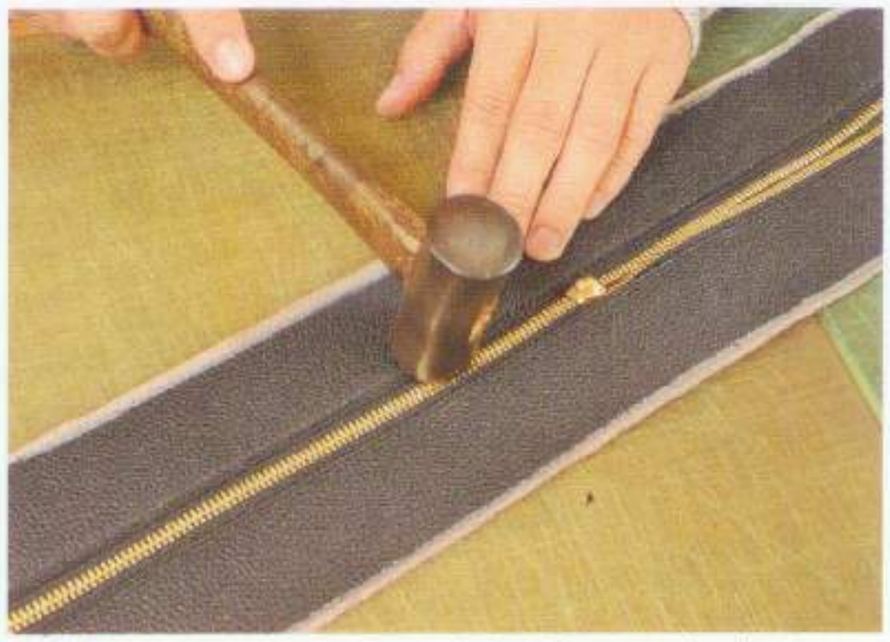
16 自作工具を使い、ファスナーギリギリの所までゴムのりを塗り(他の部分同様、内張側にもゴムのりを塗ってある)、先ほど製作した内張を、自作工具を使いながら真っ直ぐに貼り付ける。手で押しつけただけでは着きが悪いので、ハンマーで叩くことによって圧着させる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!



17 内張に菱目は打っていないので、テープを傷めぬよう丸ギリで穴を開けつつ窓を全周縫う



18 天マチのファスナーは麻糸で縫っていく。他の麻糸使用部同様、叩いて糸目を落ち着かせる



19 天マチと内張の革は、端を写真のように曲げてくせを付けてから、お互いにゴムのりを端の部分のみに塗布して、貼り付ける。貼り付けた革は指でしっかり押しつけるが、やっとこで挟んで圧着させても良い。貼り付けたら、マチからはみ出ている内張はカットしておく

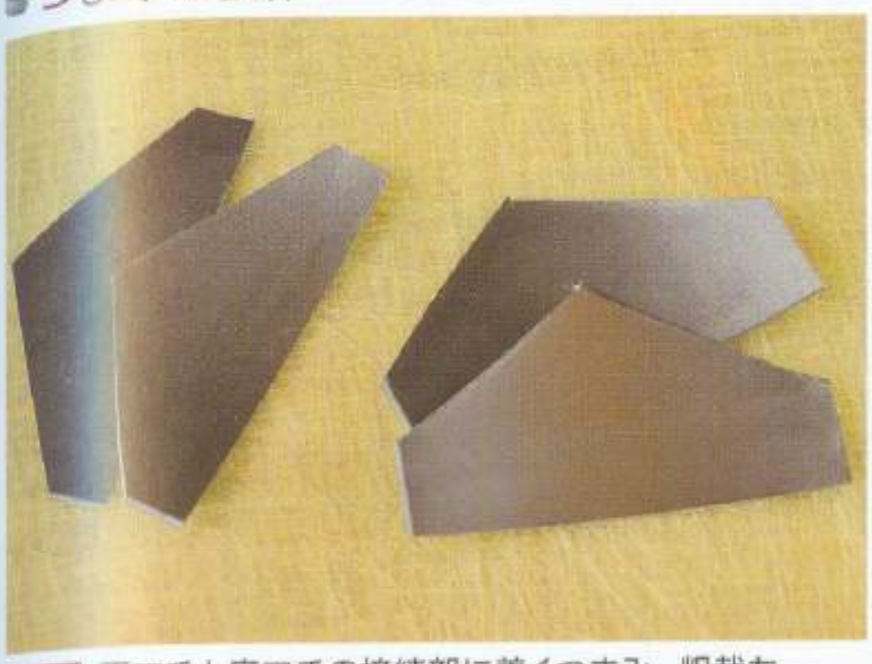


ファスナーと内張の取り付けが完了した天マチ。胴と縫い合わせる両端の部分が曲げられているのが分かるだろう

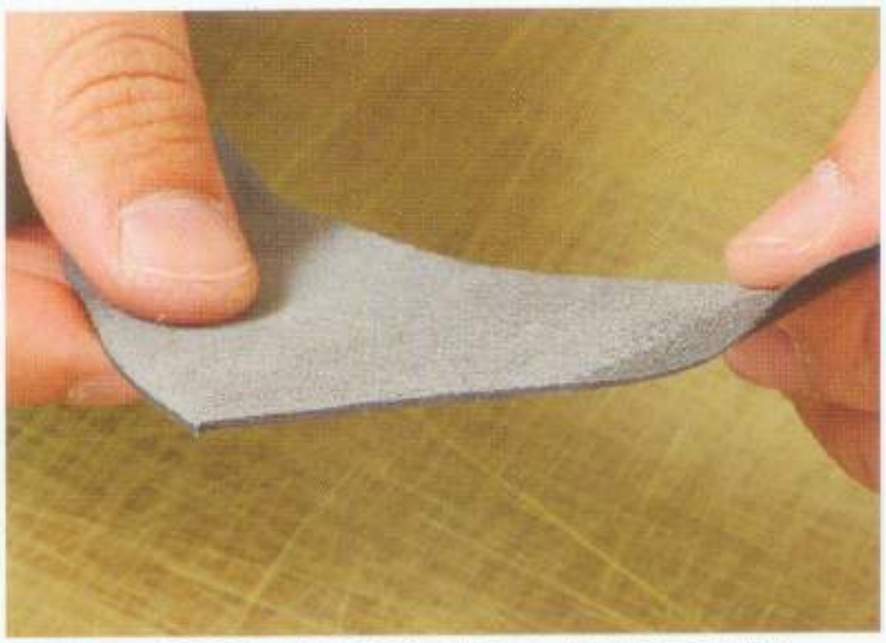
20

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

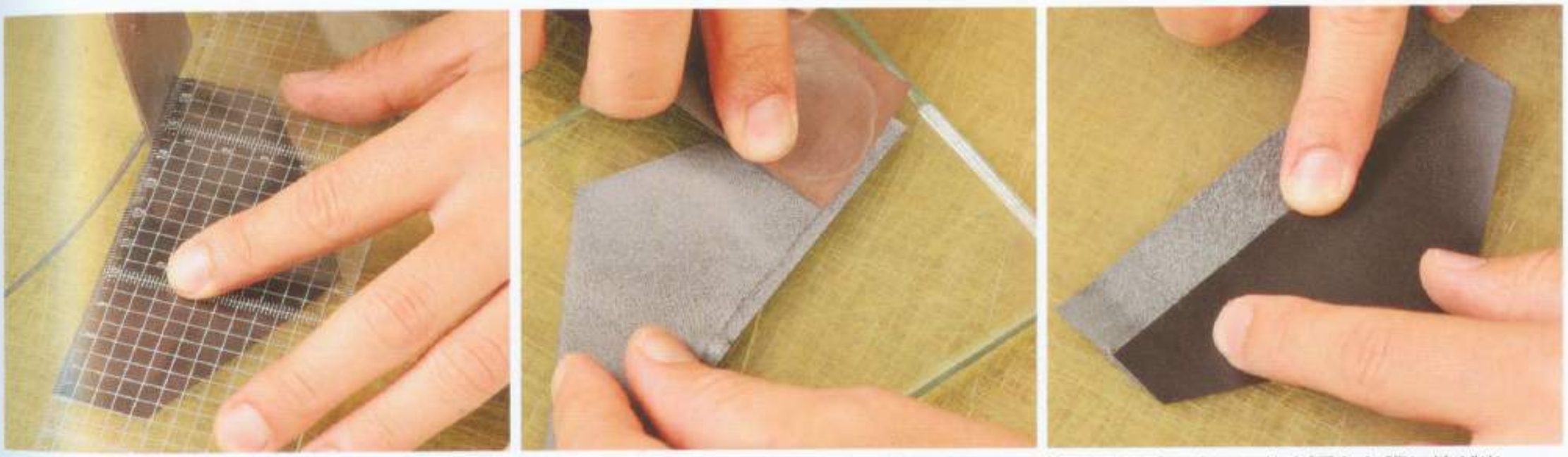
つまみの製作



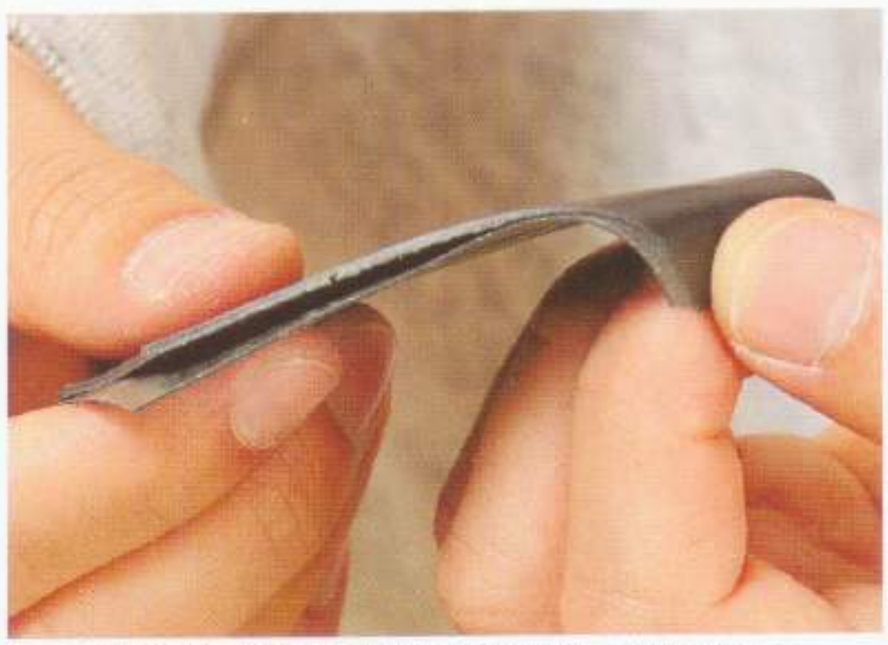
21 天マチと底マチの接続部に着くつまみ。粗裁ちした後、表革0.7mm、裏革0.4mm厚にすく



22 つまみの両端は折り返すので、先端の厚みが限りなく0になるよう、斜めにすいておく



23 表、裏共に基準となる線を出すために定規を使い長辺をカットしたら、その線の部分が限りなく薄くなるよう、すいておく(重ねた際に線が出ないようにするため)。それから表革の基準線より1.5cm下に、裏革を置く



24 端の部分を裏革の方に折り曲げ、くせを付けてから表と裏の革をゴムのりで貼り付ける

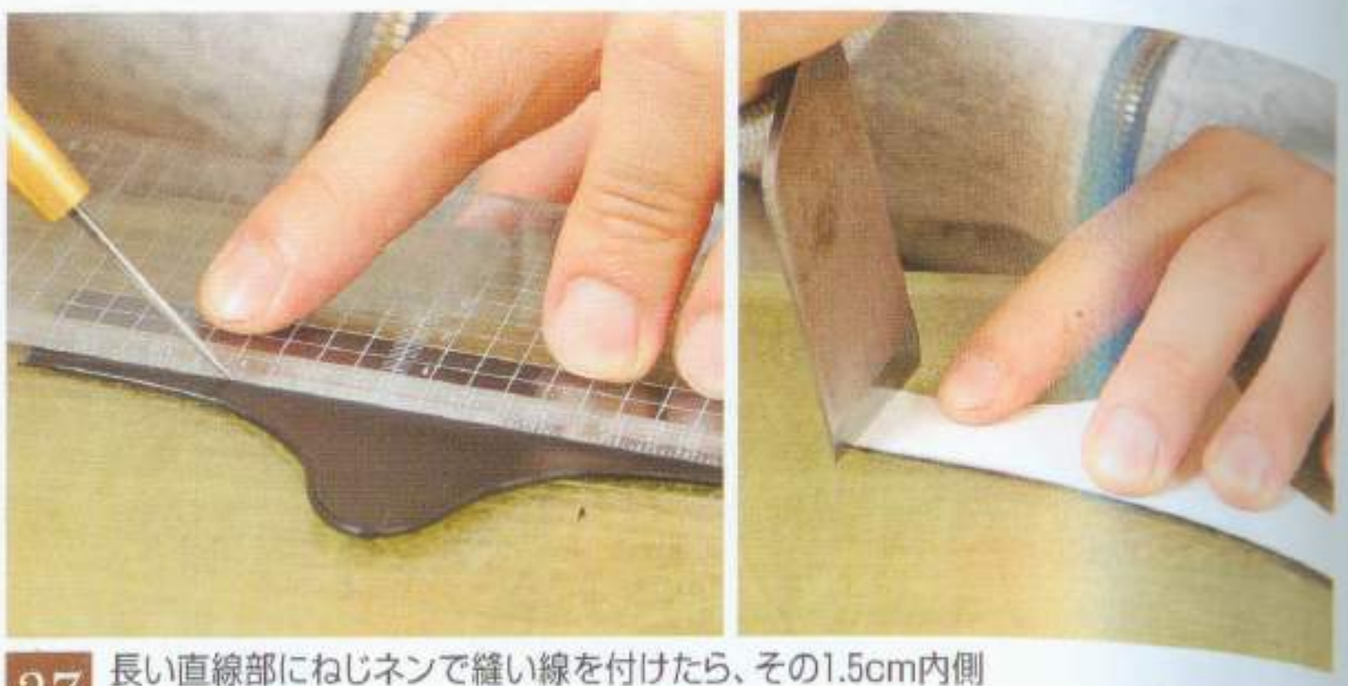


25 つまみ用の型紙と丸ギリを使って、革に正確な形をけがき、それに添ってカットする

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



26 左右の短い直線部分を除き、ふのりを使いコバを磨き、化粧ネンを当てておく



27 長い直線部にねじネンで縫い線を付けたら、その1.5cm内側に丸ギリで縫い線を印したら、余分な側面をカットする



28 曲線部もねじネンで縫い線を付けたら、目打を使い分けながら、縫い線を付けた部分に菱目を打っていく。曲線部の目打ちは、先端の飛び出た部分に菱目が来るよう、目打ちする位置を調整する。曲線部の端1cmほどは、右の写真のように目打ちしないでおく



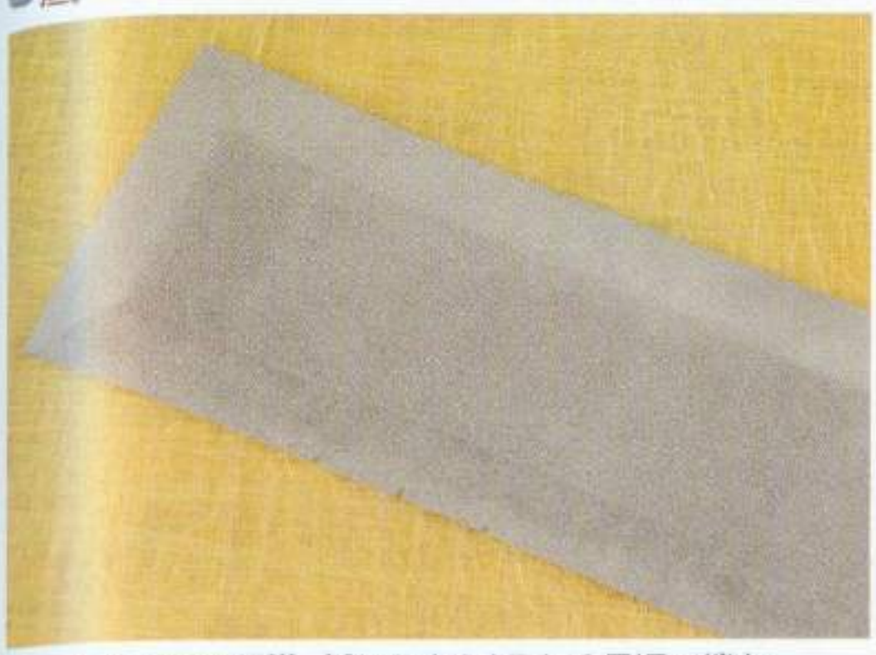
29 つまみの曲線の部分のみ、麻糸を使って縫う。糸はボンドで留め、叩いて目を落ち着かせる



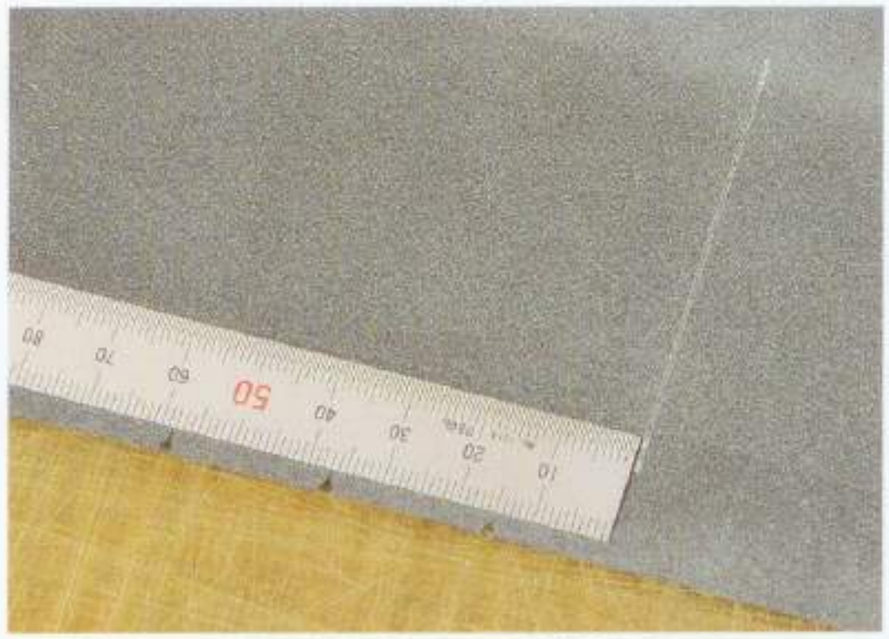
30 下準備が完成したつまみ。同じ工程を繰り返し、2つ同じ物を作ることになる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

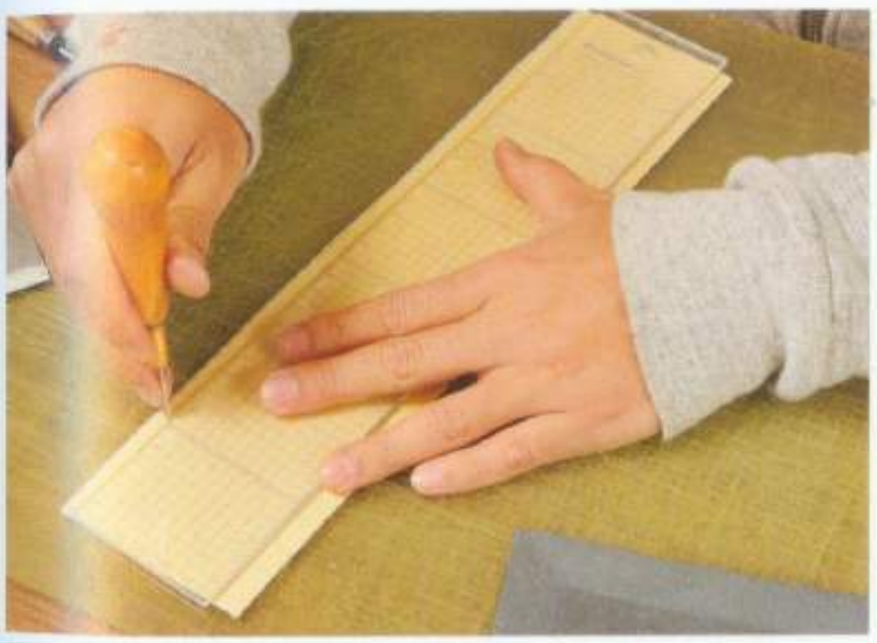
底マチの製作



31 天マチと同様、折りやすくするため長辺の端を、厚みを減らすために短辺を2〜3cm幅ですく



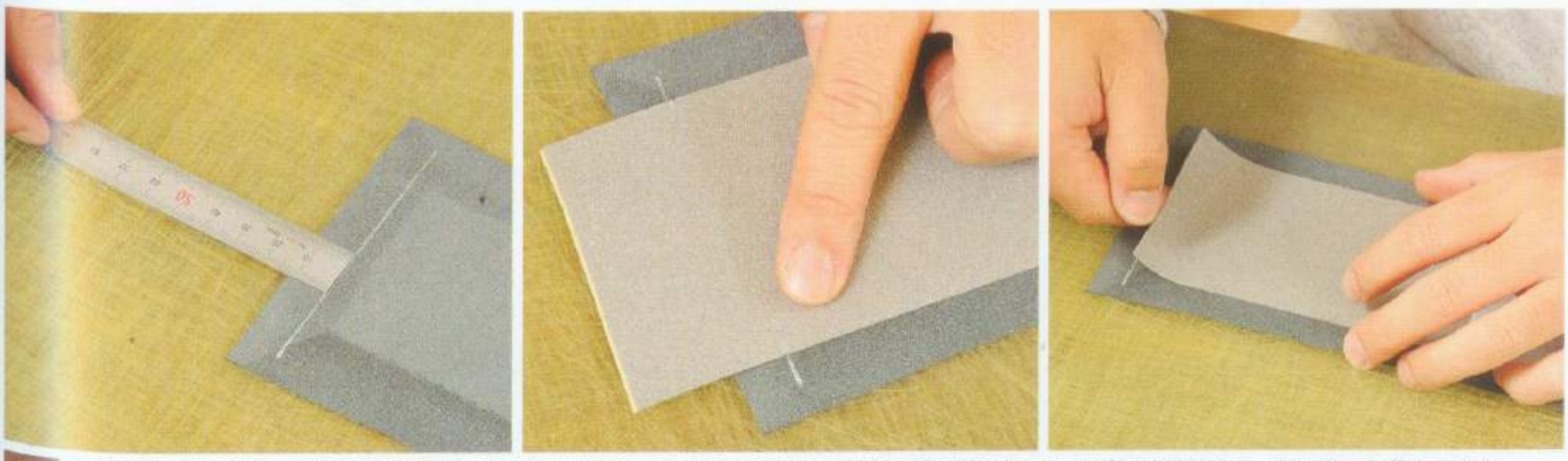
32 底のRを示す切れ込みの一番内側から、1.5cm内側にペンで垂直に線を入れる(左右とも)



33 底マチより約2cm幅狭で、長さは32で入れた線の間隔になるよう、約1mm厚の芯材を切る



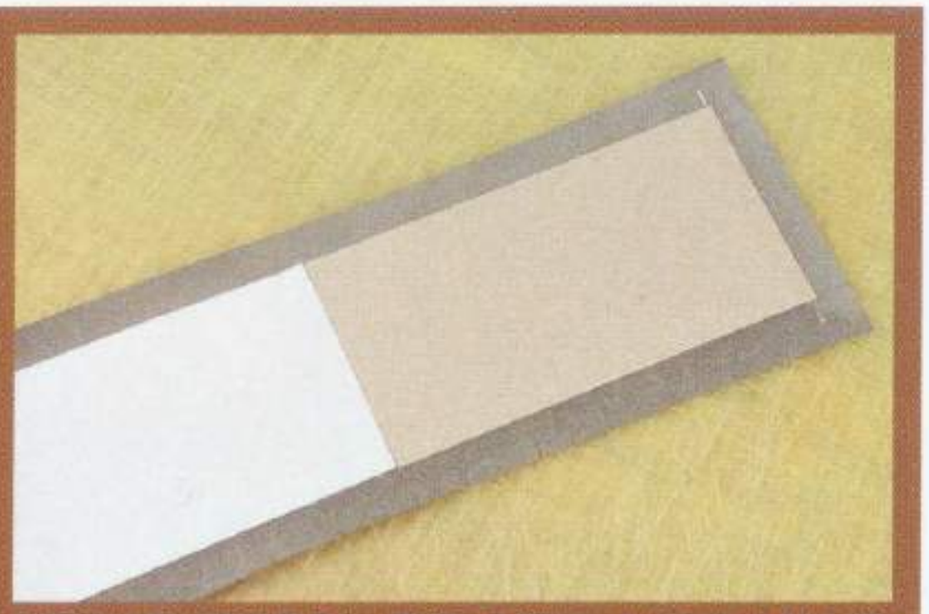
34 32の線に合わせ、マチの中心に芯材を何回かに分け少しずつ貼っていく。貼り終えたらローラーで圧着させる



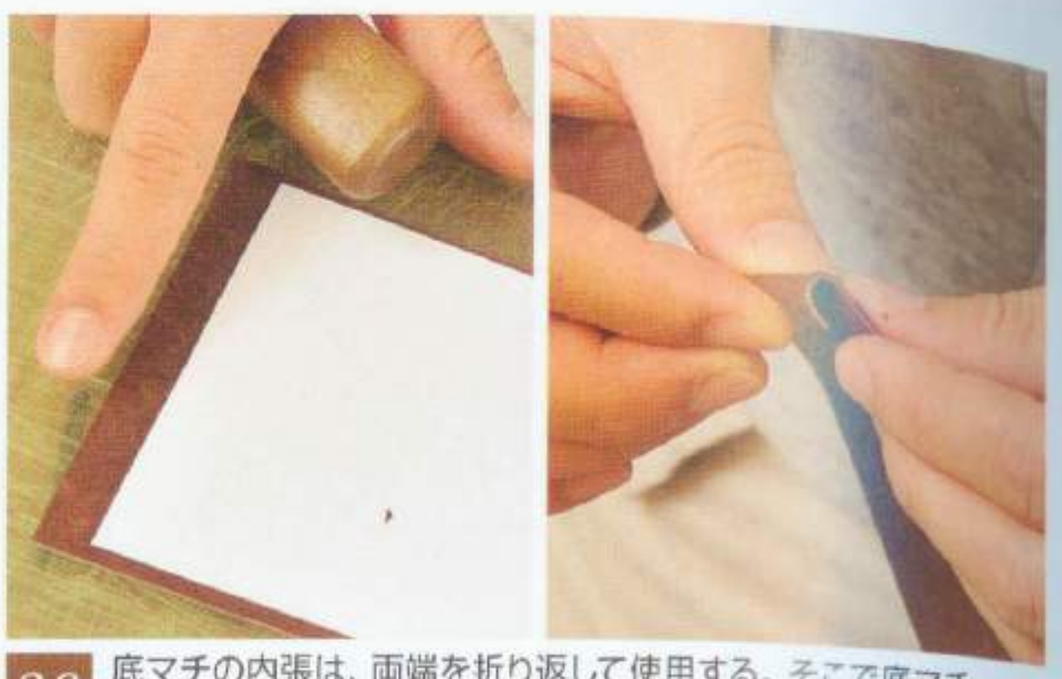
35 短辺のコバから1.2cmの所に印を入れ、この線と先に貼った芯材との間に、芯材と同じ幅に切ったスポンジ芯を貼る。胴に貼った物と同じなので、伸びないよう少しずつ貼っていく。このスポンジ芯は入手が難しく(34で貼った物は入手が容易)、これも服地屋に特注した物だ

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

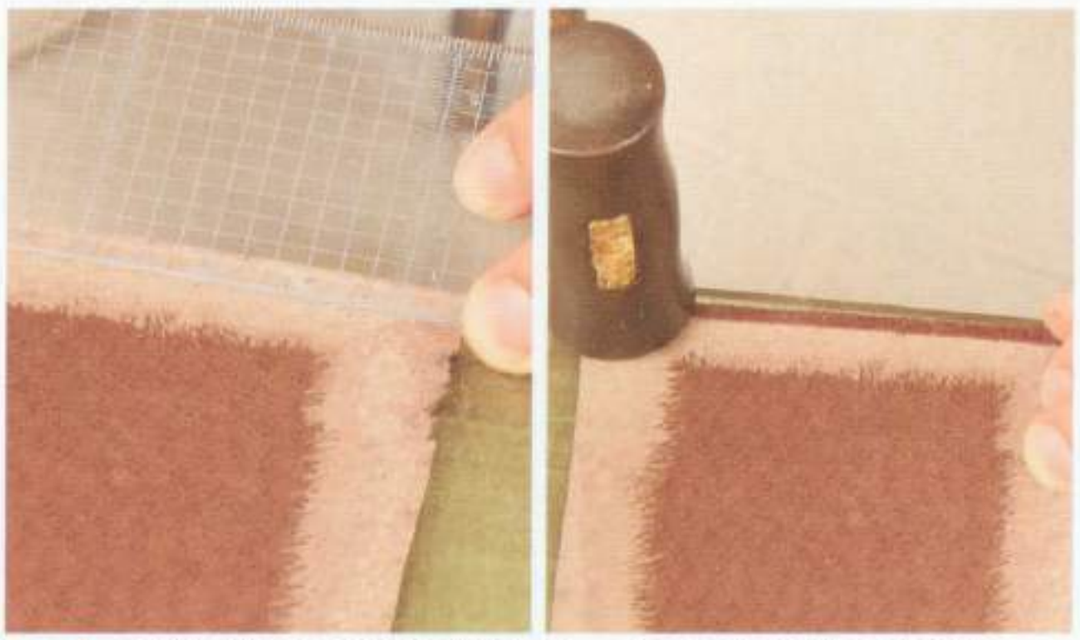
POINT



R部分に固い芯を使うと、裏返した際にしわになりやすい(スチームやアイロンを当てると目立たなくなる)



36 底マチの内張は、両端を折り返して使用する。そこで底マチの型紙より左右とも1cm長く内張用の豚革を切り出す



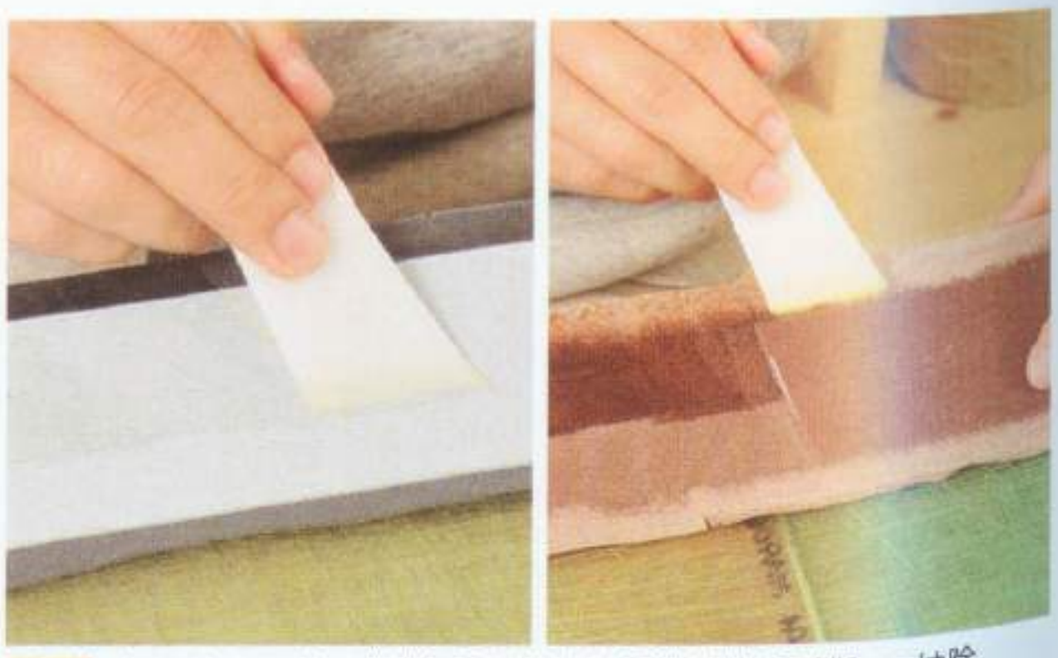
37 コバをすいて、短辺の両端を6mm折ってゴムのりで貼り付け、ハンマーで叩いて圧着させる



38 正しく折り返せれば、表面(床面)が型紙よりも左右各4mm長くなっているはずだ

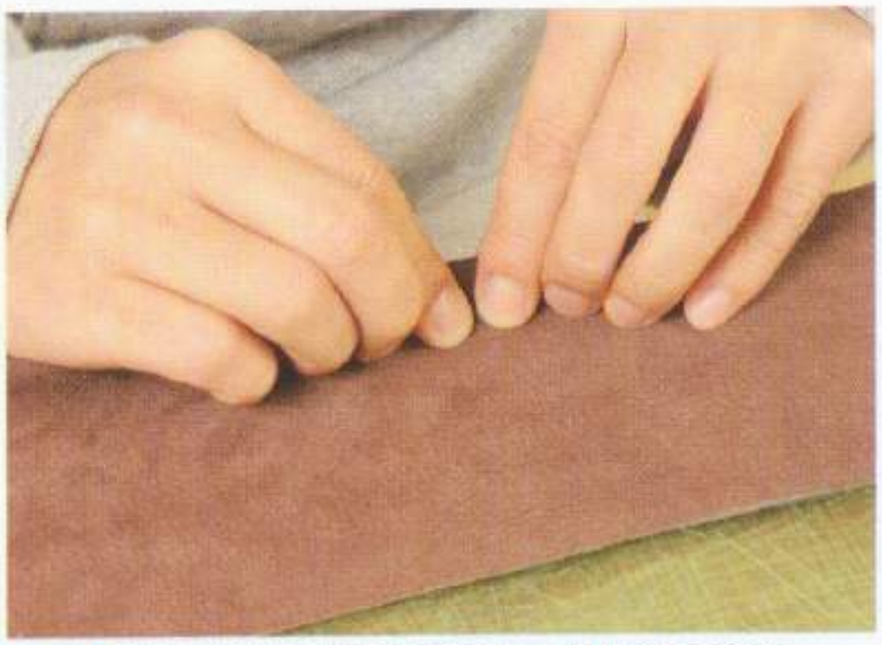


39 底面用の厚い芯材の端に印を付け、その間の内張の裏面(銀面)を紙ヤスリで荒らす



40 底マチのスポンジ芯を貼り付けた部分以外(両端1cmは除く)と、それに対応する部分の内張にゴムのりを塗る

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



41 着かないよう内張の両端4mmの位置に定規を置いて底マチを貼り、縁を折ってくせを付ける

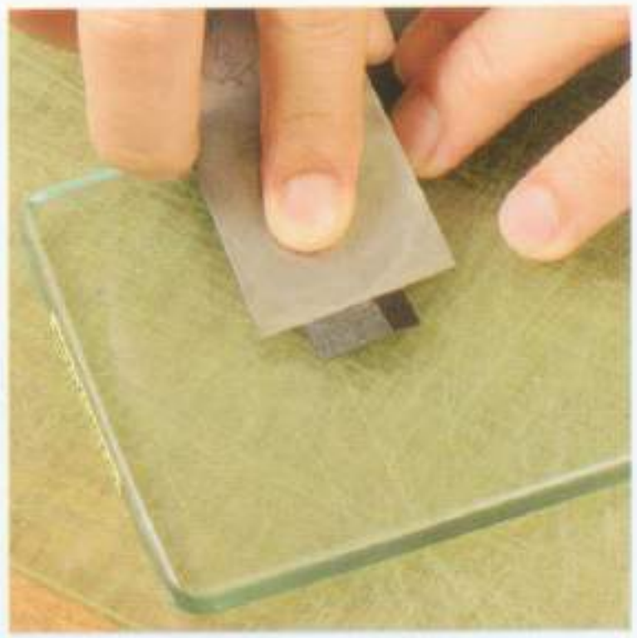


42 手で押しつけただけでは着きが弱いので、ローラーを内張側から押しつけ、圧着させる



43 内張の革は僅かに幅広に切り出しているので、底マチよりはみ出た部分をカットする





44 つまみは底マチの表革の端に沿って取り付ける。まずはつまみ裏側の端、見えない部分に残っている銀面を革包丁を使い、薄くしておく

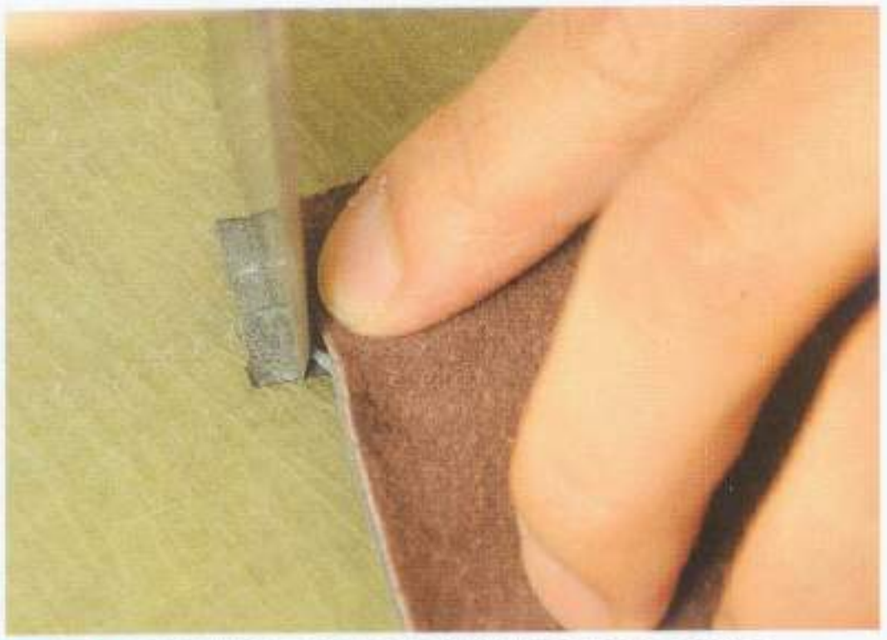


45 つまみは下側の縫い線で底マチに縫うので、それに対応する位置の銀面を荒らしておく



46 下側の縫い線より上の部分のつまみと、底マチ側にゴムのりを付け、位置を合わせ貼り付ける

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



47 つまみは底マチよりも幅広にできているので、はみ出たつまみは革包丁でカットしてしまう



48 つまみの玉縁の付く端を荒らしたら、つまみと底マチの表革のみを麻糸で縫い合わせる。他の部分同様、縫い終えたら叩いて糸目を落ち着かせる

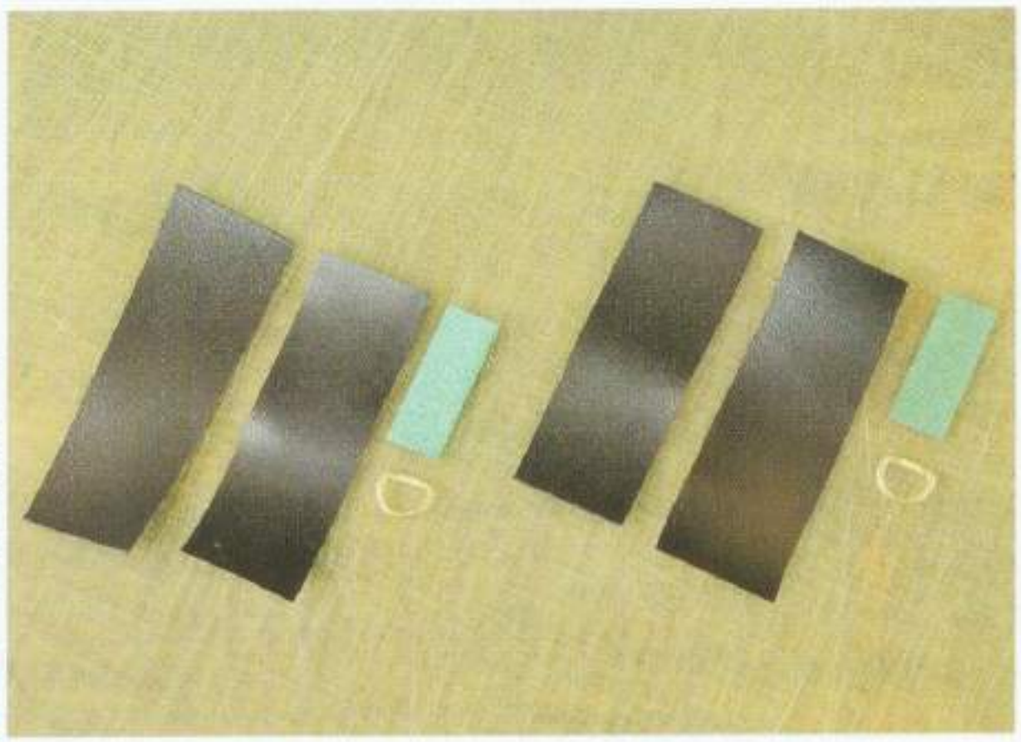


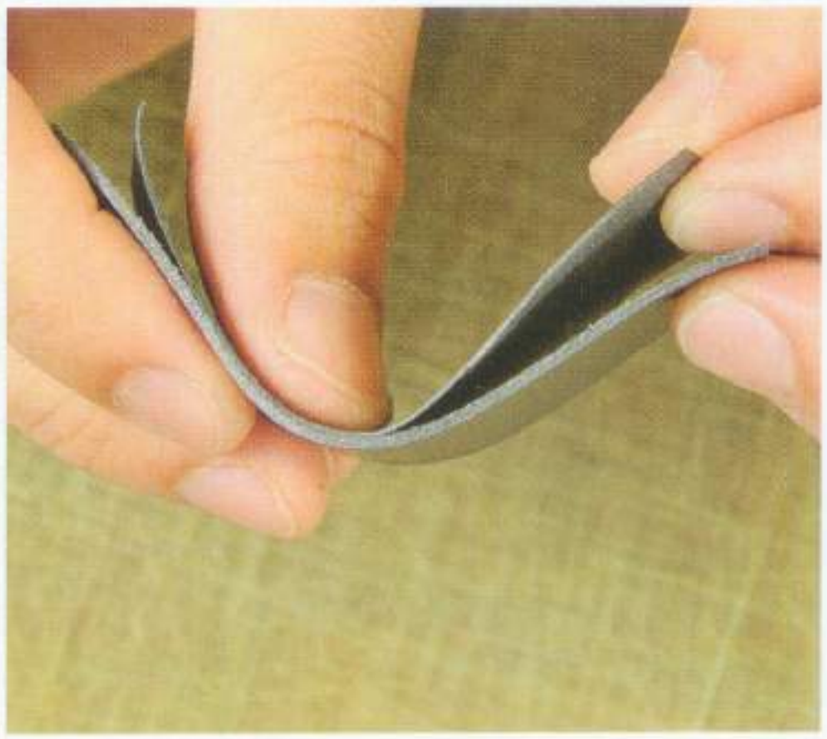
49 位置と向きの調整が正しければ、つまみとその糸目はこのような形に仕上がる。天マチは底マチの表の革と内張の革の間に挟んで縫いつけることになる



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

●引き手の製作

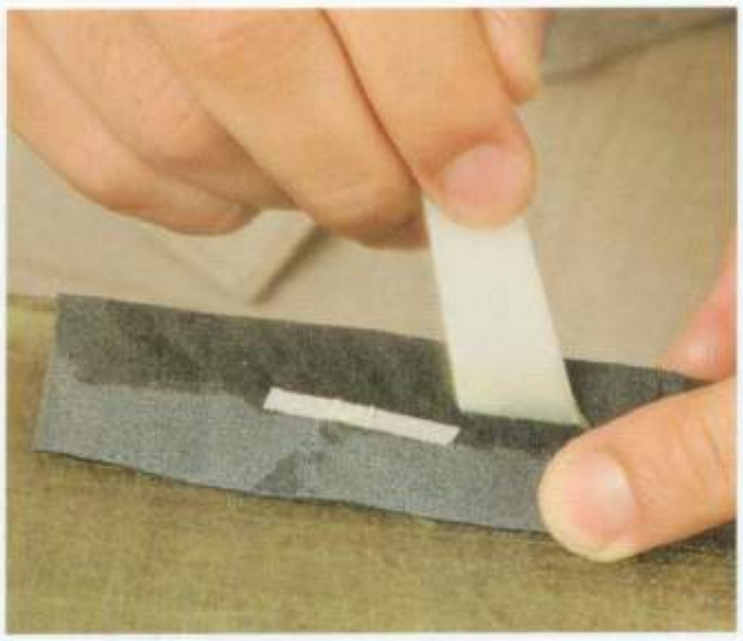




ファスナーのスライダーに付ける、引き手を製作する。引き手は表革と裏革(ごく薄くすく)、芯材(床革)とスライダーに対応したDカンを使う

50



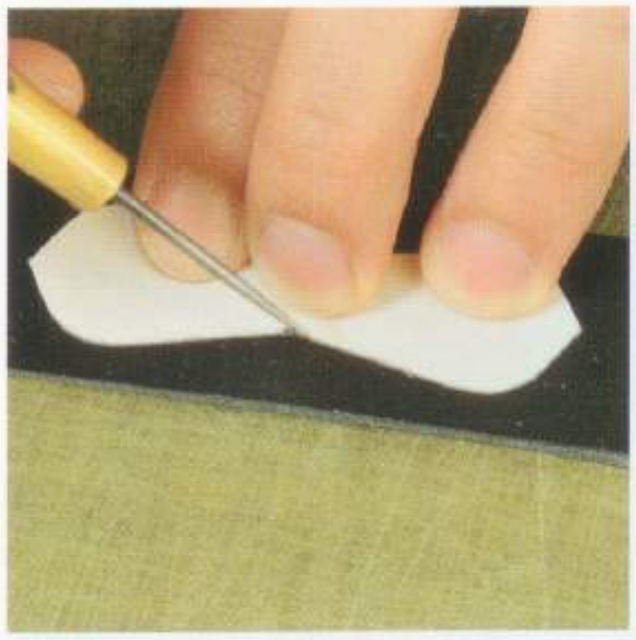


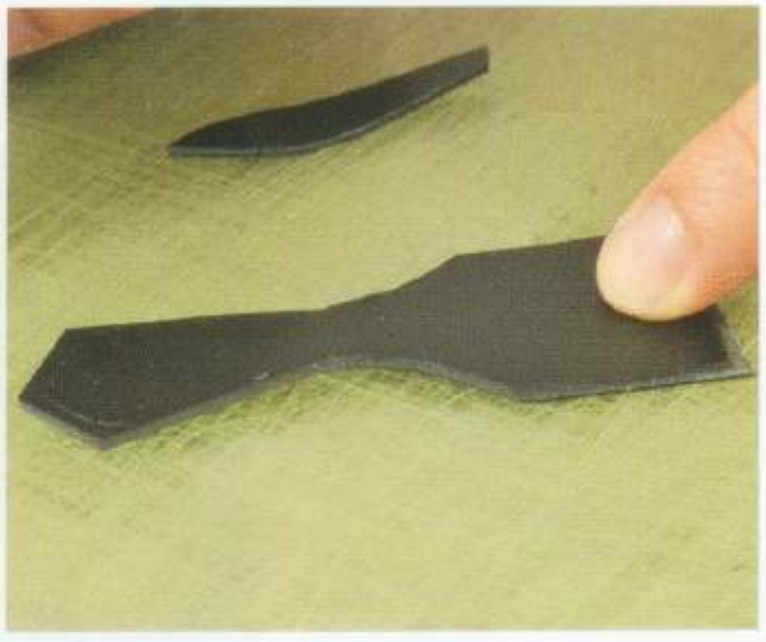


51 引き手はDカンに通して折り曲げて作る。そこでまず裏革を折ってくせを付け、折り目の中心に補強テープを貼る。そして裏革、表革双方の床面にゴムのりを塗って貼り合わせる。もちろん、貼り合わせる前に、表革も折ってくせを付けておくこと



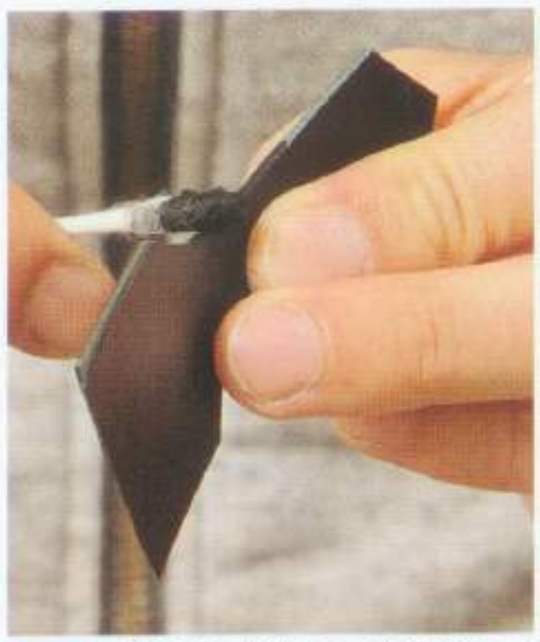
52 接着をより確実にするために、ローラーを押し当てて、圧着させておく





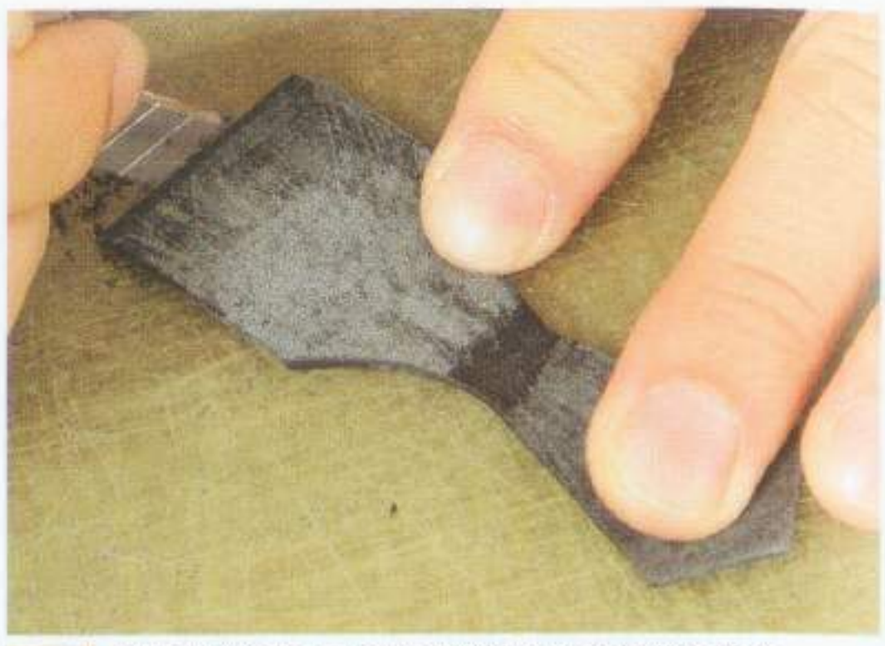
53 革の折り目と型紙の細い部分が一致するよう合わせて丸ギリでけがき(一方は中心から5~6mmまで)、それより1~2mm大きく粗裁ちする

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



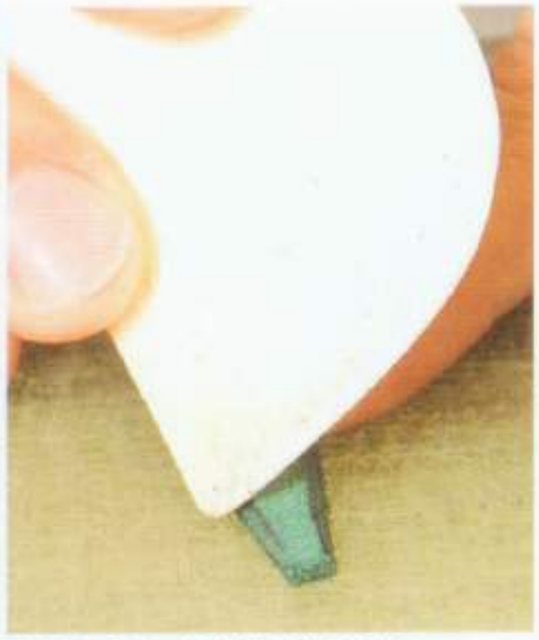


54 折り目の部分のコバを磨き、化粧ネンを当てる。タンニンなめしの革なので、コバ磨きにはふのりを使用している



55 Dカンが通り、見える可能性のある部分を除き、裏革の銀面全体をカッター等を使い荒らす





56 引き手をふっくらさせるため、型紙に合わせ床革を切り出し、濡らした後にヘラでしごくことで、角を丸める



57 Dカンを通す。革に対して幅が狭いので、このように縦に折るようにしないと入らない



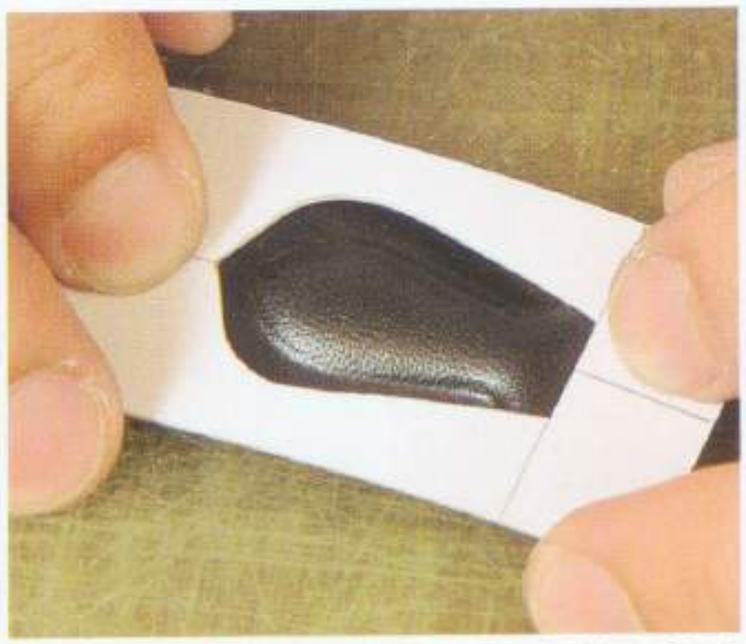
58 Dカンの際に床革を貼る。床革は角が丸い方が引き手の四角い側に来るように配置する

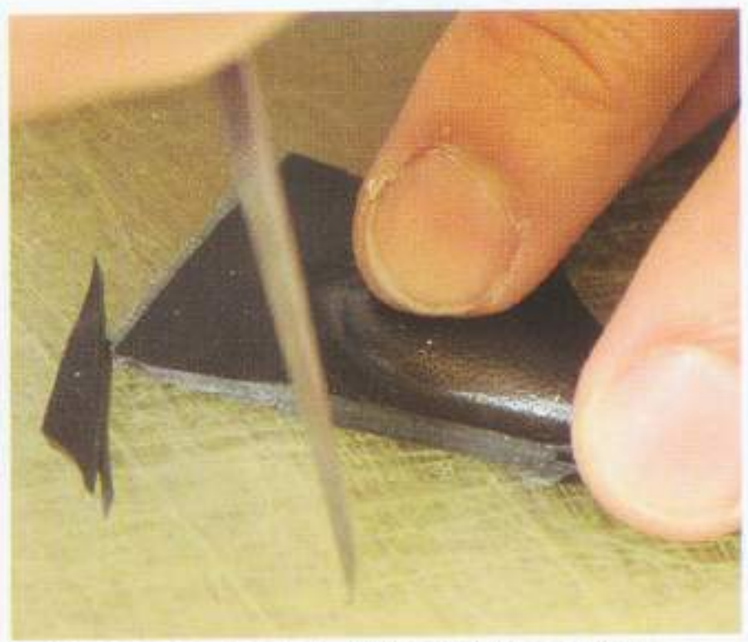


59 ヘラを使って床革の際をしっかりと擦り、丸いラインを出していく

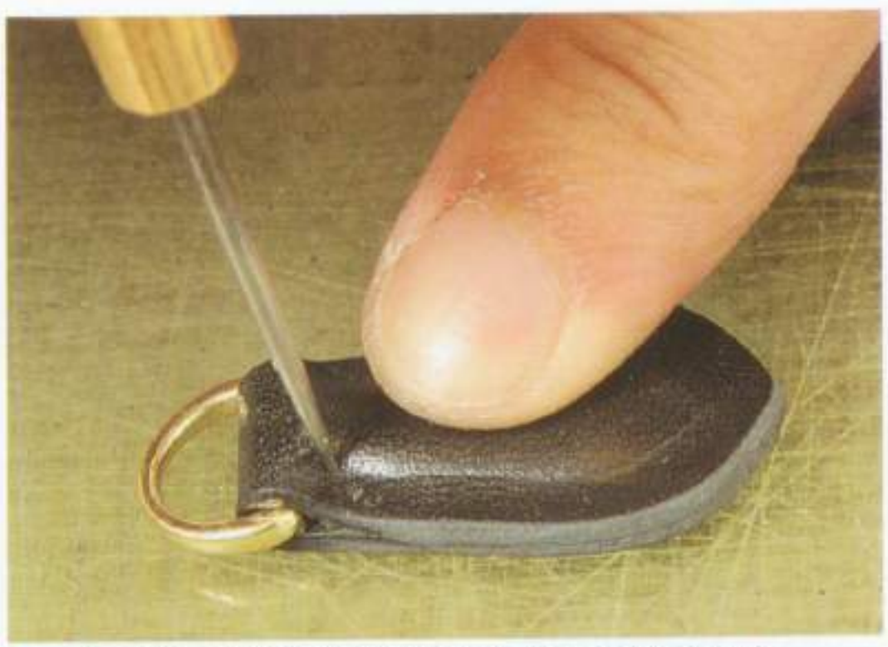
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft







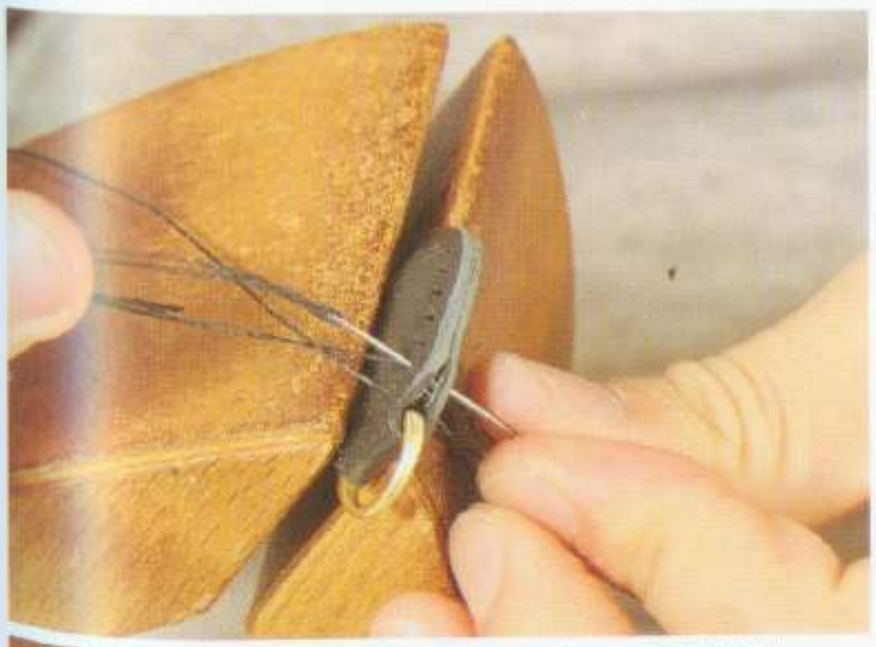
60 床革、Dカンの際をしっかり擦れば、左の写真の状態になる。そうしたらあたり型を引き手に会わせてそのラインを丸ギリでけがき、革包丁でカットする。小さな部品なので、指先を切らないように、充分注意すること



61 Dカン直下の床革の縁に丸ギリで穴を開ける。これが縫い始めと縫い終わりになる



62 床革の縁ギリギリの所に、ねじネンを使って縫い線を入れていく



63 擦れて切れる恐れがあるので、カンの下で糸は回さず全周縫う。麻糸を使い、ボンドで留める



64 コバを磨き、化粧ネンを当てれば、引き手はこのように仕上げることができる

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

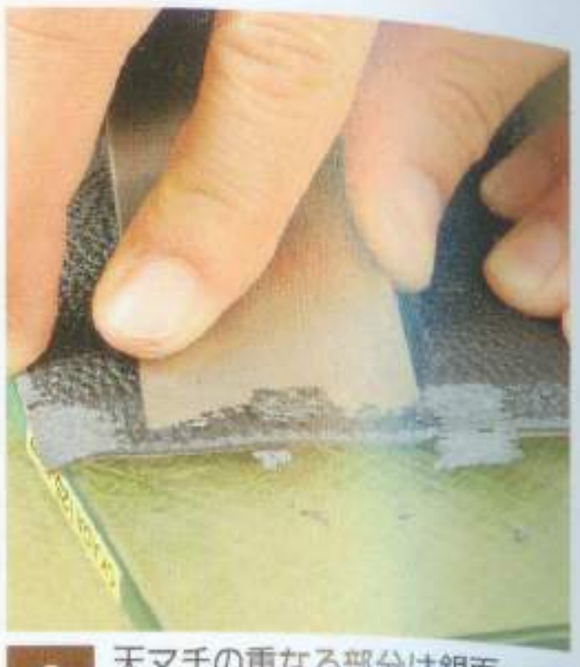
鞄の組み立て

各部品の準備が整ったので、それらを縫い合わせ、鞄を組み立てていきます。この工程で大切なのは、各部の厚み調整です。特に天マチと底マチの接合部は、都合6枚の革を合わせて上下のマチを接続しつつ、4重になった胴を縫いつけるだけに、そのまま縫いつけたのでは、厚ぼったくなるだけでなく、凹凸ができてしまいます。最後の工程だけに、細かな配慮は不可欠です。

●マチを縫う



1 天マチと重なる底マチの床面をすいて薄くする



2 天マチの重なる部分は銀面をすいて薄くしていく



3 天マチの、以前印を付けた部分=重ねる部分を100番の紙ヤスリを使い銀面を荒らしておく





4 天マチは、ファスナーのストッパーがつまみの隣になるよう重なる。厚みを確認し問題なければ、底マチの床面と天マチの銀面にゴムのりを塗る

CHECK!

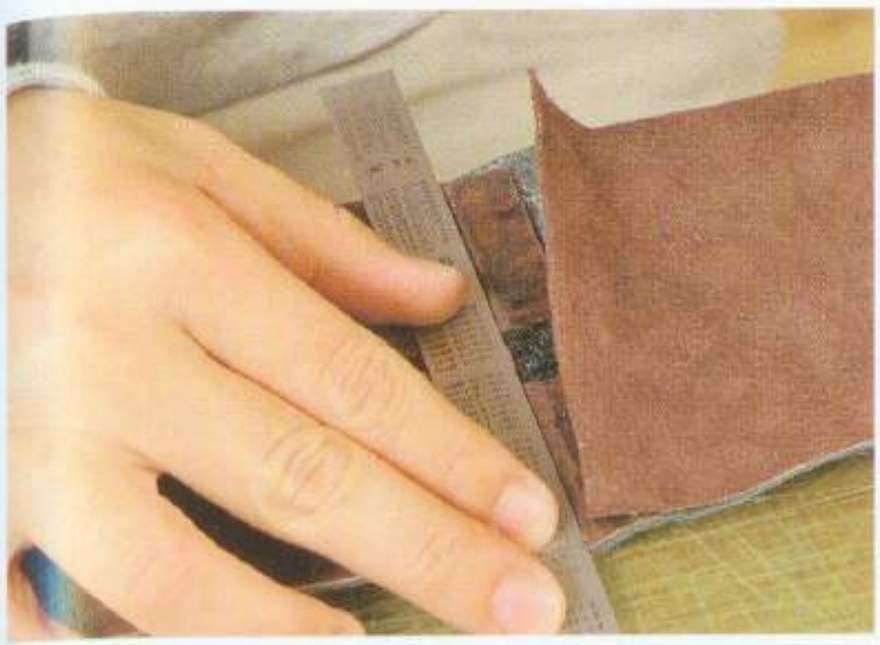


5 天マチと底マチの表革を、定規を使って曲がらず真っ直ぐになるよう貼り合わせる



6 内張の革を貼り付けるので、底マチ側の裏側、天マチ側の表側の重なる部分にノリを塗る

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



7 内張の革も表の革同様、定規を使って、合わせ目が曲がらないよう注意して貼り合わせる



8 貼り合わせた部分はやっとこを使って圧着させつつ、縁を折り曲げ、マチの他の部分同様くせを付ける。はみ出た革があれば切っておくこと







9 歪む恐れがあるので、表側はつまみの菱目をガイドにして、左右の端から丸ギリを刺して穴を開ける。裏側はその穴を目印として、ねじネンで縫い線を付けてから、目打ちを軽く打つことで、印を付けていく。強く打つと表と裏で目の向きが違う菱目が開いてしまうので厳禁だ

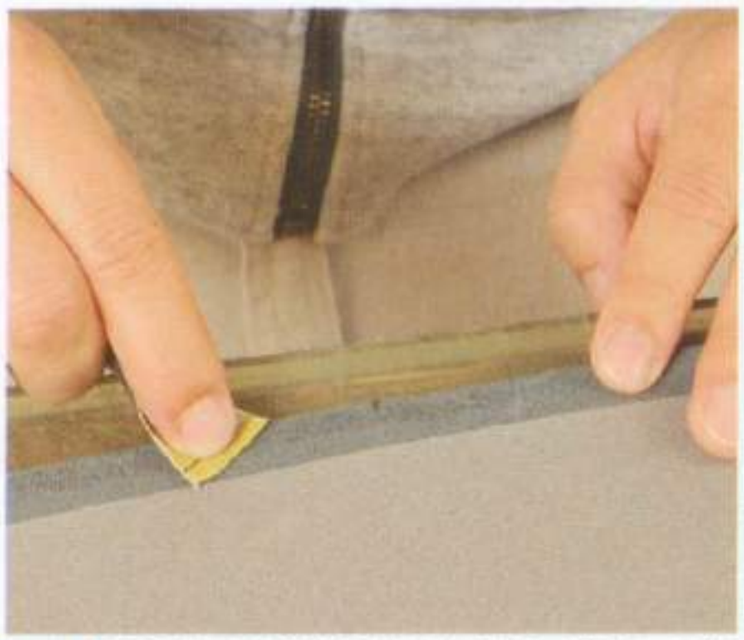
Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

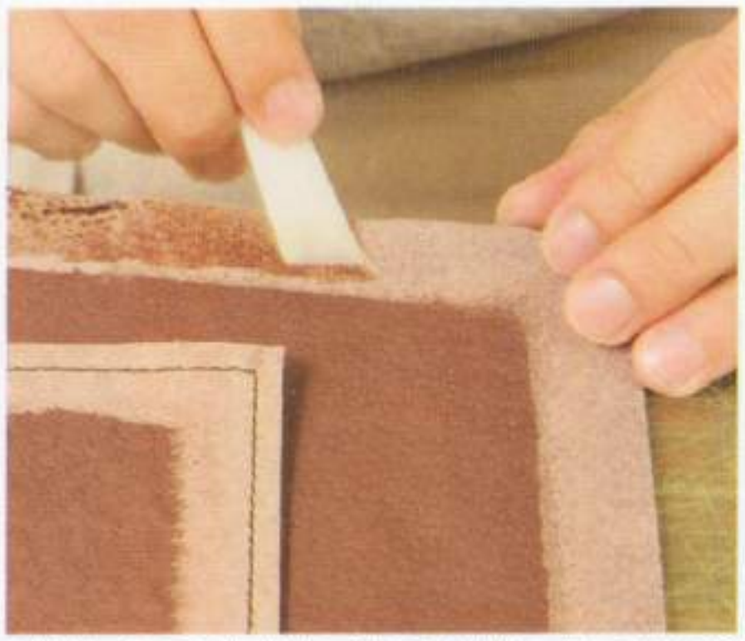


10 つまみとマチを麻糸で縫い合わせる。ファスナーを開けると、作業しやすくなるはずだ



11 糸目を叩いて落ち着かせたら、改めてやっとこを使い、縁が丸くなるよう折り曲げておく







12 胴とその内張を貼り合わせる。お互いの縁の部分にヤスリをかけて荒らした後にゴムのりを塗り、中心や角の位置を示す切れ込みを合わせながら、内張を貼っていく。この時、内張がパンパンに張り、胴があまり気味に膨らむように貼ること。圧着したら、余った内張を切る

POINT



貼り終わった胴。このように表の革が膨らむようでないと、裏返した時の形が悪くなってしまう





13 胴とマチを合わせるために、まずお互いの縁の部分にゴムのりを塗っていく。はみ出ないように注意すること

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!





14 胴にマチを貼っていく。上下を間違えないのはもちろんだが、歪ませないために、貼る順番に気を付ける。まず底の中心を合わせたら、その端の角の始まりを合わせる。これを天、横2辺で繰り返したら、中心と角の始まり間を各辺で貼り、最後に角の頂点を合わせていく




正しい順番で合わせていけば、このように歪み無く貼り合わせられる。指で押さえただけでは心許ないので、やっとこで挟んで圧着させる

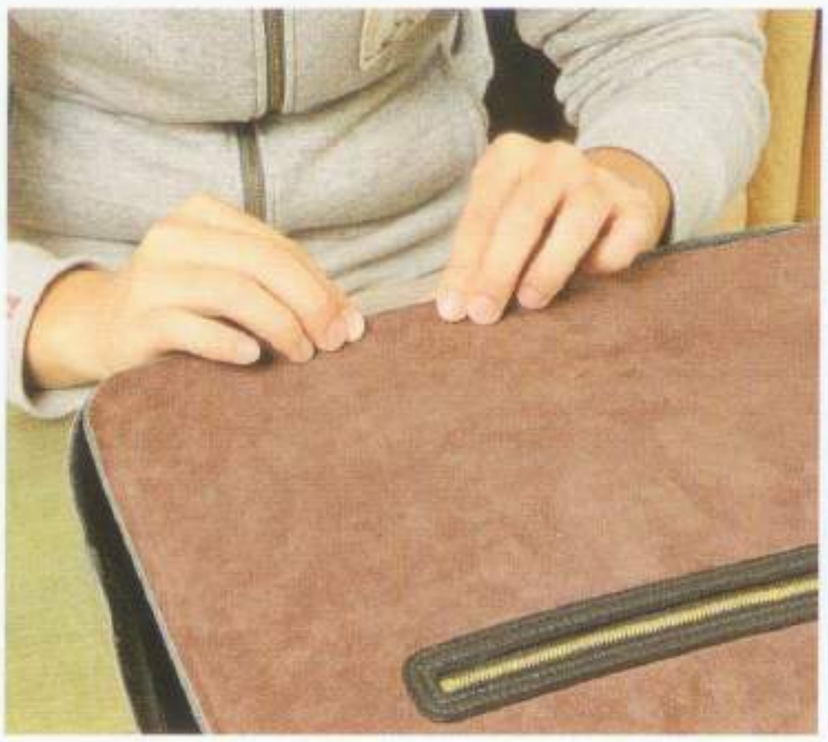
15




もう一方の胴を貼り付けるのだが、傷を防止するために、持ち手と胴の間に緩衝材を挟む。更に傷防止と作業性を考え、適当なあんこを入れておく

16

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft





先ほどと同じ手順でもう一方の胴を貼り付けていく。作業がきちんと進めば、このように鞄らしい姿ができあがるはずだ

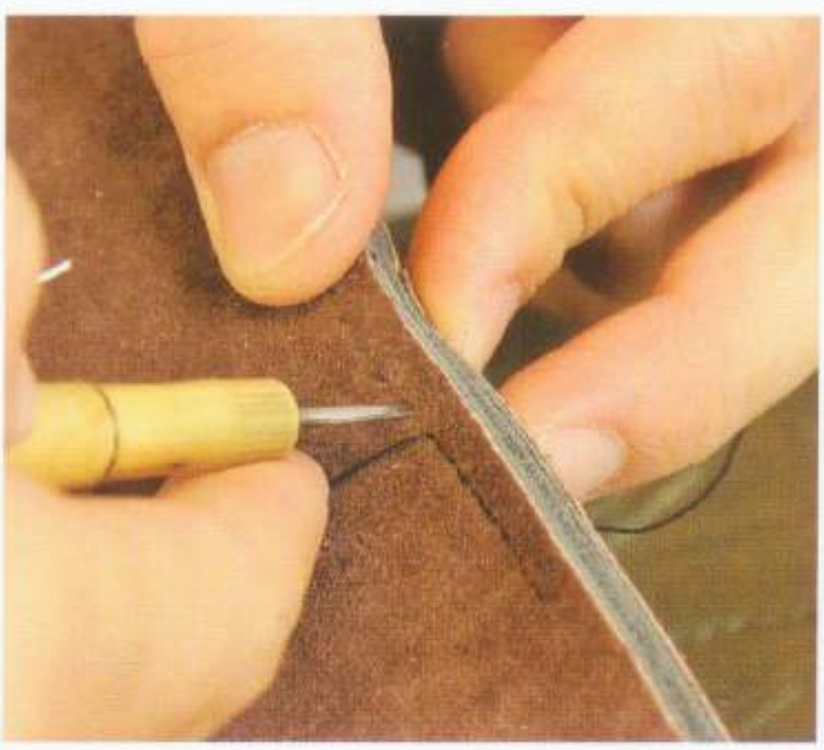
17



18 胴とマチを縫うための縫い線を、コバから5mmの位置に、ねじネンを温めつつ入れる



19 縫い線に沿って目打ちをするのだが、深く打つと裏返した際に裂けるので、目印程度とする





目印の位置を1つずつ丸ギリで刺し、最低限度の穴を開けながら縫っていく。糸は表革と同じ色のナイロンを使う

20

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft



21 縫う際は何回かに分けると、糸が長すぎて縫いにくいことがない。縫い終わりは炙って留める



22 縫い終えたら、縁を1mmほど革包丁で落とし、コバを揃える。慎重に作業する必要がある





23 紙ヤスリ(400→600番)、染料、蜜ロウを使う工程を繰り返しコバを磨く。中に入れた物が汚れるので、布による磨きは、染料が付かなくなるまで行なうこと



Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

CHECK!







24 いよいよ鞄をひっくり返す。乱暴にやるとしわが寄ってしまうので、返す順番には充分気を付けること。まず上側の部分をひっくり返したら、底の角を内側に押し、底が歪まないように注意しながら、一気に裏返していく。繰り返すが、くれぐれも底は歪ませないようにするのが大切だ

●仕上げ





折り返したままの状態では、玉縁が奥まった位置にあるので、胴とマチを摘んで、玉縁を押し出していく。すると右の写真のような状態になる

25





引き手をスライダーに付ける。今回使った左のスライダーは、縁がバネなので、押すだけで持ち手が嵌る。右の物はチャックつぶしでかしめるが、強度は劣る

26

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

SPECIAL THANKS

ハイレベルな鞄作りが学べるアットホームな鞄教室

美しいブリーフケースの製作を教えていただいたのは、岡田手縫い鞄教室の代表を務める岡田さんです。この教室では、手縫い鞄の作り方を、「革の性質」、「立体になる構造」、「美しく繊細な仕立て」といった視点から総合的に学ぶことができます。また、「基礎を大切に考えている」という岡田さんの考えがあるので、まず自分に合った道具づくりから授業を始める(だいたい初回～3回までは道具作りに充てられます)とのこと。その後、小物の製作から徐々に革に慣れた後で、鞄作りへ進むというように、基礎をしっかり押さえながらレベルを上げていけるようカリキュラムが考えられています。クラスは土曜、日曜、月曜のそれぞれ10:00～15:00、15:30～20:30の2部制となっており、空きがあればどのクラスでも通うことができるようになっています。鞄作りを学びたいと思ったら、詳細をホームページを参照の上、メールにて問い合わせてみてください。

岡田手縫い鞄教室
東京都北区田端新町3-15-8
URL http://www.bekkoame.ne.jp/ha/leather/



TETSUYA OKADA

岡田 哲也 氏
手縫い鞄は、60年の経験を持つ大ベテランである石渡光男氏に師事したそうですが、独学の部分も多いとのこと。鞄作りだけでなく、道具の企画・製造も行なっています











1クラスは10名ほどで運営されています。趣味として学ぶ人もいれば、鞄作りのプロを目指す人まで、様々な人が学んでいます　2鞄作りで分からないことがあっても、その場で質問すれば、丁寧に教えてくれます。少人数の教室ならではのメリットです　3こちらは岡田さんが作った小物達。こういった作例を見ながら、生徒は何を作るかを決めていきます　4まずカードケースといった小物から始め、慣れてきたらポシェットといった小さな鞄に移ります　5この教室では道具の準備、革の扱い方の基本といった基礎から始め、最終的にはダレスバッグといった上級レベルの鞄作りを学ぶことも可能です

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

材料&工具ショップリスト

Shop ショップ

全国各地にある革材料や工具のショップを紹介しています。様々な教室や講習会を開催しているショップが多数あるので、興味のある人はホームページや電話で確認してみましょう。

And Leather浅草橋店
東京都台東区浅草橋1-27-3
TEL/FAX：03-3865-8017 営業時間 10：00-18：30 定休日：日曜
URL：http://www14.plala.or.jp/kutuya/ e-mail：d-west@imail.plala.or.jp
初心者でも気軽に買えるアットホームな革材料店。端切れ革を中心に取り扱い、手頃な価格でレザークラフトを始めることができる。掘り出し物の珍しい革も格安で用意されている

浅草橋西口店
東京都台東区浅草橋1-24-5
TEL/FAX：03-3851-8039 営業時間 10：00-19：00 定休日：日曜

日暮里店
東京都荒川区東日暮里5-3-11
TEL/FAX：03-3805-8041 営業時間 9：30-18：30 定休日：なし

日暮里アネックス店
東京都荒川区東日暮里5-24-1
TEL/FAX：03-3805-8014 営業時間 9：30-18：30 定休日：なし

株式会社 唐澤商店
東京都千代田区外神田4-4-3
TEL：03-3253-7921 Fax：03-3253-7922 営業時間 10：00-19：00 定休日：正月1～4日
URL：http://www.kawaya.co.jp e-mail：karasawa@as.airnet.ne.jp
日本一の電気街、東京の秋葉原に店を構える革屋。端切れ革から1枚革まで、とにかく安いのが売りのお店。工具やメンテナンス用品、鞄の材料も一通り揃っている

革の店 かしのき
長野県諏訪市末広2-13
TEL：0266-52-4553 FAX：0266-52-6567 営業時間 10：00-19：00 定休日：日曜
URL：http://www.icv.ne.jp/~kasinoki/ e-mail：kasinoki@po2.icv.ne.jp
オーダーメイドでの革製品の製作も行なう。もちろん、レザークラフトに必要な材料や工具の販売も行なっており、テディベアの作品コンテストでグランプリを受賞した経歴もある

クラフト・オークニ
広島県広島市西区天満町13-1コムズ天満1F（無料立体駐車場3台分あり）
TEL/FAX：082-292-8941 TEL/FAX：082-292-8947 2回線あり 営業時間 9：00-17：00
定休日：第4土曜以外の土曜・日曜・祝日（事前連絡により、遅くまで開けることも可）
URL：http://www3.ocn.ne.jp/~ookuni/ e-mail：ookuni8322@room.ocn.ne.jp
各種切り革や工具、材料の品揃えはもちろん、ほぼ1回単位で月謝がいらないクラフト教室では、電気ペンや皮革染めなども習うことができる。店舗内に古布の専門店もある

クラフトショップ アイサン
愛知県名古屋市西区城西2-20-17
TEL：052-521-9567 FAX：052-521-9570 営業時間 9：00-18：00 定休日：土曜・日曜・祝日
URL：http://www.aisan-shoukai.co.jp e-mail：info@aisan-shoukai.co.jp
カシメやコンチョ、キーホルダーなどの小物から、各種皮革、工具、染料など、革手芸材料を豊富に取り揃える。レベルに合わせた様々な講習会も開催。アトリエのレンタルも行なっている

クラフトハウス天神店
福岡県福岡市中央区天神2-3-10 天神パインクレスト201
TEL：092-771-6836 FAX：092-771-6837 営業時間 10：00-18：30 定休日：日曜・祝日
URL：http://www.crafthouse.jp/
福岡市の中心地、天神にあるクラフト材料ショップ。各種革や道工具、材料と、併設するホビースクールでレザークラフト、革手縫い講座、革ファッション小物講座の3つの教室を開講

クラフトハウス小倉店
福岡県北九州市小倉北区浅野2-12-5
TEL：093-521-2532 FAX：093-521-2544 営業時間 10：00-18：30
定休日：第1・3日曜 祝日

クラム
静岡県沼津市高島町13-15
TEL：055-922-2023 FAX：055-922-2079 営業時間 10：00-18：30
定休日：水曜・第2土曜と翌日曜
URL：http://www.shop-cram.com/
長年の教室や製作のノウハウを活かした、スターターセットやキットなどのオリジナル商品とアイテム数の多い在庫品をリーズナブルな価格で販売している

seiwa 高田馬場店
東京都新宿区下落合1-1-1
TEL：03-3364-2112 FAX：03-3364-2115 営業時間 9：30-18：00 定休日：日曜・祝日
URL：http://www.seiwa-net.jp
昭和23年の創業以来、レザークラフト材料や染色材料の開発と販売、染色スクールを行なう。高品質のクラフトツールが人気で、仕上げ剤や染料等のケミカル商品の開発にも尽力している

seiwa 東急ハンズ渋谷店6A
東京都渋谷区宇田川町12-18
TEL/FAX：03-3464-5668 営業時間：10：00-20：30 定休日：なし

総合レザークラフトすずらん
長野県松本市南松本1-2-2
TEL：0263-25-3311 FAX：0263-28-7887 営業時間 10：00-18：00 定休日：なし
URL：http://www.leather-suzuran.jp/ e-mail：info@leather-suzuran.jp
レザークラフトショップとして30数年の歴史を持つ老舗。材料、道具類の販売、教室の開催を行ない、インターネット上では工具や革の使い方、作り方のアドバイスをしている

NAKASEN （株式会社 中村千之助商店）
東京都台東区浅草7-2-16
TEL：03-3874-5311 FAX：03-3874-5348 営業時間 9：00-17：30
定休日：土曜・日曜・祭日・年末年始
URL：http://www.nakasen.co.jp/ e-mail：info@nakasen.co.jp
大正時代よりなめし（製造）や、販売を行なってきた専門店。植物性タンニンなめし革を始め、衣料・袋物などにも用いられるカラフルな革、環境にやさしいリサイクルレザーなどを揃える

パーリィー
東京都練馬区上石神井1-11-10
TEL：03-3920-3850 FAX：03-3920-3886
URL：http://www.parley.co.jp/ e-mail：info@parley.co.jp
栃木レザーを使用したレザークラフトキット「大地の革」シリーズが人気の革工房。各種工具や様々な完成品は、店頭ではなくホームページ上から購入することができる

Hand made Custum Leather's Awake （株式会社I☆N FACTORY）
神奈川県横浜市中区曙町3-32 ワインプラザ1F
TEL：045-241-8620 営業時間 11：00-22：00 定休日：不定休
URL：http://www.kawazairyo.com/ e-mail：kawazairyo@lake.ocn.ne.jp
独自に作った革と工具をラインナップして販売している。オリジナル工具は、職人の意見が採り入れられており、初心者からプロまで全ての人にお勧め

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

Shop

ハンズたかおか福岡店
福岡県福岡市中央区大名1-5-2
TEL:092-713-5088 FAX:092-713-5124
営業時間 月～土曜は9:00-18:00 第2・4日曜は11:00-18:00 定休日:奇数日曜・祝日
URL:http://www.e-hands.jp/ e-mail:n.simo@e-hands.jp
福岡では革の「たかおかさん」として親しまれている老舗。バッグ用などの金具やコンチョ類の他に専門書なども取り扱っている。牛革はもちろん、は虫類革も豊富

ハンズたかおか大牟田店
福岡県大牟田市上町1-6-12
TEL:0944-52-4732 FAX:0944-53-4748 営業時間:9:00-18:00
定休日:日曜・祝日

有限会社 いづみ恒商店(手芸部)
福岡県福岡市博多区奈良屋町9-20
TEL:092-281-4803 FAX:092-281-4807 営業時間 9:00-18:00
定休日:第2・4土曜 日曜・祝日
URL:http://www.izumikou.com/ e-mail:syugei@izumikou.com
レザークラフト(革工芸)と染色のための材料を揃えた専門店。靴や鞄の材料や修理用品、染色材料など、工具や材料を一通り揃えることができる。革キットの見本も展示している

有限会社 浜松クラフト
静岡県浜松市中区早馬町2-7
TEL:053-452-2089 営業時間 月～土曜9:30-19:00 日曜10:00-17:00 定休日:祝日
URL:http://www.hamamatsucraft.com/ e-mail:hamakura@cocoa.ocn.ne.jp
静岡県浜松市の老舗材料専門店。工具、材料類はもちろん、鞄の修理やオリジナルの焼印も製作してくれる。手縫いを始める人には、道具、溶剤の使い方を店頭で説明してくれる

有限会社 レザーメイトさとう
東京都台東区柳橋2-8-5
TEL:03-3866-0166 FAX:03-3866-0167 営業時間 9:30-18:00 土曜9:30-17:30
定休日:日曜・祝日
URL:http://www.w-up.com/sato/index.htm e-mail:leather-mate.sato@w6.dion.ne.jp
革素材の種類と在庫量はとにかく豊富。アルマジロや象などの珍しい革や、アザラシやラム、アライグマなどの毛皮も揃う。可愛いオリジナルの革小物も人気

レザークラフト・タカタ
広島県広島市中区幟町12-20雅富ビル2F
TEL:082-222-5340 FAX:082-222-5657 営業時間 10:00-18:00
URL:http://www.piconet.co.jp/tktkobo/ e-mail:tkt-kobo@crest.ocn.ne.jp
レザークラフト材料販売専門の店舗と、皮革工芸教室を併設。材料を揃えるときや、道具や製作工程・技術的なことについての相談にも丁寧に対応してくれる

レザークラフト ばれっと
愛知県名古屋市緑区池上台3-110-27
TEL/FAX:052-892-6075 営業時間 11:00-18:00 定休日:木曜・日曜・祝日
URL:http://p-leather.net/ e-mail:palette@p-leather.net
オリジナルレザークラフトキットや革小物、工具、材料を販売。革の選び方から作り方まで丁寧に説明してくれる。バイカーグッズの製作にも対応している

レザークラフト フェニックス
大阪府大阪市浪速区敷津東1-4-17
TEL:06-6632-1327 FAX:06-6643-7391 営業時間 9:00-17:30 定休日:日曜・祝日
URL:http://www.l-phoenix.jp/ e-mail:kaz@wonder.ocn.ne.jp
レザークラフト用革をはじめ、道具類や様々なパーツを豊富に取り揃え、初心者からプロまで幅広く対応できるショップ。また革のすき加工や作品展、イベントや教室の情報の案内も行なう

LEATHRE SHOP めいむ
岩手県盛岡市大通2-2-15さわや書店3F
TEL:019-653-3525 営業時間 11:00-18:00 定休日:日曜・祝日
URL:http://www.meimu.com/ e-mail:shop@meimu.com
革手芸の材料を中心に販売している。オーダーメイドの注文受付の他に、他メーカーの革製品でもアレンジや修理に応じてくれる。店内は手作りの品で埋め尽くされている

レフティーズ レザークラフト
島根県益田市津田町698-9
TEL:0856-27-2102 FAX:0856-27-2102 営業時間 9:00-18:00 定休日:月曜
URL:http://leathertools.jp(LLツールズ) e-mail:lefty-info@h8.dion.ne.jp
レザーカービング用工具の専門店。オーナーであるレフティー見国氏は、'90年代に日本で初めてシェリダンスタイルと呼ばれるレザーカービングをアメリカで学んだ人物

Web Shop ウェブショップ

気軽に商品を注文できるインターネット上のショップを紹介します。各ショップ特徴があり、非常に豊富な品揃えを誇るので、有効活用してより快適なレザークラフトライフを過ごしましょう。

クラフトパーツ屋
大阪府八尾市東町1−37−2
TEL:072-922-4595 FAX:072-923-3095 定休日:土曜・日曜・祝日
URL:http://www.rakuten.co.jp/auc-craftparts/ e-mail:suwawa2006@craftparts-wayuu.co.jp
スナップボタンやナスカン、バックルなどの通信販売のショップ。その種類は豊富でクラフターの求める金具が必ず見つかるはず。注文した時間によって、商品の当日発送にも対応している

シュゲール
名古屋市名東区猪子石2-1607
TEL:0120-081000 FAX:0120-766233 営業時間 9:45～17:00
定休日:土曜・日曜・祝日・年末年始・お盆など
URL:http://www.shugale.com/
手作りにこだわりたい人に人気の老舗手芸店。工具や材料はもちろん、初心者向けのキットやスターターセットまで、レザークラフトに必要な物を豊富に取り扱っている

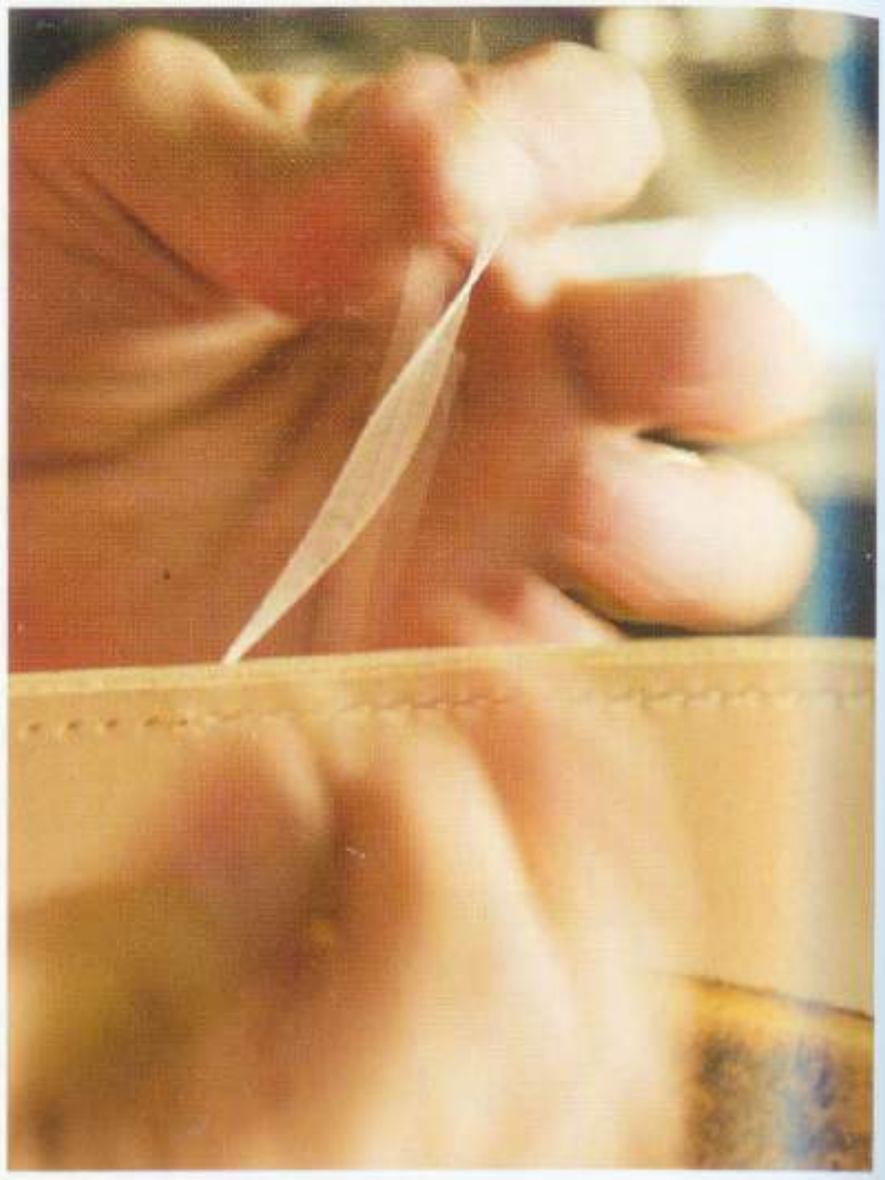
レザークラフト・ドット・ジェーピー
TEL:0867-42-8004 FAX:0867-42-8884
営業時間 9:00-18:00(オーダーは24時間) 定休日:土曜・日曜
URL:http://www.leathercraft.jp/ e-mail:info@leathercraft.jp
レザークラフトに必要な材料や工具を、国内外より豊富に取り揃え、低価格で販売。半裁革、裁ち革、ベルト、レース等は0.1mm単位で革のすきを指定することが可能

レザーマニア
愛知県知多郡武豊町字口田13-2
TEL:0569-89-6500 FAX:0569-89-6501
営業時間 13:00-19:00(オーダーは24時間) 定休日:水曜
URL:http://leathermania.jp/ http://www.kawazou.com/ e-mail:arigato@leathermania.jp
1ヶ月に10万人以上のアクセス数がある人気ウェブショップ。革好きには堪らない、マニアックな材料を低価格で販売。初心者からプロまで幅広いニーズに応える豊富な品揃えが魅力

LEATHER WORKS
URL:http://www.leatherworks.jp e-mail:info@leatherworks.jp
豊富な革と材料をリーズナブルな価格で提供。スタッズやカシメ、各種コンチョなど、装飾品の種類も充実。入門者からプロまでを対象に技術サポートも行なっている

Сундук Кожевника - vk.com/kozhcraft

誰でもできる 手縫い革カバンの作り方
HAND SEWING LEATHER BAG



STAFF

PUBLISHER
高橋矩彦　Norihiko Takahashi

EDITOR-IN-CHIEF
佐久間則夫　Norio Sakuma
後藤秀之　Hideyuki Goto

SENIOR EDITOR
大島　晃　Akira Ohsima

EDITER
関根圭一　Keiichi Sekine

ASSISTANT EDITOR
行木　誠　Makoto Nameki
臼井敏晃　Toshiaki Usui
岡田和也　Kazuya Okada
礒井啓輔　Keisuke Isoi
八川優作　Yusaku Hachikawa
岩田　塁　Rui Iwata
川俣尚子　Hisako Kawamata
富田慎治　Shinji Tomita

ART DIRECTOR
乃生佳代子　Kayoko Nosei

CHIEF DESIGNER
小島進也　Shinya Kojima

ASSISTANT DESIGNER
三嶌　翔　Sho Mitsuhashi
粕谷江美　Emi Kasuya

ADVERTISING STAFF
岡部　徹　Toru Okabe

PHOTOGRAPHER
植田昌克　Masakatsu Ueda
二見勇治　Yuji Futami
柴田雅人　Masato Shibata

PRINTING　株式会社 シナノ

平成21年5月25日 発行

PLANNING,EDITORIAL & PUBLISHING
STUDIO TAC CREATIVE CO.,LTD.
(株)スタジオ タック クリエイティブ
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-37-7 サンビューハイツ神宮302
STUDIO TAC CREATIVE CO.,LTD.
＃302,2-37-7 SENDAGAYA SHIBUYA-KU TOKYO 151-0051,JAPAN
URL http//www.studio-tac.jp
E-mail stc@fd5.so-net.ne.jp

[企画・編集・広告進行]Tel 03-5474-6200　Fax 03-5474-6202
[販売・営業]Tel & Fax 03-5474-6213

警告

この本に記載されているすべての事項は、プロフェッショナルによって行なわれた作業を記事として再構成したものです。作業の成功、作業を行なう上での安全等は、すべてその作業を行なう個人の技量や注意深さに委ねられるものです。よって、この本の記事に準じたいかなる作業であっても、出版する当社、株式会社スタジオ タック クリエイティブおよび誌面に登場している取材関係先は、作業の結果を一切保証いたしません。また、その作業上において発生した事故や器物の破損についても当社では一切の責任を負いかねます。すべての作業におけるリスクは、作業を行なう本人に負っていただくことになりますので、充分にご注意ください。

STUDIO TAC CREATIVE
(株)スタジオ タック クリエイティブ

©STUDIO TAC CREATIVE 2009
Printed in JAPAN
● 本誌の無断転載を禁じます。
● 乱丁、落丁はお取り替えいたします。
● 定価は表紙に表示してあります。

ISBN 978-4-88393-328-0